

基本計画書

基本計画								
事項		記入欄					備考	
計画の区分		学部の設置						
フリガナ設置者		カッコウホウジン トヨウガイガク 学校法人 東洋大学						
フリガナ大学の名称		トヨウガイガク 東洋大学（Toyo University）						
大学本部の位置		東京都文京区白山5丁目28番地20号						
大学の目的		創立者井上円了博士の建学の精神に基づき、「国際化」「キャリア教育」そしてその基盤となる「哲学教育」の3つを教育の柱とし、時代や環境の変化に流されることなく、地球規模の視点から物事を捉え、自分の未来を切り拓くことのできる「グローバル人材」を育成することを目的とする。						
新設学部等の目的		健康スポーツ科学部 少子高齢・人口減少社会を背景とした日本の抱える様々な課題や、その先の新たな社会を見据え、グローバルな視点を持ち、多様性を理解し、あらゆる人々のスポーツや健康づくりを「健康スポーツ科学」や「スポーツ栄養科学」の観点から総合的に支援し、広く社会に貢献できる人材の育成を目的とする。 健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科 スポーツを「する」人、「みる」人、「ささえる」人として社会に貢献できる人材の育成、さらには少子高齢・人口減少社会に生きる現代人が抱える健康問題に対して、健康スポーツ科学を通じた解決策を提供できる人材の育成を目指す。健康とスポーツの機能的、社会・文化的側面に関する教育研究により、健康スポーツ科学に関する幅広い知識や技術を修得し、あらゆる人々の健康づくりとスポーツパフォーマンス向上、さらにはQOL向上に寄与できる専門人材を育成する。 健康スポーツ科学部 栄養科学科 生物学、化学、生理学、疫学を基盤として、栄養学、食品衛生学、公衆衛生学、スポーツ栄養学、生活習慣病予防学、トレーニング科学などを学び、栄養学を基軸に栄養科学とスポーツ科学の両面を探究することにより、食・栄養の観点からスポーツパフォーマンス向上や健康づくり、さらにはQOL向上に寄与できる専門人材を育成する。学際的な視点と科学的根拠に基づく専門知識や技術の修得により、スポーツ栄養科学領域における新たな価値を創造し、いきいきとした社会の実現に貢献する人材を育成する。						
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
		年	人	年次人	人		年 月 第 年次	
	健康スポーツ科学部 [Faculty of Health and Sports Sciences]							
	健康スポーツ科学科 [Department of Health and Sports Sciences]	4	230	—	920	学士 (健康スポーツ科学) [Bachelor of Health and Sports Sciences]	令和5年4月 第1年次	東京都北区赤羽台一丁目7番11号
	栄養科学科 [Department of Nutritional Sciences]	4	100	—	400	学士 (栄養科学) [Bachelor of Nutritional Sciences]	令和5年4月 第1年次	同上
	計		330	—	1,320			

同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の 変更等)		○学部等設置 福祉社会デザイン学部 社会福祉学科 (216) 子ども支援学科 (100) 人間環境デザイン学科 (160) 健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科 (230) 栄養科学科 (100) 健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻 (博士前期課程20、博士後期課程5) 栄養科学専攻 (博士前期課程10、博士後期課程3) ○廃止 社会学部第1部 社会福祉学科 (廃止) (△150) ライフデザイン学部 (廃止) 生活支援学科生活支援学専攻 (△116) 生活支援学科子ども支援学専攻 (△100) 健康スポーツ学科 (△180) 人間環境デザイン学科 (△160) 食環境科学部 食環境科学科スポーツ・食品機能専攻 (廃止) (△50) ライフデザイン学研究科 健康スポーツ学専攻 (廃止) (修士課程△10) ※令和5年4月学生募集停止							
教育 課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
			講義	演習	実験・実習	計			
	健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科	183 科目	93 科目	47 科目	323 科目	124 単位			
	健康スポーツ科学部 栄養科学科	140 科目	70 科目	33 科目	243 科目	124 単位			
教員 組織 の 概要	学部等の名称		専任教員等						兼任 教員等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科	7 (9)	9 (9)	4 (4)	3 (3)	23 (25)	0 (0)	155 (155)
		栄養科学科	5 (4)	3 (2)	2 (2)	3 (3)	13 (11)	3 (3)	125 (125)
		福祉社会デザイン学部 社会福祉学科	10 (13)	11 (10)	1 (1)	1 (9)	23 (33)	0 (0)	139 (139)
		子ども支援学科	7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (3)	11 (14)	0 (0)	147 (147)
		人間環境デザイン学科	8 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (14)	0 (2)	186 (186)
		計	37 (42)	31 (29)	8 (8)	7 (18)	83 (97)	3 (5)	- (-)
	既設分	文学部 第1部 哲学科	7 (7)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	34 (34)
		東洋思想文化学科	9 (9)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	36 (36)
		日本文学文化学科	7 (7)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	64 (64)
		英米文学科	6 (6)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	36 (36)
		史学科	9 (9)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	44 (44)
		教育学科	17 (17)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	22 (22)	0 (0)	46 (46)
		国際文化コミュニケーション学科	7 (7)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	58 (58)
		経済学部 第1部 経済学科	12 (12)	11 (11)	2 (2)	2 (2)	27 (27)	0 (0)	55 (55)
		国際経済学科	12 (12)	3 (3)	7 (7)	1 (1)	23 (23)	0 (0)	22 (22)
		総合政策学科	12 (12)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	20 (20)	0 (0)	12 (12)
	経営学部 第1部 経営学科	11 (11)	14 (14)	7 (7)	2 (2)	34 (34)	0 (0)	32 (32)	

※令和4年4月設置届出予定
※令和4年4月設置届出予定
※令和4年4月設置届出予定

教員組織の概要	既設分	マーケティング学科	8 (8)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	6 (6)
		会計ファイナンス学科	12 (12)	8 (8)	1 (1)	1 (1)	22 (22)	0 (0)	11 (11)
		法学部 第1部 法律学科	18 (18)	9 (9)	3 (3)	2 (2)	32 (32)	0 (0)	21 (21)
		企業法学科	19 (19)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	28 (28)	0 (0)	16 (16)
		社会学部 第1部 社会学科	6 (7)	7 (7)	2 (2)	2 (2)	17 (18)	0 (0)	24 (24)
		国際社会学科	9 (9)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	39 (39)
		メディアコミュニケーション学科	12 (12)	0 (0)	3 (3)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	17 (17)
		社会心理学科	8 (8)	5 (5)	3 (3)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	25 (25)
		国際学部 グローバル・イノベーション学科	7 (7)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	14 (14)
		国際地域学科	16 (17)	7 (7)	2 (2)	2 (2)	27 (28)	0 (0)	54 (54)
		国際観光学部 国際観光学科	20 (20)	9 (9)	7 (7)	2 (2)	38 (38)	0 (0)	35 (35)
		理工学部 機械工学科	10 (10)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	15 (15)
		生体医工学科	12 (12)	4 (5)	0 (0)	1 (1)	17 (18)	0 (0)	31 (31)
		電気電子情報工学科	12 (12)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	15 (15)
		応用化学科	11 (11)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	19 (19)
		都市環境デザイン学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	13 (13)
		建築学科	8 (8)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	29 (29)
		総合情報学部 総合情報学科	18 (18)	7 (7)	3 (3)	5 (5)	33 (33)	0 (0)	24 (24)
		生命科学部 生命科学科	12 (13)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	16 (17)	0 (0)	18 (18)
		応用生物科学科	8 (8)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	1 (1)
		食環境科学部 食環境科学科	11 (11)	4 (6)	0 (0)	2 (2)	17 (19)	0 (0)	9 (9)
		健康栄養学科	6 (6)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	5 (5)	5 (5)
		情報連携学部 情報連携学科	21 (21)	12 (12)	4 (4)	6 (6)	43 (43)	0 (0)	13 (13)
		文学部 第2部 東洋思想文化学科	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		日本文学文化学科	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		教育学科	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		経済学部 第2部 経済学科	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		経営学部 第2部 経営学科	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		法学部 第2部 法律学科	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		社会学部 第2部 社会学科	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		国際教育センター	0 (0)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	11 (11)
		IR室	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		計	396 399	190 (193)	73 (73)	51 (51)	710 (716)	5 (5)	- -
		合 計	433 (441)	221 (222)	81 (81)	58 (69)	793 (813)	8 (10)	- -

教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計						
	事 務 職 員		390 (390)		216 (216)		606 (606)						
	技 術 職 員		0 (0)		87 (87)		87 (87)						
	図 書 館 専 門 職 員		30 (30)		10 (10)		40 (40)						
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		11 (11)		11 (11)						
	計		420 (420)		324 (324)		744 (744)						
校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計						
	校 舎 敷 地		336,413.19 m ²	0 m ²	0 m ²		336,413.19 m ²						
	運 動 場 用 地		189,576.05 m ²	0 m ²	0 m ²		189,576.05 m ²						
	小 計		525,989.24 m ²	0 m ²	0 m ²		525,989.24 m ²						
	そ の 他		302,924.81 m ²	0 m ²	0 m ²		302,924.81 m ²						
	合 計		828,914.05 m ²	0 m ²	0 m ²		828,914.05 m ²						
校 舎			専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計						
			248,130.6m ² (248,130.6m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)		248,130.6m ² (248,130.6m ²)						
教室等		講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体				
		358室	143室	385室	39室 (補助職員 9人)		5室 (補助職員0人)						
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称			室 数							
			健康スポーツ科学部			59 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能なため、大学全体の数				
	健康スポーツ科学部		1,616,816 [347,393] (1,590,888 [344,061])	16,342 [5,451] (16,342 [5,451])	23,808 [23,624] (23,808 [23,624])	15,360 (14,608)	73,723 (73,723)	0 0					
	計		1,616,816 [347,393] (1,590,888 [344,061])	16,342 [5,451] (16,342 [5,451])	23,808 [23,624] (23,808 [23,624])	15,360 (14,608)	73723 (73,723)	0 0					
図書館			面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体			
			18,371.33m ²		2,524		1,668,100						
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要								
			25,438.24m ²		野球場1面、サッカー場2面、テニスコート13面等								
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体			
		教員1人当り研究費等		532千円	532千円	532千円	532千円	—	—				
		共同研究費等		80,000千円	80,000千円	80,000千円	80,000千円	—	—				
		図 書 購 入 費	2,393千円	2,953千円	5,869千円	8,787千円	11,463千円	—	—		図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む。）を含む。		
		設 備 購 入 費	17,278千円	21,323千円	42,381千円	63,459千円	82,784千円	—	—		学部全体		
	学生1人当り納付金				第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		
		健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科			1,500千円		1,250千円		1,250千円		1,250千円		
		健康スポーツ科学部 栄養科学科			1,550千円		1,300千円		1,300千円		1,300千円		
学生納付金以外の維持方法の概要				手数料収入、資産運用収入等ならびに国庫からの補助金収入によって維持を図る。									

既設 大学 等の 状況	大 学 の 名 称	東洋大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	
		年	人	年次 人	人		倍		
	文学研究科								
	哲学専攻	2	5	—	10	修士(文学)	0.70	昭和27年度	
	インド哲学仏教学専攻	2	4	—	8	修士(文学)	0.37	昭和27年度	
	日本文学文化専攻	2	10	—	20	修士(文学)	0.35	昭和27年度	
	中国哲学専攻	2	4	—	8	修士(文学)	0.62	昭和29年度	
	英文学専攻	2	5	—	10	修士(文学)	0.10	昭和31年度	
	史学専攻	2	6	—	12	修士(文学)	0.41	昭和42年度	
	教育学専攻	2	20	—	40	修士(教育学)	0.22	平成6年度	
	国際文化コミュニケーション専攻	2	10	—	20	修士 (国際文化コミュニケーション)	0.65	平成31年度	
	社会学研究科								
	社会学専攻	2	10	—	20	修士(社会学)	1.05	昭和34年度	
	社会心理学専攻	2	12	—	24	修士 (社会心理学)	0.58	平成16年度	
	福祉社会システム専攻	2	—	—	—	修士(社会学)又は 修士(社会福祉学)	—	平成30年度	
	法学研究科								
	私法学専攻	2	10	—	20	修士(法学)	0.30	昭和39年度	
	公法学専攻	2	10	—	20	修士(法学)	0.05	昭和51年度	
	経営学研究科								
	経営学・マーケティング専攻	2	22	—	44	修士(経営学)又は 修士(マーケティング)	0.54	平成31年度	
	経営学専攻	2	—	—	—	修士(経営学)	—	昭和47年度	
	ビジネス・会計ファイナンス専攻	2	28	—	56	修士(経営学)	0.99	平成18年度	
	理工学研究科								
	生体医工学専攻	2	18	—	36	修士 (理工学)	0.99	平成26年度	
	応用化学専攻	2	12	—	24	修士 (理工学)	2.00	平成26年度	
	機能システム専攻	2	15	—	30	修士 (理工学)	1.23	平成26年度	
	電気電子情報専攻	2	11	—	22	修士 (理工学)	1.36	平成26年度	
	都市環境デザイン専攻	2	8	—	16	修士(工学)	1.24	平成26年度	
	建築学専攻	2	14	—	28	修士(工学)	1.14	平成26年度	
	経済学研究科								
	経済学専攻	2	10	—	20	修士(経済学)	0.70	昭和51年度	
	公民連携専攻	2	30	—	60	修士(経済学)	0.65	平成18年度	

令和2年より学生
募集停止

平成31年より学生
募集停止

既設 大学 等の 状況	国際学研究科								
	グローバル・イノベーション学専攻	2	10	—	20	修士 (グローバル・イノベーション学)	0.50	令和2年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
	国際地域学専攻	2	15	—	30	修士 (国際地域学)	0.66	平成30年度	同上
	国際観光学研究科								
	国際観光学専攻	2	15	—	30	修士 (国際観光学)	0.96	平成30年度	同上
	国際地域学研究科								
	国際地域学専攻	2	—	—	—	修士 (国際地域学)	—	平成13年度	同上
	国際観光学専攻	2	—	—	—	修士 (国際観光学)	—	平成17年度	同上
	生命科学研究科								
	生命科学専攻	2	20	—	40	修士 (生命科学)	1.42	平成13年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号
	社会福祉学研究科								
	社会福祉学専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉学)又は修士 (ソーシャルワーク)	0.42	平成30年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
	ライフデザイン学研究科								
	生活支援学専攻	2	10	—	20	修士(社会福祉学)又は修士(保育学)	0.60	平成30年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号
	健康スポーツ学専攻	2	10	—	20	修士(健康スポーツ学)	0.60	平成30年度	同上
	人間環境デザイン専攻	2	10	—	20	修士(人間環境デザイン学)	0.80	平成30年度	同上
	福祉社会デザイン研究科								
	社会福祉学専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉学)又は修士 (ソーシャルワーク)	—	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
	ヒューマンデザイン専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉学)又は修士 (健康デザイン学)	—	平成18年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号
	学際・融合科学研究科								
	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	2	12	—	24	修士(バイオ・ナノサイエンス融合)	0.37	平成23年度	埼玉県川越市鯨井2100
	総合情報学研究科								
	総合情報学専攻	2	15	—	30	修士(情報学)	1.16	平成28年度	同上
	食環境科学研究科								
	食環境科学専攻	2	10	—	20	修士(食環境科学)	0.60	平成28年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号
	情報連携学研究科								
	情報連携学専攻	2	20	—	40	修士(情報連携学)	0.55	平成29年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号
	大学院 博士後期課程								
	文学研究科								
	哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	昭和43年度	東京都文京区白山5丁目28番20号
	インド哲学仏教学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.44	昭和29年度	同上
	日本文学文化専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	昭和29年度	同上
	中国哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.11	平成11年度	同上

平成30年より学生募集停止

平成30年より学生募集停止

平成30年より学生募集停止

平成30年より学生募集停止

既設 大学 等の 状況	英文学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	昭和39年度	同上	平成31年より学生 募集停止
	史学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.11	平成11年度	同上	
	教育学専攻	3	4	—	12	博士(教育学)	0.33	平成11年度	同上	
	国際文化コミュニケーション専攻	3	3	—	9	博士 (国際文化コミュニケーション)	0.00	平成31年度	同上	
	社会学研究科									
	社会学専攻	3	3	—	9	博士(社会学)	0.00	昭和34年度	同上	
	社会心理学専攻	3	5	—	15	博士 (社会心理学)	0.33	平成18年度	同上	
	法学研究科									
	私法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.33	昭和41年度	同上	
	公法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.00	平成12年度	同上	
	経営学研究科									
	経営学・マーケティング専攻	3	4	—	12	博士(経営学)	0.16	平成31年度	同上	
	経営学専攻	3	—	—	—	博士(経営学)	—	平成11年度	同上	
	ビジネス・会計ファイナンス専攻	3	3	—	9	博士(経営学)または 博士(会計・ファイナンス)	0.00	平成22年度	同上	
	理工学研究科									
	生体医工学専攻	3	3	—	9	博士 (理工学)	0.66	平成26年度	埼玉県川越市鯨井 2100	平成30年より学生 募集停止 平成30年より学生 募集停止
	応用化学専攻	3	3	—	9	博士 (理工学)	0.22	平成26年度	同上	
	機能システム専攻	3	3	—	9	博士 (理工学)	0.11	平成26年度	同上	
	電気電子情報専攻	3	3	—	9	博士 (理工学)	0.00	平成26年度	同上	
	建築・都市デザイン専攻	3	3	—	9	博士(工学)	0.22	平成26年度	同上	
	経済学研究科									
	経済学専攻	3	3	—	9	博士(経済学)	0.66	昭和53年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
	国際学研究科									
	国際地域学専攻	3	5	—	15	博士 (国際地域学)	0.53	平成30年度	同上	
	国際観光学研究科									
	国際観光学専攻	3	3	—	9	博士 (国際観光学)	1.33	平成30年度	同上	
	国際地域学研究科									
	国際地域学専攻	3	—	—	—	博士 (国際地域学)	—	平成15年度	同上	
	国際観光学専攻	3	—	—	—	博士 (国際観光学)	—	平成23年度	同上	
	生命科学研究科									
	生命科学専攻	3	4	—	12	博士 (生命科学)	0.58	平成15年度	群馬県邑楽郡板倉町 泉野1丁目1番1号	
	社会福祉学研究科									
	社会福祉学専攻	3	5	—	15	博士(社会福祉学)又は博士 (ソーシャルワーク)	0.60	平成30年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	

既設 大学 等の 状況	ライフデザイン学研究科									
	ヒューマンライフ学専攻	3	5	—	15	博士(社会福祉学) 又は博士(健康デザイン学)	0.80	平成30年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	平成30年より学生募集停止
	人間環境デザイン専攻	3	4	—	12	博士(人間環境デザイン学)	0.33	平成30年度	同上	
	福祉社会デザイン研究科									平成30年より学生募集停止
	社会福祉学専攻	3	—	—	—	博士(社会福祉学)又は博士(ソーシャルワーク)	—	平成18年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	ヒューマンデザイン専攻	3	—	—	—	博士(社会福祉学)又は博士(健康デザイン学)	—	平成18年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	平成30年より学生募集停止
	学際・融合科学研究科									
	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	3	4	—	12	博士(バイオ・ナノサイエンス融合)	0.00	平成19年度	埼玉県川越市鯨井2100	平成30年より学生募集停止
	総合情報学研究科									
	総合情報学専攻	3	3	—	9	博士(情報学)	0.99	平成30年度	同上	平成30年より学生募集停止
	食環境科学研究科									
	食環境科学専攻	3	2	—	6	博士(食環境科学)	0.33	平成30年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	平成30年より学生募集停止
	情報連携学研究科									
	情報連携学専攻	3	4	—	12	博士(情報連携学)	0.08	平成31年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	平成30年より学生募集停止
	文学部 第1部						1.00			
	哲学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.02	昭和24年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	平成29年より学生募集停止
	東洋思想文化学科	4	100	—	400	学士(文学)	0.97	平成25年度	同上	
	日本文学文化学科	4	133	—	532	学士(文学)	1.02	平成12年度	同上	平成29年より学生募集停止
	英米文学科	4	133	—	532	学士(文学)	1.01	昭和24年度	同上	
	英語コミュニケーション学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成12年度	同上	平成29年より学生募集停止
	史学科	4	133	—	532	学士(文学)	1.02	昭和24年度	同上	
	教育学科						0.98	昭和39年度	同上	平成29年より学生募集停止
	教育学科人間発達専攻	4	100	—	400	学士(教育学)	0.99	平成20年度	同上	
	教育学科初等教育専攻	4	50	—	200	学士(教育学)	0.96	平成20年度	同上	平成29年より学生募集停止
	国際文化コミュニケーション学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.03	平成29年度	同上	
	経済学部 第1部						1.01			平成29年より学生募集停止
	経済学科	4	250	—	1000	学士(経済学)	1.00	昭和25年度	同上	
	国際経済学科	4	183	—	732	学士(経済学)	1.01	平成12年度	同上	平成29年より学生募集停止
	総合政策学科	4	183	—	732	学士(経済学)	1.01	平成12年度	同上	
	経営学部 第1部						1.01			平成29年より学生募集停止
	経営学科	4	316	—	1264	学士(経営学)	1.01	昭和41年度	同上	
	マーケティング学科	4	150	—	600	学士(経営学)	1.00	昭和41年度	同上	平成29年より学生募集停止
	会計ファイナンス学科	4	216	—	864	学士(経営学)	1.01	平成18年度	同上	

既設 大学 等の 状況	法学部 第1部						1.01			令和3年より学生 募集停止
	法律学科	4	250	—	1000	学士(法学)	1.02	昭和31年度	同上	
	企業法学科	4	250	—	1000	学士(法学)	1.01	昭和40年度	同上	
	社会学部 第1部						1.01			
	社会学科	4	150	—	600	学士(社会学)	1.01	昭和34年度	同上	
	社会文化システム学科	4	—	—	—	学士(社会学)	—	平成12年度	同上	
	国際社会学科	4	150	—	300	学士(社会学)	1.00	令和3年度	同上	
	メディアコミュニケーション学科	4	150	—	600	学士(社会学)	1.01	平成12年度	同上	
	社会心理学科	4	150	—	600	学士(社会学)	1.03	平成12年度	同上	
	社会福祉学科	4	150	—	600	学士(社会学)	1.01	平成4年度	同上	
	理工学部						1.00			平成29年より学生 募集停止 平成29年より学生 募集停止 平成29年より学生 募集停止
	機械工学科	4	180	—	720	学士(理工学)	1.01	昭和36年度	埼玉県川越市鯨井2100	
	生体医工学科	4	113	—	452	学士(理工学)	1.00	平成21年度	同上	
	電気電子情報工学科	4	113	—	452	学士(理工学)	1.00	昭和36年度	同上	
	応用化学科	4	146	—	584	学士(理工学)	1.00	昭和36年度	同上	
	都市環境デザイン学科	4	113	—	452	学士(工学)	1.00	昭和37年度	同上	
	建築学科	4	146	—	584	学士(工学)	1.03	昭和37年度	同上	
	国際地域学部									
	国際地域学科							平成9年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	国際地域学科 国際地域専攻	4	—	—	—	学士 (国際地域学)	—	平成22年度	同上	
	国際地域学科 地域総合専攻	4	—	—	—	学士 (国際地域学)	—	平成22年度	同上	
	国際観光学科	4	—	—	—	学士 (国際観光学)	—	平成13年度	同上	
	国際学部						0.99			
	グローバル・イノベーション学科	4	100	—	400	学士 (グローバル・イノベーション学)	0.99	平成29年度	同上	
	国際地域学科						1.00	平成29年度	同上	
	国際地域学科 国際地域専攻	4	210	—	840	学士 (国際地域学)	1.00	平成29年度	同上	
	国際地域学科 地域総合専攻	4	80	—	320	学士 (国際地域学)	1.00	平成29年度	同上	
	国際観光学部						1.00			
	国際観光学科	4	366	—	1464	学士 (国際観光学)	1.00	平成29年度	同上	
	生命科学部						0.99			
	生命科学科	4	113	—	452	学士 (生命科学)	1.00	平成9年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
	応用生物科学科	4	113	—	452	学士 (生命科学)	0.98	平成21年度	同上	

既設 大学 等の 状況	ライフデザイン学部						0.99			令和4年度入学 定員減（100）
	生活支援学科						0.98	平成17年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
	生活支援学科 生活支援学専攻	4	116	—	464	学士 (生活支援学)	1.00	平成21年度	同上	
	生活支援学科 子ども支援学専攻	4	100	—	400	学士 (生活支援学)	0.97	平成21年度	同上	
	健康スポーツ学科	4	180	—	720	学士 (健康スポーツ学)	1.00	平成17年度	同上	
	人間環境デザイン学科	4	160	—	640	学士 (人間環境デザイン学)	0.99	平成18年度	同上	
	総合情報学部						1.01			
	総合情報学科	4	260	—	1040	学士(情報学)	1.01	平成21年度	埼玉県川越市鯨井2100	
	食環境科学部						0.98			
	食環境科学科						0.99	平成25年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
	食環境科学科 フードサイエンス専攻	4	70	—	280	学士 (食環境科学)	0.97	平成25年度	同上	
	食環境科学科 スポーツ・食品機能専攻	4	50	—	200	学士 (食環境科学)	1.02	平成25年度	同上	
	健康栄養学科	4	100	—	400	学士 (健康栄養学)	0.98	平成25年度	同上	
	情報連携学部						0.99			
	情報連携学科	4	300	—	1500	学士(情報連携学)	0.99	平成29年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
	文学部 第2部						0.98			
	東洋思想文化学科	4	30	—	120	学士(文学)	0.98	平成25年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
	日本文学文化学科	4	50	—	200	学士(文学)	1.00	昭和27年度	同上	
	教育学科	4	40	—	160	学士(教育学)	0.97	昭和39年度	同上	
	経済学部 第2部						1.02			
	経済学科	4	150	—	600	学士(経済学)	1.02	昭和32年度	同上	
	経営学部 第2部						0.99			
	経営学科	4	110	—	440	学士(経営学)	0.99	昭和41年度	同上	
	法学部 第2部						1.01			
	法律学科	4	120	—	480	学士(法学)	1.01	昭和31年度	同上	
	社会学部 第2部						1.00			
	社会学科	4	130	—	520	学士(社会学)	1.01	昭和34年度	同上	
	社会福祉学科	4	—	—	—	学士(社会学)	—	平成13年度	同上	
	通信教育部									
	文学部 日本文学文化学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和39年度	同上	
	法学部 法律学科	4	—	—	—	学士(法学)	—	昭和41年度	同上	
附属施設の概要		-								

教 育 課 程 等 の 概 要																
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)																
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤教育科目	哲学・思想	哲学	1・2・3・4前		2		○				1				兼1	
		生命と倫理	1・2・3・4後		2		○				1				兼1	
		宗教学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		小計 (3科目)	—	0	6	0	—	0	1	0	0	0	兼1			
	学問の基礎	人文科学	日本文学	1・2・3・4前		2		○								兼1
			外国文学	1・2・3・4後		2		○								兼1
			歴史学	1・2・3・4前		2		○								兼1
			美術一般	1・2・3・4前		2		○								兼1
			音楽一般	1・2・3・4後		2		○								兼1
			文化人類学	1・2・3・4後		2		○								兼1
			小計 (6科目)	—	0	12	0	—	0	0	0	0	0	兼5		
		社会科学	経済学	1・2・3・4後		2		○								兼1
			経営学	1・2・3・4後		2		○								兼1
			法学	1・2・3・4前		2		○								兼1
			政治学	1・2・3・4前		2		○								兼1
			地理学	1・2・3・4後		2		○								兼1
			社会学	1・2・3・4前		2		○								兼2
			心理学	1・2・3・4前		2		○								兼1
	統計学	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	小計 (8科目)	—	0	16	0	—	0	0	0	0	0	兼9				
	自然科学	数学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		物理学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		現代化学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		生物学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		小計 (4科目)	—	0	8	0	—	0	0	0	0	0	兼3			
	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究A	1・2・3・4前		2		○								兼1
			地域文化研究B	1・2・3・4後		2		○								兼1
			地域文化研究C	1・2・3・4前		2		○								兼1
			地域文化研究D	1・2・3・4後		2		○								兼1
			地域文化研究E	1・2・3・4前		2		○								兼1
			小計 (5科目)	—	0	10	0	—	0	0	0	0	0	兼5		
		グローバル社会の国際人の形成	英語および英語圏社会事情	1・2・3・4前		2		○				1				兼1
中国語および中国語圏社会事情			1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
フランス語およびフランス語圏社会事情			1・2・3・4前		2		○								兼1	
ドイツ語およびドイツ語圏社会事情			1・2・3・4前		2		○								兼1	
韓国語および韓国語圏社会事情			1・2・3・4後		2		○								兼1	
留学のすすめ			1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
異文化理解概論			1・2・3・4後		2		○								兼1	
海外研修Ⅰ			1・2・3・4後		2				○						兼1	
海外研修Ⅱ			1・2・3・4前		2				○						兼1	
海外実習Ⅰ			1・2・3・4前		2				○						兼1	
海外実習Ⅱ			1・2・3・4前		2				○						兼1	
短期海外研修Ⅰ			1・2・3・4前		1				○						兼1	
短期海外研修Ⅱ			1・2・3・4前		1				○						兼1	
短期海外研修Ⅲ			1・2・3・4前		1				○						兼1	
短期海外研修Ⅳ			1・2・3・4前		1				○						兼1	
短期海外実習Ⅰ			1・2・3・4前		1				○						兼1	
短期海外実習Ⅱ			1・2・3・4前		1				○						兼1	
短期海外実習Ⅲ			1・2・3・4前		1				○						兼1	
短期海外実習Ⅳ			1・2・3・4前		1				○						兼1	
小計 (19科目)		—	0	30	0	—	0	1	0	0	0	兼6				
語学		英語ⅠA	1前	1			○				1				兼17	
	英語ⅠB	1後	1			○				1				兼17		
	英語ⅡA	1前	1			○				1				兼12		
	英語ⅡB	1後	1			○				1				兼12		
	英語ⅢA	2前	1			○				1				兼17		
	英語ⅢB	2後	1			○				1				兼17		
	英語ⅣA	2前	1			○								兼13		
	英語ⅣB	2後	1			○								兼13		
	Intercultural Communication SkillsⅠA	1・2・3・4前		1				○		1						
	Intercultural Communication SkillsⅠB	1・2・3・4前		1				○		1						
Intercultural Communication SkillsⅡA	1・2・3・4後		1				○						兼1			

教 育 課 程 等 の 概 要														
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基盤教育科目	語学	Intercultural Communication Skills II B	1・2・3・4後	1			○							兼1
		English Test Preparation I	1・2・3・4前	1			○			1				
		English Test Preparation II	1・2・3・4後	1			○			1				
		中国語 I	1・2・3・4前	1			○							兼1
		中国語 II	1・2・3・4後	1			○							兼1
		フランス語 I	1・2・3・4前	1			○							兼1
		フランス語 II	1・2・3・4後	1			○							兼1
		ドイツ語 I	1・2・3・4前	1			○							兼1
		ドイツ語 II	1・2・3・4後	1			○							兼1
		韓国語 I	1・2・3・4前	1			○		1					
		韓国語 II	1・2・3・4後	1			○							兼1
		Business English Communication	1・2・3・4前	2			○							兼1
		アカデミックライティング	1・2・3・4前	2		○								兼1
		テクニカルライティング	1・2・3・4前	2		○								兼1
		IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking	1・2・3・4前	2			○							兼1
		IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking	1・2・3・4前・後	2			○							兼1
		IELTS for Study Abroad I Reading/Writing	1・2・3・4後	2			○							兼1
		IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	1・2・3・4前・後	2			○							兼3
		Pre-Study Abroad:Listening/Speaking	1・2・3・4前・後	1			○							兼2
		Pre-Study Abroad:Writing	1・2・3・4前・後	1			○							兼1
		小計（31科目）		8	30	0	—		1	1	0	0	0	兼34
	国際人の形成	日本語 I	1・2・3・4前	1			○							兼1
		日本語 II	1・2・3・4後	1			○							兼1
		日本事情 I	1・2・3・4前	2		○								兼1
		日本事情 II	1・2・3・4後	2		○								兼1
		Integrated Japanese I Theory	1・2・3・4前・後	2			○							兼2
		Integrated Japanese I Practice	1・2・3・4前・後	2			○							兼1
		Integrated Japanese II Theory	1・2・3・4前・後	2			○							兼1
		Integrated Japanese II Practice	1・2・3・4前・後	2			○							兼3
		Integrated Japanese III Theory	1・2・3・4前・後	2			○							兼2
		Integrated Japanese III Practice	1・2・3・4前・後	2			○							兼1
		Japanese Reading I	1・2・3・4前・後	1			○							兼2
		Japanese Reading II	1・2・3・4前・後	1			○							兼2
		Japanese Reading III	1・2・3・4前・後	1			○							兼1
		Japanese Listening I	1・2・3・4前・後	1			○							兼2
		Japanese Listening II	1・2・3・4前・後	1			○							兼1
		Japanese Listening III	1・2・3・4前・後	1			○							兼1
		Japanese Writing I	1・2・3・4前・後	1			○							兼1
		Japanese Writing II	1・2・3・4前・後	1			○							兼1
		Japanese Writing III	1・2・3・4前・後	1			○							兼1
		Project Work I	1・2・3・4前・後	1			○							兼1
		Project Work II	1・2・3・4後	1			○							兼1
		Project Work III	1・2・3・4前・後	1			○							兼2
		Japanese Culture and Society A	1・2・3・4後	2		○								兼1
		Japanese Culture and Society B	1・2・3・4前	2		○								兼1
		Introduction to Japanology A	1・2・3・4後	2		○								兼1
		Introduction to Japanology B	1・2・3・4前	2		○								兼1
		小計（26科目）	—	6	32	0	—		0	0	0	0	0	兼10
	キャリア・市民形成	キャリアデザイン入門	1前	2		○								兼1
		コミュニケーション&マナー	1後	2		○								兼1
		キャリアデザイン実践	2後	2		○								兼1
		キャリアデベロップメント	3・4後	2		○								兼1
		インターンシップ入門	3・4前	2		○								兼1
		アントレプレナーシップ	3・4後	2		○								兼1
		口頭表現法	1・2・3・4前	2		○								兼1
		プレゼンテーション技法	1・2・3・4前	2		○								兼1
		文章読解	1・2・3・4後	2		○								兼1
		レポート・論文のまとめ方	1・2・3・4後	2		○								兼1
		小計（10科目）	—	0	20	0	—		0	0	0	0	0	兼5
	市民形成	日本国憲法	1・2・3・4後	2		○								兼1
		グローバル市民論	1・2・3・4前	2		○								兼1
		環境政策論	1・2・3・4後	2		○								兼1
		情報化社会と人間	1・2・3・4前	2		○								兼1

教 育 課 程 等 の 概 要															
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）															
科目 区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基盤教育科目	キャリア・市民形成	ダイバーシティ論	1・2・3・4後		2		○								兼1
		障害学	1・2・3・4前		2		○								兼1
		ジェンダー論	1・2・3・4前		2		○				1				
		社会貢献活動入門	1・2・3・4後		2		○								兼1
		地域マネジメント	1・2・3・4後		2		○								兼1
		公務員論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1
		食と健康	1・2・3・4後		2		○								兼1
		基礎会計学	1・2・3・4前		2		○								兼1
		小計（12科目）	—	0	24	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼10
		情報リテラシーⅠ	1・2・3・4前		2			○							兼5
	情報	情報リテラシーⅡ	1・2・3・4後		2			○							兼4
		プログラミング基礎Ⅰ	1・2・3・4前		2			○							兼1
		プログラミング基礎Ⅱ	1・2・3・4後		2			○							兼1
		小計（4科目）	—	4	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼9
	健康・スポーツ科学	スポーツ健康科学実技Ⅰ	1・2・3・4前		1				○				3		
		スポーツ健康科学実技Ⅱ	1・2・3・4後		1				○				3		
		スポーツ健康科学実技Ⅲ	1・2・3・4前		1				○						兼3
		スポーツ健康科学実技Ⅳ	1・2・3・4後		1				○						兼3
		スポーツ健康科学講義Ⅰ	1・2・3・4前		2		○			1					
		スポーツ健康科学講義Ⅱ	1・2・3・4後		2		○			1					
		小計（6科目）	—	0	8	0	—	—	—	0	1	0	3	0	兼3
	総合・学際	全学総合A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		全学総合B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		全学総合C	1・2・3・4前		2		○								兼1
		全学総合D	1・2・3・4前		2		○								兼1
		全学総合E	1・2・3・4後		2		○								兼1
		全学総合F	1・2・3・4前		2		○								兼1
		全学総合G	1・2・3・4後		2		○								兼1
		全学総合H	1・2・3・4後		2		○								兼1
		全学総合I	1・2・3・4前		2		○								兼1
		全学総合J	1・2・3・4後		2		○								兼1
		全学総合K	1・2・3・4前		2		○								兼1
		全学総合L	1・2・3・4前		2		○								兼1
		全学総合M	1・2・3・4後		2		○								兼1
		総合A	1・2・3・4後		2		○								兼1
		総合B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		総合C	1・2・3・4前		2		○								兼1
		総合D	1・2・3・4前		2		○								兼1
		総合E	1・2・3・4後		2		○								兼1
		総合F	1・2・3・4後		2		○								兼1
		小計（19科目）	—	0	38	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼12
専門教育科目	学部共通科目	健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	1前	2				○		3		2	3		
		健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	1後	2				○		3		2	3		
		健康スポーツキャリアデザインA	1前	2			○			3	1				オムニバス
		健康スポーツキャリアデザインB	1後	2			○			1	1	1			オムニバス
		健康スポーツ科学プロジェクト演習A	2前	2				○		3		2	3		兼1
		健康スポーツ科学プロジェクト演習B	2後	2				○		3		2	3		
		健康スポーツ科学演習Ⅰ	3前	2				○		7	9	4			
		健康スポーツ科学演習Ⅱ	3後	2				○		7	9	4			
		健康スポーツ科学演習Ⅲ	4前	2				○		7	9	4			
		健康スポーツ科学演習Ⅳ	4後	2				○		7	9	4			
		卒業研究・論文Ⅰ	4前	2				○		7	9	4			
		卒業研究・論文Ⅱ	4後	2				○		7	9	4			
		小計（12科目）	—	24	0	0	—	—	—	7	9	4	3	0	兼1
	学科専門科目	健康・スポーツの自然科学	1前	2			○			2					兼2
		健康・スポーツの人文・社会科学	1前	2			○			2		2			オムニバス
		スポーツ哲学	1後	2			○				1				
		国際健康スポーツ交流A	1前	2				○		1	2	1			
		ベーシック・トレーニング	1前・後	1					○			1	1		兼1
		健康スポーツアクティビティⅠA	1前	1					○		2		1		兼5
		健康スポーツアクティビティⅠB	1後	1					○		2		1		兼5
		健康スポーツアクティビティⅢA	1前	1					○		2				兼6

教 育 課 程 等 の 概 要																
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)																
科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
学科専門科目	必修科目	健康スポーツアクティビティⅢB	1後	1					○		2				兼6	
		トレーニング概論	2前	2			○						1			
		健康スポーツアクティビティⅠC	2前	1					○		2		1		兼5	
		健康スポーツアクティビティⅠD	2後	1					○		2		1		兼5	
		健康スポーツアクティビティⅡA	2前	1					○						兼8	
		健康スポーツアクティビティⅡB	2後	1					○						兼8	
		健康スポーツアクティビティⅡC	3前	1					○						兼8	
		健康スポーツアクティビティⅡD	3後	1					○						兼8	
小計（16科目）			—	21	0	0	—			4	5	3	2	0	兼22	
専門教育科目	選択科目	健康スポーツ情報	1前		2			○				1				
		健康スポーツ統計	1後		2			○				1				
		運動学（運動方法学を含む）	1後		2			○				1				
		コーチング概論	1後		2			○					1			
		力学基礎	1後		2			○								兼1
		生理学	1・2・3・4前		2			○			1					
		解剖学	1・2・3・4前		2			○								兼1
		レクリエーション実習	1・2・3・4後		1					○		1				
		レクリエーション論	1・2・3・4前		2			○				1				
		公衆衛生学	1・2・3・4前		2			○			1					
		生涯スポーツ論	1・2・3・4後		2			○				1				
		精神保健学	1・2・3・4前		2			○								兼1
		アダプテッドスポーツ実習	1・2・3・4前		1					○		1				
		健康スポーツ文化論	1・2・3・4後		2			○			1	1	1			オムニバス
		運動生理学Ⅰ	1・2・3・4前		2			○			1					
		スポーツと応急処置	1・2・3・4前・後		2				○				1	1		兼1
		危機管理と救急法	1・2・3・4後		2			○			1					
		スポーツマネジメント	1・2・3・4前		2			○					1			
		スポーツビジネス	1・2・3・4後		2			○					1			
		医学概論	1・2・3・4前		2			○								兼1
		外国語文献講読	1・2・3・4後		2			○			1		1			
		免疫と薬理	1・2・3・4前		2			○								兼1
		生活習慣と健康	1・2・3・4前		2			○			1					
		健康スポーツボランティア活動A	1・2・3・4前・後		2					○	1					
		健康スポーツボランティア活動B	1・2・3・4前・後		2					○		1				
		国際健康スポーツ交流B	1・2・3・4前・後		2					○	2	2	2			
		国際健康スポーツ交流C	1・2・3・4前・後		2					○	2	2	2			
		国際健康スポーツ交流D	1・2・3・4前・後		2					○	2	2	2			
		解剖学実習	2前・後		1					○						兼1
		バイオメカニクス実習	2前・後		1					○						兼1
		生理・生化学実習	2前・後		1					○	1					
		運動生理学実習	2前・後		1					○	1					
		フィールドワーク実習	2前・後		1					○	1		1			
		スポーツのコーチング理論Ⅰ	2前		2			○				1				
		スポーツのコーチング理論Ⅱ	2後		2			○					1	1		
		スポーツのコーチング演習Ⅰ	2後		2					○		1				
		スポーツ生理学	2後		2			○			1					
		スポーツ心理学	2後		2			○				1				
		力学演習	2前		2					○						兼1
		バイオメカニクス	2前		2			○								兼1
センシング技術	2前		2			○				1						
プログラミング演習（データ処理含む）	2後		2					○		1						
人体組織学	2・3・4後		2			○								兼1		
機能解剖学	2・3・4後		2			○								兼1		
運動生理学Ⅱ	2・3・4後		2			○			1							
生化学	2・3・4後		2			○			1							
運動疫学	2・3・4後		2			○			1							
健康社会学	2・3・4前		2			○			1							
ヘルスプロモーション論	2・3・4後		2			○			1							
高齢者健康スポーツ指導法	2・3・4後		1					○	1							
子ども健康スポーツ指導法	2・3・4前		1					○		1						
健康教育学	2・3・4後		2			○			1							
学校環境衛生実習	2・3・4前		1					○	1							

教 育 課 程 等 の 概 要															
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）															
科目 区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 教 育 科 目	学 科 専 門 科 目	選 択 科 目	学校保健（小児保健を含む）	2・3・4後	2		○			1					
			障がい者スポーツ論	2・3・4前	2		○				1				
			スポーツ史	2・3・4前	2		○					1			
			スポーツ社会学	2・3・4後	2		○					1			
			スポーツ人類学	2・3・4後	2		○			1					
			日本文化とスポーツ	2・3・4後	2		○								兼1
			国際開発論	2・3・4後	2		○			1					
			国際交流論	2・3・4前	2		○			1					
			スポーツ栄養学Ⅰ	2・3・4前	2		○								兼2 共同
			スポーツ栄養学Ⅱ	2・3・4後	2		○								兼2 共同
			健康栄養学	2・3・4後	2		○								兼2 共同
			スポーツ医学Ⅰ（内科）	2・3・4後	2		○								兼1
			スポーツ医学Ⅱ（整形外科）	2・3・4前	2		○								兼1
			アスリートの健康（予防とマネジメント）	2・3・4前	2		○			1		1			オムニバス
			アスレティックトレーニング指導法	2・3・4後	1			○		1		1			兼1
			トレーニングプログラミング論	2・3・4前	2		○			1					
			アスレティックトレーニング論	2・3・4後	2		○					1			
			アスレティックコンディショニング演習	2・3・4前・後	1			○		1		1			
			スポーツ組織論	2・3・4後	2		○					1			
			トップスポーツ論	2・3・4前	2		○					1			
			スポーツ政策論	2・3・4前	2		○				1				
			スポーツ施設マネジメント	2・3・4後	2		○				1				
			スポーツとメディア	2・3・4後	2		○					1			
			地域スポーツクラブ論	2・3・4後	2		○				1				
			スポーツマーケティング	2・3・4前	2		○					1			
			測定評価	2・3・4前	2		○								兼1
			スポーツの法と倫理	2・3・4後	2		○				1				兼1
			身体文化論	2・3・4前	2		○								
			健康政策と行政	2・3・4前	2		○			1					
			健康づくり運動指導法実習	2・3・4前	1			○			1				
			エアロビクス指導法	2・3・4前・後	1			○			1				
			健康スポーツインターンシップA	2・3・4前	2		○			1	1	1			
			健康スポーツインターンシップB	2・3・4後	2		○			1	1	1			
			健康スポーツ特別演習A	2・3・4前	2				○	1					
			健康スポーツ特別演習B	2・3・4後	2				○	1					
			スポーツのコーチング演習Ⅱ	3前	2				○			1	1		
			スポーツダイナミクス解析	3前	2				○						兼1
			シミュレーション演習	3前	2				○		1				
			スポーツとコンディショニング	3・4後	2		○			1					
			労働基準法	3・4後	2		○								兼1
			労働衛生Ⅰ	3・4前	2		○								兼1
			労働衛生Ⅱ	3・4後	2		○								兼1
			労働安全衛生法Ⅰ	3・4前	2		○								兼1
			労働安全衛生法Ⅱ	3・4後	2		○								兼1
			健康産業施設等現場実習	4後	1				○	1					
			小計（98科目）	—	0	181	0	—		7	8	4	2	0	兼20
教 職 科 目			養護概説	1前	2		○			1					兼3
			看護学Ⅰ	1前	2		○								オムニバス
			看護学Ⅱ	2前	2		○								兼1
			看護学Ⅲ	2後	2		○								兼1
			スポーツ実習・指導法（水泳）	2前	1			○							兼2
			スポーツ実習・指導法（ダンス）	2前	1			○							兼1
			スポーツ実習・指導法（柔道）	2後	1			○							兼1
			スポーツ実習・指導法（剣道）	2後	1			○							兼1
			スポーツ実習・指導法（サッカー）	2後	1			○							兼1
			スポーツ実習・指導法（バレーボール）	2後	1			○							兼1
			スポーツ実習・指導法（バスケットボール）	2前	1			○							兼1
			スポーツ実習・指導法（テニス）	2前	1			○							兼1
			スポーツ実習・指導法（バドミントン）	2後	1			○			1				
			スポーツ実習・指導法（陸上）	3前	1			○							兼1
			スポーツ実習・指導法（器械運動）	3後	1			○							兼1
			看護学実習	3後	2				○	1					兼2
															オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要															
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
教 職 科 目	保健科教育論Ⅰ	2前			2	○									兼1
	保健科教育論Ⅱ	2後			2	○									兼1
	保健体育科教育法Ⅰ	2前			2	○			1	1					オムニバス
	保健体育科教育法Ⅱ	2後			2	○				1					
	保健科指導法Ⅰ	3前			2	○									
	保健科指導法Ⅱ	3後			2	○									
	保健体育科指導法Ⅰ	3前			2	○			1						
	保健体育科指導法Ⅱ	3後			2	○				1					
	教育基礎論	1前			2	○									
	教職概論	1前			2	○									
	教育制度論	1後			2	○									
	教育心理学	1前			2	○									
	特別支援教育基礎論	1後			2	○									
	教育課程総論	1後			2	○									
	教育課程総論（養護教諭）	2前			2	○			1						
	道徳教育論	3前			2	○									
	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	1後			2	○									
	教育方法の理論と実践（情報通信技術を含む）	2後			2	○									
	生徒指導論（進路指導論を含む）	2後			2	○									
	教育相談	2後			2	○									
	養護実習基礎演習	3後			2			○		1					
	教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）	4前			5				○	1	1		1		共同
	教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）	4前			3				○	1	1		1		共同
	養護実習（事前・事後指導を含む）	4前			5				○	1					
	教職実践演習（中・高）	4後			2			○		1	1		1		共同
	教職実践演習（養護教諭）	4後			2			○		1					
	教職インターンシップA	3前			2				○	1	1				共同
	教職インターンシップB	3後			2				○	1	1				共同
	小計（44科目）	—	0	0	84	—	—	—	—	1	2	0	1	0	兼23
合計（323科目）			—	63	419	84	—	—	7	8	4	3	0	兼155	
学位又は称号		学士（健康スポーツ科学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)、体育関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
1) 卒業要件となる科目で124単位以上を修得すること。 2) 基盤教育科目で、哲学・思想科目2単位以上、国際人の形成の語学の外国語科目必修8単位、キャリア・市民形成のキャリア科目2単位以上、市民形成科目2単位以上、情報科目4単位以上の合計8単位以上を含み、18単位以上を修得すること。また、外国人留学生入試入学者は、上記の他に、国際人の形成の語学の留学生対象科目必修6単位を修得すること。 3) 専門教育科目で、学部共通科目から必修科目24単位、学科専門科目から61単位以上（うち必修科目21単位、選択科目40単位以上）修得すること。 （履修科目の登録の上限：半期24単位（年間48単位））								1 学年の学期区分				2期			
								1 学期の授業期間				15週			
								1 時限の授業時間				90分			

教 育 課 程 等 の 概 要																
(健康スポーツ科学部栄養科学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基盤教育科目	哲学・思想	哲学	1・2・3・4前		2		○								兼2	
		生命と倫理	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		宗教学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		小計 (3科目)	—	0	6	0	—		0	0	0	0	0	兼2		
	人文科学	日本文学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		外国文学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		歴史学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		美術一般	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		音楽一般	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		文化人類学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		小計 (6科目)	—	0	12	0	—		0	0	0	0	0	兼5		
		社会科学	経済学	1・2・3・4後		2		○								兼1
			経営学	1・2・3・4後		2		○								兼1
			法学	1・2・3・4前		2		○								兼1
			政治学	1・2・3・4前		2		○								兼1
	地理学		1・2・3・4後		2		○								兼1	
	社会学		1・2・3・4前		2		○								兼2	
	心理学		1・2・3・4前		2		○								兼1	
	統計学		1・2・3・4前		2		○								兼1	
	小計 (8科目)	—	0	16	0	—		0	0	0	0	0	兼9			
	自然科学	数学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		物理学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		現代化学	1・2・3・4後		2		○				1					
		生物学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	小計 (4科目)	—	0	8	0	—		0	1	0	0	0	0	兼2		
	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究A	1・2・3・4前		2		○								兼1
地域文化研究B			1・2・3・4後		2		○								兼1	
地域文化研究C			1・2・3・4前		2		○								兼1	
地域文化研究D			1・2・3・4後		2		○								兼1	
地域文化研究E			1・2・3・4前		2		○								兼1	
小計 (5科目)		—	0	10	0	—		0	0	0	0	0	0	兼5		
グローバル社会の実際		英語および英語圏社会事情	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		中国語および中国語圏社会事情	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
		フランス語およびフランス語圏社会事情	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		ドイツ語およびドイツ語圏社会事情	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		韓国語および韓国語圏社会事情	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		留学のすすめ	1・2・3・4前・後		2		○								兼2	
		異文化理解概論	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		海外研修Ⅰ	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		海外研修Ⅱ	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		海外実習Ⅰ	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		海外実習Ⅱ	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		短期海外研修Ⅰ	1・2・3・4前		1				○						兼1	
		短期海外研修Ⅱ	1・2・3・4前		1				○						兼1	
		短期海外研修Ⅲ	1・2・3・4前		1				○						兼1	
		短期海外研修Ⅳ	1・2・3・4前		1				○						兼1	
		短期海外実習Ⅰ	1・2・3・4前		1				○						兼1	
		短期海外実習Ⅱ	1・2・3・4前		1				○						兼1	
		短期海外実習Ⅲ	1・2・3・4前		1				○						兼1	
		短期海外実習Ⅳ	1・2・3・4前		1				○						兼1	
小計 (19科目)		—	0	30	0	—		0	0	0	0	0	0	兼7		
語学	英語ⅠA	1前	1				○							兼18		
	英語ⅠB	1後	1				○							兼18		
	英語ⅡA	1前	1				○							兼13		
	英語ⅡB	1後	1				○							兼13		
	英語ⅢA	2前	1				○							兼18		
	英語ⅢB	2後	1				○							兼18		
	英語ⅣA	2前	1				○							兼13		
	英語ⅣB	2後	1				○							兼13		
	Intercultural Communication SkillsⅠA	1・2・3・4前		1			○							兼1		
	Intercultural Communication SkillsⅠB	1・2・3・4前		1			○							兼1		
	Intercultural Communication SkillsⅡA	1・2・3・4後		1			○							兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要														
（健康スポーツ科学部栄養科学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基盤教育科目	語学	Intercultural Communication Skills II B	1・2・3・4後	1			○							兼1
		English Test Preparation I	1・2・3・4前	1			○							兼1
		English Test Preparation II	1・2・3・4後	1			○							兼1
		中国語 I	1・2・3・4前	1			○							兼1
		中国語 II	1・2・3・4後	1			○							兼1
		フランス語 I	1・2・3・4前	1			○							兼1
		フランス語 II	1・2・3・4後	1			○							兼1
		ドイツ語 I	1・2・3・4前	1			○							兼1
		ドイツ語 II	1・2・3・4後	1			○							兼1
		韓国語 I	1・2・3・4前	1			○							兼1
		韓国語 II	1・2・3・4後	1			○							兼1
		Business English Communication	1・2・3・4前	2			○							兼1
		アカデミックライティング	1・2・3・4前	2		○								兼1
		テクニカルライティング	1・2・3・4前	2		○								兼1
		IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking	1・2・3・4前	2			○							兼1
		IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking	1・2・3・4前・後	2			○							兼1
		IELTS for Study Abroad I Reading/Writing	1・2・3・4後	2			○							兼1
		IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	1・2・3・4前・後	2			○							兼3
		Pre-Study Abroad:Listening/Speaking	1・2・3・4前・後	1			○							兼2
		Pre-Study Abroad:Writing	1・2・3・4前・後	1			○							兼1
		小計（31科目）		8	30	0	—		0	0	0	0	0	兼36
	国際人の形成 語学（留学生対象科目、交換留学生のための初修日本語・日本文化科目）	日本語 I	1・2・3・4前	1			○							兼1
		日本語 II	1・2・3・4後	1			○							兼1
		日本事情 I	1・2・3・4前	2		○								兼1
		日本事情 II	1・2・3・4後	2		○								兼1
		Integrated Japanese I Theory	1・2・3・4前・後	2			○							兼2
		Integrated Japanese I Practice	1・2・3・4前・後	2			○							兼1
		Integrated Japanese II Theory	1・2・3・4前・後	2			○							兼1
		Integrated Japanese II Practice	1・2・3・4前・後	2			○							兼3
		Integrated Japanese III Theory	1・2・3・4前・後	2			○							兼2
		Integrated Japanese III Practice	1・2・3・4前・後	2			○							兼1
		Japanese Reading I	1・2・3・4前・後	1			○							兼2
		Japanese Reading II	1・2・3・4前・後	1			○							兼2
		Japanese Reading III	1・2・3・4前・後	1			○							兼1
		Japanese Listening I	1・2・3・4前・後	1			○							兼2
		Japanese Listening II	1・2・3・4前・後	1			○							兼1
		Japanese Listening III	1・2・3・4前・後	1			○							兼1
		Japanese Writing I	1・2・3・4前・後	1			○							兼1
		Japanese Writing II	1・2・3・4前・後	1			○							兼1
		Japanese Writing III	1・2・3・4前・後	1			○							兼1
		Project Work I	1・2・3・4前・後	1			○							兼1
		Project Work II	1・2・3・4後	1			○							兼1
		Project Work III	1・2・3・4前・後	1			○							兼2
		Japanese Culture and Society A	1・2・3・4後	2		○								兼1
		Japanese Culture and Society B	1・2・3・4前	2		○								兼1
		Introduction to Japanology A	1・2・3・4後	2		○								兼1
		Introduction to Japanology B	1・2・3・4前	2		○								兼1
		小計（26科目）	—	6	32	0	—		0	0	0	0	0	兼10
	キャリア・市民形成	キャリアデザイン入門	1前	2		○								兼1
		コミュニケーション&マナー	1後	2		○								兼1
		キャリアデザイン実践	2後	2		○								兼1
		キャリアデベロップメント	3・4後	2		○								兼1
		インターンシップ入門	3・4前	2		○								兼1
		アントレプレナーシップ	3・4後	2		○								兼1
		口頭表現法	1・2・3・4前	2		○								兼1
		プレゼンテーション技法	1・2・3・4前	2		○								兼1
		文章読解	1・2・3・4後	2		○								兼1
		レポート・論文のまとめ方	1・2・3・4後	2		○								兼1
		小計（10科目）	—	0	20	0	—		0	0	0	0	0	兼5
	市民形成	日本国憲法	1・2・3・4後	2		○								兼1
		グローバル市民論	1・2・3・4前	2		○								兼1
		環境政策論	1・2・3・4後	2		○								兼1
		情報化社会と人間	1・2・3・4前	2		○								兼1

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(健康スポーツ科学部栄養科学科)																	
科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤教育科目	キャリア・市民形成	市民形成	ダイバーシティ論	1・2・3・4後		2		○								兼1	
			障害学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
			ジェンダー論	1・2・3・4前		2		○								兼1	
			社会貢献活動入門	1・2・3・4後		2		○								兼1	
			地域マネジメント	1・2・3・4後		2		○								兼1	
			公務員論	1・2・3・4前・後		2		○								兼1	
			食と健康	1・2・3・4後		2		○				1					
			基礎会計学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		小計 (12科目)		—	0	24	0	—			0	0	1	0	0	兼10	
		情報	情報リテラシーⅠ	1・2・3・4前	2				○								兼5
	情報リテラシーⅡ		1・2・3・4後	2				○								兼4	
	プログラミング基礎Ⅰ		1・2・3・4前		2			○								兼1	
	プログラミング基礎Ⅱ		1・2・3・4後		2			○								兼1	
	小計 (4科目)		—	4	4	0	—			0	0	0	0	0	兼9		
	健康・スポーツ科学	スポーツ健康科学実技Ⅰ	1・2・3・4前		1					○						兼3	
		スポーツ健康科学実技Ⅱ	1・2・3・4後		1					○						兼3	
		スポーツ健康科学実技Ⅲ	1・2・3・4前		1					○						兼3	
		スポーツ健康科学実技Ⅳ	1・2・3・4後		1					○						兼3	
		スポーツ健康科学講義Ⅰ	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		スポーツ健康科学講義Ⅱ	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		小計 (6科目)		—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	兼7	
	総合・学際	全学総合A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		全学総合B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		全学総合C	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		全学総合D	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		全学総合E	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		全学総合F	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		全学総合G	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		全学総合H	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		全学総合I	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		全学総合J	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		全学総合K	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		全学総合L	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		全学総合M	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		総合A	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		総合B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		総合C	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		総合D	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		総合E	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		総合F	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		小計 (19科目)		—	0	38	0	—			0	0	0	0	0	兼12	
	専門教育科目	学部共通科目	健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	1前	2				○		5	3	2				
健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ			1後	2				○		5	3	2					
健康スポーツキャリアデザインA			1前	2			○									兼1	
健康スポーツキャリアデザインB			1後	2			○									兼1	
健康スポーツ科学プロジェクト演習A			2前	2				○		5	3	2					
健康スポーツ科学プロジェクト演習B			2後	2				○		5	3	2					
健康スポーツ科学演習Ⅰ			3前	2				○		5	3	2					
健康スポーツ科学演習Ⅱ			3後	2				○		5	3	2					
健康スポーツ科学演習Ⅲ			4前	2				○		5	3	2					
健康スポーツ科学演習Ⅳ			4後	2				○		5	3	2					
卒業研究・論文Ⅰ			4前	2				○		5	3	2					
卒業研究・論文Ⅱ			4後	2				○		5	3	2					
小計 (12科目)			—	24	0	0	—			5	3	2	0	0	兼1		
学科専門科目		必修科目	基礎化学Ⅰ	1前	2			○				1					
			基礎栄養学	1前	2			○				1					
			公衆衛生学	1前	2			○			1						
			細胞生物学	1後	2			○			1						
			生理学	1後	2			○						1			
			疫学	1後	2			○									
			基礎栄養学実験	1後	1					○		1					
免疫生化学	2前	2			○			1									

教 育 課 程 等 の 概 要														
（健康スポーツ科学部栄養科学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 教 育 科 目	必 修 科 目	運動生理学	2前	2		○			1					共同
		細胞生物学実験	2前	1				○	2					
		栄養疫学	2後	2		○				1				共同
		運動生理学実験	2後	1				○	1		1			
		スポーツ栄養学実習	3前	1				○	1		1			共同
		メディカルライティング	3後	2		○								
	小計（14科目）		—	24	0	0	—	—	4	3	1	1	0	兼1
	選 択 必 修 科 目	スポーツ栄養学	1後	2		○			1					共同
		食品学	1前	2		○						1		
		食品学実験Ⅰ	1後	1				○	1			1		共同
		基礎化学Ⅱ	1後	2		○				1				
		調理学実習	1前	1				○						兼1
		食品微生物学	1後	2		○								
		公衆栄養学	2前	2		○								兼1
		栄養教育論	2前	2		○								
		栄養と心理	2後	2		○						1		兼1
		栄養生化学	2前	2		○					1			
		栄養生化学実習	2後	1				○			1			共同
		体力測定評価法	2後	2		○			1					
		食品学実験Ⅱ	2前	1				○			1	1		共同
		動物学	2後	2		○					1			
		無機化学	2前	2		○				1				兼1
		ライフステージ栄養学	2後	2		○						1		
		機能解剖学	2後	2		○			1					兼1
		有機化学Ⅰ	2後	2		○				1				
		予防医学概論	2後	2		○			1					兼1
		食品衛生学	2前	2		○								
		栄養マネジメント（運営理論）	2前	2		○						1		共同
		栄養マネジメント（実践）	2後	1				○				1		
		大量調理とHACCP（理論）	2前	2		○								共同
		大量調理とHACCP（実践）	2後	1				○						
		栄養疫学実習Ⅰ（観察疫学）	3前	1				○		1		1		共同
		栄養疫学実習Ⅱ（実験疫学）	3後	1				○		1		1		
		スポーツ栄養マネジメント（運営理論）	3前	2		○								兼1
		スポーツ栄養マネジメント（実践）	3後	1				○			1			
		健康づくりと運動プログラム	3前	2		○			1					兼1
		応急手当法	3後	2			○		1					
		食理学Ⅰ	3前	2		○			1					兼1
		食理学Ⅱ	3後	2		○			1					
		機器分析	2後	2		○				1				兼1
		有機化学Ⅱ	3前	2		○				1				
		臨床栄養学	3前	2		○								共同
		ライフステージ栄養学実習	3前	1				○		1				
		臨床栄養学実習	3後	1				○				1		共同
		解剖生理学実験	3前	1				○	2					
		校外実習	3後	1				○	2	2	1			兼1
		医療保険	4後	2		○								
	小計（40科目）		—	0	67	0	—	—	4	2	1	3	0	兼8
	選 択 科 目	情報処理数学Ⅰ	1前	2		○								兼1
		情報処理数学Ⅱ	1後	2		○								
		健康づくり運動の実際（ウォーキング）	1前	1			○		1					兼1
		健康づくり運動の実際（エアロビクス）	1後	1			○		1					
		実践食文化（3大宗教と食文化）	1前	2		○								兼1
		プログラミング言語Ⅰ	2前	2		○								
		プログラミング言語Ⅱ	2後	2		○								兼1
		健康づくり運動の実際（水泳・水中運動）	2前	1			○							
		健康づくり運動の実際（レジスタンストレーニング）	2後	1			○		1					兼1
		スポーツ心理学	2前	2		○								
		マーケティング学	2前	2		○								兼1
		意思決定理論	2後	2		○								
		食品パッケージ論	2後	2		○								兼1
		データサイエンスⅠ	3前	2		○				1				

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(健康スポーツ科学部栄養科学科)																	
科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 教 育 科 目	学 科 専 門 科 目	選 択 科 目	データサイエンスⅡ	3後		2			○			1					兼1 兼1 兼1
			認知科学	3前		2			○								
			行動経済学	3後		2			○								
			マスコミ概論	3前		2			○								
			起業基礎（ビジネスマナー含む）	3後		2			○			1					兼1 兼1 兼1 兼1
			ソムリエ概論	3前		2			○								
			国際栄養科学交流	3後		2				○		1					
			機械学習Ⅰ	4前		2			○								
			機械学習Ⅱ	4後		2			○								
			持続可能社会と食環境づくり	4前		2			○								
小計（24科目）				—	0	44	0	—			3	1	0	0	0	兼125	
合計（243科目）				—	66	349	0	—			5	3	2	3	0	兼125	
学位又は称号			学士（栄養科学）			学位又は学科の分野			理学関係、家政関係、保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)								
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法									授 業 期 間 等								
1) 卒業要件となる科目で124単位以上を修得すること。 2) 基盤教育科目で、哲学・思想科目2単位以上、学問の基礎2単位以上、国際人の形成の語学の外国語科目必修8単位、キャリア・市民形成のキャリア科目2単位以上、市民形成科目2単位以上、情報科目4単位以上の合計8単位以上、総合・学際科目2単位以上を含み、22単位以上を修得すること。また、外国人留学生入試入学者は、上記の他に、国際人の形成の語学の留学生対象科目必修6単位を修得すること。 3) 専門教育科目で、学部共通科目から必修科目24単位、学科専門科目を32単位以上（うち必修科目24単位、選択必修科目8単位以上）を含み、90単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：半期24単位（年間48単位））									1 学年の学期区分				2期				
									1 学期の授業期間				15週				
									1 時限の授業時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	哲学・思想	哲学	普段当たり前と見過ごしていることを問い直す、これが哲学の出発点である。映像作品の一場面から「問い」を設定し、その「問い」に対する自分の考えをまとめあげることで、問いかけを深め、考え方の幅を広げる。また、哲学という営みの背後にある人間の文化を理解し、それを探求していく。これらを通して、柔軟な感性と思考力を開拓し、様々な学問的アプローチの可能性を見いだすための手がかりに繋げる。	
基盤教育	哲学・思想	生命と倫理	現代社会における生命をめぐる諸問題に目を向け、どこが問題なのか、当事者や医療従事者の立場、価値観等を整理し、様々な視点、論点の理解を目指す。倫理問題を考える上での基本的なルールについて触れた後、生命にまつわる具体的な事例を紹介していく。自分と身近な人々、社会と自然との関わりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えるとともに、その過程において倫理とは何か、生命と倫理のあり方について検討する。	
基盤教育	哲学・思想	宗教学	キリスト教を一つの素材として取り上げ、宗教が人々の心にどのように向き合ってきたかを辿る。ひとつの宗教が生と死、善と悪、神の存在と不在についてどのような思想を展開したかを辿り、自分自身がどのように考えるかの視点を見つけ、自らの言葉で表現できるようになることを目指す。宗教という営みの背後にある人間の文化を理解し、現実社会における宗教のありよう、それを探求する様々な学問的アプローチの可能性を見いだす手がかりが得られるようになることを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	日本文学	宮沢賢治の代表作を読み解くことで、作者の考え方や人々の生活や生き方、時代や風土についても学び、「自分らしく生きる」ことや「本当の幸せとは何か」について考える。そして、大学生として相応しい思考力、豊かな感性を養い、人々の豊かな生活を支援できる人材となるための基盤を身につける。また、「読む・書く・話す」力、語彙力、豊かな表現力の習得も目指す。	
基盤教育	学問の基礎	外国文学	世界各地の小説や詩、演劇、評論等の文学作品について、文化や歴史といった側面から鑑賞・分析することを目的とする。様々な時代背景とテーマを持つ文学作品の中にあらわれている、人間や社会状況、地域性や価値観等を注意深く観察することで、国内外の社会における課題等への意識を高める。作品の内容や作家について理解を深めることで、自分自身の文化に対する考えについても、意見を整理して表現することができるよう意識を高める。	
基盤教育	学問の基礎	歴史学	グローバル化が進んだ現代は言うまでもなく、古くは石器時代、縄文・弥生の時代から日本は海の向こうの外国と交流を持ち続けている。江戸時代の鎖国の時期であっても、外国との交流が途絶えたことはない。日本の近世・近代史を中心に学ぶ一方で、日本に少なからず影響を与えた外国の歴史も積極的に取り上げながら、日本が世界とどのように関係し、発展してきたかを学ぶ。あわせて、世界と日本の歴史的背景の違いや特質を理解し、世界からみた日本がどのような存在であるかを客観的に捉えることも目的とする。	
基盤教育	学問の基礎	美術一般	ヨーロッパ近代美術の流れを辿り、新しい美の可能性を追求した人々の活動に触れる。美術は色や形という感覚的な素材によって成り立っており、素材の組み立てそのものには構造があり、論理がある。思想があり、物語がある。そこには作家の人生観や自然観や世界観までも表出されている。近代美術に様々な足跡を残した人々の作品をスライドで鑑賞し、色や形が語る言葉を読み解くことから始め、美術表現の可能性を無限大に感じとることを目標とする。	
基盤教育	学問の基礎	音楽一般	ヨーロッパにおける音楽の豊かな流れの源には、様々な楽器を基にした各地の民族音楽があり、一方には、地域の違いを越えてキリスト教の信仰に仕えてきた教会音楽とがある。これらの伝統に培われて古典（クラシック）音楽が花開き、大衆（ポピュラー）音楽が歌い継がれ引き継がれてきた。ヨーロッパやアメリカの様々な音楽を聞き、それを生み出した人々と、それを取り巻く風景や街並み等をスライドやDVDで訪ね、音楽表現の可能性を無限大に感じるとともに、音楽という営みの背後にある人間文化の理解も目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
基盤教育	学問の基礎	人文科学	文化人類学は、様々な民族や文化圏の生活様式を対象に未開と文明を比較し、人類の文化の共通性、異質性、多様性を知る学問であり、私達が日常「当たり前」としているものに、新たな見方をもたらしてくれるものである。文化人類学の初学者のための学びと位置づけ、私達のものの見方を刷新した人類学者の経歴等からそれらを知ることを通して、その考えが生まれた背景を知り、その意義を考えることを目的とする。自らの見方を広げていけるようになることを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	経済学は、日々の生活において様々な資源の制約における人間行動を分析する研究分野であり、個人の生活レベルから一国全体、更には国際経済に至るまで、様々なレベルで相互に影響を与えつつ営まれる。経済学の基本的な考え方、経済モデル、金融市場等、基礎的なマクロ経済理論を学ぶことによって、経済の仕組みや制度を理解し、現代の市場社会が抱える課題を考えるための手がかりや複雑な経済を自分で考える見取り図を得ることを目指す。その際、日本経済に大きな影響を与える国際経済についても触れることで、日本経済が世界経済とどのように関係しているかを学ぶ。あわせて、世界と日本の経済的背景の違いや特質を理解し、世界からみた日本がどのような存在であるかを客観的に捉えることも目的とする。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	経営学の基礎的な概念や理論を理解し、現実の経済や経営に対する関心と問題意識を育てることを目的とする。多くの経営理論は、経営という現象のある断面図を示したもので、見る位置により時代の背景や理論の前提がある。それらを客観的に評価し適切に位置づけることで、よりダイナミックな経営学の構図を掴むことができるようになる。これらを念頭においた上で学びを進め、経営学の基本的用語から企業のあり方、マネジメントやマーケティングの知識と考え方を身につけるとともに、経営学を通して現代社会が直面する様々な問題を理解する知性を培うことを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	日常生活を送る上で最低限知っておくべき法学の基礎知識を習得することを目的とする。我々の生活の中で遭遇する多くの事柄は法律と密接な関係を有するものであり、法律の知識が役立つことが多いのも事実である。そこで、日常生活における様々な法律問題を焦点を当て法の仕組みを学んでいく。裁判制度や三権分立制、基本的人権、犯罪と刑罰に関する、基本的な知識を習得するとともに、民法や現代の様々な社会問題とそれに関する法、社会問題と法の関わり方についての総合的な理解を目指す。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	私達の生活・権利・生命を大きく左右し得る政治のあり方について学ぶことを目的とする。日本を軸に民主政治の基本的な仕組みを学びつつ、民主主義の課題や可能性について、様々な政策を取り上げながら理解していく。また、国際比較の観点から、国ごとに異なる国家統治の仕組みや制度についても触れ、世界からみる日本の政治や政策のあり方を理解する。これらの政治学的な視点を応用し、日本の少子高齢化問題や介護福祉問題等の目の前の問題から世界の平和を危うくする紛争・難民問題といった政治現象の背景についても視野を広げ考えることができるようになることを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	現代世界の地域的特徴を理解し、人々の生活との関係を明らかにしていくことを目的とする。日本の地理的特徴、都市構造と生活空間との関わり、地域的課題等について、具体的な事例を交えながら紹介していく。また、日本国内に留まらず海外にも目を向け、各国と日本の地理的構造の違いやそれによって生まれる影響についても学ぶ。国際的観点からみた日本の地域的特徴を理解していくことで日本への理解や関心を深めるとともに、世界各国への関心も高めることを目標とする。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	社会学的発想、現代社会で起きている事象、社会学における現代社会の捉え方の3点を軸にして、社会学に固有の発想と視点を学ぶ。社会学の視点を通すことで、眼前の様々な事象がどのように違って見え、何が浮かび上がってくるか、歴史的な文脈も踏まえつつ、幅広い具体例を取り上げ、現代社会の基礎的問題を理解し、問題について自ら考え対応していける力を養う。また、様々な文化や価値観を背景に持つ人々と相互に尊重し合い、繋がり合い、共生し得る社会を作り上げるための、柔軟・寛容かつ多元的な視野を養う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	学問の基礎	社会科学 心理学	心理学の基礎的知識を学ぶとともに、臨床心理学的視点についても詳しく学んでいく。心理学の成り立ちや歴史、パーソナリティの理解、認知メカニズム・思考過程・記憶・感情等について学んだ上で、子供・高齢者・障害者といったあらゆる対象をめぐる社会問題や障害について心理学的に理解し、その対応策の知識を習得していく。それぞれの対象と自己の理解、心理的援助技法にも重点を置きながら学びを進め、人間関係とコミュニケーションの基礎的な知識の習得を目指す。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学 統計学	統計学の基礎を学ぶことを目的とする。アンケート、体力測定、試験結果等、私達は日々いろいろなデータに囲まれて生活している。それらの集められたデータに意味を持たせることが統計学である。基礎統計量の計算、標本と母集団の関係、母平均と母比率の区間推定、検定の考え方等を学び、データをグラフにしたり、データの特徴的な値を求めたりすることで、データの性質や意味を知り、データを活用するための基礎的知識を身につける。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学 数学	高校時代までの数学を簡単に復習した上で、大学での学びに必要な数学の基礎についての学びを展開していく。具体的には、数と式、方程式、二次関数、微分・積分の考え方、統計（基礎統計量、ヒストグラム、累積度数分布表、累積度数グラフ、代表値とバラツキの指標、箱ひげ図、散布図、相関係数、回帰直線等）について学ぶ。これらを理解することで、基礎的な数学の知識を習得し、デザインやものづくりに応用できる能力の修得を目指す。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学 物理学	自然科学の中で最も基本的な力学を用いて物理的な手法を理解し、具体的に計算できるようになることを目的とする。物理量と単位の基本から、直線・放物・円運動、運動の法則と力の法則、力と運動（摩擦、抵抗）、仕事とエネルギー（仕事、エネルギー保存則）、単振動、質点系の重心、運動量と角運動量、質点の角運動量と回転運動の法則、剛体の力学等を取り上げる。現実の現象を数学を用いてモデル化する方法を会得し、活用できるようになることを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学 現代化学	化学の進歩により高度な化学素材が開発され、それらが種々の製品に応用され我々の日常生活で利用されている。この結果、快適な生活空間、高度な健康管理、世界的な情報ネットワーク環境等を実現している。そこで、化学物質の構成や要素からそれら物質の応用技術までを学び、日常生活に広く利用されている材料から最先端材料までの理解を目指す。まず、原子の構造と周期律等の化学の基礎を理解した上で、衣・食・住の中に化学がどのように関わっているのかを知り、成長産業であり材料開発が重要な要素である電子材料等、日常生活と深く関わっている化学物質や製品の基礎的な知識を修得する。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学 生物学	原始生命の誕生から長い進化の道のりを経て、現在の多様性にあふれた生物種へと進化しているの中で、ヒトは、様々な産業を興して地球上で最も高度に繁栄している生物種となっている。生物学の様々な分野（微生物学から分子遺伝学）についての基礎を広く学び、近年盛んに産業利用されているバイオテクノロジーの技術についても微生物から動物分野について幅広く学ぶことを通して、現代生物学の全容を理解し、今後の生物学のあり方について考察する力を身につけることを目的とする。	
基盤教育	世界の伝統と文化	国際人の形成 地域文化研究A	情報社会が成熟し、インターネット等を通じて容易に外国の情報が入手できる現代社会において、異文化への理解は以前よりも格段に進んでいる。一方で、日本人が日本の文化（自文化）を正しく理解し、外に向けて発信できているかといえ、甚だ心もとない。真のグローバル人材となるためには、まず日本の文化を正しく把握することが必要である。経済・政治のシステム、社会制度、現代文化、芸術等様々な角度から日本を知り、日本および日本人の優れた点（ジャパナビリティ）についても学修する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	世界人の伝統と文化 地域文化研究B	世界の人口の約60%、世界のGDPの約50%を占めるアジア地域は、現在、世界で最も勢いのある地域とすることができるであろう。アジア地域の幾つかの国を取り上げ、その経済・政治のシステム、社会制度、現代文化、芸術等様々な角度から文化や、その背景について学修する。その国が置かれた状況や、今後の見通しについても考えていく。その上で、世界の中での今後のアジアの位置付け、役割についても考えていく。	
基盤教育	国際人の形成	世界人の伝統と文化 地域文化研究C	イスラム教は世界の三大宗教の一つであり、その信者（ムスリム）は18億人以上と言われている。にも関わらず日本人にはなじみの薄い宗教であり、イスラム社会、イスラム文化についての理解も十分ではない。また、同じイスラムといっても原理主義の国から、現実的な路線を歩む国と様ではない。人口減少により労働力人口が不足し始めている日本に、今後、イスラム社会からの人口流入が増加していくことは間違いない。幾つかの代表的な国を取り上げ、イスラム社会、イスラム文化を正しく理解することを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	世界人の伝統と文化 地域文化研究D	キリスト教は世界の三大宗教の一つであり、その信者は約23億人と言われている。日本人にもキリスト教徒は少なくないが、日本人がキリスト教社会を正しく理解しているかと問われれば、十分ではない。また、同じキリスト教といってもカトリック、プロテスタント、ギリシャ正教、ロシア正教と多種多様であり、キリスト教は欧米だけの宗教ではない。グローバル化が進み、キリスト教社会と付き合う機会は更に増えていくであろう。幾つかの代表的な国を取り上げ、キリスト教社会、キリスト教文化を正しく理解することを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	世界人の伝統と文化 地域文化研究E	2050年には、世界のほとんどの地域で人口の減少期を迎えるといわれている中で、アフリカだけは21世紀後半まで人口が増加すると予想されている。長期的に見て最も成長が期待される地域がアフリカであろう。そこに着目した中国は、技術供与、借款等を通じてアフリカへの接近を積極的に進めている。一方、一般的な日本人にとってアフリカは決して近い国ではない。幾つかの代表的な国を取り上げ、かつての宗主国との関係、民族構成とそれに伴う課題、産業化・近代化の動き等から、現代のアフリカの文化について学修する。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 英語および英語圏社会事情	英語圏に関する理解を目的とし、各国の社会事情や多様な文化の側面を探索し、議論を行う。各国の類似点と相違点を詳細に調査・比較することで、それぞれの特性を理解し、グローバルな見解を深めていく。また、国際ニュースやトピックについても取り上げ、時事英語を通して英語や海外への興味・意識・理解に繋げていく。英語圏における社会的、言語的側面の詳細をより正確に理解するとともに、日本との関係の理解も目指す。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 中国語および中国語圏社会事情	中国の人々の日常の暮らしのあり方と、そこに表れたライフスタイルや価値観・行動様式は、数千年にわたる連続的な文明の生成・変容と、多様性に富んだ風土・民族・文化の複合・交錯、更には激動の近現代史の流れにより、複雑に形作られてきた。まずは「中国」という地域世界の歴史的な成り立ちと、そこに内包された地理的・文化的・文明的な多様性と複合性、そして、その多様かつ複合的な地域世界を一つにまとめあげてきた「伝統」の諸側面について、基本的な知識を身につける。そして、中国の社会と文化、日本との関係についても理解を深め、歴史から現代を多面的に考えるための視点を養う。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 フランス語およびフランス語圏社会事情	フランス語圏に関する理解を目的とする。フランス文化の様々な魅力を探りつつ、フランス人の考え方や感じ方、社会事情にも触れていく。画像PDFを用いてフランス文化の様々な姿に触れつつ、相対的な目でフランス文化を捉えていく。他国の文化との比較を通じてひとつの国の文化を学ぶ意義を見つけられるようにする。更にグローバル化に向かう現代社会の動向について考える姿勢とグローバルな視野の獲得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 ドイツ語およびドイツ語圏社会事情	多様な文化が共存するヨーロッパの中でも中心的な文化圏のひとつが、ドイツ、オーストリア、スイスをはじめとするドイツ語文化圏である。そこで暮らしている人々の言語と社会、文化、風土等について学び、コミュニケーションの土台となる知識と、初歩のドイツ語会話を身につけることを目的とする。基本的なドイツ語の理解と、ドイツ語圏の社会や文化についての知識を深め、日本との違いを考えられるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 韓国語および韓国語圏社会事情	韓国や北朝鮮の言葉である韓国語と、現代韓国における社会や文化の事情について幅広く学ぶことを目的とする。韓国文化と不可分の言語を知ること、韓国の生活習慣や信仰、社会を知り、世界観を的確に理解する上で有用である。ハングル文字の基礎的な語学スキルを獲得した上で、韓国の社会事情や現代文化、歴史等についてを学ぶ。韓国人や韓国の小説、映画等に触れた際に、そこに映る韓国人の世界をより深いレベルで理解し、説明できるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 留学のすすめ	グローバル化の進展の中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。そこで、大学生がどのように国際的なキャリア形成を目指すべきかを学ぶことを目的とする。様々な業種、職種において傑出したプロフェッショナル、企業で先端的な人材発掘をしている専門家等を招聘し、国際水準のキャリア形成、実社会におけるキャリア開発について実例をもとに紹介する。国際的な企業・組織における人材の動向、キャリア形成に求められる知識・経験・語学力について世界的な傾向を概観するとともに、留学（特に大学院留学）がキャリア形成に果たす役割についても学ぶ。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 異文化理解概論	グローバル社会における異文化理解や異文化間コミュニケーションを目的とする。多文化社会に関連するトピックを調べ、様々な文化的背景や理解を持つ学生と交流することにより、グローバル社会でのコミュニケーションに役立つ基本的な概念やフレームワークを理解する。ケーススタディやディスカッションを通じて実践的な知識、スキル、視点の習得を目指す。日本文化と他文化の行動や価値観との違いを理解し、有用な異文化間コミュニケーション技術の習得と異文化環境での能力向上に繋げる。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 海外研修Ⅰ	学生が主体的に参加する海外研修の事後学修として実施する。対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計90時間以上（原則として2週間以上）実施する研修である。海外研修に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 海外研修Ⅱ	「海外研修Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計90時間以上（原則として2週間以上）実施する研修である。2回の海外研修を通じて、1回目と2回目における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 海外実習Ⅰ	学生が主体的に参加する海外実習の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計60時間以上（原則として2週間以上）従事するものである。海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 海外実習Ⅱ	「海外実習Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計60時間以上（原則として2週間以上）従事するものである。2回の海外実習を通じて、1回目と2回目の海外研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 短期海外研修Ⅰ	学生が主体的に参加する短期海外研修の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。短期海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 短期海外研修Ⅱ	「短期海外研修Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。2回の短期海外実習を通じて、1回目と2回目における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 短期海外研修Ⅲ	「短期海外研修Ⅱ」を受講済みの学生を対象に、学生が3回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。3回の短期海外実習を通じて、各研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。また、複数国の文化を相対的に比較することで、表層文化・深層文化を含め、多元的に文化を捉える力を習得する。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 短期海外研修Ⅳ	「短期海外研修Ⅲ」を受講済みの学生を対象に、学生が4回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。4回の短期海外実習を通じて、各研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。特に、異文化理解については、異文化への見方や理解、感受性だけでなく、実際に異文化環境下において能動的に行動ができるコンピテンスの振り返りと帰国後の学びについて考えることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 短期海外実習Ⅰ	学生が主体的に参加する短期海外実習の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。短期海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 短期海外実習Ⅱ	「短期海外実習Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。2回の短期海外実習を通じて、1回目と2回目の海外実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 短期海外実習Ⅲ	「短期海外実習Ⅱ」を受講済みの学生を対象に、学生が3回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。3回の短期海外実習を通じて、各実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。また、複数国の文化を相対的に比較することで、表層文化・深層文化を含め、多角的に文化を捉える力を習得する。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 短期海外実習Ⅳ	「短期海外実習Ⅲ」を受講済みの学生を対象に、学生が4回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。4回の短期海外実習を通じて、各実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。特に、異文化理解については、異文化への見方や理解、感受性だけでなく、実際に異文化環境下において能動的に行動ができるコンピテンスの振り返りと帰国後の学びについて考えることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 英語ⅠA	基礎的・基本的な英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。様々な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、読解力を高めるリーディングスキルを身につける。更に、リーディングの内容に関し、自分の意見を表現するためのライティングスキルを向上させる。「英語ⅠA・ⅠB」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 英語ⅠB	基礎的・基本的な英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。様々な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、読解力を高めるリーディングスキルを身につける。更に、リーディングの内容に関し、自分の意見を表現するためのパラグラフライティングやエッセイライティングのスキルを修得する。「英語ⅠA・ⅠB」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 英語ⅡA	基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを育成し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。リスニングやスピーキングのエクササイズを通して、コミュニケーションへの関心を高めるだけでなく、コミュニケーションに関わる国内外の問題に関して理解を深める。「英語ⅡA・ⅡB」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 英語ⅡB	基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを育成し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。リスニングやスピーキングのエクササイズを通して、コミュニケーションへの関心を高めるだけでなく、コミュニケーションに関わる国内外の問題に関して理解を深める。「英語ⅡA・ⅡB」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学 英語ⅢA	「英語ⅠA・ⅠB」の応用科目となり、英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。より複雑な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、分析的な読解力を身に付けるためのリーディングスキルを向上させる。更に、リーディングの内容に関し、自分の意見を表明するエッセイライティングスキルを修得する。	
基盤教育	国際人の形成	語学 英語ⅢB	「英語ⅠA・ⅠB」の応用科目となり、英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。より複雑な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、予測力を活用したリーディングスキルを向上させる。更に、自分の考えを論理的構成でまとめるためのエッセイライティングスキルを修得する。	
基盤教育	国際人の形成	語学 英語ⅣA	「英語ⅡA・ⅡB」の応用科目となり、基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを発展させ、応用可能な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。より実践的なリスニングやスピーキングのエクササイズを通して、ディスカッションやプレゼンテーションのスキルを高めるだけでなく、リスニングの内容を論理的に分析・理解する能力を向上させる。	
基盤教育	国際人の形成	語学 英語ⅣB	「英語ⅡA・ⅡB」の応用科目となり、基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを発展させ、応用可能な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。より実践的なリスニングエクササイズを通して、より高度なリスニングスキルの向上を目指すだけでなく、目的別ディスカッション・プレゼンテーションのスキルを高める。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Intercultural Communication Skills I A	異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語と文化の密接な関係から自分自身の文化的特徴について意識を高め、他の文化に対する理解を深めることで、国際社会への理解と視野を広める。「Intercultural Communication Skills I A・I B」を配置し、1年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Intercultural Communication Skills I B	異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語と文化の密接な関係から自分自身の文化的特徴について意識を高め、他の文化に対する理解を深めることで、国際社会への理解と視野を広める。「Intercultural Communication Skills I A・I B」を配置し、1年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Intercultural Communication Skills II A	国際社会への理解を深め、多文化共生社会での異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。国際社会が抱える課題について、ディスカッション・プレゼンテーション・リサーチプロジェクト等のアクティビティを通して、理解を深める。「Intercultural Communication Skills II A・II B」を配置し、1年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Intercultural Communication Skills II B	国際社会への理解を深め、多文化共生社会での異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。国際社会が抱える課題について、ディスカッション・プレゼンテーション・リサーチプロジェクト等のアクティビティを通して、理解を深める。「Intercultural Communication Skills II A・II B」を配置し、1年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 English Test Preparation I	英語習熟度テストのためのスキルの育成を目指す。リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングのスキルを向上させ、テストに有効な文法項目の復習や受験に必要なストラテジーを身に付ける。「English Test Preparation I・II」を配置し、1年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 English Test Preparation II	英語習熟度テストのためのスキルの育成を目指す。リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングのスキルを向上させ、テストに有効な文法項目の復習や受験に必要なストラテジーを身に付ける。「English Test Preparation I・II」を配置し、1年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学 中国語Ⅰ	日本人にとって中国語は、他の外国語にはない特殊性を持っている。歴史を踏まえて、まずは中国語を外国語として学ぶことを徹底し、中国文化を異文化として深く理解するための基礎を作る。中国語の発音表記のためのローマ字表記「ピンイン」と発音、意味の識別に重要な4つの声調の区別を身につけ、中国語の聴く力、話す力を身につけるための基礎を養う。その上で、最も基本的な構文と文法事項、そして「実際に使える」初歩的な表現・フレーズの習得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 中国語Ⅱ	「中国語Ⅰ」で学んだことを復習し、基礎を固める。その上で、少し複雑な表現を習得し、中国語を母語とする相手と一定のコミュニケーションが取れるようになることを目指す。できるだけ正しい「通じる」発音ができるようになること、初歩的な構文をマスターし、中国語を母語とする相手と、最も初歩的な日常会話レベルのコミュニケーションが取れるようになること、会話力だけではなく、中国語の「注意書き」やツイート程度の短い平易な文章を、辞書を引ながら読み取る能力を身につけることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学 フランス語Ⅰ	フランス人と簡単な会話ができ、同世代のフランスの学生達が興味を持っていることに共感できるような会話力を修得するとともに、フランス文化の理解を目指す。毎回テーマを設定し応用文をフランス語で書くとともに、それを正しく発音できるようにする。更にロールプレイも実施する。基礎の文法や単語、自己紹介で用いる表現等を学び、フランス語で伝えられるようになるとともに、フランスへの観光等の際に困らないよう実践できる会話力を身につけることを目標にする。	
基盤教育	国際人の形成	語学 フランス語Ⅱ	「フランス語Ⅰ」を基礎として、会話力を修得するとともに、フランス文化の理解を深めることを目的とする。フランス語Ⅰの学習を復習しつつ、身近に使う基礎単語から日常会話で使う言い回しについて取り上げ、日常生活において必須とされる文法や単語を学んでいく。フランス語で伝えられるようになるとともに、フランスへの観光等の際に困らないよう実践できる会話力を身につけることを目標にする。	
基盤教育	国際人の形成	語学 ドイツ語Ⅰ	ヨーロッパで最も重要な言語のひとつである、ドイツ語の基礎を学ぶ。現在形の簡単なドイツ語文の読み書き、自分の希望や予定等を伝えるための簡単なドイツ語の発音、自分や第三者を説明・紹介するための会話やメール、交通機関や施設のドイツ語表示等、基本的な単語の使い方や文の仕組みを学ぶことで、自分の身の回りのことをドイツ語で表現でき、簡単な内容の文が読みこなせるようになることを目標とする。物の考え方の根底にある言語を学ぶことによって、新たな世界の理解にも繋げる。	
基盤教育	国際人の形成	語学 ドイツ語Ⅱ	「ドイツ語Ⅰ」を基礎として、ドイツ語の学びを深める。自分の趣味や能力を表現するための簡単なドイツ語表現、自分の希望や予定等を伝えるための助動詞を用いたドイツ語表現、ドイツ語特有の梓構造で書かれた文章の正しい理解、ドイツ語を使った簡単な買い物や注文をするためのドイツ語表現等、基本的な単語の使い方や文の仕組みを学ぶことにより、自分の身の回りのことをドイツ語で表現でき、辞書を使ってやさしい文が読みこなせるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学 韓国語Ⅰ	韓国語の初学者を対象とし、基礎的な文法を学び、簡単な日常会話程度をできるようにする。最初の5回にわたってハングルの文字の成り立ちや発音、基礎的な発音変化を学ぶ。その後、文法の基礎を習得し、実際のコミュニケーション場面で、学生が必要とする語彙を増やしつつ、基本となる動詞の活用を学ぶ。あわせて、言語と深く関連する韓国の文化や社会事情を解説し、言葉だけでなく韓国に対する理解を深めることも目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学 韓国語Ⅱ	「韓国語Ⅰ」を基礎として、韓国語の基本的な文法を更に詳細に解説し、高度な応用韓国語を学ぶことで、単語力、会話力の確実な増強を図る。新聞や雑誌等の簡単な文章が理解できる程度の読解力、韓国語のドラマや映画等が字幕が無くともある程度理解できるリスニング力の習得を目指す。韓国人とコミュニケーションをとる上で、言語力の不足を補うための社会文化に関する全般的な知識も適宜説明していく。実際に韓国人との円滑なコミュニケーションが取れるよう実践力を身につけることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Business English Communication	コミュニケーションや文化を基礎としながら、ビジネスシーンにおける会話や対応、ビジネスライティング、プレゼンテーションスキル等の効果的なビジネスコミュニケーション能力を高めていく。交渉や社交術、会議体への参画や議事の進行等のビジネススキルを身につけさせることも目的としている。	
基盤教育	国際人の形成	語学 アカデミックライティング	人文社会科学系の学術的文章を書く技術を学ぶ。卒業論文、修士論文、博士論文等を代表とする大学・大学院で課される学術的な文章は、一定のアカデミックライティングのルールや形式に沿って書くことが求められる。研究論文とレポートとの違い、論理的な説明、根拠となる情報の開示、引用の倫理、文章の構成、学術的文章の作成等、基本的な書き方ならびに文献調査方法を指導する。また、書く訓練を通して、論理的な論文作成能力を養うことを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学 テクニカルライティング	文章による情報伝達は非常に重要であり、そのために正確かつ効果的に伝達するための文書作成技法を学ぶ。分かりやすい文章で、読み手が必要としている情報を目的に応じて正しく簡潔に伝える文章表現、構成を身につける。具体的には、レポート、報告書、ビジネスレター、マニュアル、提案書等を題材に、図表の活用を踏まえながら文章の完成度を高めるための実用的な書き方を指導する。また、卒業後の就業や社会人として必要なライティングスキルも考慮して教授する。	
基盤教育	国際人の形成	語学 IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking	学生がIELTSでハイスコアを取得するために必要なスキルに焦点を当て、リスニング、スピーキング、および思考スキルを向上させることを目的とする。IELTSのリスニング・スピーキング演習、語彙構築、グループディスカッション等を行い、語彙の基礎や習得スキル、効果的なメモスキル、高度なトピックへのディスカッションスキルを向上させる。また、教室内に留まらず、教室外での語学学習能力を高めるための自発性も養う。	
基盤教育	国際人の形成	語学 IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking	「IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking」の学びを基礎として、IELTS、語彙の知識、リスニング・スピーキングスキルに対する更なるパフォーマンス向上を目指す。様々なサンプルを取り上げ、学びを深めていき、会話の開始や終了、話者の入れ替え、意見の表明、賛成、反対、推論による感情の識別等を考慮した、より良い会話を展開するためのスキルの修得を目指す。また、教室内に留まらず、教室外での語学学習能力を高めるための自発性も養う。	
基盤教育	国際人の形成	語学 IELTS for Study Abroad I Reading/Writing	学生がIELTSでハイスコアを取得するために必要なスキルに焦点を当て、リーディング、ライティング、および思考スキルを向上させることを目的とする。IELTSの読み書き演習、記事の読み書き、語彙構築、グループディスカッション等を行う。理解力とスピードを向上させるための読解戦略（プレビュー、予測、スキミング、スキャン等）を取り入れ、語彙知識や語彙習得スキル、課題を的確に捉え回答する力、読解力、ディスカッション力を養う。	
基盤教育	国際人の形成	語学 IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	「IELTS for Study Abroad I Reading/Writing」の学びを基礎として、リーディング、ライティング、および思考スキルを向上させること、IELTS、アカデミックリーディングスキル、および語彙知識に対する習熟度とパフォーマンスを向上させることを目的とする。IELTSの読み書き演習、学術記事の読み書き、語彙構築、短文作文等を行い、学びを深め、語彙知識や語彙習得スキル、課題を的確に捉え回答する力、読解力、ディスカッション力の更なる向上を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学 Pre-Study Abroad:Listening/Speaking	留学支援のための英語特別教育科目となり、留学プログラムの学術的課題に対応できるリスニング・スピーキング力を身につけることを目的とする。グループでのプレゼンテーションやパネルディスカッションの準備、提供、批評を行う。研究に関する質問の仕方や情報源を見つけ評価する方法、学術的内容の口頭要約、グループディスカッションやパネルディスカッションを企画・主導する力を身につける。これらを通して、高度なディスカッションスキルやアクティブなリスニングスキルを向上させ、自分の研究についてのディスカッションや発表を通し、海外留学に向けた準備に繋げていく。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Pre-Study Abroad:Writing	留学支援のための英語特別教育科目となり、留学プログラムの学術的課題に対応できるライティング力を身につけることを目的とする。基礎的なライティングからアカデミックなライティングまで、また、エッセイ、レポート、レビュー、考察等、様々なジャンル・スタイルのライティングを練習し、プランニング、構成、ドラフト執筆、推敲、出版等ライティングプロセスを通して学んでいく。各アカデミックライティングスタイルを理解し、対応できる能力を身につけ、海外留学に向けた準備に繋げていく。	
基盤教育	国際人の形成	語学 日本語Ⅰ	外国人留学生のみを対象とした科目であり、大学生活や社会生活において必要とされる論理的な日本語の運用能力を身につけることを目的とする。コミュニケーションスキル、コースワークに必要なスキル（読み物の理解、レポートの作成等）についてを学ぶ。中級レベルの文法、表現、語彙を理解し、ある程度の長さの日本語の文章を読み、考えを口頭で表現できるようになること、論理的で客観的な文章が書けるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学 日本語Ⅱ	「日本語Ⅰ」を修得した学生または同程度の日本語レベルの外国人留学生のみを対象に、「読む・聞く・書く・話す」の4技能を総合的に学び、総合的な日本語運用能力を向上させることを目的とする。言語・文化・社会に関する、高度なトピックに関するリーディングやリスニング議論、発表、作文等を通して、学問上や職業上の目的で日本語を適切に運用することができる日本語力の習得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 日本事情Ⅰ	外国人留学生のみを対象とした科目であり、日本を理解するために必要な、かつ、基礎的な知識を身につけることを目的とする。現在の日本の生活様式について、留学生の母国の生活様式と比較しながら、理解を深めていく。住宅、衣服、食事等、日本での生活や身近な話題をテーマに取り上げ、日常的なことから考察を深め比較しディスカッションしていく。また、プレゼンテーションの機会を多く設定することで理解を深める。「日本事情Ⅰ・Ⅱ」を通して、日常的なテーマから日本特有の文化まで様々なテーマから日本をより深く理解していく。	
基盤教育	国際人の形成	語学 日本事情Ⅱ	外国人留学生のみを対象とした科目であり、「日本事情Ⅰ」で学んだ日常的なテーマに続き、日本の行事、日本人の自然との関わり等について、現在のみならず過去にも目を向け、変化する日本、変化しない日本という視点から、理解を深めていく。結婚式、祭、災害等、留学生の母国にもある事柄をテーマに取り上げ、考察を深め比較しディスカッションやプレゼンテーションを行い、理解を深める。「日本事情Ⅰ・Ⅱ」を通して、日常的なテーマから日本特有の文化まで様々なテーマから日本をより深く理解していく。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Integrated Japanese I Theory	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、日本語学習歴のない学習者あるいは多少の学習歴を持つ学習者を主な対象とし、語彙と文法の構造に関する知識を習得する。これから日本で学んでいく上での日本語コミュニケーション能力を身につけることを目的としている。そのため、授業ではペア・ワークやグループ・ワークを中心に大学生活に必要な基本的な文法や語彙等を学習し、身近な出来事について表現し、簡単なメッセージを読んだり書いたりできるような活動を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学 Integrated Japanese I Practice	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、日本語学習歴のない学習者あるいは多少の学習歴を持つ学習者を主な対象とし、初級日本語を使ったコミュニケーション活動を身につける。リスニングとスピーキングのタスクに焦点を当てた、初級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。会話の練習を中心としたアクティビティを通して、初級レベルで日本語の語彙と文法構造を理解する。大学生活や日常生活を送る上での不便をより多く解消していけるようになり、意思疎通がよりスムーズに運べるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Integrated Japanese II Theory	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初級レベルの学生を対象とし、語彙と文法の構造に関する中級前の知識を習得する。コミュニケーション能力を伸ばし、初中級レベルの日本語能力を身につけ、読み書きのタスクに焦点を当てることを目標とする。文法の練習、短い文章の読み方、短いエッセイの書き方等、様々な活動への参加を通して、初中級レベルで日本語の語彙と構造を理解し、日本に住んでいる間に起こりそうな様々な状況に対処する力を身につける。また、抽象的で複雑なトピックについて短いエッセイを書けるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Integrated Japanese II Practice	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初級レベルの学生を対象とし、コミュニケーション活動に基づいて、初中級日本語を使うスキルを身につける。コミュニケーション能力を伸ばすとともに、リスニングとスピーキングのタスクに焦点を当てた、初中級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。会話の練習や特定のトピックに関するスピーキングタスク等の様々なアクティビティへの参加を通して、初中級レベルで日本語の語彙と文法構造を理解し、日本に住んでいる間に起こりそうな様々な状況に対処する力を身につける。また、抽象的で複雑なトピックに関する関連テキストを作成できるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Integrated Japanese III Theory	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初中級レベルの学生を対象に、文法や文型に関する中級言語の知識を身につける。コミュニケーション能力を伸ばし、読み書きのタスクに焦点を当てた、中級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。文法の練習、文章の読み方、短いエッセイの書き方等、様々な活動への参加を通して、中級レベルの日本語の語彙と文法構造を理解し、広い主題について明確で詳細なテキストを作成できるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Integrated Japanese III Practice	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初中級レベルの学生を対象とし、コミュニケーション活動に基づいて中級日本語を使うスキルを身につける。コミュニケーション能力を伸ばし、リスニングとスピーキングのタスクに焦点を当てた、中級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。会話の練習や特定のトピックに関するスピーキングタスク等の様々なアクティビティへの参加を通して、専門分野での技術的な議論を含め、具体的なトピックと抽象的なトピックの両方に関する複雑なテキストを理解するとともに、様々な状況に対処し、トピックに関する見解を説明できるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Japanese Reading I	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語のバックグラウンドが殆どない学生を対象とし、多読や作文活動を通じて、日常生活や学業に必要な日本語の語彙や作文構造の基礎知識を身につける。身近なトピック（趣味、道順、日常生活等）についての簡単な会話に参加でき、自分自身やその他の単純で関連性のあるトピック（背景、好き、嫌い、方向等）について話したり書いたりできるようになることを目指す。日常のトピックに関する簡単なテキストと、実社会で使われる資料（メニュー、通知等）を読んで理解できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学 Japanese Reading II	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Reading I」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。読書を通して日本語の文とテキストの構造を理解する。また、語彙と文法パターンの確認・練習をすることで、簡単な文章を構成し書くとともに、より複雑なテキストの理解に必要な語彙と文法パターンの習得に繋げていく。十分な語彙と基本的な構成構造を習得し、より実践に生きるリーディング力を養う。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Japanese Reading III	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。中級レベルの日本語の学生を対象とし、様々なカテゴリーのテキストを読むスキルを向上させ、論理的な文章を書く能力を育成することを目標とする。スキル向上に必要なテクニックを念頭に置きながら、論理的なテキストを読み、学術研究に必要な正式な語彙、文型、および文の構造を習得することを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Japanese Listening I	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語のバックグラウンドが全くない、あるいは、殆どない学生を対象とし、日常生活で使用する口頭表現の練習を通じて、リスニングの理解を向上させることを目的とする。日本語のみを使用して日常のコミュニケーションを行い、関心のあるトピックに関する情報を日本語で収集して伝達できるようになることを目標とする。基本的なリスニング能力を身につけ、自然に反応し、自分の興味について会話できるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Japanese Listening II	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Listening I」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。口頭表現の練習を通じて、リスニングの理解を向上させることを目的とする。関心のあるトピックをテーマに選び、それに関する情報を日本語でまとめ、的確に理解、伝達できるようになることを目標とする。リスニング力、読解力、表現力を養うとともに、習得したリスニング技術をもってより多くのトピックに触れることで、日本への理解を深めることにも期待する。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Japanese Listening III	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。中級レベルの日本語の学生を対象に、日本語のリスニングスキルを中級レベル以上まで向上させることを目的とする。スキル向上に必要なテクニックを念頭に置きながら、様々なトピックのリスニング教材に慣れる過程で、大学生活に必要なリスニング能力を徐々に養い、学問に関連する情報の理解に対応し、様々な状況やコンテンツに応じて適切に捉え対応できる力を身につける。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Japanese Writing I	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の漢字のバックグラウンドが全くない、あるいは、殆どない学生を対象とし、日常生活で使用する漢字を習得することを目指す。レッスンによって、日本語の書記体系を理解し、100字程度の漢字や短いテキストの読み、100字程度の短いメッセージの書きができるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Japanese Writing II	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Writing I」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とし、日常生活で使用する漢字を習得することを目指す。レッスンによって、日常生活でよく使用する漢字や簡単なテキストを読み、日常のコミュニケーションで使用する程度のメッセージの書きができるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Japanese Writing III	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初期中級レベル相当の対象とし、漢字リテラシーを身につけることを目的とする。漢字や慣用句、または漢字の基本的な知識を学ぶ。漢字を正しく理解し、読み書きできるようになるとともに、漢字形成の歴史的過程やその部首等、漢字に関連する知識についても習得する。更に、漢字を使ったフレーズや文章を作成する等、漢字の使い方に慣れながら、漢字が文章や会話の語彙としてどのように使用されているかについての理解も目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学 Project Work I	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。主な目的は、学習者が初級前半レベルの日本語を用い、大学生生活に役立つ様々なプロジェクト・ワークを通して、情報収集や分析、プレゼンテーションに必要な日本語能力を身につけることである。授業はすべて日本語で行われ、学習者は、個人あるいはグループでプロジェクト・ワークに取り組む。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Project Work II	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Project Work I」を履修した学習者あるいはそれ相当の日本語学習を終了した初級後半レベルの学習者を対象とする。主な目的は、様々なプロジェクト・ワークに個人あるいはグループで取り組むことにより、情報収集や分析、プレゼンテーションに必要な日本語能力を身につけることである。週1回、全15回開講される。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Project Work III	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Project Work II」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。主に、個人あるいはグループで学生が情報収集、発信、調査、発表を行うことを通して情報活用や分析、プレゼンテーションのスキルを学ぶことを目的とする。インタビューや図書館等の施設での野外調査も実施する。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Japanese Culture and Society A	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、日本文化と社会の多様性について体験的に学ぶ科目である。目的は、日本文化や社会について描写するのではなく、体験し討論することによりそれらを学ぶことである。そのため、様々なビデオや文化のデモンストレーション、あるいはフィールド・トリップ等を取り上げ、授業を展開していく。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Japanese Culture and Society B	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Culture and Society A」に続く科目であり、日本文化と社会の多様性について体験を通して学ぶ。コースの目的は、日本文化や社会について描写するのではなく、体験し討論することである。そのため、様々なビデオや文化のデモンストレーション、あるいはフィールド・トリップ等を取り上げ、授業を展開していく。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Introduction to Japanology A	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Culture and Society B」を履修した学習者あるいはそれ相当レベルの学習を終了した学習者を対象とする。日本のことば、文化、社会、歴史等の幅広い知識を得ること、そして、得られた知識や情報について考え、発信する活動に取り組む。フィールドリサーチやプレゼンテーション活動も行い、Japanologyという分野そのものの成り立ちについても学んでいく。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Introduction to Japanology B	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Introduction to Japanology A」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。目的は、日本の言語・文化・社会について学び、自らの持つ背景や文化等と併せて考察するというものである。テーマは、日本の社会問題から文芸、サブカルチャーまで幅広く扱い、ディスカッションやフィールドリサーチを交えながら授業を展開していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア キャリアデザイン入門	個人のキャリア形成に必要な要素を理解し、能力開発の必要性和社会的意義を知るとともに、自立性のあるキャリア形成を具体的に思考することを目的とする。キャリア開発に必要な基礎的学論、自身のキャリア変遷と個人的価値観、社会変化と環境変化で作られ変わる価値観、労働の価値観の獲得と変化、個人的・社会的興味の源泉、自己の興味の変遷、労働の興味、能力の向上と変化、他者との関わりを通じた新しい興味・価値観を知るための講義を展開する。自身を語れるようになるとともに、様々なキャリアのあり方を模索し、今後の自身のキャリア開発の具体性が持てるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア コミュニケーション&マナー	議論の分析を中心テーマとして、社会人基礎力やコミュニケーション能力の向上を目指す。口頭に限らず、文章により意見を述べる方法を含んだ議論の方法を考えていく。議論がどのように構成されているか（または構成されるべきか）を考え、分析・考察を進めていく。あわせて、社会で必要となるマナーについても学び、各自の言語活動を見つめ直していく。議論の構成・ルールについて理解し、議論の分析を日常の言語活動に応用できる力（課題発見力、計画力、想像力）、立場に応じて相手を納得させる力（発信力、状況把握力）、相手の意見を尊重し受け入れる姿勢（傾聴力、柔軟性）の獲得を目指す。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア キャリアデザイン実践	医療技術の進化は長寿化をもたらし、人生100年時代という言葉も浸透しつつある。そのような時代を迎え、私達の働き方や生き方はどのように変わり、変えていく必要があるのか。このテーマについて、講義や参加者間での議論を通し、私達自身の問題として捉え、これからの生き方を考える。長寿化と教育・仕事・引退モデルの変化、機械化・AI後の働き方、キャリアを拓くために持つべき資産、働き方の選択肢の多様化、新しい時間の使い方、仕事以外の人生（ライフ）の変化といった現代社会の状況についても解説をしながら、キャリアデザインを実践していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア キャリアデベロップメント	将来、有意義な人生や職業生活を築くため、「自分とは何か」「職業理解と働く意味」「社会で求められる力」等を深く考え、就職や自己成長の重要性を理解し、今後の学生生活を充実させること、社会や仕事で求められる力となるコミュニケーション力やチームで結果を出す力を高めることを目的とする。自己を理解し、自己成長の必要性を理解すること、社会環境への関心を高めつつ就労観や職業観を高めること、多様性を受け止め、コミュニケーション力を高めることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア インターンシップ入門	インターンシップ実施の準備講座となる。前半でまず、社会人に求められる力(社会人基礎力)の概要とこれを身につけるための一つの方法としてのインターンシップについて議論し、様々なインターンシップの形態やインターンシップ先の探し方を学ぶ。更に、先輩からの経験談も踏まえ、企画・提案への取り組み方を具体化していく。これらを経てPBLを体験し、課題に対しての現状分析、課題の整理、解決策の提案を行っていく。社会人に必要とされる力や円滑なグループワークを遂行していくための力を養い、インターンシップの実践に向けた行動に繋げていく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア アントレプレナーシップ	人口の減少、労働生産性の低さ、情報化社会の立ち遅れ、研究力の低下、特許出願数の低下、外国への留学生の減少等、日本の閉塞感を表すキーワードは少なくないが、起業する人の少なさもその一つであろう。結果、ユニコーン企業も少なく、企業の時価評価額ランキングも、1990年代と比べ大きく低下している。起業が一般化している世界の中で、日本の若者は、なぜ起業しないのか。起業するために必要な発想や、情報技術の活用、求められるマインドセット等について、実際に起業した人の話も聞きながら、学修していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア 口頭表現法	口頭による言語表現のうち、敬語を取り上げる。正しい敬語の使い方を身につけることは、日本語という言葉の特徴を知ることや、社会における様々な人間関係を円滑に進めることに繋がる。尊敬語・謙譲語・丁寧語等の敬語の基本を理解し、状況に応じて言語表現を使い分けることができるようになることを授業の目的とする。また、人間関係を円滑に保つための言葉の働きについての理解も目指す。これらを通して、基礎的な学力と豊かな教養の一助とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア プレゼンテーション技法	プレゼンテーションの方法を学ぶことにより、自分の意図を相手に正確に伝える能力を養うことを目的とする。各自設定したテーマに基づいてプレゼンテーションの実践を行う。発表の仕方とともに、発表を聴く姿勢にも視点を置きながら授業を展開していく。各自テーマに応じて必要な情報を収集・分析する「課題発見力」や「計画力」、文章・図表等を効果的に用いた発表資料を作成する「表現力」、聴き手の立場を考慮して自らの意図を正確に伝えることができる「発信力」、質疑や意見に対して適切に応答することができる「傾聴力」といった能力を向上させることにより、社会で必要とされる社会人基礎力の獲得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	文章読解	小説そのものが既に作家の想像力という〈幻想〉の産物であり、読者を〈異空間〉に誘う機能がある。そうした原理を最も端的に開示する幻想小説を読み解くことで、文学の本質である作家における〈書く〉という行為の意味、読者における〈読む〉という行為の意味までも明らかにすることを目的とする。明治期の作品から現代の同時代作品まで、作家を限定することなく、できるだけ多くの小説を読み解くことで、作品そのものの魅力を感じつつ、〈書くこと〉〈読むこと〉の相互行為を分析し、自分なりの気づき、考え、意見を持つことを目標とする。	
			レポート・論文のまとめ方	基本的な文章作成方法に基づいた上で、データの解釈や文献の検索についてを学び、調査やレポートの構成、作成におけるルール、分析等、レポートや論文をまとめるために必要な一連の事柄について学ぶ。これらを通して、レポートや論文で使われる言葉や表現方法、レポートの構成の仕方、基となる資料の収集や分析・活用の仕方、結論や今後の課題のまとめ方を理解する。大学生にとって必須であるこれらの方法論を今後の学業に活かすとともに、論理的に組み立てる力を養う。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	日本国憲法	日本の法体系における最高法規に位置付けられる日本国憲法を対象とする憲法学の基礎を学んだ上で、社会における具体的な問題に即して、憲法的なものの方の見方・考え方とはどのようなものなのかを理解する。「統治機構」と「基本的人権」の2分野の主要な項目をテーマに講義を行い、憲法に関する基礎的な知識と現実の社会における事象・問題を憲法の観点から理解し、考えることのできる基礎的な能力の修得を目指す。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	グローバル市民論	金融が世界を渡り、情報基盤が世界の端と端を繋ぎ、食料もエネルギーも世界を流通し、太古より変わることなく水と大気が地球を循環している現代社会においては、島国日本から外に出ず、外国人と話すことを避けたとしても「グローバル市民」の一員であることは決して避けられない。地球温暖化の問題、格差の問題、感染症への対応の問題等のグローバルな課題に対し、グローバル市民としてとるべき行動や態度等について、幾つかのトピックスを取り上げ、識者を招きながら学習する。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	環境政策論	公害問題から自然破壊、地球温暖化に至るまで様々な形態とスケールで発生する環境問題に対しては、法律による規制のほか、ボランティアな市民参加を活かした制度、経済的インセンティブを活かした制度等、様々な法制度を複合的に用いることがより効果的である。環境法規の基本原則を学んだ後に、代表的な国際条約や環境法規および環境政策の手法について知識を習得し、グローバルな問題のローカルにおける解決策について考察する。世界レベルでの環境法規の基本原則や日本の環境に関する法体制の基本、法規制以外の制度が果たす役割について認識できるようになることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	情報化社会と人間	情報技術の普及による社会の情報化は人の生活や個人のあり方、ものの見方まで変化させつつある。現代の社会活動と情報化について理解するとともに、現状の問題把握・将来起こりうる問題への指摘ができることを目的とする。社会の基幹システムにまで及ぶ情報化や、情報化による利便性の向上とそれに相対する負の側面についてを、様々な環境下での事例を踏まえて学び、現代社会の中どのように生きていくかを考えていく。情報技術と現代社会の密接な関連性に関する知識・理解を深め、情報化社会の発展と問題に関して主体的な観点から論じられるようになることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	ダイバーシティ論	アイヌ民族を除けばほぼ単一民族国家で、一億総中流社会が長く続いた日本社会において、ダイバーシティ（多様性）を受入れることは必ずしも歓迎されず、むしろ非効率と考えられがちであった。しかしながら、近年、マイノリティや個々の特性を尊重する動きが世界的に広がっており、多様性を積極的に受け入れる社会の方が活力を生み、また投資の対象としても高く評価されるようになってきている。明るい未来社会を描くために、日本における多様性社会はどうあるべきか等について、幾つかの事例を取り上げ、議論を交えながら学修していく。	

授 業 科 目 の 概 要			
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	キャリア・市民形成 障害学	障害学にとって重要なのは、社会が障害者に対して設けている障壁、そして障害の経験の肯定的側面に目を向け、障害者が持つ独自の価値・文化を探る視点を確立することである。個人の問題という視点から、環境、社会の排除、差別へと視点は転換し、更には、独自の文化集団、コミュニティとしての障害まで意識する必要がでてきている中、障害と社会を巡る歴史と現代の考え方や、障害者の生活に関わる制度の現状等を通して障害学を学ぶことで、障害の社会モデル、障害者への不当な差別的取り扱いと合理的配慮、バリアフリーとユニバーサルデザイン等の理解を目指す。	
基盤教育	キャリア・市民形成 ジェンダー論	ジェンダーやセクシュアリティといった、ジェンダー研究における基礎的な用語を概説しつつ、それらに対する我々のイメージがいかに歴史的、社会的、文化的に作られてきたのかを、美容整形やダイエット、スポーツ、生殖、人種等の身近な身体文化を題材に考え、身体がいかにジェンダー、セクシュアリティにとって重要であるかを学ぶ。ジェンダー、セクシュアリティが社会構築物であることを学び、その問題性と可能性について考え、議論することができるようにすることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成 社会貢献活動入門	社会貢献は、ボランティア団体やNPO/NGO等多様であり、形態も取り組み内容も様々である。そして、企業による社会貢献、CSRも多種多様であり、それぞれの事業規模も多様である。また、東日本大震災以降の被災地支援活動を機に、社会貢献を取り巻く環境も大きく変化しつつある。国内外の最新事例を踏まえてNPO/NGOおよび企業の社会貢献のあり方について学ぶとともに、分野別の活動内容や各活動が始まった背景についても理解を深めていく。これらを通して、社会において個人が果たしうる役割と課題を考え、社会と自分との関係について考えを深めていき、社会貢献に関する知識をもって主体的に社会貢献に関わる行動に繋げることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成 地域マネジメント	既に人口の減少期に入り、世界でも類を見ないほどの少子高齢化社会に突入した日本において、今後はGDPも減少し、その結果、税収も減少していくことが予想される。加えて、行政を支える労働力の確保も難しくなる。こういった中で、地域のマネジメントをこれまでのように行政に依存することは困難であり、地域住民が相互に地域マネジメントに関わっていくことが必要となる。ここでは、幾つかの事例を取り上げ地域マネジメントの現状と手法を学び、地域市民として地域のマネジメントに貢献していく知恵を学修していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成 公務員論	公務員制度や行政の仕組みを知り、更に公務員に対する理解を深めることにより、公務員のあり方について考えられるようになることを目的とする。まず、公務員制度や行政の仕組みの基本を取り上げ、その上で少子高齢化等の課題への新たな対応について考えていく。また、職種や仕事内容が多種多様である公務員を理解することを目的に、様々な職種の公務員から実際の職務の話聞く機会を設ける。これからの公務員のあるべき姿について、考察することができるようになることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成 食と健康	食と健康の関わりを栄養学や食文化等の知見を中心として学ぶことを目的とする。5大栄養素とその具体的性質を理解し、それぞれの栄養素の役割を生化学、生理学の観点から理解する。また、食品摂取時の人体組織の機能や、摂取内容に応じた人体への作用、あるいは、体質等に応じた影響を解剖生理学的観点から理解する。食と健康の基礎的事項を理解し、自身の健康のあり方を考え、時代や国、環境や文化の違いによっても様々な食と健康の捉え方を理解していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成 基礎会計学	企業の経営活動をお金の観点から記録する方法（商業簿記）の基礎（簿記と会計、簿記の種類、機能と目的等）について解説し、なぜ簿記が企業経営において重要であるのかを説明した後、日本商工会議所簿記検定3級の出題範囲の前半部分に対応する学習内容を学んでいく。商業簿記を理解することによって、企業の経営状態をより明確に捉えることができるようになり、今後修得する会計領域の体系的な専門知識および学際的知識への素養を身につける。そして、社会の様々な組織において実践力を発揮し社会に貢献するための基礎とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	キャリア・市民形成 情報	情報リテラシーⅠ	インターネット等の普及により様々な情報を得ることが容易になってきている一方で誤った情報も混在している。そのため、価値ある情報を収集し、社会的な問題を認識した上で、効果的に活用して発信することが求められている。このような社会情勢への対応を目的として、情報リテラシー概論の他、情報の検索方法の習得を目指す。その後、収集した情報をまとめるために、パソコン（ワープロソフト、プレゼンテーションソフト、表計算ソフト）の基本操作、文章作成上のルール（構造化文章の理解と仮作成）について学び、今後のレポート作成に役立つスキルを身につける。	
基盤教育	キャリア・市民形成 情報	情報リテラシーⅡ	「情報リテラシーⅠ」の学びを基礎として、正しい情報の収集および発信について習得することを目的とする。特に、自らの研究データを管理し、分かりやすく表現できるようになることを目標とする。そのために、表計算ソフトを用いて、数値データのグラフ化や、管理をするための基本操作を学び、データ表現に必要な基本統計を理解する。その後に、発表の仕方を学び、これまでに習得した操作法を活用して、正しい情報を発信する（プレゼンテーション）スキルも身につける。	
基盤教育	キャリア・市民形成 情報	プログラミング基礎Ⅰ	プログラミングを用いて開発されたシステムやアプリ、プログラムによって制御された電子機器等が、身近な生活の中で実際にどのように機能しているのかを学び、プログラミングの役割や機能、実社会への影響を理解していく。WebサイトやAI（人工知能）、IoTデバイスでもよく使われるPython言語を用い、基礎固めを目的としたプログラミング演習を行いながら、その仕組みを理解していく。プログラミングの基礎知識を習得し、プログラミングを組み立てるための思考力も養う。	
基盤教育	キャリア・市民形成 情報	プログラミング基礎Ⅱ	「プログラミング基礎Ⅰ」を基礎として学びを深める。Python言語の高度な文法の理解や一般的なPythonプログラムの作成ができるようになることを目的とする。また、基礎的なアルゴリズムを理解し、より実践的かつ効率の良いプログラミングの考え方を理解するとともに、簡単なディープラーニングを使いプログラムを理解した上で、同様の二項分類のディープラーニングを作成できるようになることも目標とする。	
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学実技Ⅰ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、初心者レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。	
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学実技Ⅱ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、初級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。	
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学実技Ⅲ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、中級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。	
基盤教育	健康スポーツ科学	スポーツ健康科学実技Ⅳ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、上級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	健康スポーツ科学 スポーツ健康科学講義Ⅰ	ライフキネティック（運動と脳トレを組み合わせたエクササイズ）について、トレーニングの概念や方法、得られる効果等を学び、日常生活にどのような好影響を与えるのかを理解することを目的とする。ライフキネティックトレーニングをする上で重要な身体活動の感覚と認知的精神的刺激を統合するためのトレーニング方法の知識を身につけることで、精神的、物理的な訓練の基本を理解し、ライフキネティックトレーニングのルールや健康上の利点について認識を持てるようにすることを目標とする。	
基盤教育	健康スポーツ科学 スポーツ健康科学講義Ⅱ	運動と身体機能の関係を正しく理解し、更に、運動を実施する上で必要な科学的方法論を身につけることを目的とする。トレーニングの基本原則、スポーツ疲労やスポーツ障害の特徴、身体活動を通じた筋力・心臓等の機能向上についてを学び、目的に合わせた運動の仕方や健康に適した運動量の知識を獲得することで、生涯に渡って健康的な生活を送るための身体づくりについて考え、日常生活の中で役立てることを目標とする。	
基盤教育	総合・学際 全学総合A	東洋大学の創立者である井上円了の生涯を対象とし、その思想と行動を明らかにする。井上円了は幕末・明治・大正の3つの時代を生きた人物であり、単に東洋大学の創立ばかりではなく、「明治青年の第2世代」の代表者と歴史家が評価するような、様々な業績を残した。その生涯の時期は、現代社会の基礎である近代日本の創設期にあたることから、現代日本の出発点を歴史的に具体的に学ぶことにも繋がる。時代とともに自分がどのように生きるべきか、その哲学を考察できるようになることを目標とする。	
基盤教育	総合・学際 全学総合B	東洋大学の創立者である井上円了と東洋大学の歴史を明らかにする。井上円了の教育理念によって、明治20（1887）年、日本が大学制度を創出する時期に「哲学館」として創立され、それから東洋大学は現在まで130年以上の歴史を歩み、大規模な組織に発展してきた。創立者井上円了の教育理念や東洋大学の個性的な歴史を、日本の大学の歴史を背景としながら学んでいくことによって、時代の変遷と大学組織の発展が明らかになり、近代から現代までの日本社会のあり方を理解する一つの視点を学ぶことにも繋げる。	
基盤教育	総合・学際 全学総合C	東洋大学の創立者である井上円了が明治中期に提唱した「妖怪学」を取り上げる。妖怪を取り巻く社会も学問のありようも様々に変化した現代社会に即した「新しい妖怪学」の実現は可能だろうか。宗教学・民俗学・文学史・芸能史・風俗史・神話学・心理学・精神医学等様々な学問分野の成果を導入し、日本やアジア、ヨーロッパをも視野に入れた学際的アプローチを展開する。不可思議なものに惹かれていく人間の心性に目を向けた上で、科学的な検証と明晰な論理によってその本質を見極め、実体のない思い込みや不合理な権威を打破していくための批判精神を養うことを目標とする。	
基盤教育	総合・学際 全学総合D	ICT（情報通信技術）の発展に伴い、膨大なデータが世の中に溢れるようになり、様々な分野でデータの利活用が急速に進められている。データサイエンスのスキルは、技術者だけでなく、すべてのビジネスパーソンにとって必要不可欠になってきている。そこで、データサイエンスとは何か、その本質は何か、どういうシーンでどういう活用をされているか、どういう手法（伝統的な統計手法、機械学習やディープラーニング等のAI）がどのように利用されているかについて理解を深め、職種別にデータサイエンスを使いこなす上で必要なスキルや発想を身につけることを目指す。	
基盤教育	総合・学際 全学総合E	インターネットの普及と高速化、膨大なデータの蓄積、コンピュータの高性能化と共に、人工知能（AI）の研究開発が進み、これを利活用できる領域が広がったことで、「第4次産業革命」と呼ばれる社会変革が起こり始めている。膨大なデータに対するAIのサービスとしての利活用が、人間の能力を最大限に引き出すと同時に、社会の持続性や環境問題等社会課題の解決、経済・産業の発展に寄与することが期待されている。そこで、AIとは何か、その手法や原理等の基礎知識を修得することを目的とする。またAIの応用例にも触れ、AIの利活用によってどのような社会が実現できるのか、その上でどういう課題があるのかを理解する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	総合・学際 全学総合F	2000年以上の歴史を持つ哲学とその思考法が、どのようにして現在の私たちの生きる力となるのかを理解するため、古代から現代に至る西洋と東洋の思想を横断するかたちで講義を行う。現在の私達に必要な「自己を律し、より良く行為するための力」、そして、「今いる地点から自己の経験を一步先に進めるための能力」を獲得するため、「世界と自己」「心と身体」「正義と自由」をテーマに哲学的トレーニングを行う。各テーマに関する西洋と東洋の異なる知見を手がかりに、各人が自分で思考を進め、行為するための力を身につけることによって、哲学的に思考することが生きることによどのような役割を果たすのか、また、異なる文化に属する思惟の特質についてを理解することを目指す。	
基盤教育	総合・学際 全学総合G	環境関連の諸問題を総合的に理解し、自分なりに判断できる力を身につけることを目的とする。環境問題の現状について解説するとともに、これらを解決しようとする試みを、東洋・西洋の哲学的思想を中心にしつつ、様々な学問を基に紹介する。地球温暖化に限らず、エネルギー問題、生物多様性、水質汚染、自然災害、農地の砂漠化、異常気象等々、SDGsで提起される様々な範囲の問題の解決に向けて、国際協調や国際規約、地域の草の根運動、アート作品といった多様なレベルで行われている取組を理解する。環境問題の現状と対策の実態を把握すると同時に、自分自身の生きる環境を哲学的に考えるというトレーニングをすることで、問題解決に資する発想を備えることを目指す。	
基盤教育	総合・学際 全学総合H	知識基盤社会における大学は、これまで以上に知のコミュニティとしての豊かさが求められるようになっている。また、学びのリソースは、教室や図書館だけでなく地域や世界にも広がってきた。学内外の様々な専攻分野教員から、毎回、話題提供を行い、次いで、様々な視点から、大学教育の社会的役割についてディスカッションを行い、多様な学びのあり方とリソースを掘り起こすことによって、学生が自ら知のコミュニティを創造するための基礎的力量と学際的視点の修得を目指す。	
基盤教育	総合・学際 全学総合I	経済同友会会員企業が受け入れ先となって行うインターンシップの科目である。本インターンシップの趣旨は、「学生が企業という場で実社会に学び、社員や他校生も交えた多様な価値観に触れ、様々な気づきを得ることで事後の学修に注力し、キャリアビジョンを描きながら資質・能力を高めること」である（経済同友会資料より）。夏季休暇中の10日～4週間程度の企業におけるインターンシップ参加、事前研修、事後研修、成果発表会等を通し、社会人に求められる姿勢や行動を学び、視野を広げ、自分のキャリアビジョンを描けるようになることを目標とする。	
基盤教育	総合・学際 全学総合J	今、この時にあって、哲学教育を通じて自己の基軸を確立した社会的リーダーたりうる人財の育成が強く期待されていると思われる。そこで、企業の社長や自治体の首長といったリーダーに限らず、大きな組織を構成する一部門としての組織の責任者を含めた、ある人的な集合体の中心となって活躍できる人財、いわば真に社会・集団を牽引しうる東洋大学生の育成を目的として授業を行うものである。	
基盤教育	総合・学際 全学総合K	リーダーに必要な論理的思考力の訓練を行い、そのスキルを身に付けた後に、リーダーシップ論を学んでリーダとはどうあるべきかを考察して問題意識を育み、更に現代日本におけるリーダー哲学、国際社会におけるリーダー哲学を学ぶことで、自己の基軸となる哲学を形成する。加えて、最後に自己の基軸を再確認するために、自ら形成したリーダーとしての哲学について最終レポートをまとめて、発表する。	
基盤教育	総合・学際 全学総合L	オリンピック・パラリンピック等スポーツの歴史を通して世界について学ぶことを目的とする。スポーツやアスリートだけでなく、アスリートに対するサポートの実情やその裏側に潜む社会的課題についても深く掘り下げ、スポーツの華々しい実績だけでなく、その裏側についても学んでいく。これらを通して、オリンピック・パラリンピックの基本理念や基礎知識、諸問題の理解を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	総合・学際 全学総合M	オリンピック・パラリンピックに関わるバラエティに富んだテーマを取り上げ、オリンピック・パラリンピックを多角的に考えていく。オリンピック・パラリンピックの理念やスポーツイベントに関する幅広い知識はもちろん、イベントを裏方で支えるスポーツボランティアの実際にも触れていく。単に「オリンピックを学ぶ」ことだけではなく、社会のあらゆる側面と結びついていることを理解するとともに、オリンピック・パラリンピックを題材として世界に広がる多様な価値観を学び、深く「哲学する」姿勢を養う。	
基盤教育	総合・学際 総合A	宮沢賢治の生き方や思想を学び、詩を読むことで、豊かな教養を身につけることを目的とする。『法華経』に帰依し、民衆救済に一生を捧げた宮沢賢治の詩を通して、自然や生命への畏敬、共生、物への慈愛や人生における苦悩について考えることで、自らの人生を考えていく。また、作品を読解することで、学士力の「読む」力をアップさせ、人としての生き方や社会を考えることで「社会人基礎力」を養う。	
基盤教育	総合・学際 総合B	舞台芸術とは何かを知るために、音楽、芸術、文学、ダンス、照明、舞台、デザイン、衣装を理解し、舞台芸術の可能性を知ること、社会イノベーションに繋がる種を見つけることを目的とする。練習に役立つスキルの開発に焦点を当てながら、多くの文学を読んだり、パフォーマンスを観たりすることで、舞台芸術の基礎知識を養い、創造的な心と挑戦的な精神を育む。また、レポート作成や、プレゼンテーション、ディスカッションを通して、論理的思考を身につけ、ライティング、コミュニケーション、分析、問題発見・解決、プレゼンテーションの能力獲得も目指す。	
基盤教育	総合・学際 総合C	アートマネジメントとは、芸術・文化と社会を相応しいかたちで融合させ、文化資本を高めていくことである。マーケティングのアイデア、文化施設・舞台芸術団体の運営、コンテンツ産業やまちづくり等について、伝統文化から美術・音楽・舞踊・映画・ポップカルチャーまでアートの広範な領域を取り上げ、学んでいく。社会と芸術・文化の関係を経営学の視点から考えることで、芸術・文化と社会の適切な関係について理解し、アートマネジメントの基本的な考え方を説明できるようになることを目標とする。	
基盤教育	総合・学際 総合D	芸術表現の鑑賞と実践のあり方を探求することを目的にその基礎を学ぶ。絵本をテーマとして取り上げ、読む・聞く・描くことを実践する。通常の冊子体絵本だけでなく、音楽を伴った紙芝居形式や絵本に基づく映像作品も積極的に取り入れ、芸術表現としての幅を広げていく。関心のある作品を選び、絵本の読み聞かせや創作を実践し、互いに批評し合い、批判点を受け入れることで、表現に磨きをかけていく。これによって、芸術表現としての絵本を読む・聞く・描くことの可能性を拡大できるようになることを目標とする。芸術・文化に対する関心を深めることにも繋げていく。	
基盤教育	総合・学際 総合E	芸術表現の鑑賞と実践のあり方を探求することを目的とする。「総合D」で学んだ絵本を読む・聞く・描くことの基礎を踏まえて、更に高度な実践を試みる。絵本の世界においてどのような表現が可能か。伝えようとするイメージの中に自分を置き、感性を最大限に働かせ、架空の世界を現実化し立体化していく。そうして絵本を聞く側にも豊かなイメージの世界を広げることを目標とする。表現の基礎技術の上に、絵本の読み聞かせや創作が持つ自由さと魅力を追求できるようになることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
基盤教育	総合・学際	総合F	水力や蒸気機関による第1次産業革命、電力による第2次産業革命、電子工学や情報技術による第3次産業革命から、IoT及びビッグデータ、AIをコアとする現在進行中の第4次産業革命まで、技術の革新はやむことはない。そして、それらの応用は、最先端と呼ばれる場面に留まらず、建築やデザイン、介護や障がい支援、育児や保育、アスリート支援や健康増進、食事や栄養といった、ありとあらゆる場面に及び、それぞれの分野での可能性を大きく広げている。この授業では、IoTやAIといった情報技術に留まらず、学科に関連する領域における最先端のテクノロジーに触れることで、テクノロジーが私達の生活や環境をどのように変化させ、また関連する社会課題の解決にどのような影響を及ぼすのかについても学んでいく。これらを通して、社会が求める要素を的確に捉える視点と多角的な視野を養う。	
専門教育	学部共通	必修科目 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	東洋大学および健康スポーツ科学部の歴史や社会的背景、学内施設見学による学修拠点等の理解、アカデミック・スキルの基礎学習のうに、授業の履修プランや資格の勉強、その他勉強以外の生活を含めた大学4年間の総合的な計画を立て、大学生活の具体化を目指す。また、卒業後の夢や目標、進路等について調べ大学の学びの先をイメージするとともに、そのためにすべきことの理解を目指す。在学生や様々な年代の東洋大学OB・OGとの座談会、口頭発表を通じた学生同士の共有の機会も設け、共同体意識・帰属意識の醸成にも繋げる。	
専門教育	学部共通	必修科目 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	研究活動の一連（問いの設定、先行研究の収集・検討、具体的な作業課題の設定・実行、調査・実験・結果集計・分析、成果のまとめ）を経験する。また、プレゼンテーションにおける資料作成や発表方法を学び口頭で成果を発表するとともに、学術的な文章の書き方を学び文章でも成果を発表する。これらを通して、大学での学びや研究、科学を理解し、説明できるようになることを目標とする。加えて、ボランティア、インターンシップについての計画を立て共有することで、2年次以降の学習に繋げていく。	
専門教育	学部共通	必修科目 健康スポーツキャリアデザインA	健康スポーツ科学を学んだ先にどのようなキャリアの可能性があるのかを理解することを目的とする。健康スポーツに関連する仕事に携わる様々な業界の人材から体験談を聞き、仕事の魅力や困難性、それにたどり着くまでに必要な学生時代の準備等を学ぶ。早い段階から卒業後に向けたベクトルを確立し、それに対する学習プロセスをイメージすることで、大学生活の学びを最大限に活かしたキャリアに繋げる。 （オムニバス方式／全15回） （7 古川寛／6回うち共同3回） 生理学、生化学、解剖学等の学びを基礎としたキャリア紹介 （5 神野宏司／6回うち共同3回） コミュニティにおける健康づくりやスポーツ振興に関するキャリア紹介 （11 平野智之／6回うち共同3回） 教職（保健体育・養護）を中心としたキャリア紹介 （2 木内明／6回うち共同3回） 健康・スポーツ文化に関する学びや国際交流体験を生かしたキャリア紹介	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門教育	学部共通	必修科目	健康スポーツ科学を学んだ先にどのようなキャリアの可能性があるのかについて理解することを目的とする。健康スポーツに関連する仕事に携わる様々な業界の人材から体験談を聞き、仕事の魅力や困難性、それにたどり着くまでに必要な学生時代の準備等を学ぶ。早い段階から卒業後に向けたベクトルを確立し、それに対する学習プロセスをイメージすることで、大学生活の学びを最大限に活かしたキャリアに繋げる。 （オムニバス方式／全15回） （6 岩本紗由美／6回うち共同3回） トレーナー等、アスリートサポートに関するキャリア紹介 （17 江田香織／6回うち共同3回） スポーツ心理やコーチングの学びを基礎としたキャリア紹介 （152 工藤重忠／6回うち共同3回） バイオメカニクスやスポーツ情報の学びを基礎としたキャリア紹介 （19 谷塚哲／6回うち共同3回） スポーツマネジメントやスポーツビジネスに関するキャリア紹介	オムニバス方式
専門教育	学部共通	必修科目	健康スポーツ科学を取り巻く様々な領域のPBL（問題解決型学習）から志向に合わせたPBLを選択し、模擬実験、現場見学、地域実践活動等を行うことで、自身の学びの可能性や適合性を発見し、3年次以降の専門分野の選択に繋げていく。このような目的のもとに「健康スポーツ科学プロジェクト演習A・B」を配置し、1年間を通して複数のPBLを経験できるようにすることで、経験に基づいた適切な分野選択を目指す。加えて、健康スポーツ科学への様々なアプローチ方法を知り、深い関心に繋げる。	
専門教育	学部共通	必修科目	健康スポーツ科学を取り巻く様々な領域のPBL（問題解決型学習）から志向に合わせたPBLを選択し、模擬実験、現場見学、地域実践活動等を行うことで、自身の学びの可能性や適合性を発見し、3年次以降の専門分野の選択に繋げていく。このような目的のもとに「健康スポーツ科学プロジェクト演習A・B」を配置し、1年間を通して複数のPBLを経験できるようにすることで、経験に基づいた適切な分野選択を目指す。加えて、健康スポーツ科学への様々なアプローチ方法を知り、深い関心に繋げる。	
専門教育	学部共通	必修科目	「健康スポーツ科学基礎演習」で学んだ基礎的なアカデミックスキルや「健康スポーツ科学プロジェクト演習」での実践活動の経験を踏まえ、今後行う研究のテーマを検討し、向こう2年間かけて研究を遂行することで、より高度な健康スポーツ科学の専門性を身につける。研究活動の導入として、研究テーマの設定方法や研究方法（調査例、調査・分析、資料の収集・抄読）等の基礎を学び、その上で研究計画を組み立てる。各領域の研究遂行のための基礎知識を理解し、研究計画を的確に報告できるようになることを目標とする。	
専門教育	学部共通	必修科目	「健康スポーツ科学演習Ⅰ」を基に、活動内容や到達目標を明確にした上で計画に従って研究を進めていく。テーマに即した資料の収集や整理、先行研究のまとめを行う。必要に応じて計画の修正を図り、具体的な研究方法を固め、調査にも着手していく。演習学習と報告を通して多角的な視点から検討を行うとともに、討議を通して他者の意見を取り込みながら研究テーマや研究内容への理解を深める。また、他者の発表に対し積極的に質問し、内容について討議できる力も身につける。	
専門教育	学部共通	必修科目	「健康スポーツ科学演習Ⅱ」の研究内容を進めていく。継続的な調査研究に加え、検証等にも着手していく。そのためのデータ集計や分析方法を学ぶとともに、卒業研究・論文の成果物作成のためのルール等についてもあわせて学ぶ。興味関心を持つ研究テーマについて、研究方法から調査分析までの概要をまとめ、中間報告として口頭で発表することを目標とする。更に、問題点や課題を明確に捉え、それらを解決するための計画を明確にすることで、最終報告に繋げていく。	

授 業 科 目 の 概 要						
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)						
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育	学部共通	必修科目	健康スポーツ科学演習Ⅳ	「健康スポーツ科学演習Ⅲ」の研究内容を進め、研究成果を仕上げていく。これまでの研究の総括として最終成果をまとめるとともに研究発表会で広く成果を発表することを目標とする。正確な資料および説明に基づくプレゼンテーション力、他者の質問を的確に捉え回答できる論理的思考力、対応力の獲得も目指す。また、発表会後は振り返りを行うことで専門分野の学びや研究活動の意義についての理解を深めていく。これらを通して、その先の就職や大学院進学等のキャリアに繋げていく。		
専門教育	学部共通	必修科目	卒業研究・論文Ⅰ	基本は「健康スポーツ学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の担当教員を指導者に置き、1年時より自身が学んできた学習のプロセスを基本として論文や研究のデザインを作り上げていく。研究計画に沿って進め、指導者による指導のもと、課題を見極め、修正事項を適切に反映し、成果物としての完成度を高めていく。成果物をかたちにすることはもちろんのこと、問題意識の醸成に始まり課題解決に至るまでのプロセスを理解し、実践できる能力を身につける。		
専門教育	学部共通	必修科目	卒業研究・論文Ⅱ	「卒業研究・論文Ⅰ」を発展的に進め、研究の成果物を作り上げていく。大学生が執筆および研究する研究成果として十分な内容であり、4年間の学びの集大成となる研究として論理展開が理に適った成果物を作り上げることが到達目標となる。これらは審査および面接、発表会等により評価される。これらの成果や経験を通して、健康や身体活動、スポーツに関する正しい知識のうえに思考判断でき、健康づくりの専門家として指導力、実践力を有して社会に貢献することを目標とする。		
専門教育	学科専門	必修科目	健康・スポーツの自然科学	健康スポーツ科学を専門とする人間にとって必要不可欠な自然科学領域の知識を概論的に学ぶことを目的とする。解剖学、生理学、生化学、バイオメカニクス等について、用語の理解に始まり人体の機能や構造といった基礎知識を幅広く学び、思考方法や理論を理解する。その上で、身体活動やスポーツが身体に与える影響や機能を捉え、健康スポーツ科学の専門家として科学的エビデンスに基づくスポーツのあり方を実践するための基礎知識を身につける。 (オムニバス方式／全15回) (9 今有礼／6回うち共同3回) 運動中の呼吸、代謝、筋収縮のメカニズム等、運動生理学 (3 大迫正文／6回うち共同3回) 骨格、筋、臓器等、解剖学 (7 古川覚／6回うち共同3回) 呼吸、循環、血液の組成等、生化学 (152 工藤重忠／6回うち共同3回) 走る、投げる、跳ぶことに関する生体のメカニズム	オムニバス方式	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	必修科目	健康スポーツ科学を専門とする人間にとって必要な人文社会科学的な基礎知識やキーワード、考え方の概要を理解することを目的とする。健康やスポーツに関する哲学的思考に始まり、社会学や文化人類学、心理学等を基本とした思考方法や理論を学ぶ。現代社会におけるスポーツの価値の拡大や振興、そしてスポーツによる健康づくりの可能性に関して深く考察し、健康やスポーツに関する今日的なトピックスに関しても人文社会科学的に理解する。社会文化的な側面の理解を深めることを目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （1 齊藤恭平／6回うち共同3回） 健康の社会的側面やコミュニティと健康づくりの関係等、健康社会学 （2 木内明／6回うち共同3回） 文化としてのスポーツや健康文化の歴史等、文化人類学 （21 熊澤拓也／6回うち共同3回） スポーツの歴史や社会的意義、役割等、スポーツ社会学 （19 谷塚哲／6回うち共同3回） スポーツマネジメントやスポーツビジネス	オムニバス方式
専門教育	学科専門	必修科目	「スポーツとは何か」等の本質的な問いに対して、多様な具体例や視点を参照しながら深く考え続けることで、健康スポーツ科学を体系的・総合的に学び実践する際の礎となる哲学的な姿勢を身につける。哲学的思考の欠落が原因で起きた問題や課題を取り上げ、本質を理解することで、あらゆるスポーツやフィールドにおいて求められる哲学的思考を養うとともに、健全な精神のもとにスポーツを実践するための自分なりのスポーツ哲学を築き上げる力を養うことを目標とする。	
専門教育	学科専門	必修科目	自身とは異なる文化や社会に属する他者を理解するセンスや、グローバルな発想を養うことを目的としている。現代社会の様々な課題において、普遍的な人類愛と良識をもって、それらに対処できる能力や姿勢を身につけるため、グローバル社会の多様な思想や文化、歴史、政治等の実情を紹介しつつ、その中で求められるグローバル人材にとって必要な姿勢を考察する。とりわけ、スポーツや健康を取り巻く場面における多くの具体的な事例を紹介し、グローバル社会においてスポーツや健康が直面する多彩な問題に触れながら、普遍的かつ実践的な対応力の獲得を目指す。	
専門教育	学科専門	必修科目	健康づくりのために実施されている数種類（有酸素、レジスタンス、柔軟性等）のトレーニングとウォーミングアップ、クールダウンの具体的な方法を体験することを目的とする。トレーニング実施に先立って健康上の注意事項確認、簡易な体力評価を実施し、トレーニング施設の使用方法等についても解説しながら、実践に取り組む。有酸素およびレジスタンストレーニングでは負荷設定のための測定やトレーニングプログラムの作成を一定期間継続し、自身の変化を観察、体感していく。レジスタンストレーニングではフリーウエイトの扱い方を学習し、リスク管理を心掛けた使用ができるようになることを目指す。更に、フリーウエイト基本3種目では怪我に繋がらない適切なフォームで実施ができるようになることを目指す。	
専門教育	学科専門	必修科目	健康スポーツ科学に携わる上で様々なスポーツを経験し、健康に資するスポーツの多様性と可能性を理解することは大切なことである。そこで、場所を取らず身近なスポーツとして、アリーナ（体育館）で実施するスポーツ（バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、フットサル、卓球、バドミントン、フラッグフットボール等）を対象として、健康に対する各競技の可能性を理解した上で、あわせてそのルールや戦略、戦術等に関して学ぶ。このような目的のもとに「健康スポーツアクティビティⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD」を配置し、4種目を経験できるようにする。高等学校までの体育実技より高度な技術や戦術を学ぶことを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	必修科目	健康スポーツ科学に携わる上で様々なスポーツを経験し、健康に資するスポーツの多様性と可能性を理解することは大切なことである。そこで、場所を取らず身近なスポーツとして、アリーナ（体育館）で実施するスポーツ（バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、フットサル、卓球、バトミントン、フラッグフットボール等）を対象として、健康に対する各競技の可能性を理解した上で、あわせてそのルールや戦略、戦術等に関して学ぶ。このような目的のもとに「健康スポーツアクティビティⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD」を配置し、4種目を経験できるようにする。高等学校までの体育実技より高度な技術や戦術を学ぶことを目的とする。	
専門教育	学科専門	必修科目	健康スポーツ科学に携わる上で様々なスポーツを経験し、健康に資するスポーツの多様性と可能性を理解することは大切なことである。特にダンスは小学校以降の体育教育にも導入されており、スポーツ振興への汎用性が高い。そこで、ダンス系スポーツ（エアロビックダンス、ヒップホップダンス、ブレイクダンス、ジャズダンス等）を対象として、健康に対する各競技の可能性を理解した上で、あわせてその技術や楽しさ、指導法等に関して学ぶ。このような目的のもとに「健康スポーツアクティビティⅢA・ⅢB」を配置し、2種目を経験できるようにする。高等学校までの体育実技より高度な技術や戦術を学ぶことを目的とする。	
専門教育	学科専門	必修科目	健康スポーツ科学に携わる上で様々なスポーツを経験し、健康に資するスポーツの多様性と可能性を理解することは大切なことである。特にダンスは小学校以降の体育教育にも導入されており、スポーツ振興への汎用性が高い。そこで、ダンス系スポーツ（エアロビックダンス、ヒップホップダンス、ブレイクダンス、ジャズダンス等）を対象として、健康に対する各競技の可能性を理解した上で、あわせてその技術や楽しさ、指導法等に関して学ぶ。このような目的のもとに「健康スポーツアクティビティⅢA・ⅢB」を配置し、2種目を経験できるようにする。高等学校までの体育実技より高度な技術や戦術を学ぶことを目的とする。	
専門教育	学科専門	必修科目	基礎科目となる解剖学、生理学、運動生理学、バイオメカニクスの領域からトレーニング学への理解を深めることを目的とする。具体的には、解剖学的な筋の起始停止とレジスタンスエクササイズ、ストレッチングの関係性の理解、心肺機能と有酸素トレーニングの関係性の理解、レジスタンスエクササイズと人の動きの関係性の理解を目指す。更には有酸素、レジスタンストレーニング、柔軟性トレーニングのプログラム作成ができるようになることを目指す。	
専門教育	学科専門	必修科目	健康スポーツ科学に携わる上で様々なスポーツを経験し、健康に資するスポーツの多様性と可能性を理解することは大切なことである。そこで、そこで、場所を取らず身近なスポーツとして、アリーナ（体育館）で実施するスポーツ（バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、フットサル、卓球、バトミントン、フラッグフットボール等）を対象として、健康に対する各競技の可能性を理解した上で、あわせてそのルールや戦略、戦術等に関して学ぶ。このような目的のもとに「健康スポーツアクティビティⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD」を配置し、4種目を経験できるようにする。高等学校までの体育実技より高度な技術や戦術を学ぶことを目的とする。	
専門教育	学科専門	必修科目	健康スポーツ科学に携わる上で様々なスポーツを経験し、健康に資するスポーツの多様性と可能性を理解することは大切なことである。そこで、そこで、場所を取らず身近なスポーツとして、アリーナ（体育館）で実施するスポーツ（バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、フットサル、卓球、バトミントン、フラッグフットボール等）を対象として、健康に対する各競技の可能性を理解した上で、あわせてそのルールや戦略、戦術等に関して学ぶ。このような目的のもとに「健康スポーツアクティビティⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD」を配置し、4種目を経験できるようにする。高等学校までの体育実技より高度な技術や戦術を学ぶことを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	必修科目	健康スポーツ科学に携わる上で様々なスポーツを経験し、健康に資するスポーツの多様性と可能性を理解することは大切なことである。そこで、競技としての歴史が比較的浅い現代的なスポーツとして、アーバンスポーツやアウトドラスポーツ（スポーツクライミング、スケートボード、ロープスポーツ、マリンスポーツ、スノースポーツ等）を対象として、健康に対する各競技の可能性を理解した上で、あわせてそのルールや技術、楽しさ等に関して学ぶ。このような目的のもとに「健康スポーツアクティビティⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD」を配置し、4種目を経験できるようにする。高等学校までの体育実技で扱わなかった種目にも触れるとともにより高度な技術や戦術を学ぶことを目的とする。	
専門教育	学科専門	必修科目	健康スポーツ科学に携わる上で様々なスポーツを経験し、健康に資するスポーツの多様性と可能性を理解することは大切なことである。そこで、競技としての歴史が比較的浅い現代的なスポーツとして、アーバンスポーツやアウトドラスポーツ（スポーツクライミング、スケートボード、ロープスポーツ、マリンスポーツ、スノースポーツ等）を対象として、健康に対する各競技の可能性を理解した上で、あわせてそのルールや技術、楽しさ等に関して学ぶ。このような目的のもとに「健康スポーツアクティビティⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD」を配置し、4種目を経験できるようにする。高等学校までの体育実技で扱わなかった種目にも触れるとともにより高度な技術や戦術を学ぶことを目的とする。	
専門教育	学科専門	必修科目	健康スポーツ科学に携わる上で様々なスポーツを経験し、健康に資するスポーツの多様性と可能性を理解することは大切なことである。そこで、競技としての歴史が比較的浅い現代的なスポーツとして、アーバンスポーツやアウトドラスポーツ（スポーツクライミング、スケートボード、ロープスポーツ、マリンスポーツ、スノースポーツ等）を対象として、健康に対する各競技の可能性を理解した上で、あわせてそのルールや技術、楽しさ等に関して学ぶ。このような目的のもとに「健康スポーツアクティビティⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD」を配置し、4種目を経験できるようにする。高等学校までの体育実技で扱わなかった種目にも触れるとともにより高度な技術や戦術を学ぶことを目的とする。	
専門教育	学科専門	必修科目	健康スポーツ科学に携わる上で様々なスポーツを経験し、健康に資するスポーツの多様性と可能性を理解することは大切なことである。そこで、競技としての歴史が比較的浅い現代的なスポーツとして、アーバンスポーツやアウトドラスポーツ（スポーツクライミング、スケートボード、ロープスポーツ、マリンスポーツ、スノースポーツ等）を対象として、健康に対する各競技の可能性を理解した上で、あわせてそのルールや技術、楽しさ等に関して学ぶ。このような目的のもとに「健康スポーツアクティビティⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD」を配置し、4種目を経験できるようにする。高等学校までの体育実技で扱わなかった種目にも触れるとともにより高度な技術や戦術を学ぶことを目的とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	近年、競技スポーツの現場においてはパフォーマンス向上のために「情報」を有効に活用することがアスリートや指導者にとって必須のスキルとなっている。更に、取り扱う情報の種類としてはいわゆる「ビッグデータ」と呼ばれる従来とは比較にならないほどの大規模なデータや、スマホやタブレット等の普及により画像や動画等に移行しつつあるため、これらを活用する方法について新たに理解する必要がある。本講義では様々なスポーツや健康運動指導の場面における情報の測定や取得の方法、更に分析や加工、編集の方法に関する基礎的な知識を実際の競技場面での活用事例を交えて学習する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	選択科目	健康スポーツ統計	近年、学術分野だけでなくスポーツや健康運動の実践分野においても統計学が注目され始めている。スポーツの分野において勝利の確率を高めたり、勝利への貢献度が高い選手を発掘するにはデータに基づいて客観的に意思決定を行う必要があるが、そのためには統計学の利用が必須である。本講義ではスポーツや健康運動の分野のデータ分析に用いる基本的な統計的方法（データの関係性を数値化する相関分析、データの差を評価する検定、あるデータから他のデータを予測する回帰分析等）について理解し、表計算ソフトを用いて実際のデータに基づく分析を行う。これらの分析を通して実践的なデータ分析を行う技能を習得することを目標とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	運動学（運動方法学を含む）	人間の主観的な運動感に着目し、運動の発生や発達、その過程における指導方法を、個別スポーツ種目の方法論としてではなく、一般理論として学修する。具体的には人間の発育発達と運動感、および運動の発達との関係性、運動の発達段階と指導方法との関係性、運動が「できること」と「わかること」の関係性等について検討する。学びに必要な内的対話力、五感の理解のため、運動およびスポーツ経験を語る場を多く設け、様々な障がい者の運動感についても学ぶ。運動指導に関わる諸問題を運動学的視点から論じ、運動の構造と運動指導の関わり、運動の習得や発達の様相を説明できるようになることを目標とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	コーチング概論	スポーツにおいて、競技者やチームを育成し、目的や目標の達成に向けたサポートをする活動全体としてのコーチングに関連する基礎的な知識を獲得することを目的とする。具体的には、コーチングに関する諸概念について多角的な視点から概観をし、国内外の動向やコーチング現場における諸問題についての議論をすることを通して、多様な文脈における効果的なコーチングを実践するための要点について説明できるようになることが期待される。	
専門教育	学科専門	選択科目	力学基礎	様々な物理量（距離、質量、力等）を学習することで、物体に働く力と運動の関係を理解することを目的とする。授業を通して、日常的な人の動きやスポーツ動作の裏に隠れる物理法則を導き出し、解釈するための基礎的な理論を学ぶ。また、人の動きを観察し、力学の知識と融合して評価できるようになることを目標とする。この授業は、「力学演習」および「バイオメカニクス」を学ぶ上で必要な基礎的知識を習得するものであり、これらを履修するための必須科目とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	生理学	生命機構の中の呼吸・循環機能、排泄、消化吸収、内分泌について分子レベルの機序と合わせながら学ぶことを主たる目的とする。我々生命体は、生命力の表現としてのホメオスタシス、トレーナビリティ、自然治癒力を有しているが、それらの原理は細胞や組織、更には分子レベルの現象に生き生きと現れているのと同時に、これらの現象が、器官や系統へと発展してゆく。これらを理解し、健康スポーツ科学を学ぶ上での人体構造の基礎知識を身につけることを目標とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	解剖学	人体構造の中で運動に関わる骨と筋の名称と存在部位を理解するとともに、それらの機能の理解を深めるために、諸動作に関連づけた筋の働きを説明できるようになることを目的とする。前半では、体幹、上肢、下肢、頭蓋の順番で骨のマクロ的学習を進め、その後、関節の構造と働きやそれを補強する靱帯について学ぶ。後半では筋のマクロ的な形態と作用について学び、各筋がそれぞれの機能に見合う形態をなしていることについて理解を深める。健康や身体活動、スポーツに関する正しい基礎知識のうえに思考判断できるようになることを目標とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	レクリエーション実習	近年、教育施設や福祉施設において、レクリエーション活動を通じたコミュニケーションの促進、信頼関係づくりや居場所づくり、心身の健康促進といった効果が注目されており、レクリエーション活動を支援できる人材が必要とされている。そうした状況を踏まえ、様々なレクリエーション活動の実践を通じて、心や身体、生活を活性化させる楽しさを体験し、レクリエーションの意義と支援方法を学ぶ。また、レクリエーション活動を基盤とした、アイスブレイキング、ネイチャーゲーム、イニシアティブゲーム、ニュースポーツ、目的別のレクリエーションワークの支援方法を体験的に学び、支援技術の向上を図る。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容
専門教育	学科専門	選択科目	レクリエーション論	近年、教育施設や福祉施設において、レクリエーションを通じた心身の健康促進、信頼関係づくりや居場所づくりが注目されている。そうした状況を踏まえ、現代社会におけるレジャー・レクリエーションの意義と、レクリエーション支援の素地となる各種理論を理解することを目標とする。そのために、レクリエーション概念の背景、対象者にとっての楽しさに関する理論、対象に応じたレクリエーション支援、レクリエーション支援者としての心構え、レクリエーション支援プログラムの立案方法、レクリエーション活動の安全管理等について学ぶ。
専門教育	学科専門	選択科目	公衆衛生学	ヒトの病気の歴史は感染症との戦いの歴史であった。感染症の原因が解明され対策が取られるに従って、平均寿命の延伸を手に入れた。現代では、ライフスタイルが健康に大きな影響を及ぼすことが明らかとなり、生活習慣病という新たな視点からの取り組みが求められるよう変化している。そこで、衛生統計の各種指標、日本の健康水準、感染症、予防のための法律・制度について学んでいく。また、産業保健や学校保健における現状、実施されている事業についても理解する。我が国の健康水準の現況や公衆衛生制度・公衆衛生対策の概況を説明できるようになることを目標とする。
専門教育	学科専門	選択科目	生涯スポーツ論	現代社会における少子高齢化、都市化、生活の利便化等に伴う健康問題を背景に、すべての人々が参加できる生涯スポーツ社会の実現が期待されている。そうした状況を踏まえ、生涯学習の観点から人とスポーツとの関わりについて学ぶ。生涯スポーツの変遷、スポーツ政策、対象者に応じたスポーツ参加の特徴等の多様なトピックを通じて、人々の健康づくりと生活の質向上に寄与する生涯スポーツの役割と重要性について理解を深めることを目標とする。
専門教育	学科専門	選択科目	精神保健学	精神疾患の治療・リハビリテーション・予防とともに、心の健康をいかに保持・増進していくか、また、それに寄与する様々な活動・機関・施策について理解を深める。ストレスの多い現代社会において、心の健康は大変重要なテーマであり、心の健康・病理を考えるためには、個人の特性・ヒトやモノとの相互作用・制度や偏見等の社会のありよう、時間の経過に伴う変化等の事象を多角的に捉える必要がある。これらの課題に対する支援方法について学び、説明することができるようになることを目標とする。
専門教育	学科専門	選択科目	アダプテッドスポーツ実習	ルールに基づく既存のスポーツに人間が合わせるのではなく、スポーツをする主体である人間に合わせたスポーツを想像し、創造していくことを実技や演習を通じて学び、「アダプテッドスポーツ」という考え方について総合的に学修する。具体的には、障がい児者、子ども、高齢者等様々な背景を有する人間に適応した運動やスポーツのあり方や具体的な方法論について、例えばアイマスクや車いす等の用具を活用した疑似体験等に取り組む。また、全国障害者スポーツ大会で採用されているスポーツ種目の体験も取り入れ、ルールや留意点も学ぶ。

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	選択科目	健康スポーツ文化論	健康やスポーツを文化として捉え、世界各地に伝わる伝統的なスポーツや健康の文化的な側面について人文社会学的な視覚から学ぶ。授業においては大きく健康とスポーツの二つの領域に分けて扱うことになる。世界各地には、健康やスポーツに関わる様々な文化が伝えられ、現代社会においてもなお、それら伝統的な文化は人々の信仰や風習の中に根付き、現代の社会生活の中で実践されていることが少なくない。そのような、健康やスポーツの文化的な側面の具体的な実態を横断的に紹介しながら、それらがどのような文化的、思想的な背景のもとに今に受け継がれ、実践されているのかを学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (15 細谷洋子／3回) レクリエーションや民族舞踊の社会文化的な性格とその理解についてグローバルな観点から講義 (21 熊澤拓也／6回) スポーツの社会文化的な性格とその理解についてグローバルな観点から講義 (2 木内明／6回) 健康の社会文化的な性格とその理解についてグローバルな観点から講義	オムニバス方式
専門教育	学科専門	選択科目	運動生理学 I	運動生理学は、運動に対する身体の応答や運動の継続（トレーニング）による身体の適応、そしてそれらのメカニズムを研究し明らかにする学問である。トレーニングが健康の維持増進や運動能力の向上に効果的であることが一般的に認識されている一方でそれらトレーニング効果のメカニズムに関しては、広く知られてはいないのが現状である。本授業では、運動・トレーニングに対する身体の応答や適応、およびそれらのメカニズムについて学び、各機能の理解を目指す。	
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツと応急処置	スポーツ現場でよく起こる外傷・障害に対して、スポーツ現場に携わる側がとる行動パターンを学び実践することで、事象が起きた際に現場で対応ができるようになることを目標とする。具体的には運搬法、評価法、救急車の呼び方や対処法（応急処置法や固定法）を解説し、実際に実践する。更には、スポーツ現場でよく使われている足関節内反捻挫再発予防や膝関節内側側副靱帯損傷再発予防のテーピング等を中心に実践し、応急処置の基礎知識とスキルを身につける。	
専門教育	学科専門	選択科目	危機管理と救急法	教育職員および一般市民として、学校現場や社会生活の安全と人の生命を守るために必要な知識と応急手当等の手技を修得する。心肺蘇生法やAEDを使用した一次救命処置法の理論を理解し正しく実施できるようにするとともに、心停止・窒息・アレルギー等の急病や、頭部外傷・やけど・中毒・熱中症等の事故への応急手当が行えるようになることを目標とする。同時に、危機管理と災害への備えについても学び、有事に迅速な対応ができるようになることを目指す。	
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツマネジメント	1990年代後半から「スポーツマネジメント」という言葉に注目が集まっている。そのスポーツマネジメントの概念から本質を理解し、スポーツの場面において、どのような事象が起きているのか、更にはどのような問題があるのか、そして日本のスポーツ界が発展していくためにどのような取り組みが必要になるのかを学ぶ。具体的には、日本スポーツ界の方向性や諸外国の取り組みから背景を学び、その上でスポーツに関わる人・団体・イベント、スポーツにおける権利マネジメント、スポーツマネジメントと社会問題の解決等について学んでいく。スポーツとマネジメントの関係性やスポーツマネジメントの特徴を理解し、日本スポーツ界の発展に向けた提言ができるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)			
科目区分			備考
授業科目の名称			講義等の内容
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツビジネス
専門教育	学科専門	選択科目	医学概論
専門教育	学科専門	選択科目	外国語文献講読
専門教育	学科専門	選択科目	免疫と薬理
専門教育	学科専門	選択科目	生活習慣と健康
専門教育	学科専門	選択科目	健康スポーツボランティア活動A
専門教育	学科専門	選択科目	健康スポーツボランティア活動B

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	選択科目	国際健康スポーツ交流 B	本科目の目的は、国内外の様々な健康づくりやスポーツ活動の現場において展開される研修プログラムや留学プログラムに参加することであり、それまでに学んだ知識や技術、能力を実践の場でどれぐらい使いこなせるか試行するとともに、現場に出ることでは体験できない感覚や実践知を獲得することである。このような目的のもとに「国際健康スポーツ交流 B・C・D」を配置し、複数の体験からグローバルな学びを修められるようにする。具体的なプログラムの内容は毎年変わり、詳細は「国際健康スポーツ交流 A」や毎年度初めに行われる学年ごとの学科ガイダンス、プログラムごとに開催される説明会等で発表する。	
専門教育	学科専門	選択科目	国際健康スポーツ交流 C	本科目の目的は、国内外の様々な健康づくりやスポーツ活動の現場において展開される研修プログラムや留学プログラムに参加することであり、それまでに学んだ知識や技術、能力を実践の場でどれぐらい使いこなせるか試行するとともに、現場に出ることでは体験できない感覚や実践知を獲得することである。このような目的のもとに「国際健康スポーツ交流 B・C・D」を配置し、複数の体験からグローバルな学びを修められるようにする。具体的なプログラムの内容は毎年変わり、詳細は「国際健康スポーツ交流 A」や毎年度初めに行われる学年ごとの学科ガイダンス、プログラムごとに開催される説明会等で発表する。	
専門教育	学科専門	選択科目	国際健康スポーツ交流 D	本科目の目的は、国内外の様々な健康づくりやスポーツ活動の現場において展開される研修プログラムや留学プログラムに参加することであり、それまでに学んだ知識や技術、能力を実践の場でどれぐらい使いこなせるか試行するとともに、現場に出ることでは体験できない感覚や実践知を獲得することである。このような目的のもとに「国際健康スポーツ交流 B・C・D」を配置し、複数の体験からグローバルな学びを修められるようにする。具体的なプログラムの内容は毎年変わり、詳細は「国際健康スポーツ交流 A」や毎年度初めに行われる学年ごとの学科ガイダンス、プログラムごとに開催される説明会等で発表する。	
専門教育	学科専門	選択科目	解剖学実習	系統発生学的に我々人類の祖先であるネズミは、ヒトとは異なる運動形態や食性を持つものであり、また、神経系の発達度合いも異なる。そのような観点から、ラットを用いて各器官の組織標本を実際に作製し、それを観察することにより、ヒトにおける各器官の構造上の特徴を比較解剖学的見地から学び、その理解を深める。具体的には、ラットの下肢の筋、血管および神経を肉眼的に観察する。各器官の構造上の特徴を理解し、健康や身体活動、スポーツに関する正しい基礎知識のうえに思考判断できるようになることを目標とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	バイオメカニクス実習	「バイオメカニクス」の講義で学んだ物理量を計測し、それらの計測値を用いて、運動技術の分析および評価することを目的とする。2次元の動作解析の手法を学び、重心の定量および走動作や跳躍動作等の分析ができるようになることを目標とする。2次元解析の手法を用いて放物運動を分析し、ボールに生じる流体力やボールの飛距離の向上に関して議論をする。フォースプレートを使用し、跳躍動作中に足に生じる力を計測し、パフォーマンスの向上や怪我を最小限にするテクニックを計測値をもとに議論する。	
専門教育	学科専門	選択科目	生理・生化学実習	ヒトが日常生活を営み生きてゆくために、身体の中では極めて精密で複雑な機能が働いている。「生理生化学」の授業で学んだ人間の生命機構の現れである生理・生化学的現象を知識的、理論的知識をベースとして、生命体としての人体の日常的な働きとそのメカニズムを、生理学および生化学的手法を用いて実験することにより、事実を確かめていくことを目的とする。前半は生理学分野、後半は生化学および栄養生化学分野の実習をグループで行い、実習後は実習内容を小レポートにまとめることで、生理生化学への理解を深めていく。	

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	選択科目	運動生理学実習	人間の体は、生理的ストレスや環境ストレス等様々なストレスに対して応答し適応する。運動もストレスの一つであり、運動を行うことで呼吸器系、循環器系、代謝系、免疫系等様々な生体システムが応答し適応する。運動による身体の応答を理解するためには、実際に運動を行った時の身体の応答を測定し、評価することが重要である。そこで、「運動生理学」の授業で学んだ知識をベースとして、運動生理学分野の実験方法について学び、それらを用いて運動に対する身体の応答を測定し評価する。測定機器の取り扱いや生理学的パラメーターの測定方法を理解するとともに、運動による生理学的パラメーターの変化を理解し、正しく評価できるようになることを目標とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	フィールドワーク実習	「健康」「スポーツ」「文化」といったキーワードに関連する多様な社会的課題に取り組むことを目的とし、テーマに応じた手法を用いたフィールドワークを実践する。フィールドワークについての理解に始まり、方法論、調査および成果集約の技法等を学んだ後、企画立案、計画・実施、成果発表を行う。フィールドワークの技法を理解し、計画に基づき調査を実行すること、その成果をまとめ発表することができるようになることを目標とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツのコーチング理論Ⅰ	スポーツの指導において、選手の運動技能や競技力の向上と共に心理的な発達を促す指導に必要な基礎的知識および概念を理解することを目的としている。具体的には、リーダーシップ理論、動機づけ、アスリートのパーソナリティ発達等、スポーツ指導者として、選手を理解する上で必要な基礎的知識および概念を学んでいく。こういった基礎的知識に基づいて、指導現場で発生する諸問題を適切に理解し、解決する土台を作っていくことを目指す。	
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツのコーチング理論Ⅱ	スポーツコーチが、競技者やチームを育成し、目的や目標の達成に向けたサポートをするために必要とされる能力を理解することを目的とする。具体的には、スポーツコーチの基本的な役割とされる(1)ビジョンと戦略の設定、(2)環境の整備、(3)人間関係の構築、(4)練習での指導と競技会への準備、(5)現場に対する理解と対応、(6)学習と振り返りに関連する理論や原理原則を理解することが期待される。	
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツのコーチング演習Ⅰ	スポーツの指導において、選手の運動技能や競技力向上と共に心理的な発達を促す指導に必要な知識や概念を応用し、スポーツの指導現場で生じる課題に対し、対応できる実践力を養うことを目的としている。具体的には、実際に指導現場で生じ得る事例を挙げ、選手および課題を理解する方法を学ぶ。その際、リーダーシップ理論、動機づけ、アスリートのパーソナリティ発達等、選手理解および課題解決に必要な基礎的知識および概念についても適宜確認していくこととする。	
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツ生理学	スポーツ生理学研究の成果やそれらのスポーツ現場への導入により、近年、様々な競技種目において競技力が向上している。また、スポーツ生理学の研究成果は、安全で健康により効果的なトレーニング法の開発等、競技力向上だけではなく、一般の人々の健康の維持・増進にも繋がっている。暑熱環境でのトレーニング、運動トレーニングと身体への適応等について最新のスポーツ生理学について学び、運動パフォーマンス向上や健康の維持・増進のためのスポーツ生理学を理解することを目指す。	
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツ心理学	スポーツ心理学の概論として位置づけられ、スポーツ心理学の基本的知識や、理論、概念、メンタルトレーニングの理論や実践方法を理解することを目的とする。概論として、心身相関や動機づけ、覚醒とパフォーマンスの関係、運動学習、スポーツとパーソナリティ、コーチングの心理学、スポーツと集団について学んだ上で、メンタルトレーニング（リラクゼーション技法、イメージ技法、ピークパフォーマンス分析）の学びを進めていく。また、ジュニア期のスポーツと心理的発達、スポーツにおけるメンタルトレーニングや心理サポートの事例研究についても学ぶことで、スポーツ心理学の理論を兼ね備えた実践力を身につけることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	選択科目 力学演習	「力学基礎」で習得した知識を応用し、様々な物理量を示す関係式を学び、それらを用いて数値計算を行うことで、「力学基礎」で学んだ理論の更なる理解を深めることを目的とする。距離、角度、速度および加速度等を示す関係式を学び、物体の動き（人の動きを含む）をそれらの物理量を用いて説明できるようになることを目標とする。また、運動方程式を解くことにより、物体（人を含む）に生じる力を計算できるようになることを目標とする。加えて、実験室にて様々な機器を用いて上述した物理量の計測を行い、その計測値を解釈し、物体の動きや物体に生じる力を理解することを目指す。	
専門教育	学科専門	選択科目 バイオメカニクス	力学の知識を応用し、歩く、走る、跳ぶ、投げる、蹴る、打つ、泳ぐ等の様々な運動中に人体に生じる力と運動の関係を理解することを目的とする。物理法則を用いて運動技術を客観的に捉え、説明できることになることを目標とする。また、バイオメカニクスの知識を活用して、様々な運動に関してパフォーマンスの向上や運動中の怪我を最小限にする提案ができるようになることも目標とする。この講義を履修するにあたり、「力学基礎」を必ず履修すること、また「力学演習」は履修することが望ましい。	
専門教育	学科専門	選択科目 センシング技術	センサを使用して様々な情報を計測し数値化する技術の総称であるセンシング技術は、近年急激に発展しているIoTに必要な不可欠な技術であり、今後もますますその需要は高まると考えられる。本講義では光や温度、衝撃の大きさ等を測定・数値化して健康管理技術、建築、交通、農業分野への応用が期待されているスマートセンシング技術や人工衛星に搭載されたセンサから地球を観測してGPS等に応用されているリモートセンシング技術について紹介する。更にこれらの技術を用いたセンサを搭載するIoTデバイスを作成する際に必要となる知識について学習し、IoT開発の基礎的知識を習得することを目指す。	
専門教育	学科専門	選択科目 プログラミング演習（データ処理含む）	プログラミングを行う上で必要となる技術を習得するために演習形式で授業を行う。プログラミング言語として表計算ソフトのExcelで用いるマクロ言語のVBA（Visual Basic for Applications）と近年データ分析やAI（人工知能）、IoT等の分野で広く使用されているPythonを題材とする。これらの言語を用いたプログラムの作成および実行の方法について理解し、データを処理するプログラムを作成できるようになることを目的とする。更にPythonのデータ解析ライブラリであるPandasを用いた様々なデータ分析方法について学習する。	
専門教育	学科専門	選択科目 人体組織学	生命を維持し、運動器を動かすためのエネルギー産生とその輸送に関わる器官、すなわち種々の臓器と脈管系を主としてミクロの視点から形態と構造について理解することを目的とする。前半では、(a)口唇から肛門に至る消化管および唾液腺、膵臓、肝臓からなる消化器系、(b)鼻腔から気管・気管支および肺からなる呼吸器系、(c)腎臓、尿管、膀胱および尿道からなる泌尿生殖器等について、後半では、脈管学として心臓、動脈、静脈、リンパ管系ならびに胎児期循環についての学びを進める。これらを通して人体組織に関する知識のもとに健康づくりを支援できるようになることを目標とする。	
専門教育	学科専門	選択科目 機能解剖学	顔面神経麻痺で顔の表情に異変が見られることや、脳卒中や脊髄損傷によって左右の半身や下肢等の特定部位に麻痺が生じるのは、それぞれの筋が固有の神経によって支配されているためである。そのような健康問題を考えていく上で重要な神経系成り立ちと働きについて理解することを目的とする。筋の支配神経の理解を得やすくするために、脳や脊髄の中樞神経、脳神経と脊髄神経および自律神経からなる末梢神経といった人体全体の神経の分布状態を理解する。全てのライフステージや生活状況にある人々を理解し健康づくりを支援できる知識を修得することを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	選択科目	運動生理学Ⅱ	生活習慣病や加齢に伴う高齢者の体力低下が社会問題となっている中、高齢になっても健康で活動的な生活を送るためには、適切な運動処方について学び、若い頃から日常的に実践していくことが重要である。そこで、運動処方の必要性、症状に応じた運動効果とアプローチ方法（トレッドミル、自転車エルゴメーター等）、体力測定法、運動プログラムの作成法について学んでいく。日本人の健康の現状と課題について理解の上で、運動負荷試験の方法や結果を理解し、適切な運動プログラムが作成できるようになることを目指す。	
専門教育	学科専門	選択科目	生化学	生命の営みの物質的な基礎知識について学ぶことを主たる目的とする。生命は、タンパク質、糖質、脂質、核酸とビタミン等の低分子物質がそれぞれの機能を分担することで維持されている。それぞれの物質の構造を学び、更にその構造がどのように細胞機能や、筋運動、感覚、制御機能の発揮と関連するのかを理解する。これらの学習を通し、健康づくり、運動トレーニング、食事等に関して科学的に思考する力を身につける。	
専門教育	学科専門	選択科目	運動疫学	感染症の原因が解明され、病気への対策が取られるに従い、平均寿命が延伸した一方で、現代社会においては生活習慣病への取り組みが求められ、個人のみならず地方自治体から国、世界と多岐、広範囲に渡り対策が求められるようになった。そこで、環境問題と健康、産業衛生、疫学と運動について学び、現代の社会状況や健康問題、対策を理解するとともに、運動、健康問題について疫学手法を用いて評価できるようになることを目指す。	
専門教育	学科専門	選択科目	健康社会学	個人の主観的健康観からWHOが掲げる健康の定義に至るまで、健康に関する様々な概念を社会的側面を中心に理解することを目的とする。健康社会学の起源や関連する諸科学の理解に始まり、健康行動の種類やその成立プロセスとしての保健的社会化、保健的社会化の中心的担い手となる保健的小集団やまちづくり・市民活動の体制等について、ワークショップを交えながら理解を深める。社会全体を通じた健康創造の必要性を理解し、健康スポーツ科学の専門家として知識と思考力を身につける。	
専門教育	学科専門	選択科目	ヘルスプロモーション論	各ライフステージで展開されているヘルスプロモーション活動について、生活習慣を中心とした個人的健康管理の方法から行政的な健康管理や環境づくりの取り組みについて理解することを目的とする。他の健康関連科目の知識を基本としながら、WHOのヘルスプロモーションの考え方を中心に具体的な健康づくりの方法に関して学ぶ。肥満や喫煙等の具体的な健康課題に対するヘルスプロモーションの方法も取り上げ、理論から応用までの知識を身につける。	
専門教育	学科専門	選択科目	高齢者健康スポーツ指導法	介護予防活動等の高齢期の健康づくりを実践する能力を習得することを目的とする。高齢期の健康問題や必要な生活機能、機能維持に関する基礎知識を理解した上で、健康づくりプログラムの作成に取り組む。包括的プログラムから生活習慣病の症状や疾患に応じた適切な運動療法プログラムまであらゆるケースを学ぶとともに、学行動変容を意図したプログラム開発やカウンセリング、介護予防と運動を実践することで、高齢期の健康問題を適切に理解するとともに、健康づくりプログラムの適切な指導方法を習得する。	
専門教育	学科専門	選択科目	子ども健康スポーツ指導法	現代の子どもたちを取り巻く環境（三間の減少・時間・空間・仲間）等を理解し、どのような運動を子ども達と実践すれば良いのかを体験を通して学んでいく。リズムダンスや手遊び、組立体操、手具体操、器具体操、エクササイズ等、あらゆる運動あそびをできる限り数多く体験・修得し、子ども達の前に立つべき指導者としての心得や姿勢を感じ合い、身につける。また、運動あそびのアレンジ・創作・指導を実践できるようになることを目指す。	
専門教育	学科専門	選択科目	健康教育学	健康の考え方やその保持増進の方法は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきている。現代の健康に日常生活の過ごし方が大きな影響を及ぼしていることを理解した上で、生涯を通じて各年代における健康問題に適切に対応する必要性や対処法としての健康教育を理解することを目標とする。健康教育の背景となる健康問題、健康教育に関連した行動理論および教育技法について学習し、行動科学モデルを踏まえて健康問題への対応方法を提案できるようにすることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	選択科目	学校環境衛生実習	公衆衛生の基礎知識を学んだ上で、学校における環境、健康維持に必要な専門知識を体得することを目的とする。ADL、運動能力、活動量と健康課題、口腔衛生環境（う蝕）、環境（粉じん・空気成分、粉じん・空気成分、騒音・照度、紫外線、温熱）等について学び、実習を通してデータ処理（データ整理、グラフ化、解析）まで行う。理論を踏まえて実習結果を理解し、実習によって得られた諸現象から基本的な原理、身体との関連性を説明できるようになることを目標とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	学校保健（小児保健を含む）	学校管理下で児童生徒の精神的・身体的健康を保持増進し、学校生活を健康的に過ごす能力や知識を身につける教育活動として、保健指導、保健教育、保健管理、安全管理等を学ぶ。学校現場において必要とされる学校保健に関する知識や教員として携わる学校保健活動、子どもの発育発達、現代的な健康課題の現状と対策、学校健康診断と健康評価、学校環境衛生、学校安全等の学校保健の現状や集団の健康管理、安全管理等について理解する。	
専門教育	学科専門	選択科目	障がい者スポーツ論	障がい者スポーツの全体像や課題を理解し、これからの障がい者スポーツを含むスポーツのあり方を学ぶことを目的とする。そのために障害がある人の暮らし、人生、障害がある人を取り巻く政策、制度、スポーツに対する文化等々に着目する。特にマクロレベル（政策：障がい者スポーツに対する国の方向性等、制度：障がい者スポーツに関連する法制・障がい者スポーツ関連団体等）、メゾレベル（法制をもとに展開される各種施策（教育関連・福祉関連・スポーツ関連等々、地域の取り組み等々）の視点から障がい者スポーツを学ぶ。日本障がい者スポーツ協会：初級障がい者スポーツ指導員の基準カリキュラムに準拠して構成する。	
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツ史	スポーツの歴史を学ぶことで現状に至った経緯・原因を知るとともに、現在を相対化し客観的に捉える為の参照点を得て、今後のスポーツを展望することができるようになることを目的とする。毎回、対象となる1つの時期区分を設定し、その対象時期に関する歴史的事実を紹介しながら、抽象的・理論的な解説も加えていく。前半では世界全体におけるスポーツの歴史を扱い、後半では日本におけるスポーツの歴史に焦点を当てる。	
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツ社会学	社会には様々なライフステージや生活状況にある人々があり、そのような人々のスポーツとの関わり方も多様である。本講義の目的は、スポーツと社会との多様な関係や、スポーツが社会の中で果たす役割、スポーツが社会にもたらす影響・問題等を理解した上で、それらを主体的に発見し、複眼的な観点から分析できるようになることである。毎回1つのテーマを設定し、そのテーマに関する具体例を紹介しながら、抽象的・理論的な解説を加えていく。	
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツ人類学	スポーツは人間の営みの中から生まれ、歴史の中でそれぞれに特徴ある文化的基盤のもとに独自の姿に発展してきたが、現代社会における「スポーツ」は、競技スポーツのイメージが大きな割合を占め、世界的な規模で普遍化したルールの下で、アスリートによって実践される運動競技としての姿に偏って象徴化されて理解されている。「余暇」「娯楽」「不真面目なこと」等の語義を含む、最広義に理解されるスポーツについて、文化人類学的な立場からその文化的な背景や信仰との関わり等を取り上げながら、人類文化としてのスポーツの持つ個性と普遍性について学ぶことで、人々の営みに寄り添ったスポーツの価値を理解する。	
専門教育	学科専門	選択科目	日本文化とスポーツ	日本文化の歴史の歩みの中で確立された日本独自のスポーツを知り理解を深めることを目的とする。中でもグローバル化に最も成功し海外の人々から大きな関心が寄せられている武道を中心に引き上げる。競技としての武道に加え、日本文化の一つと言えるまでに至った背景等も学ぶことで、日本の歴史や文化、精神の理解にも繋げていく。また、これらの知識を得ることは異国の人々とコミュニケーションをとる上で有意義なものであり、延いてはグローバル社会への対応にも繋げる一助となる。	

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	選択科目	国際開発論	21世紀に入り、MDGsやSDGs等国際社会共通の開発目標が掲げられ、地球規模の課題に対し人類全体で取り組むことが求められている。2001年には国連に平和と開発のためのスポーツ局（UNOSDP）が設置される等、地球規模の課題を解決する手段の1つとしてスポーツの重要性に注目が集まり始めている。スポーツがどのような形で地球規模の課題解決に貢献できるのかを具体的な事例を取り上げながら学ぶことで、国際社会におけるスポーツの可能性を理解し、広い視野で物事を捉える姿勢を身につける。	
専門教育	学科専門	選択科目	国際交流論	自身とは異なる社会や文化の人々と交流し、コミュニケーションを図る上で、欠くことのできない異文化に対する理解や、異文化間の交流のあり方を学ぶ。異文化に属する他者を理解する上で求められる、諸文化圏の歴史や宗教、風習、言語等、世界が様に近代化しつつも確実に異なる言動の背景にある伝統文化や信仰等について学ぶ。また、その時々日本の社会事情や海外の動向を踏まえ、現実的に理解が必要となる特定の国を想定して、その社会において常識として備えている歴史や文化を学び、理解の一助とする。その上で、その文化的背景を理解した上での交流の方法を考える。	
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツ栄養学Ⅰ	障害なく運動を実施し、パフォーマンスを向上させるためには、食・栄養摂取が大きな役割を果たす。運動により引き起こされる身体の変化を栄養学的に学び、身体諸機能との関連、運動後の回復を理解することを目的とする。身体組成や生理機能、運動による消費エネルギー、栄養素の必要量変化等の一連の基礎的仕組みを理解した上で、栄養評価や栄養指導、食事のとり方について学ぶ。	共同
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツ栄養学Ⅱ	「スポーツ栄養学Ⅰ」での学びを深め、対象者の目標に応じた栄養サポートの立案を理解することを目的とする。体づくりや持久力向上、疲労軽減のための栄養について知識を身につけ、対象者の特性や身体活動状況に応じた栄養管理・サポートの考え方を学ぶ。身体活動状況や食事摂取状況を評価する方法や対象者の目標（体づくり、持久力向上、疲労の予防・回復）に応じた食・栄養摂取、対象者の特性に応じた栄養サポートを立案する際の要点を説明できるようになることを目標とする。	共同
専門教育	学科専門	選択科目	健康栄養学	子どもから高齢者、障がい者等の生涯にわたる健康づくりを指導する際に必要となる、栄養学的根拠に基づいた知識を修得することを目的とする。栄養学の基礎と栄養代謝の内容を学び、疾病予防や健康の維持・増進のために適切な栄養と休養がいかに重要かを理解する。また、生活習慣病予防や治療のための食事療法についても学ぶことで、医療、介護、福祉、教育等様々なフィールドにおける栄養・食生活の基礎知識を深める。	共同
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツ医学Ⅰ（内科）	子どもから高齢者までの心身の健康保持増進のための身体活動、スポーツ実践者が安全かつ有効に身体活動、スポーツを行うための医学知識を学ぶことを目的とする。具体的には、スポーツ活動前に実施するメディカルチェックの重要性、スポーツ活動と関連の深い疾患（突然死、スポーツ心臓、貧血、熱中症、内分泌系疾患や感染症等）の発症機序、予防と治療法等について、各回トピックを設定して解説していく。更に、救急処置法の理論と実施方法についても学ぶ。	
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツ医学Ⅱ（整形外科）	スポーツ実践者によく起きる（整形）外科的疾患について、医学的側面から学ぶことを目的とする。身体活動及びスポーツ活動前に実施するメディカルチェックの重要性について解説した上で、スポーツ活動と関連のある外傷・障害について各回部位別に取り上げ、発症機序、症状に対する治療法等を解説していく。加えて、性別、年齢別（子どもから高齢者）身体特徴を理解し、配慮すべき（整形）外科的疾患についても学ぶ。更に、スポーツ現場で起きた外傷への対応法の理論と実施方法も学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	選択科目	アスリートの健康（予防とマネジメント）	スポーツ現場でよく起きる外傷・障害と内科的健康問題の発生機序を理解の上で、健康問題ごとの予防策や発生後のマネージメントを理解することを目的とする。スポーツ現場でよく起きる外傷・障害については例を挙げ、その発生機序のメカニカルストレス等を解説し、評価手順、炎症反応、また、予防法、発生後の対処法について解説していく。内科的問題については症状、関連事項における予防策等について解説する。スポーツ現場においてアスリートの陥りやすい健康問題を概論的に学び、スポーツ現場でその知識を活かしたコンディショニング活動に繋げることを目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (6 岩本紗由美／8回うち共同1回) スポーツ現場で起きる外傷・障害の発生機序と医学的対処、内科的健康問題の症状と医学的対処 (20 二橋元紀／8回うち共同1回) スポーツ現場で起きた外傷・障害に対しての対処法と予防、内科的健康問題の予防策	オムニバス方式
専門教育	学科専門	選択科目	アスレティックトレーニング指導法	トレーニング指導の対象者や環境を理解し、目的にあったフィジカルトレーニングの重要性を理解することを目的とする。エクササイズを質的に捉える概念や動作を観察する意味を理解し、トレーニングの段階的プログラムの知識を実践に展開し深く学んでいく。ケーススタディとして目的を設定し、個人と集団に対してのプログラム作成と指導を実践していく。他者のプログラムデザインの指導を享受するとともに、自らの指導を通して気づきに繋げることで、適切なトレーニング指導ができるようになることを目標とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	トレーニングプログラミング論	体力要素別のフィジカルトレーニングやプログラム作成の方法を理解の上で、実際にプログラム作成に取り組むことを目的とする。学生間のディスカッションを多く取り入れた授業を展開し、他者のプログラム作成のアイデアを通して自らの気づきに繋げていく。体力要素別に例を挙げ、プログラム作成のアイデアを段階的に広げ、最終的にはトレーニング指導を依頼された幾つかのケーススタディについて学生本人がプログラムを作成し、授業内で他者とのディスカッションを行う。	
専門教育	学科専門	選択科目	アスレティックトレーニング論	トレーニングについての科学的背景、用語、体力要素別トレーニングの種類・目的を理解することを目的とする。特に、スポーツフィールドで実施されている代表的なフィジカルトレーニングについては、具体的なトレーニング方法を理解し、正しい知識を身につける。また、フィジカルトレーニングに関わる環境（指導者の役割、トレーニングプログラムの考え方、トレーニング施設、測定等）や、異なる対象者（疾患、高齢者、子供、女性）を考慮したトレーニング手法についても解説する。	
専門教育	学科専門	選択科目	アスレティックコンディショニング演習	アスリートに代表されるスポーツ実施者のコンディショニングを把握する具体的方法（調査法、測定法、観察法）の体験を目的とする。コンディショニングに関連するフィジカル的要因（フィジカルチェック：身体計測、体力測定等）を取り上げ、調査、測定を実践する。調査、測定から得られた情報をどのように解釈し実際のコンディショニングに繋げていくかを解説の上で、実際のコンディショニング例を体験していく。また、動作不良からスポーツ外傷・障害に発展する例を挙げ、観察法、測定法について解説していく。実践的コンディショニング例についても説明し、体験することで、理解を深める。	
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツ組織論	スポーツの発展には選手個人の努力の他、その選手を支える、管理する側のスポーツ組織の構築も期待されている。従来、自治体や学校、企業等に支えられてきた日本のスポーツ組織だが、近年ガバナンスやコンプライアンス等が求められ、またスポーツ団体の法人化等も期待されるようになってきた。スポーツ組織の成り立ち、運営方法、ガバナンス・コンプライアンス等を学び、スポーツ組織としてのあるべき姿を学ぶことによって、スポーツ組織のあり方を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）				
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容
備考				
専門教育	学科専門	選択科目	トップスポーツ論	今日の日本のスポーツ界において日本人選手の活躍が目覚ましいが、その陰には私達には知られていない苦労話や努力がある。また、トップで活躍している選手だからこそ語れる物語があり、そこには参考になる貴重な経験・教訓等もたくさん含まれている。トップアスリートをはじめ、スポーツ指導者、スポーツ競技団体職員等、トップカテゴリーで活躍した方々を招いた講義を行うとともに、トップスポーツの運営や取り巻く諸問題、国際的スポーツ競技大会の運営等についても学ぶことによって、様々な視点からトップスポーツを考察し、トップスポーツ界の課題や展望を理解することを目標とする。また、今後のキャリア形成のヒントにしていく。
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツ政策論	2000年スポーツ振興基本計画、2011年スポーツ基本法、2011年スポーツ基本計画（2017年第2期スポーツ基本計画）等、近年、日本のスポーツの方向性が大きく変わってきた。学校体育、企業スポーツからの脱却、スポーツ庁の創設、オリンピック・パラリンピックの開催、学校部活動問題、大学スポーツの収益化等、様々な場面で日本のスポーツは変わろうとしており、スポーツの産業化も期待されている。スポーツ基本法やスポーツ振興法、それらに関連する基本計画の変遷、スポーツ政策の具体的事例や課題を取り上げ、日本スポーツ界の変化を理解するとともに、社会におけるスポーツの意義や日本のスポーツ政策を考えることによって、スポーツ政策を提言できるようになることを目標とする。
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツ施設マネジメント	日本のスポーツ施設の多くは、公共スポーツ施設であり、その中には学校施設も多く含まれている。その一方で民間スポーツ施設の数は多くないと言われている。公共スポーツ施設には法律や条例等において様々な制約があり、本来、地域住民が皆で使用することが前提として作られていたが、時代の変化や地域住民のニーズの高度化、更にはプロスポーツの台頭、スポーツ施設の収益化等が求められる時代となり、そのマネジメントに注目が集まってきている。そこで、スポーツ施設のマネジメントに焦点をあて、スポーツ施設の歴史的背景や存在意義、管理運営方式、収益化、そして今後のあるべき姿等を学んでいく。
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツとメディア	オリンピック・パラリンピック、各種ワールドカップ、プロスポーツ等の発展には、メディアの力が欠かせないと言われている。特に国民の関心を引くスポーツは、メディアから発信される情報の力が大変大きい。そのためスポーツとメディアは正しい付き合い方をしなければならぬと考えられている。そこで、メディアが果たすべき役割、そしてスポーツにおいて果たすべきメディアの役割、更にはメディアの問題点等を学び、正しいスポーツとメディアの付き合い方に関して考えることによって、現代社会におけるスポーツとメディアのあり方を提案できるようになることを目標とする。
専門教育	学科専門	選択科目	地域スポーツクラブ論	現代社会において「地域」は多くの問題を抱えており、その問題の解決に対して、昨今、日本のスポーツ政策の中では「地域スポーツクラブ」による地域活性化が期待を集めている。そこで、地域スポーツクラブにフォーカスし、クラブをめぐる政策的な背景や現代的な意味、求められる機能といった基礎的な知識について触れていく。具体的な事例紹介を通じて地域とクラブをめぐる現実に向け、生のフィールドからクラブの問題や改善方策について議論することによって、今後の地域スポーツクラブのあり方を理解する。
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツマーケティング	1993年に開幕したJリーグを機にスポーツマネジメント・スポーツビジネスに注目が集まってきた。従来、教育として育ってきた日本のスポーツにはビジネス（マーケティング）という視点が足りなかったと言われている。プロスポーツやスポーツイベント、その他スポーツビジネスとしてのマーケティングの必要性や重要性に焦点を当て、その仕組みを学び、スポーツをビジネスとして成功させるためのマーケティングの知識を身につけることによって、スポーツマーケティングの可能性を見出せるようになることを目標とする。

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	選択科目	測定評価	人々の健康を得る手段としての身体活動や運動、競うためのスポーツに共通して必要な体力要素について、その測定項目と正しい測定方法を理解するとともに、実施時の留意点等についての理解も目指す。更に、測定で得られたデータの処理方法や評価法、フィードバックについても例を挙げて実践的に学ぶ。測定の信憑性、再現性の意味、複数回計測時の比較についての基礎知識も学ぶことで、正確な測定のもとに収集したデータを客観的に評価し、的確にフィードバックする力を身に付け、向上策や改善策を考案できるようになることを目標とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツの法と倫理	2011年スポーツ基本法の施行により、スポーツをする権利（スポーツ権）が明確化され、同時に日本のスポーツ界にガバナンスやコンプライアンスが意識づけられるようになってきた。また各種ワールドカップやオリンピック・パラリンピック等、世界的規模のスポーツ大会の開催により、私達のスポーツへの関心が一層高まってきており、更にスポーツの高度化、商業化においてより高い倫理観や法令遵守が求められるようになったと言われている。スポーツに関わる法律について考え、今後のスポーツの発展に活かしていくことを目的として、スポーツと法律の関係性を学ぶ。	
専門教育	学科専門	選択科目	身体文化論	人の身体は、誰にも欠かせない存在であり、ない人はいないという意味で人類にとって普遍的なものである。しかしながら、その実態は極めて個性的で、いわゆる民族や人種ごとに生理的、形質的な特徴も異なる。更に、その身体を文化的な側面からみると、個性性は多様を極め、伝統医療や身体観は、文化・社会ごとに大きく異なり、社会、文化ごとに認識が多様な身体文化もある。多様な文化、社会における、身体観、健康観、病気観等を取り上げながら、身体の文化的な側面の多様性について学ぶことで、身体や社会を考える契機とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	健康政策と行政	私達の健康は毎日の健康的な生活習慣によって維持・増進されている一方で、行政的な仕組みの中で管理されている。これらを認識し健康に関わる行政のシステムを理解することを目的とする。具体的には、一般衛生行政、学校保健行政、労働衛生行政、環境保全行政等の仕組みや内容について学ぶ。特に一般衛生行政に関しては、地域保健法の制定以降大きく変化している、国、都道府県、市町村の役割を理解し、地域の保健サービスの直接的担い手である保健所・保健センターの役割についての理解を目指す。	
専門教育	学科専門	選択科目	健康づくり運動指導法実習	健康づくりの専門家としての指導力、実践力を身につけることを目的とする。具体的には、ウォーキング、ジョギングの指導法や水泳・水中運動の指導法を取り上げる。これらのトレーニング方法や指導実技方法、運動特性や効果を網羅的に学習し、各運動の知識や技術を体得の上で、これらを活かした模範的な指導ができるようになることを目指す。また、健康運動指導士として必要な知識や技術の修得にも繋げる。	
専門教育	学科専門	選択科目	エアロビクス指導法	一般的に、ウォーミングアップ、メインエクササイズ、クールダウンで構成されるエアロビクスレッスンのうち、メインエクササイズの指導法について習得を目指す。8カウント×4(32カウント、右リード)のコンビネーションを作り指導する方法を実践的に学ぶ。ウォーミングアップや基本的な動きの練習を通して、手本の動きを修得し、決められた運動プログラムの指導練習を通して、本人の動きやキューイング、対面指導等、基本的な指導技術の修得を目指す。また、運動プログラムの作成方法を学ぶことで、オリジナルのプログラムを作成し指導できるようになることを目標とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	健康スポーツインターンシップA	健康スポーツに関わる現場等において就業体験を行い、得た知見・体験をキャリアパスに活用することを目的とする。インターンシップの理解や業種別ロールプレイの実施等の学びの後、延べ10日間以上のインターンシップに従事する。実施後には独自の業界研究等を加味したプレゼンテーションとディスカッションを行うことで、学びを深める。仕事に従事することの大切さを理解し、適切な業界や職種の分析・評価のもとに自らの関心・適性を定め、明確なビジョンの上に意識的かつ主体的に活動できるようになることを目指す。また、プレゼンテーション力等のスキル向上も目指す。なお、インターンシップ機会の充実を目的に「健康スポーツインターンシップA・B」を配置する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	選択科目	健康スポーツインターンシップB	健康スポーツに関わる現場等において就業体験を行い、得た知見・体験をキャリアパスに活用することを目的とする。インターンシップの理解や業種別ロールプレイの実施等の学びの後、延べ10日間以上のインターンシップに従事する。実施後には独自の業界研究等を加味したプレゼンテーションとディスカッションを行うことで、学びを深める。仕事に従事することの大切さを理解し、適切な業界や職種の分析・評価のもとに自らの関心・適性を定め、明確なビジョンの上に意識的かつ主体的に活動できるようになることを目指す。また、プレゼンテーション力等のスキル向上も目指す。なお、インターンシップ機会の充実を目的に「健康スポーツインターンシップA・B」を配置する。	
専門教育	学科専門	選択科目	健康スポーツ特別演習A	職業現場実践力の形成と、学生側の健康スポーツ関連企業のイメージ醸成のため、健康スポーツ関連企業の担当者から、健康スポーツ系企業の理念や方針、従業員に求める姿勢や能力、専門職としてのスキル等を学ぶ、企業人育成プログラムを展開する。学問としての知識・技術が実社会でどのように活きるのか、自身の志向や専門領域に適した企業で活躍するには何が必要なのかを理解し、自身のキャリアプランに繋げるとともに、職業選択に結びつける。このような目的のもとに「健康スポーツ特別演習A・B」を配置し、機会を充実させることで、専門職についての幅広い理解を目指す。	
専門教育	学科専門	選択科目	健康スポーツ特別演習B	職業現場実践力の形成と、学生側の健康スポーツ関連企業のイメージ醸成のため、健康スポーツ関連企業の担当者から、健康スポーツ系企業の理念や方針、従業員に求める姿勢や能力、専門職としてのスキル等を学ぶ、企業人育成プログラムを展開する。学問としての知識・技術が実社会でどのように活きるのか、自身の志向や専門領域に適した企業で活躍するには何が必要なのかを理解し、自身のキャリアプランに繋げるとともに、職業選択に結びつける。このような目的のもとに「健康スポーツ特別演習A・B」を配置し、機会を充実させることで、専門職についての幅広い理解を目指す。	
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツのコーチング演習Ⅱ	スポーツコーチが、競技者やチームを育成し、目的や目標の達成に向けたサポートをするために必要とされる能力を習得することを目的とする。具体的には、スポーツコーチの基本的な役割とされる(1)ビジョンと戦略の設定、(2)環境の整備、(3)人間関係の構築、(4)練習での指導と競技会への準備、(5)現場に対する理解と対応、(6)学習と振り返りに関連する理論や原理原則を多様な文脈におけるコーチング実践の中で効果的に応用することで、その能力を習得することが期待される。	
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツダイナミクス解析	バイオメカニクスの知識を更に深め、様々な動きに関して運動技術をより高度な次元で分析し、理解を深めることを目的とする。動作解析に加えて筋活動を考慮することにより、様々な視点から運動動作を分析・評価することを目指す。スポーツバイオメカニクスに関連する物理量を計測もしくは推定し、それらと物理法則を用いることにより、更なる運動技術の理解に努める。この講義を履修するにあたり、「バイオメカニクス」を必ず履修すること、また「バイオメカニクス演習」は履修することが望ましい。	
専門教育	学科専門	選択科目	シミュレーション演習	自然科学や社会科学分野で起こっている様々な現象を題材としたコンピュータシミュレーションを行うために必要となる基礎的な技術を習得することを目指すとし、演習形式で授業を行う。プログラミング言語としては近年データ分析やAI（人工知能）、IoT等の分野で広く使用されているPythonを用いてプログラムを作成する。作成したプログラムから得られる結果からシミュレーションに用いたモデルの妥当性や、モデルの精度を向上させる方法について検討する。取り上げる題材としては人口予測や感染症の流行等の自然科学モデル、在庫管理や待ち行列等の社会モデル、複数の自律的なエージェントの行為がシステム全体に与える影響を評価するエージェントベースモデル等となる。	

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツとコンディショニング	スポーツ実施者のコンディショニングについて理解することを目的とする。コンディショニングに関連する様々な要因を取り上げ、個々の要因について解説する。また、コンディショニング支える専門家とアスリートセンターのコンディショニングシステムや、実際のスポーツ現場で行われている実践報告を紹介する。更に、コンディショニング不良の例を挙げ、それに対しての解決策について学生同士のディスカッションを交え、スポーツ現場で実施するコンディショニングの理解を深める。	
専門教育	学科専門	選択科目	労働基準法	労働関係法規の支柱となす労働基準法（労基法）の基本知識や裁判例を学び、職場で生じている労働問題に関する労基法の役割を理解することを目的とする。労働者を取り巻く制度（採用、賃金、労働時間、有給休暇、休復職、退職・解雇、労災補償、打切り補償等）や労働問題（セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、非正規雇用、外国人労働者等）について学び、労基法の位置づけや役割を理解の上で、労基法がどのように労働者を保護しているのかを具体的に理解することを目標とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	労働衛生Ⅰ	労働衛生の概論として、働く人々の安全と健康を守り、快適職場形成のための理論と方法について学ぶことを目的とする。労働衛生の実践活動のうち作業環境管理、作業管理、健康管理、労働衛生教育、健康保持増進活動を中心に学ぶ。更に、職業性疾患の成因と対策を理解し、予防に結びつけるための知識を修得する。労働における安全と健康の重要性を認識するとともに、労働衛生に関する理論と方法を理解し、活用できるようになることを目標とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	労働衛生Ⅱ	「労働衛生Ⅰ」を基礎とし、労働衛生活動がどのように行われているのかを具体的に学ぶことを目的とする。ストレス管理、メタボリックシンドローム予防、感染症対策、分煙対策、救急処置等、より具体的な活動内容を取り上げ、実社会における労働衛生活動の理解を深める。労働者の安全と健康を確保し快適な職場環境の形成の促進を可能にさせるための知識や手法を身につけることを目標とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	労働安全衛生法Ⅰ	労働安全衛生法は、労働者の安全と健康を確保し快適な職場形成を促進することを目的としている。この労働安全衛生法において、安全生管理者として必要とされる知識を学ぶ。関連する法律、安全衛生管理体制、危険または健康障害を防止するための措置、機械および危険物、面接指導制度、過労死、精神障害、安全衛生教育と就業制限等を取り上げる。また、裁判例を通して現代の職場で生じている安全衛生に関する具体的な問題点を理解する。労働安全衛生法の目的と内容を理解し、重要事項が説明できるようになることを目標とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	労働安全衛生法Ⅱ	「労働安全衛生法Ⅰ」の応用編として、施行令、諸規則、ガイドラインを掘り下げて学ぶ。裁判例から、職業病や作業関連疾患（精神障害、化学物質過敏症、シックハウス症候群、喘息発作、脳脊髄液減少症、高次脳機能障害、中皮腫とじん肺、腰痛症、振動障害、放射線障害、騒音障害、減圧症等）と労働安全衛生法との関係を理解し、労働安全衛生法の果たす役割を学ぶことで、快適な職場形成の促進のためには何が必要かを理解し実行できるようにすることを目標とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	健康産業施設等現場実習	健康運動指導現場での指導方法や指導者としてのスキル、感覚の習得を目的とする。スポーツクラブに関する予備知識の習得や健康運動指導士関連科目の復習を行った上で実習に臨む。学外施設での実習を通して、健康運動施設の内容や管理体制、接客業務、レセプション業務、健康運動関係の機器の使用方法等を学ぶ。5日間（11月下旬から12月上旬）の実習で現場指導を体験した後、実習内容の振り返りを通して学びを深め、健康運動指導士の資格試験に繋げていく。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職科目	養護概説	学校における養護の概念、養護教諭が行う保健管理、保健教育、健康相談活動、保健室経営、保健組織活動等の専門的機能について学ぶことを目的とする。また、養護教諭の歴史や養成制度、職務内容の変遷、子どもの健康課題の変容等を踏まえた養護教諭の役割や養護実践活動について理解し、養護教諭の職務内容を説明できるようになる。養護教諭の専門性と役割、保健室の機能について理解し、養護実践における活動過程について理解し説明できるようになることを目標とする。	
教職科目	看護学Ⅰ	看護概念や看護倫理を理解した上で、学校や病院等様々な場で行われている看護や、乳幼児期・学齢期・思春期・青年期・成人期・高齢期までの発達段階や各健康レベルに合わせた看護について学ぶことを目的とする。社会の仕組みと看護（学校保健・病院や在宅療養・自治体や企業）、災害看護、救急看護等を通じて看護過程を学び、保健・医療・福祉の専門職チームの一員としての養護教諭の役割を理解し、看護の専門性や役割・機能を理解できるようになることを目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (172 原田静香／9回) 看護とは、看護と倫理、看護の方法（保健室に来室する児童の事例）、災害看護、社会の仕組みと看護（病院・在宅療養）、人の成長発達と看護（母性、成人期、高齢期） (165 中西唯公／4回) 看護の方法（看護過程の概念）、社会の仕組みと看護（学校保健）、人の成長発達と看護（小児・学童期、思春期・青年期） (156 櫻井しのぶ／2回) 救急看護、社会の仕組みと看護（自治体・企業）	オムニバス方式
教職科目	看護学Ⅱ	学校の保健室に勤務する養護教諭に必要なフィジカルアセスメントが実践できる知識と技術について学ぶことを目的とする。養護教諭として多様化する児童生徒の健康課題に対する専門的な判断、適切な処置、指導を実践できるようになるため、観察方法・意識障害等から重症度の判断、発熱・出血・骨折・熱傷・異物誤飲等の救急処置、事後指導に必要な保健・医学的知識を習得し、学校における病気や事故に的確な対応ができるようになることを目標とする。	
教職科目	看護学Ⅲ	成長・発達途上にある子どもの健康の捉え方、小児期によくみられる疾患の概要と対応について学ぶ。健康問題を持ちながら学校生活を送る子どもの健康・安全を支援するための学校保健活動の実践を学び、地域社会における家族支援のあり方や養護教諭の役割について考える。養護教諭が学校で行う健康観察方法を習得し、小児期によくみられる疾患の概要と対応のポイントに配慮して健康課題を持つ子どもへの支援について計画立案し、子どもの健やかな育ちを促すための保健活動のあり方と養護教諭の役割について考えることができるようになることを目標とする。	
教職科目	スポーツ実習・指導法（水泳）	保健体育科教員として健康や身体活動、スポーツに関する正しい知識や、健康づくりの専門家としての指導力、実践力の習得を目指す。水温、水圧、浮力、抵抗等の水の物理的特性を理解し、自らが近代4泳法（クロール・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）を泳げるようになることを目的とする。水の物理的特性を踏まえた指導法を考案でき、更には、体得した泳法を活用し、安全な環境を創造しながら様々な水泳の楽しみ方を学校体育で指導できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職科目	スポーツ実習・指導法（ダンス）	保健体育科教員としてダンスの指導法を身につけることを目的とする。設定されたテーマで3分間の振り付けを作成し、ダンスを実践する。リズムを感じ、振り付けを覚え、自身の体の動き、ダンスとして形作るといった一連の工程を体感し考察をすることで、体の動きやダンスの技術、指導要点の理解を目指す。個人から複数名での動きとダンスを通して様々な動きを運動として体験することで、体を媒体とした機能美への気づきとその意識の向上とともに、ダンスを指導する現場での手がかり、刺激、ヒントを掴むことにも期待する。	
教職科目	スポーツ実習・指導法（柔道）	保健体育科教員として柔道初心者に対する指導法を身につけることを目的とする。柔道は、明治15年に嘉納治五郎師範が創始した日本発祥の武道であり、短期間で世界中に普及した日本を代表するスポーツである。その柔道の歴史や現在の柔道が抱えている諸問題について考察を行った上で、学校体育における柔道の基本技術、安全な授業・練習を行うための指導法や実践力の習得を目指す。また、競技としての柔道の技術も深め、投げの形や審判技術の体得も目指す。	
教職科目	スポーツ実習・指導法（剣道）	保健体育科教員として初心者・初級者に対する剣道の指導方法を実際の稽古を通して学んでいくことを目的とする。剣道の基本動作や対人技能を身につけるため、剣道具をつけての基本打突を中心とした練習を行う。また、剣道の競技ルールを理解する。学校体育における適切な指導のポイントを理解した上で剣道の実践指導ができることを目指す。受講生の習熟度にあわせて、礼法、足さばき、素振り、切り返し、基本打突等の新しい技術の習得並びに指導方法についても学ぶ。	
教職科目	スポーツ実習・指導法（サッカー）	ゴール型サッカー授業において、学習成果を上げるための教材の工夫等に関する知識、プレーの原則を踏まえた戦術・協力の仕方を理解し指導法として修得すること、フィードバック行動等の指導技術を修得することを目的とする。保健体育科教員として学校体育のゴール型におけるサッカー授業の現状に関する理解をはじめ、サッカー指導に求められる知識や指導スキル等について、Match-Trainig-Matchの過程を通して実践し、修得することを目指す。	
教職科目	スポーツ実習・指導法（バレーボール）	保健体育科教員としてバレーボールを指導する際に必要な基本的な知識と技能を身につけることを目的とする。実技として、パス、サーブ、アタック等のバレーボールの基本技能の獲得を目指すとともに、バレーボールの基本的ルールを含めた運動指導の知識や理論、実践技術を学ぶ。バレーボールの実技や言語的指導とフィードバックを繰り返すことで、効果的なバレーボールの練習法の立案や技術指導ができるようになることを目標とする。	
教職科目	スポーツ実習・指導法（バスケットボール）	バスケットボールの効果的な指導法の習得を目指す。保健体育科教員として生徒にバスケットボールを指導するための技術・戦術的能力を身につけ、競技特性・原理原則を理解する。そして、バスケットボールにおけるシュート・パス・ドリブル等の個別技術や1対1、2対1、3対3等の戦術的な要素等、ゲーム形式の学習も積極的に取り入れ、現行の学習指導要領への配慮の上に学校体育のバスケットボールが理解できるようになることを目標とする。	
教職科目	スポーツ実習・指導法（テニス）	中学校や高等学校での保健体育授業でのテニス授業展開方法の理解、初心者指導の展開方法を学び、学校体育におけるテニスの基礎技術・指導法の習得、応用技術の理解を目指す。ストローク、ボレー、スマッシュ、サービス等の基礎技術を習得した後、サービスリターン、ロブ、アプローチショット、ハーフボレー等の応用技術を学び、シングルスとダブルスの試合を行う。また、テニスを競技面だけではなく、歴史や文化特性の側面からも触れ、テニスの多面的な理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職科目	スポーツ実習・指導法（バドミントン）	一般理論としての運動学やコーチング学の考え方にに基づきスポーツ指導の理論的背景について、バドミントンを教材として学修する。バドミントンの基本技術、およびその指導法と練習法および、審判法等を学修する。指導法や練習法については単に方法論を覚えるのではなく、その理論的背景を複層的に検討することを通じてスポーツ指導者、また保健体育教諭としての素養の醸成を目指す。教員免許（中高保健体育）付与との関わりから、単にバドミントンの技術や指導法について学ぶだけでなく、ネット型スポーツ、あるいは球技に通底する特性の理解に結びつく構成で展開する。	
教職科目	スポーツ実習・指導法（陸上）	陸上競技の各種目の特性を理解し、基礎的技能の習得方法を理解することを目的とする。走・投・跳の基本的運動、ウォーミングアップやクーリングダウンの効果的な実施等を実際に行い、他者と評価し合いながら反復練習し、自分自身や他者の技術を評価する力を身につける。また、陸上の授業で使用する用器具等の使用法・取り扱い方とルール、安全管理に対する技能と知識の習得を行うとともに、正しい走り方の特徴を理解習得法の説明、走り幅跳びの正しい踏切り方と着地の特徴を理解し習得法、正確なハードル走の特徴を理解し習得法、正しい砲丸投げの特徴を理解し習得法等が説明できるようになることを目標とする。	
教職科目	スポーツ実習・指導法（器械運動）	学校体育としての体操・器械運動の技の習得によって、技の構造やつまづき、更には、安全に実施するための配慮等を学ぶことを目的とする。体操・器械運動の技の指導を、自らの身体で体験することによって指導する際の留意点やポイントを理解する。中学校学習指導要領保健体育編に例示されている技の習得やそれらの技を基にして構成した演技の実施ができ、各技の段階的な教授法と技の習得の際に必要な補助方法を身につけ、実践できるようになることを目標とする。	
教職科目	看護学実習	事前学習、病院実習、事後学習で構成される授業となる。「看護学」の講義で学んだ知識・技術を病院見学実習を通して実践することで理解を深める。病院で患者や家族に接することにより、健康障害時の心身の状態を理解し、苦痛軽減のための看護の方法を学ぶとともに、病院の組織や保健医療チームを構成する各職種の機能、学校と医療機関との連携の重要性を理解し、養護教諭に必要な学校における看護の実践力を高めることで、養護教諭としての能力の向上を目指す。 （オムニバス方式／全15回） （172 原田静香／13回うち共同11回） 看護の基本、安全・事故防止、感染症予防に関する知識と技術、清潔、車いす移動の援助、事前課題の説明、バイタルサイン測定、患者の立場とより良い看護のあり方、倫理的配慮、病院オリエンテーション、病院実習、病院実習のまとめ、報告会 （161 仲里良子／11回うち共同9回） 看護の基本、安全・事故防止、感染症予防に関する知識と技術、清潔、車いす移動の援助、事前課題の説明、バイタルサイン測定、患者の立場とより良い看護のあり方、倫理的配慮、病院オリエンテーション、病院実習、病院実習のまとめ、報告会 （8 内山有子／2回うち共同2回） 病院オリエンテーション	オムニバス方式
教職科目	保健科教育論Ⅰ	保健科教育内容および保健科教材研究を中心に取り扱い、保健授業の教材・教具づくり、指導案の作成を行う。中等教育における保健教育内容の変遷や学習指導要領・検定教科書の作成プロセスを学び、保健科教育内容の編成を理解する。また、他教科との比較から保健教材の特徴を考え、保健科教育や教授方法の研究動向について学び、保健の学習指導案の作成と評価、指導要録の作成等ができるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康スポーツ学部健康スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職科目	保健科教育論Ⅱ	保健科教員免許状取得のための基礎的知識、技術の習得を目指す。 「保健科教育論Ⅰ」において学習した内容を基礎として、実際に、健康の考え方、健康の保持増進と疾病の予防、精神の健康、交通安全、応急手当、生涯の各段階における健康等についての教材研究や指導案の作成を行い、模擬授業を通して実際の授業における応用力を習得する。創造的な保健教材を作成することができ、指導案作成・模擬授業を通じて授業構成を考えながら授業を展開できるようになることを目標とする。	
教職科目	保健体育科教育法Ⅰ	体育科および保健科の学習指導計画の立案方法を学び、保健体育科授業実践の基本的内容について理解することを目的とする。現在までの体育・スポーツ・保健の変遷や問題点等を学び、現在の体育・スポーツ・保健の成果と課題について考察した上で、発達段階を踏まえた体育科および保健科の目標・内容・方法・評価にふれ、体育科・保健科の学習・指導のあり方を検討する。また、実際の授業実践例や授業研究の成果を取り上げ、マニュアルやメソッドではない体育科・保健科の指導理念の形成を目指す。 (オムニバス方式／全15回) (11 平野 智之／8回うち共同1回) 体育分野の教育法 (8 内山 有子／8回うち共同1回) 保健分野の教育法	オムニバス方式
教職科目	保健体育科教育法Ⅱ	体育授業実践に求められる実践的な指導力を養うことを目的とする。中学校保健体育科の授業で扱われる各運動領域に関して、各グループで領域・内容を選定後、学習内容の検討、教材研究・開発を行い、指導計画を練り上げる。各グループの指導計画をもとに教師役と生徒役に分かれて模擬授業を実施する。模擬授業終了後、生徒役の受講者は教師役のグループへのフィードバックを行い、教師役グループと担当教員で省察を実施することにより、保健体育科教育への理解を深める。	
教職科目	保健科指導法Ⅰ	保健科教育の成立から今日の保健授業に至る歩みを振り返り、様々な学習者論、教育内容論、教材・教具論、指導論を学習する。保健の教授行為として子どもへの働きかけ、学習者として子どもの学びを考え、保健授業の実践事例より多様な学習形態を習得することにより保健担当教員としての力量形成を図る。保健の授業を様々な角度から捉え、保健授業内容の特徴と授業構造について理解し、保健授業の評価することを目指す。	
教職科目	保健科指導法Ⅱ	「保健科教育論Ⅰ・Ⅱ」および「保健科指導法Ⅰ」において学習した内容を基礎として、実際には教材研究、指導案を作成し、模擬授業を行う。模擬授業後には省察およびお互いにフィードバックを行い、保健免許状取得のための基礎的知識、技術の習得を目指す、実際の授業への応用力を習得する。創造的な保健教材を作成でき、保健授業の指導案作成・模擬授業を通じて、授業構成を考えながら授業を行うことができるようになることを目標とする。	
教職科目	保健体育科指導法Ⅰ	中学校、高等学校の保健分野の学修指導要領に基づいた指導案の作成および教材開発を行い、模擬授業を経験することで教育実習での保健体育科指導に向けた準備を行う。保健体育の教科書や学習指導要領における指導内容を理解し、その目標を説明できるようになるとともに、保健の授業指導案の作成、模擬授業の実施とその省察、他学生の指導案や模擬授業へのフィードバック等を繰り返し行うことにより、保健体育科教員としての実践的な指導力を養う。	
教職科目	保健体育科指導法Ⅱ	体育授業実践に求められる実践的な指導力を養うことを目的とする。高等学校保健体育科の授業で扱われる各運動領域に関して、各グループで領域・内容を選定後、学習内容の検討、教材研究・開発を行い、指導計画を練り上げる。各グループの指導計画をもとに教師役と生徒役に分かれて模擬授業を実施する。模擬授業終了後、生徒役の受講者は教師役のグループへのフィードバックを行い、教師役グループと担当教員およびSAで省察を実施することにより、保健体育科教育への理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職科目	教育基礎論	教育とはどのような行為なのかを教育の歴史・思想等に関する基本的概念とともに確認し、教育が人類にとって必須の社会的機能として成立する経緯とその役割を理解することを目標とする。また、教育が個々の人間の成長・発達に寄与するとともに、社会の維持・発展にも寄与していることを踏まえ、家庭の教育機能や公教育制度に着目し、それぞれがどのような課題を持つのかを検討することで、現在の教育のあり方について問い直し、理解を深めていく。	
教職科目	教職概論	教育に携わる専門家として、子どもや大人を支援する指導力、実践力、問題解決能力を習得するために、子どもたちの成長・発達や教育を受ける権利保障という観点から、学校制度のあり方と教員という職業の特性を学ぶ。そして、現代社会において学校教育が果たしている役割とその課題について考える視点の獲得を目指す。また、他の職業との比較等を通じて、教師を目指すことの意味を確認し、具体的な職業選択へと繋げていく。	
教職科目	教育制度論	教育制度の歴史、役割、法制度の仕組み等を学び、教育制度の抱える問題点について検討していく。具体的には、義務教育制度の組織・運営・学校文化を知り、今日の教育が制度・組織・計画・法制の中でどのように営まれているかについて考えていく。また、現在の教育における課題を法制度の面から検討し、教員になった際に子ども達の「教育を受ける権利」をどのように保障していくか考え、教育制度の抱える問題点を自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。	
教職科目	教育心理学	教育職員として子ども達を援助する際に必須となる心理学的知見を理解するとともに、心理学的知見の活用のある方や方法についての認識を深めることを目的とする。こころの発達、知識の獲得、指導と評価、子どもと集団、障害と支援等についての授業を行い、近年の教育現場が抱える問題とその具体的な事例にも触れていく。そして、学校現場での教育に必要な児童生徒の心身の発達や学習過程の理解や、特別な支援ニーズを持つ子ども達に関する理解を深め、その対応を考えていく。	
教職科目	特別支援教育基礎論	発達障害や軽度知的障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童および生徒についての理解を目的とする。学習上又は生活上の困難を理解し支援・教育を行うために、各障害およびそれらの障害を持つ子どもの特性、各障害に対する支援や教育方法等を学ぶ。幼児、児童および生徒が学習活動への実感・達成感を持ち、生きる力を身につけるための支援・教育のあり方を考え、個別の教育的ニーズに対し組織的に対応していくための知識や支援方法を理解する。	
教職科目	教育課程総論	教育課程に関わる法令の規定、学習指導要領改訂の変遷からみる教育課程編成の意義や方法について理解し、新学習指導要領で求められる、主体的・対話的で深い学び、カリキュラム・マネジメントについて具体的な教育課程編成を想定しながら考えていく。そして、現代の教育課程の考察を行う中で、自らも教育課程編成の主体となることを自覚し、これからの子ども達にとって必要な教育課程とはどのようなものであるかを他者と協調して議論し考えることで、自らの考えを明確化することを目標とする。	
教職科目	教育課程総論（養護教諭）	「養護概説」で学んだ養護教諭としての基礎的知識や職務内容を踏まえ、学校保健における養護教諭の専門性や職務内容を考察しながら、養護活動を充実させるための養護教諭の役割や保健室の機能等を学ぶ。養護教諭の職務を理解することで、学校保健における養護教諭の役割や学校保健との連携方法についての説明や養護活動に必要な知識を深め保健室を訪れる児童生徒への援助ができるようになることを目標とする。また、養護教諭という職への関心・意欲の向上も目指す。	
教職科目	道徳教育論	新学習指導要領で教科化された特別の教科道徳を教員としてどのように教えていくか、指導方法や実際の授業の進め方、教材の作成や学習指導案の書き方等を学ぶ。授業を通し自分が身につけてきた道徳的価値観を振り返ることで、道徳教育の様々なテーマについて考え、道徳に関する自分なりの考えを持つ。そして、道徳授業の具体的な教授方法について関心を持ち、道徳授業の指導案や教材を作成し積極的に実践することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要 (健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職科目	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	各教科等で育成される見方考え方を総合的に活用し、広範な事象を多種多様な視点から俯瞰して捉え、実社会実生活の課題を探究する学びが実現できるよう、指導計画作成や具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識技能を習得することを目標とする。特別活動の教育課程上の位置づけや内容、指導方法、評価等の特質から、人間形成における特別活動の意義や役割について理解し、また、学年の違いによる活動の変化や他教科との関連、チーム学校としての家庭・地域との連携という観点から特別活動の特質について学ぶ。	
教職科目	教育方法の理論と実践（情報通信技術を含む）	新学習指導要領に基づく授業改善や教育方法の歴史を振り返り、日本の近代以降の教育方法について学ぶ。生徒の実態に留意し、特別な配慮が必要な児童生徒への対応等を踏まえた様々な授業方法や、現代の子どもや若者の状況に即した教育方法や授業計画等について考える。また、ギガスクール構想やコロナ禍における授業のあり方に関する動向を理解し、タブレットや電子図書等のICT技術の活用、ICTを用いたオンライン授業の展開等について対応できる技術を身につける。	
教職科目	生徒指導論（進路指導論を含む）	教育に携わる専門家として子どもや大人を支援する指導力、実践力、問題解決能力を習得するために、生徒指導上直面する諸問題を取り上げ、それぞれの問題の検討を通じて、生徒指導の目的・内容・方法を理解し、教師の役割について考えることを目的とする。そして、指導力、実践力、問題解決能力を養成するために、子どもを取り巻く問題状況を理解し、自分自身の教育経験を捉え直す。そして、問題を分析し、論理的に自己の意見を取りまとめる力を養う。	
教職科目	教育相談	教師が学校現場で直面する児童生徒の問題を契機とした教育相談活動の実践例を通し、教育相談の理論と技法を学ぶとともに、すべての児童生徒の発達を支援し、彼らの人格の成長を図るために、教師が行う個人および集団への支援・援助活動の理論と方法を学習し理解を深める。特に、発達障害をはじめとした特別な支援ニーズを持つ児童生徒の理解とその支援のあり方について具体的に学び、児童生徒の自己理解の深化や人格の成長を図ることを目的とする。	
教職科目	養護実習基礎演習	養護実習に必要な基礎的内容を学び、教職の特質や養護教諭の職務を理解することを目的として、養護実習の目標・内容・準備・心得、教育計画や校内体制等の教職員の協働、学校生活と環境、養護教諭の執務と保健経営、健康管理のための活動、保健室来室者対応、実技実習について学ぶ。教職の専門性、教師の専門的力量について理解し、よりよい養護実践に繋がる、省察する力や実習に挑む姿勢を身につける。保健室の機能と養護教諭の職務を理解した上で、実習の意義や目的、実習で学ぶべきことが説明できることを目標とする。	
教職科目	教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む）	教育実習（中学校教諭用）の科目であり、事前指導、学校実習、事後指導で構成される。学習指導要領に基づいた指導計画やワークシートを活用した工夫ある授業づくりや、新学力観として習得型と活用型の学習活動等が求められる中、これらに関する理解の深化を目的とした模擬授業を計画し、実践する。事前指導では実習に向け準備すべき内容を学び、保健体育科・保健科の指導案作成や模擬授業等の準備を行う。実習を通して教職を理解し、自身の課題や教職への適性等の判断材料を得る。また、事後指導では実習の省察を行い実習を総括することにより、教師の専門的力量や教師になるための資質についての理解を深める。	共同
教職科目	教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）	教育実習（高等学校教諭用）の科目であり、事前指導、学校実習、事後指導で構成される。学習指導要領に基づいた指導計画やワークシートを活用した工夫ある授業づくりや、新学力観として習得型と活用型の学習活動等が求められる中、これらに関する理解の深化を目的とした模擬授業を計画し、実践する。事前指導では実習に向け準備すべき内容を学び、保健体育科・保健科の指導案作成や模擬授業等の準備を行う。実習を通して教職を理解し、自身の課題や教職への適性等の判断材料を得る。また、事後指導では実習の省察を行い実習を総括することにより、教師の専門的力量や教師になるための資質についての理解を深める。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職科目	養護実習（事前・事後指導を含む）	養護実習の目的や内容、養護教諭の職務の確認、指導案の作成について学び、実習に向けた注意点や心得を理解した上で実習に臨む。児童生徒への対応、保健教育、保健管理、保健室経営等の職務を体験することにより、課程の中で修得してきた知識や技能、養護教諭としての意識と力量を高める。養護教諭の職や学校教育における保健室の役割を理解し、児童生徒の心身の健康や学校安全、学校環境衛生等に対する認識と知識を身につけ、健康問題や安全管理、望ましい保健室経営を目指す。また、実習の反省や振り返りを通して、理想とする養護教諭像を見つけることを目標とする。	
教職科目	教職実践演習（中・高）	教職課程で学んできた教育の原理・原論、教育の法や制度、教育史、教育心理等や各教科の教科教育法や道徳、生活指導、生徒指導、進路指導や介護等体験、教育実習の事前事後の指導、教育実習等の総括を目的としており、書評、議論、グループ討議、事例研究等の演習形式の授業を行う。自身の教育実習体験を咀嚼・整理するとともに、実習で獲得した各々の実践知を互いに共有することにより、教育に対する深い洞察力を身につけることを目標とする。	共同
教職科目	教職実践演習（養護教諭）	養護教諭養成課程の学びや養護実習の成果をもとに、現状における養護教諭としての資質と力量形成を客観的に捉え、自己の課題を明確にするとともに、課題克服に必要な知識や技能等を補い、養護教諭生活を円滑にスタートするための準備と心構えについて認識できるようになることを目指す。児童生徒の身体・精神の理解、教職員・保護者等との関係構築、養護教諭の使命や資質の確認等をテーマとした授業を行い、養護教諭として、教育・組織活動、基礎的知識・技能の実践活用、保健指導や健康相談ができるようになることを目標とする。	
教職科目	教職インターンシップA	義務教育段階（小学校または中学校）の学校や教育に関わる社会現場でのインターンシップに参加し、教育活動の観察や教育実践等を行う。教育実習前に教育現場を体験することにより、学校の雰囲気や教員の職務内容を知り、教員としての力量形成や資質の向上を行い、将来教職に就くためのキャリア形成を考える。大学における形式知を踏まえて教育現場での実践知の獲得に努め、メソッドやマニュアルではない、教育実践を深く洞察する力をつける。このような目的のもとに「教職インターンシップA・B」を配置し、経験の機会を充実させる。	共同
教職科目	教職インターンシップB	義務教育段階（小学校または中学校）の学校や教育に関わる社会現場でのインターンシップに参加し、教育活動の観察や教育実践等を行う。教育実習前に教育現場を体験することにより、学校の雰囲気や教員の職務内容を知り、教員としての力量形成や資質の向上を行い、将来教職に就くためのキャリア形成を考える。大学における形式知を踏まえて教育現場での実践知の獲得に努め、メソッドやマニュアルではない、教育実践を深く洞察する力をつける。このような目的のもとに「教職インターンシップA・B」を配置し、経験の機会を充実させる。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部栄養科学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	哲学・思想	哲学	普段当たり前と見過ごしていることを問い直す、これが哲学の出発点である。映像作品の一場面から「問い」を設定し、その「問い」に対する自分の考えをまとめあげることで、問いかけを深め、考え方の幅を広げる。また、哲学という営みの背後にある人間の文化を理解し、それを探求していく。これらを通して、柔軟な感性と思考力を開拓し、様々な学問的アプローチの可能性を見いだすための手がかりに繋げる。	
基盤教育	哲学・思想	生命と倫理	現代社会における生命をめぐる諸問題に目を向け、どこが問題なのか、当事者や医療従事者の立場、価値観等を整理し、様々な視点、論点の理解を目指す。倫理問題を考える上での基本的なルールについて触れた後、生命にまつわる具体的な事例を紹介していく。自分と身近な人々、社会と自然との関わりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えるとともに、その過程において倫理とは何か、生命と倫理のあり方について検討する。	
基盤教育	哲学・思想	宗教学	キリスト教を一つの素材として取り上げ、宗教が人々の心にどのように向き合ってきたかを辿る。ひとつの宗教が生と死、善と悪、神の存在と不在についてどのような思想を展開したかを辿り、自分自身がどのように考えるかの視点を見つけ、自らの言葉で表現できるようになることを目指す。宗教という営みの背後にある人間の文化を理解し、現実社会における宗教のありよう、それを探求する様々な学問的アプローチの可能性を見いだす手がかりが得られるようになることを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学 日本文学	宮沢賢治の代表作を読み解くことで、作者の考え方や人々の生活や生き方、時代や風土についても学び、「自分らしく生きる」ことや「本当の幸せとは何か」について考える。そして、大学生として相応しい思考力、豊かな感性を養い、人々の豊かな生活を支援できる人材となるための基盤を身につける。また、「読む・書く・話す」力、語彙力、豊かな表現力の習得も目指す。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学 外国文学	世界各地の小説や詩、演劇、評論等の文学作品について、文化や歴史といった側面から鑑賞・分析することを目的とする。様々な時代背景とテーマを持つ文学作品の中にあらわれている、人間や社会状況、地域性や価値観等を注意深く観察することで、国内外の社会における課題等への意識を高める。作品の内容や作家について理解を深めることで、自分自身の文化に対する考えについても、意見を整理して表現することができるよう意識を高める。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学 歴史学	グローバル化が進んだ現代は言うまでもなく、古くは石器時代、縄文・弥生の時代から日本は海の向こうの外国と交流を持ち続けている。江戸時代の鎖国の時期であっても、外国との交流が途絶えたことはない。日本の近世・近代史を中心に学ぶ一方で、日本に少なからず影響を与えた外国の歴史も積極的に取り上げながら、日本が世界とどのように関係し、発展してきたかを学ぶ。あわせて、世界と日本の歴史的背景の違いや特質を理解し、世界からみた日本がどのような存在であるかを客観的に捉えることも目的とする。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学 美術一般	ヨーロッパ近代美術の流れを辿り、新しい美の可能性を追求した人々の活動に触れる。美術は色や形という感覚的な素材によって成り立っており、素材の組み立てそのものには構造があり、論理がある。思想があり、物語がある。そこには作家の人生観や自然観や世界観までも表出されている。近代美術に様々な足跡を残した人々の作品をスライドで鑑賞し、色や形が語る言葉を読み解くことから始め、美術表現の可能性を無限大に感じとることを目標とする。	
基盤教育	学問の基礎	人文科学 音楽一般	ヨーロッパにおける音楽の豊かな流れの源には、様々な楽器を基にした各地の民族音楽があり、一方には、地域の違いを越えてキリスト教の信仰に仕えてきた教会音楽とがある。これらの伝統に培われて古典（クラシック）音楽が花開き、大衆（ポピュラー）音楽が歌い継がれ引き継がれてきた。ヨーロッパやアメリカの様々な音楽を聞き、それを生み出した人々と、それを取り巻く風景や街並み等をスライドやDVDで訪ね、音楽表現の可能性を無限大に感じるとともに、音楽という営みの背後にある人間文化の理解も目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部栄養科学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	学問の基礎	人文科学 文化人類学	文化人類学は、様々な民族や文化圏の生活様式を対象に未開と文明を比較し、人類の文化の共通性、異質性、多様性を知る学問であり、私達が日常「当たり前」としているものに、新たな見方をもたらしてくれるものである。文化人類学の初学者のための学びと位置づけ、私達のものの見方を刷新した人類学者の経歴等からそれらを知ることを通して、その考えが生まれた背景を知り、その意義を考えることを目的とする。自らの見方を広げていけるようになることを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学 経済学	経済学は、日々の生活において様々な資源の制約における人間行動を分析する研究分野であり、個人の生活レベルから一国全体、更には国際経済に至るまで、様々なレベルで相互に影響を与えつつ営まれる。経済学の基本的な考え方、経済モデル、金融市場等、基礎的なマクロ経済理論を学ぶことによって、経済の仕組みや制度を理解し、現代の市場社会が抱える課題を考えるための手がかりや複雑な経済を自分で考える見取り図を得ることを目指す。その際、日本経済に大きな影響を与える国際経済についても触れることで、日本経済が世界経済とどのように関係しているかを学ぶ。あわせて、世界と日本の経済的背景の違いや特質を理解し、世界からみた日本がどのような存在であるかを客観的に捉えることも目的とする。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学 経営学	経営学の基礎的な概念や理論を理解し、現実の経済や経営に対する関心と問題意識を育てることを目的とする。多くの経営理論は、経営という現象のある断面図を示したもので、見る位置により時代の背景や理論の前提がある。それらを客観的に評価し適切に位置づけることで、よりダイナミックな経営学の構図を掴むことができるようになる。これらを念頭においた上で学びを進め、経営学の基本的用語から企業のあり方、マネジメントやマーケティングの知識と考え方を身につけるとともに、経営学を通して現代社会が直面する様々な問題を理解する知性を培うことを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学 法学	日常生活を送る上で最低限知っておくべき法学の基礎知識を習得することを目的とする。我々の生活の中で遭遇する多くの事柄は法律と密接な関係を有するものであり、法律の知識が役立つことが多いのも事実である。そこで、日常生活における様々な法律問題に焦点を当て法の仕組みを学んでいく。裁判制度や三権分立制、基本的人権、犯罪と刑罰に関する、基本的な知識を習得するとともに、民法や現代の様々な社会問題とそれに関する法、社会問題と法の関わり方についての総合的な理解を目指す。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学 政治学	私達の生活・権利・生命を大きく左右し得る政治のあり方について学ぶことを目的とする。日本を軸に民主政治の基本的な仕組みを学びつつ、民主主義の課題や可能性について、様々な政策を取り上げながら理解していく。また、国際比較の観点から、国ごとに異なる国家統治の仕組みや制度についても触れ、世界からみる日本の政治や政策のあり方を理解する。これらの政治学的な視点を応用し、日本の少子高齢化問題や介護福祉問題等の目の前の問題から世界の平和を危うくする紛争・難民問題といった政治現象の背景についても視野を広げ考えることができるようになることを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学 地理学	現代世界の地域的特徴を理解し、人々の生活との関係を明らかにしていくことを目的とする。日本の地理的特徴、都市構造と生活空間との関わり、地域的課題等について、具体的な事例を交えながら紹介していく。また、日本国内に留まらず海外にも目を向け、各国と日本の地理的構造の違いやそれによって生まれる影響についても学ぶ。国際的観点からみた日本の地域的特徴を理解していくことで日本への理解や関心を深めるとともに、世界各国への関心も高めることを目標とする。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学 社会学	社会学的発想、現代社会で起きている事象、社会学における現代社会の捉え方の3点を軸にして、社会学に固有の発想と視点を学ぶ。社会学の視点を通すことで、眼前の様々な事象がどのように違って見え、何が浮かび上がってくるか、歴史的な文脈も踏まえつつ、幅広い具体例を取り上げ、現代社会の基礎的問題を理解し、問題について自ら考え対応していける力を養う。また、様々な文化や価値観を背景に持つ人々と相互に尊重し合い、繋がり合い、共生し得る社会を作り上げるための、柔軟・寛容かつ多元的な視野を養う。	

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部栄養科学科)					
科目 区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	学問の基礎	社会科学	心理学	心理学の基礎的知識を学ぶとともに、臨床心理学的視点についても詳しく学んでいく。心理学の成り立ちや歴史、パーソナリティの理解、認知メカニズム・思考過程・記憶・感情等について学んだ上で、子供・高齢者・障害者といったあらゆる対象をめぐる社会問題や障害について心理学的に理解し、その対応策の知識を習得していく。それぞれの対象と自己の理解、心理的援助技法にも重点を置きながら学びを進め、人間関係とコミュニケーションの基礎的な知識の習得を目指す。	
基盤教育	学問の基礎	社会科学	統計学	統計学の基礎を学ぶことを目的とする。アンケート、体力測定、試験結果等、私達は日々いろいろなデータに囲まれて生活している。それらの集められたデータに意味を持たせることが統計学である。基礎統計量の計算、標本と母集団の関係、母平均と母比率の区間推定、検定の考え方等を学び、データをグラフにしたり、データの特徴的な値を求めたりすることで、データの性質や意味を知り、データを活用するための基礎的知識を身につける。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学	数学	高校時代までの数学を簡単に復習した上で、大学での学びに必要な数学の基礎についての学びを展開していく。具体的には、数と式、方程式、二次関数、微分・積分の考え方、統計（基礎統計量、ヒストグラム、累積度数分布表、累積度数グラフ、代表値とバラツキの指標、箱ひげ図、散布図、相関係数、回帰直線等）について学ぶ。これらを理解することで、基礎的な数学の知識を習得し、デザインやものづくりに応用できる能力の修得を目指す。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学	物理学	自然科学の中で最も基本的な力学を用いて物理的な手法を理解し、具体的に計算できるようになることを目的とする。物理量と単位の基本から、直線・放物・円運動、運動の法則と力の法則、力と運動（摩擦、抵抗）、仕事とエネルギー（仕事、エネルギー保存則）、単振動、質点系の重心、運動量と角運動量、質点の角運動量と回転運動の法則、剛体の力学等を取り上げる。現実の現象を数学を用いてモデル化する方法を会得し、活用できるようになることを目指す。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学	現代化学	化学の進歩により高度な化学素材が開発され、それらが種々の製品に応用され我々の日常生活で利用されている。この結果、快適な生活空間、高度な健康管理、世界的な情報ネットワーク環境等を実現している。そこで、化学物質の構成や要素からそれら物質の応用技術までを学び、日常生活に広く利用されている材料から最先端材料までの理解を目指す。まず、原子の構造と周期律等の化学の基礎を理解した上で、衣・食・住の中に化学がどのように関わっているのかを知り、成長産業であり材料開発が重要な要素である電子材料等、日常生活と深く関わっている化学物質や製品の基礎的な知識を修得する。	
基盤教育	学問の基礎	自然科学	生物学	原始生命の誕生から長い進化の道のりを経て、現在の多様性にあふれた生物種へと進化しているの中で、ヒトは、様々な産業を興して地球上で最も高度に繁栄している生物種となっている。生物学の様々な分野（微生物学から分子遺伝学）についての基礎を広く学び、近年盛んに産業利用されているバイオテクノロジーの技術についても微生物から動物分野について幅広く学ぶことを通して、現代生物学の全容を理解し、今後の生物学のあり方について考察する力を身につけることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究A	情報社会が成熟し、インターネット等を通じて容易に外国の情報が入手できる現代社会において、異文化への理解は以前よりも格段に進んでいる。一方で、日本人が日本の文化（自文化）を正しく理解し、外に向けて発信できているかといえば、甚だ心もとない。真のグローバル人材となるためには、まず日本の文化を正しく把握することが必要である。経済・政治のシステム、社会制度、現代文化、芸術等様々な角度から日本を知り、日本および日本人の優れた点（ジャパナビリティ）についても学修する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(健康スポーツ科学部栄養科学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究 B	世界の人口の約60%、世界のGDPの約50%を占めるアジア地域は、現在、世界で最も勢いのある地域とすることができるであろう。アジア地域の幾つかの国を取り上げ、その経済・政治のシステム、社会制度、現代文化、芸術等様々な角度から文化や、その背景について学修する。その国が置かれた状況や、今後の見通しについても考えていく。その上で、世界の中での今後のアジアの位置付け、役割についても考えていく。
	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究 C	イスラム教は世界の三大宗教の一つであり、その信者（ムスリム）は18億人以上と言われている。にも関わらず日本人にはなじみの薄い宗教であり、イスラム社会、イスラム文化についての理解も十分ではない。また、同じイスラムといっても原理主義の国から、現実的な路線を歩む国と一様ではない。人口減少により労働力人口が不足し始めている日本に、今後、イスラム社会からの人口流入が増加していくことは間違いない。幾つかの代表的な国を取り上げ、イスラム社会、イスラム文化を正しく理解することを目指す。
基盤教育	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究 D	キリスト教は世界の三大宗教の一つであり、その信仰者は約23億人と言われている。日本人にもキリスト教徒は少なくないが、日本人がキリスト教社会を正しく理解しているかと問われれば、十分ではない。また、同じキリスト教といってもカトリック、プロテスタント、ギリシャ正教、ロシア正教と多種多様であり、キリスト教は欧米だけの宗教ではない。グローバル化が進み、キリスト教社会と付き合う機会は更に増えていくであろう。幾つかの代表的な国を取り上げ、キリスト教社会、キリスト教文化を正しく理解することを目指す。
	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究 E	2050年には、世界のほとんどの地域で人口の減少期を迎えるといわれている中で、アフリカだけは21世紀後半まで人口が増加すると予想されている。長期的に見て最も成長が期待される地域がアフリカであろう。そこに着目した中国は、技術供与、借款等を通じてアフリカへの接近を積極的に進めている。一方、一般的な日本人にとってアフリカは決して近い国ではない。幾つかの代表的な国を取り上げ、かつての宗主国との関係、民族構成とそれに伴う課題、産業化・近代化の動き等から、現代のアフリカの文化について学修する。
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	英語および英語圏社会事情	英語圏に関する理解を目的とし、各国の社会事情や多様な文化の側面を探究し、議論を行う。各国の類似点と相違点を詳細に調査・比較することで、それぞれの特性を理解し、グローバルな見解を深めていく。また、国際ニュースやトピックについても取り上げ、時事英語を通して英語や海外への興味・意識・理解に繋げていく。英語圏における社会的、言語的側面の詳細をより正確に理解するとともに、日本との関係の理解も目指す。
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	中国語および中国語圏社会事情	中国の人々の日常の暮らしのあり方と、そこに表れたライフスタイルや価値観・行動様式は、数千年にわたる連続的な文明の生成・変容と、多様性に富んだ風土・民族・文化の複合・交錯、更には激動の近現代史の流れにより、複雑に形作られてきた。まずは「中国」という地域世界の歴史的な成り立ちと、そこに内包された地理的・文化的・文明的な多様性と複合性、そして、その多様かつ複合的な地域世界を一つにまとめあげてきた「伝統」の諸側面について、基本的な知識を身につける。そして、中国の社会と文化、日本との関係についても理解を深め、歴史から現代を多面的に考えるための視点を養う。
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	フランス語およびフランス語圏社会事情	フランス語圏に関する理解を目的とする。フランス文化の様々な魅力を探りつつ、フランス人の考え方や感じ方、社会事情にも触れていく。画像PDFを用いてフランス文化の様々な姿に触れつつ、相対的な目でフランス文化を捉えていく。他国の文化との比較を通じてひとつの国の文化を学ぶ意義を見つけられるようにする。更にグローバル化に向かう現代社会の動向について考える姿勢とグローバルな視野の獲得を目指す。

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部栄養科学科)					
科目 区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	ドイツ語およびドイツ語圏社会事情	多様な文化が共存するヨーロッパの中でも中心的な文化圏のひとつが、ドイツ、オーストリア、スイスをはじめとするドイツ語文化圏である。そこで暮らしている人々の言語と社会、文化、風土等について学び、コミュニケーションの土台となる知識と、初歩のドイツ語会話を身につけることを目的とする。基本的なドイツ語の理解と、ドイツ語圏の社会や文化についての知識を深め、日本との違いを考えられるようになることを目標とする。	
		グローバル社会の実際	韓国語および韓国語圏社会事情	韓国や北朝鮮の言葉である韓国語と、現代韓国における社会や文化の事情について幅広く学ぶことを目的とする。韓国文化と不可分の言語を知ることは、韓国の生活習慣や信仰、社会を知り、世界観を的確に理解する上で有用である。ハングル文字の基礎的な語学スキルを獲得した上で、韓国の社会事情や現代文化、歴史等についてを学ぶ。韓国人や韓国の小説、映画等に触れた際に、そこに映る韓国人の世界をより深いレベルで理解し、説明できるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	留学のすすめ	グローバル化の進展の中で、国際的に活躍しうる人材に求められる能力は多様化・高度化している。そこで、大学生がどのように国際的なキャリア形成を目指すべきかを学ぶことを目的とする。様々な業種・職種において傑出したプロフェッショナル、企業で先端的な人材発掘をしている専門家等を招聘し、国際水準のキャリア形成、実社会におけるキャリア開発について実例をもとに紹介する。国際的な企業・組織における人材の動向、キャリア形成に求められる知識・経験・語学力について世界的な傾向を概観するとともに、留学（特に大学院留学）がキャリア形成に果たす役割についても学ぶ。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	異文化理解概論	グローバル社会における異文化理解や異文化間コミュニケーションを目的とする。多文化社会に関連するトピックを調べ、様々な文化的背景や理解を持つ学生と交流することにより、グローバル社会でのコミュニケーションに役立つ基本的な概念やフレームワークを理解する。ケーススタディやディスカッションを通じて実践的な知識、スキル、視点の習得を目指す。日本文化と他文化の行動や価値観との違いを理解し、有用な異文化間コミュニケーション技術の習得と異文化環境での能力向上に繋げる。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	海外研修Ⅰ	学生が主体的に参加する海外研修の事後学修として実施する。対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計90時間以上（原則として2週間以上）実施する研修である。海外研修に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	海外研修Ⅱ	「海外研修Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計90時間以上（原則として2週間以上）実施する研修である。2回の海外研修を通じて、1回目と2回目における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際	海外実習Ⅰ	学生が主体的に参加する海外実習の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計60時間以上（原則として2週間以上）従事するものである。海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部栄養科学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 海外実習Ⅱ	「海外実習Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計60時間以上（原則として2週間以上）従事するものである。2回の海外実習を通じて、1回目と2回目の海外研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 短期海外研修Ⅰ	学生が主体的に参加する短期海外研修の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。短期海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 短期海外研修Ⅱ	「短期海外研修Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。本授業が対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。2回の短期海外実習を通じて、1回目と2回目における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 短期海外研修Ⅲ	「短期海外研修Ⅱ」を受講済みの学生を対象に、学生が3回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。3回の短期海外実習を通じて、各研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。また、複数国の文化を相対的に比較することで、表層文化・深層文化を含め、多角的に文化を捉える力を習得する。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 短期海外研修Ⅳ	「短期海外研修Ⅲ」を受講済みの学生を対象に、学生が4回目の短期海外研修に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外研修は、海外の大学やエクステンション・スクール等で、現地の言語、文化、政治、経済等に関わる実践的研修を、事前授業・現地研修・事後授業を合わせて合計45時間以上（原則として1週間以上）実施する研修である。4回の短期海外実習を通じて、各研修における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。特に、異文化理解については、異文化への見方や理解、感受性だけでなく、実際に異文化環境下において能動的に行動ができるコンピテンスの振り返りと帰国後の学びについて考えることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 短期海外実習Ⅰ	学生が主体的に参加する短期海外実習の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。短期海外実習に参加したことで自分の中で起こった変化や学んだ内容を振り返ることで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部栄養科学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 短期海外実習Ⅱ	「短期海外実習Ⅰ」を受講済みの学生を対象に、学生が2回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。2回の短期海外実習を通じて、1回目と2回目の海外実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 短期海外実習Ⅲ	「短期海外実習Ⅱ」を受講済みの学生を対象に、学生が3回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。3回の短期海外実習を通じて、各実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。また、複数国の文化を相対的に比較することで、表層文化・深層文化を含め、多角的に文化を捉える力を習得する。	
基盤教育	国際人の形成	グローバル社会の実際 短期海外実習Ⅳ	「短期海外実習Ⅲ」を受講済みの学生を対象に、学生が4回目の海外実習に参加した際の事後学修として実施する。対象とする海外実習は、海外における企業インターンシップ、国際機関や非営利組織におけるボランティア、フィールドワーク等、海外における実習に事前授業・現地実習・事後授業を合わせて合計30時間以上（原則として1週間以上）従事するものである。4回の短期海外実習を通じて、各実習における学びの成果の接続、異文化理解の深まり等について、自分自身を客観的に分析することで、帰国後の学習計画やキャリア形成に繋げることを目的とする。特に、異文化理解については、異文化への見方や理解、感受性だけでなく、実際に異文化環境下において能動的に行動ができるコンピテンスの振り返りと帰国後の学びについて考えることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 英語ⅠA	基礎的・基本的な英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。様々な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、読解力を高めるリーディングスキルを身につける。更に、リーディングの内容に関し、自分の意見を表現するためのライティングスキルを向上させる。「英語ⅠA・ⅠB」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 英語ⅠB	基礎的・基本的な英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。様々な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、読解力を高めるリーディングスキルを身につける。更に、リーディングの内容に関し、自分の意見を表現するためのパラグラフライティングやエッセイライティングのスキルを修得する。「英語ⅠA・ⅠB」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 英語ⅡA	基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを育成し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。リスニングやスピーキングのエクササイズを通して、コミュニケーションへの関心を高めるだけでなく、コミュニケーションに関わる国内外の問題に関して理解を深める。「英語ⅡA・ⅡB」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 英語ⅡB	基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを育成し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。リスニングやスピーキングのエクササイズを通して、コミュニケーションへの関心を高めるだけでなく、コミュニケーションに関わる国内外の問題に関して理解を深める。「英語ⅡA・ⅡB」の1年間の学びを通して、着実な基礎的・基本的能力の獲得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部栄養科学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学 英語ⅢA	「英語ⅠA・ⅠB」の応用科目となり、英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。より複雑な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、分析的な読解力を身に付けるためのリーディングスキルを向上させる。更に、リーディングの内容に関し、自分の意見を表明するエッセイライティングスキルを修得する。	
基盤教育	国際人の形成	語学 英語ⅢB	「英語ⅠA・ⅠB」の応用科目となり、英語リーディングと英語ライティングのスキルを育成し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。より複雑な内容や型を持つリーディングおよびエクササイズを通して、予測力を活用したリーディングスキルを向上させる。更に、自分の考えを論理的構成でまとめるためのエッセイライティングスキルを修得する。	
基盤教育	国際人の形成	語学 英語ⅣA	「英語ⅡA・ⅡB」の応用科目となり、基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを発展させ、応用可能な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。より実践的なリスニングやスピーキングのエクササイズを通して、ディスカッションやプレゼンテーションのスキルを高めるだけでなく、リスニングの内容を論理的に分析・理解する能力を向上させる。	
基盤教育	国際人の形成	語学 英語ⅣB	「英語ⅡA・ⅡB」の応用科目となり、基礎的・基本的な英語リスニングと英語スピーキングのスキルを発展させ、応用可能な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。より実践的なリスニングエクササイズを通して、より高度なリスニングスキルの向上を目指すだけでなく、目的別ディスカッション・プレゼンテーションのスキルを高める。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Intercultural Communication Skills I A	異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語と文化の密接な関係から自分自身の文化的特徴について意識を高め、他の文化に対する理解を深めることで、国際社会への理解と視野を広める。「Intercultural Communication Skills I A・I B」を配置し、1年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Intercultural Communication Skills I B	異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。言語と文化の密接な関係から自分自身の文化的特徴について意識を高め、他の文化に対する理解を深めることで、国際社会への理解と視野を広める。「Intercultural Communication Skills I A・I B」を配置し、1年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Intercultural Communication Skills II A	国際社会への理解を深め、多文化共生社会での異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。国際社会が抱える課題について、ディスカッション・プレゼンテーション・リサーチプロジェクト等のアクティビティを通して、理解を深める。「Intercultural Communication Skills II A・II B」を配置し、1年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Intercultural Communication Skills II B	国際社会への理解を深め、多文化共生社会での異文化コミュニケーションスキルの向上を目指す。国際社会が抱える課題について、ディスカッション・プレゼンテーション・リサーチプロジェクト等のアクティビティを通して、理解を深める。「Intercultural Communication Skills II A・II B」を配置し、1年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 English Test Preparation I	英語習熟度テストのためのスキルの育成を目指す。リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングのスキルを向上させ、テストに有効な文法項目の復習や受験に必要なストラテジーを身につける。「English Test Preparation I・II」を配置し、1年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 English Test Preparation II	英語習熟度テストのためのスキルの育成を目指す。リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングのスキルを向上させ、テストに有効な文法項目の復習や受験に必要なストラテジーを身につける。「English Test Preparation I・II」を配置し、1年間を通した学びにより、実践力の向上を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部栄養科学科）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	中国語Ⅰ	日本人にとって中国語は、他の外国語にはない特殊性を持っている。歴史を踏まえて、まずは中国語を外国語として学ぶことを徹底し、中国文化を異文化として深く理解するための基礎を作る。中国語の発音表記のためのローマ字表記「ピンイン」と発音、意味の識別に重要な4つの声調の区別を身につけ、中国語の聴く力、話す力を身につけるための基礎を養う。その上で、最も基本的な構文と文法事項、そして「実際に使える」初歩的な表現・フレーズの習得を目指す。
基盤教育	国際人の形成	語学	中国語Ⅱ	「中国語Ⅰ」で学んだことを復習し、基礎を固める。その上で、少し複雑な表現を習得し、中国語を母語とする相手と一定のコミュニケーションが取れるようになることを目指す。できるだけ正しい「通じる」発音ができるようになること、初歩的な構文をマスターし、中国語を母語とする相手と、最も初歩的な日常会話レベルのコミュニケーションが取れるようになること、会話力だけではなく、中国語の「注意書き」やツイート程度の短い平易な文章を、辞書を引ながら読み取る能力を身につけることを目標とする。
基盤教育	国際人の形成	語学	フランス語Ⅰ	フランス人と簡単な会話ができ、同世代のフランスの学生達に興味を持っていることに共感できるような会話力を修得するとともに、フランス文化の理解を目指す。毎回テーマを設定し応用文をフランス語で書くとともに、それを正しく発音できるようにする。更にロールプレイも実施する。基礎の文法や単語、自己紹介で用いる表現等を学び、フランス語で伝えられるようになるとともに、フランスへの観光等の際に困らないよう実践できる会話力を身につけることを目標にする。
基盤教育	国際人の形成	語学	フランス語Ⅱ	「フランス語Ⅰ」を基礎として、会話力を修得するとともに、フランス文化の理解を深めることを目的とする。フランス語Ⅰの学習を復習しつつ、身近に使う基礎単語から日常会話で使う言い回しについて取り上げ、日常生活において必須とされる文法や単語を学んでいく。フランス語で伝えられるようになるとともに、フランスへの観光等の際に困らないよう実践できる会話力を身につけることを目標にする。
基盤教育	国際人の形成	語学	ドイツ語Ⅰ	ヨーロッパで最も重要な言語のひとつである、ドイツ語の基礎を学ぶ。現在形の簡単なドイツ語文の読み書き、自分の希望や予定等を伝えるための簡単なドイツ語の発音、自分や第三者を説明・紹介するための会話やメール、交通機関や施設のドイツ語表示等、基本的な単語の使い方や文の仕組みを学ぶことで、自分の身の回りのことをドイツ語で表現でき、簡単な内容の文が読みこなせるようになることを目標とする。物の考え方の根底にある言語を学ぶことによって、新たな世界の理解にも繋げる。
基盤教育	国際人の形成	語学	ドイツ語Ⅱ	「ドイツ語Ⅰ」を基礎として、ドイツ語の学びを深める。自分の趣味や能力を表現するための簡単なドイツ語表現、自分の希望や予定等を伝えるための助動詞を用いたドイツ語表現、ドイツ語特有の枠構造で書かれた文章の正しい理解、ドイツ語を使った簡単な買い物や注文をするためのドイツ語表現等、基本的な単語の使い方や文の仕組みを学ぶことにより、自分の身の回りのことをドイツ語で表現でき、辞書を使ってやさしい文が読みこなせるようになることを目標とする。
基盤教育	国際人の形成	語学	韓国語Ⅰ	韓国語の初学者を対象とし、基礎的な文法を学び、簡単な日常会話程度をできるようにする。最初の5回にわたってハングルの文字の成り立ちや発音、基礎的な発音変化を学ぶ。その後、文法の基礎を習得し、実際のコミュニケーション場面で、学生が必要とする語彙を増やしつつ、基本となる動詞の活用を学ぶ。あわせて、言語と深く関連する韓国の文化や社会事情を解説し、言葉だけでなく韓国に対する理解を深めることも目的とする。

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部栄養科学科）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
基 盤 教 育	国 際 人 の 形 成	語 学	韓国語Ⅱ	「韓国語Ⅰ」を基礎として、韓国語の基本的な文法を更に詳細に解説し、高度な応用韓国語を学ぶことで、単語力、会話力の確実な増強を図る。新聞や雑誌等の簡単な文章が理解できる程度の読解力、韓国語のドラマや映画等が字幕が無くともある程度理解できるリスニング力の習得を目指す。韓国人とコミュニケーションをとる上で、言語力の不足を補うための社会文化に関する全般的な知識も適宜説明していく。実際に韓国人との円滑なコミュニケーションが取れるよう実践力を身につけることを目標とする。
基 盤 教 育	国 際 人 の 形 成	語 学	Business English Communication	コミュニケーションや文化を基礎としながら、ビジネスシーンにおける会話や対応、ビジネスライティング、プレゼンテーションスキル等の効果的なビジネスコミュニケーション能力を高めていく。交渉や社交術、会議体への参画や議事の進行等のビジネススキルを身につけさせることも目的としている。
基 盤 教 育	国 際 人 の 形 成	語 学	アカデミックライティング	人文社会科学系の学術的文章を書く技術を学ぶ。卒業論文、修士論文、博士論文等を代表とする大学・大学院で課される学術的な文章は、一定のアカデミックライティングのルールや形式に沿って書くことが求められる。研究論文とレポートとの違い、論理的な説明、根拠となる情報の開示、引用の倫理、文章の構成、学術的文章の作成等、基本的な書き方ならびに文献調査方法を指導する。また、書く訓練を通して、論理的な論文作成能力を養うことを目的とする。
基 盤 教 育	国 際 人 の 形 成	語 学	テクニカルライティング	文章による情報伝達は非常に重要であり、そのために正確かつ効果的に伝達するための文書作成技法を学ぶ。分かりやすい文章で、読み手が必要としている情報を目的に応じて正しく簡潔に伝える文章表現、構成を身につける。具体的には、レポート、報告書、ビジネスレター、マニュアル、提案書等を題材に、図表の活用を踏まえながら文章の完成度を高めるための実用的な書き方を指導する。また、卒業後の就業や社会人として必要なライティングスキルも考慮して教授する。
基 盤 教 育	国 際 人 の 形 成	語 学	IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking	学生がIELTSでハイスコアを取得するために必要なスキルに焦点を当て、リスニング、スピーキング、および思考スキルを向上させることを目的とする。IELTSのリスニング・スピーキング演習、語彙構築、グループディスカッション等を行い、語彙の基礎や習得スキル、効果的なメモスキル、高度なトピックへのディスカッションスキルを向上させる。また、教室内に留まらず、教室外での語学学習能力を高めるための自発性も養う。
基 盤 教 育	国 際 人 の 形 成	語 学	IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking	「IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking」の学びを基礎として、IELTS、語彙の知識、リスニング・スピーキングスキルに対する更なるパフォーマンス向上を目指す。様々なサンプルを取り上げ、学びを深めていき、会話の開始や終了、話者の入れ替え、意見の表明、賛成、反対、推論による感情の識別等を考慮した、より良い会話を展開するためのスキルの修得を目指す。また、教室内に留まらず、教室外での語学学習能力を高めるための自発性も養う。
基 盤 教 育	国 際 人 の 形 成	語 学	IELTS for Study Abroad I Reading/Writing	学生がIELTSでハイスコアを取得するために必要なスキルに焦点を当て、リーディング、ライティング、および思考スキルを向上させることを目的とする。IELTSの読み書き演習、記事の読み書き、語彙構築、グループディスカッション等を行う。理解力とスピードを向上させるための読解戦略（プレビュー、予測、スキミング、スキャン等）を取り入れ、語彙知識や語彙習得スキル、課題を的確に捉え回答する力、読解力、ディスカッション力を養う。
基 盤 教 育	国 際 人 の 形 成	語 学	IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	「IELTS for Study Abroad I Reading/Writing」の学びを基礎として、リーディング、ライティング、および思考スキルを向上させること、IELTS、アカデミックリーディングスキル、および語彙知識に対する習熟度とパフォーマンスを向上させることを目的とする。IELTSの読み書き演習、学術記事の読み書き、語彙構築、短作文等を行い、学びを深め、語彙知識や語彙習得スキル、課題を的確に捉え回答する力、読解力、ディスカッション力の更なる向上を目指す。

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部栄養科学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学 Pre-Study Abroad:Listening/Speakin g	留学支援のための英語特別教育科目となり、留学プログラムの学術的課題に対応できるリスニング・スピーキング力を身につけることを目的とする。グループでのプレゼンテーションやパネルディスカッションの準備、提供、批評を行う。研究に関する質問の仕方や情報源を見つけ評価する方法、学術的内容の口頭要約、グループディスカッションやパネルディスカッションを企画・主導する力を身につける。これらを通して、高度なディスカッションスキルやアクティブなリスニングスキルを向上させ、自分の研究についてのディスカッションや発表を通し、海外留学に向けた準備に繋げていく。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Pre-Study Abroad:Writing	留学支援のための英語特別教育科目となり、留学プログラムの学術的課題に対応できるライティング力を身につけることを目的とする。基礎的なライティングからアカデミックなライティングまで、また、エッセイ、レポート、レビュー、考察等、様々なジャンル・スタイルのライティングを練習し、プランニング、構成、ドラフト執筆、推敲、出版等ライティングプロセスを通して学んでいく。各アカデミックライティングスタイルを理解し、対応できる能力を身につけ、海外留学に向けた準備に繋げていく。	
基盤教育	国際人の形成	語学 日本語Ⅰ	外国人留学生のみを対象とした科目であり、大学生活や社会生活において必要とされる論理的な日本語の運用能力を身につけることを目的とする。コミュニケーションスキル、コースワークに必要なスキル（読み物の理解、レポートの作成等）についてを学ぶ。中級レベルの文法、表現、語彙を理解し、ある程度の長さの日本語の文章を読み、考えを口頭で表現できるようになること、論理的で客観的な文章が書けるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学 日本語Ⅱ	「日本語Ⅰ」を修得した学生または同程度の日本語レベルの外国人留学生のみを対象に、「読む・聞く・書く・話す」の4技能を総合的に学び、総合的な日本語運用能力を向上させることを目的とする。言語・文化・社会に関する、高度なトピックに関するリーディングやリスニング議論、発表、作文等を通して、学問上や職業上の目的で日本語を適切に運用することができる日本語力の習得を目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 日本事情Ⅰ	外国人留学生のみを対象とした科目であり、日本を理解するために必要な、かつ、基礎的な知識を身につけることを目的とする。現在の日本の生活様式について、留学生の母国の生活様式と比較しながら、理解を深めていく。住宅、衣服、食事等、日本での生活や身近な話題をテーマに取り上げ、日常的なことから考察を深め比較しディスカッションしていく。また、プレゼンテーションの機会を多く設定することで理解を深める。「日本事情Ⅰ・Ⅱ」を通して、日常的なテーマから日本特有の文化まで様々なテーマから日本をより深く理解していく。	
基盤教育	国際人の形成	語学 日本事情Ⅱ	外国人留学生のみを対象とした科目であり、「日本事情Ⅰ」で学んだ日常的なテーマに続き、日本の行事、日本人の自然との関わり等について、現在のみならず過去にも目を向け、変化する日本、変化しない日本という視点から、理解を深めていく。結婚式、祭、災害等、留学生の母国にもある事柄をテーマに取り上げ、考察を深め比較しディスカッションやプレゼンテーションを行い、理解を深める。「日本事情Ⅰ・Ⅱ」を通して、日常的なテーマから日本特有の文化まで様々なテーマから日本をより深く理解していく。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Integrated JapaneseⅠ Theory	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、日本語学習歴のない学習者あるいは多少の学習歴を持つ学習者を主な対象とし、語彙と文法の構造に関する知識を習得する。これから日本で学んでいく上での日本語コミュニケーション能力を身につけることを目的としている。そのため、授業ではペア・ワークやグループ・ワークを中心に大学生活に必要な基本的な文法や語彙等を学習し、身近な出来事について表現し、簡単なメッセージを読んだり書いたりできるような活動を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部栄養科学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学 Integrated Japanese I Practice	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、日本語学習歴のない学習者あるいは多少の学習歴を持つ学習者を主な対象とし、初級日本語を使ったコミュニケーション活動を身につける。リスニングとスピーキングのタスクに焦点を当てた、初級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。会話の練習を中心としたアクティビティを通して、初級レベルで日本語の語彙と文法構造を理解する。大学生活や日常生活を送る上での不便をより多く解消していけるようになり、意思疎通がよりスムーズに運べるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Integrated Japanese II Theory	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初級レベルの学生を対象とし、語彙と文法の構造に関する中級前の知識を習得する。コミュニケーション能力を伸ばし、初中級レベルの日本語能力を身につけ、読み書きのタスクに焦点を当ててことを目標とする。文法の練習、短い文章の読み方、短いエッセイの書き方等、様々な活動への参加を通して、初中級レベルで日本語の語彙と構造を理解し、日本に住んでいる間に起こりそうな様々な状況に対処する力を身につける。また、抽象的で複雑なトピックについて短いエッセイを書けるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Integrated Japanese II Practice	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初級レベルの学生を対象とし、コミュニケーション活動に基づいて、初中級日本語を使うスキルを身につける。コミュニケーション能力を伸ばすとともに、リスニングとスピーキングのタスクに焦点を当てた、初中級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。会話の練習や特定のトピックに関するスピーキングタスク等の様々なアクティビティへの参加を通して、初中級レベルで日本語の語彙と文法構造を理解し、日本に住んでいる間に起こりそうな様々な状況に対処する力を身につける。また、抽象的で複雑なトピックに関する関連テキストを作成できるようになることを目標とする。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Integrated Japanese III Theory	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初中級レベルの学生を対象に、文法や文型に関する中級言語の知識を身につける。コミュニケーション能力を伸ばし、読み書きのタスクに焦点を当てた、中級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。文法の練習、文章の読み方、短いエッセイの書き方等、様々な活動への参加を通して、中級レベルの日本語の語彙と文法構造を理解し、広い主題について明確で詳細なテキストを作成できるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Integrated Japanese III Practice	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初中級レベルの学生を対象とし、コミュニケーション活動に基づいて中級日本語を使うスキルを身につける。コミュニケーション能力を伸ばし、リスニングとスピーキングのタスクに焦点を当てた、中級レベルの日本語能力を習得することを目標とする。会話の練習や特定のトピックに関するスピーキングタスク等の様々なアクティビティへの参加を通して、専門分野での技術的な議論を含め、具体的なトピックと抽象的なトピックの両方に関する複雑なテキストを理解するとともに、様々な状況に対処し、トピックに関する見解を説明できるようになることを目指す。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Japanese Reading I	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語のバックグラウンドが殆どない学生を対象とし、多読や作文活動を通じて、日常生活や学業に必要な日本語の語彙や作文構造の基礎知識を身につける。身近なトピック（趣味、道順、日常生活等）についての簡単な会話に参加でき、自分自身やその他の単純で関連性のあるトピック（背景、好き、嫌い、方向等）について話したり書いたりできるようになることを目指す。日常のトピックに関する簡単なテキストと、実社会で使われる資料（メニュー、通知等）を読んで理解できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部栄養科学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Reading II	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Reading I」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。読書を通して日本語の文とテキストの構造を理解する。また、語彙と文法パターンの確認・練習をすることで、簡単な文章を構成し書くとともに、より複雑なテキストの理解に必要な語彙と文法パターンの習得に繋げていく。十分な語彙と基本的な構成構造を習得し、より実践に活きるリーディング力を養う。
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Reading III	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。中級レベルの日本語の学生を対象とし、様々なカテゴリーのテキストを読むスキルを向上させ、論理的な文章を書く能力を育成することを目標とする。スキル向上に必要なテクニックを念頭に置きながら、論理的なテキストを読み、学術研究に必要な正式な語彙、文型、および文の構造を習得することを目指す。
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Listening I	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語のバックグラウンドが全くない、あるいは、殆どない学生を対象とし、日常生活で使用する口頭表現の練習を通じて、リスニングの理解を向上させることを目的とする。日本語のみを使用して日常のコミュニケーションを行い、関心のあるトピックに関する情報を日本語で収集して伝達できるようになることを目標とする。基本的なリスニング能力を身につけ、自然に反応し、自分の興味について会話できるようになることを目指す。
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Listening II	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Listening I」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。口頭表現の練習を通じて、リスニングの理解を向上させることを目的とする。関心のあるトピックをテーマに選び、それに関する情報を日本語でまとめ、的確に理解、伝達できるようになることを目標とする。リスニング力、読解力、表現力を養うとともに、習得したリスニング技術をもってより多くのトピックに触れることで、日本への理解を深めることにも期待する。
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Listening III	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。中級レベルの日本語の学生を対象に、日本語のリスニングスキルを中級レベル以上まで向上させることを目的とする。スキル向上に必要なテクニックを念頭に置きながら、様々なトピックのリスニング教材に慣れる過程で、大学生活に必要なリスニング能力を徐々に養い、学問に関連する情報の理解に対応し、様々な状況やコンテンツに応じて適切に捉え対応できる力を身につける。
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Writing I	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の漢字のバックグラウンドが全くない、あるいは、殆どない学生を対象とし、日常生活で使用する漢字を習得することを目指す。レッスンによって、日本語の書記体系を理解し、100字程度の漢字や短いテキストの読み、100字程度の短いメッセージの書きができるようになることを目指す。
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Writing II	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Writing I」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とし、日常生活で使用する漢字を習得することを目指す。レッスンによって、日常生活でよく使用する漢字や簡単なテキストを読み、日常のコミュニケーションで使用する程度のメッセージの書きができるようになることを目指す。
基盤教育	国際人の形成	語学	Japanese Writing III	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。日本語の初期中級レベル相当の対象とし、漢字リテラシーを身につけることを目的とする。漢字や慣用句、または漢字の基本的な知識を学ぶ。漢字を正しく理解し、読み書きできるようになるとともに、漢字形成の歴史的過程やその部首等、漢字に関連する知識についても習得する。更に、漢字を使ったフレーズや文章を作成する等、漢字の使い方に慣れながら、漢字が文章や会話の語彙としてどのように使用されているかについての理解も目指す。

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部栄養科学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	国際人の形成	語学 Project Work I	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目である。主な目的は、学習者が初級前半レベルの日本語を用い、大学生生活に役立つ様々なプロジェクト・ワークを通して、情報収集や分析、プレゼンテーションに必要な日本語能力を身につけることである。授業はすべて日本語で行われ、学習者は、個人あるいはグループでプロジェクト・ワークに取り組む。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Project Work II	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Project Work I」を履修した学習者あるいはそれ相当の日本語学習を終了した初級後半レベルの学習者を対象とする。主な目的は、様々なプロジェクト・ワークに個人あるいはグループで取り組むことにより、情報収集や分析、プレゼンテーションに必要な日本語能力を身につけることである。週1回、全15回開講される。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Project Work III	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Project Work II」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。主に、個人あるいはグループで学生が情報収集、発信、調査、発表を行うことを通して情報活用や分析、プレゼンテーションのスキルを学ぶことを目的とする。インタビューや図書館等の施設での野外調査も実施する。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Japanese Culture and Society A	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、日本文化と社会の多様性について体験的に学ぶ科目である。目的は、日本文化や社会について描写するのではなく、体験し討論することによりそれらを学ぶことである。そのため、様々なビデオや文化のデモンストレーション、あるいはフィールド・トリップ等を取り上げ、授業を展開していく。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Japanese Culture and Society B	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Culture and Society A」に続く科目であり、日本文化と社会の多様性について体験を通して学ぶ。コースの目的は、日本文化や社会について描写するのではなく、体験し討論することである。そのため、様々なビデオや文化のデモンストレーション、あるいはフィールド・トリップ等を取り上げ、授業を展開していく。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Introduction to Japanology A	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Japanese Culture and Society B」を履修した学習者あるいはそれ相当レベルの学習を終了した学習者を対象とする。日本のことば、文化、社会、歴史等の幅広い知識を得ること、そして、得られた知識や情報について考え、発信する活動に取り組む。フィールドリサーチやプレゼンテーション活動も行い、Japanologyという分野そのものの成り立ちについても学んでいく。	
基盤教育	国際人の形成	語学 Introduction to Japanology B	交換留学生のための初修日本語・日本文化科目であり、「Introduction to Japanology A」を履修した学習者あるいはそのレベル相当の日本語学習を終了した学習者を対象とする。目的は、日本の言語・文化・社会について学び、自らの持つ背景や文化等と併せて考察するというものである。テーマは、日本の社会問題から文芸、サブカルチャーまで幅広く扱い、ディスカッションやフィールドリサーチを交えながら授業を展開していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア キャリアデザイン入門	個人のキャリア形成に必要な要素を理解し、能力開発の必要性和社会的意義を知るとともに、自立性のあるキャリア形成を具体的に思考することを目的とする。キャリア開発に必要な基礎的学論、自身のキャリア変遷と個人的価値観、社会変化と環境変化で作られ変わる価値観、労働の価値観の獲得と変化、個人的・社会的興味の源泉、自己の興味の変遷、労働の興味、能力の向上と変化、他者との関わりを通じた新しい興味・価値観を知るための講義を展開する。自身を語れるようになるとともに、様々なキャリアのあり方を模索し、今後の自身のキャリア開発の具体性が持てるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部栄養科学科）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア コミュニケーション&マナー	議論の分析を中心テーマとして、社会人基礎力やコミュニケーション能力の向上を目指す。口頭に限らず、文章により意見を述べる方法を含んだ議論の方法を考えていく。議論がどのように構成されているか（または構成されるべきか）を考え、分析・考察を進めていく。あわせて、社会で必要となるマナーについても学び、各自の言語活動を見つめ直していく。議論の構成・ルールについて理解し、議論の分析を日常の言語活動に応用できる力（課題発見力、計画力、想像力）、立場に応じて相手を納得させる力（発信力、状況把握力）、相手の意見を尊重し受け入れる姿勢（傾聴力、柔軟性）の獲得を目指す。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア キャリアデザイン実践	医療技術の進化は長寿化をもたらし、人生100年時代という言葉も浸透しつつある。そのような時代を迎え、私達の働き方や生き方はどのように変わり、変えていく必要があるのか。このテーマについて、講義や参加者間での議論を通し、私達自身の問題として捉え、これからの生き方を考える。長寿化と教育・仕事・引退モデルの変化、機械化・AI後の働き方、キャリアを拓くために持つべき資産、働き方の選択肢の多様化、新しい時間の使い方、仕事以外の人生（ライフ）の変化といった現代社会の状況についても解説をしながら、キャリアデザインを実践していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア キャリアデベロップメント	将来、有意義な人生や職業生活を築くため、「自分とは何か」「職業理解と働く意味」「社会で求められる力」等を深く考え、就職や自己成長の重要性を理解し、今後の学生生活を充実させること、社会や仕事で求められる力となるコミュニケーション力やチームで結果を出す力を高めることを目的とする。自己を理解し、自己成長の必要性を理解すること、社会環境への関心を高めつつ就労観や職業観を高めること、多様性を受け止め、コミュニケーション力を高めることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア インターンシップ入門	インターンシップ実施の準備講座となる。前半でまず、社会人に求められる力（社会人基礎力）の概要とこれを身につけるための一つの方法としてのインターンシップについて議論し、様々なインターンシップの形態やインターンシップ先の探し方を学ぶ。更に、先輩からの経験談も踏まえ、企画・提案への取り組み方を具体化していく。これらを経てPBLを体験し、課題に対しての現状分析、課題の整理、解決策の提案を行っていく。社会人に必要とされる力や円滑なグループワークを遂行していくための力を養い、インターンシップの実践に向けた行動に繋げていく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア アントレプレナーシップ	人口の減少、労働生産性の低さ、情報化社会の立ち遅れ、研究力の低下、特許出願数の低下、外国への留学生の減少等、日本の閉塞感を表すキーワードは少なくないが、起業する人の少なさもその一つであろう。結果、ユニコーン企業も少なく、企業の時価評価額ランキングも、1990年代と比べ大きく低下している。起業が一般化している世界の中で、日本の若者は、なぜ起業しないのか。起業するために必要な発想や、情報技術の活用、求められるマインドセット等について、実際に起業した人の話も聞きながら、学修していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア 口頭表現法	口頭による言語表現のうち、敬語を取り上げる。正しい敬語の使い方を身につけることは、日本語という言葉の特徴を知ることや、社会における様々な人間関係を円滑に進めることに繋がる。尊敬語・謙譲語・丁寧語等の敬語の基本を理解し、状況に応じて言語表現を使い分けることができるようになることを授業の目的とする。また、人間関係を円滑に保つための言葉の働きについての理解も目指す。これらを通して、基礎的な学力と豊かな教養の一助とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア プレゼンテーション技法	プレゼンテーションの方法を学ぶことにより、自分の意図を相手に正確に伝える能力を養うことを目的とする。各自設定したテーマに基づいてプレゼンテーションの実践を行う。発表の仕方とともに、発表を聴く姿勢にも視点を置きながら授業を展開していく。各自テーマに応じて必要な情報を収集・分析する「課題発見力」や「計画力」、文章・図表等を効果的に用いた発表資料を作成する「表現力」、聴き手の立場を考慮して自らの意図を正確に伝えることができる「発信力」、質疑や意見に対して適切に応答することができる「傾聴力」といった能力を向上させることにより、社会で必要とされる社会人基礎力の獲得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部栄養科学科)					
科目 区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	キャリア・市民形成	キャリア	文章読解	小説そのものが既に作家の想像力という〈幻想〉の産物であり、読者を〈異空間〉に誘う機能がある。そうした原理を最も端的に開示する幻想小説を読み解くことで、文学の本質である作家における〈書く〉という行為の意味、読者における〈読む〉という行為の意味までも明らかにすることを目的とする。明治期の作品から現代の同時代作品まで、作家を限定することなく、できるだけ多くの小説を読み解くことで、作品そのものの魅力を感じつつ、〈書くこと〉〈読むこと〉の相互行為を分析し、自分なりの気づき、考え、意見を持つことを目標とする。	
			レポート・論文のまとめ方	基本的な文章作成方法に基づいた上で、データの解釈や文献の検索についてを学び、調査やレポートの構成、作成におけるルール、分析等、レポートや論文をまとめるために必要な一連の事柄について学ぶ。これらを通して、レポートや論文で使われる言葉や表現方法、レポートの構成の仕方、基となる資料の収集や分析・活用の仕方、結論や今後の課題のまとめ方を理解する。大学生にとって必須であるこれらの方法論を今後の学業に活かすとともに、論理的に組み立てる力を養う。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	日本国憲法	日本の法体系における最高法規に位置付けられる日本国憲法を対象とする憲法学の基礎を学んだ上で、社会における具体的な問題に即して、憲法的なものの見方・考え方とはどのようなものなのかを理解する。「統治機構」と「基本的人権」の2分野の主要な項目をテーマに講義を行い、憲法に関する基礎的な知識と現実の社会における事象・問題を憲法の観点から理解し、考えることのできる基礎的な能力の修得を目指す。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	グローバル市民論	金融が世界を渡り、情報基盤が世界の端と端を繋ぎ、食料もエネルギーも世界を流通し、太古より変わることなく水と大気が地球を循環している現代社会においては、島国日本から外に出ず、外国人と話すことを避けたとしても「グローバル市民」の一員であることは決して避けられない。地球温暖化の問題、格差の問題、感染症への対応の問題等のグローバルな課題に対し、グローバル市民としてとるべき行動や態度等について、幾つかのトピックスを取り上げ、識者を招きながら学習する。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	環境政策論	公害問題から自然破壊、地球温暖化に至るまで様々な形態とスケールで発生する環境問題に対しては、法律による規制のほか、ボランティアな市民参加を活かした制度、経済的インセンティブを活かした制度等、様々な法制度を複合的に用いることがより効果的である。環境法規の基本原則を学んだ後に、代表的な国際条約や環境法規および環境政策の手法について知識を習得し、グローバルな問題のローカルにおける解決策について考察する。世界レベルでの環境法規の基本原則や日本の環境に関する法体制の基本、法規制以外の制度が果たす役割について認識できるようになることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	情報化社会と人間	情報技術の普及による社会の情報化は人の生活や個人のあり方、ものの見方まで変化させつつある。現代の社会活動と情報化について理解するとともに、現状の問題把握・将来起こりうる問題への指摘ができることを目的とする。社会の基幹システムにまで及ぶ情報化や、情報化による利便性の向上とそれに相対する負の側面についてを、様々な環境下での事例を踏まえて学び、現代社会の中どのように生きていくかを考えていく。情報技術と現代社会の密接な関連性に関する知識・理解を深め、情報化社会の発展と問題に関して主体的な観点から論じられるようになることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	ダイバーシティ論	アイヌ民族を除けばほぼ単一民族国家で、一億総中流社会が長く続いた日本社会において、ダイバーシティ（多様性）を受入れることは必ずしも歓迎されず、むしろ非効率と考えられがちであった。しかしながら、近年、マイノリティや個々の特性を尊重する動きが世界的に広がっており、多様性を積極的に受け入れる社会の方が活力を生み、また投資の対象としても高く評価されるようになってきている。明るい未来社会を描くために、日本における多様性社会はどうあるべきか等について、幾つかの事例を取り上げ、議論を交えながら学修していく。	

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部栄養科学科)					
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	障害学	障害学にとって重要なのは、社会が障害者に対して設けている障壁、そして障害の経験の肯定的側面に目を向け、障害者が持つ独自の価値・文化を探る視点を確立することである。個人の問題という視点から、環境、社会の排除、差別へと視点は転換し、更には、独自の文化集団、コミュニティとしての障害まで意識する必要がでてきている中、障害と社会を巡る歴史と現代の考え方や、障害者の生活に関わる制度の現状等を通して障害学を学ぶことで、障害の社会モデル、障害者への不当な差別的取り扱いと合理的配慮、バリアフリーとユニバーサルデザイン等の理解を目指す。	
	キャリア・市民形成	市民形成	ジェンダー論	ジェンダーやセクシュアリティといった、ジェンダー研究における基礎的な用語を概説しつつ、それらに対する我々のイメージがいかに歴史的、社会的、文化的に作られてきたのかを、美容整形やダイエット、スポーツ、生殖、人種等の身近な身体文化を題材に考え、身体がいかにジェンダー、セクシュアリティにとって重要であるかを学ぶ。ジェンダー、セクシュアリティが社会構築物であることを学び、その問題性と可能性について考え、議論することができるようにすることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	社会貢献活動入門	社会貢献は、ボランティア団体やNPO/NGO等多様であり、形態も取り組み内容も様々である。そして、企業による社会貢献、CSRも多種多様であり、それぞれの事業規模も多様である。また、東日本大震災以降の被災地支援活動を機に、社会貢献を取り巻く環境も大きく変化しつつある。国内外の最新事例を踏まえてNPO/NGOおよび企業の社会貢献のあり方について学ぶとともに、分野別の活動内容や各活動が始まった背景についても理解を深めていく。これらを通して、社会において個人が果たしうる役割と課題を考え、社会と自分との関係について考えを深めていき、社会貢献に関する知識をもって主体的に社会貢献に関わる行動に繋げることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	地域マネジメント	既に人口の減少期に入り、世界でも類を見ないほどの少子高齢化社会に突入した日本において、今後はGDPも減少し、その結果、税収も減少していくことが予想される。加えて、行政を支える労働力の確保も難しくなる。こういった中で、地域のマネジメントをこれまでのように行政に依存することは困難であり、地域住民が相互に地域マネジメントに関わっていくことが必要となる。ここでは、幾つかの事例を取り上げ地域マネジメントの現状と手法を学び、地域市民として地域のマネジメントに貢献していく知恵を学修していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	公務員論	公務員制度や行政の仕組みを知り、更に公務員に対する理解を深めることにより、公務員のあり方について考えられるようになることを目的とする。まず、公務員制度や行政の仕組みの基本を取り上げ、その上で少子高齢化等の課題への新たな対応について考えていく。また、職種や仕事内容が多様多様である公務員を理解することを目的に、様々な職種の公務員から実際の職務の話聞く機会を設ける。これからの公務員のあるべき姿について、考察することができるようになることを目標とする。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	食と健康	食と健康の関わりを栄養学や食文化等の知見を中心として学ぶことを目的とする。5大栄養素とその具体的性質を理解し、それぞれの栄養素の役割を生化学、生理学の観点から理解する。また、食品摂取時の人体組織の機能や、摂取内容に応じた人体への作用、あるいは、体質等に応じた影響を解剖生理学的観点から理解する。食と健康の基礎的事項を理解し、自身の健康のあり方を考え、時代や国、環境や文化の違いによっても様々な食と健康の捉え方を理解していく。	
基盤教育	キャリア・市民形成	市民形成	基礎会計学	企業の経営活動をお金の観点から記録する方法（商業簿記）の基礎（簿記と会計、簿記の種類、機能と目的等）について解説し、なぜ簿記が企業経営において重要であるのかを説明した後、日本商工会議所簿記検定3級の出題範囲の前半部分に対応する学習内容を学んでいく。商業簿記を理解することによって、企業の経営状態をより明確に捉えることができるようになり、今後修得する会計領域の体系的な専門知識および学際的知識への素養を身につける。そして、社会の様々な組織において実践力を発揮し社会に貢献するための基礎とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部栄養科学科）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
基盤教育	キャリア・市民形成	情報	情報リテラシーⅠ	インターネット等の普及により様々な情報を得ることが容易になってきている一方で誤った情報も混在している。そのため、価値ある情報を収集し、社会的な問題を認識した上で、効果的に活用して発信することが求められている。このような社会情勢への対応を目的として、情報リテラシー概論の他、情報の検索方法の習得を目指す。その後、収集した情報をまとめるために、パソコン（ワープロソフト、プレゼンテーションソフト、表計算ソフト）の基本操作、文章作成上のルール（構造化文章の理解と仮作成）について学び、今後のレポート作成に役立つスキルを身につける。
基盤教育	キャリア・市民形成	情報	情報リテラシーⅡ	「情報リテラシーⅠ」の学びを基礎として、正しい情報の収集および発信について習得することを目的とする。特に、自らの研究データを管理し、分かりやすく表現できるようになることを目標とする。そのために、表計算ソフトを用いて、数値データのグラフ化や、管理をするための基本操作を学び、データ表現に必要な基本統計を理解する。その後に、発表の仕方を学び、これまでに習得した操作法を活用して、正しい情報を発信する（プレゼンテーション）スキルも身につける。
基盤教育	キャリア・市民形成	情報	プログラミング基礎Ⅰ	プログラミングを用いて開発されたシステムやアプリ、プログラムによって制御された電子機器等が、身近な生活の中で実際にどのように機能しているのかを学び、プログラミングの役割や機能、実社会への影響を理解していく。WebサイトやAI（人工知能）、IoTデバイスでもよく使われるPython言語を用い、基礎固めを目的としたプログラミング演習を行いながら、その仕組みを理解していく。プログラミングの基礎知識を習得し、プログラミングを組み立てるための思考力も養う。
基盤教育	キャリア・市民形成	情報	プログラミング基礎Ⅱ	「プログラミング基礎Ⅰ」を基礎として学びを深める。Python言語の高度な文法の理解や一般的なPythonプログラムの作成ができるようになることを目的とする。また、基礎的なアルゴリズムを理解し、より実践的かつ効率の良いプログラミングの考え方を理解するとともに、簡単なディープラーニングを使いプログラムを理解した上で、同様の二項分類のディープラーニングを作成できるようになることも目標とする。
基盤教育	健康スポーツ科学		スポーツ健康科学実技Ⅰ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、初心者レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。
基盤教育	健康スポーツ科学		スポーツ健康科学実技Ⅱ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、初級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。
基盤教育	健康スポーツ科学		スポーツ健康科学実技Ⅲ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、中級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。
基盤教育	健康スポーツ科学		スポーツ健康科学実技Ⅳ	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、上級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、中には集中授業として短期間で実施するものも含まれる。

授 業 科 目 の 概 要			
（健康スポーツ科学部栄養科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	健康 スポー ツ科学	スポーツ健康科学講義Ⅰ	ライフキネティック（運動と脳トレを組み合わせたエクササイズ）について、トレーニングの概念や方法、得られる効果等を学び、日常生活にどのような好影響を与えるのかを理解することを目的とする。ライフキネティックトレーニングをする上で重要な身体活動の感覚と認知的精神的刺激を統合するためのトレーニング方法の知識を身につけることで、精神的、物理的な訓練の基本を理解し、ライフキネティックトレーニングのルールや健康上の利点について認識を持てるようにすることを目標とする。
基盤教育	健康 スポー ツ科学	スポーツ健康科学講義Ⅱ	運動と身体機能の関係を正しく理解し、更に、運動を実施する上で必要な科学的方法論を身につけることを目的とする。トレーニングの基本原則、スポーツ疲労やスポーツ障害の特徴、身体活動を通じた筋力・心臓等の機能向上についてを学び、目的に合わせた運動の仕方や健康に適した運動量の知識を獲得することで、生涯に渡って健康的な生活を送るための身体づくりについて考え、日常生活の中で役立てることを目標とする。
基盤教育	総合・ 学際	全学総合A	東洋大学の創立者である井上円了の生涯を対象とし、その思想と行動を明らかにする。井上円了は幕末・明治・大正の3つの時代を生きた人物であり、単に東洋大学の創立ばかりではなく、「明治青年の第2世代」の代表者と歴史家が評価するような、様々な業績を残した。その生涯の時期は、現代社会の基礎である近代日本の創設期にあたることから、現代日本の出発点を歴史的に具体的に学ぶことにも繋がる。時代とともに自分がどのように生きるべきか、その哲学を考察できるようになることを目標とする。
基盤教育	総合・ 学際	全学総合B	東洋大学の創立者である井上円了と東洋大学の歴史を明らかにする。井上円了の教育理念によって、明治20（1887）年、日本が大学制度を創出する時期に「哲学館」として創立され、それから東洋大学は現在まで130年以上の歴史を歩み、大規模な組織に発展してきた。創立者井上円了の教育理念や東洋大学の個性的な歴史を、日本の大学の歴史を背景としながら学んでいくことによって、時代の変遷と大学組織の発展が明らかになり、近代から現代までの日本社会のあり方を理解する一つの視点を学ぶことにも繋げる。
基盤教育	総合・ 学際	全学総合C	東洋大学の創立者である井上円了が明治中期に提唱した「妖怪学」を取り上げる。妖怪を取り巻く社会も学問のありようも様々に変化した現代社会に即した「新しい妖怪学」の実現は可能だろうか。宗教学・民俗学・文学史・芸能史・風俗史・神話学・心理学・精神医学等様々な学問分野の成果を導入し、日本やアジア、ヨーロッパをも視野に入れた学際的アプローチを展開する。不可思議なものに惹かれていく人間の心性に目を向けた上で、科学的な検証と明晰な論理によってその本質を見極め、実体のない思い込みや不合理な権威を打破していくための批判精神を養うことを目標とする。
基盤教育	総合・ 学際	全学総合D	ICT（情報通信技術）の発展に伴い、膨大なデータが世の中に溢れるようになり、様々な分野でデータの利活用が急速に進められている。データサイエンスのスキルは、技術者だけでなく、すべてのビジネスパーソンにとって必要不可欠になってきている。そこで、データサイエンスとは何か、その本質は何か、どういうシーンでどういう活用をされているか、どういう手法（伝統的な統計手法、機械学習やディープラーニング等のAI）がどのように利用されているかについて理解を深め、職種別にデータサイエンスを使いこなす上で必要なスキルや発想を身につけることを目指す。
基盤教育	総合・ 学際	全学総合E	インターネットの普及と高速化、膨大なデータの蓄積、コンピュータの高性能化と共に、人工知能（AI）の研究開発が進み、これを利活用できる領域が広がったことで、「第4次産業革命」と呼ばれる社会変革が起こり始めている。膨大なデータに対するAIのサービスとしての利活用が、人間の能力を最大限に引き出すと同時に、社会の持続性や環境問題等社会課題の解決、経済・産業の発展に寄与することが期待されている。そこで、AIとは何か、その手法や原理等の基礎知識を修得することを目的とする。またAIの応用例にも触れ、AIの利活用によってどのような社会が実現できるのか、その上でどういう課題があるのかを理解する。

授 業 科 目 の 概 要			
（健康スポーツ科学部栄養科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	総合・学際 全学総合F	2000年以上の歴史を持つ哲学とその思考法が、どのようにして現在の私たちの生きる力となるのかを理解するため、古代から現代に至る西洋と東洋の思想を横断するかたちで講義を行う。現在の私達に必要な「自己を律し、より良く行為するための力」、そして、「今いる地点から自己の経験を一步先に進めるための能力」を獲得するため、「世界と自己」「心と身体」「正義と自由」をテーマに哲学的トレーニングを行う。各テーマに関する西洋と東洋の異なる知見を手がかりに、各人が自分で思考を進め、行為するための力を身につけることによって、哲学的に思考することが生きることによどのような役割を果たすのか、また、異なる文化に属する思惟の特質についてを理解することを目標とする。	
基盤教育	総合・学際 全学総合G	環境関連の諸問題を総合的に理解し、自分なりに判断できる力を身につけることを目的とする。環境問題の現状について解説するとともに、これらを解決しようとする試みを、東洋・西洋の哲学的思想を中心にしつつ、様々な学問を基に紹介する。地球温暖化に限らず、エネルギー問題、生物多様性、水質汚染、自然災害、農地の砂漠化、異常気象等々、SDGsで提起される様々な範囲の問題の解決に向けて、国際協調や国際規約、地域の草の根運動、アート作品といった多様なレベルで行われている取組みを理解する。環境問題の現状と対策の実態を把握すると同時に、自分自身の生きる環境を哲学的に考えるというトレーニングをすることで、問題解決に資する発想を備えることを目指す。	
基盤教育	総合・学際 全学総合H	知識基盤社会における大学は、これまで以上に知のコミュニティとしての豊かさが求められるようになってきている。また、学びのリソースは、教室や図書館だけでなく地域や世界にも広がってきた。学内外の様々な専攻分野教員から、毎回、話題提供を行い、次いで、様々な視点から、大学教育の社会的役割についてディスカッションを行い、多様な学びのあり方とリソースを掘り起こすことによって、学生が自ら知のコミュニティを創造するための基礎的力量と学際的視点の修得を目指す。	
基盤教育	総合・学際 全学総合I	経済同友会会員企業が受け入れ先となって行うインターンシップの科目である。本インターンシップの趣旨は、「学生が企業という場で実社会に学び、社員や他校生も交えた多様な価値観に触れ、様々な気づきを得ることで事後の学修に注力し、キャリアビジョンを描きながら資質・能力を高めること」である（経済同友会資料より）。夏季休暇中の10日～4週間程度の企業におけるインターンシップ参加、事前研修、事後研修、成果発表会等を通し、社会人に求められる姿勢や行動を学び、視野を広げ、自分のキャリアビジョンを描けるようになることを目標とする。	
基盤教育	総合・学際 全学総合J	今、この時にあって、哲学教育を通じて自己の基軸を確立した社会的リーダーたりうる人財の育成が強く期待されていると思われる。そこで、企業の社長や自治体の首長といったリーダーに限らず、大きな組織を構成する一部門としての組織の責任者を含めた、ある人的な集合体の中心となって活躍できる人財、いわば真に社会・集団を牽引しうる東洋大学生の育成を目的として授業を行うものである。	
基盤教育	総合・学際 全学総合K	リーダーに必要な論理的思考力の訓練を行い、そのスキルを身に付けた後に、リーダーシップ論を学んでリーダとはどうあるべきかを考察して問題意識を育み、更に現代日本におけるリーダー哲学、国際社会におけるリーダー哲学を学ぶことで、自己の基軸となる哲学を形成する。加えて、最後に自己の基軸を再確認するために、自ら形成したリーダーとしての哲学について最終レポートをまとめて、発表する。	
基盤教育	総合・学際 全学総合L	オリンピック・パラリンピック等スポーツの歴史を通して世界について学ぶことを目的とする。スポーツやアスリートだけでなく、アスリートに対するサポートの実情やその裏側に潜む社会的課題についても深く掘り下げ、スポーツの華々しい実績だけでなく、その裏側についても学んでいく。これらを通して、オリンピック・パラリンピックの基本理念や基礎知識、諸問題の理解を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
（健康スポーツ科学部栄養科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	総合・学際 全学総合M	オリンピック・パラリンピックに関わるバラエティに富んだテーマを取り上げ、オリンピック・パラリンピックを多角的に考えていく。オリンピック・パラリンピックの理念やスポーツイベントに関する幅広い知識はもちろん、イベントを裏方で支えるスポーツボランティアの実際にも触れていく。単に「オリンピックを学ぶ」ことだけではなく、社会のあらゆる側面と結びついていることを理解するとともに、オリンピック・パラリンピックを題材として世界に広がる多様な価値観を学び、深く「哲学する」姿勢を養う。	
基盤教育	総合・学際 総合A	宮沢賢治の生き方や思想を学び、詩を読むことで、豊かな教養を身につけることを目的とする。『法華経』に帰依し、民衆救済に一生を捧げた宮沢賢治の詩を通して、自然や生命への畏敬、共生、物への慈愛や人生における苦悩について考えることで、自らの人生を考えていく。また、作品を読解することで、学士力の「読む」力をアップさせ、人としての生き方や社会を考えることで「社会人基礎力」を養う。	
基盤教育	総合・学際 総合B	舞台芸術とは何かを知るために、音楽、芸術、文学、ダンス、照明、舞台、デザイン、衣装を理解し、舞台芸術の可能性を知ること、社会イノベーションに繋がる種を見つけることを目的とする。練習に役立つスキルの開発に焦点を当てながら、多くの文学を読んだり、パフォーマンスを観たりすることで、舞台芸術の基礎知識を養い、創造的な心と挑戦的な精神を育む。また、レポート作成や、プレゼンテーション、ディスカッションを通して、論理的思考を身につけ、ライティング、コミュニケーション、分析、問題発見・解決、プレゼンテーションの能力獲得も目指す。	
基盤教育	総合・学際 総合C	アートマネジメントとは、芸術・文化と社会を相応しいかたちで融合させ、文化資本を高めていくことである。マーケティングのアイディア、文化施設・舞台芸術団体の運営、コンテンツ産業やまちづくり等について、伝統文化から美術・音楽・舞踊・映画・ポップカルチャーまでアートの広範な領域を取り上げ、学んでいく。社会と芸術・文化の関係を経営学の視点から考えることで、芸術・文化と社会の適切な関係について理解し、アートマネジメントの基本的な考え方を説明できるようになることを目標とする。	
基盤教育	総合・学際 総合D	芸術表現の鑑賞と実践のあり方を探求することを目的にその基礎を学ぶ。絵本をテーマとして取り上げ、読む・聞く・描くことを実践する。通常の冊子体絵本だけでなく、音楽を伴った紙芝居形式や絵本に基づく映像作品も積極的に取り入れ、芸術表現としての幅を広げていく。関心のある作品を選び、絵本の読み聞かせや創作を实践し、互いに批評し合い、批判点を受け入れることで、表現に磨きをかけていく。これによって、芸術表現としての絵本を読む・聞く・描くことの可能性を拡大できるようになることを目標とする。芸術・文化に対する関心を深めることにも繋げていく。	
基盤教育	総合・学際 総合E	芸術表現の鑑賞と実践のあり方を探求することを目的とする。「総合D」で学んだ絵本を読む・聞く・描くことの基礎を踏まえて、更に高度な実践を試みる。絵本の世界においてどのような表現が可能か。伝えようとするイメージの中に自分を置き、感性を最大限に働かせ、架空の世界を現実化し立体化していく。そうして絵本を聞く側にも豊かなイメージの世界が広がることを目標とする。表現の基礎技術の上に、絵本の読み聞かせや創作が持つ自由さと魅力を追求できるようになることを目指す。	

授業科目の概要				
(健康スポーツ科学部栄養科学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育	総合・学際		総合F	水力や蒸気機関による第1次産業革命、電力による第2次産業革命、電子工学や情報技術による第3次産業革命から、IoT及びビッグデータ、AIをコアとする現在進行中の第4次産業革命まで、技術の革新はやむことはない。そして、それらの応用は、最先端と呼ばれる場面に留まらず、建築やデザイン、介護や障がい支援、育児や保育、アスリート支援や健康増進、食事や栄養といった、ありとあらゆる場面に及び、それぞれの分野での可能性を大きく広げている。この授業では、IoTやAIといった情報技術に留まらず、学科に関連する領域における最先端のテクノロジーに触れることで、テクノロジーが私達の生活や環境をどのように変化させ、また関連する社会課題の解決にどのような影響を及ぼすのかについても学んでいく。これらを通して、社会が求める要素を的確に捉える視点と多角的な視野を養う。
	専門教育	学部共通	必修科目	健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ
専門教育	学部共通	必修科目	健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	大学生としての基本的なアカデミック・リテラシーを身につけ、今後4年間での学びの準備を行う。アカデミック・リテラシーとは、読む・考える・書く・まとめるといったことに加え、他者の話を傾聴する、必要な資料を探す、効果的なプレゼンテーションを行って自分の考えを伝える、SNSを適切に使う、質疑応答を通して議論を深めるといったことも含む。1年次ではこうした基本的な技術や知識が身につくように、合同ゼミや外部講師等による講義を積極的に活用し、学生同士あるいは学生・教員間の集団凝集性を高めることも狙いとしつつ、学生が切磋琢磨できる環境を整える。
専門教育	学部共通	必修科目	健康スポーツキャリアデザインA	学生生活を充実させ、自身の将来像を明確にしていく第一歩を踏み出すためのエッセンスを教授する。受講により、論理的思考力・コミュニケーション能力等を高め、より良い社会の構築に貢献する能力を身につけることを目的とする。なお、この科目は、本学科のディプロマポリシーで掲げられている「(1)栄養学に関する基礎知識のうえにスポーツ科学や健康科学などの専門知識や技術を修得し、実社会で実践する、(2)「栄養」「スポーツ」「健康」を総合的に理解し、健康課題をはじめとした社会問題を解決する。」という資質・能力の習得に関連する。
専門教育	学部共通	必修科目	健康スポーツキャリアデザインB	種々のグループワークやディスカッションにより「自分を知る」「社会を知る」「学問との繋がりを考える」ことを掘り下げていく。これらの取り組みを通じて、卒業までに、物事に対する多面的・論理的な考察力、情報発信力およびコミュニケーション力を高めることにより、自己の発展を望み、より良い社会の構築に貢献する能力を身につけることを目的とする。なお、この科目は、本学科のディプロマポリシーで掲げられている「(1)栄養学に関する基礎知識のうえにスポーツ科学や健康科学などの専門知識や技術を修得し、実社会で実践する、(2)「栄養」「スポーツ」「健康」を総合的に理解し、健康課題をはじめとした社会問題を解決する。」という資質・能力の習得に関連する。

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部栄養科学科）				
科目 区分			授業科目の名称	講義等の内容
専門 教育	学部 共通	必修 科目	健康スポーツ科学プロジェクト演習A	健康スポーツ科学部の学生として、目的意識の形成、知識・経験・コミュニケーション能力の獲得、将来の職業観の醸成を、学生が選択したユニット（栄養疫学・栄養教育学、スポーツ栄養・生理学、食理学、生活習慣病予防学）のプロジェクトに沿って行う。具体的には、北区などの行政や民間企業、更には研究機関などとの連携活動を通して、課題の分析や課題解決に向けたプロセスに触れることで、実社会における物事の考え方や講義との関連性を理解する。これらの一連の活動によって、単に個人が課題をこなすだけでなく、様々なグループで環境の不確実性に直面しながら社会的課題解決のプロセスを経験することにより、自律性や他者との協調性を育むとともに、集団における意思決定能力や集団凝集性を醸成することも目的としている。
専門 教育	学部 共通	必修 科目	健康スポーツ科学プロジェクト演習B	健康スポーツ科学部の学生として、目的意識の形成、知識・経験・コミュニケーション能力の獲得、将来の職業観の醸成を、学生が選択したユニット（栄養疫学・栄養教育学、スポーツ栄養・生理学、食理学、生活習慣病予防学）のプロジェクトに沿って行う。具体的には、北区等の行政や民間企業、更には研究機関等との連携活動を通して、課題の分析や課題解決に向けたプロセスに触れることで、実社会における物事の考え方や講義との関連性を理解する。これらの一連の活動によって、単に個人が課題をこなすだけでなく、様々なグループで環境の不確実性に直面しながら社会的課題解決のプロセスを経験することにより、自律性や他者との協調性を育むとともに、集団における意思決定能力や集団凝集性を醸成することも目的としている。なお、「健康スポーツ科学プロジェクト演習A」とは異なるユニットを選択することとする。
専門 教育	学部 共通	必修 科目	健康スポーツ科学演習Ⅰ	それぞれのユニット（栄養疫学・栄養教育学、スポーツ栄養・生理学、食理学、生活習慣病予防学）の専門領域の英語論文等を検索して精読し、各領域における研究の論文の構造、頻繁に用いられる専門用語と英文構造、調査・実験方法、解析方法、図表作成等の基本的知識を学び、4年生での卒業研究・卒業論文につなげることを狙いとする。なお、学生は2年次の「健康スポーツ科学プロジェクト演習」で選択したユニットでの活動や研究領域を十分に熟慮し、自身の将来的な職業観も参考にしながら、3年次のユニットを決定する。
専門 教育	学部 共通	必修 科目	健康スポーツ科学演習Ⅱ	それぞれのユニット（栄養疫学・栄養教育学、スポーツ栄養・生理学、食理学、生活習慣病予防学）の専門領域の英語論文等を検索して精読し、各領域における研究の論文の構造、頻繁に用いられる専門用語と英文構造、調査・実験方法、解析方法、図表作成等の基本的知識を学びを深め、4年生での卒業研究・卒業論文に繋げることを狙いとする。なお、「健康スポーツ科学演習Ⅰ」で選択したユニットで、受講することを原則とする。
専門 教育	学部 共通	必修 科目	健康スポーツ科学演習Ⅲ	「卒業研究・論文Ⅰ」を円滑に進めることを目的として実施し、各ユニットの専門領域における先行研究を精読する。具体的には、反転学習によって、各論文における背景の構成、方法の詳細、結果の示し方、更には結果の解釈における注意点等を丁寧に解説し、学生が自分の取り組む調査・実験に活かすことができるようにするとともに、複数の論文を取り上げることで該当の研究領域において学生が俯瞰的な視点を持つことができるようにする。なお、「卒業研究・論文Ⅰ」と並行して実施するため、同じ専門領域のユニットを選択することになる。
専門 教育	学部 共通	必修 科目	健康スポーツ科学演習Ⅳ	「卒業研究・論文Ⅱ」を円滑に進めることを目的として実施し、各ユニットの専門領域における先行研究を精読する。具体的には、反転学習によって、各論文における背景の構成、方法の詳細、結果の示し方、更には結果の解釈における注意点等を丁寧に解説し、学生が自分の取り組む調査・実験に活かすことができるようにするとともに、複数の論文を取り上げることで該当の研究領域において学生が俯瞰的な視点を持つことができるようにする。なお、「卒業研究・論文Ⅱ」と並行して実施するため、同じ専門領域のユニットを選択することになる。

授業科目の概要					
(健康スポーツ科学部栄養科学科)					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	学部共通	必修科目	卒業研究・論文Ⅰ	3年生までに学んだ健康科学、スポーツ科学、栄養科学領域の知識を活用しつつ、先行研究で既に明らかにされている事実と明らかにされていない事実を整理した上で、社会的課題の解決に向けて取り組むべきテーマ（リサーチクエスト）を決定する。実施の際には、それぞれのユニット（栄養疫学・栄養教育学、スポーツ栄養・生理学、食理学、生活習慣病予防学）の担当教員の指導の下、学生が各々の研究計画の設計、更には計画に沿った調査・実験を行う。なお、卒業研究では学生からの定期的な進捗状況の報告を要し、その進捗に合わせた個別指導を実施する。選択するユニットは、3年次の健康スポーツ科学演習で選択したユニットであることを原則とし、3年次の秋学期までに自分のテーマや学習計画が作成されていることが望ましい。	
専門教育	学部共通	必修科目	卒業研究・論文Ⅱ	「卒業研究・論文Ⅰ」で実施した研究について、構造化抄録とIMRAD形式でまとめ、その内容を卒業研究発表会の場で公表する。各自で個別に取り組んできたテーマ（リサーチクエスト）に対して、得られた結果を図表等に整理し、その研究の新規性や研究の限界、更には先行研究を交えて考え得る意義と今後の展望について論理的かつ客観的に伝え、質疑応答等の科学的コミュニケーションを介して議論を深められることを到達目標とする。なお、卒業論文では学生からの定期的な進捗状況の報告を要し、その進捗に合わせた個別指導を実施する。	
専門教育	学科専門	必修科目	基礎化学Ⅰ	化学とは物質に基づく科学であり、物質の組成や相互作用を探索する学問でもある。今日の発展には化学が大きな役割を担っている。化学の研究対象は、私達の実生活と密接に関連し、健康は私達が毎日摂取している食物の化学組成に依存し、筋肉中で起こっている化学反応は私達が活動するエネルギーを作り出している。また、国際的な課題である食料不足、地球温暖化、産業廃棄物等も化学と深い関わりを持っている。化学を構成する原理・原則・法則を重点的に解説し、基礎的な化学知識を習得するとともに、現代社会と化学との繋がりを理解することを目的とする。	
専門教育	学科専門	必修科目	基礎栄養学	栄養とは何か、その意義について理解する。健康の保持・増進、疾病の予防、治療における栄養の役割を理解し、エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義を理解する。すなわち、食物が持つ化学的、物理的、生物的特性等の基礎的理解に立って5大栄養素である炭水化物、脂質、タンパク質、無機質、ビタミンの定義や栄養学的特徴、生理機能について、消化吸收機構あるいはエネルギー代謝機構を通じて理解し、体内での機能や他の栄養素との関わりについて学ぶ。また、5大栄養素以外の非栄養素については、その生理的機能について理解する。	
専門教育	学科専門	必修科目	公衆衛生学	公衆衛生学は、何らかの健康問題に対して、個々の患者・被害者の個人的問題として対処するのではなく、集団全体の問題として捉え、その集団における発生状況を調査し、その結果に基づいて、法律等を通じて対策を講じ、更にその健康問題の発生自体を予防することが目的である。主要な分野だけでも母子保健、学校保健、産業保健、高齢者保健、精神保健、障害者保健、環境保健、食品保健、感染症対策、生活習慣病対策、国際保健等多岐にわたる。そして、それらの政策の立案や検証するための基礎としての疫学と保健統計がある。これら全体の構造を把握し、定義や数字の意味を理解していくことで、より実践的な学問として公衆衛生学を捉えることができる。	
専門教育	学科専門	必修科目	細胞生物学	人体は生物の構成基本単位である細胞が約37兆個からなる多細胞生物であり、人体の仕組みを理解するには1つ1つの細胞の持つ構造や機能を理解することが重要である。細胞生物学は、この細胞の構造や機能を明らかにしようとする学問である。動物細胞に焦点を絞り、各細胞小器官の構造と機能について解説すると同時に、調和のとれた組織・個体形成に必要な各細胞の機能と仕組みについて概説する。また、細胞分裂と増殖、老化、適応等の細胞の生理学的機能と、それらに関する細胞の代謝および栄養素や機能性成分との関係も最新のデータを紹介しながら解説し、細胞学的観点から個体の健康や疾患等について理解を深めることを目的とする。	

授業科目の概要						
(健康スポーツ科学部栄養科学科)						
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育	学科専門	必修科目	生理学	生理学とは、人体を構成する要素（組織や器官、細胞）の活動とその機序を解明する学問である。私達の体内では、様々な物質が互いに作用し合うことによって細胞・組織・器官が構成され、それぞれ特有の機能を発揮する。いくつかの器官が集まって系統（循環、呼吸、筋・骨格、消化、神経、内分泌および感覚等）を形成しており、それぞれの系統は基本的に独立した働きを持つが、完全には独立しておらず、系統間に連関がある。これら各系統の働きとそれらの相互作用並びに生体の機能と特性を学び、理解することを目的とする。		
専門教育	学科専門	必修科目	疫学	疫学は人間集団における健康状態とそれに関連する要因の分布を明らかにし、公衆衛生の発展を目指す分野である。今日では、健康づくりを中心とした予防を目的とした保健活動を行うにあたり、その根拠を科学的に評価することが求められる。また、栄養分野においても、栄養摂取と疾病との因果関係の解明から政策の立案まで疫学を活用していく必要がある。そこで、疫学の基本概念から栄養疫学の調査方法まで理解することを目指す。		
専門教育	学科専門	必修科目	基礎栄養学実験	「基礎栄養学」の学習内容を基礎に、実験を通じて栄養指標の分析方法を体得する。主な内容として、生体試料中の糖および脂質の定性・定量法、グルタチオンの定量法、ビタミン類やフラボノイド類の抗酸化能の評価、DNAの抽出法、PCRを用いた栄養関連遺伝子の解析法等、臨床に繋がる基盤的な栄養因子の評価方法の理解を目的とする。測定により数値として得られた情報から、生体における栄養因子の働きを考察することにより、実践に活きる栄養学の知識を身につける。		
専門教育	学科専門	必修科目	免疫生化学	病気（疫）から身を守る（免れる）ための重要な生体防御機構の1つである「免疫」は、多種類の免疫担当細胞と情報を伝える分子により営まれている。免疫担当細胞としては、好中球、好酸球、好塩基球および単球等の顆粒球の他に、T細胞、B細胞そしてナチュラルキラー細胞等のリンパ球が異なる機能で生体を外敵から守っている。ウイルスや細菌等の感染症の予防や治療に免疫が関わっているだけでなく、花粉症やアトピー性皮膚炎、臓器移植や癌等に対しても免疫応答が関与しており、健康や病気を理解する上でも必要な学問である。私達の体を外的から防御する免疫応答を、細胞生物学や病態生理学の観点から説明するとともに、最新の免疫生化学の話題も取り入れながら解説し、健康と免疫の密接な関係を理解できるようにすることを目的とする。		
専門教育	学科専門	必修科目	運動生理学	運動生理学とは、運動（身体活動）によって生じる身体の変化を観察し、その現象と仕組みを研究する学問である。生理学を基とした身体活動・スポーツに関連する身体の仕組みについて、身体活動に対する生体応答とその機序を、筋・骨格、呼吸・循環、内分泌、神経系およびエネルギー代謝の観点から系統的に学ぶ。更に、これらの生体応答が運動トレーニングや環境の変化によりどのように適応するのか、健康や疾病、発育・発達および老化によりどのような影響を受けるのかを理解する。		
専門教育	学科専門	必修科目	細胞生物学実験	細胞生物学実験では、主に動物および有用微生物を材料として、細胞の構造、細胞分裂の仕組み、細胞間相互作用、ホルモン等の細胞機能制御成分の組織や細胞に対する作用等を解析することにより、生物の持つ基本的なメカニズムを理解することを目的とする。ともに、生体試料や顕微鏡の取り扱い等の細胞生物学に必要とされる基礎的技術の習得し、細胞生物学的実験方法やデータ整理の方法についても学ぶことを目的とする。更に、実験結果をレポートとしてまとめ、得られた知見をもとに論理的な考察をするためのトレーニングを平行して行う。	共同	

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部栄養科学科)					
科目 区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	必修科目	栄養疫学	明確に特徴づけられた様々な集団において、健康問題や疾病発症等のアウトカムの頻度や分布を明らかにし、特に食生活（食事の質、量、タイミング）を中心とした生活習慣（曝露因子）との関連や因果を明らかにすることで、公衆栄養上の予防策を検討するプロセスについて学ぶ。特に、栄養疫学では曝露やアウトカムとなる食事・栄養について、調査方法とその特徴、妥当性や再現性、更には生じ得るバイアス等に詳細に触れる。栄養疫学領域における基礎知識、疫学的手法を用いた科学的根拠を理解・批評する能力（批判的思考能力）、更には健康科学分野における科学的根拠を正確に伝えられる力を習得することを目的とする。	
専門教育	学科専門	必修科目	運動生理学実験	ヒトが運動を行った場合、体内では様々な応答が生じる。身体活動に対する生体応答を、生理学的手法を用いて学生自身が被験者・実験者となり測定・評価することを目的とする。対象とする主な機能は、筋、循環および呼吸であり、これらは運動生理学の理論的な背景を理解する上で、必要かつ最も基本的な項目である。また、データの取り扱いの基本を理解するために、測定した実データに基づく演習を行う。これらの実験を通して、運動生理学の講義において学んだ知識をより深く理解する。	共同
専門教育	学科専門	必修科目	スポーツ栄養学実習	スポーツ栄養学において学んだ理論や基礎的内容を踏まえ、対象者の目的に応じた栄養補給計画の立案、実施、評価、改善を行うことができるようになることを目的とする。対象者の身体組成、食・栄養摂取状況、身体活動状況等のアセスメント手法を修得するために実演実習を行う。加えて、チームや個人の目的、競技種目、期分け、ライフステージ別に事例を学び、対象者の目的（体づくり、ウエイトコントロール、持久力向上、疲労の予防・回復、スポーツ選手に生じる障害の予防・改善等）に応じて、栄養補給計画や献立を作成する実習を行う。	共同
専門教育	学科専門	必修科目	メディカルライティング	メディカルライティングとは、医薬品や特定保健用食品（特保）および機能性表示食品等の治験実施から承認申請、並びに製造販売後再審査までに必要な文書や医薬論文等を作成することである。新しい特保や機能性表示食品を早期に取得するためには、質の高い申請資料を作成し、規制当局に提出する必要がある、質の高い臨床試験を実施するためには、分かりやすいプロトコルや説明文書等を作成する必要がある。製薬企業や開発業務受託機関においてメディカルライターの必要性が高まっている中、その基礎知識を習得するために、臨床試験の基本、医学英語の基礎、生物統計学等を学び、論理的な文章や図表の作製を目指す。	
専門教育	学科専門	選択必修科目	スポーツ栄養学	アスリートの身体的特徴や、競技特性を把握し、栄養・食事の重要性を正しく理解することで、コンディショニングと競技力向上を目指した食・栄養管理の考え方を修得することを目的とする。まず、競技種目の特徴やトレーニング・試合等の期別の食・栄養補給について学ぶ。次に、チームや個人の特性・環境・目的（体づくり、ウエイトコントロール、持久力向上、疲労の予防・回復、スポーツ選手に生じる障害の予防・改善等）に応じた食・栄養摂取について学ぶ。これらの知識を説明できるようになることを目指す。	
専門教育	学科専門	選択必修科目	食品学	食品の一次機能（栄養）、二次機能（感覚）、三次機能（生体調節作用）が注目され、これらの視点からの新規機能性食品や食品素材への関心も高い。これを正しく理解するためには食品学の基礎知識を理解する必要がある。そこで、食品の分類、食品の一般成分、自動酸化、活性酸素、食品の嗜好性（色・味・香り）、非栄養素成分について理解するとともに、食品構成因子の化学組成と成分間相互作用について習得し、食品学全般にわたる分野を総括的に理解することを目的とする。	
専門教育	学科専門	選択必修科目	食品学実験Ⅰ	食品の主要栄養素および機能性食成分である炭水化物、炭水化物、脂質、ビタミン、ミネラル、食物繊維およびファイトケミカル成分の化学的性質について、実験を通じて実践的に理解する。タンパク質、炭水化物、脂質等の一般食品分析の基本的技術（分離・分析）を習得すると同時に、ファイトケミカルの持つ抗酸化性等食品成分の持つ機能性を評価し、身近な食品を化学的に理解することを目的とする。更にコンピュータによるデータ処理技術、実験レポートの書き方についても体験的に習得していく。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（健康スポーツ科学部栄養科学科）			
科目区分			備考
授業科目の名称			講義等の内容
専門教育	学科専門	選択必修科目	基礎化学Ⅱ
専門教育	学科専門	選択必修科目	調理学実習
専門教育	学科専門	選択必修科目	食品微生物学
専門教育	学科専門	選択必修科目	公衆栄養学
専門教育	学科専門	選択必修科目	栄養教育論
専門教育	学科専門	選択必修科目	栄養と心理
専門教育	学科専門	選択必修科目	栄養生化学

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部栄養科学科)					
科目 区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	選択必修科目	栄養生化学実習	栄養科学を学ぶ上で重要な位置を占める化学実験において、今まで知られている法則や事実、知識に基づき、注意深い観察や思考、豊かな想像力を駆使して得られる諸現象から、基本的な原理を理解することを目的とする。また、これらを通して、能率的で安全な操作方法を習得するとともに、化学反応による事故防止訓練や安全教育にも繋げていく。更に、実験を通じて化学の楽しさを味わう中で、資源、エネルギーの節約、環境保全等に対する意識を高めることも目指す。	共同
専門教育	学科専門	選択必修科目	体力測定評価法	健康づくりのための体力向上や運動指導による競技力向上のためには、指導対象者の体力や運動能力を十分に理解した上で運動プログラムの作成や指導方針を考える必要がある。体力の構成要素や体力測定の意義について理解し、多くの体力測定の現場で活用されている新体力テストの正しい測定方法並びに人体計測や身体組成の測定要領と測定方法も身につけることを目的とし、更には、得られた測定結果を正しく分析・評価し、運動指導での活用の仕方についての修得も目指す。	
専門教育	学科専門	選択必修科目	食品学実験Ⅱ	「食品衛生学」の学習内容を基礎に、実験を通じて食品衛生の検査方法を体得し、食品衛生の重要性について理解する。その主な内容は、食品添加物の合成および検査方法、食品鮮度と成分変化の実験的理解と検出方法の習得、腐敗した食品の評価法と予防法、生化学的手法を用いた食品由来タンパク質の定量法、細胞培養系を用いた食品由来成分の細胞毒性評価法等、その測定原理となる。それらを理解し、食品衛生学に関する実践的能力・技術を習得することを目的にする。	共同
専門教育	学科専門	選択必修科目	動物学	ヒトの成り立ちを理解するためには、動物の進化や系統分類の学習が必要である。そこで、動物種の分類やそれぞれの生物学的・遺伝学的特徴についてヒトと比較しながら詳しく学ぶ。また、栄養学における動物の関わりについて学習する。具体的には、動物実験の歴史や倫理・規則、医学研究に用いられる動物、遺伝子改変動物、病態モデル動物、栄養学研究における動物実験手法の例等を講義する。それらの知識を踏まえ、動物実験の限界点や代替法について考えるとともに、人体の構造や機能への理解を深めることを目的とする。	
専門教育	学科専門	選択必修科目	無機化学	分子は原子が立体的に組み立てられた構築物であり、立体構造によりその分子の働きが決定される。そのため生命現象を分子レベルで理解するには、分子中や分子間の電子の挙動を理解することが必要である。栄養科学のための無機化学の基礎をテーマとし、特に、電子の性質や挙動、更に、それらが化学結合や化学反応に及ぼす役割について量子力学的な視点も踏まえ解説する。また、元素や化合物の性質を周期表に基づいた体系的な理解を目的とする。	
専門教育	学科専門	選択必修科目	ライフステージ栄養学	人々が生涯に渡ってその心身の健康を保持増進していくためには、食事や運動、睡眠等における望ましい生活習慣の確立が不可欠である。特に、食事においては、各ライフステージ（学童・思春期、成人期、老年期、妊娠期・授乳期等）にあわせた栄養管理が重要である。各ステージにおける身体的・生理的特性、栄養評価、特徴的な疾患を理解し、食事を中心とした栄養管理について学習するとともに、運動、特殊環境それぞれに応じた栄養摂取方法等についても理解する。	
専門教育	学科専門	選択必修科目	機能解剖学	機能についての生理学を、生体の構造についての解剖学を学ぶ。正常の構造と機能を理解することは、構造と機能が破綻した病気を理解する上での基礎となる。細胞から各器官系に至る基本的な構造と機能を学ぶとともに恒常性を維持する営み、免疫、生殖、および老化について学び、人体で繰り広げられている生命活動を理解していく。前半は、基本となる細胞・組織・器官、骨格系、筋系、循環器系、神経系、消化器系および泌尿器系について学習する。後半は呼吸器系、運動器系、内分泌系、血液系、免疫系、感覚器系、生殖器・発生系および発育発達・老化について学習する。また医学的なトピックも講義で概説する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部栄養科学科)					
科目 区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	選択必修科目	有機化学 I	有機化学は食品、医薬品、エネルギー、材料等、様々な科学の分野と密接に関わっている学問である。化学結合と分子、命名法、有機化合物の基礎となる炭化水素の構造、物理的性質、反応性を系統的に解説し、アルケン・アルキン、芳香族炭化水素、ハロゲン化アルキルの合成と反応（求電子置換反応、求核置換反応、付加、脱離反応）について、その原理を理解し、学修することを目的とする。また、生物界との関係が深い立体異性体についても学習する。	
専門教育	学科専門	選択必修科目	予防医学概論	病気になるための予防医学である一次予防、病気の早期発見を行う予防医学である二次予防および病気になった後での予防医学である三次予防を行うことにより、疾病の予防を行う予防医学について概説する。生活習慣病である2型糖尿病、肥満症、脂質異常症、高尿酸血症、心疾患、大腸がん、歯周病、高血圧症、肺扁平上皮がん、慢性気管支炎、肺気腫、アルコール性肝疾患等について、食生活、栄養、運動、喫煙、飲酒等の生活習慣の乱れにより引き起こされるリスク因子、早期発見のための検査方法等について学習する。	
専門教育	学科専門	選択必修科目	食品衛生学	食品産業界において厳密な衛生管理や品質管理が要求されており、食品製造施設に対する衛生管理の高度化あるいは監視指導の強化が推進される中、食品衛生監視員、食品衛生管理者の育成は非常に重要である。食品関連企業では、これらの職務に従事しなくともその基礎的知識は不可欠とされる。そこで、行政、食品関連事業者、および消費者の視点から、食品衛生法、微生物の基礎知識、食中毒、自然毒、食品添加物、寄生虫、食品衛生対策等食品の安全性を確保するための知識を修得させる。このことにより、食の安全・安心に関わる専門的知識を身につけ、食品関連分野で社会に貢献できるグローバルな食品技術者を組織的に養成する。	
専門教育	学科専門	選択必修科目	栄養マネジメント（運営理論）	栄養マネジメントとは、成長・発育・発達、更には身体的および精神的な活動が円滑に営まれるように、栄養素の代謝を良好な状態にして、健康を維持していくための体調管理を行うことである。目的を達成するためには、手順とシステムを明確にし、計画、実施、評価を繰り返しながら導くことが重要である。そこで、基礎となる栄養スクリーニングから扱い、栄養ケアとその評価に至るまでの手法原理を学ぶことで、栄養マネジメントの運営理論の知識を身につける。	
専門教育	学科専門	選択必修科目	栄養マネジメント（実践）	栄養マネジメントに必要な以下の4項目を実践し、その意義を理解することを目的とする。1. スクリーニング（選別）健康の維持・増進を図る上で発生するリスクをチェックし、生活習慣病や加齢による疾病を予防する。2. アセスメント（栄養状態の判定）リスク保有者に対する問題の程度を、対象者別に、栄養指標等を用いて評価し、身体状況・栄養状態を判定し、ケアプログラムの作成に必要な情報源を得る。3. ケアプログラム（実施）アセスメントに基づき、対象者の改善すべき栄養補給法を実施する。4. 評価とフィードバック実施された事項について対象者の改善度を判定し、問題があれば新たな計画を立てる。	共同
専門教育	学科専門	選択必修科目	大量調理とHACCP（理論）	HACCP（危害分析重要管理点）は衛生管理の手法であり、1960年代にNASAで宇宙食の品質管理に採用され、我が国では1995年にこの考え方を取り入れた総合衛生管理製造過程（HACCP）の申請・承認制度が実施された。その後、2018年6月にHACCPが制度化（義務化）され、原則としてすべての食品等事業者がHACCPに沿った衛生管理に取り組むことになった。このような国内でのシステム上の変更も念頭に入れ、HACCP導入の背景、本方式の概要とその考え方、実際に導入されている事例を紹介し、HACCPの考え方に基づいた衛生管理手法を修得することを目的とする。	
専門教育	学科専門	選択必修科目	大量調理とHACCP（実践）	HACCPによる食品衛生管理の制度化は、製造・加工・調理・販売等を行う全ての食品等事業者を対象としているが、事業者規模や業種を考慮して「HACCPに基づく衛生管理」と「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理」の2種類の基準が設定されている。その礎となる認証に必要な知識、実際の認証過程等について講義し、食品関係業界や食品関係行政に携わる者にとって不可欠な知識を習得することを目的とする。また、安全性を担保することと、消費者に安心を提供することとの相違、安心を提供するための認証制度等のいろいろな仕組みについて概説する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部栄養科学科)					
科目 区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	選択必修科目	栄養疫学実習Ⅰ（観察疫学）	観察研究に関する基礎知識を踏まえた上で、健康問題や疾病発症等のアウトカムの頻度や分布の記述方法、更には食生活を中心とした曝露因子との関連解析についての基礎知識を学ぶ。なお、調査票の設計やデータクリーニング、ハンドリング、更には可視化等の方法についても学びながら、ソフトウェアの操作法や観察的なデータの基本的な扱い方を習得する。また、グループ作業やプレゼンテーションを通じて、特定の集団における曝露因子と健康問題との関連について、事実をもとに議論および発信できる能力を習得できることを目的とする。	共同
			栄養疫学実習Ⅱ（実験疫学）	介入研究等に関する基礎知識を踏まえた上で、食生活を中心とした曝露因子と健康問題や疾病発症等との関連についての基礎知識を学ぶ。なお、実際に食事調査、身体計測値や生理学的指標の測定や日常生活下におけるウェアラブル端末による生活習慣の定量化等を行うことで、非侵襲的なデータを取得しつつ栄養関連指標との関わりについて学ぶ。更に、得られたデータを記述および解析し、プレゼンテーションやディスカッションを通じて疫学的思考方法について理解を深めることを目的とする。	共同
専門教育	学科専門	選択必修科目	スポーツ栄養マネジメント（運営理論）	スポーツ選手が障害なく運動を実施し、競技パフォーマンスを向上させるためには、食・栄養摂取が大きな役割を果たす。そこで、対象者の目標・目的に応じたスポーツ栄養マネジメントの運営理論や進め方を理解できるようになることを目的とする。対象者のスクリーニング、アセスメント、課題の抽出を行うために必要な食・栄養および身体活動状況等の評価方法を習得する。リスクマネジメントや競技パフォーマンスの向上等の目的や課題に応じた栄養補給計画・行動計画を作成、実施、改善、評価するための理論や手法を習得することを目指す。	
専門教育	学科専門	選択必修科目	スポーツ栄養マネジメント（実践）	「スポーツ栄養マネジメント（運営理論）」において学んできた理論や基礎的内容を踏まえ、スポーツ栄養マネジメント計画の立案、実施、評価、改善を総合的に進めることができるようになることを目的とする。チームや個人の目的、競技種目、期分け、ライフステージ別に事例を学び、対象者の特性や環境に応じたスポーツ栄養マネジメントの事例検討を行う。少人数や5～6名でのグループ演習を行い、作成した計画の発表を実施する。教員・学生からのフィードバックをもとに計画の改善を行う。	共同
専門教育	学科専門	選択必修科目	健康づくりと運動プログラム	健康の維持・増進のためには適度な運動、バランスの良い食事、そして休養が必要である。特に、運動については、正しい内容を継続的に行うことが重要となる。健康づくりに寄与する「至適」な運動の実践には、個人の年齢・性別といった属性、運動能力・体力や疾病の有無のような健康状態を理解した上で、運動種目、運動強度、運動時間、運動頻度を決定し、望ましい運動プログラムを提供することが必要となる。これら一連の流れを理解し、個人の目的に応じた適切な運動プログラムの立案方法を修得することを目的とする。	
専門教育	学科専門	選択必修科目	応急手当法	救急手当・応急手当およびスポーツ現場での安全に関する基礎を学び、スポーツ現場における安全管理や危機管理に関する知識および技術について学習を行う。救急手当に関しては、AHAガイドラインに沿った日本国内の心肺蘇生法ガイドラインについての学習および実習を行う。応急手当ではスポーツ現場で起こりうる各種トラブルに関する手当の方法について具体的事例を通して学んでいく。また、リスクアセスメントおよびリスクマネジメントの考え方を学び、スポーツ現場における危機管理体制の事例について学習を進めていく。	
専門教育	学科専門	選択必修科目	食理学Ⅰ	食品のからだに対する働きをより深く理解するために「食品機能」という概念が提唱された。これは食品の働きを一次機能（栄養機能）、二次機能（感覚機能）、三次機能（生体調節機能）に分類したものである。これらを概説するとともに、特に食品の三次機能、すなわち、生体機能を制御調節する機能性を使った生活習慣予防ないしは治療に関する可能性を概説する。また、国が定める食品の三次機能に立脚し、その機能性を利用した食品制度（栄養機能食品、特定保健用食品および機能性表示食品）についても言及する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(健康スポーツ科学部栄養科学科)					
科目 区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	選択必修科目	食理学Ⅱ	「食理学Ⅰ」で学んだ食品の三次機能に立脚した生活習慣病予防について、各生活習慣病の病態を分子レベルで解説し、正常な生理状態と異なる点を分子レベルで理解する。また、異なる作用点を持つ、具体的な食品機能性成分をとりあげ、その詳しい作用機序を分子食理学的な面から解説し、科学的根拠に基づいた食品機能性成分を用いた各生活習慣病予防の可能性について言及する。最後に、ヒト介入試験で有効性が報告されている事例について紹介する。	
専門教育	学科専門	選択必修科目	機器分析	機器分析は、近年大きく発展してきた分析化学の一分野であり、栄養科学の研究には欠かせないものとなっている。例えば、食品中の様々な生理活性物質や残留農薬等の汚染物質の検出・測定においては食品に含まれる割合が百万分の1、10億分の1といった微量物質の分析が必要となっており、このような高感度分析は専用機器無しでは事実上不可能になってきている。様々な分析機器の中で特に生物材料の分析に広く使用されている機器に関し、それぞれの特徴を学ぶとともに測定原理への理解を深めることを目的とする。	
専門教育	学科専門	選択必修科目	有機化学Ⅱ	食品成分のほとんどは炭素原子を含む化合物から構成されている。冷凍、加熱、乾燥、保存等様々な加工工程における食品成分の変化や食品成分間の相互作用等を理解するには有機化合物の構造とその化学的性質、あるいはその反応機構を理解する必要がある。食品の代表的成分であるタンパク質、炭水化物、脂質を例に、これら有機化合物の構造と化学反応に寄与する官能基とその化学的特徴、化学反応機構について学修することを目的とする。	
専門教育	学科専門	選択必修科目	臨床栄養学	老化が始まる中年期は種々の疾患に罹患する時期であり、この年代の栄養は重要である。このため、食生活によって生活習慣病予防を目指す予防栄養学が重要になってくる。そこで、成人と老人における適切な栄養（老化を防止する栄養等）および中高年の疾病と栄養（癌等の生活習慣病）との関連、人の免疫能に対する栄養の影響について理解を目指す。特に、分子栄養学的側面から、予防栄養学を学び、分子レベルから生活習慣病の予防に必要な要因を学ぶことを目的とする。	
専門教育	学科専門	選択必修科目	ライフステージ栄養学実習	身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解する。妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について十分に理解することにより、栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）の基本的考え方を習得する。また、健康増進に寄与する栄養素の機能等を理解し、健康への影響に関するリスク管理の基本的考え方や方法について理解する。また、ライフステージに応じた栄養アセスメントを調理科学に応用する手法を学ぶ。	共同
専門教育	学科専門	選択必修科目	臨床栄養学実習	傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて適切な栄養管理を行うために、疾病コントロール状況および栄養状態の評価・判定、それに対する臨床栄養管理（介入計画の作成、実施、モニタリング、評価）の実際を学習する。医療機関や介護施設において、関連専門職と連携して栄養ケア・プロセスを実施できるようにするために、栄養評価法と栄養補給法（経口・経腸栄養・静脈栄養）を理解し、栄養管理計画書の作成を学ぶ。傷病者の栄養管理は管理栄養士業務であるが、そのサポート方法について理解する。	共同
専門教育	学科専門	選択必修科目	解剖生理学実験	「機能生理学」の講義で学習した知識を、観察、実験を通して、より深い理解へと発展させることが目標である。人体の構造（解剖学）とその機能（生理学）に関する事柄について、講義や教科書では学ぶことができない内容を、標本の観察や実験を通して、系統的に理解する能力をつける。実験を通して、基本的技術の習得だけでなく観察力と考察力を養うことを目的とする。実験内容は、身体計測、体表面積・栄養指数の算出、皮下脂肪厚、肥満の判定、脈拍の測定、血圧の測定、心音の聴取、心電図、呼吸数、肺活量、努力性肺活量、皮膚感覚、味覚、聴覚、嗅覚、視覚、ラットの解剖および人体の組織の観察を行う。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部栄養科学科）				
科目 区分			授業科目の名称	講義等の内容
専 門 教 育	学 科 専 門	選 択 必 修 科 目	校外実習	給食業務を行うために必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービスの提供に関する技術を修得することを目的とする。調理学、給食計画論、給食実務論を総括的に踏まえ、実際の現場で栄養士が果たすべき専門領域に関する能力や栄養士が必要とする知識、技能、態度、考え方の総合的な能力を養う。また、栄養士は、栄養の指導や給食の運営を行うために必要な能力を身につける。栄養士として具備すべき知識および技能を修得するために、事前研修・事後研修（講義）、学外実習（実習）を通して、給食業務を行うために必要な給食サービス提供を学ぶ。
			医療保険	医療保険の基礎となる社会保障全般について、社会保険（医療保険・年金・雇用保険・労災保険・介護保険等）、公的扶助（生活保護等）、社会福祉（児童福祉・高齢者福祉・障害者福祉等）および公衆衛生・医療（予防接種・結核・感染症・難病対策等）について概説した上で、国民皆保険制度、職域保険・各種共済組合・国民健康保険、後期高齢者医療制度・公費医療制度といった医療保険について学ぶ。我が国における社会保健とその中に位置づく医療保険制度について理解を目指す。
専 門 教 育	学 科 専 門	選 択 科 目	情報処理数学Ⅰ	我々は、質問票、身体計測値、血液生化学検査値等、日々いろいろなデータに囲まれており、そのデータに意味を持たせることができるのが統計学である。しかしながら、統計学の正しい理解のためには数学の基礎知識も必須となる。そこで、健康科学分野における科学的根拠の理解に繋がるように、大学で学ぶ上で必要な数学の基礎を学ぶ。特に、高校までの数学を簡単に復習できるよう、方程式と関数、確率、数列や微分・積分、確率変数と分布等の初歩的な内容について扱う。
			情報処理数学Ⅱ	我々は、質問票、身体計測値、血液生化学検査値等、日々いろいろなデータに囲まれており、そのデータに意味を持たせることができるのが統計学である。しかしながら、統計学の正しい理解のためには数学の基礎知識も必須となる。そこで、健康科学分野における科学的根拠の理解に繋がるように、大学で学ぶ上で必要な数学の基礎を学ぶ。特に、「情報処理数学Ⅰ」で学んだ内容を復習できるよう、方程式と関数、確率、数列や微分・積分、確率変数と分布について扱うが、特に統計学やデータサイエンスへの応用を意識しながら、それらに必要な数学的な基礎を習得することを目的とする。
専 門 教 育	学 科 専 門	選 択 科 目	健康づくり運動の実際（ウォーキング）	ウォーキングやジョギングは健康の維持・増進のための代表的な身体活動である。そのうちのウォーキングが持つ有酸素性運動としての特性や健康に対する効果を学ぶ。また、実際にウォーキングを行い、その正確なフォームを身につけ、各自の適正な運動強度を評価し、健康づくりに適した有酸素性運動を指導できるようする。更に、指導者として、多くの人が安全で効果的に楽しく運動を継続できるように集団や個々の指導に応じた運動指導を実施できるような実践能力を身につけることを目的とする。
			健康づくり運動の実際（エアロビクス）	健康・体力づくりを目的としたエアロビック運動（エアロビックス）について、その特徴や運動内容、実施上の環境や注意点を理解し、また、基本動作、正しい身体の使い方や振り付け方法を修得した上で、正しいアライメントによる安全かつ効果的な動作の技術能力を修得する。更に、対象者や目的に応じたプログラムを作成し、キューイング、アイコンタクト、ポジショニング、動きの展開、段階的指導を学習することで、その指導力を養うことを目的とする。
専 門 教 育	学 科 専 門	選 択 科 目	実践食文化（3大宗教と食文化）	我が国では食育基本法が2005年に施行され、現在は食育の推進に関する基本的な方針や目標について定めた第3次食育推進基本計画が進められている。食育に関する法律・計画についての知識を身につけ、それらが定められた背景を理解することを目的とする。また、本や海外における食育の現状や食育の推進に必要な理論を学ぶ。すなわち、地域の人々の健康増進や食文化の継承を支援するファシリテーターとなるために、食育の目的や内容を理解し、食育の実践に必要な基本的事項を習得することを目的とする。

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部栄養科学科）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	選択科目	プログラミング言語Ⅰ	マーケティング分野におけるPOSデータや医療分野におけるリアルワールドデータといったビックデータの活用において、R言語やPython言語を用いたデータ分析、統計解析や機械学習が行われている。いずれの言語も目的に応じて使い分けられるのが一般的であるが、基礎的な文法を覚えてコードを読める、あるいは記述できるようになることが基本となる。食生活や医療に関するデータ処理に活用することを念頭に起きつつ、具体的なケーススタディに取り扱いながらデータ利活用における基礎的な理論を中心に学ぶことを目的とする。
専門教育	学科専門	選択科目	プログラミング言語Ⅱ	マーケティング分野におけるPOSデータや医療分野におけるリアルワールドデータといったビックデータの活用において、R言語やPython言語を用いたデータ分析、統計解析や機械学習が行われている。いずれの言語も目的に応じて使い分けられるのが一般的であるが、基礎的な文法を覚えてコードを読める、あるいは記述できるようになることが基本となる。食生活や医療に関するデータ処理に活用することを念頭に起きつつ、実際にコードを書きながら実践的なコーディングの方法の基礎を中心に学ぶことを目的とする。
専門教育	学科専門	選択科目	健康づくり運動の実際（水泳・水中運動）	水中における運動は、陸上とは異なる特性を持っており、体力の向上だけでなく、脂質異常症や高血圧等の生活習慣病の予防、肥満やストレスの解消等、様々な効果が期待できる。また、この水泳・水中運動の最大の特徴は、年齢や障害の有無に関係なく誰でも無理なく行うことができることである。水泳および水中運動を指導するために必要な知識を修得するとともに、実技能力を高め、年齢や対象に応じた指導法を学び、水泳・水中運動の指導能力を身につけることを目的とする。
専門教育	学科専門	選択科目	健康づくり運動の実際（レジスタンストレーニング）	レジスタンス運動とは、筋肉に負荷をかける動きを繰り返す行う運動であり、筋肉量増加・筋力向上・筋持久力向上を促す筋力トレーニングとして高齢者からアスリートまで広く行われる。レジスタンス運動により期待される運動効果を学び、自体重や器具を利用したそれぞれの方法による部位別のトレーニング種目の修得する。更に、レジスタンス運動の必要性を理解し、対象者のニーズや身体状況に応じて、安全で効果的なプログラムを選択し指導できる能力を身につけることを目的とする。
専門教育	学科専門	選択科目	スポーツ心理学	身体運動の仕組みを理解するために必要な、心理的要因の理解を目的とする。身体運動に関わる心理学的現象やそのメカニズム、競技力向上のための理論や手法に関する知見、ヒトの身体運動に関わる動機づけ、発達、学習、知覚・認知、運動制御、運動学習等の基礎、理論等を学ぶ。スポーツ心理学の基礎知識を身につけ、スポーツ選手の支援やスポーツ選手の技能・自信を育てる指導を行うための必要な知識や技法を修得することを目指す。
専門教育	学科専門	選択科目	マーケティング学	多くの商品（財とサービス）で満たされている中、生産者や流通業者は的確な市場分析に基づき市場への働きかけを強めるとともに、個性化・多様化の進む消費に対応するためのマーケティングの基礎理論の知識が求められる。そこで、実際のビジネスケースや教科書に掲載されるケースを活用しながら、マーケティングの基礎知識や分析ツールとその活用方法を学習する。具体的には、マーケティングの定義、消費者行動、マーケティング調査、競争戦略、マーケティングのSTP（Segmentation、Targeting、Positioning）、マーケティングの4P（Product、Price、Place、Promotion）の理解を目指す。
専門教育	学科専門	選択科目	意思決定理論	意思決定理論における基礎的な知識、知見を理解することを目的とする。選好と表現、危険（リスク）下の決定基準、不確実性下の決定基準等について学び、認知バイアス等の意思決定に影響を与える事項を理解する。個人、社会的な意思決定の両方を対象として、ヒトの意思決定を測定するために必要な知識や具体的な手法の理解を目指す。バイアスを考慮した意思決定の測定・評価によって取得したデータを解析し、リスクの定量的評価を行う。

授業科目の概要					
(健康スポーツ科学部栄養科学科)					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	学科専門	選択科目	食品パッケージ論	食品原料は動物や植物であり、これら原料の生産には季節性、地域性がある。その安定供給には使用までの保存が重要であり、更に重要なことはこれら動植物体をより安全な状態、成分にするために加工することである。加工が食品を食べやすくし、美味しくし、貯蔵できるようにするための操作である。このことを踏まえ、食品加工の目的と原理、食品の貯蔵方法、食品の加工貯蔵中における食品成分の変化、遺伝子組み換え作物等バイオテクノロジーを利用した新たな食品素材、食品加工技術について学ぶ。特に、食品製造施設に対する衛生管理の高度化あるいは監視指導の強化が推進される中、食品関連企業に従事している者にとって、食品加工技術、貯蔵技術の基礎を理解することが重要であることから、これらの基礎的内容を習得する。	
専門教育	学科専門	選択科目	データサイエンスⅠ	近年では、ビックデータを利活用した新たな科学的発見や価値創造が期待されている。そこで、主にマーケティングや健康科学分野におけるデータの利活用に焦点を当て、データのクリーニング、ハンドリング、更には解析等に関する基本事項を学ぶ。具体的には、データやデータ分析に関する基本的な概念の理解や、R言語やPython言語等を実際に用いて実装を意識しながら、統計解析の基本や検定等の考え方や技術を習得することを目的とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	データサイエンスⅡ	近年では、ビックデータを利活用した新たな科学的発見や価値創造が期待されている。そこで、主にマーケティングや健康科学分野におけるデータの利活用に焦点を当て、データのクリーニング、ハンドリング、更には解析等に関する基本事項を学ぶ。「データサイエンスⅠ」で扱った内容を簡単に復習しつつ、与えられた課題に対して、R言語やPython言語等を用いて自らコーディングを行い、実際に目的に応じた可視化、適切なデータ解析が行えるようにすることを目的とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	認知科学	ヒトの情報処理（刺激の入力から、知覚・認知、運動・行動の制御、行動の表出まで）に関する知識やメカニズムを理解できるようになることを目的とする。発達、学習、感覚、記憶、推論、意識と行動、刺激と反応の関係等について学び、食・栄養や健康に関連する記憶や感情の情報処理の基本的な様式や科学的分析方法を理解する。ヒトの食選択や食行動に関する認知科学、味覚・視覚・嗅覚や五感の相互作用についての知識を身につける。	
専門教育	学科専門	選択科目	行動経済学	人間の行動は必ずしも合理的な意思決定に基づくものではない。人々の日常生活における経済行動を経済学に加えて心理学的に考え得る事実をもとに観察して捉えようとするのが行動経済学である。例えば、我々の日々の消費行動は、アンカリング効果やプロスペクト理論といった心理学的効果や理論に基づいたマーケティングにより、本人の自覚がないままに影響を受けている。これらを踏まえ、効果や理論について具体的な実践例について解説する。更に、誰もが自然と健康になれる食環境づくりへ応用できる効果や理論について学ぶ。	
専門教育	学科専門	選択科目	マスコミ概論	マス・コミュニケーションとは、「マス・メディアを用いて、不特定多数の人々に対し大量の情報を伝達すること」と定義される。マス・コミュニケーションに関連する基本的な概念、および代表的なマス・メディアの歴史と現状について解説を行うとともに、双方向的コミュニケーションの意味・意義、およびそれを可能にするインターネットというメディアについても解説する。その上で、現代社会におけるマス・コミュニケーションの位置づけを考え、この分野を社会学の一領域として考えられるようになることを目的とする。	
専門教育	学科専門	選択科目	起業基礎（ビジネスマナー含む）	技術革新が急速に進み、多くの仕事がAIやロボットに置き換わり、人間に求められる力も変化してきている中、社会のニーズや変化を感じ取り、課題解決に向けて主体的に行動する力が求められる。一人一人が未来の社会を創る主体となるには、自己の発想や工夫を積極的に社会へ貢献する力や、地域や社会との繋がりを生かした様々な取り組みを学ぶことが必要である。そこで、起業を含め多様な職業の選択肢について知り、そのための発想力、問題発見と解決能力、情報収集と分析能力およびビジネスマナー等の基礎を学ぶ。自己の発想や工夫を積極的に社会へ貢献する力や、地域や社会との繋がりを生かした様々な取り組みを学ぶことで、未来の社会を創る主体となる力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要				
（健康スポーツ科学部栄養科学科）				
科目 区分			授業科目の名称	講義等の内容
専 門 教 育	学 科 専 門	選 択 科 目	ソムリエ概論	我々の食文化および食生活において、「酒」の担っている役割を多面的に理解する。特に歴史的に最も古くから存在するワインの知識と魅力を最大限に生かすことのできるサービスや、それを取り巻く食環境を理解することを目的とする。市販されているアルコール飲料全般の基礎知識、ワインの歴史、ワインの商品特性、フランスをはじめとする世界各国のワインの特徴や、その製造や販売等に関する法規制等を中心的に扱いながら講義を実施する。
			国際栄養科学交流	将来グローバルに活躍できる栄養士として必要な経験を積むために、国内外における大学・研究機関等で英語でのコミュニケーションを中心とした研修を展開する。東洋大学の主要な提携大学との間の海外インターンシップ、あるいは国内における研究機関等で国際的な活動に参加し、我が国と世界における食文化、食環境づくりの特徴、健康上の課題、更には栄養政策・施策の違いを整理する。その上で、プレゼンテーションとして発表および質疑応答の機会を設け、活動終了後には英語によるレポート提出を課す。上記の活動から、栄養士としてグローバルに活躍するために必要な要素を認識し、栄養の専門家が担うべき国際的な役割についても理解できるようにすることを目的とする。
			機械学習Ⅰ	現代におけるAI・データサイエンスと実社会との関連性について学び、健康科学分野においてAI・データサイエンスを学ぶ意義や課題を理解する。特にディープラーニングにより、日常生活における様々なデータにみられるパターンやルールの探索、更には特徴量の設定や学習等を機械が自動的に行うプロセスを理解できるようにする。特に身近な例として、食事の画像認識等に対する分類や疾患等の予測について、実際に簡単なハンズオン学習を交えながら概説する。
			機械学習Ⅱ	現代におけるAI・データサイエンスと実社会との関連性について学び、健康科学分野においてAI・データサイエンスを学ぶ意義や課題を理解する。特に「機械学習Ⅰ」で触れた内容を端的に復習するとともに、教師あり学習等の課題を設定し、実際に簡単なハンズオン学習を交えながら実施する。更に、データを扱う上では避けて通ることのできないコーディングを自ら行い、事前に用意した学習データから未知のデータの分類や予測が可能となるようにする。なお、教師なし学習や強化学習等の基礎的な知識についても理解できるようにする。
			持続可能社会と食環境づくり	近年、栄養面と環境面に配慮した食環境づくりの重要性が国際的に提起されている。更に、我が国でも「自助」を中心とした健康の保持増進を通じた健康寿命の延伸に資するほか、SDGsの達成にも資する食環境づくりに注目が集まっている。こういった社会的背景のもと、食品製造事業者、食品流通事業者、メディア、学術関係者や職能団体等に期待される役割は非常に高まっている。そのため、講義では活力ある持続可能な社会の実現に向けた食環境づくりの具体的な実践例について概観するとともに、誰もが自然に健康になれる持続可能な食環境づくりの枠組みについて基礎知識を学ぶことを目的とする。

学校法人東洋大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
【東洋大学】				【東洋大学】				
文学部 第1部				文学部 第1部				
哲学科	100	—	400	哲学科	100	—	400	
東洋思想文化学科	100	—	400	東洋思想文化学科	100	—	400	
日本文学文化学科	133	—	532	日本文学文化学科	133	—	532	
英米文学科	133	—	532	英米文学科	133	—	532	
史学科	133	—	532	史学科	133	—	532	
教育学科				教育学科				
人間発達専攻	100	—	400	人間発達専攻	100	—	400	
初等教育専攻	50	—	200	初等教育専攻	50	—	200	
国際文化コミュニケーション学科	100	—	400	国際文化コミュニケーション学科	100	—	400	
経済学部 第1部				経済学部 第1部				
経済学科	250	—	1000	経済学科	250	—	1000	
国際経済学科	183	—	732	国際経済学科	183	—	732	
総合政策学科	183	—	732	総合政策学科	183	—	732	
経営学部 第1部				経営学部 第1部				
経営学科	316	—	1264	経営学科	316	—	1264	
マーケティング学科	150	—	600	マーケティング学科	150	—	600	
会計ファイナンス学科	216	—	864	会計ファイナンス学科	216	—	864	
法学部 第1部				法学部 第1部				
法律学科	250	—	1000	法律学科	250	—	1000	
企業法学科	250	—	1000	企業法学科	250	—	1000	
社会学部 第1部				社会学部 第1部				
社会学科	150	—	600	社会学科	150	—	600	
国際社会学科	150	—	600	国際社会学科	150	—	600	
メディアコミュニケーション学科	150	—	600	メディアコミュニケーション学科	150	—	600	
社会心理学科	150	—	600	社会心理学科	150	—	600	
社会福祉学科	150	—	600		0	—	0	令和5年4月 学生募集停止
理工学部				理工学部				
機械工学科	180	—	720	機械工学科	180	—	720	

学校法人東洋大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
生体医工学科	113	—	452	生体医工学科	113	—	452	
電気電子情報工学科	113	—	452	電気電子情報工学科	113	—	452	
応用化学科	146	—	584	応用化学科	146	—	584	
都市環境デザイン学科	113	—	452	都市環境デザイン学科	113	—	452	
建築学科	146	—	584	建築学科	146	—	584	
国際学部				国際学部				
グローバル・イノベーション学科	100	—	400	グローバル・イノベーション学科	100	—	400	
国際地域学科				国際地域学科				
国際地域専攻	210	—	840	国際地域専攻	210	—	840	
地域総合専攻	80	—	320	地域総合専攻	80	—	320	
国際観光学部				国際観光学部				
国際観光学科	366	—	1464	国際観光学科	366	—	1464	
生命科学部				生命科学部				
生命科学科	113	—	452	生命科学科	113	—	452	
応用生物科学科	113	—	452	応用生物科学科	113	—	452	
ライフデザイン学部								
生活支援学科								
生活支援学専攻	116	—	464		0	—	0	令和5年4月 学生募集停止
子ども支援学専攻	100	—	400		0	—	0	令和5年4月 学生募集停止
健康スポーツ学科	180	—	720		0	—	0	令和5年4月 学生募集停止
人間環境デザイン学科	160	—	640		0	—	0	令和5年4月 学生募集停止
				福祉社会デザイン学部				学部の新設 (届出)
				社会福祉学科	216	—	864	
				子ども支援学科	100	—	400	
				人間環境デザイン学科	160	—	640	
				健康スポーツ科学部				学部の新設 (届出)
				健康スポーツ科学科	230	—	920	
				栄養科学科	100	—	400	
総合情報学部				総合情報学部				

学校法人東洋大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
総合情報学科	260	—	1040	総合情報学科	260	—	1040	
食環境科学部				食環境科学部				
食環境科学科				食環境科学科				
フードサイエンス専攻	70	—	280	フードサイエンス専攻	70	—	280	
スポーツ・食品機能専攻	50	—	200		0	—	0	令和5年4月 学生募集停止
健康栄養学科	100	—	400	健康栄養学科	100	—	400	
情報連携学部				情報連携学部				
情報連携学科	300	—	1200	情報連携学科	300	—	1200	
文学部 第2部				文学部 第2部				
東洋思想文化学科	30	—	120	東洋思想文化学科	30	—	120	
日本文学文化学科	50	—	200	日本文学文化学科	50	—	200	
教育学科	40	—	160	教育学科	40	—	160	
経済学部 第2部				経済学部 第2部				
経済学科	150	—	600	経済学科	150	—	600	
経営学部 第2部				経営学部 第2部				
経営学科	110	—	440	経営学科	110	—	440	
法学部 第2部				法学部 第2部				
法律学科	120	—	480	法律学科	120	—	480	
社会学部 第2部				社会学部 第2部				
社会学科	130	—	520	社会学科	130	—	520	
学部 計	7,156	—	28,624	学部 計	7,206	—	28,824	

【東洋大学大学院】			
〔修士・博士前期課程〕			
文学研究科			
哲学専攻	5	—	10
インド哲学仏教学専攻	4	—	8
日本文学文化専攻	10	—	20
中国哲学専攻	4	—	8
英文学専攻	5	—	10

【東洋大学大学院】			
〔修士・博士前期課程〕			
文学研究科			
哲学専攻	5	—	10
インド哲学仏教学専攻	4	—	8
日本文学文化専攻	10	—	20
中国哲学専攻	4	—	8
英文学専攻	5	—	10

学校法人東洋大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
史学専攻	6	—	12	史学専攻	6	—	12	
教育学専攻	20	—	40	教育学専攻	20	—	40	
国際文化コミュニケーション専攻	10	—	20	国際文化コミュニケーション専攻	10	—	20	
社会学研究科				社会学研究科				
社会学専攻	10	—	20	社会学専攻	10	—	20	
社会心理学専攻	12	—	24	社会心理学専攻	12	—	24	
法学研究科				法学研究科				
私法学専攻	10	—	20	私法学専攻	10	—	20	
公法学専攻	10	—	20	公法学専攻	10	—	20	
経営学研究科				経営学研究科				
経営学・マーケティング専攻	22	—	44	経営学・マーケティング専攻	22	—	44	
ビジネス・会計ファイナンス専攻	28	—	56	ビジネス・会計ファイナンス専攻	28	—	56	
理工学研究科				理工学研究科				
生体医工学専攻	18	—	36	生体医工学専攻	18	—	36	
応用化学専攻	12	—	24	応用化学専攻	12	—	24	
機能システム専攻	15	—	30	機能システム専攻	15	—	30	
電気電子情報専攻	11	—	22	電気電子情報専攻	11	—	22	
都市環境デザイン専攻	8	—	16	都市環境デザイン専攻	8	—	16	
建築学専攻	14	—	28	建築学専攻	14	—	28	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻	10	—	20	経済学専攻	10	—	20	
公民連携専攻	30	—	60	公民連携専攻	30	—	60	
国際学研究科				国際学研究科				
グローバル・イノベーション学専攻	10	—	20	グローバル・イノベーション学専攻	10	—	20	
国際地域学専攻	15	—	30	国際地域学専攻	15	—	30	
国際観光学研究科				国際観光学研究科				
国際観光学専攻	15	—	30	国際観光学専攻	15	—	30	
生命科学研究科				生命科学研究科				
生命科学専攻	20	—	40	生命科学専攻	20	—	40	
社会福祉学研究科				社会福祉学研究科				

学校法人東洋大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
社会福祉学専攻	20	—	40	社会福祉学専攻	20	—	40	
ライフデザイン学研究科				ライフデザイン学研究科				
生活支援学専攻	10	—	20	生活支援学専攻	10	—	20	
健康スポーツ学専攻	10	—	20	健康スポーツ学専攻	0	—	0	令和5年4月 学生募集停止
人間環境デザイン専攻	10	—	20	人間環境デザイン専攻	10	—	20	
				健康スポーツ科学研究科				研究科の設置 (届出)
				健康スポーツ科学専攻	20	—	40	
				栄養科学専攻	10	—	20	
学際・融合科学研究科				学際・融合科学研究科				
バイオ・ナノサイエンス融合専攻	12	—	24	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	12	—	24	
総合情報学研究科				総合情報学研究科				
総合情報学専攻	15	—	30	総合情報学専攻	15	—	30	
食環境科学研究科				食環境科学研究科				
食環境科学専攻	10	—	20	食環境科学専攻	10	—	20	
情報連携学研究科				情報連携学研究科				
情報連携学専攻	20	—	40	情報連携学専攻	20	—	40	
〔修士・博士前期課程〕 計	441	—	882	〔修士・博士前期課程〕 計	461	—	922	
〔博士後期課程〕 文学研究科				〔博士後期課程〕 文学研究科				
哲学専攻	3	—	9	哲学専攻	3	—	9	
インド哲学仏教学専攻	3	—	9	インド哲学仏教学専攻	3	—	9	
日本文学文化専攻	3	—	9	日本文学文化専攻	3	—	9	
中国哲学専攻	3	—	9	中国哲学専攻	3	—	9	
英文学専攻	3	—	9	英文学専攻	3	—	9	
史学専攻	3	—	9	史学専攻	3	—	9	
教育学専攻	4	—	12	教育学専攻	4	—	12	
国際文化コミュニケーション専攻	3	—	9	国際文化コミュニケーション専攻	3	—	9	
社会学研究科				社会学研究科				
社会学専攻	3	—	9	社会学専攻	3	—	9	
社会心理学専攻	5	—	15	社会心理学専攻	5	—	15	

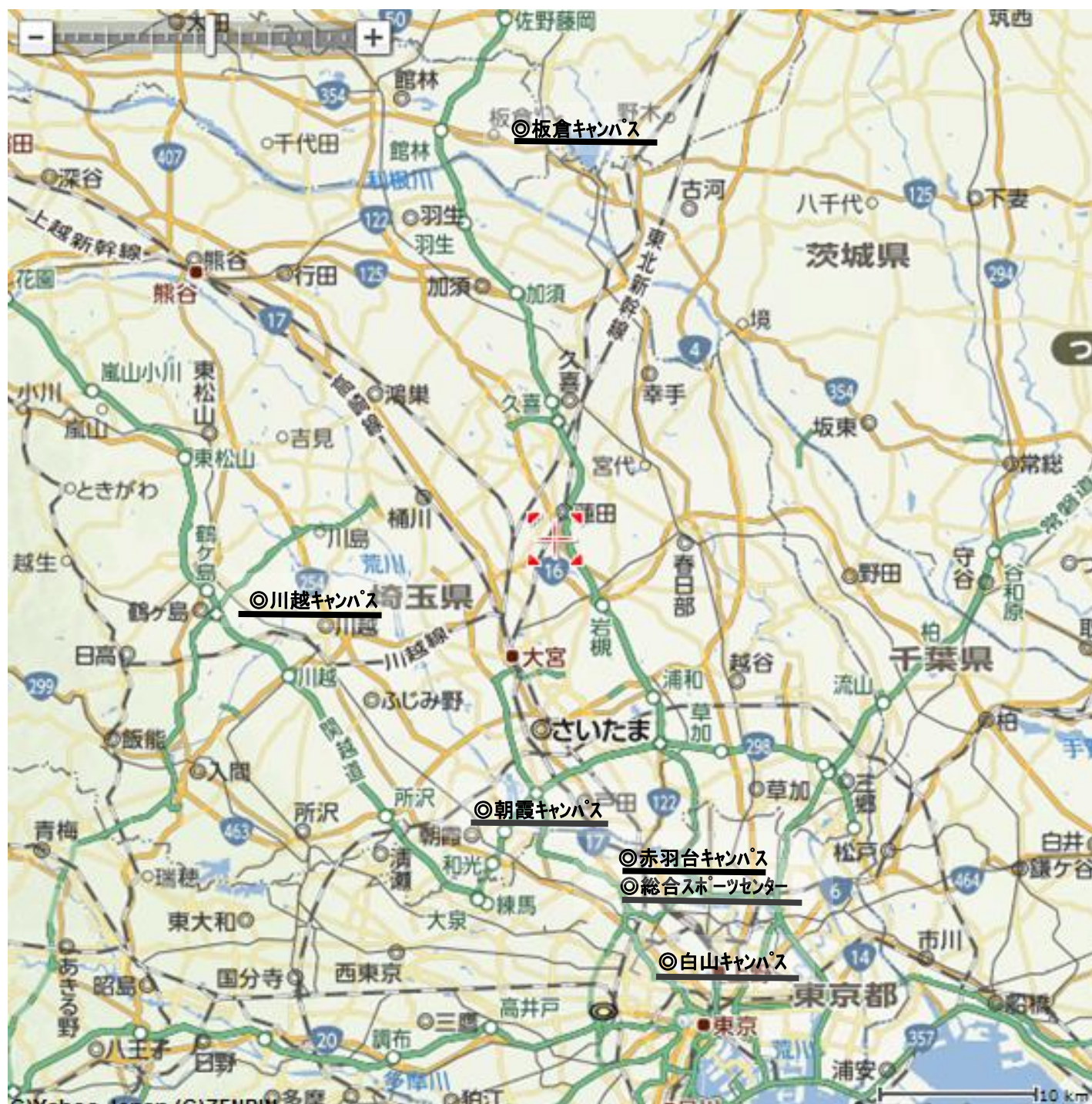
学校法人東洋大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
法学研究科				法学研究科				
私法学専攻	5	—	15	私法学専攻	5	—	15	
公法学専攻	5	—	15	公法学専攻	5	—	15	
経営学研究科				経営学研究科				
経営学・マーケティング専攻	4	—	12	経営学・マーケティング専攻	4	—	12	
ビジネス・会計ファイナンス専攻	3	—	9	ビジネス・会計ファイナンス専攻	3	—	9	
理工学研究科				理工学研究科				
生体医工学専攻	3	—	9	生体医工学専攻	3	—	9	
応用化学専攻	3	—	9	応用化学専攻	3	—	9	
機能システム専攻	3	—	9	機能システム専攻	3	—	9	
電気電子情報専攻	3	—	9	電気電子情報専攻	3	—	9	
建築・都市デザイン専攻	3	—	9	建築・都市デザイン専攻	3	—	9	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻	3	—	9	経済学専攻	3	—	9	
国際学研究科				国際学研究科				
国際地域学専攻	5	—	15	国際地域学専攻	5	—	15	
国際観光学研究科				国際観光学研究科				
国際観光学専攻	3	—	9	国際観光学専攻	3	—	9	
生命科学研究科				生命科学研究科				
生命科学専攻	4	—	12	生命科学専攻	4	—	12	
社会福祉学研究科				社会福祉学研究科				
社会福祉学専攻	5	—	15	社会福祉学専攻	5	—	15	
ライフデザイン学研究科				ライフデザイン学研究科				
ヒューマンライフ学専攻	5	—	15	ヒューマンライフ学専攻	5	—	15	
人間環境デザイン専攻	4	—	12	人間環境デザイン専攻	4	—	12	
				健康スポーツ科学研究科				研究科の設置 (届出)
				健康スポーツ科学専攻	5	—	15	
				栄養科学専攻	3	—	9	
学際・融合科学研究科				学際・融合科学研究科				
バイオ・ナノサイエンス融合専攻	4	—	12	バイオ・ナノサイエンス融合専攻	4	—	12	
総合情報学研究科				総合情報学研究科				
総合情報学専攻	3	—	9	総合情報学専攻	3	—	9	

学校法人東洋大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
食環境科学研究科				食環境科学研究科				
食環境科学専攻	2	—	6	食環境科学専攻	2	—	6	
情報連携学研究科				情報連携学研究科				
情報連携学専攻	4	—	12	情報連携学専攻	4	—	12	
〔博士後期課程〕 計	107	—	321	〔博士後期課程〕 計	<u>115</u>	—	<u>345</u>	
大学院 計	548	—	1,203	大学院 計	<u>576</u>	—	<u>1,267</u>	

東洋大学関連広域図



【所在地】

白山キャンパス	東京都文京区白山5-28-20
赤羽台キャンパス	東京都北区赤羽台1-7-11
朝霞キャンパス	埼玉県朝霞市岡48-1
川越キャンパス	埼玉県川越市鯨井2100
板倉キャンパス	群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1
総合スポーツセンター	東京都板橋区清水町92-1

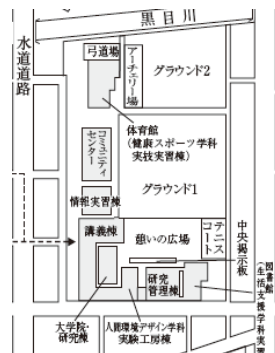
D 板倉団地

生命科学部・食環境科学部
生命科学・食環境科学研究科
位置 群馬県邑楽郡板倉町
校地面積 112,125.00㎡
(内 運動場用地 39,336.00㎡)
(全部所有)



C 朝霞団地

位置 埼玉県朝霞市岡
校地面積 69,774.00㎡
(内 運動場用地 40,072.73㎡)
(全部所有)



B 川越団地

理工学部・総合情報学部
理工学・総合情報学研究科
位置 埼玉県川越市鯨井
校地面積 271,181.87㎡
(内 運動場用地 102,751.32㎡)
(全部所有)



(至 森林公園) 1.0km
徒歩10分
鶴ヶ島駅

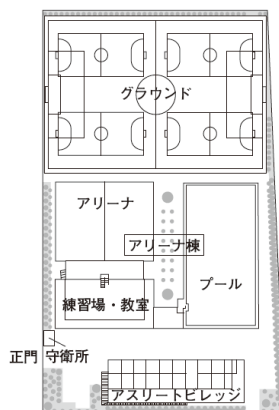
【東武東上線】

電車 38分(急行)

E 総合スポーツセンター

位置 東京都板橋区清水町
校地面積 16,964.70㎡
(内 運動場用地 7,416.00㎡)
(全部所有)

文・経済・経営・法・社会
国際学部・国際観光学部



(至 高島平) 板橋本町駅

0.7km
徒歩7分

電車
12分

【JR武蔵野線】

【JR埼京線】

電車
9分

【東武東上線】

電車16分(急行)

電車 13分

【東武日光線】

【東武線日光線・伊勢崎線】

栗橋駅

【JR東北本線】
電車
28分

大宮駅

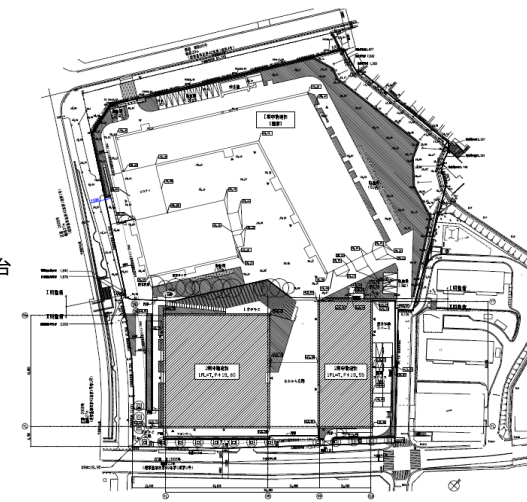
【JR埼京線】

電車
18分

F 赤羽台団地

赤羽台キャンパス
位置 東京都北区赤羽台
校地面積 35883.71㎡
(全部所有)

情報連携学部
情報連携学研究科
ライフデザイン学部
ライフデザイン学研究科



1.0km
徒歩 10分
赤羽駅

A 白山団地

白山キャンパス
位置 東京都文京区白山
校地面積 35,897.67㎡
(所有校地) 34,892.06㎡
(借用校地) 1,005.61㎡

文・経済・経営・法・社会
国際学部・国際観光学部
文・社会・法・経営・経済・
国際・国際観光・社会福祉学研究科
法科大学院



電車
5分
【JR山手線】
【都営三田線】

0.5km
徒歩 5分

電車 4分

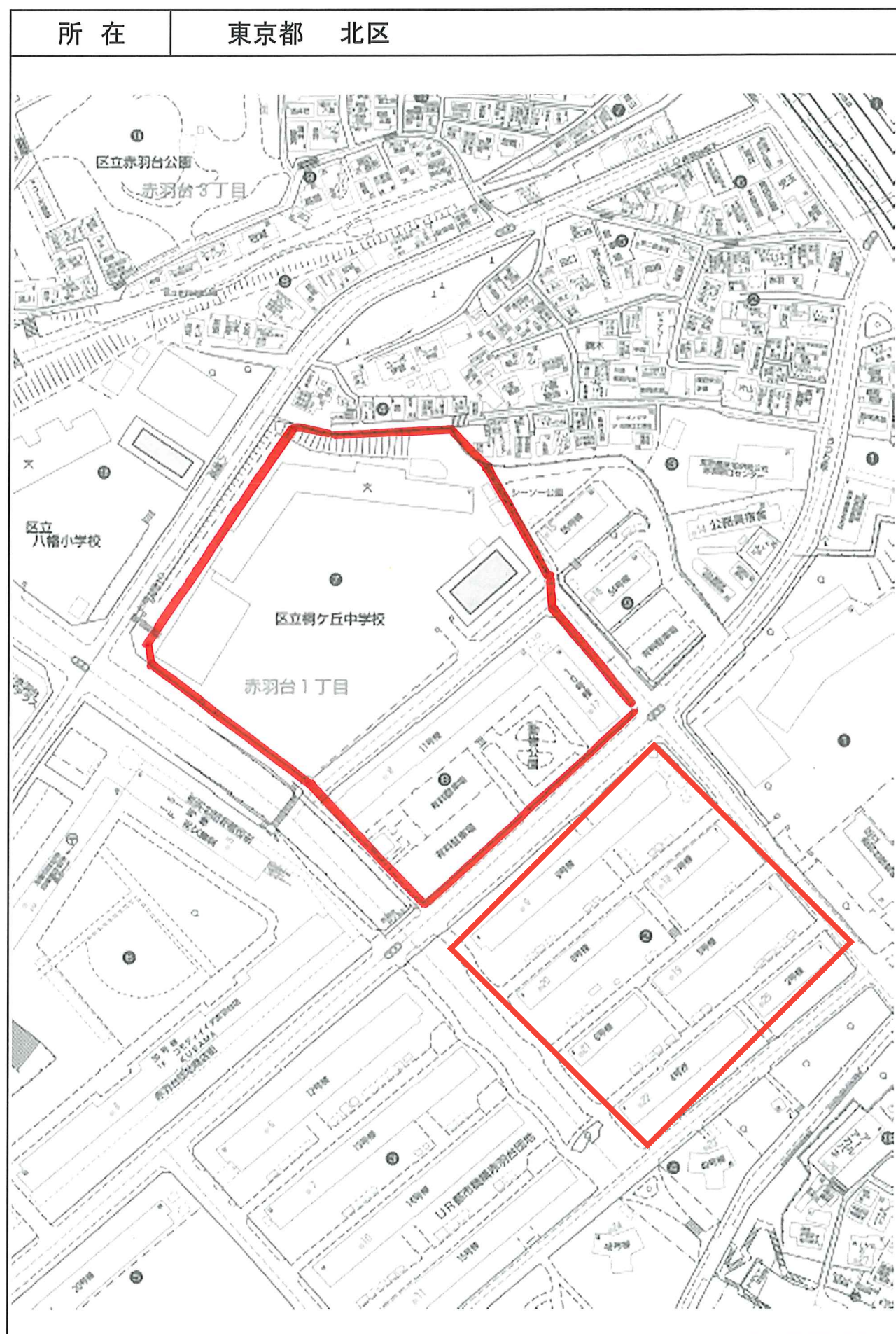
バス 6分

白山駅

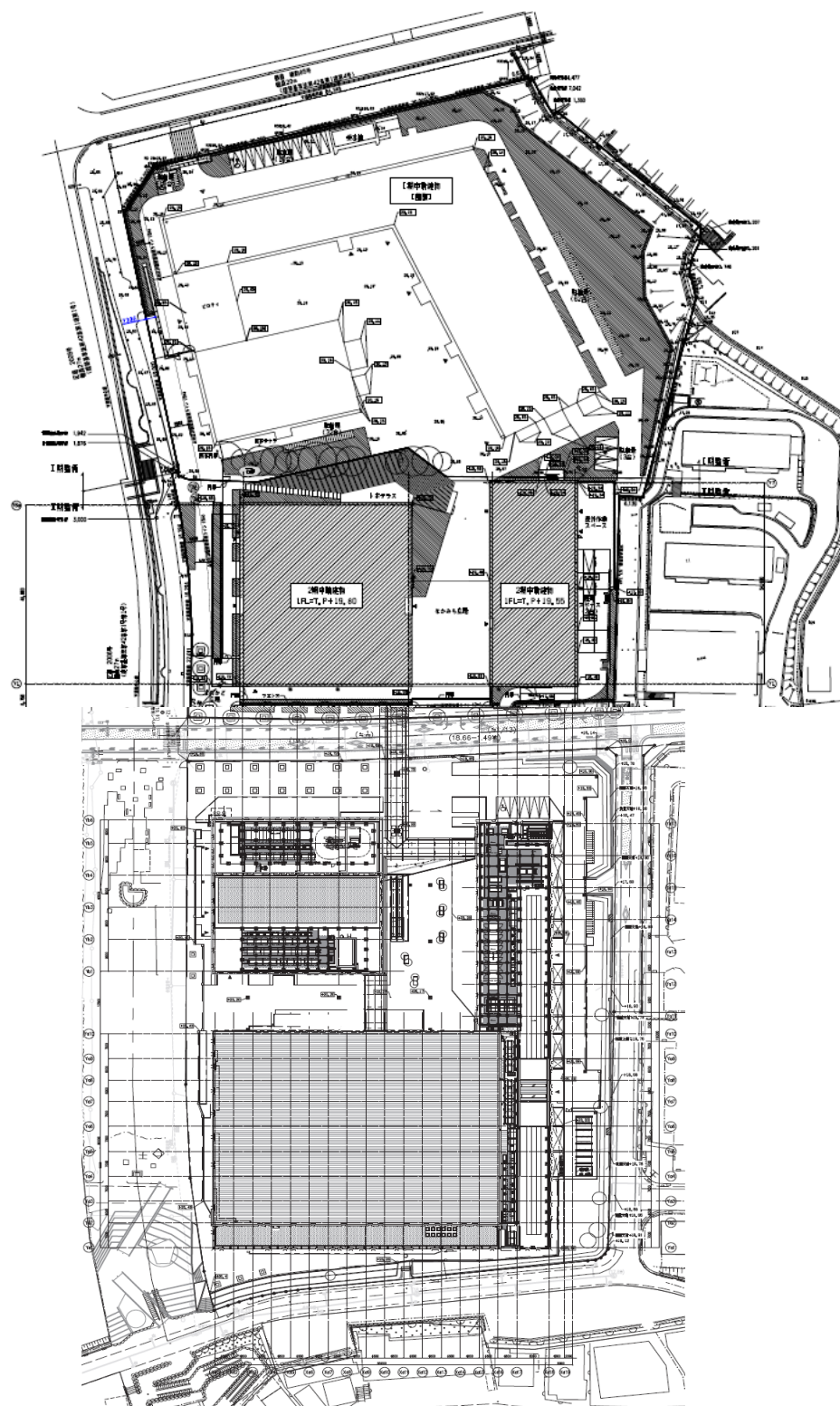
(東洋大前)

各校舎詳細については校舎配置図を参照

校地(赤羽台キャンパス)



東洋大学 赤羽台キャンパス 校舎配置図



	校地面積	校舎面積
赤羽台キャンパス	35,883.71m ²	68,073.13m ²

改正

昭和25年4月1日
昭和26年4月1日
昭和27年4月1日
昭和29年4月1日
昭和31年4月1日
昭和32年4月1日
昭和34年4月1日
昭和36年4月1日
昭和37年4月1日
昭和39年4月1日
昭和40年4月1日
昭和41年4月1日
昭和43年4月1日
昭和46年4月1日
昭和47年4月1日
昭和51年4月1日
昭和53年4月1日
昭和54年4月1日
昭和55年4月1日
昭和56年4月1日
昭和57年4月1日
昭和58年4月1日
昭和59年4月1日
昭和60年4月1日
昭和61年4月1日
昭和62年4月1日
昭和63年4月1日
昭和63年9月26日
昭和63年11月4日
平成元年4月1日
平成元年6月22日
平成2年4月1日
平成3年4月1日
平成3年7月1日
平成3年10月1日
平成4年4月1日
平成5年4月1日
平成5年10月1日
平成5年11月1日
平成6年4月1日
平成6年9月5日
平成7年4月1日
平成8年4月1日
平成9年4月1日
平成10年4月1日
平成10年6月1日
平成10年9月1日

平成11年4月1日
平成12年4月1日
平成12年7月1日
平成13年4月1日
平成14年4月1日
平成14年7月15日
平成15年4月1日
平成16年4月1日
平成17年4月1日
平成18年4月1日
平成19年4月1日
平成20年4月1日
平成20年7月22日
平成21年4月1日
平成22年4月1日
平成23年4月1日
平成24年4月1日
平成25年4月1日
平成26年4月1日
平成26年7月1日
平成27年4月1日
平成28年4月1日
平成28年7月1日
平成29年4月1日
平成30年4月1日
平成31年4月1日
令和2年6月1日学則第72号
令和3年4月1日学則第23号
令和4年4月1日学則第31号
令和5年4月1日学則第X号

東洋大学学則

目次

- 第1章 総則（第1条—第3条の4）
- 第2章 本学の組織
 - 第1節 教育及び研究の組織（第4条—第8条）
 - 第2節 運営機関及び教職員（第9条—第18条）
- 第3章 修学等
 - 第1節 修業年限（第19条—第20条）
 - 第2節 学年、学期及び休業日（第21条—第23条）
- 第4章 入学、退学、休学、除籍等
 - 第1節 入学、留学等（第24条—第34条）
 - 第2節 休学、退学、転学及び除籍（第35条—第38条）
- 第5章 教育課程及び履修方法（第39条—第45条）
- 第6章 試験及び成績（第46条—第51条）
- 第7章 卒業及び学士の学位（第52条—第55条）
- 第8章 賞罰及び奨学（第56条—第57条の2）
- 第9章 委託学生、科目等履修生及び特別聴講生（第58条—第61条）
- 第10章 外国人留学生（第62条・第62条の2）
- 第11章 学費等
 - 第1節 検定料及び選考料（第63条・第64条）

第2節 学費、科目等履修料等（第65条—第69条）

第3節 手数料（第70条）

第4節 学費の返還制限（第71条）

第12章 正規外の講座（第72条—第74条）

第13章 厚生寮、学生寮及び厚生保健施設（第75条—第79条）

第14章 補則（第80条—第82条）

附則

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この学則は、学校教育法（昭和22年法律第26号）及び私立学校法（昭和24年法律第270号）に基づき、学校法人東洋大学が設置する東洋大学（以下「本学」という。）における教育及び研究の組織並びに運営について必要な事項を定める。

（本学の目的）

第2条 本学は、創立者井上円了博士の建学の精神に基づき、東西学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めると共に、人格の陶冶と情操の涵養とに務め、国家及び世界の文化向上に貢献しうる有為の人材を養成することを目的とする。

（自己点検・評価）

第3条 本学は、教育研究水準の向上に資するため、本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

2 前項の点検及び評価の実施細目については、別に定める。

（認証評価）

第3条の2 本学は、前条第1項の措置に加え、本学の教育研究等の総合的な状況について、学校教育法第109条第2項に基づき、政令で定められた期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受け、その結果を公表する。

（教育内容等の改善のための組織的な研修等）

第3条の3 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する。

2 本学は、前項に加え、大学の運営の高度化を図ることを目的として、教職員が大学の運営に必要な知識及び技能を身に付け、能力及び資質を向上させるための研修を実施する。

3 前2項の実施に関する必要な事項については、別に定める。

（情報の公表）

第3条の4 本学は、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第172条の2に基づき、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって情報を公表する。

2 前項の公表方法については、別に定める。

第2章 本学の組織

第1節 教育及び研究の組織

（学部及び学科）

第4条 本学に、次の学部及び学科を置く。

（1）文学部

ア 第1部

（ア）哲学科

（イ）東洋思想文化学科

（ウ）日本文学文化学科

（エ）英米文学科

（オ）史学科

（カ）教育学科

（キ）国際文化コミュニケーション学科

イ 第2部

（ア）東洋思想文化学科

（イ）日本文学文化学科

- (ウ) 教育学科
- (2) 経済学部
 - ア 第1部
 - (ア) 経済学科
 - (イ) 国際経済学科
 - (ウ) 総合政策学科
 - イ 第2部
 - (ア) 経済学科
- (3) 経営学部
 - ア 第1部
 - (ア) 経営学科
 - (イ) マーケティング学科
 - (ウ) 会計ファイナンス学科
 - イ 第2部
 - (ア) 経営学科
- (4) 法学部
 - ア 第1部
 - (ア) 法律学科
 - (イ) 企業法学科
 - イ 第2部
 - (ア) 法律学科
- (5) 社会学部
 - ア 第1部
 - (ア) 社会学科
 - (イ) 国際社会学科
 - (ウ) メディアコミュニケーション学科
 - (エ) 社会心理学科
 - イ 第2部
 - (ア) 社会学科
- (6) 理工学部
 - ア 機械工学科
 - イ 生体医工学科
 - ウ 電気電子情報工学科
 - エ 応用化学科
 - オ 都市環境デザイン学科
 - カ 建築学科
- (7) 国際学部
 - ア グローバル・イノベーション学科
 - イ 国際地域学科
- (8) 国際観光学部
 - ア 国際観光学科
- (9) 生命科学部
 - ア 生命科学科
 - イ 応用生物科学科
- (10) 総合情報学部
 - ア 総合情報学科
- (11) 食環境科学部
 - ア 食環境科学科
 - イ 健康栄養学科
- (12) 情報連携学部

- ア 情報連携学科
- (13) 福祉社会デザイン学部
 - ア 社会福祉学科
 - イ 子ども支援学科
 - ウ 人間環境デザイン学科
- (14) 健康スポーツ科学部
 - ア 健康スポーツ科学科
 - イ 栄養科学科

2 前項の学科のもとに、教育研究上の必要に応じ専攻等を置くことができる。

3 各学部における学部規程は、別に定める。

(学部及び学科の教育研究上の目的)

第4条の2 各学部は、学部及び学科又は専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学部規程に定める。

(卒業の認定及び学位授与、教育課程の編成及び実施並びに入学者の受入れに関する方針)

第4条の3 各学部は、前条の目的を達成するために、学部及び学科又は専攻の卒業の認定及び学位授与に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針を学部規程に定める。

(学生定員)

第5条 本学の各学部及び学科又は専攻の学生定員は、次のとおりとする。

学部	学科	専攻	入学定員		収容定員	
			第1部	第2部	第1部	第2部
文学部	哲学科		100	—	400	—
	東洋思想文化学科		100	30	400	120
	日本文学文化学科		133	50	532	200
	英米文学科		133	—	532	—
	史学科		133	—	532	—
	教育学科	人間発達専攻	100	—	400	—
		初等教育専攻	50	—	200	—
			—	40	—	160
	国際文化コミュニケーション学科		100	—	400	—
	(計)		849	120	3,396	480
経済学部	経済学科		250	150	1,000	600
	国際経済学科		183	—	732	—
	総合政策学科		183	—	732	—
	(計)		616	150	2,464	600
経営学部	経営学科		316	110	1,264	440
	マーケティング学科		150	—	600	—
	会計ファイナンス学科		216	—	864	—
	(計)		682	110	2,728	440
法学部	法律学科		250	120	1,000	480
	企業法学科		250	—	1,000	—
	(計)		500	120	2,000	480
社会学部	社会学科		150	130	600	520
	国際社会学科		150	—	600	—
	メディアコミュニケーション学科		150	—	600	—
	社会心理学科		150	—	600	—
	(計)		600	130	2,400	520

理工学部	機械工学科		180	—	720	—
	生体医工学科		113	—	452	—
	電気電子情報工学科		113	—	452	—
	応用化学科		146	—	584	—
	都市環境デザイン学科		113	—	452	—
	建築学科		146	—	584	—
	(計)		811	—	3,244	—
国際学部	グローバル・イノベーション学科		100	—	400	—
	国際地域学 科	国際地域専攻	210	—	840	—
		地域総合専攻	80	—	320	—
	(計)		390	—	1,560	—
国際観光学部	国際観光学科		366	—	1,464	—
生命科学部	生命科学科		113	—	452	—
	応用生物科学科		113	—	452	—
	(計)		226	—	904	—
総合情報学部	総合情報学科		260	—	1,040	—
食環境科学部	食環境科学 科	フードサイエンス専攻	70	—	280	—
		健康栄養学科	100	—	400	—
	(計)		170	—	680	—
情報連携学部	情報連携学科		300	—	1,200	—
福祉社会デ ザイン学部	社会福祉学科		216	—	864	—
	子ども支援学科		100	—	400	—
	人間環境デザイン学科		160	—	640	—
	(計)		476	—	1,904	—
健康スポー ツ科学部	健康スポーツ科学科		230	—	920	—
	栄養科学科		100	—	400	—
	(計)		330	—	1,320	—
〔合計〕			6,576	630	26,304	2,520

2 文学部第1部及び第2部東洋思想文化学科の「インド思想コース」、「中国語・中国哲学文学コース」、「仏教思想コース」及び「東洋芸術文化コース」の定員は、別に定める文学部東洋思想文化学科のコースに関する規程による。

(通信教育課程)

第6条 文学部日本文学文化学科及び法学部法律学科に、通信教育課程を置く。

2 通信教育課程に関する学則は、別に定める。

(大学院)

第7条 本学に、大学院を置く。

2 大学院に関する学則は、別に定める。

(附属施設等)

第8条 本学に、附属施設として図書館、研究所、センターその他の教育及び研究に必要な施設を置くことができる。

2 附属施設に関する規程は、別に定める。

第2節 運営機関及び教職員

(学長)

第9条 本学に、学長を置く。

2 学長は、校務をつかさどり、所属教職員を統督する。

(副学長)

第9条の2 本学に、副学長を置くことができる。

2 副学長は、学長を助け、学長の命を受けて校務をつかさどる。

(学部長)

第10条 各学部に、学部長を置く。

2 学部長は、当該学部に関する校務をつかさどる。

(学部長会議)

第11条 各学部の連絡調整及びその他緊急を要する事項につき、学長の諮問に応えるために学部長会議を置く。

2 学部長会議に関する規程は、別に定める。

(教授会)

第12条 学長が決定を行うに当たり意見を述べる事項及び当該学部の運営に関する事項を審議するために、各学部に教授会を置く。

2 教授会に関する規程は、別に定める。

第13条 削除

第14条 削除

(各種委員会)

第15条 学長が必要と認めるときは、課題ごとに委員会（以下「各種委員会」という。）を設置することができる。

2 各種委員会に関する規程は、別に定める。

第16条 削除

(教職員)

第17条 本学に、専任の教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、特殊資格職員、技術職員及び現業職員を置く。

2 前項のほか、必要に応じ、非常勤の教員及び職員を置くことができる。

(学外者研究員)

第18条 本学に、学外者研究員を置くことができる。

2 学外者研究員に関する規程は、別に定める。

第3章 修学等

第1節 修業年限

(修業年限)

第19条 学部の修業年限は、4年とする。

(修業年限の通算)

第19条の2 科目等履修生（大学入学資格を有しない者を除く。）として本学において一定の単位を修得した者が本学に入学する場合、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、本学が定める期間を修業年限に通算することができる。ただし、その期間は、本学の修業年限の2分の1を超えないものとする。

2 前項の修業年限の通算は、本学に入学した後に修得したものとみなすことのできる当該単位数、その修得に要した期間その他教授会が必要と認める事項を勘案して行う。

(在学年限)

第20条 卒業に必要な単位を修得するために在学できる年数（以下「在学年数」という。）は、通算して8年を限度とする。この場合において、休学年数は在学年数に算入しない。

2 再入学又は編入学をした者の在学年数は、前項の在学年数から再入学又は編入学までの通常の在学の年数を控除した年数とする。

第2節 学年、学期及び休業日

(学年)

第21条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。ただし、秋学期入学生については10月1日に始まり、翌年9月30日に終わる。

(学期)

第22条 学年を分けて、次の2期とする。ただし、学長は、教授会の意見を聴いて、春学期の終了日及び秋学期の開始日を変更することができる。

(1) 春学期 4月1日から9月30日まで

(2) 秋学期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第23条 本学における授業を行わない日(以下「休業日」という。)を、次のとおり定める。ただし、学長は、教授会の意見を聴いて、休業日を変更し、又は臨時に休業日を設けることができる。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年7月20日法律第178号)に規定する休日

(3) 創立記念日(9月16日)

(4) 学祖祭(6月6日)

(5) 春季休業 2月上旬から3月31日まで

(6) 夏季休業 8月上旬から9月30日まで

(7) 冬季休業 12月下旬から翌年1月上旬まで

第4章 入学、退学、休学、除籍等

第1節 入学、留学等

(入学の時期)

第24条 入学期は、学期の初日から30日以内とする。

(入学資格)

第25条 学部第1年次に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 高等学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。)

(3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 文部科学大臣が指定した者

(6) 大学入学資格検定(平成17年1月31日規程廃止)に合格した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

(8) その他本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

(入学の志願及び選考)

第26条 入学志願者は、所定の書式による入学願書を提出し、別表第1に定める入学検定料を納入し、かつ、選考試験を受けなければならない。

(入学の手続)

第27条 入学を許可された者は、入学金を納入し、所定の書式により誓約書を提出しなければならない。

(保証人)

第28条 保証人は、父、母又はその他の成人者で独立の生計を営む者でなければならない。

2 保証人は、学生の本籍期間中の本学の諸規則の遵守について責任を負う。

3 学生は、保証人を変更し、又はその氏名若しくは居住地に変更があったときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

(学生証)

第29条 入学手続を終えた者には、学生証を交付する。

(編入学)

第30条 学長は、次の各号のいずれかに該当する者が本学に編入学を希望するときは、選考のうえ、編入学を許可することができる。

- (1) 短期大学を卒業した者
- (2) 大学を卒業した者
- (3) 高等専門学校を卒業した者
- (4) 専修学校の専門課程（文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者

2 編入学に関する規程は、別に定める。

(転入学)

第31条 学長は、他の大学の学生が、その大学の許可を得て本学に転入学を願い出たときは、選考のうえ、転入学を認めることができる。

2 転入学に関する規程は、別に定める。

(転部・転科)

第32条 学長は、学生が学部の他の部へ、又は他の学部及び学科又は専攻へ転部及び転科を願い出たときは、選考のうえ、これを許可することができる。

2 転部・転科に関する規程は、別に定める。

(留学)

第33条 学長は、学生が外国の大学で学修することを願い出たときは、教授会の意見を聴いて留学を許可することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、在学年数に算入する。

(二重学籍の禁止)

第34条 学生は、他の学部学科又は他の大学と併せて在学することはできない。ただし、本学と本学の協定大学の間で実施されるダブル・ディグリー・プログラム及びジョイント・ディグリー・プログラムへの参加者には適用しない。

第2節 休学、退学、転学及び除籍

(休学)

第35条 引続き3カ月以上修学できない学生が休学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

- 2 休学は、連続する2学期限りとする。ただし、特別の事情がある場合は、学長は教授会の意見を聴いて、2学期を超える期間の休学を許可することができる。
- 3 休学の期間は、通算して8学期を超えることはできない。
- 4 願いにより休学した者が、休学の期間が満了した場合又は休学期間中に休学の理由が消滅した場合において、復学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(退学)

第36条 学生が理由を明確にして退学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

2 願いにより退学した者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(転学)

第37条 学生が転学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

(除籍)

第38条 次に掲げる各号のいずれかに該当する者は、所定の手続を経て、除籍する。

- (1) 授業料その他の学費を所定の期日までに納入しない者
 - (2) 第20条に規定する在学年数を超えた者
 - (3) 第35条第3項に規定する休学期間を超えた者
 - (4) 新入生で指定された期限までに履修登録を行わないこと、その他本学において修学の意思がないと認められる者
 - (5) 出入国管理及び難民認定法（昭和26年10月4日政令第319号）に定める「留学」又は他の中長期在留資格の取得が不許可又は不交付とされた者
- 2 学生は、除籍されることにより、学生の身分を失う。

- 3 第1項の規定（第2号及び第3号に掲げる者を除く。）により除籍された者が、再入学を願い出たときは、学長は教授会の意見を聴いて、これを許可することができる。

第5章 教育課程及び履修方法

（教育課程）

第39条 本学は、本学の目的並びに学部及び学科又は専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成する。

- 2 教育課程の編成に当っては、学部及び学科又は専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮する。
- 3 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次等に配当して編成する。
- 4 各学部及び学科又は専攻の教育課程における科目区分、授業科目の名称、単位数、配当及び履修方法は、各学部において学部規程に定める。
- 5 外国人留学生（海外帰国子女を含む。）に対しては、前項に掲げる授業科目の一部に代えて、又はこれに加えて特別の授業科目を置くことができる。

（授業の方法）

第39条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行う。

- 2 前項の授業は、文部科学大臣の定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 前項の授業方法により修得する単位数は、60単位を超えないものとする。

（授業の期間）

第39条の3 授業の期間は、学期ごとに15週にわたる期間並びに15週に1週を加えた16週の前半及び後半の8週にわたる期間とする。

- 2 授業の期間の日程は、学長が教授会の意見を聴いて定める。
- 3 前項の規定にかかわらず、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができる場合には、教授会の審議を経て授業の期間の日程以外の期日に授業を実施することができる。

（成績評価基準等の明示等）

第39条の4 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示する。

- 2 本学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行う。

（単位の授与）

第40条 授業科目を履修する場合、その授業科目の授業に出席し、かつ、試験に合格した者には、その授業科目の単位を与える。

（単位の計算方法）

第41条 授業科目の単位数は、1単位につき45時間の学修を要することを標準とし、次の基準により単位数を計算する。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 1の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合は、その組合せに応じ、前2号に規定する基準を考慮して1単位の授業時間を定める。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合は、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。
- 3 1単位の計算基礎となる授業時間については、学長が教授会の意見を聴いて定める。

（履修手続）

第42条 授業科目の履修は、各学期の所定の期日内に届け出て許可を得なければならない。

- 2 他の学部及び学科又は専攻の授業科目の履修については、前項の規定を準用する。
- 3 各学部は、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を学部規程に定める。

(他の大学の授業科目の履修)

第43条 教育上有益と認めるときは、他の大学との協議に基づき、学生に当該大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修した授業科目の単位については、学長は教授会の意見を聴いて、60単位を限度に卒業所要単位として認めることができる。

(大学以外の教育施設等における学修)

第43条の2 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができる。

2 前項により認めることができる単位数は、前条により本学において修得したものと認める単位数と合わせて、60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第43条の3 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は認めることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第43条第2項及び第43条の2第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて、60単位を超えないものとする。

(留学の場合の準用)

第44条 第43条第2項の規定は、学生が外国の大学に留学する場合について準用する。

(教育職員その他の資格)

第45条 学部及び学科又は専攻等において取得できる教育職員その他の資格は、各学部において学部規程に定める。

2 前項の資格取得のための授業科目及び単位数は、各学部において学部規程に定める。

第6章 試験及び成績

(試験)

第46条 試験は、筆記又は口述による。ただし、必要と認めるときは、試験に代えて論文その他の方法によることができる。

2 試験の評価点は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

(試験の期間)

第47条 試験は、学期末又は学年末に行う。ただし、必要があると認めるときは、その他の時期に行うことができる。

(受験の条件)

第48条 試験は、履修した科目でなければ受けることはできない。

2 学費等を納入しない者は、試験を受けることはできない。

3 休学又は停学の期間中は、試験を受けることはできない。

(追試験)

第49条 疾病その他のやむを得ない事情により第47条に規定する試験を受けることができない者には、追試験を行うことができる。

2 追試験を受けようとする者は、その旨の願い出をしなければならない。

(成績の表示)

第50条 試験の成績は、S(100点から90点まで)、A(89点から80点まで)、B(79点から70点まで)、C(69点から60点まで)、D(59点から40点まで)及びE(39点以下)で表示し、S、A、B及びCを合格とし、D及びEを不合格とする。

(成績の通知)

第51条 試験の成績は、学生に通知する。

第7章 卒業及び学士の学位

(卒業に必要な単位)

第52条 各学部及び学科又は専攻の卒業に必要な単位は、各学部において学部規程に定める。

(卒業の要件)

第53条 卒業の要件は、次のとおりとする。

- (1) 4年以上在学すること。
 - (2) 各学部が定める卒業に必要な要件を充足していること。
- 2 前項の規定にかかわらず、3年以上在学し卒業に必要な単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、文部科学大臣の定めるところにより、卒業させることができる。

第54条 削除

(学士の学位)

第55条 卒業した者には、その履修した課程に従い、次の各号に掲げる学士の学位を授与し、卒業証書・学位記を交付する。

- (1) 文学部第1部(教育学科を除く。)・第2部(教育学科を除く。) 学士(文学)
- (2) 文学部第1部教育学科・第2部教育学科 学士(教育学)
- (3) 経済学部第1部・第2部 学士(経済学)
- (4) 経営学部第1部・第2部 学士(経営学)
- (5) 法学部第1部・第2部 学士(法学)
- (6) 社会学部第1部・第2部 学士(社会学)
- (7) 理工学部
 - ア 機械工学科 学士(理工学)
 - イ 生体医工学科 学士(理工学)
 - ウ 電気電子情報工学科 学士(理工学)
 - エ 応用化学科 学士(理工学)
 - オ 都市環境デザイン学科 学士(工学)
 - カ 建築学科 学士(工学)
- (8) 国際学部
 - ア グローバル・イノベーション学科 学士(グローバル・イノベーション学)
 - イ 国際地域学科 学士(国際地域学)
- (9) 国際観光学部 学士(国際観光学)
- (10) 生命科学部 学士(生命科学)
- (11) 総合情報学部 学士(情報学)
- (12) 食環境科学部
 - ア 食環境科学科 学士(食環境科学)
 - イ 健康栄養学科 学士(健康栄養学)
- (13) 情報連携学部 学士(情報連携学)
- (14) 福祉社会デザイン学部
 - ア 社会福祉学科 学士(社会福祉学)
 - イ 子ども支援学科 学士(子ども支援学)
 - ウ 人間環境デザイン学科 学士(人間環境デザイン学)
- (15) 健康スポーツ科学部
 - ア 健康スポーツ科学科 学士(健康スポーツ科学)
 - イ 栄養科学科 学士(栄養科学)

第8章 賞罰及び奨学

(表彰)

第56条 学長は、人物及び学業が優秀な者、顕著な善行のあった者及び課外活動の成果が顕著な者に対し、表彰することができる。

2 表彰の種類は、次のとおりとする。

- (1) 特待生 一定期間の学費の免除又は減額
- (2) 優等生 賞状及び賞品の授与
- (3) その他の表彰

(懲戒)

第57条 学長は、本学の学則その他の規程に反し、又は学生の本分に反する行為があった学生に対し、教授会の意見を聴いて、行為の軽重と教育上の必要とを考慮して、譴責、停学又は退学の処分をすることができる。

2 退学処分は、次の各号のいずれかに該当する者以外には、これを行うことはできない。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由なくして出席常でない者
- (4) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者

(奨学)

第57条の2 本学に、奨学制度を置く。

2 奨学制度に関する規程は、別に定める。

第9章 委託学生、科目等履修生及び特別聴講生

(委託学生)

第58条 国、法人その他の団体から本学での学修を委託されたときは、その者（以下「委託学生」という。）の履修を許可することができる。

2 委託学生として学修することができる者は、大学入学資格を有する者でなければならない。

3 委託学生に関する規程は、別に定める。

(科目等履修生)

第59条 特定の授業科目を履修しようとする者が願い出たときは、科目等履修生として当該授業科目の履修を許可することができる。

2 科目等履修生に関する規程は、別に定める。

(特別聴講生)

第60条 他の大学（外国の大学を含む。）及び短期大学（以下「大学等」という。）の学生が、本学における授業科目の履修を願い出たときは、当該大学等との協議に基づき、特別聴講生として許可することができる。

2 特別聴講生に関する規程は、別に定める。

(委託学生及び科目等履修生に対するこの学則の準用)

第61条 この学則は、別段の定めがある場合を除き、委託学生及び科目等履修生に準用する。この場合において、学則中「学生」とあるのは、それぞれ必要に応じ、「委託学生」又は「科目等履修生」と読み替える。

第10章 外国人留学生

(外国人留学生)

第62条 外国人留学生に関する規程は、別に定める。

(外国人留学生に対するこの学則の準用)

第62条の2 この学則は、別段の定めがある場合を除き、外国人留学生に準用する。この場合において、学則中「学生」とあるのは、必要に応じ、「外国人留学生」と読み替える。

第11章 学費等

第1節 検定料及び選考料

(入学検定料等)

第63条 入学を願い出る者は、別表第1に掲げる検定料を納入しなければならない。

2 転部・転科を願い出る者は、別表第2に掲げる検定料を納入しなければならない。

(選考料)

第64条 科目等履修生となることを志願する者は、別表第4に掲げる選考料を納入しなければならない。

第2節 学費、科目等履修料等

(授業料、入学金その他の学費)

第65条 学生の学費は、入学金、授業料、一般施設設備資金、実験実習費及び教育充実費とし、その額は別表第3のとおりとする。

(学費の減免)

第66条 学長は、学業及び人物が優秀な学生に対しては、教授会の意見を聴いて、学費の一部又は全部を免除することができる。

(退学の場合の学費)

第67条 退学し、又は退学を命ぜられた学生に対しては、その学期間の授業料、一般施設設備資金、実験実習費及び教育充実費を徴収する。停学を命ぜられた場合も、同様とする。

(休学の場合の学費)

第68条 休学する学生に対しては、その休学期間中の一般施設設備資金の半額を徴収し、授業料、実験実習費及び教育充実費は徴収しない。

(委託学生及び科目等履修生の学費)

第69条 委託学生の授業料その他の学費並びに科目等履修生の授業料その他の学費及び登録料は、別表第4のとおりとする。

第3節 手数料

(手数料)

第70条 手数料の種類及び額は、別に定める。

第4節 学費の返還制限

(学費の返還制限)

第71条 納入した学費は、原則として返還しない。

第12章 正規外の講座

(公開講座)

第72条 本学は、学術文化の普及を図るため、学外者を対象とする公開講座を開講することができる。

(課外講座)

第73条 本学は、必要に応じ、特殊な知識及び技能を修得させるため、正規の講座の他に課外講座を開講することができる。

(正規外講座に関する規程)

第74条 前2条で定める講座に関する規程は、別に定める。

第13章 厚生寮、学生寮及び厚生保健施設

(厚生寮)

第75条 本学に、セミナーハウス等の厚生寮を設置する。

(学生寮)

第76条 本学に、合宿所等の学生寮を設置する。

2 学生寮は、集団生活による社会的及び規律的生活の訓練をすることを目的とする。

(医務室等)

第77条 本学に医務室等を設け、教職員及び本学学生の保健衛生に関する処置を講ずる。

(体育館及び運動場)

第78条 本学に体育館及び運動場を設け、体育の向上に資する。

(学生スポーツ協議会)

第79条 本学に、学生スポーツ奨励の推進機関として学生スポーツ協議会を置く。

第14章 補則

第80条 削除

第81条 削除

(改正)

第82条 この学則の改正は、学長が各学部教授会の意見を聴いて理事会に提案し、理事会の議を経て理事長が行う。

附 則

1 この学則は、昭和61年4月1日から施行する。

2 経過措置

(1) 第48条の規定にかかわらず、昭和61年度から昭和74年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

入学定員

学部	学科	第 1 部	第 2 部
文学部	哲学科	50 (人)	
	印度哲学科	50	40
	中国哲学文学科	40	
	国文学科	140	100
	英米文学科	120	
	史学科	60	
	教育学科	60	50
	計	520	190
経済学部	経済学科	500	200
経営学部	経営学科	250	200
	商学科	250	
	計	500	200
法学部	法律学科	250	200
	経営法学科	250	
	計	500	200
社会学部	社会学科	150	130
	応用社会学科	250	
	計	400	130

(2) 文学部第1部、経済学部第1部、経営学部第1部、法学部第1部、社会学部第1部の総学生定員については、第48条の規定にかかわらず、昭和61年度から昭和63年度までは次のとおりとする。

		総学生定員		
学部	学科	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度
文学部	哲学科	170	180	190
第 1 部	印度哲学科	155	170	185
	中国哲学文学科	130	140	150
	国文学科	470	500	530
	英米文学科	420	440	460
	史学科	180	200	220
	教育学科	195	210	225
	計	1,720	1,840	1,960
経済学部	経済学科	1,360	1,520	1,680
第 1 部		(1,400)	(1,600)	(1,800)
経営学部	経営学科	680	760	840
第 1 部		(700)	(800)	(900)
	商学科	680	760	840
		(700)	(800)	(900)
	計	1,360	1,520	1,680
		(1,400)	(1,600)	(1,800)
法学部	法律学科	850	900	950
第 1 部	経営法学科	850	900	950
	計	1,700	1,800	1,900
社会学部	社会学科	450	500	550
第 1 部	応用社会学科	850	900	950
	計	1,300	1,400	1,500

(注) () 内は、期間を付した入学定員を含んだ総学生定員である。

(3) 昭和60年度以前の入学生の授業料その他の学費は、第50条別表(5)の規定にかかわらず、な

お従前の例による。

附 則（昭和62年4月1日）

1 この学則は、昭和62年4月1日から実施する。

2 経過措置

工学部の総学生定員については、第48条の規定にかかわらず、昭和62年度から昭和64年度までは次のとおりとする。

学部	学科	総学生定員		
		昭和62年度	昭和63年度	昭和64年度
工学部	機械工学科	510	540	570
	電気工学科	430	460	490
	応用化学科	430	460	490
	土木工学科	420	440	460
	建築学科	430	460	490
	情報工学科	360	400	440
	計	2,580	2,760	2,940

附 則（昭和63年4月1日）

この学則は、昭和63年4月1日から実施する。

附 則（昭和63年9月26日）

1 この学則は、昭和63年9月26日から実施する。

2 経過措置

昭和63年度以前の入学生の授業料その他の学費は、第50条別表(5)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（昭和63年11月4日）

この学則は、昭和63年11月4日から実施する。

附 則（平成元年4月1日）

この学則は、平成元年4月1日から実施する。

附 則（平成元年6月22日）

この学則は、平成元年6月22日から実施する。

附 則（平成2年4月1日）

1 この学則は、平成2年4月1日から施行し、平成2年度入学生から適用する。

2 平成元年度以前の入学生については、第50条別表(5)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

ただし、一般施設設備資金については、各年度の当該額に消費税法第29条に定める税率100分の3を乗じた額を加算する。

附 則（平成2年4月1日）

この学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則（平成3年4月1日）

1 この学則は、平成3年4月1日から施行する。

2 東洋大学の工学部電気工学科は、改正後の学則第3条の規定にかかわらず平成3年3月31日の当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3 第48条の規定にかかわらず、平成3年度から平成11年度までの入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	
		第1部	第2部
文学部	哲学科	60	
	印度哲学科	60	40
	中国哲学文学科	50	
	国文学科	160	100
	英米文学科	130	
	史学科	70	

	教育学科	70	50
	計	600	190
経済学部	経済学科	500	200
経営学部	経営学科	280	200
	商学科	280	
	計	560	200
法学部	法律学科	250	200
	経営法学科	250	
	計	500	200
社会学部	社会学科	190	130
	応用社会学科	310	
	計	500	130
工学部	機械工学科	170	
	電気電子工学科	150	
	応用化学科	150	
	土木工学科	130	
	建築学科	150	
	情報工学科	130	
	計	880	
	合計	3,540	920

4 高等学校の教員免許状を授与されるに必要な資格を取得しようとする者のうち「地理歴史」及び「公民」については、平成2年度入学生から適用する。

5 第6条別表(1)・(2)に定める文学部第1部印度哲学科及び教育学科の基礎教育科目、専門教育科目並びに第12条別表(4)に定める文学部第1部の印度哲学科、史学科及び教育学科の卒業に必要な履修単位については、平成2年度入学生から適用し、平成元年度以前の入学生については、なお従前の例による。

6 第12条別表(4)に定める文学部第2部の印度哲学科、国文学科及び教育学科並びに経済学部第2部経済学科の卒業に必要な履修単位については、昭和63年度入学生から適用し、昭和62年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成3年7月1日）

- この学則は、平成3年7月1日から施行する。
- 前項の規定にかかわらず、第50条別表(5)については平成3年10月1日から施行し、平成4年度入学生から適用する。
- 平成3年度以前の入学生については、第50条別表(5)の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、一般施設設備資金については、各年度の当該額に103分の100を乗じた額とする。

附 則（平成4年4月1日）

- この学則は、平成4年4月1日から施行する。
- 第48条の規定にかかわらず、平成4年度から平成11年度までの入学定員は、次のとおりとする。

		入学定員	
学部	学科	第1部	第2部
文学部	哲学科	60	
	印度哲学科	60	40
	中国哲学文学科	50	
	国文学科	170	100
	英米文学科	140	
	史学科	70	
	教育学科	70	50
	計	620	190

経済学部	経済学科	550	200
経営学部	経営学科	280	200
	商学科	280	
	計	560	200
法学部	法律学科	300	200
	経営法学科	300	
	計	600	200
社会学部	社会学科	190	130
	応用社会学科	200	
	社会福祉学科	110	
	計	500	130
工学部	機械工学科	170	
	電気電子工学科	150	
	応用化学科	150	
	土木工学科	130	
	建築学科	150	
	情報工学科	130	
	計	880	
	合計	3,710	920

附 則（平成5年4月1日）

この学則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則（平成5年10月1日）

この学則は、平成5年10月1日から施行する。

附 則（平成5年11月1日）

この学則は、平成5年11月1日から施行する。

附 則（平成6年4月1日）

この学則は、平成6年4月1日から施行し、平成6年度入学生から適用する。

附 則（平成6年9月5日）

- 1 この学則は、平成6年9月5日から施行する。
- 2 平成6年度以前の入学生の授業料、入学金その他の学費については、第50条別表(5)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成7年4月1日）

- 1 この学則は、平成7年4月1日から施行する。
- 2 工学部土木工学科は、改正後の学則第3条の規定にかかわらず平成7年3月31日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 第48条の規定にかかわらず、工学部環境建設学科における平成7年度から平成11年度までの入学定員は、130名とする。

附 則（平成8年4月1日）

- 1 この学則は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 第39条、第45条及び第52条については、平成8年度入学生から適用し、平成7年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成9年4月1日）

この学則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成10年4月1日）

- 1 この学則は、平成10年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、第52条別表(1)については、平成10年度入学生から適用する。

附 則（平成10年6月1日）

この学則は、平成10年6月1日から施行する。

附 則（平成10年9月1日）

- 1 この学則は、平成10年9月1日から施行する。
- 2 平成10年度以前の入学生の授業料その他の学費については、次項に定める場合を除き、第65条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 平成10年度以前の入学生が、平成15年度以降において修業年限を超えて在学する場合の授業料その他の学費については、第65条の規定にかかわらず、当該年度の4年次生の例による。
- 4 平成10年度科目等履修生の選考料及び登録料については、第64条及び第69条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成11年4月1日）

この学則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則（平成12年4月1日）

- 1 この学則は、平成12年4月1日から施行する。
- 2 文学部第1部国文学科及び社会学部第1部応用社会学科は、改正後の第4条の規定にかかわらず平成12年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 第5条の規定にかかわらず、平成12年度から平成15年度までの入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度	
		入学定員		入学定員		入学定員		入学定員	
		第1部	第2部	第1部	第2部	第1部	第2部	第1部	第2部
文学部	哲学科	54		53		52		51	
	印度哲学科	54	40	53	40	52	40	51	40
	中国哲学文学科	44		43		42		41	
	国文学科		100		100		100		100
	日本文学文化学科	242		229		216		203	
	英米文学科	128		126		124		122	
	英語コミュニケーション学科	140		130		120		110	
	史学科	114		113		112		111	
	教育学科	64	50	63	50	62	50	61	50
	（計）	840	190	810	190	780	190	750	190
経済学部	経済学科	261	200	252	200	243	200	234	200
	国際経済学科	165		165		165		165	
	社会経済システム学科	165		165		165		165	
	（計）	591	200	582	200	573	200	564	200
経営学部	経営学科	275	200	270	200	265	200	260	200
	商学科	275		270		265		260	
	（計）	550	200	540	200	530	200	520	200
法学部	法律学科	295	200	290	200	285	200	280	200
	経営法学科	295		290		285		280	
	（計）	590	200	580	200	570	200	560	200
社会学部	社会学科	126	130	122	130	118	130	114	130
	社会文化システム学科	110		110		110		110	
	メディアコミュニケーション学科	122		119		116		113	

	社会心理学科	118		116		114		112	
	社会福祉学科	114		113		112		111	
	(計)	590	130	580	130	570	130	560	130
工学部	機械工学科	168		166		164		162	
	電気電子工学科	148		146		144		142	
	応用化学科	148		146		144		142	
	環境建設学科	129		128		127		126	
	建築学科	148		146		144		142	
	情報工学科	129		128		127		126	
	(計)	870		860		850		840	
国際地域学部	国際地域学科	150		150		150		150	
		2 年次 25		2 年次 25		2 年次 25		2 年次 25	
		3 年次 25		3 年次 25		3 年次 25		3 年次 25	
生命科学部	生命科学科	100		100		100		100	
〔合計〕		4,281	920	4,202	920	4,123	920	4,044	920
		2 年次 25		2 年次 25		2 年次 25		2 年次 25	
		3 年次 25		3 年次 25		3 年次 25		3 年次 25	

附 則（平成12年 4 月 1 日）

- この学則は、平成12年 4 月 1 日から施行する。
- 第39条、第45条及び第52条については、平成12年度入学生から適用し、平成11年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成12年 4 月 1 日）

- この学則は、平成12年 4 月 1 日から施行する。
- 第43条第 2 項、第43条の 2 第 2 項、第43条の 3 第 3 項及び第53条第 2 項については、平成12年度入学生から適用し、それ以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成12年 7 月 1 日）

- この学則は、平成12年 7 月 1 日から施行し、平成13年度入学志願者から適用する。
- 平成13年 4 月 1 日以前の入学者の検定料については、なお従前の例による。

附 則（平成13年 4 月 1 日）

- この学則は、平成13年 4 月 1 日から施行する。
- 第 5 条の規定にかかわらず、平成13年度から平成15年度までの入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成13年度		平成14年度		平成15年度	
		入学定員		入学定員		入学定員	
		第 1 部	第 2 部	第 1 部	第 2 部	第 1 部	第 2 部
文学部	哲学科	53		52		51	
	印度哲学科	53	40	52	40	51	40
	中国哲学文学科	43		42		41	
	国文学科		100		100		100
	日本文学文化学科	229		216		203	
	英米文学科	126		124		122	
	英語コミュニ	130		120		110	

	ケーション学科						
	史学科	113		112		111	
	教育学科	63	50	62	50	61	50
	(計)	810	190	780	190	750	190
経済学部	経済学科	252	200	243	200	234	200
	国際経済学科	165		165		165	
	社会経済システム学科	165		165		165	
	(計)	582	200	573	200	564	200
経営学部	経営学科	270	200	265	200	260	200
	商学科	270		265		260	
	(計)	540	200	530	200	520	200
法学部	法律学科	265	200	260	200	255	200
	経営法学科	265		260		255	
	(計)	530	200	520	200	510	200
社会学部	社会学科	122	130	118	130	114	130
	社会文化システム学科	110		110		110	
	メディアコミュニケーション学科	119		116		113	
	社会心理学科	116		114		112	
	社会福祉学科	113		112		111	
	(計)	580	130	570	130	560	130
工学部	機械工学科	166		164		162	
	電気電子工学科	146		144		142	
	応用化学科	146		144		142	
	環境建設学科	128		127		126	
	建築学科	146		144		142	
	情報工学科	128		127		126	
	(計)	860		850		840	
国際地域学部	国際地域学科	150		150		150	
		2 年次25		2 年次25		2 年次25	
		3 年次25		3 年次25		3 年次25	
	国際観光学科	230		220		210	
	(計)	380		370		360	
		2 年次25		2 年次25		2 年次25	
		3 年次25		3 年次25		3 年次25	
生命科学部	生命科学科	100		100		100	
〔合計〕		4, 382	920	4, 293	920	4, 204	920
		2 年次25		2 年次25		2 年次25	
		3 年次25		3 年次25		3 年次25	

附 則（平成13年 4 月 1 日）

- 1 この学則は、平成13年4月1日から施行する。
- 2 文学部第2部国文学科、経営学部第1部商学科及び法学部第1部経営法学科は、改正後の第4条の規定にかかわらず、平成13年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 第5条の規定にかかわらず、経営学部第1部マーケティング学科及び法学部第1部企業法学科の平成13年度から平成15年度までの入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成13年度	平成14年度	平成15年度
		入学定員	入学定員	入学定員
		第1部	第1部	第1部
経営学部	マーケティング学科	270	265	260
法学部	企業法学科	265	260	255

附 則（平成13年4月1日）

- 1 この学則は、平成13年4月1日から施行する。
- 2 第5条の規定にかかわらず、平成13年度から平成15年度までの入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成13年度		平成14年度		平成15年度	
		入学定員		入学定員		入学定員	
		第1部	第2部	第1部	第2部	第1部	第2部
文学部	哲学科	53		52		51	
	印度哲学科	53	40	52	40	51	40
	中国哲学文学科	43		42		41	
	日本文学文化学科	229	100	216	100	203	100
	英米文学科	126		124		122	
	英語コミュニケーション学科	130		120		110	
	史学科	113		112		111	
	教育学科	63	50	62	50	61	50
	（計）	810	190	780	190	750	190
経済学部	経済学科	252	200	243	200	234	200
	国際経済学科	165		165		165	
	社会経済システム学科	165		165		165	
	（計）	582	200	573	200	564	200
経営学部	経営学科	270	200	265	200	260	200
	マーケティング学科	270		265		260	
	（計）	540	200	530	200	520	200
法学部	法律学科	265	200	260	200	255	200
	企業法学科	265		260		255	
	（計）	530	200	520	200	510	200
社会学部	社会学科	122	130	118	130	114	130
	社会文化システム学科	110		110		110	
	メディアコミュニケーション	119		116		113	

	ン学科						
	社会心理学科	116		114		112	
	社会福祉学科	113	75	112	75	111	75
			3 年次10		3 年次10		3 年次10
	(計)	580	205	570	205	560	205
			3 年次10		3 年次10		3 年次10
工学部	機械工学科	166		164		162	
	電気電子工学科	146		144		142	
	応用化学科	146		144		142	
	環境建設学科	128		127		126	
	建築学科	146		144		142	
	情報工学科	128		127		126	
	コンピュータ ショナル情報 工学科	100		100		100	
	(計)	960		950		940	
国際地域学 部	国際地域学科	150		150		150	
		2 年次25		2 年次25		2 年次25	
		3 年次25		3 年次25		3 年次25	
	国際観光学科	230		220		210	
	(計)	380		370		360	
		2 年次25		2 年次25		2 年次25	
		3 年次25		3 年次25		3 年次25	
生命科学部	生命科学科	100		100		100	
	〔合計〕	4, 482	995	4, 393	995	4, 304	995
		2 年次25		2 年次25		2 年次25	
		3 年次25	3 年次10	3 年次25	3 年次10	3 年次25	3 年次10

附 則（平成13年 4 月 1 日）

- この学則は、平成13年 4 月 1 日から施行する。
- 前項の規定にかかわらず、第25条第 3 号、第 4 号、第 5 号、第 6 号、第30条第 1 項第 4 号、第43条の 2 第 1 項及び第53条第 2 項については、平成13年 1 月 6 日から施行する。
- 第39条、第45条第 1 項別表(3)の 1、別表(3)の 2、第 3 項別表(3)の 4③、第 4 項別表(3)の 5 及び第52条については、平成13年度入学生から適用し、平成12年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成14年 4 月 1 日）

- この学則は、平成14年 4 月 1 日から施行する。
- 第39条第 1 項別表(2)、第45条第 1 項別表(3)の 1、別表(3)の 2、第50条については、平成14年度入学生から適用し、それ以前については、なお従前の例による。
- 前項の規定にかかわらず、第39条第 1 項別表(2)の社会学部第 1 部社会福祉学科の教育課程表については、平成13年度入学生から適用する。

附 則（平成14年 7 月15日）

この学則は、平成14年 7 月15日から施行する。

附 則（平成15年 4 月 1 日）

- この学則は、平成15年 4 月 1 日から施行する。
- 第39条第 1 項別表(2)および第52条別表(1)については、平成15年度入学生から適用し、平成14

年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成15年4月1日）

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則（平成16年4月1日）

- 1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 東洋大学文学部第1部印度哲学科及び第2部印度哲学科は、改正後の学則の規定にかかわらず、平成16年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則（平成16年4月1日）

- 1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。ただし、第25条の規定は、平成15年12月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、第39条別表(2)、第45条別表(3)の2、(3)の3、(3)の4、(3)の5、第52条別表(1)については、平成16年度入学生から適用し、平成15年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成17年4月1日）

- 1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 工学部電気電子工学科及びコンピュテーショナル情報工学科は、改正後の第4条の規定にかかわらず、平成17年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 改正後の第5条の規定にかかわらず、国際地域学部国際地域学科の平成17年度から平成19年度までの入学定員及び編入学定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成17年度	平成18年度	平成19年度
		入学定員	入学定員	入学定員
国際地域学部	国際地域学科	180	180	180
		2年次 25	2年次 0	2年次 0
		3年次 25	3年次 25	3年次 0

- 4 第39条第1項別表(2)、第45条第1項別表(3)の1、第4項別表(3)の5及び第52条別表(1)については、平成17年度入学生から適用し、平成16年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成17年4月1日）

- 1 この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 第39条第1項別表(2)については、平成17年度入学生から適用し、平成16年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成18年4月1日）

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成18年4月1日）

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 第39条第1項別表(2)及び第45条第1項別表(3)の1、別表(3)の2については、平成18年度入学生から適用し、平成17年度以前の入学生については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、ライフデザイン学部健康スポーツ学科の平成17年度入学生が、中学校教諭1種免許状（保健体育）及び高等学校教諭1種免許状（保健体育）を取得するために、第39条第1項別表(2)及び第45条第1項別表(3)の2の科目を履修する場合においては、この限りではない。

附 則（平成18年4月1日）

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 平成17年度以前の入学生の学費については、第65条別表(4)の3の規定にかかわらず、なお従前の例によるものとし、当該者が平成21年度以降において修業年限を超えて在学する場合の学費については、当該年度に在学する4年次生の学費を適用する。

附 則（平成18年4月1日）

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、平成17年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成18年4月1日）

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成18年4月1日）

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成19年4月1日）

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成19年4月1日）

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 第39条第1項別表(2)及び第45条別表(3)の1については、平成19年度入学生から適用し、平成18年度以前の入学生については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、第39条第1項別表(2)のライフデザイン学部人間環境デザイン学科の教育課程表は、平成18年度入学生から適用する。

附 則（平成20年4月1日）

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 第5条、第39条第1項別表(2)、第45条別表(3)の1・2、第52条別表(1)、第55条及び第65条別表(4)の3については、平成20年度入学生から適用し、平成19年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成20年4月1日）

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 経済学部第1部社会経済システム学科は、改正後の第4条の規定にかかわらず、平成20年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則（平成20年4月1日）

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 第39条第1項別表(2)、第45条第1項別表(3)の1、別表(3)の2及び第52条別表(1)については、平成20年度入学生から適用し、平成19年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成20年4月1日）

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 第39条第1項別表(2)、第45条第1項別表(3)の2、第3項別表(3)の4及び第52条別表(1)については、平成20年度入学生から適用し、平成19年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成20年7月22日）

この学則は、平成20年7月22日から施行する。

附 則（平成21年4月1日）

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 平成20年度以前の入学生の授業料その他の学費については、第65条別表(4)の3の規定にかかわらず、なお従前の例によるものとし、当該者が平成24年度以降において修業年限を超えて在学する場合の学費については、当該年度に在学する4年次生の学費を適用する。

附 則（平成21年4月1日）

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 工学部機械工学科、電子情報工学科、応用化学科、環境建設学科、建築学科、情報工学科、コンピュータシミュレーション工学科及び機能ロボティクス学科は、改正後の第4条の規定にかかわらず、平成21年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 第39条第1項別表(2)、第45条第1項別表(3)の1、第3項別表(3)の4、第4項別表(3)の5、第5項別表(3)の6、第6項別表(3)の7、第52条別表(1)、第55条及び第65条別表(4)の3については、平成21年度入学生から適用し、平成20年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成21年4月1日）

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 第45条第8項別表(3)の9については、平成21年度入学生から適用し、平成20年度以前の入学生

については、なお従前の例による。

附 則（平成21年4月1日）

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 第39条第1項別表(2)および第45条第4項別表(3)の5については、平成21年度入学生から適用し、平成20年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成21年4月1日）

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、第39条第1項別表(2)、第45条第7項別表(3)の8及び第52条別表(1)については、平成21年度入学生から適用し、平成20年度以前の入学生については、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、第39条第1項別表(2)の文学部第2部教育学科教育課程表については、平成20年度入学生から適用する。

附 則（平成22年4月1日）

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、第5条、第39条第1項別表(2)、第45条第1項別表(3)の1、第52条別表(1)及び第65条別表(4)の3については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成22年4月1日）

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 第39条第1項別表(2)および第45条第1項別表(3)の1については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成22年4月1日）

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 第45条第1項別表(3)の2については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成22年4月1日）

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 第39条第1項別表(2)については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成22年4月1日）

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成22年4月1日）

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 第39条第1項別表(2)および第45条第1項別表(3)の2については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成22年4月1日）

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 第39条第1項別表(2)については、平成21年度入学生から適用する。

附 則（平成23年4月1日）

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 第39条第1項別表(2)については、平成23年度入学生から適用し、平成22年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成23年4月1日）

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 第39条第1項別表(2)については、平成23年度入学生から適用し、平成22年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成23年4月1日）

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成23年4月1日）

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成23年 4 月 1 日）

- 1 この学則は、平成23年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第45条第 1 項別表(3)の 2 および第45条第 5 項別表(3)の 6 については、平成23年度入学生から適用し、平成22年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成24年 4 月 1 日）

- 1 この学則は、平成24年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第39条第 1 項別表(2)のうち、生命科学部各学科の教育課程表については、平成21年度以降の入学生に適用し、平成20年度以前の入学生については、なお従前の例による。文学部第 1 部、経済学部第 1 部、経営学部第 1 部、法学部第 1 部、社会学部第 1 部、国際地域学部国際地域学科国際地域専攻、国際地域学部国際観光学科、文学部第 2 部、経済学部第 2 部、経営学部第 2 部、法学部第 2 部、社会学部第 2 部は、平成24年度入学生から適用し、平成23年度以前の入学生については、なお従前の例による。
- 3 第45条第 2 項別表(3)の 3、同第 3 項別表(3)の 4、同第 4 項別表(3)の 5 および第52条別表(1)については、平成24年度入学生から適用し、平成23年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成24年 4 月 1 日）

- 1 この学則は、平成24年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第39条第 1 項別表(2)、第45条同第 4 項別表(3)の 5 および同第 6 項別表(3)の 7 については、平成24年度入学生から適用し、平成23年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成25年 4 月 1 日）

- 1 この学則は、平成25年 4 月 1 日から施行する。
- 2 文学部第 1 部インド哲学科、中国哲学文学科、文学部第 2 部インド哲学科及び生命科学部食環境科学科は、改正後の第 4 条の規定にかかわらず、平成25年 3 月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 第 4 条、第 5 条、第45条、第39条第 1 項別表(2)、第45条第 1 項別表(3)の 1、同項別表(3)の 2、同第 8 項別表(3)の 9、同第 9 項別表(3)の10、同第10項別表(3)の11、第52条別表(1)については、平成25年度入学生から適用し、平成24年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成25年 4 月 1 日）

- 1 この学則は、平成25年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第39条第 1 項別表(2)、第45条第 1 項別表(3)の 2、同第 3 項別表(3)の 4、同第 7 項別表(3)の 8、第52条別表(1)については、平成25年度入学生から適用し、平成24年度以前の入学生については、なお従前の例による。第82条については、平成24年度入学生から適用し、平成23年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成26年 4 月 1 日）

- 1 この学則は、平成26年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第39条第 1 項別表(2)、第52条別表(1)については、平成26年度入学生から適用し、平成25年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（平成26年 7 月 1 日）

この学則は、平成26年 7 月 1 日から施行する。

附 則（平成27年 4 月 1 日）

- 1 この学則は、平成27年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 5 条に定める入学定員については、平成27年度入学生から適用する。

附 則（平成27年 4 月 1 日）

この学則は、平成27年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成27年 4 月 1 日）

この学則は、平成27年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成28年 4 月 1 日）

- 1 この学則は、平成28年 4 月 1 日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、平成27年度以前の入学生については、改正前の学則第39条、第45条各項、第52条及び第82条の規定を適用し、改正後の学則第42条第 3 項は適用しない。

附 則（平成28年 7 月 1 日）

- 1 この学則は、平成28年 7 月 1 日から施行する。
- 2 平成28年度以前の入学生の学費については、第65条別表第 3 の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、当該者が平成32年度以降において修業年限を超えて在学する場合の学費については、当該年度に在学する 4 年次生の学費を適用する。
- 3 第68条に定める休学の場合の学費については、平成29年度の在校生から適用する。

附 則（平成29年 4 月 1 日）

- 1 この学則は、平成29年 4 月 1 日から施行する。
- 2 文学部第 1 部英語コミュニケーション学科、国際地域学部国際地域学科及び国際地域学部国際観光学科は、改正後の第 4 条の規定にかかわらず、平成29年 3 月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 第 5 条に定める入学定員については、平成29年度入学生から適用する。

附 則（平成29年 4 月 1 日）

この学則は、平成29年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成30年 4 月 1 日学則第123号）

この学則は、平成30年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成30年 4 月 1 日学則第128号）

この学則は、平成31年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和 2 年 6 月 1 日学則第72号）

この学則は、2020年 6 月 1 日から施行する。

附 則（令和 3 年 4 月 1 日学則第23号）

- 1 この学則は、2021年 4 月 1 日から施行し、2021年度入学生から適用する。
- 2 社会学部第 1 部社会文化システム学科及び社会学部第 2 部社会福祉学科は、改正後の第 4 条の規定にかかわらず、2021年 3 月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 改正後の第 4 条、第 5 条及び第65条別表第 3 について、2020年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附 則（令和 4 年 4 月 1 日学則第31号）

- 1 この学則は、2022年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 5 条に規定する入学定員については、2022年度入学生から適用する。

附 則（令和 5 年 4 月 1 日学則第 X 号）

- 1 この学則は、2023年 4 月 1 日から施行し、2023年度入学生から適用する。
- 2 社会学部第 1 部社会福祉学科、ライフデザイン学部生活支援学科、健康スポーツ学科、人間環境デザイン学科、食環境科学部食環境科学科スポーツ・食品機能専攻は、改正後の第 4 条の規定にかかわらず、2023年 3 月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 改正後の第 4 条、第 5 条、第55条及び第65条別表第 3 について、2022年度以前の入学生については、なお従前の例による。

別表第 1（第63条第 1 項関係）

入学検定料（留学生を除く。）		35,000円
入学検定料 （同一日程複数出願可能入試）	1 出願 2 出願以上	35,000円 上記の金額に 1 出願毎 20,000円を加算
入学検定料（留学生）		10,000円
入学検定料（大学入学共通テスト利用）	2 出願まで 3 出願以上	20,000円 上記の金額に 1 出願毎 10,000円を加算
入学検定料（2 段階選考）	第 1 次選考 第 2 次選考	10,000円 25,000円

入学検定料（外部試験利用入試）		20,000円

別表第2（第63条第2項関係）

転部・転科検定料	10,000円

別表第3（第65条関係）

（単位 円）

学部	学科・専攻	入学金	授業料	一般施設設備 資金	実験実習費	教育充実費
文学部	第1部哲学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第1部東洋思想文化学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第1部日本文学文化学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第1部英米文学学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第1部史学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第1部教育学科人間発達専攻	250,000	710,000	220,000	—	—
	第1部教育学科初等教育専攻	250,000	820,000	250,000	—	—
	第1部国際文化コミュニケーション学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第2部東洋思想文化学科	180,000	430,000	100,000	—	—
	第2部日本文学文化学科	180,000	430,000	100,000	—	—
	第2部教育学科	180,000	430,000	100,000	—	—
経済学部	第1部経済学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第1部国際経済学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第1部総合政策学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第2部経済学科	180,000	430,000	100,000	—	—
経営学部	第1部経営学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第1部マーケティング学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第1部会計ファイナンス学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第2部経営学科	180,000	430,000	100,000	—	—
法学部	第1部法律学	250,000	710,000	220,000	—	—

	科					
	第1部企業法 学科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第2部法律学 科	180,000	430,000	100,000	—	—
社会学部	第1部社会学 科	250,000	710,000	220,000	—	—
	第1部国際社 会学科	250,000	710,000	220,000	—	15,000
	第1部メディ アコミュニケ ーション学科	250,000	710,000	220,000	—	10,000
	第1部社会心 理学科	250,000	710,000	220,000	—	15,000
	第2部社会学 科	180,000	430,000	100,000	—	—
理工学部	機械工学科	250,000	990,000	260,000	85,000	—
	生体医工学科	250,000	990,000	260,000	85,000	—
	電気電子情報 工学科	250,000	990,000	260,000	85,000	—
	応用化学科	250,000	990,000	260,000	85,000	—
	都市環境デザ イン学科	250,000	990,000	260,000	85,000	—
	建築学科	250,000	990,000	260,000	85,000	—
国際学部	グローバル・ イノベーション 学科	250,000	780,000	220,000	—	—
	国際地域学科 国際地域専攻	250,000	780,000	220,000	—	—
	国際地域学科 地域総合専攻	180,000	430,000	100,000	—	—
国際観光学部	国際観光学科	250,000	780,000	220,000	—	—
生命科学部	生命科学科	250,000	990,000	260,000	80,000	—
	応用生物科学 科	250,000	990,000	260,000	80,000	—
総合情報学部	総合情報学科	250,000	930,000	260,000	40,000	—
食環境科学部	食環境科学科	250,000	990,000	260,000	80,000	—
	健康栄養学科	250,000	990,000	260,000	80,000	—
情報連携学部	情報連携学科	250,000	990,000	260,000	—	—
福祉社会デザ イン学部	社会福祉学科	250,000	830,000	240,000	40,000	—
	子ども支援学 科	250,000	830,000	240,000	40,000	—
	人間環境デザ イン学科	250,000	890,000	300,000	100,000	—
健康スポーツ 科学部	健康スポーツ 科学科	250,000	870,000	300,000	80,000	—
	栄養科学科	250,000	920,000	300,000	80,000	—

別表第4（第64条及び第69条関係）

（単位 円）

委託学生	授業料（科目等履修料） 週1時限開講の半期科目1科目 につき	20,000
	選考料	20,000
科目等履修生	登録料	10,000
	授業料（科目等履修料） 週1時限開講の半期科目1科目 につき	20,000

設置の趣旨等を記載した書類

目次

① 設置の趣旨及び必要性	・・・p. 2
② 学部・学科等の特色	・・・p. 5
③ 学部・学科等の名称及び学位の名称	・・・p. 6
④ 教育課程の編成の考え方及び特色	・・・p. 7
⑤ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	・・・p. 14
⑥ 実習の具体的計画	・・・p. 17
⑦ 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の 学外実習を実施する場合の具体的計画	・・・p. 23
⑧ 取得可能な資格	・・・p. 26
⑨ 入学者選抜の概要	・・・p. 27
⑩ 教員組織の編成の考え方及び特色	・・・p. 29
⑪ 施設、設備等の整備計画	・・・p. 32
⑫ 管理運営	・・・p. 37
⑬ 自己点検・評価	・・・p. 38
⑭ 情報の公表	・・・p. 39
⑮ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	・・・p. 41
⑯ 社会的、職業的自立に関する指導等及び体制	・・・p. 42

① 設置の趣旨及び必要性

ア 設置の趣旨及び必要性

我が国は、他国に類を見ない少子高齢・人口減少社会に突入し、地方創生、働き方改革、子育て支援、医療費の抑制、健康長寿社会の実現等、様々な社会課題を抱えている。こうした中、スポーツ庁は平成 29 年（2017 年）に第 2 期のスポーツ基本計画を策定し、関係者が一体となって「スポーツ立国」の実現を目指し、スポーツの力により社会課題を解決することの意義や方策を示している。そして、スポーツ参画人口の拡大を目指す中で、競技として行うスポーツだけでなく、健康や仲間との交流等多様な目的で行うスポーツの可能性を示唆し、「する」「みる」「ささえる」等多面的なスポーツ振興の方向性を示している。

本学は平成 17 年（2005 年）にライフデザイン学部健康スポーツ学科を設置し、子どもから高齢者、障がい者等様々な人々に対する身体活動やスポーツを通じた健康づくりの支援ができる人材養成を目指してきた。本学に健康スポーツの教育研究拠点ができから既に 17 年余が経過しているが、この間、我が国の社会課題が多様化、複雑化し、それらの解決に対するスポーツの意義や価値が一層重要視されてきている。こうした中、本健康スポーツ学科を発展させ、健康スポーツ科学部を新設し、国やスポーツ庁が掲げる新たなスポーツ振興に向けてスポーツ立国の実現を担える人材を積極的に養成することの意義は大きい。

加えて、人々の健康や幸福への貢献と高い QOL の獲得のためには、従前より食生活や栄養の重要性も示されてきた。人生 100 年時代とされる現代においては、社会的な「健康」の価値とそれに対する国民の期待がこれまで以上に高まっており、誰もがより長く健康な状態で活躍できる社会を実現することに主眼が置かれている。政府による戦略市場創造プラン（成長戦略 2013）や内閣府による経済財政運営と改革の骨太方針 2019 では「健康寿命の延伸」を重要課題の一つに位置付け、その重要なファクターとして長寿を支える『健康な食事』の必要性を強調している。

本学は平成 25 年（2013 年）に食環境科学部を設置し、生命科学の学問体系を基礎に運動生理学や食品機能等の専門知識とスキルを学ぶ食環境科学科スポーツ・食品機能専攻を置き、主にアスリートの食事・栄養の摂り方の指導のできる人材養成を目指してきた。このような目的をもつ専攻を健康スポーツ科学部に発展的に組み入れ、アスリート支援から、子ども、高齢者そして障がい者の健康や QOL 向上の支援を総合的に担える人材の育成により積極的に取り組む価値は大きい。

このたび本学が新設する健康スポーツ科学部は、健康スポーツ科学科と栄養科学科の 2 つの学科を構成する。この 2 学科が教育と研究に横断的・融合的に取り組む体制を「スポーツと栄養」「身体活動と食生活」という視点に基づく科学的アプローチにより展開し、健康づくりからトップアスリートの支援に至るまで幅広く人々の健康や well-being に寄与し、多くの社会課題の解決や我が国の健康立国に貢献する人材の輩出を目指していく。加えて、今後我が国と同様な社会課題を抱えることが予測されるアジア諸国に対し、健康スポーツの科学的情報を提供するハブ大学として中心的な役割を担うことを目指す。本学の更なるグローバル化はもとより、健康スポーツ科学を通じた我が国のグローバル化の進展に向けた貢献も目指していく。

健康スポーツ科学部の拠点となる東京都北区と本学は、東京都北区赤羽台に本学キャンパスの設置を計画した平成 22 年（2010 年）以降、連携協力関係を築いている。北区は、およそ 4 人に 1 人が 65 歳以上と東京都特別区の中でも高齢化が進んでおり、このような背景から生じる地域課題を解決しコミュニティを形成・維持することにより地域力を高めていくことが持続可能な地域社会を実現していくうえで重要となっている。とりわけ地域特性を踏まえたスポーツの振興や栄養指導等によるアプローチは、コミュニティの形成や健康長寿社会の実現において重要であり、本学部が果たす役割は大きい。北区と本学との官学連携にとどまら

ず、民間のステークホルダーを交えた総合型スポーツクラブや健康増進事業等産官学が連携した活動が期待できる。

これらの取り組みは単にスポーツの推進や健康づくりにとどまらず、北区のまちづくりに対しての貢献が期待され、国内外の同様な課題を抱える地域に対して有用な知見を提供することとなる。加えて北区にはトップスポーツやパラスポーツの中核となる国立スポーツ科学センターや東京都障害者総合スポーツセンター等があり、区自体が「トップアスリートのまち」を標榜している。今後はこれらのセンターと本学部が連携した国内のトップアスリートに対する科学的な支援を通して、北区が目指す「トップアスリートのまち」への更なる貢献が期待できる。併せて本学部の開設と同時に設置する 2700 人規模のアリーナを会場としたスポーツ競技大会の開催や総合型地域スポーツクラブの運営は、スポーツマネジメントやスポーツビジネスの実践的教材となることに加え、スポーツを通じた地域の活性化に寄与することが期待される。

本改組は、平成 29 年（2017 年）4 月の赤羽台キャンパスの開学及び情報連携学部の設置、令和 3 年（2021 年）4 月のライフデザイン学部の移転に続く赤羽台キャンパス構想の中の核を担う計画である。その中で、健康スポーツ科学部の設置を契機とした本学全体のアスリート支援力の向上も目指している。具体的には、UNIVAS 構想における TOYO スポーツセンター（仮称）・研究支援センターの機能を充実させるためにアスリートサポートセンターを設置し、センターの専任スタッフと健康スポーツ科学部及び大学院の教員や学生、運動部選手や監督・コーチ、医療機関等の外部組織との連携により課題を解決する態勢を構築していくというものである。それらによって得られた成果の発信、地域社会への還元といったサイクルを実現させ、新たな可能性の創造と課題解決を目指していく。（資料 1 学校法人東洋大学 中期計画 概要図・トピックス）

上記、設置趣旨のもとに健康スポーツ科学部を設置し、総合的かつ学際的な教育と研究の推進により、人類の発展と地球の平和に寄与し、国連の示す SGD's への貢献を目指していく。

イ 養成する人材像、教育の目的

健康スポーツ科学部は、少子高齢・人口減少社会を背景とした日本の抱える様々な課題やその先の新たな社会を見据え、あらゆる人々のスポーツ活動や健康づくりを健康スポーツ科学の観点から総合的に支援できる人材を育成する。そのため、最新の健康科学、スポーツ科学、栄養科学の専門的知識や技術、倫理観、グローバル感覚、問題発見解決力、実践力をもった専門人材を育成する。また、様々な専門領域と積極的に連携を図ることにより、健康やスポーツ、食や栄養の多様性と可能性を創造し、健康やスポーツ、栄養領域発展への貢献を目指す。

以上の目的を踏まえ、本学部では以下の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を掲げる。

健康スポーツ科学部の教育目標に基づき教育課程に定められた科目を修得し、学部規程に定める卒業要件を満たしたうえで以下の能力を備えた学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

- (1) 倫理観をもち他者と協調しながら主体的に課題解決をしようとする能力。
- (2) 多様性を理解し様々なコミュニケーションできる能力。
- (3) 課題発見と解決に至るまでのプロセスを提示し実践できる能力。
- (4) 専門的知識や技術を備え、実践と評価を繰り返しながら実社会で活躍できる能力。
- (5) 健康やスポーツの新たな可能性や発展性を創造し発信できる能力。

（１）健康スポーツ科学科の養成する人材像、教育の目的

スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」という観点からスポーツを通じて社会に貢献できる人材を育成する。また、少子高齢・人口減少社会に生きる現代人が抱える健康問題や社会課題に対し、健康スポーツ科学を通じた解決策を提供できる人材を育成する。そのため、健康とスポーツの機能的、社会・文化的側面における幅広い知識と技術、科学的思考力、エビデンスに基づく実践力、多様性を理解し様々なコミュニケーションできる能力、健康やスポーツの可能性を見出し新たな発信ができるイノベーション力、人々に関わる専門職としての倫理観や協調性、リーダーシップ力を修得させる。（資料 2-1 カリキュラムマップ）

以上の目的を踏まえ、本学科では以下の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を掲げる。

健康スポーツ科学科の教育目標に基づき教育課程に定められた科目を修得し、学部規程に定める卒業要件を満たしたうえで以下の能力を備えた学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

- (1) 健康やスポーツに関する科学的知識のうえに思考判断できる。
- (2) 健康づくりやスポーツにおけるパフォーマンス向上を支援する専門家として指導力、実践力を有し、他者と協働しながら主体的に社会課題を解決することができる。
- (3) 全てのライフステージや生活状況にある人々を理解して健康づくりやスポーツ活動を支援する意欲がある。
- (4) 多様性を尊重し、異文化・多文化を理解する姿勢やそのための基礎知識を身につけている。
- (5) グローバル化に対応した言語能力、コミュニケーション力、論理的思考力を持ち、加えて ICT スキル等の汎用的技能を身につけている。

卒業後に想定される進路は、民間スポーツクラブ（インストラクター、マネージャー）、公共体育施設指定管理団体、体育協会（都道府県・市区町村）、総合型地域スポーツクラブ等の NPO 団体、小・中・高等学校教諭（保健体育・養護）、特別支援学校教諭、公務員（国家・地方）、介護予防サービス企業・施設、子ども関連のスポーツ指導団体（サッカー、体操等）、健康増進施設、スポーツ関連メーカー、健康関連企業、リラクゼーション施設、トレーナー関連企業、プロスポーツチーム、スポーツ関連施設（競技場・アリーナ）、スポーツマネジメント企業、スポーツ関連雑誌社、スポーツ（健康）マーケティング企業、運動機器メーカー、スポーツ施設設備メーカー、健康保険組合、国民健康保険団体連合会、検診受託企業、スポーツアパレルメーカー、スポーツ（ヘルス）ツーリズム企業、海外のスポーツ関連団体、大学院進学等が挙げられる。

（２）栄養科学科の養成する人材像、教育の目的

食・栄養の観点からスポーツのパフォーマンス向上や健康づくり、QOL 向上に寄与できる人材を育成する。そのため、栄養学を基軸とした栄養科学とスポーツ科学の知識と技術、栄養管理の実践手法、健康・スポーツの付加価値を創造するための幅広い教養力や高度な専門力、課題の本質を的確に捉え解決に導くための多角的、俯瞰的、かつ科学的な思考力や分析力、知識や技術を最大限に活かし実装するためのイノベーション力や発信力、国内外のあらゆる現場で活躍するための語学力、コミュニケーション力及び人間理解力を修得させる。（資料 2-2 カリキュラムマップ）

以上の目的を踏まえ、本学科では以下の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を掲げる。

栄養科学科の教育目標に基づき教育課程に定められた科目を修得し、学部規程に定める卒業要件を満たしたうえで以下の能力を備えた学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

- (1) 栄養学に関する基礎知識のうえにスポーツ科学や健康科学等の専門知識や技術を修得し、実社会で実践する。
- (2) 「栄養」、「スポーツ」、「健康」を総合的に理解し、健康課題をはじめとした社会問題を解決する。
- (3) 生命に対する高い倫理観と俯瞰的な視野をもって広く社会に貢献する。
- (4) 社会情勢や多文化を理解し受容したうえで、他者と連携・協働しながら物事に真摯に取り組む。
- (5) 新たな価値創造を目指し、リーダーシップをもって力を発揮する。

卒業後に想定される進路は、大学院進学、国立研究開発法人における研修生、技術員等の研究職、食品衛生監視員等の公務員、給食会社、学校、保育園・幼稚園、病院、社会福祉施設、介護施設、自治体、スポーツ関連施設、飲食店等の栄養士職、食品製造業、卸売業、小売業、外食産業等の食品関連産業、宿泊施設等を絡めた地域の健康支援産業、ヘルスツーリズムの担い手及びコーディネーターを含む旅行代理店、厚生労働大臣認定の運動型・温泉利用型・温泉利用プログラム型健康増進施設、医療福祉・介護事業、公的保険外のヘルスケアサービス事業、機能性食品の開発、IT技術を活用した健康支援産業、統計解析技術を活用した健康関連情報提供サービス業（市場調査・世論調査・社会調査業情報処理）、臨床開発モニターやコーディネーター等の健康関連産業が挙げられる。

ウ 中心的な学問分野

健康スポーツ科学科については、ヒューマン・ボディ・サイエンス分野、コミュニティ健康スポーツ分野、学校保健・スポーツ教育分野、健康・スポーツ文化分野、アスレティック・コンディショニング分野、スポーツ情報分野、コーチング分野、スポーツビジネス分野の8つの学問分野が中心となる。

栄養科学科については、栄養疫学・栄養教育分野、スポーツ栄養・生理学分野、食理学分野、生活習慣病予防学分野の4つの学問分野が中心となる。

②学部・学科等の特色

健康スポーツ科学部は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」に示す「大学の機能別分化」のうち、「特定の専門的分野（芸術・体育等）の教育研究」、「社会貢献機能（地域貢献、産官学連携、国際交流等）」、「世界的研究・教育拠点」の3項目を重点的に担っていく。

（1）特定の専門的分野（芸術・体育等）の教育研究

健康スポーツ科学部は、「特定の専門的分野（芸術・体育等）の教育研究」に主な特色の位置を置く。中でもスポーツに関連する学科（健康スポーツ科学科）と栄養に関連する学科（栄養科学科）の両学科を持つ国内でも特色あるスポーツ系総合大学として、それぞれの専門性を生かした教育研究はもとより、両学科の横断的、融合的な教育研究体制により、単にスポーツ、単に栄養としての教育研究だけでなく、両学科がそれぞれ「スポーツと栄養」「身体活動と食生活」の両面により教育研究を深化させることにより、人々の健康課題の解決やスポーツにおけるパフォーマンス向上に対して、より多面的で具体的なアプローチを実現する。教育においては、学科横断の履修（他学科開放科目）を最大限に可能とすることで、多様で有機的な学習を目指す。研究においては、学科横断型のプロジェクト研究を推進するための研究費を確保し、スポーツと栄

養の両面による研究を積極的に進める。双方の学科の教員が他学科の教育研究に携われるような人的交流を積極的に実施していく。

これらに取り組む体制として「ユニット体制」を敷く点も特色といえる。専門領域が近い教員でユニットを組み、ユニット内の教員が連携・協働することにより、教育や研究の推進を図る。健康スポーツ科学科には8つのユニット（ヒューマン・ボディ・サイエンス／コミュニティ健康スポーツ／学校保健・スポーツ教育／健康・スポーツ文化／アスレティック・コンディショニング／スポーツ情報／コーチング／スポーツビジネス）を、栄養科学科には4つのユニット（栄養疫学・栄養教育／スポーツ栄養・生理学／食理学／生活習慣病予防学）を設ける。多領域の教育研究体制を体系的に整え、その中で教育研究を有機的に実行していくことで、健康とスポーツの多様性と可能性の創造を目指す。（資料2-1, 2-2 カリキュラムマップ）（資料3 連携による展開イメージ）

（2）社会貢献機能（地域貢献、産官学連携、国際交流等）

地域との連携による教育研究も健康スポーツ科学部の特色である。東京都北区を中心とした地域連携を推進し、スポーツや食、健康に関連する教育活動や研究、社会貢献活動を行っていく。

特に学部所在地である東京都北区と本学は、平成23年（2011年）6月に「東京都北区と学校法人東洋大学との連携協力に関する包括協定書」を、平成29年（2017年）4月の赤羽台キャンパス開設を機として同年3月には「東京都北区と学校法人東洋大学との新たな連携施策に関する覚書」を、その後、平成31年（2019年）2月に改めて「東京都北区と学校法人東洋大学との包括協定推進に関する覚書」を締結し、教育・研究に関わる連携事業や社会貢献・社会連携事業の推進に向け連携を深めている（資料4 東京都北区と学校法人東洋大学の協定書、覚書等）。北区をフィールドとした実践教育は、区民の交流や健康づくりへの効果が期待でき、本学のスポーツ施設（アリーナ等）を開放して行う総合型スポーツクラブの運営や産官学が連携して行うスポーツ競技大会の実施は、地域の活性化に繋げることが期待できる。このことから、「社会貢献機能（地域貢献、産官学連携、国際交流等）」を有する学部としても位置づけることができる。

（3）世界的研究・教育拠点

健康スポーツ科学部は、今後、我が国と同様な社会課題を抱えることが予測されるアジア諸国に対して、健康スポーツの科学的情報を提供するハブ大学として中心的な役割を担うことを目指し、本学の更なるグローバル化はもとより健康スポーツ科学を通じた我が国のグローバル化の進展に貢献することを目途としていることから、健康スポーツに関する「世界的研究・教育拠点」の機能を有する学部としての特色を有しているともいえる。

③学部・学科等の名称及び学位の名称

健康スポーツ科学部は「スポーツと栄養」「身体活動と食生活」という視点に基づいた科学的アプローチによって、健康づくりからアスリートの支援に至るまで幅広く人々の健康やwell-beingに寄与し、多くの社会課題の解決や我が国の健康立国に貢献する人材の輩出を目的とすることから、学部名を「健康スポーツ科学部」とし「健康スポーツ科学科」と「栄養科学科」の2学科体制とする。学位に付記する専攻分野の名称は、学科名に対応した「学士（健康スポーツ科学）」「学士（栄養科学）」とする。学部・学科の名称及び学位に付記する専攻分野の名称は、以下の英語表記とする。

学部学科の名称

健康スポーツ科学部 (Faculty of Health and Sports Sciences)

健康スポーツ科学科 (Department of Health and Sports Sciences)

栄養科学科 (Department of Nutritional Sciences)

学位に付記する専攻分野の名称

学士 (健康スポーツ科学) (Bachelor of Health and Sports Sciences)

学士 (栄養科学) (Bachelor of Nutritional Sciences)

④教育課程の編成の考え方及び特色

ア 教育課程編成の基本方針

健康スポーツ科学部の教育課程は、以下の教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラムポリシー)によって編成される。

健康スポーツ科学部の教育目標に基づき、4年間を通して以下の教育課程を編成する。

- (1) 基礎的な学力と豊かな教養を身につけるための基盤教育科目を配置する。
- (2) キャリア形成や社会人基礎力を修得するための科目を専門教育科目にも配置する。
- (3) 学部共通の専門科目を配置し必修科目を設定することで、学部の教育内容を明解にする。
- (4) 各学科の特色を生かしたユニット体制を形成することで、学生の教育支援体制を明確にする。
- (5) 実社会への適応力を養うため、諸資格取得に対応した教育課程編成や実践科目の配置を行う。
- (6) 学生の自立性や創造性を養うため、課題解決型学習(PBL)を配置する。
- (7) 俯瞰的な視野と応用可能な知識を養うため、親和性のある幅広い分野の専門科目を配置する。
- (8) 多文化を理解しグローバルに活躍するための科目を配置する。
- (9) スポーツ科学と栄養科学を併せ持つ学部の特性を活かし、学科間で横断可能な科目を配置する。
- (10) 社会の変化への適応と柔軟な学生支援を実現するため、多様な学習方法を提供する。

学部のカリキュラムポリシーを基本とした各学科の教育課程の基本方針を以下に示す。

(1) 健康スポーツ科学科の教育課程編成の基本方針

健康スポーツ科学科の教育課程は、以下の教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラムポリシー)によって編成される。

健康スポーツ科学科の教育目標に基づき、4年間を通して以下の教育課程を編成する。

- (1) 1年次は、哲学教育、グローバル教育、キャリア教育等を必修科目とすることにより基礎知識や人間力を養うと同時に、基礎的専門科目やアクティブラーニング科目を通して健康とスポーツの多様性を理解し、2年次以降の学習プロセスに繋げる。
- (2) 2年次は、講義・演習・実習等による専門科目の継続的な学びに加え、8つの専門分野(ユニット※1～8)において課題解決型学習(PBL)を展開し、学外のフィールドを活用した健康スポーツ科学の実践教育も経験することで、課題の発見・解決能力や計画・立案力、行動力等の素養を身につけ、自

身に適合する専門分野の具体化と3年次以降の学習・研究テーマの選択に繋げる。

- (※1) **ヒューマン・ボディ・サイエンス**：健康づくりやトレーニングを検討するための基礎として解剖学、生理学、生化学から運動生理学までを主要とする分野
- (※2) **コミュニティ健康スポーツ**：地域の健康づくりやスポーツ活動を支援するためのヘルスプロモーションや健康増進科学、健康運動指導法等を主要とする分野
- (※3) **学校保健・スポーツ教育**：学校における保健活動や保健体育教育を実践的に学び、養護教諭、保健体育教員、スポーツ教育者の育成等を主要とする分野
- (※4) **健康・スポーツ文化**：健康やスポーツに関わる現象について社会文化的な側面からそのあり方や理論を学び、問題解決に必要な科学的な根拠を提供する分野
- (※5) **アスレティック・コンディショニング**：競技力向上、健康問題予防のためのコンディショニングやリコンディショニングと包括的なアスリート支援を主要とする分野
- (※6) **スポーツ情報**：運動やスポーツから得られる様々な身体データの測定評価、処理法を学び、人々の健康増進やアスリートのコンディショニングに対してデータからの支援を主要とする分野
- (※7) **コーチング**：専門競技のスキルやパフォーマンス指導法に加え、プレーヤーの自立を尊重し、パフォーマンス向上を支援するための環境づくりを主要とする分野
- (※8) **スポーツビジネス**：プロスポーツやトップスポーツ、スポーツ組織の経営マネジメント等、スポーツの産業化を主要とする分野

(3) 3年次以降は専門科目を中心に更に学びを深化させ、より高度な知識や技術の修得に繋げていくとともに、演習科目（ゼミナール）の展開により、専門的な知識や技術を基にした実践力や指導力、研究力を修得することに加え、4年次には卒業研究・論文の作成によりこれら能力の確実化と定着化を図る。

(4) ボランティア、フィールドワーク、インターンシップ、国際交流等に関する専門科目を配置し、様々な現場を体験することにより、実社会における健康とスポーツの価値や重要性を知ると同時に、多様性を尊重し異文化・多文化への理解や協調性を身につける。

(5) 諸資格取得に対応した教育課程編成や実践科目配置をすることにより、高度な実践者・指導者を育成する。

(6) ユニット体制で教育を展開すると同時に、ユニット間、学科間での連携による学修の機会を設けることにより、幅広い視野と知識を修得する。

（2）栄養科学科の教育課程編成の基本方針

栄養科学科の教育課程は、以下の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）によって編成される。

栄養科学科の教育目標に基づき、4年間を通して以下の教育課程を編成する。

- (1) 1年次は、生物学、化学、生理学、栄養学、食品学、疫学等の基礎知識や、哲学教育、キャリア教育等の社会人基礎力を中心に学び、4年間の学修やその先のキャリア形成の礎となる知識を身につけ、正しい物の見方、考え方を養うとともに、ビジョンと目標をもち計画的に学修を進めるための学修基盤を形成する。
- (2) 2年次からは、扱う領域や専門性を広げ、より実践的に学んでいくことで、分子・細胞からヒト、人間集団に至るまでを総括的に理解し、食品機能科学やスポーツ栄養科学等の専門知識、栄養管理の実践手法を修得していく。課題解決型学習（PBL）により、課題の発見・解決力、計画・立案力、行動力等の力をつけ、社会的課題の解決に積極的に取り組む姿勢を養う。
- (3) 3年次以降は、専門性に応じた4つの分野（栄養疫学・栄養教育（※1）、スポーツ栄養・生理学（※2）、食理学（※3）、生活習慣病予防学（※4））の学びを深化させ、より高度な知識や技術を修得する。また、研究室の配属により成果をアウトプットする力も養う。

- (※1) **栄養疫学・栄養教育**：健康寿命の延伸と自然に健康になれる持続可能な食環境形成に寄与するために、様々な特性を持つあらゆる集団における食意識、知識、食行動、食事、料理、食品、栄養素と健康状態に関わるデータ解析や、行動変容技法を用いた個人への働きかけを行い、栄養及び健康上の課題を解決できる力を持つ人材を育成する。
- (※2) **スポーツ栄養・生理学**：食事摂取や身体活動に伴う生体応答とそのメカニズムを生理学的に明らかにし、一般市民の健康づくりからアスリートのコンディショニング維持まで、それぞれの対象に見合った栄養管理や運動指導ができる人材を育成する。
- (※3) **食理学**：食品由来の機能性成分の新たな生理学的及び薬理学的作用を明らかにし、その作用に基づいた中高年の未病対策及びアスリートのコンディショニング維持が可能な新たな方法論の開発に貢献しうる人材を育成する。
- (※4) **生活習慣病予防学**：栄養、運動、休養の相互関係を理解し、健康な個人または集団を対象として、国民の健康の維持・増進、生活習慣病の予防や、フレイル予防を目的とした対策を講じられる人材を育成する。

- (4) ユニット体制を敷くことにより、学生の志向にあわせた学修・キャリア形成支援を実行する。
- (5) 「栄養」、「スポーツ」、「健康」の領域に関する科目のほか、多彩な専門科目をラインナップし、多角的に捉える思考力や分析力を身につける。
- (6) 実験・実習科目や実践科目に加え、企業・自治体でのインターンシップの機会を設け、実社会での実践力と対応力をもちあわせた人材を輩出する。
- (7) 海外をフィールドとした研修やインターンシップの機会を設け、グローバルな視野をもちあわせた活躍人材を輩出する。

イ 教育課程及び科目区分の構成

健康スポーツ科学部の教育課程は、「基盤教育科目」、「専門教育科目」の2層に区分される。

基盤教育科目は、「哲学・思想科目」「学問の基礎科目（人文科学、社会科学、自然科学）」「国際人の形成科目（世界の伝統と文化、グローバル社会の実践、語学）」「キャリア・市民形成科目（キャリア、市民形成、情報）」「健康・スポーツ科学科目」「総合・学際科目」の6区分で構成され、専門教育科目は、「学部共通科目」「学科専門科目」「教職科目」の3区分で構成される。各区分の理念と構成に関して以下に記す。

（1）基盤教育科目の教育課程及び科目区分の構成

一般教養教育として編成する基盤教育は、幅広く質の高い教養教育を目指して全学共通の枠組みで編成されており、学部構成等を考慮して必要な科目を配置することとされている。本学部では、両学科共通の理念で科目を構成し、各区分の必要単位数は学科ごとに設定する。

1) 哲学・思想科目

哲学を礎とする本学の建学の精神や教育理念等に基づき、諸学の基礎である哲学や倫理等を学ぶものである。

2) 学問の基礎科目

人文・社会・自然科学の様々な領域の学問の基礎を概説的に学ぶものである。

3) 国際人の形成科目

スーパーグローバル大学に採択されたグローバル人材の育成を目指す本学の教育方針に沿って、語学力やコミュニケーション能力を養うものである。語学に加え、日本及び外国の諸地域の現状や歴史、文化、あるいは国際関係を学ぶとともに、短期海外研修等を通じ国際感覚を養う。

4) キャリア・市民形成科目

キャリア教育を重視する本学の教育方針に沿って、現代社会の一員として生きていく際に必要なマイ

ンドセットや情報、専門的・実践的な活動を行うための基礎的能力を養うものである。法律、環境、情報、生活、会計等に関する科目が含まれる。

5) 健康・スポーツ科学科目

健康・スポーツ活動の基礎的な知識や能力を養うものである。

6) 総合・学際科目

分野を超えた最新の技術動向や研究成果等多様かつ学際的なテーマを学び、対話を通してその知識や技能を応用して発展的・創造的に思考・発想する力を養成するものである。

健康スポーツ科学部では、以上の各区分の中から以下の単位数を修得することとしている。

<健康スポーツ科学科>

・哲学・思想科目	2 単位以上
・国際人の形成（語学科目）	8 単位
・キャリア・市民形成（キャリア科目）	2 単位以上
・キャリア・市民形成（市民形成科目）	2 単位以上
・キャリア・市民形成（情報科目）	4 単位以上

※外国人留学生入試入学者は、上記のほか「国際人の形成（語学科目）」の留学生対象科目必修 6 単位

<栄養科学科>

・哲学・思想科目	2 単位以上
・学問の基礎科目	2 単位以上
・国際人の形成（語学科目）	8 単位
・キャリア・市民形成（キャリア科目）	2 単位以上
・キャリア・市民形成（市民形成科目）	2 単位以上
・キャリア・市民形成（情報科目）	4 単位以上
・総合・学際科目	2 単位以上

※外国人留学生入試入学者は、上記のほか「国際人の形成（語学科目）」の留学生対象科目必修 6 単位

(2) 専門教育科目の教育課程及び科目区分の構成

専門教育は、「学部共通科目」「学科専門科目」の 2 区分を基本とし、教育職員を養成する健康スポーツ科学科はこの 2 区分に加えて「教職科目」の区分を設ける。各ユニット（健康スポーツ科学科 8 ユニット、栄養科学科 4 ユニット）で扱う領域を中心に科目を構成し、各学科で取得可能な資格に関連する科目や学部が掲げる人材養成の実現や連携教育を行うための科目等も配置している。講義・演習・実習をバランス良く配置することで、理論から実践までを満遍なく学ぶことができる構成としている。

1) 学部共通科目

学部共通で掲げる人材養成の実現や連携教育を行うために配置する科目であり、2 学科ともに卒業要件として合計 12 科目 24 単位を必修としている。4 年間の学びの基礎学習である 1 年次の「健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」にはじまり、同じく 1 年次に「健康スポーツキャリアデザイン A・B」において早期のキャリアイメージの形成を図る。2 年次の「健康スポーツ科学プロジェクト演習 A・B」でユニット単位

の課題解決型学習（PBL）を展開し専門性への動機づけを図る。3年から4年次の「健康スポーツ科学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では少人数のゼミナール形式により専門性の深化を図り、「卒業研究・論文Ⅰ・Ⅱ」を通じてその確実化を目指す。小人数を対象とした指導体制による細かな学生教育とともに、アクティブラーニングや課題解決型学習（PBL）、キャリアデザイン教育に力点を注ぐ形態となっている。また、上記とは別に前述の他学科開放科目もここに区分し、16科目32単位を上限として履修及び単位認定を可能とする。

2) 学科専門科目

学科の専門的な知識や能力を養うため、各学科で設けるユニットに関する科目や取得可能な資格に関する科目を中心に教育課程を編成している。以下にそれぞれの学科の教育課程を記す。

・健康スポーツ科学の学科専門科目（資料2-1 カリキュラムマップ）

健康スポーツ科学の学科専門科目は、必修科目と選択科目に区分される。

卒業要件として「スポーツ哲学」、「健康・スポーツの自然科学」、「健康スポーツの人文・社会科学」、「ベーシック・トレーニング」、「トレーニング概論」、「国際健康スポーツ交流A」、「健康スポーツアクティビティⅠ（A・B・C・D）」、「健康スポーツアクティビティⅡ（A・B・C・D）」、「健康スポーツアクティビティⅢ（A・B）」の16科目21単位を必修としている。哲学を基本とする本学の教育方針に沿って「スポーツ哲学」を1年次必修にするとともに、「健康・スポーツの人文・社会科学」、「健康・スポーツの自然科学」、「国際健康スポーツ交流A」を1年次必修とし、健康スポーツ領域の基礎や哲学教育、グローバル教育の基礎を固めていく。すべての学生に対してトレーニングを必修化するとともに、スポーツ種目の多様化に対応するためスポーツアクティビティを充実させている。「健康スポーツアクティビティⅠ」では、バレーボールやバスケットボール、卓球、バドミントンのような一般的に馴染みのあるスポーツを、「健康スポーツアクティビティⅡ」では、ボルダリングやBMX、スケートボードのようなアーバンスポーツやエクストリームスポーツをラインナップし、各競技の楽しみ方を学習する。また「健康スポーツアクティビティⅢ」では、エアロビックダンスやストリートダンス等のダンススポーツを実施する。

選択科目は、専門分野のバランスに配慮しながら前述の8つの専門分野（ユニット）に関する科目を基本にした教育課程を編成し、以下の科目を配置している。

- ・ヒューマン・ボディ・サイエンス分野：生理生化学、スポーツ生理学、解剖学等
- ・コミュニティ健康スポーツ分野：ヘルスプロモーション、健康社会学、スポーツ社会学等
- ・学校保健・スポーツ教育分野：体育科教育、保健科教育、学校保健、アダプテッドスポーツ等
- ・アスレティック・コンディショニング分野：アスレティックトレーニング、スポーツ医学等
- ・コーチング分野：コーチング、スポーツ倫理学、スポーツ心理学等
- ・スポーツ情報分野：スポーツ工学、バイオメカニクス、スポーツ情報学等
- ・健康・スポーツ文化分野：国際健康スポーツ交流、国際インターンシップ・ボランティア等
- ・スポーツビジネス分野：スポーツマネジメント、スポーツマーケティング等

これらに加え、学科で取得可能な健康運動指導士、障がい者スポーツ指導員、トレーニング指導者、公認スポーツ指導者、グループエクササイズフィットネスインストラクター、レクリエーション・インストラクター、第一種衛生管理者に関連する科目も配置している。希望に応じて履修及び単位修得することで、健康とスポーツの多様性と可能性を創造していくための素養や専門的な知識・技術を獲

得し、多種多様なフィールドで活躍できる人材の輩出に繋げていく。98 科目 181 単位の選択科目うち、卒業要件として 40 単位以上を修得することとしている。

・栄養科学科の学科専門科目（資料 2-2 カリキュラムマップ）

栄養科学科の学科専門科目は、必修科目、選択必修科目、選択科目に分別される。

卒業要件として「基礎化学Ⅰ」、「基礎栄養学」、「公衆衛生学」、「細胞生物学」、「生理学」、「疫学」、「基礎栄養学実験」、「免疫生化学」、「運動生理学」、「細胞生物学実験」、「栄養疫学」、「運動生理学実験」、「スポーツ栄養学実習」、「メディカルライティング」の 14 科目 24 単位を必修としている。生物学、化学、生理学、疫学を基盤に「栄養学」、「食品衛生学」、「公衆衛生学」、「スポーツ栄養学」、「生活習慣病予防学」、「トレーニング科学」等を低学年に配置して基礎学習を徹底し、1～3 年次に「基礎栄養学実験」「細胞生物学実験」「運動生理学実験」「スポーツ栄養学実習」といった実験・実習科目をバランス良く配置することで各領域の理解を深化させる。

選択必修科目は、専門分野のバランスに配慮しながら前述の 4 つの専門分野（ユニット）に関する科目や栄養士養成科目を基本にした教育課程を編成し、以下の科目を配置している。

- ・ **栄養疫学・栄養教育分野**：栄養教育論、公衆栄養学、栄養疫学実習等
- ・ **スポーツ栄養・生理学分野**：栄養生化学実習、スポーツ栄養マネジメント、体力測定評価法等
- ・ **食理学分野**：食品学実験、動物学、食理学等
- ・ **生活習慣病予防学分野**：臨床栄養学実習、ライフステージ栄養学実習、解剖生理学実験等

これらに加え、学科で取得可能な栄養士、食品衛生管理者、食品衛生監視員、HACCP 管理者等に関連する科目も配置している。これらの科目を希望に応じて履修及び単位修得することで、健康とスポーツにおける栄養の多様性と可能性を創造していくための素養や専門的な知識・技術の獲得を目指す。40 科目 67 単位の選択必修科目うち、卒業要件として 8 単位を修得することとしている。

選択科目は、栄養、スポーツ、健康の領域に関する科目に加え「行動科学」「データサイエンス」「スポーツ科学領域」といった親和性のある他領域の多彩な科目を配置している。これらを併せて履修及び単位修得することで多角的に捉える思考力や分析力を身につけ、科学的根拠の理解のうえに健康科学分野の付加価値を創造するための実践力を備えた人材の育成を目指す。また国際的な視野を養うための「国際栄養科学交流」を配置し、グローバルな視野を持ち合わせた活躍人材の育成も目指す。なお、ここには学科で取得可能な健康運動実践指導者に関連する科目も含まれ、希望に応じて履修及び単位修得が行われることとなる。24 科目 44 単位の選択科目に卒業要件は設定していないが、「学部共通科目 24 単位及び学科専門科目 32 単位以上を含み、学科専門科目として 90 単位以上修得すること」を卒業要件としており、この要件の中での履修及び単位修得をしていくこととなる。

選択科目は、栄養、スポーツ、健康の領域に関する科目に加え「行動科学」「データサイエンス」「スポーツ科学領域」といった親和性のある他領域の多彩な科目を配置している。これらを併せて履修及び単位修得することで多角的に捉える思考力や分析力を身につけ、科学的根拠の理解のうえに健康科学分野の付加価値を創造するための実践力を備えた人材の育成を目指す。また国際的な視野を養うための「国際栄養科学交流」を配置し、グローバルな視野を持ち合わせた活躍人材の育成も目指す。なお、ここには学科で取得可能な健康運動実践指導者に関連する科目も含まれ、興味や志向、希望する資格に応

じて履修及び単位修得が行われることとなる。24 科目 44 単位の選択科目に卒業要件は設定していないが、「学部共通科目 24 単位以上及び学科専門科目 32 単位以上を含み、学科専門科目として 90 単位以上修得すること」を卒業要件としており、この要件の中での履修及び単位修得をしていくことになる。

3) 教職科目

教育職員になるための知識・技術を養うことに特化した科目であり、教職課程を有する健康スポーツ科学科のみで開講する。本学科で養成する、中学校教諭一種免許状（保健）（保健体育）、高等学校教諭一種免許状（保健）（保健体育）、養護教諭一種免許状に必要な科目を教職課程認定基準に準じて配置する。

ウ 教育課程の特色

まずは、健康スポーツ科学部として 2 学科に共通する教育課程の特色を以下に記す。

1 点目に、1 年次よりの演習形式の科目を設定している点である。2 年次以降、それぞれの学科にユニット型の教育研究体制を導入し、ユニット内またはユニット間で組織的に教育・研究・学生支援を行うことで教育効果を高めていく。

2 点目に、基盤教育に加え専門教育にキャリアデザイン科目を 1 年次必修として配置している点である。これにより卒業後イメージの早期形成を図り、学習意欲の醸成に繋げていく。

3 点目に、学部共通科目で体系的な学習プロセスを設けている点である。上記 2 点の学習を基礎に 2 年次にユニット単位で課題解決型学習（PBL：健康スポーツ科学プロジェクト演習）を実施することで、学部の教育目的の根幹となる問題解決能力や社会における実践力や行動力の醸成を図る。そして、3・4 年次の少人数ゼミナール教育において強化と深化に繋げていく。

4 点目に、ユニットに対応した教育課程を編成している点である。これにより本学部学科の分野や学習内容を体系的に理解でき、志向やキャリアプランに合わせた学習計画が組みやすくなる。

5 点目に、それぞれの学科の専門科目を他学科へ積極的に開放している点である。学科横断の履修を可能とすることで、多様で有機的な学習を

これらを学部教育の基本方針として明確化し両学科が足並みを揃えて実行していくことで、学部全体が一体となった細やかな教育を実現していく。

続いて、学科ごとの教育課程の特色を以下に記す。

（1）健康スポーツ科学科の教育課程の特色

基盤教育科目においては、本学の教育の中核に据えている「哲学教育」「国際化教育」「キャリア教育」や現代社会において特に重視されている「情報教育」の科目を配置するとともに、これらに関する区分に重点を置いて必要単位数を設定している点である。

専門教育科目の特色は、以下の 6 点である。

1 点目に、哲学・倫理教育を重視する点である（基盤教育に加え、初年次の必修科目として「スポーツ哲学」、選択科目として「スポーツの法と倫理」を配置）。礎となる哲学的思考や精神を養う。

2 点目に、8 つの分野を体系化し志向に合わせて学ぶ点である。多様なキャリアへ対応するための強みを身につけ、健康スポーツの可能性と多様性を創造する力を養う。

3 点目に、スポーツや教育、保健、栄養に関する現場立脚型のグローバル教育を行う点である（初年次必修

科目として「国際健康スポーツ交流A」を配置)。多文化共生と多様性の支援・活用を推進するためのグローバル・シティズンシップの醸成も図る。

4 点目に、諸資格取得に対応した教育課程を編成し教育を行う点である。健康・スポーツに関する実践者・指導者育成のための確かな知識と技術を養う。

5 点目に、現場体験による学習機会が豊富な点である（「健康スポーツボランティアA・B」、「フィールドワーク実習」、「健康スポーツインターンシップA・B」、「国際健康スポーツ交流B・C・D」を配置）。実社会における健康とスポーツの価値や重要性を知り、多様性を理解・尊重できる力を養う。

6 点目に、全学生がトレーニングや多様な種目を継続的に学ぶ点である（1～3 年次の必修科目として「ベーシック・トレーニング」、「トレーニング概論」、「健康スポーツアクティビティⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を配置）。継続的に身体活動に触れトレーニングや多様な種目を理解することで、健康スポーツに携わる人材としてのセンスを養う。

（2）栄養科学科の教育課程の特色

基盤教育科目においては、本学の教育の中核に据えている「哲学教育」「国際化教育」「キャリア教育」や現代社会において特に重視されている「情報教育」の科目を配置するとともに、教養をバランス良く身につけられるよう各区分に必要な単位数を設定している点が特色である。

専門教育科目の特色は、以下の5点である。

1 点目に、理論と実践をバランス良く学んでいく点である。学問領域の基礎教育（講義科目）に対応する応用教育（実験・実習科目）を用意し体系的に学ぶことで各領域の理解の深化に繋げる。

2 点目に、4 つの分野を体系化し志向に合わせて学ぶ点である。栄養教育の更なる専門化と深層化を図る。

3 点目に、栄養士資格に加え、健康運動実践指導者等の資格に対応した教育課程を編成し教育を行う点である。「栄養と運動」、「食生活とスポーツ」という考え方の浸透と実践力の醸成を試みる。

4 点目に、親和性のある他の領域を学べる点である（行動科学系科目、データサイエンス系科目、スポーツ科学系科目）。健康科学分野の付加価値を創造するための力を養う。

5 点目に、海外をフィールドとした研修やインターンシップの機会を設ける点である（「国際栄養科学交流」を配置）。グローバルに活躍するために必要な要素を認識し、栄養の専門家が担うべき国際的な役割を理解する。

⑤ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

ア 教育方法

健康スポーツ科学部では、集中的に学習し、より高い学習効果をあげるために、1 学年 2 学期とする Semester 制とし、学期ごとに学習成果を評価する。授業科目は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかを適切に組み合わせ（大学設置基準 25 条）、より教育効果がでるよう教育課程を編成している。特に実習や実験、実技科目が重要な役割を果たしていることから、そのために必要な各種設備を整備し、教育環境を整える。また各科目の配当学年は基礎教育や専門教育としての学ぶ順番や系統に配慮しながら 1～4 年次へと段階的かつ適切に配当する。各学科の履修モデルは、専門分野（ユニット）に対応したモデルとしているが、開講科目、履修方法、履修条件は共通となる。各ユニットの特性に即して推奨科目や配当学年を組んでおり、学生自身が希望する専門分野（ユニット）に合わせて履修科目（領域）の比重の置き方を変え、学習内容を

組み立てていくことで、各自の卒業後のキャリアプランに応じた学習を目指す。また豊富なラインアップの中から志向に合わせて履修をアレンジすることで、親和性のある他領域から学習の広がりが生まれることも期待される。(資料 5-1, 5-2 履修モデル)

特に 1 年次から 4 年次までにわたり必修科目として開講される各種の「演習」が各学生の入学から卒業、そしてその後のキャリアに至るまでのベクトルを定める大きな役割を持っていることから、担当する教員は責任ある指導に努める。その中でも 2 年次の「健康スポーツプロジェクト演習」や 3・4 年次のゼミナールである「健康スポーツ科学演習」はその大きな教育的役割を果たす。またこれらの指導の結果を「卒業論文・研究」として必修化し学習の深化を図る。この論文指導に関しては 4 年次春学期より単位化（春・秋学期で各 2 単位）し、時間割上毎週 90 分の時間確保とともに、それ以外にも個別で定期的な指導を行い秋学期末での完成を目指す。

また、各学期の初頭には、前年度の単位取得状況の芳しくない学生について、「単位僅少者面接」を行い、学修や生活に関して学生が抱える問題を早期に把握し、適切に指導を行う。加えて、各教員はオフィス・アワーを設定して指導にあたりるとともに、ICT を利用して学生とのコミュニケーションを図る。それぞれの学科とも定員の 5～10% 程度の留学生を受け入れることを予定している。留学生に対しては基盤教育科目にある留学生対象の語学科目（日本語）を履修指導するとともに、演習を通じて担当教員がいわゆる担任の役割を担い、個別指導を行う。また、チューター制度も活用しながら留学生がなるべく孤立しないようなサポートを実施する。加えて学科会議等で留学生の学習状況に関する情報を絶えず共有することに努める。

受講者数は、各教室の規模や学習効果、指導の円滑さを鑑みながら適正規模で設定し、聴講数が定員以上となった場合には履修希望学生の選抜や授業クラスを増加させる等、適正な授業定員の維持に努める。諸資格養成を柱とした学部につき時間割が過密なことから、空き時限に特定学科の学生の履修が集中することが予想されるため、それに対応できるよう開講する曜日時限にも十分に配慮し、学生の履修機会が確保されるようにする。また新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策の経験で培った非対面授業やハイブリット授業を弾力的に導入する等、教育の質の担保を前提に様々な教育機会を提供できるよう検討することにより、大学施設の有効活用や運動部所属の学生をはじめとする学生の教育機会の向上にも繋げていく。これらの方針を踏まえ、講義形式の授業は 100 名～230 程度、演習形式（語学・コミュニケーション系）の授業は 30 名程度、演習形式（情報処理系）の授業は 60 名程度、演習形式（学科専門領域）及び実習形式の授業は 20～40 名程度を受講者数の目安とする。なお、英語で実施する学科専門科目は、よりインタラクティブなアプローチが求められることから 20～30 人程度を適正規模とする。

イ 履修指導方法

両学科ともその専門領域が広く、多様な開講科目を擁しており、学外の研修や実習、インターンシップ等の実践的な活動を推奨するため、可能な限り多くの機会を設け履修指導を徹底する。

まず、入学直後のガイダンス期間において、全学的規模で学部ごとに実施される新入生教育の枠の中で、履修・登録方法や図書館の利用法等学生生活の基本についてのガイダンスを行う。その際、各種資格得に関してもガイダンスを行い、必要な単位の計画的な履修を促す。大学での学びの目的や意義、本学部での学習内容とキャリアを理解のうえで、正しいキャリアパスに繋げるための履修計画を立てるための指導を行う。それぞれの学科ガイダンスにおいては、教育課程の構成、科目選択、授業の履修方法について、履修モデルやカリキュラムマップを提示する等の工夫をすることで、学生がイメージをもてるよう配慮する。

また、これら行事としての履修指導とは別に、各教員にオフィス・アワーを設けるとともに、各年次に配置しているゼミナールにおいて、学生の履修相談に対応できるように体制を整える。ユニット体制によるチームでの学生支援体制も構築していく。

1 年次から実施される海外研修のプログラムについても説明し、複数の国内外のプログラムから選ぶように指導するとともに、留学を希望する学生に対しては、必要とされる知識、海外での学修に関する注意点等についても説明する。

1 単位あたりの学修時間の確保と 4 年間を通じたバランスのとれた学修の観点から、各学期（セメスター）の履修の上限（CAP 制）を 24 単位と定め、それを超えない範囲の履修を指導する。ただし教職に関わる単位数はこれに含めないこととする。

ウ 卒業要件

（１）健康スポーツ科学科

健康スポーツ科学科は、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」という観点からスポーツを通じて社会に貢献できる人材、健康問題や社会課題に対し健康スポーツ科学を通じた解決策を提供できる人材を育成するという教育目標のもとに、ディプロマ・ポリシーに揚げた能力を習得し、かつ必要な在籍年数および履修単位数を満たした者に対し、「学士（健康スポーツ科学）」の学位を授与する。

卒業要件を成す具体的な履修単位数は、以下のとおりである。

- 1) 卒業要件となる科目で 124 単位以上を修得すること。
- 2) 「基盤教育科目」について
 - ・全体で 18 単位以上修得すること。
 - ・「哲学・思想科目」から 2 単位以上修得すること。
 - ・「国際人の形成（語学科目）」から 8 単位修得すること。
 - ・「キャリア・市民形成（キャリア科目）」から 2 単位以上、「キャリア・市民形成（市民形成科目）」から 2 単位以上、「キャリア・市民形成（情報科目）」から 4 単位以上修得すること。
 - ・外国人留学生入試入学者は、上記のほかに「国際人の形成（語学科目）」の留学生対象科目必修 6 単位を修得すること。
- 3) 「専門教育科目」について
 - ・全体で 85 単位以上修得すること。
 - ・「学部共通科目」から 24 単位以上修得すること。
 - ・「学科専門科目」を 61 単位以上（うち必修科目 21 単位、選択科目 40 単位以上）修得すること。

（２）栄養科学科

栄養科学科は、食・栄養の観点からスポーツのパフォーマンス向上や健康づくり、QOL 向上に寄与できる人材を育成するという教育目標のもとに、ディプロマ・ポリシーに揚げた能力を習得し、かつ必要な在籍年数および履修単位数を満たした者に対し、「学士（栄養科学）」の学位を授与する。

卒業要件を成す具体的な履修単位数は、以下のとおりである。

- 1) 卒業要件となる科目で 124 単位以上を修得すること。

2)「基盤教育科目」について

- ・全体で 22 単位以上修得すること。
- ・「哲学・思想科目」から 2 単位以上修得すること。
- ・「学問の基礎科目」から 2 単位以上修得すること。
- ・「国際人の形成（語学科目）」から 8 単位修得すること。
- ・「キャリア・市民形成（キャリア科目）」から 2 単位以上、「キャリア・市民形成（市民形成科目）」から 2 単位以上、「キャリア・市民形成（情報科目）」から 4 単位以上修得すること。
- ・「総合・学際科目」から 2 単位以上修得すること。
- ・外国人留学生入試入学者は、上記のほかに「国際人の形成（語学科目）」の留学生対象科目必修 6 単位を修得すること。

3)「専門教育科目」について

- ・全体で 90 単位以上修得すること。
- ・「学部共通科目」から 24 単位以上修得すること。
- ・「学科専門科目」を 32 単位以上（うち必修科目 24 単位、選択必修科目 8 単位以上）修得すること。

⑥実習の具体的計画

健康スポーツ科学科では、中学校教諭一種免許状（保健）（保健体育）、高等学校教諭一種免許状（保健）（保健体育）、養護教諭一種免許状取得のための教員養成課程を、栄養科学科では、栄養士免許取得のための栄養士養成課程を設置し、それぞれの養成課程で「教育（養護）実習」及び「校外実習（給食管理（給食運営）実習に位置づく本学開講科目）」の学外実習を行うため、これらについて具体的計画を以下に記す。

（１）教育実習Ⅰ・Ⅱ（事前・事後指導を含む）（中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭）（教員養成課程）

ア 実習の目的（教育実習（中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭））

大学で学んだ教育理論や技術をもとに、教育実習校での実習を通じて教育の意味や学校教育の全領域について学習することを目的とする。

中学校教諭及び高等学校教諭希望者が行う教育実習では、学習指導要領に基づいた指導計画やワークシートを活用した授業づくりをするとともに、新学力観として求められる習得型と活用型の学習活動等に関する理解の深化を目的とした模擬授業を計画・実践することで、教職を理解し自身の課題や教職への適性等の判断材料を得るとともに、実習を省察し実習を総括することにより、教師の専門的力量や教師になるための資質の理解を深めていく。

養護教諭希望者が行う養護実習では、児童生徒への対応、保健教育、保健管理、保健室経営等の職務を体験することにより、課程の中で修得してきた知識や技能、養護教諭としての意識と力量を高めるとともに、養護教諭の職や学校教育における保健室の役割を理解し、児童生徒の心身の健康や学校安全、学校環境衛生等に対する認識と知識を身につける。

イ 実習先の確保の状況（教育実習（中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭））

主な実習校としては、まず、本法人のもとに運営される附属中学校、附属高等学校がある。その他、本学

部の拠点となる東京都北区エリアを中心とした学校や全学規模で毎年実習の実績がある東京都公立学校（東京都教育委員会経由で実習先を確保）等を予定している。（資料 6-1 中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭実習先一覧、中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習受入承諾書）

ウ 実習先との契約内容（教育実習（中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭））

実習実施前年度となる 3 年次 4 月以降に教育実習校へ内諾依頼を行う。東京都公立学校における実習においては、東京都教育委員会へ所定の手続きを行う。各実習生は、個人情報保護と倫理の観点から守秘義務を守る旨を誓約する誓約書を提出する。実習時期は 4 年次 5 月～11 月を原則とし、教育実習Ⅰ（中学校教諭）は 3 週間、教育実習Ⅱ（高等学校教諭）は 2 週間、養護実習（養護教諭）は 3 週間の実習を行う。

エ 実習水準の確保の方策（教育実習（中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭））

教科に関する知識と教職に対する意識を持った質の高い教員を養成するという観点から、まず、教職を志す学生に対し入学当初から教職課程の概要や履修指導を行い、教育職員という仕事の重要性を認識のうえで意識と責任感を持って教職課程に臨むよう、周知と指導を徹底する。また、教育実習を行う際は、授業科目の履修条件や実習の参加資格を設け、それを満たした学生のみ教育実習を認めることとする。教育実習期間中に実習に専念すること等を含んだ誓約書の提出を求め、これを提出した学生のみ教育実習への参加を認めることで、教育実習に対する学生の意識づけを徹底している。実習に必要な準備ができていることや実習を行うに適した水準に達していることを確認のうえ実習参加者を確定することで、実習生の水準を確保している。

教育（養護）実習の履修条件は、以下のとおりである。

- 以下の①②の条件をすべて満たさなければ、「教育実習（事前・事後指導を含む）」「養護実習（事前・事後指導を含む）」を履修することはできない。
- ①中学校教諭、高等学校教諭、養護教諭：3 年次終了の時点（教育実習に参加する前年度）で卒業に必要な単位数を 100 単位以上修得していること。
- ②3 年次終了の時点（教育実習に参加する前年度）で、以下の条件を全て満たしていること。
- a. 1～3 年次に配当された「教育の基礎的理解に関する科目」及び「教科及び教科の指導法に関する科目等」の必修科目のうち実習参加前に修得すべき科目として履修要覧に指定されている科目をすべて修得していること。
 - b. 「保健体育（中学校教諭及び高等学校教諭）」の免許状希望者については、「教科及び教科の指導法に関する科目」の教育職員免許状施行規則に定める科目区分ごとに指定されている選択必修科目の条件を満たしていること。

教育（養護）実習の参加資格は、以下のとおりである。

- 以下の①～⑧の条件をすべて満たさなければ、教育（養護）実習に参加することはできない。
- ①教壇に立って授業を行うに必要な学力を有すること。
 - ②教育実習指導教員の指導のもとに、教育実習生としてふさわしい行動のとれる人物であること。
 - ③大学を含む関係諸機関との手続きを不備なく行っていること。
 - ④大学の行う定期健康診断を受診し、異常の指摘があれば対処されていること。
- ※大学で実施される健康診断を受診できない場合、医療機関で受診し、その結果を実習開始以前に大学

に提出しなければならない。

⑤麻疹（はしか）、風疹に関する感染予防条件 1 または 2 を満たす。

1 麻疹（はしか）及び風疹の予防接種を 2 回以上実施していることが記録で確認される者

2 予防接種歴が 2 回以上確認できない感染症に対しては抗体検査の結果で十分な免疫があると認められた者。

※医学的理由等で予防接種が出来ない者はその理由を申し出ること。

⑥妊娠中もしくは出産して 1 年以内でないこと（母体保護のため）。

⑦教育実習料を納入していること。

⑧大学指定の誓約書に署名・捺印の上、提出した者。

※学業成績・学修態度等から総合的にみて、教育職員として適格性を欠くと本学において判定された場合、実習参加を認めないこともある。これらの判定のために、教育実習の実施に先立って、担当教員と面接等を行う場合もある。実習校の内諾を得ることができなかった者、教育実習に関する所定の手続きをしていない者及び教育実習費を納入していない者は、教育実習への参加を認めない。

加えて、実習の質を確保するために「教育実習Ⅰ・Ⅱ（事前・事後指導を含む）」「養護実習（事前・事後指導を含む）」の中で行う事前指導も徹底する。教育実習では、実習に向けた準備事項、保健体育科・保健科の指導案作成や模擬授業等を、養護実習では、事前指導として実習の目的や内容、養護教諭の職務の確認、指導案の作成を指導し、実習に向けた注意点や心得を理解のうえで実習に臨み、責任を持った実習を実施できるよう指導を徹底する。

オ 実習先との連携体制（教育実習（中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭））

保健体育教員、養護教諭、スポーツ教育者の育成等を主要とする学校保健・スポーツ教育ユニットの教員が中心となり実習先との連携を図る。そして、同教員のもとで学科全体の教育（養護）実習を管理し訪問指導教員を決定した後、学科教員が一丸となって本学科における教育実習生の指導や実習校との連絡調整にあたっていく。また、学部内に「健康スポーツ科学部諸資格・教職課程委員会」（各学科より推薦された専任教員各 1 名、学部長が必要と認めたものによって構成）を設置し、全学の委員会との連携を図りながら組織的に実習支援を行っていく。

こうした体制のもと、学科教員が主体となって実習先との連携を図るとともに、全学組織である教職センターのバックアップのもと、適切な学生指導と実習運営にあたっていく。

カ 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）（教育実習（中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭））

以下の内容について周知・確認のうえで実習を実施させることが大学で統一した基準として定められており、これに基づき感染予防に関する対策、保険加入等の安全確保について指導を徹底する。

①大学を含む関係諸機関との手続きを不備なく行っていること。

②大学の行う定期健康診断を受診していること。

③教育実習料を納入していること。

④大学が指定する保険（公益財団法人日本国際教育支援協会「インターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険」）に加入するための保険料を納入していること。

⑤麻疹（はしか）の抗体検査・予防接種を行い、免疫があると認められていること。

⑥妊娠中もしくは出産して 1 年以内でないこと（母体保護のため）。

⑦東京都公立学校で実習を希望する者は「東京都公立学校教育実習取扱要綱」の第5条及び第12条に定められている実習資格要件を満たしていること。

また、実習中に知り得た情報に関する守秘義務やSNSの利用に係る注意点等を含んだ誓約書の提出を求め、これを提出した学生のみ教育実習への参加を認めることで、教育実習に対する学生への注意喚起を徹底する。

キ 事前・事後における指導計画（教育実習（中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭））

事前指導は、教育実習、養護実習ともに3年次秋学期から4年次春学期に行い、オリエンテーション（大学教員による講義）、指導案の作成、模擬授業を行う。教育実習では、実習に向け準備すべき内容（教師としての自覚、教員としての服務規程、体罰・事故防止、守秘義務等）を学び、保健体育科・保健科の指導案作成や模擬授業等の準備を実施する。養護実習では、養護実習の目的や内容、養護教諭の職務の確認、指導案の作成について学び、実習に向けた注意点や心得を理解する。

事後指導は、教育実習、養護実習ともに4年次秋学期に行い、大学教員による講義、並びに教育実習報告会を行う。教育実習では、学生の実習体験発表、実習感想文の提出、アンケート調査等によって、教育実習の成果を振り返り、教員として必要な資質能力が培えたかどうかを確認し、総合的に評価を行う。そして、実習の省察し実習を総括することにより、教師の専門的力量や教師になるための資質についての理解を深める。養護実習では、実習の反省や振り返りを行い、理想とする養護教諭像を見つけることを目標とする。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回計画（教育実習（中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭））

各実習校と協議のうえ、実習毎に大学教員による訪問指導を実施する。訪問指導を行った教員は、学生の指導を行うとともに、実習校からの要望等を大学に報告し、教職課程における指導にフィードバックする。

ケ 実習施設における指導者の配置計画（教育実習（中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭））

教育実習生に対する実習指導教員が配置され、実習生に対して授業や指導案の作成、生徒への生活指導、課外活動の指導等について指導と助言を与える。また、教育実習中には研究授業等を通し、実習校内の教員から幅広く指導を受ける態勢となる。

コ 成績評価体制及び単位認定方法（教育実習（中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭））

中学校教諭及び高等学校教諭希望者が履修する「教育実習Ⅰ・Ⅱ（事前・事後指導を含む）」は、実習の事前準備、教育実習校からの評価、実習後の省察により評価を行う。事前指導では指導案への取り組み、事後指導では実習後の省察を評価する。教育実習校の評価(70%)、事前の指導における指導計画・模擬授業(10%)、事後指導における省察の内容(10%)、各種レポートの作成(10%)で配点し、授業担当者がそれぞれを本学の評価基準に照らして総合的に成績評価し単位を認定する。

養護教諭希望者が履修する「養護実習（事前・事後指導を含む）」も同様に、実習の事前準備、教育実習校からの評価、実習後の省察により評価を行う。事前指導は、実習に向けて意欲的な取り組みができているか、児童生徒への理解を深める姿勢ができているかについてのレポート(40%)、模擬実習(40%)、授業への参加度(20%)で配点し、事後指導は、実習記録の内容(50%)、報告会での発表内容(30%)、今後の学習課題の把握(20%)で配点する。授業担当者がそれぞれを本学の評価基準に照らして総合的に成績評価し単位を認定する。

（２）校外実習（栄養士養成課程）

ア 実習の目的（校外実習）

給食業務を行うために必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービスの提供に関する技術を修得することを目的とする。調理学、給食計画論、給食実務論を総括的に踏まえ、実際の現場で栄養士が果たすべき専門領域に関する能力や、栄養士が必要とする知識、技能、態度、考え方の総合的能力を養う。また、栄養の指導や給食の運営を行うために必要な能力を身につける。栄養士として具備すべき知識及び技能を修得するために、事前研修・事後研修（講義）、学外実習（実習）を通して、給食業務を行うために必要な給食サービス提供を学ぶ。

イ 実習先の確保の状況（校外実習）

栄養士養成課程のための校外実習は、「管理栄養士養成施設における臨地実習及び栄養士養成施設における校外実習について（平成 14 年 4 月 1 日 14 文科高第 27 号・健発第 0401009 号文部科学省高等教育局長・厚生労働省健康局長通知）」において、原則として少数グループにより行うことが規定されている。実習施設は、本学赤羽台キャンパス HELSP0 HUB-3（令和 5 年（2023 年）1 月竣工予定）に設ける学生食堂（コンパスグループ・ジャパン株式会社）を主な実習施設として計画しており、入学定員 100 名の実習受入れの承諾を得ている（資料 6-2 栄養士 実習受入承諾書）。その他本学部の拠点となる東京都北区エリアを中心とした施設（給食施設、保健所、保健センター等）に交渉のうえで、実施する可能性もある。

ウ 実習先との契約内容（校外実習）

「管理栄養士養成施設における臨地実習及び栄養士養成施設における校外実習 について（平成 14 年 4 月 1 日 14 文科高第 27 号・健発第 0401009 号文部科学省高等教育局長・厚生労働省健康局長通知）」の該当条項に従い、実習時期は 3・4 年次の適切な時期に受入実習先と協議のうえで実施するものとし、実習期間等も上記該当条項に従い決定し、実施する。

エ 実習水準の確保の方策（校外実習）

栄養士に関する知識や技術を持ち質の高い栄養士を養成するという観点から、まず、栄養士を志す学生に対し入学当初から栄養士課程の概要や履修指導を行い、責任感を持って栄養士課程に臨むよう、周知と指導を徹底する。また、校外実習を行う際は、授業科目の履修条件や実習の参加資格を設けそれを満たした学生のみ校外実習を認めることとする。実習参加資格を課すことで、校外実習に対する学生の意識づけを徹底している。実習に必要な準備ができていることや実習を行うに適した水準に達していることを確認のうえ実習参加者を確定することで、実習生の水準を確保している。

各実習担当教員は、実習内容等の実施要領を作成し、実習全体の責任者となって、実習施設との調整を図る。また、給食の運営管理、給食経営管理論、臨床栄養学、公衆栄養学、栄養教育論、応用栄養学の担当教員及び助手により実習担当を組織し、当該年度の実習の基本的事項を確認するほか、実習の履修資格認定や巡回指導日程、教員の割り振り等具体的な実習の運営を協議し実行していく。

オ 実習先との連携体制（校外実習）

栄養疫学・栄養教育ユニット教員 3 名が中心となり、スポーツ栄養・生理学ユニット教員 2 名、生活習慣病予防学ユニット教員 4 名を含めた体制で実習先との連携を図っていく。そして、同教員のもとで学科全体

の校外実習を管理し訪問指導教員を決定した後、校外実習生の指導や実習施設との連絡調整にあたっていく。また、学部内の「健康スポーツ科学部諸資格・教職課程委員会」（各学科より推薦された専任教員各1名、学部長が必要と認めたものによって構成）と連携を図りながら、適切な学生の指導、実習運営にあたっていく計画である。

カ 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）（校外実習）

以下の内容について周知・確認のうえ、これに基づき感染予防に関する対策、保険加入等の安全確保について指導を徹底する。

1. 定められた細菌（赤痢菌、サルモネラ菌、腸管出血性大腸菌 O-157）の検査結果が陰性であること。
2. 感染の恐れがあるウイルスに対する抗体（麻疹、風疹、水痘、ムンプス、B、C 型肝炎、新型コロナ等）の検査結果が陰性であること。
3. 実習先が求める血液・生化学検査が正常であること。
4. 実習先の事故等をカバーする保険に加入すること。

また、実習中に知り得た情報に関する守秘義務や SNS の利用に係る注意点等を含んだ誓約書の提出を求め、これを提出した学生のみ校外実習への参加を認めることで、校外実習に対する学生への注意喚起を徹底する。

キ 事前・事後における指導計画（校外実習）

事前指導は、実習開始前の適切な時期に、担当教員から実習の持ち物、服装等の注意事項、書類・実習ノートの書き方、課題が出された場合の取り組み方等についての指導を実施すると同時に、オリエンテーション（大学教員による講義）を合計して数時間実施する。事後指導は、実習終了後の適切な時期に、実習での経験を振り返り、自己評価を行うとともに、実習体験の普遍化を図る。大学教員による講義並びに実習報告会、合計数時間を行う。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回計画（校外実習）

各実習施設と協議のうえ、校外実習中に大学教員による訪問指導を実施する。訪問指導を行った教員は、学生の指導を行うとともに、実習施設からの要望等を大学に報告し、栄養士課程における指導にフィードバックする。

ケ 実習施設における指導者の配置計画（校外実習）

実習施設においては、実習生に対する指導者が決定され、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービスの提供に関する技術等について指導と助言を与える。

コ 成績評価体制及び単位認定方法（校外実習）

実習先での学修成果については、それぞれの実習先から発行される実習成果報告に基づき、単位認定が行われる。単位認定に際しては、まず栄養科学科会議で、学科の教育課程に定める要件に照らして認定可能な単位についての原案を作成し、健康スポーツ科学部教授会の議認を経て、単位の認定が行われる。

⑦企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

本学部の独自科目として、健康スポーツ科学科の学科専門科目に配置する「国際健康スポーツ交流B・C・D」、「健康スポーツインターンシップA・B」、「健康産業施設等現場実習」、同学科の教職科目となる「教職インターンシップA・B」、栄養科学科の学科専門科目に配置する「国際栄養科学交流」がある。

いずれも選択科目となり単位修得を卒業要件とはしておらず、学生の興味や志向に対応できるよう配置しているものである。それぞれについての具体的計画を以下に記す。

（１）国際健康スポーツ交流B・C・D（健康スポーツ科学科専門科目）

ア 実習先の確保の状況（国際健康スポーツ交流）

本科目の目的は、国内外の様々な健康づくりやスポーツ活動の現場で展開される研修プログラムや留学プログラムに参加することであり、それまでに学んだ知識や技術、能力を実践の場でどの程度使いこなせるか試行するとともに、現場に出ることでは体験できない感覚や実践知を獲得することである。

主たる実習先は、本学との提携関係にある大学や、基礎となるライフデザイン学部教員が個々に教育研究等で関係を築いてきた海外の大学や研究機関になる。それら諸機関との間に恒常的に構築されている研究教育上の関係を通じて情報を共有し、海外研修の実施に関する詳細等も連携して計画されている。具体的な例として、カンボジアにおける国立体育スポーツ研究所とは、近年、同国の体育科教育の近代化や、生涯スポーツの普及のための研究や教育を共同で推進し、既に本学学生の現地での模擬授業や、生涯スポーツの指導等も成功裏に終え、両者にとって意味ある成果もあげている。また、インドネシアのヒンドゥー大学は本学と提携関係にあり、同大学の学長やヨガの担当教員も本学のスポーツ施設を訪れ、ヨガの共同研究や、本学の学生に向けたヨガの特別講座の実施についても本学の教員と共同で企画してきた。これらの実績をベースに健康スポーツ科学部でも実習を展開していく。（資料7 国際健康スポーツ交流 訪問先一覧）

イ 実習先との連携体制（国際健康スポーツ交流）

健康やスポーツに関わる領域において個々に交流実績を有する教員の関係や、大学間の提携関係を基盤にした有効な連携関係をもとに、研究や交流の成果を学生の教育に最大限生かすべく、現地の諸機関と質の高い実習に向けて綿密な相談を重ねている。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法（国際健康スポーツ交流）

海外研修のみならず、それに先立って実施される事前学習や、研修後の事後学習までを含め、一つの学びの体系とし、それらをすべて完了した学生を評価の対象とする。本研修の目的は、単に特定の国や地域の言語、歴史、あるいはその社会における健康やスポーツに関する情報を習得するにとどめず、異文化を理解する素養や技術などを養うことも企図している。そのため、評価については、事前事後の学習も含め、知識の到達度はもとより、異文化に対する学びの姿勢や接し方も含めて評価の対象とする。事後学習の中で実施される意見交換会や、課題として求められるレポートなどで客観的に測る他、現地において関わるカウンターパートの担当者の評価も一部参考にしていく予定である。それらを引率した実習担当者が本学の成績評価基準に照らして総合的に成績評価し、単位を認定する。

エ その他特記事項（国際健康スポーツ交流）

上記に加え、1年次の必修科目として「国際健康スポーツ交流A」を配置しているが、これはグローバルな発想を養うことを目的とした演習形式の授業のため、海外研修や海外実習等の学外実習にはあたらない。「国際健康スポーツ交流A」で国際交流について触れた後、実際に「国際健康スポーツ交流B・C・D」で健康づくりやスポーツ活動の現場で展開される多様な研修プログラムや留学プログラムに参加し、グローバル教育を体験的に修められる体系にしている。

（2）健康スポーツインターンシップA・B（健康スポーツ科学科専門科目）

ア 実習先の確保の状況（健康スポーツインターンシップ）

本科目の目的は、健康スポーツに関わる現場等において就業体験を行い、得た知見・体験をキャリアパスに活用することである。インターンシップの理解や業種別ロールプレイの実施等の学びの後、延べ10日間以上のインターンシップに従事し、実施後には独自の業界研究等を加味したプレゼンテーションとディスカッションを行うことで、学びを深める。

インターンシップの実施先（民間企業、教育機関等）は国内に限定するとともに、学生各人のスケジュールで主体的にインターンシップを探索・応募をすることとし、その上で担当教員が単位認定の対象として適切かを判断する。

イ 実習先との連携体制（健康スポーツインターンシップ）

上記のとおり、本科目は主体的な活動を原則としていることから、本学教員と実習先との連携体制は敷いていないが、学生自身が円滑に実習先と連携が取れるよう指導を徹底している。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法（健康スポーツインターンシップ）

延べ10日間以上のインターンシップへの従事を基本とし、独自の業界研究等を加味した授業時のプレゼンテーション（1人1回以上）及びレポート提出により単位を認定する。インターンシップ受入先による評価（40%）、プレゼンテーション及びレポート内容（40%）、実習日誌・自己評価（20%）で配点し、授業担当者がそれぞれを本学の成績評価基準に照らして総合的に成績評価し、単位を認定する。

エ その他特記事項（健康スポーツインターンシップ）

特になし

（3）健康産業施設等現場実習（健康スポーツ科学科専門科目）

ア 実習先の確保の状況（健康産業施設等現場実習）

本科目は、健康運動指導士資格取得において必須の実習であり、4年次の11月下旬より約1週間の実習を課す。セントラルスポーツ株式会社との契約のもと、セントラルウエルネスクラブ志木店にて実施する。学生は事前指導でスポーツクラブの施設概要を学んだ後、スイミングの監視法やトレーニングの指導法に加え、様々なスポーツプログラムの実践体験をする。専任教員による事前指導（90分×4回）及び事後指導（90分×2回）が実施されるとともに、担当教員による巡回等を頻回に行う。（資料8 健康産業施設等現場実習スケジュール例）

イ 実習先との連携体制（健康産業施設等現場実習）

毎年5月より本実習担当の専任教員とセントラルウエルネスクラブで計画を進め、10月に学生の実習スケジュールを確定させる。実習の実施にあたってはセントラルウエルネスクラブとの協議内容に基づき事前指導を十分に実施し、実習中も担当教員が実習施設店と頻回に連絡を取り巡回指導を実施する。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法（健康産業施設等現場実習）

実習への出席度 50%、実習施設の評価 30%、事前指導の提出資料（ファイル送信レポート）10%、実習報告書（ファイル送信レポート）10%で配点し、実習担当者がそれぞれを本学の成績評価基準に照らして総合的に成績評価し単位を認定する。

エ その他特記事項（健康産業施設等現場実習）

特になし

（4）教職インターンシップ A・B（健康スポーツ科学科教職科目）

ア 実習先の確保の状況（教職インターンシップ）

本科目は、義務教育段階（小学校または中学校）の学校や教育に関わる社会現場でのインターンシップに参加し、教育活動の観察や教育実践等を行うものである。教育実習前に教育現場を体験することにより、学校の雰囲気や教員の職務内容を知り、教員としての力量形成や資質の向上を行い、将来教職に就くためのキャリア形成を考える。

インターンシップの実施先は、本学の教職支援室やキャリア支援センター等を活用して学生自身が開拓のうえで担当教員に申し出ることとし、担当教員がインターンシップ先として適切かを確認したうえで受講を決定する。

イ 実習先との連携体制（教職インターンシップ）

原則的に履修学生がインターンシップ先を開拓するが、本学卒業生が教員として勤務している学校や教職支援室を通して、ボランティア派遣校等と連携をとる体制も構築されているため、インターンシップ先の斡旋も行う。また、東京都北区教育委員会との連携のもと、北区にある小学校・中学校からのインターン希望に基づく派遣を行う。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法（教職インターンシップ）

インターンシップ期間は、原則として授業開講期間中に週1回2時間以上とし、実習先での観察・実践に関して毎回省察を行う。インターンシップ終了後は報告書を担当教員に提出する。学修到達目標に達しているかが単位認定の基準となる。インターンシップ受入先での評価（70%）、活動報告書の内容（30%）で配点し、授業担当者がそれぞれを本学の成績評価基準に照らして総合的に成績評価し、単位を認定する。

エ その他特記事項（教職インターンシップ）

特になし

（５）国際栄養科学交流（栄養科学科専門科目）

ア 実習先の確保の状況（国際栄養科学交流）

本科目は、将来グローバルに活躍できる栄養士として必要な経験を積むために、国内外における大学・研究機関等で英語でのコミュニケーションを中心とした研修を展開するものである。本学の主要な提携大学との間で行う海外インターンシップ、あるいは国内における研究機関等で国際的な活動に参加し、我が国と世界における食文化、食環境づくりの特徴、健康上の課題、更には栄養政策・施策の違いを整理する。

訪問先は、交流実績があり提携校であるチュラロンコン大学（タイ）、関係する学部があるタマサート大学（タイ）、教員間交流のあるオタゴ大学（ニュージーランド）、タスマニア大学（オーストラリア）等を計画している。

イ 実習先との連携体制（国際栄養科学交流）

学科長を中心に、関係する専任教員が実習先の担当部署と密に連絡をとるシステムを構築する。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法（国際栄養科学交流）

海外インターンシップ、あるいは国内における研究機関等で国際的な活動に参加し、我が国と世界における食文化、食環境づくりの特徴、健康上の課題、更には栄養政策・施策の違いを整理した上で、プレゼンテーションとして発表及び質疑応答の機会を設け、活動終了後には英語によるレポート提出を課す。

エ その他特記事項（国際栄養科学交流）

特になし

⑧取得可能な資格

健康スポーツ科学部で取得可能な資格を学科ごとに記す。

（１）健康スポーツ科学科で取得可能な資格

資格名	資格の種類	資格取得の条件
高等学校教諭１種免許状（保健）	国家資格 資格取得	卒業要件単位に含まれる科目のほか、 教職関連科目の修得が必要
高等学校教諭１種免許状（保健体育）	国家資格 資格取得	卒業要件単位に含まれる科目のほか、 教職関連科目の修得が必要
中学校教諭１種免許状（保健）	国家資格 資格取得	卒業要件単位に含まれる科目のほか、 教職関連科目の修得が必要
中学校教諭１種免許状（保健体育）	国家資格 資格取得	卒業要件単位に含まれる科目のほか、 教職関連科目の修得が必要
養護教諭１種免許状	国家資格 資格取得	卒業要件単位に含まれる科目のほか、 教職関連科目の修得が必要
グループエクササイズフィットネス インストラクター（GFI）	民間資格 受験資格取得	卒業要件単位に含まれる科目の修得 のみで取得可能
健康運動指導士	民間資格 受験資格取得	卒業要件単位に含まれる科目の修得 のみで取得可能

資格名	資格の種類	資格取得の条件
トレーニング指導者	民間資格 受験資格取得	卒業要件単位に含まれる科目の修得のみで取得可能
公認スポーツ指導者	民間資格 資格取得	卒業要件単位に含まれる科目の修得のみで取得可能
レクリエーション・インストラクター	民間資格 資格取得	卒業要件単位に含まれる科目のほか、現場実習が必要
障がい者スポーツ指導員	民間資格 資格取得	卒業要件単位に含まれる科目のほか、現場実習が必要
第一種衛生管理者	国家資格 資格取得	卒業要件単位に含まれる科目の修得のみで取得可能

(2) 栄養科学科で取得可能な資格

資格名	資格の種類	資格取得の条件
栄養士	国家資格 資格取得	卒業要件単位に含まれる科目の修得のみで取得可能
食品衛生管理者（任用資格）	国家資格 資格取得	卒業要件単位に含まれる科目の修得のみで取得可能
食品衛生監視員（任用資格）	国家資格 資格取得	卒業要件単位に含まれる科目の修得のみで取得可能
健康運動実践指導者	民間資格 受験資格取得	卒業要件単位に含まれる科目の修得のみで取得可能

⑨入学者選抜の概要

本学に入学することのできる者は、高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者若しくは通常の課程による十二年の学校教育を修了した者、又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者とする（学校教育法第56条）。また、入学者の選抜では、公正かつ妥当な方法により、適当な体制を整えて行うものとする（大学設置基準第2条の2）。

健康スポーツ科学部では、前述の学部の人材の養成に関する目的や教育目標に基づき、以下のような意欲と能力を備えた人物を受け入れる。

- (1) 健康スポーツ科学に関心をもち、スポーツや栄養を通じて人々の健康に寄与する意欲がある。
- (2) 倫理観を備え、他者と協働して取り組む姿勢やコミュニケーション力がある。
- (3) 問題意識や目的をもち、自ら積極的に学ぼうとする意欲がある。
- (4) 健康スポーツ科学部で学ぶために必要な基礎的学力を有する。

また、それぞれの学科では学部の受け入れ方針に基づき、以下のアドミッションポリシーを掲げる。

健康スポーツ科学科のアドミッションポリシー

- (1) 健康スポーツ科学に関心をもち、スポーツを通じて人々の健康に寄与する意欲がある。
- (2) スポーツを「する」人、「みる」人、「ささえる」人として社会に貢献する意欲がある。
- (3) 積極的に学ぼうとする意欲をもち、他者と協働して取り組む姿勢がある。

- (4) 多様性を理解し、様々なライフステージや生活状況にある人々に対する関心や理解をもち、愛情を持ってコミュニケーションをとる姿勢と能力がある。
- (5) 健康スポーツ科学科で学ぶために必要な基礎的学力を有する。

栄養科学科のアドミッションポリシー

- (1) 食品の栄養学的機能が身体活動に与える影響について関心がある。
- (2) 健康・スポーツを支援する専門人材として栄養管理に携わり活躍する意欲と能力がある。
- (3) 専門知識や技術を活かし社会に貢献したいという目的意識と向上心をもつ。
- (4) 広い視野と柔軟な発想をもち、常に自ら積極的に学ぼうとする強い意欲がある。
- (5) 「栄養」、「スポーツ」、「健康」を総合的に理解するために必要な基礎学力を有し、生物学や化学等の必要とされる基礎科目も意欲的に勉学する姿勢をもつ。

上記のような適性や能力を持つ入学者を獲得するべく、本学部では以下のとおり複数の選抜方法を設ける。

- (1) 一般入学試験
- (2) 大学入学共通テストを利用した入学試験
- (3) 自己推薦入学試験
- (4) 特定スポーツ種目自己推薦入学試験（健康スポーツ科学科のみ）
- (5) 指定校推薦入学試験
- (6) 附属及び協定高等学校推薦入学試験
- (7) 運動部優秀選手推薦入学試験
- (8) 外国人留学生入学試験
- (9) 海外帰国生入学試験
- (10) 国際バカロレア AO 入学試験

健康スポーツ科学科の募集人員は、(1)115名、(2)40名、(3)(4)25名、(5)15名、(6)8名、(7)15名、(8)12名、(9)(10)若干名とし、筆記試験を主とする(1)(2)の入学試験で70%程度、推薦入試や外国人留学生入試等の(3)～(10)の入学試験で30%程度の入学者を受け入れる予定である。

栄養科学科では、(1)45名、(2)20名、(3)10名、(5)10名、(6)若干名、(7)10名、(8)5名、(9)(10)若干名とし、筆記試験を主とする(1)(2)の入学試験で65%程度、推薦入試や外国人留学生入試等の(3)～(10)の入学試験で35%程度の入学者を受け入れる予定である。

筆記試験である本学独自の入学試験（一般入学試験）と大学入学共通テストでは、受験科目や配点について複数の方式を用意し、多様な受験の機会を提供する。特に学部が求める高い英語運用能力を有する人材を獲得するために、一般入学試験、大学入学共通テストともに英語重視型の配点方式を導入する。なお、外国語科目に関しては、GTEC（4技能版）、TEAP（4技能）、IELTS、実用英語技能検定（英検）等の外部試験も利用することで、英語の4技能に秀でた人材の確保を目指す。得点換算の方式については、文部科学省の指針に従い、本学全学で基準を定め、他の受験生との公平性が確保された入学試験を実施する。

また、(3)～(7)推薦入試を活用して、学部学科の教育目標に合致する経験や実績、可能性をもち、大学入学後の学習においてリーダーシップを発揮し、主体的かつ積極的に参加できる資質や意欲をもった学生を獲得する。特に(4)特定スポーツ種目自己推薦入試では、多様化するスポーツの種目に合わせ、これまでの一般

的なスポーツ推薦種目になかったアーバンスポーツやエクストリームスポーツにおいて優秀な活動成績をもち、入学後もその種目における活躍や将来のスポーツ振興に貢献できる人材を発掘し獲得する（健康スポーツ科学科のみ）。併せて、(5)指定校推薦、(6)附属高等学校推薦、(7)運動部優秀選手推薦を予定し、それぞれ受け入れる。

一方、グローバル化時代の社会的要請に応え、また入学する学生の言語・文化的多様性を更に高めるために、(8)学部全体で入学定員の 5～10%程度の外国人留学生を受け入れる。その際、本学独自の入学試験だけでなく日本留学生試験利用入試や日本語学校指定校入試も実施する。更に、(9)海外帰国生入学試験も実施して、国外の高等学校等で学んだ者も若干名受け入れる。留学生の日本語能力等の資格要件は、外国人留学生入試に関しては日本留学試験を受験しその日本語得点が 300 点（記述を含む）以上であるものとし、国際バカロレア A0 入試に関しては国際バカロレア資格の取得において日本語 B（HL）を履修した者とする。経費支弁能力は、入国在留管理局に「在留資格認定証明書」の交付申請を行う際と在留資格の更新を行う際の確認に基づくこととする。また在籍管理についても、PUGS（東洋大学在留資格申請システム）を利用し、在留期限の近い学生には配信メールを送信するとともに、在留期間更新許可申請書等を大学登録の住所へ発送する。更新手続き後、学生は大学窓口で更新状況を申請することとする。また、各学期において履修登録がなされていない学生や修得単位の少ない学生に対しては通常の成績通知より前の段階で成績表を送付し、単位修得状況の確認を行う等の方法で管理を行っていく。

なお、今のところ社会人入学試験の実施による受け入れは予定していない。

専任教員や校地・校舎、教育を行うに支障のない範囲で科目等履修生、聴講生も若干名の受け入れを予定しているが、受講の可否は、履修を希望する科目の状況、志願書類及び面接等をもとに判断する。

⑩教員組織の編成の考え方及び特色

教員組織の編成においては、各学科の「教育研究上の目的を達成するため、教育研究組織の規模並びに授与する学位の種類及び分野に応じ、必要な教員を置く。」に準じて教員を配置している（大学設置基準第 7 条第 1 項）。学生規模や学問分野に対応する教員組織の編成と特色を以下に述べる。

（１）健康スポーツ科学科の教員組織の編成の考え方及び特色

入学定員 230 名を有する健康スポーツ科学科は、ライフデザイン学部健康スポーツ学科（入学定員 180 名）を基礎とする学科であり、今回の改組によってスポーツ科学領域を中心に領域を拡充するとともに、これまで対象としてきた「子どもから高齢者、障がい者」といった一般の人々の健康に加えて、アスリートのパフォーマンス向上に向けた教育研究を展開していくため、それに対応するかたちで専任教員の充実を図っている。基礎となるライフデザイン学部健康スポーツ学科（入学定員 180 名）から異動する専任教員 16 名に加え、新規で採用する専任教員 6 名の合計 22 名で学科を構成する。退職教員等の影響により、完成年度時点は専任教員 20 名を計画しているが、学科の運営状況や今後の展望によっては更に専任教員を補充する可能性がある。なおこの専任教員数は、大学設置基準第 13 条の別表 1 に定める専任教員数 13 名を充足するとともに、同別表第 2 の専任教員数についても大学全体で充足している。

「教育研究の実施に当たり、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し、教育研究に係る責任の所在が明確になるよう」（大学設置基準第 7 条第 2 項）学科主任を置くとともに、学部内及び学科内に必要に応じ各種委員会等を整備し、全学及び学部と連携を図りながら教育研究を運営する。

本学科では前述の 8 つの分野（ユニット）を教育研究の中心とし、「④教育課程の編成の考え方及び特色」に対応した領域を専門教育科目に設定していることから、以下の教員構成とする。これに加えて、ユニットに対応するかたちで助教を 8 名配置する計画である。

＜健康スポーツ科学科の教員構成（完成年度末日時点）＞

○各分野の教員構成

- ①ヒューマン・ボディ・サイエンス 2 名：教授 2 名（50 代 1 名、40 代 1 名）
- ②コミュニティ健康スポーツ 3 名：教授 2 名（60 代 2 名）、准教授 1 名（60 代）
- ③学校保健・スポーツ教育 3 名：教授 1 名（50 代）、准教授 2 名（50 代 2 名）
- ④健康・スポーツ文化 3 名：教授 1 名（50 代）、准教授 1 名（40 代）、講師 1 名（30 代）
- ⑤アスレティック・コンディショニング 2 名：教授 1 名（50 代）、講師 1 名（40 代）
- ⑥スポーツ情報 1 名：准教授 1 名（50 代）
- ⑦コーチング 2 名：准教授 1 名（40 代）、講師 1 名（30 代）
- ⑧スポーツビジネス 2 名：准教授 1 名（30 代）、講師 1 名（50 代）
- ⑨哲学・倫理教育 1 名：准教授 1 名（40 代）
- ⑩英語教育 1 名：准教授 1 名（50 代）

○学科教員全体の身分構成

教授 7 名（35%）、准教授 9 名（45%）、講師 4 名（20%）

○学科教員全体の取得学位構成

博士 13 名（65%）、修士 7 名（35%）

○学科教員全体の年齢構成

60 代 3 名（15%）、50 代 9 名（45%）、40 代 5 名（25%）、30 代 3 名（15%）

○学科教員全体の性別構成

男性 12 名（65.22%）、女性 8 名（34.78%）

各分野の教員構成をみると、職位や年齢構成のバランスに配慮し、ユニットによる教育や研究が円滑に実施できる配置となっている。学科教員全体の身分構成をみると、教授・准教授が 80%となっている。学科の基幹科目となる各ユニットの代表的な科目は、教授または准教授が担当し、教育の質を担保している。学科教員全体の取得学位構成をみると、博士取得者が 65%となるが、修士学位の教員に博士学位の取得を啓発しており、今後博士取得者数の増加が見込まれる。学科教員全体の年齢構成でみると、30 代から 50 代がバランス良く配置されている。学科教員全体の性別構成をみると男性教員が約 65%となるが、基礎とするライフデザイン学部健康スポーツ学科学生の男性比率が約 57%（令和 3（2021）年度時点の在校生平均）と女性よりも若干高い傾向にある状況からも、適当といえる。

（2）栄養科学科の教員組織の編成の考え方及び特色

入学定員 100 名を有する栄養科学科は、食環境科学部食環境科学科スポーツ・食品機能専攻（入学定員 50 名）を基礎とする学科であり、今回の改組によって従来展開してきた運動生理学や食品機能等の生命科学系分野はもとより、「スポーツと栄養」「身体活動と食生活」という視点に基づくスポーツ科学と栄養科学の学際領域を強化していくため、それに対応するかたちで専任教員構成の見直しと充実を図っている。基礎とする食環境科学部食環境科学科から異動する専任教員 3 名、食環境科学部健康栄養学科から異動する専任教員

2 名、理工学部生体医工学科から異動する専任教員 1 名、ライフデザイン学部健康スポーツ学科から異動する専任教員（外国語講師）2 名に加え、新規に採用する専任教員 4 名の合計 12 名で学科を構成する。退職教員等の影響により、完成年度時点は専任教員 10 名を計画しているが、学科の運営状況や今後の展望によって専任教員を補充する可能性がある。なおこの専任教員数は、大学設置基準第 13 条の別表 1 に定める専任教員数 9 名を充足するとともに、同別表第 2 の専任教員数についても大学全体で充足している。

「教育研究の実施に当たり、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し、教育研究に係る責任の所在が明確になるよう」（大学設置基準第 7 条第 2 項）学科主任を置くとともに、学部内及び学科内に必要に応じ各種委員会等を整備し、全学及び学部と連携を図りながら教育研究を運営する。

本学科では前述の 4 つの分野（ユニット）を教育研究の中心とし、「④教育課程の編成の考え方及び特色」に対応した領域を専門教育科目に設定していることから、以下の教員構成とする。これに加えて、ユニットに対応するかたちで助教を 4 名、栄養士資格養成要員の実習指導助手を 3 名配置する計画である。

< 栄養科学科の教員構成（完成年度末日時点） >

○各分野の教員構成

- ①栄養疫学・栄養教育2名：准教授1名（40代）、講師1名（30代）
- ②スポーツ栄養・生理学2名：教授2名（60代1名、40代1名）
- ③食理学3名：教授2名（60代2名）、講師1名（30代）
- ④生活習慣病予防学3名：教授1名（50代）、准教授2名（50代2名）

○学科教員全体の身分構成

教授5名（50%）、准教授3名（30%）、講師2名（20%）

○学科教員全体の取得学位構成

博士10名（100%）

○学科教員全体の年齢構成

60代3名（30%）、50代3名（30%）、40代2名（20%）、30代2名（20%）

○学科教員全体の性別構成

男性5名（50%）、女性5名（50%）

各分野の教員構成をみると、職位や年齢構成のバランスに配慮し、ユニットによる教育や研究が円滑に実施できる配置となっている。学科教員全体の身分構成をみると、教授・准教授が 80%となっている。学科の基幹科目となる各ユニットの代表的な科目は、教授または准教授が担当し、教育の質を担保している。学科教員全体の取得学位構成をみると、博士取得者が 100%となる。学科教員全体の年齢構成でみると、30 代から 60 代がバランス良く配置されている。学科教員全体の性別構成をみると、男女が概ね半々で構成され、バランスの取れた配置となっている。本学科の基礎となる食環境科学部食環境科学科スポーツ・食品機能専攻の女性比率（令和 3（2021）年度時点の在校生平均）が 56%と男性よりも若干高い状況からも、女性教員の一定数の配置は適当である。

両学科に共通して本学の定年年齢（資料 9 教職員定年規程）である 65 歳を超えて雇用する教員がいるが、これは教育評価が高く、心身ともに健康で、かつ本学が必要とする場合に限定し、最長 70 歳まで引き続き専任教員として雇用することができる年俸制雇用契約制度（資料 10 年俸契約雇用制度に関する要綱）を適用するものである。いずれも学部構想を実現に導くための中心的な役割を担い、国内外において評価の高い研

究者である。そして、学生の教育研究指導のみならず、後進の育成にも不可欠な人材である。退職後には速やかに後任となる教員の補充を行い、教員組織は常にバランスを保っていく。

⑪施設、設備等の整備計画

ア 校地、運動場の整備計画

健康スポーツ科学部が設置される赤羽台キャンパスは、JR 赤羽駅から徒歩 8 分、東京メトロ南北線赤羽岩淵駅から徒歩 12 分程度の場所にあり、都心方面を望む東京都北区赤羽台の高台にある校地面積 35884.71 m² の都市型キャンパスである。

赤羽台キャンパスを開学した平成 29 年（2017 年）以降の校地や施設は、学部学科の改組・移転にあわせ以下のとおり変遷している。

平成 29 年 1 月 INIAD HUB-1 竣工

平成 29 年 4 月 赤羽台キャンパス開学

情報連携学部（INIAD）及び情報連携学研究科 開設

令和 03 年 1 月 WELLB HUB-2 竣工

令和 03 年 4 月 ライフデザイン学部及びライフデザイン学研究科 移転

令和 04 年 1 月 AI-House HUB-4 竣工

令和 04 年 4 月 国際交流宿舍 開設

令和 05 年 1 月 HELSPO HUB-3 竣工

令和 05 年 4 月 健康スポーツ科学部、健康スポーツ科学研究科、福祉社会デザイン学部 開設

社会学部 1 部社会福祉学科及び社会福祉学研究科 移転

令和 06 年 4 月 食環境科学部食環境科学科スポーツ・食品機能専攻 移転

（１）校地の整備概要

前述のとおり、赤羽台キャンパスの校地や施設は、学部学科の改組・移転に併せて計画され、平成 29 年（2017 年）4 月に開設した情報連携学部の拠点である「INIAD HUB-1（校地面積 13186.46 m²、校舎面積 18486.74 m²／地上 5 階建て）」と、令和 3 年（2021 年）4 月に埼玉県朝霞市より移転したライフデザイン学部の拠点である「WELLB HUB-2（校地面積 6860 m²、校舎面積 21980.12 m²／地下 1 階・地上 9 階建て）」に加え、令和 5 年（2023 年）4 月にライフデザイン学部等を基礎とした学部の新設にあたり、新たに体育館棟・食堂棟・図書館棟を有する「HELSPO HUB-3（校地面積 15837.71 m²、校舎面積 31678.94 m²／地下 1 階・地上 6 階建て）」を建設することとなった。大学設置基準第 37 条の 2 に定める校舎面積の基準を十分に満たしており、改組前後における収容定員の増加に対応できる計画となっている。

令和 5 年（2023 年）4 月以降は、情報連携学部は従前どおり INIAD HUB-1 を、福祉社会デザイン学部は主に WELLB HUB-2 を、健康スポーツ科学部は主に HELSPO HUB-3 を拠点として、教育研究を始動させる。

（２）校地の整備計画方針

HELSPO HUB-3 の整備は、「キャンパスの連携強化」「地域交流の促進」「コミュニケーションの活性化」「校舎間の動線計画」「周辺環境への配慮」等を考慮しており、1 期目の INIAD HUB-1（情報連携学部）から 2 期

目の WELLB HUB-2（福祉社会デザイン学部）、3 期目の HELSP0 HUB-3（健康スポーツ科学部）の校舎を繋ぐ構造になっている。建物内に各棟を繋ぐ回路ブリッジを設けることでスムーズな動線や歩車分離を図っている。またキャンパスの賑わいを生み出す広場やトポテラス、緑道沿いの広場等開放的な空間を設けるとともに、建物間を繋ぐブリッジへの交流テラスの設置、食堂・売店・カフェの増設等、学生の休息場所の確保をはじめ様々な交流を促す空間を充実させ、地域にも開かれたキャンパスとしている。また、防災広場の機能にも配慮している。周辺へのインパクトを軽減する外観や、サステナビリティにも配慮した内観にするとともに、維持管理費や CO2 派出を低減し、環境に負荷を与えない工夫を行い、校地の拡充後も周辺環境や省エネルギー・省資源の実現への配慮を行っていく。

イ 校舎等施設の整備計画

前述のとおり、赤羽台キャンパスは、令和 5 年（2023 年）4 月にライフデザイン学部等を基礎とした学部の新設により学生数や教育研究内容に対応する環境を整備する。

（１）教室及び教員研究室の整備計画

改組前後の主な施設概要（予定）は、以下のとおりである。

	HELSP0 HUB-3 (新設)	WELLB HUB-2 (既設)	備考
一般教室	40 名×5 室※2、 80 名×2 室※2、 120 名×3 室※2	20 名×8 室、30 名×1 室、45 名×6 室、 66 名×2 室、81～84 名×7 室、102 名×2 室、 132 名×2 室、168 名×1 室、177 名×1 室、 180 名×2 室※1、200～204 名×2 室※1、 210 名×1 室、252～255 名×2 室、303 名×1 室	※1 1 室増設 ※2 全室増設
PC 教室	×	48 名×1 室、80 名×1 室、100 名×1 室	
各種実験実習演習室	○※	○	※増設
スポーツ施設	○※	×	※増設

現在の教室稼働率や新たに増加が見込まれる利用数、HELSP0 HUB-3 及び WELLB HUB-2 に新たに設ける教室を加味して教室稼働率を算出すると、小教室（99 名以下）45%、中教室（100～199 名）49%、大教室（200 名以上）60%、PC 教室 56%、キャンパス全体で 47%が見込まれていることから、十分な教室数を確保しているといえる（資料 11 赤羽台キャンパス教室稼働率、授業時間割表案）。なお、一般教室や PC 教室は、2 学部の教育課程や時間割を考慮しながら、両学部で共同利用することで HELSP0 HUB-3 と WELLB HUB-2 を有効に活用していく。

健康スポーツ科学部では様々な実験・実習を扱うため、学部の教育内容に即した各種実験実習室を設けるが、これらも教育効果を考慮した適正なコース数での利用・運営が可能であることを確認している。加えて、十分な規模の体育館を設置することにより、ライフデザイン学部において本学総合スポーツセンター（東京都板橋区）を会場としていた実技科目を含むスポーツ実技については、赤羽台キャンパスでの実施を基本とする。これにより学生の授業会場の移動負荷が軽減される。スポーツ実技の会場についても、授業機会を適正に確保できることを確認している。施設・設備の詳細は、次の（２）HELSP0 HUB-3 の施設設備で説明する。

教員の研究室は、学部ごとに活動拠点の建物に設けることとし、健康スポーツ科学部教員の研究室は既存教員を含むすべてを HELSP0 HUB-3 内に設置する。個室を設けることで情報管理等の機密性を確保するとともに、プライバシーが確保された環境で学生が自由に学修等の相談に訪れることができる。

（２）HELSP0 HUB-3 の施設設備

健康スポーツ科学部が主に使用する HELSP0 HUB-3 は、既設校舎の隣地で最も駅に近い南側の敷地を校地とし、体育館棟と図書館棟、食堂棟により構成される。前述のとおり、各ユニット（健康スポーツ科学科 8 ユニット、栄養科学科 4 ユニット）を教育研究の中心とし、これに対応した教育課程や教員組織を編成していることから、それらを踏まえ必要な施設・設備を設ける。施設・設備の詳細は、以下のとおりである。

＜体育館棟＞

体育館棟は、健康スポーツ科学科の教育研究に必要な機能を中心とした施設設備となっている。

1 階は、ダンスや多種目のスポーツ等で使用する「多目的室 2 室」に加え、「武道場 2 室（柔道場、剣道場）」、「外来者用のトレーニングルーム」を配置する。この他にも健康スポーツ科学科で使用する「実習室（運動生理学、バイオメカニクス）」や栄養科学科の「調理実習室 4 室」、「食堂実習室」を配置するとともに、「超音波心電図測定室」、「トレッドミル室」、「骨密度撮影室」、「トレーニング室」といった健康スポーツ科学の教育研究に必要な特殊設備のある部屋や「診療室」も配置する。

2 階は、「教育研究用のトレーニング室」、「コンディショニングルーム」があるほか、健康スポーツ科学科の「実習室（生体化学、解剖学、保健科学等）」、「顕微鏡室 2 室」を配置する。

3 階は、バスケットボールコート 3 面を確保できる広さを持つ「アリーナ」が占めている。付設する観客席は、約 2700 席（3 階移動座席 864 席、4 階固定座席 848 席、その他 3・4 階に仮設座席等）を予定している。また、体育館棟の 4 階から食堂棟屋上へと繋がる部分に「陸上タータン走路（80m×3 本）」を設置し、実技や測定を可能としている。

＜食堂棟＞

食堂棟は、栄養科学科の教育研究に必要な機能を中心とした施設設備となっている。

地下には、動物実験に対応するための「動物搬入室」「解剖室 2 室」「解剖学実験室」「マウス室」「ラット室」「検疫室」等を設け、栄養科学科と健康スポーツ科学科が共同利用する。なお、動物実験施設に際しては、本学の動物実験等の実施に関する規程に従い関係機関への届け出及び認可承諾のもとその運営、維持管理を行う。加えて、運動部優秀選手を一定数受け入れることから、そのための練習室や部室等の施設も設ける。

1 階は、食堂（268 席）やカフェ（24 席）、売店を配置する。

2 階は、栄養科学科で使用する「実験・実習室（スポーツ栄養学、栄養疫学）」、「栄養指導室」、「栄養生理学実習ルーム」、「病態制御室」、「病理室」、「人口環境制御室」、「睡眠実験室」、「代謝測定室」、「分析器室」等栄養科学の教育研究に特有の各種実験・実習室を配置する。

3 階は、栄養科学科で使用する「実験・実習室（公衆衛生学、分子食理学、応用食理学、食品栄養学）」、「培養実験室」、「一般教室（120 名収容）」を配置する。

このように、棟ごとに各学科が必要とする機能を概ね集約し、利便性を図っている。なお、栄養士養成施設としての許認可を得るため、栄養科学科の実験実習施設は栄養士養成施設の設置基準に則った広さや機能を整える。

＜図書館棟＞

WELLB HUB-2 の 3 階に位置する仮設の図書館を移転し、図書館棟として施設の規模や機能を拡充させる。1 階から 3 階（西側）が赤羽台図書館となり、3 階（東側）及び 4 階から 6 階には教室と研究室等を設置する。

1階は、図書館の入退館口を置き、カウンターや事務室等、館内の管理業務をここに集約する。利用者用エリアには「アクティブラーニングエリア」、「グループ学習室3室」、「PCコーナー」、「雑誌コーナー」等を配置し、多機能学習機能を備える。また、地域開放を見据えた「こども図書館」を設置し、学生の学修支援との両立を目指す。加えて、図書館に長時間滞在する学生が休憩を取りやすいよう、入退館口近くにはカフェとリフレッシュコーナー（自動販売機コーナー）を併設する。

2階は、「閲覧席」、「セミナー室」、「書架（開架）」「書庫（閉架）」を配置する。

3階は、「閲覧席」、「個室学習室8室」、「書架（開架）」、及び図書館外の区画には、「一般教室（80名収容）2室」、「ホール（300名収容）」を配置する。

4階は、主に教室となり、「一般教室（120名収容）2室」「一般教室（40名収容）5室」を配置する。

5・6階は、主に健康スポーツ科学部教員の研究室を備える。各研究室に取り囲まれるような形でフロアの中央には会議室や学科の共同研究室、学習指導室、院生の共同研究室等を整備する。

以上のように、体育館棟と食堂棟を中心に本学部の特性に即した教育研究環境を整備している。また食堂棟には一般教室を増設し収容定員増加に対応する授業環境を確保するとともに、食堂や売店も増設し学生生活環境の充実も図っている。

ウ 図書等の資料及び図書館の整備計画

（1）赤羽台キャンパス図書館の整備計画

赤羽台図書館は、前述のとおり令和5年（2023年）のHELSP0 HUB-3の設置を機にWELLB HUB-2の3階から移転し、図書館棟として規模や機能を拡充させる。図書館棟の施設・設備の詳細は、上記イ校舎等施設の整備計画で示しているとおりである。

図書館棟の1～3階には計447席の閲覧席を設ける。これは本学の各附属図書館の収容定員に対する閲覧席数の割合や稼働実績を踏まえると、適切な席数であると考えられる（白山図書館：7.9%、川越図書館：11.8%、朝霞図書館：15.8%、板倉図書館：15.3%（令和2（2020）3月末の実績）、赤羽台：9.6%（予定））。また、閲覧席のほか、グループ学習室（3室）やセミナー室（1室）、個室学習室（8室）、PCコーナー、アクティブラーニングエリア等の多機能学習機能を備え、教育研究を促進できる機能を整備している。更に、幼児教育研究、保育実習の準備、そして地域貢献という複数の目的を兼ね備えた幼児向け図書コーナー（こども図書館）を館内に設置する。

健康スポーツ科学部及び福祉社会デザイン学部の学生が学ぶ赤羽台キャンパスの図書館は、学部学科の種類や規模を踏まえて、人々のより良い生活環境の実現を支援するという考えで図書等を整備している。健康スポーツ科学部においては、健康スポーツ科学科で主にスポーツ・体育分野5,900冊、基礎医学分野1,800冊、看護学・各科看護法・看護師試験分野500冊等、栄養科学科で主に衛生学・公衆衛生・予防医学分野2,700冊、食品・料理分野300冊、食品工業分野200冊等の図書の整備を計画している。特に学部学科の特性を踏まえ『保健の科学』『臨床スポーツ医学』『体育の科学』『臨床栄養』『American journal of physiology』『New England journal of medicine』等を所蔵し、教育研究において有効な学術雑誌等を揃えていく。赤羽台図書館全体で235,400冊の蔵書に加え、大学全体で共同利用できる電子資料も充実していることから、本学部の教育研究を行うに十分な図書等を整備する計画となっている。なお、同じく赤羽台キャンパスに設置されている情報連携学部では、学部独自のコンセプトに従い教育研究施設としてメディアセンターをINIAD HUB-1に設置しており、電子資料による学習支援を行っている。

蔵書構築や電子媒体情報の環境整備等は本学図書館の全学方針のもとに行っているため、詳細は、次の(2) 本学図書館の整備計画で説明する。

(2) 本学図書館の整備計画

附属図書館は、白山、川越、朝霞（～令和2（2020）年度、令和6（2024）年度～）、板倉（～令和5（2023）年度）、赤羽台（令和3（2021）年度～）の各キャンパス図書館と板倉キャンパスに設置する保存書庫とで構成されており、各館は「附属図書館の理念」に基づき運営している。総合大学としてのメリットを活かして教育研究活動を支援するため、学生・教職員はすべての図書館が利用可能となっている。また、全館の間で相互に資料の予約・取り寄せサービスを行っており、土日祝日を除く平常開館日の2日以内に各キャンパスへ配送される仕組みを整えている。

館内には前述したとおり学生数に見合った閲覧席を設け、グループ学習室等の学生が自由に討論できるスペースも設けている。従来全館においてPCコーナーを整備してきたが、令和2（2020）年度以降はノートPC等のモバイルデバイスを持参する学生が急増したことから、館内のほぼ全域においてWi-Fi接続環境を整備し、静寂な環境とPC等の機器を利用できる環境とを区分する計画も進めている。

資料収集にあたっては、体系的な蔵書構築を図るため「東洋大学附属図書館収書及び選書方針」に基づき収書を行っている。専門性の高い資料は各学部及び研究科に選書を依頼するとともに、事務部を中心として教養を深化させる資料の選書を行い、教職員が協同して特色ある蔵書構築のための体制を整備している。なお、学生からのリクエストによる資料購入も行う。

データベース・電子ジャーナル等の電子資料については、新規導入はまずトライアルによって有用性を確認し、その後契約を検討する。既存電子資料の利用統計も確認し、実績に即した契約を維持する。この流れを年間のルーチンとすることと並行して、紙媒体資料のデータベース・電子ジャーナルへの置き換えも進めている。また、電子ブックについても予算の割り当てを確保し、利用・保存の両面において場所的制約の少ない電子媒体による学術情報の充実に努めている。なお、平成27（2015）年度からは学外からのアクセス環境を整備したことで、電子資料利用の利便性が飛躍的に向上した。また、令和2（2020）年度からは電子資料や所蔵資料の一括検索を行える「ディスカバリーサービス」を導入したことにより、媒体を問わず効率的に検索することが可能となり、電子資料の利用促進にも繋がっている。

全キャンパスの図書館の蔵書数は、合計で157万冊を超えている。また、オンラインデータベースは98種類、電子ジャーナルは23,808種類、電子ブックは38,295タイトルまで増加しており、非常に有効な教育・研究リソースとなっている（令和3年（2021）3月末日現在）。

これらの資料については、「東洋大学蔵書検索システム TRiTON-OPAC」に図書館利用者向けの情報が集約されている。蔵書検索では、基本機能としてNII CiNii Books（国立情報学研究所（NII）学術情報ナビゲータ）との同時検索やファセットブラウジング、ブックシェルフ等を備えて利便性の向上を図っており、学内の資料取寄せや貸出中資料の予約等のサービスもここで行える。OPACで検索可能な電子ブックは本文閲覧までワンストップで提供しているほか、データベース検索基盤や電子ブックの各パッケージへのリンクもOPAC上にまとめている。また、令和2（2020）年度には日本語・英語・中国語・韓国語の4ヶ国語対応、受取館の選択機能追加、メールサービスの拡充等を実現し、利用環境をさらに充実させた。

学外との連携については、NII 目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）に参加しており、全国の大学図書館の所蔵検索及び貸借・文献複写等の相互協力を展開している。これらはOPACを通じて学外からでも申し込むことができる。また、他大学図書館とのネットワークについては「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」「佛教図書館協会」「大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）」「オープンアクセスリポジトリ推進

協会（JPCOAR）」をはじめ、各地域の協議会等にも加盟し、協定加盟館との相互利用や情報交換、スケールメリットを生かした電子リソース契約交渉の連携等、積極的な協力を努めている。

本学図書館では、閲覧業務（利用者対応及び館内管理業務）を外部委託し、司書の資格を有したスタッフが常駐してレファレンスその他利用者サービスを行っている。近年では本学全体の国際化に合わせて英語対応可能なスタッフも増員した。これらの人員配置により、専任職員は予算管理や図書館システム運用に加え、施設設備およびネットワーク環境の維持、配架計画立案、貴重書・特殊資料のデジタルアーカイブ化等の管理業務を専門的に分担している。また、利用ガイダンスや所蔵資料展示、各種講演等のイベントを企画・実施することで図書館の多様な側面を広報することにも注力しており、学生の積極的な図書館利用を促している。

⑫管理運営

東洋大学学則第 12 条の規程により、「学長が決定を行うに当たり意見を述べる事項及び当該学部の運営に関する事項を審議するために、各学部に教授会を置く。」と定め、各学部に教授会を設置している。教授会は、当該学部の専任の教授、准教授、講師を構成員とし、原則月 1 回の定例教授会のほか、必要に応じ臨時教授会を開催する。学部長は、教授会を招集しその議長となる。教授会を開催するには構成員の 3 分の 2 以上の出席が必要であり、また決議は、教員人事を除き出席構成員の過半数の同意によって成立する。なお、教授会の議題は、以下のとおりである。

（１）学長が決定を行うに当たり意見を述べる事項（教授会規程 第 9 条第 1 項）

- ・学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- ・学位の授与に関する事項
- ・学則の改正に関する事項
- ・学部長会議規程の制定改廃に関する事項
- ・教授会規程の制定改廃に関する事項
- ・学長が意見を求めるとした、諸規程の制定改廃に関する事項
- ・附属高校との連携に関する事項
- ・全学にかかわる教育研究に関する事項
- ・全学にかかわる教員人事に関する事項
- ・学生の異動及び処分に関する事項
- ・その他、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が求める事項

（２）当該学部の運営に関する事項（教授会規程 第 9 条第 2 項）

- ・学部長の推薦に関する事項
- ・中期目標・中期計画の推進に関する事項
- ・教育研究上の目的に関する事項
- ・学位授与、教育課程編成・実施及び入学者受入れの各方針に関する事項
- ・カリキュラム編成に関する事項
- ・教員人事に関する事項（資格審査基準内規、昇格及び採用に係わる教育研究業績の審査、退職、処分、役

職者の選出、名誉教授の推薦)

- ・ 学生生活に関する事項
- ・ ハラスメント防止に関する事項
- ・ 研究力向上に関する事項
- ・ 研究規範遵守に関する事項
- ・ 教育力向上に関する事項
- ・ 哲学教育の推進に関する事項
- ・ キャリア教育の推進に関する事項
- ・ 国際化の推進に関する事項
- ・ F D推進に関する事項
- ・ 自己点検・評価に関する事項
- ・ 産官学連携の推進に関する事項
- ・ 社会貢献推進に関する事項
- ・ その他、学部長が必要と認める事項

⑬自己点検・評価

本学では、学校教育法第 109 条に対応して、東洋大学学則第 3 条に「本学は、教育研究水準の向上に資するため、本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。」と定めている。現行の内部質保証推進組織とその機能、点検・評価方法は以下のとおりである。

本学内の全学的内部質保証推進組織は、学長を本部長とした「大学評価統括本部」が担っており、学長のほか、教学担当常務理事（副本部長）、総務担当常務理事、財務担当常務理事、全学自己点検・評価活動推進委員会委員長、事務局長、教務部長、研究推進部長、教務部事務部長、学長室長、大学評価支援室長で構成され、教学と法人が一体となり、全学的観点で内部質保証を推進する体制を構築している。（資料 12 内部質保証体系図）

大学の自己点検・評価活動は、大学評価統括本部によるスケジュールや重点項目等の提示を基に、学部・研究科、その他の諸委員会、大学運営・財務等の法人事務局といった各主体が自己点検・評価活動を行い、「①全学自己点検・評価活動推進委員会」、「②全学委員会部会」、「③大学運営・財政部会」の下で集約された各主体の活動内容が大学評価統括本部に提出され、改善に向けた提言等がなされる仕組みになっている。

①全学自己点検・評価活動推進委員会

活動内容：学部・研究科の自己点検・評価活動

委員構成：内部質保証担当の副学長（委員長）、各学部・研究科の自己点検・評価活動推進委員会の委員長、教務部長、学生部長

②全学委員会部会

活動内容：教育研究等を推進・支援する全学的な諸委員会の自己点検・評価活動

部会構成：大学評価統括本部長（部会長）、全学自己点検・評価活動推進委員会、学生生活委員会、就職・キャリア支援委員会、高等教育推進委員会、図書館運営委員会、学術研究推進委員会、社会

貢献センター運営委員会、国際教育センター運営委員会、ラーニングサポートセンター運営委員会、教職センター、井上円了哲学センター、産官学連携推進本部センター、情報委員会、その他大学評価統括本部が指定した委員会等組織等の長、事務局長、学長室長

③大学運営・財政部会

活動内容：大学運営及び財務に関する自己点検・評価活動

部会構成：事務局長（部会長）、学長室、内部監査室、経営企画本部事務室、秘書室、総務部、人事部、経理部、管財部の事務部（室）長

上記①は、原則として毎年実施し、自己点検・評価結果に基づく改善・向上に努めている。また、教員個人レベルの自己点検・評価活動は、授業に関する学生からの評価として全教員が授業評価アンケートを毎年実施するほか、教員自身及び教員組織の自己点検・評価を目的とした教員活動評価を毎年実施し、授業と教員組織の検証に役立てている。更に、シラバスの第三者点検を毎年全科目分実施し、授業や教員個人の自己点検・評価活動を積極的に取り組んでいる。健康スポーツ科学部では、ユニット単位で教育研究の到達目標や評価項目を設定し、PDCA サイクルを繰り返し行い評価することで、効果的な自己点検評価や学生の学習成果評価、キャリアデザイン評価を行い、学部運営の向上に繋げていく。

上記②③は、部会において連絡調整を図り、共通フォーマットを用いて自己点検・評価を行うとともに、自己点検・評価の妥当性を高めるため、自己点検・評価報告書の記述内容を構成員間で相互チェックするピアレビューを実施し、客観性の担保に努めている。

上記の学内点検に加え、本学の内部質保証推進体制に係る客観性及び妥当性を高めるため、外部評価を行うよう努めている。「大学評価統括本部」は、年 1 回以上の外部評価を受審することとし、令和 2 年（2020 年）には「全学自己点検・評価活動推進委員会」の外部評価を受審し、その結果を本学ホームページに公表している。また、各学部・研究科の自己点検・評価活動に関しては、中期計画の実施期間等を勘案し外部有識者から意見を聴くこととしている。そのほか、令和元年（2019 年）には本学の国際化戦略への助言と認証を受けるための国際大学協会（IAU）による ISA2.0 を受審し、財務に関する評価のための株式会社日本格付研究所（JCR）による財務状況の信用格付を受ける等している。

このように、組織的かつ定期的な自己点検・評価活動に取り組んでおり、中期計画の実行とカリキュラム改訂に係るカリキュラム編成作業等を順次行うことで改善・向上を実現することとし、3 ポリシーを起点とした PDCA サイクルの実現に繋げている。客観性、妥当性を高めるための外部評価の導入についても、それぞれの委員会組織等の役割に応じて第三者の意見をダイレクトに反映されるよう、柔軟に外部評価を実施できるように進めている。

大学基準協会による認証評価では、平成 19（2007）年度の第 1 期、平成 26（2014）年度の第 2 期に続き、令和 3（2021）年度の第 3 期においても「大学基準に適合していると認定する」との評価を受けている。自己点検・評価体制の改善・強化に努めた結果、第 1 期から第 3 期にかけて評価結果は向上している。

⑭情報の公表

本学では、学校教育法第 113 条及び学校教育法施行規則第 172 条の 2 に対応して、東洋大学学則第 3 条の 4 に「本学は、学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づき、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によつての情報を公表する。」と定め、教

育研究活動等の状況についての情報の公表に取り組んでいる。

学校教育法施行規則第 172 条の 2 に定める教育研究活動等の状況に関する情報については、大学ホームページの「東洋大学 TOP> 東洋大学について> 情報公開> 教育情報公開」のページを中心に、すべて公表している。公表している情報は以下のとおりである。

ア 大学の教育研究上の目的に関すること

- ・各学部学科、各研究科専攻の教育目的・教育目標

(https://www.toyo.ac.jp/about/data/education/purpose_object/ TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開>東洋大学の教育目的・教育目標)

イ 教育研究上の基本組織に関すること

- ・組織図

(<https://www.toyo.ac.jp/foundation/organization/chart/> TOP>学校法人東洋大学>組織>組織図)

ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- ・教員数

(<http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html> TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)

- ・教員組織・各教員が有する学位及び業績（東洋大学研究者情報データベース含む）

(<http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html> TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)

エ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

- ・各学部学科、各研究科専攻の入学者に関する受入方針

(<http://www.toyo.ac.jp/site/data/69151.html> TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開>3 つの方針)

- ・入学者数

(<http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html> TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)

- ・定員数

(<http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html> TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)

- ・在学生数

(<http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html> TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)

- ・卒業生数・修了者数

(<http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html> TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)

- ・就職者数・進学者数、就職データ・就職状況・主な就職先

(<http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html> TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)

(<http://www.toyo.ac.jp/site/career/data.html> TOP>教育>キャリア教育・就職支援>就職・キャリア支援について>就職データ・就職状況・主な就職先)

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- ・年間授業計画・シラバス・授業概要

(<http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html> TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

- ・履修モデル・主要科目の特長・授業評価基準・卒業（修了）認定基準等（履修要覧抜粋）

(<http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html> TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)

キ 校地・校舎等の施設及び設備その他学生の教育研究環境に関すること

- ・各キャンパスの校地・校舎等学生の教育研究環境

(<http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html> TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)

ク 授業料、入学金その他の大学が徴収する費用に関すること

- ・授業料・入学金その他大学等が徴収する費用

(<http://www.toyo.ac.jp/site/jyugyou/campuslife-g02-index.html> TOP>学生生活>授業・納付金（学費等）>納付金（学費等）)

ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

- ・学生生活支援

(<http://www.toyo.ac.jp/life/4/4/> TOP>教育>学生生活)

- ・キャリア教育・就職支援

(<http://www.toyo.ac.jp/life/5/5/> TOP>教育>キャリア教育・就職支援)

- ・留学生支援

(<https://www.toyo.ac.jp/international-exchange/international/supportgroup/> TOP>国際交流>在学中・入学予定の留学生の方へ>国際交流・留学生支援団体)
 (<https://www.toyo.ac.jp/academics/career/support/forforeignstudents/> TOP>教育>キャリア教育・就職支援>就職・キャリア支援について>外国人留学生向け支援体制)
 (<http://www.toyo.ac.jp/site/award/award-ssa-index.html> TOP>教育>学生生活>奨学金・表彰制度>外国人留学生対象奨学金)

- ・障がい学生支援

(<https://www.toyo.ac.jp/academics/student-support/handicap/> TOP>教育>学生生活>障がい学生支援)

コ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

- ・学則、学部規程

(<http://www.toyo.ac.jp/site/data/education.html> TOP>東洋大学について>情報公開>教育情報公開)

- ・設置届出書及び履行状況報告書

(<http://www.toyo.ac.jp/site/data/fulfillment.html> TOP>東洋大学について>情報公開>学部・学科等設置届出書及び履行状況報告書)

- ・自己点検・評価

(<http://www.toyo.ac.jp/site/quality-assurance/72905.html> TOP>教育>東洋大学の教育改革>内部質保証>自己点検・評価)

- ・認証評価

(<https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/accreditation/> TOP>教育>東洋大学の教育改革>認証評価)

- ・外部評価

(<http://www.toyo.ac.jp/site/quality-assurance/out.html> TOP>教育>東洋大学の教育改革>内部質保証>外部評価)

- ・格付

(<http://www.toyo.ac.jp/site/data/rate.html> TOP>東洋大学について>情報公開>格付)

また本学では、ステークホルダーによって情報提供の方法や媒体に工夫をしている。特に、父母等に対しては、上記の公表のみではなく、年 3 回発行される上記の「東洋大学報」を毎号発送し、全国にある父母会（東洋大学甫水会）の支部総会において、学長、学部長、学科長等が教育活動を中心に大学の活動を報告する等、積極的に情報の提供を行っている

⑮教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、大学設置基準第 25 条の 3 に対応して、東洋大学学則第 3 条の 3 に「本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する。」と定め、加えて、「大学の運営の高度化を図ることを目的として、教職員が大学の運営に必要な知識及び義堂を身に付け、能力及び資質を向上させるための研修を実施する。」ことを目的とした、「東洋大学高等教育推進センター」を設置し、以下の事業を行っている。（資料 13 高等教育推進センター組織図）

- (1) 教育内容及び方法改善のための調査、研究及び支援
- (2) FD 及び SD の研究会、研修会、講演会等の企画、実施及び支援
- (3) 国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供
- (4) 新たな教育携帯及び教育プログラム等の研究、開発
- (5) 各学部、研究科での教育活動の改善、改革の情報交換、調整及び支援
- (6) その他高等教育推進センターの目的達成に必要な事項

「東洋大学高等教育推進センター」では、上記の事業を推進するための「高等教育推進委員会」及び各部会での活動に加えて、学生 FD チームによる FD 活動や、各学部・研究科での FD 活動がある。学生 FD チームによる FD 活動は、学生の大学生活の中心である授業を、教員、職員、学生の三位一体で改善、向上させよう

とする取り組みであり、教職員合同会議の実施や学生を対象としたセミナー・ワークショップの開催、関東圏で学生FD活動に取り組む大学と連携して、情報・意見交換やノウハウの共有、研修等を行っている。各学部・研究科でのFD活動では、学部・研究科内にFD委員会を設け、自己点検・評価委員会と連携しながらFD活動を進めており、毎年発行する「東洋大学高等教育推進センター FD/SD 活動報告書」で活動状況の共有化を図っている。

健康スポーツ科学部では、授業評価アンケートの実施にあたり、全学共通の評価項目に加えて、学部独自の評価項目を設け、学生の意識を汲み取るよう工夫を行う。またアンケート結果を個々の教員に提示し、各教員が授業についての問題点、改善方法等について報告を行う。更に各学科の学科長は、アンケート結果を確認し、問題分析と総括報告を行う。更にアンケート結果を学科教育にフィードバックするとともに、必要に応じて学部の教授会やFD委員会で教育内容の改善を図る。

本学では授業や学生対応の改善を目的としたFD委員会主催の講演会を毎年開催しており（テーマ事例：ICT活用ワークショップ、googleアプリを利用したリモート授業を充実させるための仕組み、TOYO-Netをベースにした学生相互交流の試み等）、学部教員に対し年2回の研修会を開催し、問題共有の機会を設けている。本学部においてもこれらの活動を踏襲し、課題の共有や改善に努める。本学部においてもこれらの活動を踏襲し、課題の共有や改善に努める。

このように大学設置基準第25条の3に則して、「当該大学の授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究」を実施している。

⑩社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

大学設置基準第42条の2「学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力」を獲得するため、以下の取り組みを行う。

ア 教育課程内の取組について

健康スポーツ科学部の教育課程には、基盤教育、専門教育のそれぞれにおいて、社会的及び職業的自立を促進するための科目が配置されている。

基盤教育には、キャリア・市民形成の科目区分が設けられ、「キャリアデザイン入門」、「キャリアデザイン実践」、「キャリアデベロップメント」、「インターンシップ入門」、「アントレプレナーシップ」等自律的なキャリア形成の姿勢を促す科目や、「社会貢献活動入門」、「公務員論」、「地域マネジメント」、「環境政策論」等会社、官公庁、市民活動の仕組みについて教授する科目、「グローバル市民論」、「ダイバーシティ論」、「ジェンダー論」等グローバル社会の一員として必要な倫理や問題意識について講義する科目、「情報化社会と人間」、「情報リテラシー」、「プログラミング基礎」といったSociety5.0の時代に求められる知識や技能を身につける科目等、多様な科目が配置されており、これらは卒業要件の単位として認められる。

専門教育では、学部共通科目として1年次必修科目に「健康スポーツキャリアデザインA・B」を配置し、就職・進学のイメージ形成やモチベーションアップ、健康・スポーツ・栄養の専門的キャリアデザインを促している。また健康スポーツ科学部には、企業人育成プログラムとなる「健康スポーツ特別演習A・B」を、実践教育となる「健康スポーツインターンシップA・B」、「教職インターンシップA・B」、「健康スポーツボランティア活動A・B」を配置し、多様な社会活動や経験をキャリアデザインへと結びつけられるようにしている。一方、栄養科学部には、「起業基礎（ビジネスマナー含む）」を配置し、企業を含めた多様な職業

を知り基礎力を養う機会を提供する。科目の一部を他学科開放科目とし、学科を問わず横断的に履修できるようにすることで、修学機会を充実させる。

イ 教育課程外の取組について

本学では「就職・キャリア支援部」を設置し、全キャンパスに「就職・キャリア支援室」を設けている。入学から卒業（就職）まで長期的なビジョンに立った就職対策プログラムを提供し、学生が自身の適性を見極めながら段階を追ったキャリアを形成していくための取り組みを行っている。

新入生キャリアガイダンスにはじまり、1・2年次には自己の強み・弱みの認識、インターンシップによる就業体験等を通じ、自己理解や自己の可能性、キャリア形成に対する意識の醸成や基礎力の養成を図るための各種プログラムやガイダンス・講座（適性診断 MATCH plus、キャリアガイダンス、インターンシップガイダンス、公務員ガイダンス等）を、3年次には明確な目的意識に基づく進路選択を目指した講演・講義や学生参加型の各種催し（就活準備ガイダンス、筆記試験対策ガイダンス、地方就職ガイダンス、就職活動支援セミナー、業界理解・職種研究セミナー、ビジネスマナー講座、SPI テスト、OBOG 訪問、内定者報告会、模擬面接等）を、4年次にはこれまでのキャリア形成の取り組みを就職に結びつけるための支援（学内企業説明会、マッチング会社説明会、就職相談、就活バックアップセミナー、志望動機対策講座、模擬面接等）を実施し、進路の把握に基づくきめ細かな支援を行う。

更に自身の能力や適性を見極め、職業選択の参考とさせるための PROG テストも行っている。PROG テストは、入学時に受験しそのフィードバックを通して学生に社会人基礎力形成の重点課題を認識させるとともに、3年次に再度受験し在学中の伸びを検証できるようにしている。

また「国際教育センター」を設置し、キャリア教育や就職支援、国際化に対応した社会人基礎力を養うための取り組みも行っている。国内外グローバル企業におけるインターンシップ・ボランティアプログラムの実施や外国人留学生に対する教育支援を展開するほか、留学・国際交流支援等を行う。

ウ 適切な体制の整備について

全学組織として「就職・キャリア支援委員会」が設置され、各学部から選出された教員が委員として参加し、学生の就職、キャリア支援の全学としての方針の決定を行う。委員会における検討事項は、以下のとおりである。

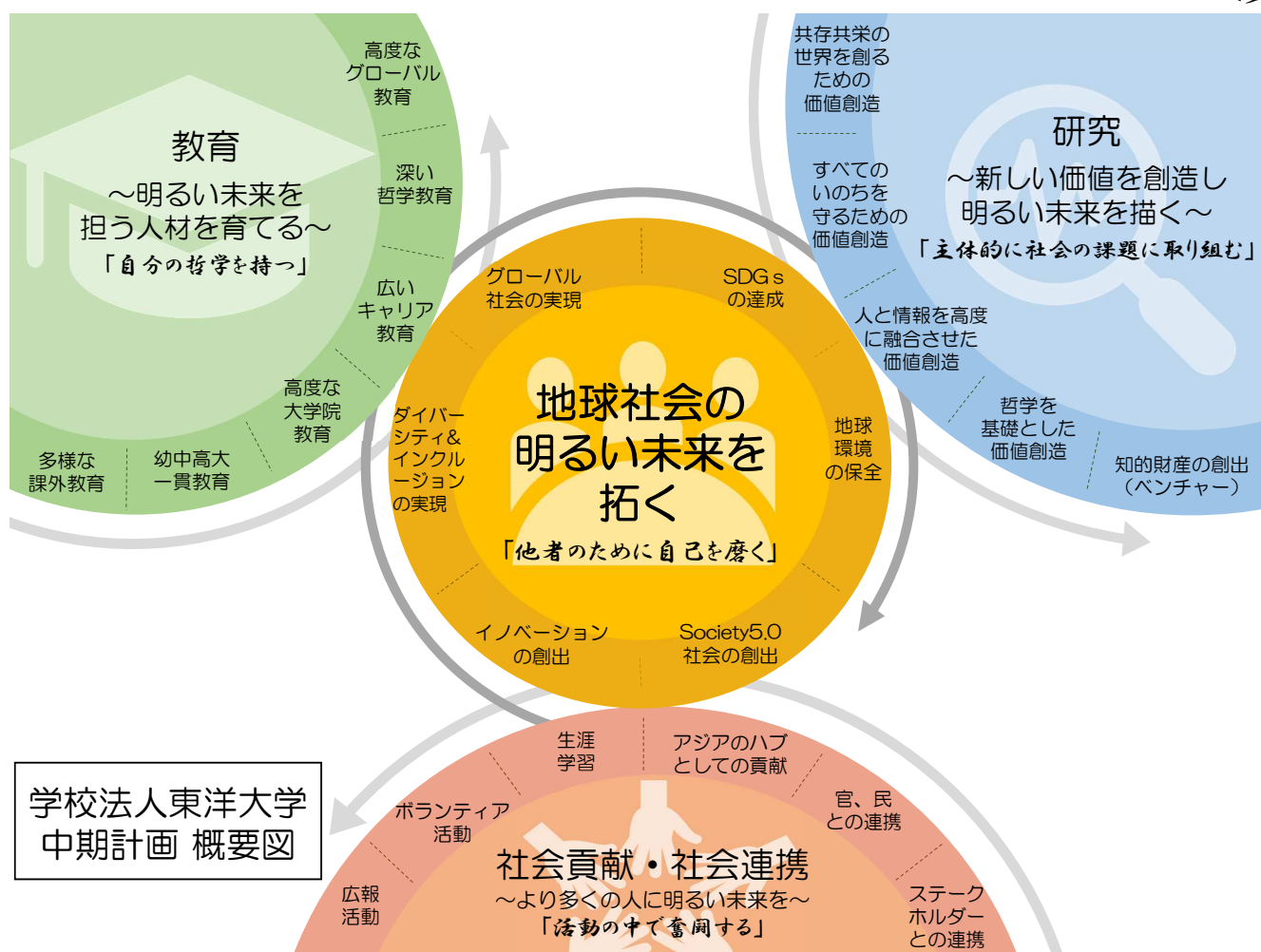
- (1) 就職支援の全学的な対策に関する事項
- (2) 求人開拓の促進に関する事項
- (3) 学生の進路状況に対する調査に関する事項
- (4) 就職支援に必要な統計データ分析に関する事項

「就職・キャリア支援委員会」のもとに「就職・キャリア支援部」が設置され、学部生、大学院生、留学生への就職支援、適正診の受検、PROG の実施、企業主催の国内インターンシップ等を運営している。

健康スポーツ科学部内においても各学科から選出された委員により「キャリア形成支援委員会」を組織し、全学の「就職・キャリア支援委員会」との連携を図りながら、学生のキャリア形成に寄与する。各種講座等への周知・参加推奨を図るとともに、各学科主催の業界研究会等を実施している。

設置の趣旨等を記載した書類
資料目次

- 資料 1 学校法人東洋大学 中期計画 概要図・トピックス
- 資料 2 カリキュラムマップ
 - 1.健康スポーツ科学科
 - 2.栄養科学科
- 資料 3 連携による展開イメージ
- 資料 4 東京都北区と学校法人東洋大学の協定書、覚書等
- 資料 5 履修モデル
 - 1.健康スポーツ科学科
 - 2.栄養科学科
- 資料 6 実習先一覧、実習受入承諾書
 - 1.中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭
 - 2.栄養士
- 資料 7 国際健康スポーツ交流 訪問先一覧
- 資料 8 健康産業施設等現場実習スケジュール例
- 資料 9 教職員定年規程
- 資料 10 年俸契約雇用制度に関する要綱
- 資料 11 赤羽台キャンパス教室稼働率、授業時間割表案
- 資料 12 内部質保証体系図
- 資料 13 高等教育推進センター組織図



学校法人東洋大学
中期計画 概要図

学校法人東洋大学 中期計画 「TOYO GRAND DESIGN 2020-2024」 トピックス

【④】諸学の基礎「哲学」の実践 ・「22世紀の世界哲学」の構築（重点研究推進プログラム） ・井上円了研究の世界的研究拠点ネットワークの組織化 ・中学校から大学まで一貫した哲学教育の推進による「生きる力」と「自分の哲学」を持った人材の養成	【①】最前線の社会課題への取り組み ＜グローバル社会を生きる＞ ・スーパーグローバル大学としてのTOYO GLOBAL DIAMONDS構想の推進 ・中学校から大学まで一貫したグローバル教育の推進によるグローバル人材の育成 ・キャンパス内にとどまらない、全世代型グローバル教育の提供 ・英語トラック整備による、海外からのグローバル人材の積極的な獲得 ＜ダイバーシティ社会を生きる＞ ・ダイバーシティ・インクルージョンの推進による活力ある、多様性に富んだ、差別のない社会の実現への貢献 ・多様性と調和に価値を置く多文化共生とダイバーシティマネジメント研究の推進 ＜人生100年時代を生きる＞ ・「つながりがある社会」を支える価値とその支援システムを研究（重点研究推進プログラム） ・人生100年時代に対応した多様な生涯学習機会の提供 ＜ウイルスと生きる＞ ・バイオメティクスによるウイルス感染症簡易検出システムの開発	【②】SDGsへの挑戦 ー共存共栄な世界の創出ー ・生活環境の改善による開発途上国の人間の安全保障の実現（重点研究推進プログラム） ・持続可能なインフラメニューと実現戦略の提案によるグローバルな協調の再構築（重点研究推進プログラム） ・アジアにおける福祉社会デザイン、健康社会デザインの展開 ・ボランティア活動等を通じたSDGs時代を生きる若者の啓蒙
【⑤】アスリート支援 ・スポーツ振興 ・アスリートをスポーツ科学と栄養科学の両面から支える新学部「健康スポーツ科学部」の設置 ・新学部のポリシーとUNIVASの精神による、アスリートや監督コーチへの技術支援、学習支援、デュアルキャリア支援の推進 ・バイオメティクス（生体模倣）を取り入れた国産カヌーの開発によるオリンピックの支援 ・アスリートサポートから高齢者ヘルスサポート技術への展開（重点研究推進プログラム）		【③】Society5.0への対応 ー近未来の情報社会を生きるー ・「文・芸・理の融合」を目指す情報連携学部（INIAD）による新学問領域の創造 ・INIAD dHUBのOpen IoT教育プログラムによる社会人のリカレント教育 ・都市のIoT化のためのプラットフォーム構築の検討プロジェクト推進 ・独創的なアイデアやシーズをビジネスに繋ぐオープンイノベーションのマインドを養成するキャリア支援 ・中学校から大学まで一貫した、情報教育の推進による情報社会市民の養成

健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科 カリキュラムマップ

トレーニング・コンディショニング指導者

健康・スポーツ
関連産業

健康・スポーツ
関連団体

公務員

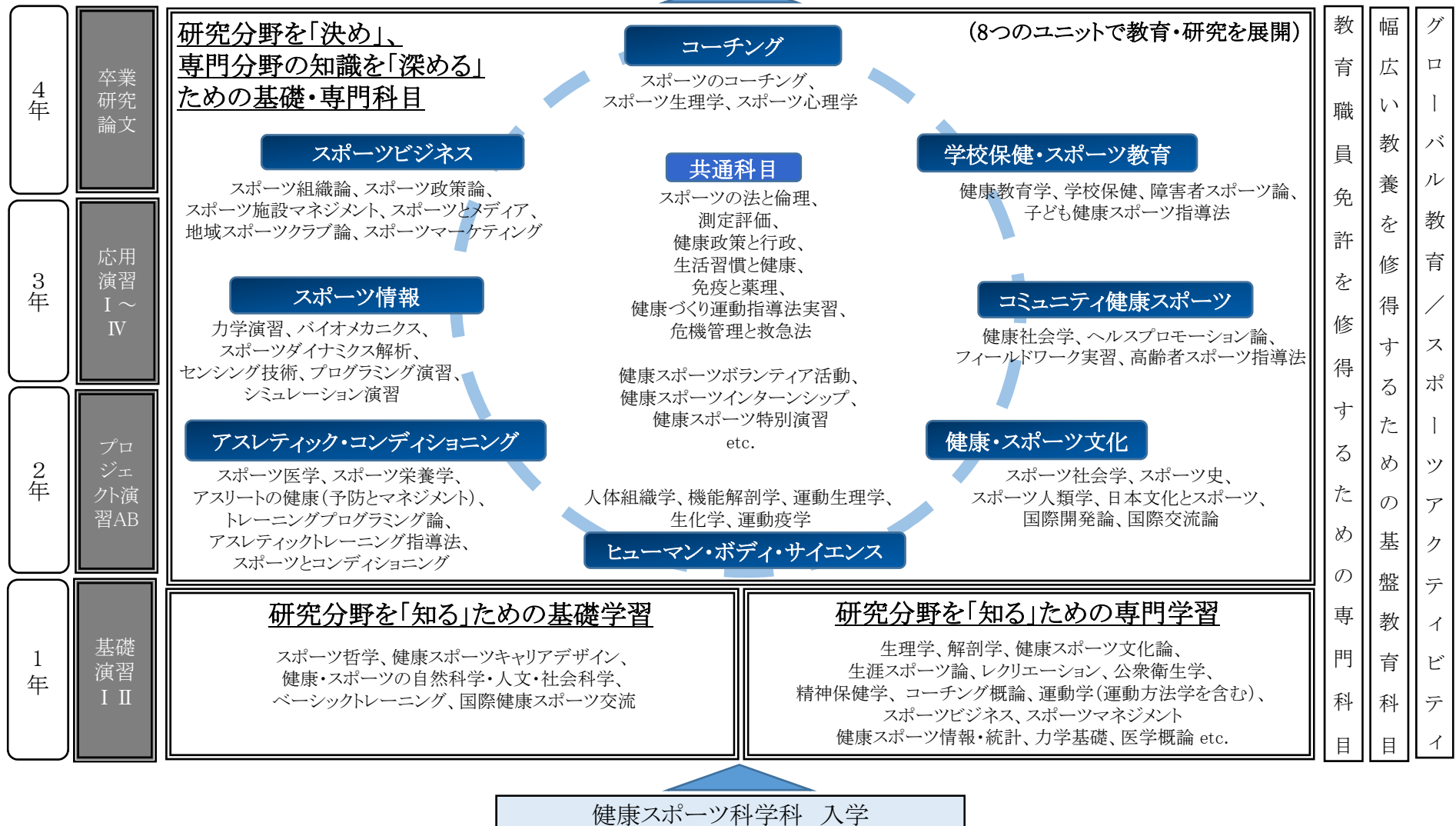
学校教員

大学院進学

『一般市民からアスリートまで、あらゆる人々の健康を健康スポーツ科学の観点から総合的にコーディネートし、サポートできる人材』

取得可能な資格(受験資格を含む):

中学校教諭・高等学校教諭1種免許状(保健、保健体育)、養護教諭1種免許状、健康運動指導士、障がい者スポーツ指導員、トレーニング指導者、公認スポーツ指導者、グループエクササイズフィットネスインストラクター、レクリエーション・インストラクター、第1種衛生管理者



大学院進学

健康関連産業

食品関連産業

公務員

『大衆からアスリートまで、あらゆる人々の健康をスポーツ栄養科学の観点から総合的にコーディネートし、サポートできる人材』

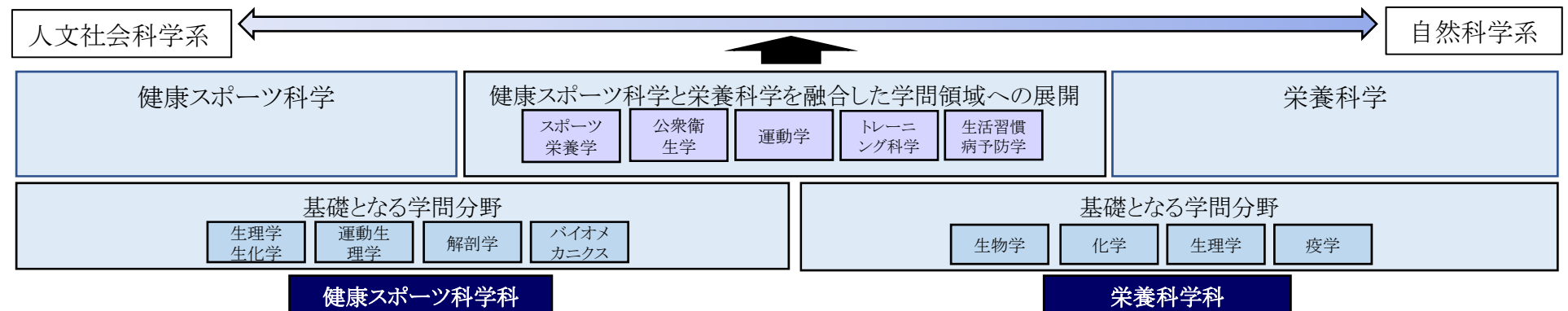
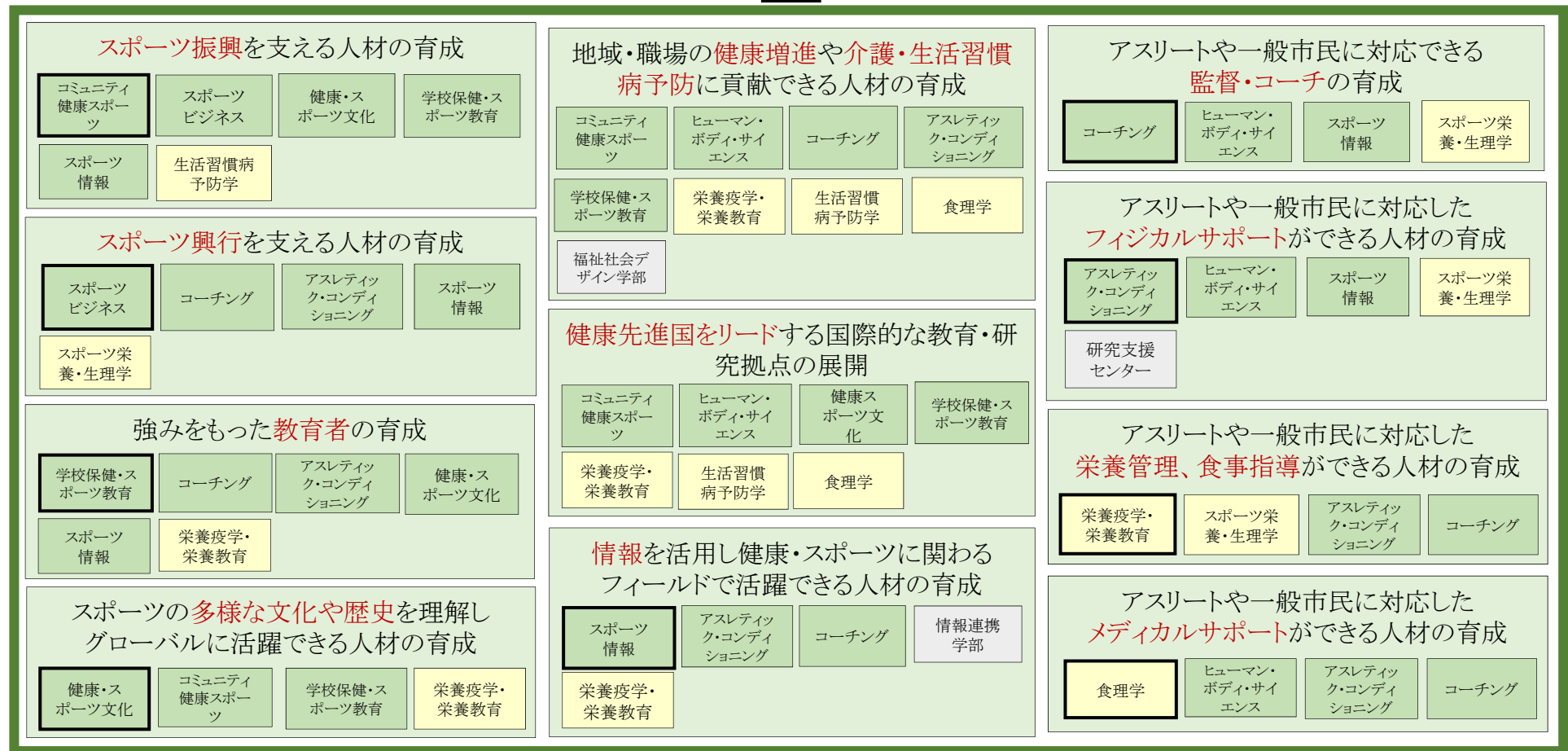
取得可能な資格：
栄養士、食品衛生管理者（任用資格）、食品衛生監視員（任用資格）、健康運動実践指導者（受験資格）等

4年	卒業研究論文	基礎領域	専門領域 (4つのユニットで教育・研究を展開)				多彩な専門知識を学ぶ科目群 健康づくり運動の実際（ウォーキング） 健康づくり運動の実際（エアロビクス） 健康づくり運動の実際（水泳・水中運動） 健康づくり運動の実際（レジスタンストレーニング） スポーツ心理学 現代化学 有機化学Ⅱ 食品微生物学 食品衛生学 大量調理とHACCP(理論) 大量調理とHACCP(実践) 実践食文化(3大宗教と食文化) 調理学実習 校外実習 栄養マネジメント(運営理論)(実践) 食品パッケージ論 ソムリエ概論 マーケティング学 マスコミ概論 起業基礎(ビジネスマナー含む) 持続可能社会と食環境づくり 情報処理数学ⅠⅡ プログラミング言語ⅠⅡ データサイエンスⅠⅡ 機械学習ⅠⅡ 哲学教育 哲学など	幅広い教養を修得するための基盤教育科目	キャリアデザイン／グローバル教育
	応用演習Ⅰ～Ⅳ		栄養疫学・栄養教育	スポーツ栄養・生理学	食理学	生活習慣病予防学			
						医療保険			
			栄養疫学実習Ⅱ(実験疫学) 栄養疫学実習Ⅰ(観察疫学)	スポーツ栄養マネジメント(運営理論) スポーツ栄養マネジメント(実践) 健康づくりと運動プログラム 応急手当法	食理学Ⅱ 食理学Ⅰ 機器分析	臨床栄養学 臨床栄養学実習 ライフステージ栄養学実習 解剖生理学実験			
3年	プロジェクト演習AB	基礎演習ⅠⅡ	公衆栄養学 栄養教育論 栄養と心理	栄養生化学実習 栄養生化学 体力測定評価法	動物学 食品学実験Ⅱ	ライフステージ栄養学 機能解剖学 予防医学概論			
				スポーツ栄養学	食品学 食品学実験Ⅰ				
2年									
1年									

連携による展開イメージ

新たな価値の創造

健康スポーツ科学科のユニット
栄養科学科のユニット
他学部等



東京都北区と学校法人東洋大学との連携協力に関する包括協定書

東京都北区（以下「甲」という。）と学校法人東洋大学（以下「乙」という。）とは、相互の連携と協力に関する基本事項について、次の通り協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、甲と乙が包括的な協力のもと、相互の資源を活用することにより、地域社会の発展や住民福祉の向上、人材育成や学術の発展に寄与することを目的とする。

（連携協力事項）

第2条 甲と乙との相互協力の内容は、次に掲げるとおりとする。

- （1）甲と乙の知的、人的及び物的資源の活用に関する事項。
- （2）甲と乙が共同して行う事業の推進に関する事項。
- （3）地域社会の課題を解決するための取り組みに関する事項。
- （4）その他、連携協力を推進するために必要と認める事項。

2 前項各号に掲げる事項に関する具体的な事業内容は、両者が協議のうえ決定する。

（連携の推進）

第3条 甲と乙は、円滑な連携を推進するため、適宜連絡調整を行うものとする。

（守秘義務）

第4条 甲と乙は、本協定に基づく連携に当たり、知り得た秘密事項については、本協定の有効期間中及び有効期間終了後を問わず、その一切について守秘義務があることを確認する。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りではない。

（有効期間）

第5条 この協定の期間は、協定成立の日から平成27年3月31日までとする。

2 前項に規定する期間満了の日の3か月前までに、甲乙いずれか一方からこの協定を終了させる旨の意思表示がない場合は、翌年度の3月31日までの1年間、この協定は更新されたものとみなし、以後も同様の取り扱いとする。

（その他）

第6条 この協定書に定めのない事項又は疑義を生じた事項については、その都度、甲と乙が協議して定めるものとする。

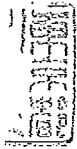
甲と乙は、協定締結を証するため、本協定2通を作成し、双方記名押印の上、各1通を保有する。

平成23年6月29日

甲 所在地 東京都北区王子本町一丁目15番22号

東京都北区

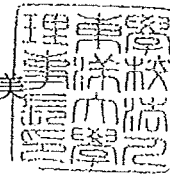
代表者 区長 花 川 與 惣



乙 所在地 東京都文京区白山五丁目28番20号

学校法人東洋大学

代表者 理事長 長 島 忠 美



東京都北区と学校法人東洋大学との新たな連携施策に関する覚書

東京都北区（以下「甲」という。）と学校法人東洋大学（以下「乙」という。）とは、新たな連携施策に関する基本事項について、次の通り覚書を締結する。

（目的）

第1条 この覚書は、「東京都北区と学校法人東洋大学との連携協力に関する包括協定書」に基づき、新たな連携施策を実施することにより、地域社会の発展や住民福祉の向上、人材育成や学術の発展に寄与することを目的とする。

（新たな連携施策事項）

第2条 甲と乙との新たな連携施策の内容は、次に掲げるとおりとする。

- （1）ワンストップ窓口を通じた地域産業連携事業の拡大に関する事項
- （2）社会貢献、社会連携事業の推進に関する事項
- （3）教育分野における連携事業の推進（プログラミング教育等）に関する事項

2 前項各号に掲げる事項に関する具体的な事業内容は、両者が協議のうえ決定する。

（連携の推進）

第3条 甲と乙は、円滑な連携を推進するため、適宜連絡調整を行うものとする。

（守秘義務）

第4条 甲と乙は、本覚書に基づく連携に当たり、知り得た秘密事項については、本覚書の有効期間中及び有効期間終了後を問わず、その一切について守秘義務があることを確認する。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りではない。

（有効期間）

第5条 この覚書の期間は、覚書成立の日から平成32年3月31日までとする。

2 前項に規定する期間満了の日の3か月前までに、甲乙いずれか一方からこの覚書を終了させる旨の意思の表示がない場合は、翌年度の3月31日までの1年間、この覚書は更新されたものとみなし、以後も同様の取り扱いとする。

（その他）

第6条 この覚書に定めのない事項又は疑義を生じた事項については、その都度、甲と乙が協議して定めるものとする。

甲と乙は、覚書締結を証するため、本覚書2通を作成し、双方記名押印の上、各1通を保有する。

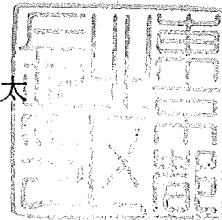


平成29年3月19日

甲 所在地 東京都北区王子本町一丁目15番22号

東京都北区

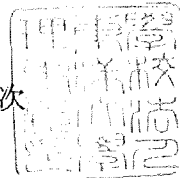
代表者 区長 花 川 與 惣 太



乙 所在地 東京都文京区白山五丁目28番20号

学校法人東洋大学

代表者 理事長 福 川 伸 次



東京都北区と学校法人東洋大学との包括協定推進に関する覚書

東京都北区（以下「甲」という。）と学校法人東洋大学（以下「乙」という。）とは、平成 33 年（2021 年）年 4 月 1 日の東洋大学ライフデザイン学部の赤羽台キャンパスへの移転並びに平成 35 年（2023 年）4 月 1 日の東洋大学福祉社会デザイン学部及び健康スポーツ科学部の赤羽台キャンパスでの開設を踏まえ、平成 29 年（2017 年）3 月 19 日に締結した「東京都北区と学校法人東洋大学との新たな連携施策に関する覚書」を解消し、新たに次のとおり覚書を締結する。

（目的）

第 1 条 この覚書は、「東京都北区と学校法人東洋大学との連携協力に関する包括協定書」に基づき、円滑な連携を推進することにより、地域社会の発展や住民福祉の向上、人材育成や学術の発展に寄与することを目的とする。

（所掌事項）

第 2 条 甲と乙との包括協定推進に関する内容は、次に掲げるとおりとする。

- （1）教育・研究に関わる連携事業に関する事項
- （2）社会貢献、社会連携事業に関する事項
- （3）ワンストップ窓口を通じた地域産業連携事業等の拡大に関する事項

2 前項各号に掲げる事項に関する具体的な事業内容は、両者が協議のうえ決定する。

（連携の推進）

第 3 条 甲と乙は、別紙に定める「東京都北区と学校法人東洋大学とで組織する地域連携のための体制（プラットフォーム）」を組織し、協議のうえ連携を推進する。

（守秘義務）

第 4 条 甲と乙は、本覚書に基づく連携に当たり、知り得た秘密事項については、本覚書の有効期間中及び有効期間終了後を問わず、その一切について守秘義務があることを確認する。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りでない。

（有効期間）

第 5 条 この覚書の期間は、覚書成立の日から平成 34 年（2022 年）3 月 31 日までとする。

- 2 前項に規定する期間満了の日の 3 か月前までに、甲乙いずれか一方からこの覚書を終了させる旨の意思の表示がない場合は、翌年度の 3 月 31 日までの 1 年間、この覚書は更新されたものとみなし、以後も同様の取り扱いとする。

(その他)

第6条 この覚書に定めのない事項又は疑義を生じた事項については、その都度、甲と乙が協議して定めるものとする。

甲と乙は、覚書締結を証するため、本覚書2通を作成し、双方記名押印の上、各1通を保有する。

平成31年(2019年)2月14日

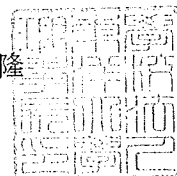
甲 所在地 東京都北区王子本町一丁目15番22号
東京都北区

代表者 区長 花 川 與 惣 太



乙 所在地 東京都文京区白山五丁目28番20号
学校法人東洋大学

代表者 理事長 安 齋 隆



別紙

東京都北区と学校法人東洋大学とで組織する地域連携のための体制（プラットフォーム）

区分	所掌事務
幹事会	包括協定推進に関する連携事業の計画及び報告・検証に関する こと
事務局	1 幹事会の運営に関すること 2 体制全体の運営・調整に関すること
ベース協議会	1 教育・研究に関わる連携事業の推進に関すること 2 社会貢献、社会連携事業の推進に関すること
プロジェクト部会	時限的な連携事業に関すること
テーマ別部会	1 ワンストップ窓口を通じた地域産業連携事業等の拡大に 関すること 2 その他の連携協力に関すること

3北政企第1299号

令和3年6月23日

東洋大学

学長 矢口 悦子 殿

東京都北区長 花川 與惣太



東洋大学健康スポーツ科学部先端栄養科学科との連携について(回答)

新緑の候、学校法人東洋大学におかれましては、ますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。

さて、貴学と当区においては、平成 23 年の連携協力に関する包括協定の締結以降、地域連携のための体制を構築し、相互に連携を図って参りました。

先般、貴学よりご案内いただきました、健康スポーツ科学部先端栄養科学科(栄養士養成課程、令和5年度設置計画中)の新設により、これまで取り組んできた当区との地域連携において、新たに栄養指導及び食環境整備の側面が加わり、今まで以上に幅広い連携が可能となることについて歓迎いたします。

当区の人口統計では、およそ4人に1人が65歳以上となっており、23区でも高齢化率の高い自治体という特徴があります。「長生きするなら北区が一番」の実現を目指す当区において、高齢者の栄養指導や健康無関心層及び不特定多数の人に対する食環境の整備は、健康長寿社会の実現に向けた重要な取り組みであると考えます。

新設学部では、栄養科学に止まらず、福祉やスポーツの分野などにも幅広く活躍できる人材を育成していくと伺っています。貴学で学ぶ学生の皆さんが、区内の高齢者あんしんセンターにおける事業や、食育フェアなどのイベントのほか、区内法人等が実施する事業などにも継続的に関わり、将来的に北区を中心とした地域において活躍し得る人材となっただけことを期待します。

既に貴学と連携して取り組んでいる産学連携ワンストップサービス窓口に加え、今後、新設される健康スポーツ科学部先端栄養科学科における新たな取り組みが、学生にとって貴重な社会経験になるとともに、北区に住む高齢者にとっても、若年層との交流が長寿に向けた活力に繋がるなど、北区地域包括ケア推進計画の基本方針である「北区版地域包括ケアシステムの深化～地域共生社会の実現」に向けて、実りのある連携となることを望んでおります。

※令和3年(2021年)10月25日開催の理事会において、健康スポーツ科学部の先端栄養科学科(仮称)の学科名称を栄養科学科とすることが正式に承認された。

健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科 履修モデル① [ヒューマン・ボディ・サイエンス ユニット]

【健康づくりやトレーニングを検討するための基礎として解剖学、生理学、生化学から運動生理学までを主要とする分野を学んだ上で社会に貢献する人材を育成するモデル】

			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		区分別 単位数計	
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
基盤 教育 科目	哲学・思想				生命と倫理	2					2	
	学問の基礎		生物学	2			法学	2			4	
	世界の伝統と文化										0	
	グローバル社会の実際										0	
	語学	必修科目	英語Ⅰ A	1	英語Ⅲ A	1					8	
			英語Ⅰ B	1	英語Ⅲ B	1						
			英語Ⅱ A	1	英語Ⅳ A	1						
			英語Ⅱ B	1	英語Ⅳ B	1						
		選択科目									0	
	キャリア・市民形成		情報リテラシーⅠ	2	プレゼンテーション技法	2	情報化社会と人間	2			8	
		情報リテラシーⅡ	2									
健康・スポーツ科学										0		
総合・学際										0		
専門 教育 科目	学部必修科目		健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 A	2	健康スポーツ科学演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学演習Ⅲ	2	24	
			健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 B	2	健康スポーツ科学演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学演習Ⅳ	2		
			健康スポーツキャリアデザイン A	2					卒業研究・論文Ⅰ	2		
			健康スポーツキャリアデザイン B	2					卒業研究・論文Ⅱ	2		
	学科必修科目		健康・スポーツの自然科学	2	トレーニング概論	2	健康スポーツアクティビティⅡ C	1			21	
			健康・スポーツの人文・社会科学	2	健康スポーツアクティビティⅠ C	1	健康スポーツアクティビティⅡ D	1				
			スポーツ哲学	2	健康スポーツアクティビティⅠ D	1						
			ベーシック・トレーニング	1	健康スポーツアクティビティⅡ A	1						
			国際健康スポーツ交流 A	2	健康スポーツアクティビティⅡ B	1						
			健康スポーツアクティビティⅠ A	1								
			健康スポーツアクティビティⅠ B	1								
			健康スポーツアクティビティⅢ A	1								
			健康スポーツアクティビティⅢ B	1								
	学科 選択 科目	ヒューマン・ボディ・サイエンス系	生理学	2	生化学	2	運動疫学	2			19	
			解剖学	2	生理・生化学実習	1						
			運動生理学Ⅰ	2	機能解剖学	2						
					解剖学実習	1						
					運動生理学Ⅱ	2						
					運動生理学実習	1						
				人体組織学	2							
他分野・共通系		健康スポーツ統計	2	バイオメカニクス	2	生活習慣と健康	2			38		
		公衆衛生学	2	バイオメカニクス実習	1	ヘルスプロモーション論	2					
		生涯スポーツ論	2	医学概論	2	スポーツ医学Ⅰ（内科）	2					
					スポーツと応急処置	2	スポーツ医学Ⅱ（整形外科）	2				
					スポーツ生理学	2	アスリートの健康（予防とマネジメント）	2				
					スポーツ栄養学Ⅰ	2	健康づくり運動指導法実習	1				
					健康栄養学	2	健康教育学	2				
					外国語文献購読	2	身体文化論	2				
							スポーツマネジメント	2				
年間単位数			43		44		29		8			
合計単位数			124									

健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科 履修モデル② [コミュニティ健康スポーツ ユニット]

【地域の健康づくりやスポーツ活動を支援するためのヘルスプロモーションや健康増進科学、健康運動指導法等を主要とする分野を学んだ上で社会に貢献する人材を育成するモデル】

			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		区分別 単位数計	
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
基盤 教育 科目	哲学・思想						宗教学	2			2	
	学問の基礎		社会学	2			歴史学	2			4	
	世界の伝統と文化										0	
	グローバル社会の実際										0	
	語学	必修科目	英語Ⅰ A	1	英語Ⅲ A	1					8	
			英語Ⅰ B	1	英語Ⅲ B	1						
	英語Ⅱ A		1	英語Ⅳ A	1							
	英語Ⅱ B		1	英語Ⅳ B	1							
		選択科目									0	
	キャリア・市民形成		地域マネジメント コミュニケーション&マナー	2 2	情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ	2 2					8	
健康・スポーツ科学										0		
総合・学際										0		
専門 教育 科目	学部必修科目		健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 A	2	健康スポーツ科学演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学演習Ⅲ	2	24	
			健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 B	2	健康スポーツ科学演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学演習Ⅳ	2		
			健康スポーツキャリアデザイン A	2				卒業研究・論文Ⅰ	2			
			健康スポーツキャリアデザイン B	2				卒業研究・論文Ⅱ	2			
	学科必修科目		健康・スポーツの自然科学	2	トレーニング概論	2	健康スポーツアクティビティⅡ C	1			21	
			健康・スポーツの人文・社会科学	2	健康スポーツアクティビティⅠ C	1	健康スポーツアクティビティⅡ D	1				
			スポーツ哲学	2	健康スポーツアクティビティⅠ D	1						
			ベーシック・トレーニング	1	健康スポーツアクティビティⅡ A	1						
			国際健康スポーツ交流 A	2	健康スポーツアクティビティⅡ B	1						
			健康スポーツアクティビティⅠ A	1								
			健康スポーツアクティビティⅠ B	1								
			健康スポーツアクティビティⅢ A	1								
			健康スポーツアクティビティⅢ B	1								
		コミュニティ健康スポーツ系	レクリエーション実習	2	ヘルスプロモーション論	2					14	
レクリエーション論			2	高齢者健康スポーツ指導法	1							
公衆衛生学	2		フィールドワーク実習	1								
生涯スポーツ論	2		健康社会学	2								
学科 選択 科目	他分野・共通系	健康スポーツ統計	2	子ども健康スポーツ指導法	1	健康教育学	2			43		
		生活習慣と健康	2	健康スポーツ文化論	2	スポーツ組織論	2					
		運動学（運動方法学を含む）	2	スポーツ社会学	2	スポーツ施設マネジメント	2					
				スポーツ政策論	2	健康栄養学	2					
				地域スポーツクラブ論	2	健康政策と行政	2					
				健康づくり運動指導法実習	1	健康スポーツインターンシップ A	2					
				スポーツ心理学	2	エアロビクス指導法	1					
				運動生理学Ⅰ	2	スポーツと応急救置	2					
				スポーツマネジメント	2	精神保健学	2					
				スポーツビジネス	2							
				健康スポーツボランティア活動 A	2							
年間単位数			45		44		27		8			
合計単位数			124									

健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科 履修モデル③ [学校保健・スポーツ教育 ユニット]

【学校における保健活動や保健体育教育を実践的に学び、養護教諭、保健体育教員、スポーツ教育者の育成などを主要とする分野を学んだ上で社会に貢献する人材を育成するモデル】

			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		区分別 単位数計	
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
基盤 教育 科目	哲学・思想		生命と倫理	2							2	
	学問の基礎		政治学	2							2	
	世界の伝統と文化						地域文化研究 B	2			2	
	グローバル社会の 実際										0	
	語学	必修科目	英語Ⅰ A	1	英語Ⅲ A	1					8	
			英語Ⅰ B	1	英語Ⅲ B	1						
			英語Ⅱ A	1	英語Ⅳ A	1						
			英語Ⅱ B	1	英語Ⅳ B	1						
		選択科目									0	
	キャリア・市民形成		日本国憲法	2	情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ	2 2	社会貢献活動入門	2			8	
健康・スポーツ科学										0		
総合・学際										0		
専門 教育 科目	学部必修科目		健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 A	2	健康スポーツ科学演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学演習Ⅲ	2	24	
			健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 B	2	健康スポーツ科学演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学演習Ⅳ	2		
			健康スポーツキャリアデザイン A	2					卒業研究・論文Ⅰ	2		
			健康スポーツキャリアデザイン B	2					卒業研究・論文Ⅱ	2		
	学科必修科目		健康・スポーツの自然科学	2	トレーニング概論	2	健康スポーツアクティビティⅡ C	1			21	
			健康・スポーツの人文・社会科学	2	健康スポーツアクティビティⅠ C	1	健康スポーツアクティビティⅡ D	1				
			スポーツ哲学	2	健康スポーツアクティビティⅠ D	1						
			ベーシック・トレーニング	1	健康スポーツアクティビティⅡ A	1						
			国際健康スポーツ交流 A	2	健康スポーツアクティビティⅡ B	1						
			健康スポーツアクティビティⅠ A	1								
			健康スポーツアクティビティⅠ B	1								
			健康スポーツアクティビティⅢ A	1								
			健康スポーツアクティビティⅢ B	1								
	学校保健・ス ポーツ教 育系	精神保健学	2	子ども健康スポーツ指導法	1					11		
		アダプテッドスポーツ実習	1	健康教育学	2							
				学校環境衛生実習	1							
				学校保健（小児保健を含む）	2							
				障がい者スポーツ論	2							
		学科選 択科目	他分野・ 共通系	運動学（運動方法学を含む）	2	運動生理学Ⅱ	2	スポーツ医学Ⅰ（内科）	2			46
	コーチング概論			2	運動生理学実習	1	スポーツ医学Ⅱ（整形外科）	2				
	スポーツと応急処置			2	解剖学	2	免疫と薬理	2				
	医学概論			2	解剖学実習	1	生活習慣と健康	2				
	運動生理学Ⅰ			2	生理・生化学実習	1	生涯スポーツ論	2				
					人体組織学	2	レクリエーション実習	1				
					スポーツ生理学	2	レクリエーション論	2				
				スポーツ心理学	2	スポーツ史	2					
				スポーツ栄養学Ⅰ	2	スポーツ社会学	2					
				公衆衛生学	2							
				健康スポーツボランティア活動 A	2							
年間単位数				44		45		27		8		
合計単位数			124									

健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科 履修モデル④ [健康・スポーツ文化 ユニット]

【健康やスポーツに関わる現象について社会文化的な側面からそのあり方や理論を学び、問題解決に必要な科学的な根拠を提供する分野を学んだ上で社会に貢献する人材を育成するモデル】

			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		区分 別 単 位 数 計
			科目名	単 位 数	科目名	単 位 数	科目名	単 位 数	科目名	単 位 数	
基盤 教育 科目	哲学・思想						宗教学	2			2
	学問の基礎		歴史学	2							2
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会の実際										0
	語学	必修科目	英語Ⅰ A	1	英語Ⅲ A	1					8
			英語Ⅰ B	1	英語Ⅲ B	1					
	英語Ⅱ A		1	英語Ⅳ A	1						
	英語Ⅱ B		1	英語Ⅳ B	1						
		選択科目									0
キャリア ・市民形成		情報リテラシーⅠ	2	口頭表現法	2	グローバル市民論	2			8	
		情報リテラシーⅡ	2								
健康・スポーツ科学										0	
総合・学際										0	
専門 教育 科目	学部必修科目		健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 A	2	健康スポーツ科学演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学演習Ⅲ	2	24
			健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 B	2	健康スポーツ科学演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学演習Ⅳ	2	
			健康スポーツキャリアデザイン A	2					卒業研究・論文Ⅰ	2	
			健康スポーツキャリアデザイン B	2					卒業研究・論文Ⅱ	2	
	学科必修科目		健康・スポーツの自然科学	2	トレーニング概論	2	健康スポーツアクティビティⅡ C	1			21
			健康・スポーツの人文・社会科学	2	健康スポーツアクティビティⅠ C	1	健康スポーツアクティビティⅡ D	1			
			スポーツ哲学	2	健康スポーツアクティビティⅠ D	1					
			ベーシック・トレーニング	1	健康スポーツアクティビティⅡ A	1					
			国際健康スポーツ交流 A	2	健康スポーツアクティビティⅡ B	1					
			健康スポーツアクティビティⅠ A	1							
			健康スポーツアクティビティⅠ B	1							
			健康スポーツアクティビティⅢ A	1							
			健康スポーツアクティビティⅢ B	1							
	学科 選択 科目	健康・ス ポーツ文 化系	健康スポーツ文化論	2	スポーツ史	2	国際開発論	2			16
					スポーツ社会学	2					
				スポーツ人類学	2						
				日本文化とスポーツ	2						
				国際交流論	2						
				国際健康スポーツ交流 C	2						
	他分野・ 共通系	スポーツマネジメント スポーツビジネス 生涯スポーツ論 レクリエーション実習 レクリエーション論 健康スポーツ統計	フィールドワーク実習	1	健康社会学	2					43
外国語文献購読			2	ヘルスプロモーション論	2						
スポーツとメディア			2	障がい者スポーツ論	2						
スポーツの法と倫理			2	アダプテッドスポーツ実習	1						
身体文化論			2	スポーツ施設マネジメント	2						
スポーツ組織論			2	スポーツマーケティング	2						
トップスポーツ論			2	地域スポーツクラブ論	2						
スポーツ政策論			2	健康スポーツインターンシップ A	2						
健康スポーツ特別演習 A			2								
年間単位数			44		45		27		8		
合計単位数		124									

健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科 履修モデル⑤ [アスレティック・コンディショニング ユニット]

【競技力向上、健康問題予防のためのコンディショニングやリコンディショニングと包括的なアスリート支援を主要とする分野を学んだ上で社会に貢献する人材を育成するモデル】

			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		区分別 単位数計	
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
基盤 教育 科目	哲学・思想				哲学	2					2	
	学問の基礎						生物学	2	経済学	2	4	
	世界の伝統と文化										0	
	グローバル社会の実際										0	
	語学	必修科目	英語Ⅰ A	1	英語Ⅲ A	1					8	
			英語Ⅰ B	1	英語Ⅲ B	1						
	英語Ⅱ A		1	英語Ⅳ A	1							
	英語Ⅱ B		1	英語Ⅳ B	1							
		選択科目									0	
キャリア・市民形成		情報リテラシーⅠ	2	プレゼンテーション技法	2	ジェンダー論	2			8		
		情報リテラシーⅡ	2									
健康・スポーツ科学										0		
総合・学際										0		
専門 教育 科目	学部必修科目		健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 A	2	健康スポーツ科学演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学演習Ⅲ	2	24	
			健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 B	2	健康スポーツ科学演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学演習Ⅳ	2		
			健康スポーツキャリアデザイン A	2				卒業研究・論文Ⅰ	2			
			健康スポーツキャリアデザイン B	2				卒業研究・論文Ⅱ	2			
	学科必修科目		健康・スポーツの自然科学	2	トレーニング概論	2	健康スポーツアクティビティⅡ C	1			21	
			健康・スポーツの人文・社会科学	2	健康スポーツアクティビティⅠ C	1	健康スポーツアクティビティⅡ D	1				
			スポーツ哲学	2	健康スポーツアクティビティⅠ D	1						
			ベーシック・トレーニング	1	健康スポーツアクティビティⅡ A	1						
			国際健康スポーツ交流 A	2	健康スポーツアクティビティⅡ B	1						
			健康スポーツアクティビティⅠ A	1								
			健康スポーツアクティビティⅠ B	1								
			健康スポーツアクティビティⅢ A	1								
			健康スポーツアクティビティⅢ B	1								
	学科選択科目	アスレティック・コンディショニング系	スポーツと応急処置	2	スポーツ医学Ⅰ（内科）	2	アスレティックコンディショニング演習	1			20	
					スポーツ医学Ⅱ（整形外科）	2	アスレティックトレーニング論	2				
					アスリートの健康（予防とマネジメント）	2	スポーツとコンディショニング	2				
					アスレティックトレーニング指導法	1	スポーツ栄養学Ⅰ	2				
					トレーニングプログラミング論	2	スポーツ栄養学Ⅱ	2				
		他分野・共通系	生理学	2	生理・生化学実習	1	スポーツの法と倫理	2			37	
			解剖学	2	運動生理学Ⅱ	2	身体文化論	2				
運動生理学Ⅰ			2	運動生理学実習	1	健康スポーツインターンシップ A	2					
コーチング概論			2	機能解剖学	2							
医学概論			2	バイオメカニクス	2							
運動学（運動方法学を含む）			2	バイオメカニクス実習	1							
健康スポーツ統計	2	スポーツ心理学	2									
		測定評価	2									
		人体組織学	2									
		公衆衛生学	2									
年間単位数			45		44		25		10			
合計単位数			124									

健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科 履修モデル⑥ [コーチング ユニット]

【専門競技のスキルやパフォーマンス指導法に加え、プレーヤーの自立を尊重し、パフォーマンス向上を支援するための環境づくりを主要とする分野を学んだ上で社会に貢献する人材を育成するモデル】

			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		区分別 単位数計	
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
基盤 教育 科目	哲学・思想		宗教学	2							2	
	学問の基礎		経営学	2			地理学	2			4	
	世界の伝統と文化										0	
	グローバル社会の実際										0	
	語学	必修科目	英語Ⅰ A	1	英語Ⅲ A	1					8	
			英語Ⅰ B	1	英語Ⅲ B	1						
	英語Ⅱ A		1	英語Ⅳ A	1							
	英語Ⅱ B		1	英語Ⅳ B	1							
	選択科目									0		
キャリア・市民形成		コミュニケーション&マナー	2	情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ	2 2	ダイバーシティ論	2			8		
健康・スポーツ科学										0		
総合・学際										0		
専門 教育 科目	学部必修科目		健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 A	2	健康スポーツ科学演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学演習Ⅲ	2	24	
			健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 B	2	健康スポーツ科学演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学演習Ⅳ	2		
			健康スポーツキャリアデザイン A	2				卒業研究・論文Ⅰ	2			
			健康スポーツキャリアデザイン B	2				卒業研究・論文Ⅱ	2			
	学科必修科目		健康・スポーツの自然科学	2	トレーニング概論	2	健康スポーツアクティビティⅡ C	1			21	
			健康・スポーツの人文・社会科学	2	健康スポーツアクティビティⅠ C	1	健康スポーツアクティビティⅡ D	1				
			スポーツ哲学	2	健康スポーツアクティビティⅠ D	1						
			ベーシック・トレーニング	1	健康スポーツアクティビティⅡ A	1						
			国際健康スポーツ交流 A	2	健康スポーツアクティビティⅡ B	1						
			健康スポーツアクティビティⅠ A	1								
			健康スポーツアクティビティⅠ B	1								
			健康スポーツアクティビティⅢ A	1								
			健康スポーツアクティビティⅢ B	1								
	学科 選択 科目	コーチング系	運動学（運動方法学を含む）	2	スポーツのコーチング理論Ⅰ	2	スポーツのコーチング演習Ⅱ	2			16	
			コーチング概論	2	スポーツのコーチング理論Ⅱ	2						
					スポーツ生理学	2						
					スポーツ心理学	2						
					スポーツのコーチング演習Ⅰ	2						
他分野・共通系		運動生理学Ⅰ	2	バイオメカニクス	2	トップスポーツ論	2	スポーツ栄養学Ⅱ	2	41		
		健康スポーツ情報	2	スポーツの法と倫理	2	スポーツの法と倫理	2					
		健康スポーツ統計	2	運動生理学Ⅱ	2	地域スポーツクラブ論	2					
		スポーツと応急処置	2	危機管理と救急法	2	スポーツ栄養学Ⅰ	2					
		生涯スポーツ論	2	機能解剖学	2	スポーツ医学Ⅱ	2					
				運動生理学実習	1	トレーニングプログラミング論	2					
				力学演習	2							
				測定評価	2							
				スポーツ医学Ⅰ	2							
年間単位数			45		45		24		10			
合計単位数			124									

健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科 履修モデル⑦ [スポーツ情報 ユニット]

【運動やスポーツから得られる様々な身体データの測定評価、処理法を学び、人々の健康増進やアスリートのコンディショニングに対してデータからの支援を主要とする分野を学んだ上で社会に貢献する人材を育成するモデル】

			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		区 分 別 単 位 数 計	
			科目名	単 位 数	科目名	単 位 数	科目名	単 位 数	科目名	単 位 数		
基 盤 教 育 科 目	哲学・思想				哲学	2					2	
	学問の基礎				数学	2	物理学	2			4	
	世界の伝統と文化						地域文化研究 E	2			2	
	グローバル社会の実際										0	
	語学	必修科目	英語Ⅰ A	1	英語Ⅲ A	1					8	
			英語Ⅰ B	1	英語Ⅲ B	1						
	英語Ⅱ A		1	英語Ⅳ A	1							
	英語Ⅱ B		1	英語Ⅳ B	1							
	選択科目									0		
キャリア・市民形成		文章読解	2	プログラミング基礎Ⅰ プログラミング基礎Ⅱ	2 2	環境政策論	2			8		
健康・スポーツ科学										0		
総合・学際						全学総合 D	2			2		
専 門 教 育 科 目	学部必修科目		健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 A	2	健康スポーツ科学演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学演習Ⅲ	2	24	
			健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 B	2	健康スポーツ科学演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学演習Ⅳ	2		
			健康スポーツキャリアデザイン A	2				卒業研究・論文Ⅰ	2			
			健康スポーツキャリアデザイン B	2				卒業研究・論文Ⅱ	2			
	学科必修科目		健康・スポーツの自然科学	2	トレーニング概論	2	健康スポーツアクティビティⅡ C	1			21	
			健康・スポーツの人文・社会科学	2	健康スポーツアクティビティⅠ C	1	健康スポーツアクティビティⅡ D	1				
			スポーツ哲学	2	健康スポーツアクティビティⅠ D	1						
			ベーシック・トレーニング	1	健康スポーツアクティビティⅡ A	1						
			国際健康スポーツ交流 A	2	健康スポーツアクティビティⅡ B	1						
			健康スポーツアクティビティⅠ A	1								
			健康スポーツアクティビティⅠ B	1								
			健康スポーツアクティビティⅢ A	1								
			健康スポーツアクティビティⅢ B	1								
	学科 選 択 科 目	スポーツ情報系	力学基礎	2	力学演習	2	スポーツダイナミクス解析	2			19	
			健康スポーツ情報	2	バイオメカニクス	2	シミュレーション演習	2				
			健康スポーツ統計	2	バイオメカニクス実習	1						
					センシング技術	2						
					プログラミング演習（データ処理含む）	2						
		他分野・共通系	生理学	2	機能解剖学	2	スポーツ医学Ⅱ	2	危機管理と救急法	2	34	
			解剖学	2	運動生理学Ⅱ	2	トップスポーツ論	2				
運動生理学Ⅰ			2	生化学	2	測定評価	2					
医学概論			2	運動疫学	2							
スポーツと応急処置			2	スポーツ医学Ⅰ	2							
生涯スポーツ論			2	運動学 スポーツ生理学	2 2							
年間単位数			45		45		24		10			
合計単位数			124									

健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科 履修モデル⑧ [スポーツビジネス ユニット]

【プロスポーツやトップスポーツ、スポーツ組織の経営マネジメントなど、スポーツの産業化を主要とする分野を学んだ上で社会に貢献する人材を育成するモデル】

			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		区分 別 単 位 数 計							
			科目名	単 位 数	科目名	単 位 数	科目名	単 位 数	科目名	単 位 数								
基盤 教育 科目	哲学・思想		生命と倫理	2							2							
	学問の基礎		経済学	2							2							
	世界の伝統と文化										0							
	グローバル社会 の実際										0							
	語学	必修科目	英語Ⅰ A	1	英語Ⅲ A	1					8							
			英語Ⅰ B	1	英語Ⅲ B	1												
			英語Ⅱ A	1	英語Ⅳ A	1												
			英語Ⅱ B	1	英語Ⅳ B	1												
		選択科目									0							
キャリア ・市民形成		情報リテラシーⅠ	2	基礎会計学	2	アントレプレナーシップ	2			8								
		情報リテラシーⅡ	2															
健康・スポーツ 科学										0								
総合・学際										0								
専門 教育 科目	学部必修科目		健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 A	2	健康スポーツ科学演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学演習Ⅲ	2	24							
			健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 B	2	健康スポーツ科学演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学演習Ⅳ	2								
			健康スポーツキャリアデザイン A	2					卒業研究・論文Ⅰ	2								
			健康スポーツキャリアデザイン B	2					卒業研究・論文Ⅱ	2								
	学科必修科目		健康・スポーツの自然科学	2	トレーニング概論	2	健康スポーツアクティビティⅡ C	1			21							
			健康・スポーツの人文・社会科学	2	健康スポーツアクティビティⅠ C	1	健康スポーツアクティビティⅡ D	1										
			スポーツ哲学	2	健康スポーツアクティビティⅠ D	1												
			ベーシック・トレーニング	1	健康スポーツアクティビティⅡ A	1												
			国際健康スポーツ交流 A	2	健康スポーツアクティビティⅡ B	1												
			健康スポーツアクティビティⅠ A	1														
			健康スポーツアクティビティⅠ B	1														
			健康スポーツアクティビティⅢ A	1														
			健康スポーツアクティビティⅢ B	1														
	スポーツ ビジネス 系		スポーツマネジメント	2	スポーツ組織論	2					18							
			スポーツビジネス	2	トップスポーツ論	2												
					スポーツ政策論	2												
					スポーツ施設マネジメント	2												
					スポーツとメディア	2												
					地域スポーツクラブ論	2												
					スポーツマーケティング	2												
			学科 選択 科目	他分野・ 共通系	生涯スポーツ論	2						スポーツの法と倫理	2	スポーツ人類学	2	健康スポーツインターンシップ A	2	41
					公衆衛生学	2						フィールドワーク実習	1	健康社会学	2			
					レクリエーション論	2						スポーツ社会学	2	健康政策と行政	2			
					健康スポーツボランティア活動 A	2						国際健康スポーツ交流 C	2	ヘルスプロモーション論	2			
												障がい者スポーツ論	2	日本文化とスポーツ	2			
												スポーツ史	2	スポーツ心理学	2			
												健康栄養論	2	身体文化論	2			
												国際交流論	2	国際開発論	2			
年間単位数			45		45		24		10									
合計単位数			124															

健康スポーツ科学部 栄養科学科 履修モデル① [栄養疫学・栄養教育学ユニット]

【健康寿命の延伸と自然に健康になれる持続可能な食環境形成に寄与するために、様々な特性を持つあらゆる集団における食意識、知識、食行動、食事、料理、食品、栄養素と健康状態に関わるデータ解析や、行動変容技法を用いた個人への働きかけを行い、栄養および健康上の課題を解決できる力を持つ人材を育成するモデル】

			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		区分別 単位数計	
			科目名	単 位 数	科目名	単 位 数	科目名	単 位 数	科目名	単 位 数		
基盤 教育 科目	哲学・思想		哲学	2							2	
	学問の基礎		歴史学	2	統計学	2	地理学	2			6	
	世界の伝統と文化		地域文化研究 A	2							2	
	グローバル社会の実際										0	
	語学	必修科目	英語Ⅰ A	1	英語Ⅲ A	1					8	
			英語Ⅰ B	1	英語Ⅲ B	1						
			英語Ⅱ A	1	英語Ⅳ A	1						
			英語Ⅱ B	1	英語Ⅳ B	1						
	選択科目										0	
	キャリア・市民形成		情報リテラシーⅠ	2	ジェンダー論	2	キャリアディベロップメント	2			10	
情報リテラシーⅡ			2	環境政策論	2							
健康・スポーツ科学										0		
総合・学際				全学総合 D	2					2		
専門 教育 科目	学部必修科目		健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 A	2	健康スポーツ科学演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学演習Ⅲ	2	24	
			健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 B	2	健康スポーツ科学演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学演習Ⅳ	2		
			健康スポーツキャリアデザイン A	2				卒業研究・論文Ⅰ	2			
			健康スポーツキャリアデザイン B	2				卒業研究・論文Ⅱ	2			
	学科必修科目		基礎化学Ⅰ	2	免疫生化学	2	スポーツ栄養学実習	1			24	
			基礎栄養学	2	運動生理学	2	メディカルライティング	2				
			公衆衛生学	2	細胞生物学実験	1						
			細胞生物学	2	栄養疫学	2						
			生理学	2	運動生理学実験	1						
			疫学	2								
			基礎栄養学実験	1								
	選択必修科目	栄養疫学・栄養教育学分野			公衆栄養学	2	栄養疫学実習Ⅰ（観察疫学）	1			8	
					栄養教育論	2	栄養疫学実習Ⅱ（実験疫学）	1				
		他分野・共通分野	調理学実習		1	食品衛生学	2	校外実習	1			8
						栄養マネジメント（運営理論）	1					
					栄養マネジメント（実践）	1						
					大量調理と HACCP（理論）	1						
		大量調理と HACCP（実践）	1									
選択科目	情報連携分野	情報処理数学Ⅰ	2	プログラミング言語Ⅰ	2	データサイエンスⅠ	2	機械学習Ⅰ	2	16		
		情報処理数学Ⅱ	2	プログラミング言語Ⅱ	2	データサイエンスⅡ	2	機械学習Ⅱ	2			
	健康と運動分野									0		
		行動科学分野	実践食文化（3 大宗教と食文化）	2	意思決定理論	2	認知科学	2	持続可能社会と食環境づくり	2	14	
					食品パッケージ論	2	行動経済学	2				
共通分野						起業基礎（ビジネスマナー含む）	2			0		
年間単位数			42		44		24		14			
合計単位数			124									

健康スポーツ科学部 栄養科学科 履修モデル② [スポーツ栄養・生理学ユニット]

【食事摂取や身体活動に伴う生体応答とそのメカニズムを生理学的に明らかにし、一般市民の健康づくりからアスリートのコンディショニング維持まで、それぞれの対象に見合った栄養管理や運動指導ができる人材を育成するモデル】

			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		区分別 単位数 計	
			科目名	単 位 数	科目名	単 位 数	科目名	単 位 数	科目名	単 位 数		
基盤 教育 科目	哲学・思想		哲学	2							2	
	学問の基礎		社会学	2	生物学	2	統計学	2			6	
	世界の伝統と文化				地域文化研究D	2					2	
	グローバル社会 の実際										0	
	語学	必修科目	英語ⅠA	1	英語ⅢA	1					8	
			英語ⅠB	1	英語ⅢB	1						
			英語ⅡA	1	英語ⅣA	1						
			英語ⅡB	1	英語ⅣB	1						
		選択科目									0	
キャリア ・市民形成		情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ	2 2	グローバル市民論 情報化社会と人間	2 2	インターンシップ入門	2			10		
健康・スポーツ 科学		スポーツ健康科学実技Ⅰ	1	スポーツ健康科学実技Ⅱ	1					2		
総合・学際				全学総合H	2					2		
専門 教育 科目	学部必修科目		健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習A	2	健康スポーツ科学演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学演習Ⅲ	2	24	
			健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習B	2	健康スポーツ科学演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学演習Ⅳ	2		
			健康スポーツキャリアデザインA	2				卒業研究・論文Ⅰ	2			
			健康スポーツキャリアデザインB	2				卒業研究・論文Ⅱ	2			
	学科必修科目		基礎化学Ⅰ	2	免疫生化学	2	スポーツ栄養学実習	1			24	
			基礎栄養学	2	運動生理学	2	メディカルライティング	2				
			公衆衛生学	2	細胞生物学実験	1						
			細胞生物学	2	栄養疫学	2						
			生理学	2	運動生理学実験	1						
			疫学	2								
			基礎栄養学実験	1								
	選択 必修 科目	スポーツ 栄養・生 理学分野	スポーツ栄養学	2	栄養生化学 栄養生化学実習 体力測定評価法	2 1 2	スポーツ栄養マネジメント（運営理論） スポーツ栄養マネジメント（実践） 健康づくりと運動プログラム 応急手当法	2 1 2 2			14	
			他分野・ 共通分野	食品微生物学	2	食品衛生学 栄養マネジメント（運営理論） 栄養マネジメント（実践）	2 1 1				6	
		選択 科目	情報連携 分野	情報処理数学Ⅰ 情報処理数学Ⅱ	2 2							4
	健康と運 動分野		健康づくり運動の実際 （ウォーキング） 健康づくり運動の実際 （エアロビクス）	1 1	健康づくり運動の実際 （水泳・水中運動） 健康づくり運動の実際 （レジスタンストレーニング） スポーツ心理学	1 1 1 2					6	
	行動科学 分野		実践食文化（3大宗教と食文化）	2	意思決定理論 マーケティング学	2 2	認知科学 行動経済学 マスコミ概論	2 2 2	持続可能社会と食環境づくり	2	14	
	共通 分野										0	
年間単位数			46		44		24		10			
合計単位数			124									

健康スポーツ科学部 栄養科学科 履修モデル③ [食理学ユニット]

【食品由来の機能性成分の新たな生理学的及び薬理学的作用を明らかにし、その作用に基づいた中高年の未病対策及びアスリートのコンディショニング維持が可能な新たな方法論の開発に貢献しうる人材を育成するモデル】

			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		区分 別 単 位 数 計
			科目名	単 位 数	科目名	単 位 数	科目名	単 位 数	科目名	単 位 数	
基盤 教育 科目	哲学・思想		生命と倫理	2							2
	学問の基礎				現代化学 法学	2 2	政治学	2			6
	世界の伝統と文化										0
	グローバル社会 の実際										0
	語学	必修科目	英語Ⅰ A	1	英語Ⅲ A	1					8
			英語Ⅰ B	1	英語Ⅲ B	1					
			英語Ⅱ A	1	英語Ⅳ A	1					
			英語Ⅱ B	1	英語Ⅳ B	1					
	選択科目									0	
キャリア ・市民形成		情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ	2 2	ダイバーシティ論 文章読解	2 2					8	
健康・スポーツ 科学										0	
総合・学際				全学総合 E	2					2	
専門 教育 科目	学部必修科目		健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 A	2	健康スポーツ科学演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学演習Ⅲ	2	24
			健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習 B	2	健康スポーツ科学演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学演習Ⅳ	2	
			健康スポーツキャリアデザイン A	2				卒業研究・論文Ⅰ	2		
			健康スポーツキャリアデザイン B	2				卒業研究・論文Ⅱ	2		
	学科必修科目		基礎化学Ⅰ	2	免疫生化学	2	スポーツ栄養学実習	1			24
			基礎栄養学	2	運動生理学	2	メディカルライティング	2			
			公衆衛生学	2	細胞生物学実験	1					
			細胞生物学	2	栄養疫学	2					
			生理学	2	運動生理学実験	1					
			疫学	2							
基礎栄養学実験			1								
選択 必修 科目			食理学分 野	食品学	2	食品学実験Ⅱ	1	食理学Ⅰ	2		
	食品学実験Ⅰ	1		動物学	2	食理学Ⅱ 機器分析	2 2				
	他分野・ 共通分野	食品微生物学	2	食品衛生学	2	有機化学Ⅱ	2			14	
		基礎栄養学Ⅱ	2	栄養マネジメント（運営理論） 栄養マネジメント（実践） 無機化学 有機化学Ⅰ	1 1 2 2						
選択 科目	情報連携 分野	情報処理数学Ⅰ	2	プログラミング言語Ⅰ	2	データサイエンスⅠ	2	機械学習Ⅰ	2	16	
		情報処理数学Ⅱ	2	プログラミング言語Ⅱ	2	データサイエンスⅡ	2	機械学習Ⅱ	2		
	健康と運 動分野									0	
		行動科学 分野	実践食文化（3 大宗教と食文化）	2	意思決定理論	2	認知科学	2	持続可能社会と食環境づくり	2	8
			共通 分野								0
年間単位数			44		43		23		14		
合計単位数			124								

健康スポーツ科学部 栄養科学科 履修モデル④ [生活習慣病予防学ユニット]

【栄養、運動、休養の相互関係を理解し、健康な個人または集団を対象として、国民の健康の維持・増進、生活習慣病の予防や、フレイル予防を目的とした対策を講じられる人材を育成するモデル】

			1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		区分別 単位数計							
			科目名	単 位 数	科目名	単 位 数	科目名	単 位 数	科目名	単 位 数								
基盤 教育 科目	哲学・思想		哲学	2							2							
	学問の基礎		文化人類学	2	生物学	2	日本文学	2			6							
	世界の伝統と文化										0							
	グローバル社会の 実際										0							
	語学	必修科目	英語ⅠA	1	英語ⅢA	1					8							
			英語ⅠB	1	英語ⅢB	1												
			英語ⅡA	1	英語ⅣA	1												
			英語ⅡB	1	英語ⅣB	1												
	選択科目									0								
キャリア ・市民形成		情報リテラシーⅠ	2	地域マネジメント	2	インターンシップ入門	2			10								
		情報リテラシーⅡ	2	障害学	2													
健康・スポーツ 科学		スポーツ健康科学実技Ⅰ	1	スポーツ健康科学実技Ⅱ	1					2								
総合・学際				全学総合G	2					2								
専門 教育 科目	学部必修科目		健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習A	2	健康スポーツ科学演習Ⅰ	2	健康スポーツ科学演習Ⅲ	2	24							
			健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学プロジェクト演習B	2	健康スポーツ科学演習Ⅱ	2	健康スポーツ科学演習Ⅳ	2								
			健康スポーツキャリアデザインA	2				卒業研究・論文Ⅰ	2									
			健康スポーツキャリアデザインB	2				卒業研究・論文Ⅱ	2									
	学科必修科目		基礎化学Ⅰ	2	免疫生化学	2	スポーツ栄養学実習	1			24							
			基礎栄養学	2	運動生理学	2	メディカルライティング	2										
			公衆衛生学	2	細胞生物学実験	1												
			細胞生物学	2	栄養疫学	2												
			生理学	2	運動生理学実験	1												
			疫学	2														
			基礎栄養学実験	1														
	選択 必修 科目	生活習慣 病予防学 分野	基礎化学Ⅱ	2	無機化学	2	ライフステージ栄養学実習	1	医療保険	2	21							
他分野・ 共通分野			食品微生物学 ・調理学実習	ライフステージ栄養学	2	解剖生理学実験	1											
				機能解剖学	2	臨床栄養学実習	1											
				有機化学Ⅰ	2	臨床栄養学	2											
				予防医学概論	2	有機化学Ⅱ	2											
情報連携 分野		健康と運 動分野	健康づくり運動の実際 （ウォーキング） 健康づくり運動の実際 （エアロビクス）	健康づくり運動の実際 （水泳・水中運動） 健康づくり運動の実際 （レジスタンストレーニング）						4								
											実践食文化（3 大宗教と食文化）	意思決定理論	2	認知科学 行動経済学	2	持続可能社会と食環境づくり	2	10
年間単位数			43		43		26		12									
合計単位数			124															

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（私立）

No.	No	実習校名	学級数	所在地
1	6-1-2-001	東洋大学附属牛久中学校	6	茨城県牛久市柏田町1360-2
2	6-1-2-002	東洋大学附属姫路中学校	6	兵庫県姫路市書写1699
3	6-1-2-003	東洋大学京北中学校	12	東京都文京区白山二丁目36番5号
4	6-1-2-004	東洋大学附属牛久高等学校	45	茨城県牛久市柏田町1360の2
5	6-1-2-005	東洋大学附属姫路高等学校	30	兵庫県姫路市書写木ノ下1699番地
6	6-1-2-006	東洋大学京北高等学校	30	東京都文京区白山二丁目36 番 5 号

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）										住 所	
			総数	通常の学級（学年別）								特別 支援 学級	日 本 語	
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式			
6-1-2-0001	千代田区	麹町	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	麹町2-8
6-1-2-0002	千代田区	九段	16	16	3	3	3	2	3	2	-	-	-	三番町16
6-1-2-0003	千代田区	番町	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	六番町8
6-1-2-0004	千代田区	富士見	15	15	3	3	3	2	2	2	-	-	-	富士見1-10-3
6-1-2-0005	千代田区	お茶の水	11	11	2	2	2	1	2	2	-	-	-	富士見1-1-6
6-1-2-0006	千代田区	千代田	17	12	2	2	2	2	2	2	-	5	-	神田司町2-16
6-1-2-0007	千代田区	昌平	9	9	2	1	2	1	1	2	-	-	-	外神田3-4-7
6-1-2-0008	千代田区	和泉	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	神田和泉町1
6-1-2-0009	中央区	城東	10	6	1	1	1	1	1	1	-	4	-	日本橋兜町15-18（阪本小学校内）
6-1-2-0010	中央区	泰明	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	銀座5-1-13
6-1-2-0011	中央区	明石	19	16	3	3	3	3	2	2	-	3	-	明石町1-15
6-1-2-0012	中央区	明正	17	14	3	3	2	2	2	2	-	3	-	新川2-13-4
6-1-2-0013	中央区	常盤	11	11	2	2	2	2	2	1	-	-	-	日本橋本石町4-4-26
6-1-2-0014	中央区	有馬	20	20	4	3	4	3	3	3	-	-	-	日本橋蛸殻町2-10-23
6-1-2-0015	中央区	久松	24	24	5	5	4	4	3	3	-	-	-	日本橋久松町7-2
6-1-2-0016	中央区	阪本	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	日本橋兜町15-18
6-1-2-0017	中央区	佃島	25	25	5	4	4	4	4	4	-	-	-	佃2-3-1
6-1-2-0018	中央区	月島第一	18	18	4	3	3	3	3	2	-	-	-	月島4-15-1
6-1-2-0019	中央区	月島第二	22	19	4	3	3	3	3	3	-	3	-	勝どき1-12-2
6-1-2-0020	中央区	月島第三	28	28	6	6	4	4	4	4	-	-	-	晴海1-4-1
6-1-2-0021	中央区	豊海	25	25	5	5	3	4	4	4	-	-	-	豊海町3-1
6-1-2-0022	中央区	日本橋	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	日本橋人形町1-1-17
6-1-2-0023	中央区	京橋築地	10	10	2	2	1	1	2	2	-	-	-	築地2-13-1
6-1-2-0024	中央区	中央	11	11	2	2	2	2	2	1	-	-	-	湊1-4-1
6-1-2-0025	港区	芝	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	芝2-21-3
6-1-2-0026	港区	赤羽	18	16	3	3	3	2	2	3	-	2	-	三田1-4-52
6-1-2-0027	港区	芝浦	37	37	9	6	6	6	5	5	-	-	-	芝浦4-8-18
6-1-2-0028	港区	高輪台	22	21	4	4	4	3	3	3	-	1	-	高輪2-8-24
6-1-2-0029	港区	白金	22	22	5	4	4	3	3	3	-	-	-	白金台1-4-26
6-1-2-0030	港区	港南	42	38	7	7	6	6	6	6	-	4	-	港南4-3-28
6-1-2-0031	港区	麻布	13	12	3	2	2	2	1	2	-	-	-	1 麻布台1-5-15
6-1-2-0032	港区	南山	11	11	2	2	2	2	2	1	-	-	-	元麻布3-8-15
6-1-2-0033	港区	本村	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	南麻布3-9-33
6-1-2-0034	港区	筈	18	16	3	3	3	2	3	2	-	-	-	2 西麻布3-11-16
6-1-2-0035	港区	東町	15	15	3	3	2	2	2	3	-	-	-	南麻布1-8-11
6-1-2-0036	港区	青山	12	8	1	1	1	2	1	2	-	4	-	南青山2-21-2
6-1-2-0037	港区	青南	18	18	4	3	3	3	3	2	-	-	-	南青山4-21-15
6-1-2-0038	港区	御成門	17	14	3	3	2	2	2	2	-	3	-	芝公園3-2-4
6-1-2-0039	港区	赤坂	16	16	3	3	3	3	2	2	-	-	-	赤坂8-13-29
6-1-2-0040	港区	港陽	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	台場1-1-5
6-1-2-0041	港区	御田	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	三田4-11-38
6-1-2-0042	港区	白金の丘	23	23	4	4	4	3	4	4	-	-	-	白金4-1-12
6-1-2-0043	新宿区	津久戸	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	津久戸町2-2
6-1-2-0044	新宿区	江戸川	9	9	2	2	2	1	1	1	-	-	-	水道町1-28
6-1-2-0045	新宿区	市谷	15	15	3	3	3	2	2	2	-	-	-	市谷山伏町1-3
6-1-2-0046	新宿区	愛日	18	15	3	3	3	2	2	2	-	3	-	北町26
6-1-2-0047	新宿区	早稲田	20	20	4	4	3	3	3	3	-	-	-	早稲田南町25
6-1-2-0048	新宿区	鶴巻	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	早稲田鶴巻町140
6-1-2-0049	新宿区	牛込仲之	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	市谷仲之町4-33
6-1-2-0050	新宿区	富久	10	10	2	2	2	1	2	1	-	-	-	富久町7-24
6-1-2-0051	新宿区	余丁町	13	12	2	2	2	2	2	2	-	1	-	若松町13-1
6-1-2-0052	新宿区	東戸山	12	7	1	1	1	1	2	1	-	5	-	戸山2-34-2
6-1-2-0053	新宿区	四谷第六	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	大京町30
6-1-2-0054	新宿区	大久保	8	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	2 大久保1-1-21
6-1-2-0055	新宿区	天神	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	新宿6-14-2
6-1-2-0056	新宿区	戸山	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	百人町2-1-38
6-1-2-0057	新宿区	戸塚第一	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	西早稲田3-10-12
6-1-2-0058	新宿区	戸塚第二	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	高田馬場1-25-21
6-1-2-0059	新宿区	戸塚第三	8	8	2	2	1	1	1	1	-	-	-	高田馬場3-18-21
6-1-2-0060	新宿区	落合第一	17	17	3	3	3	3	3	2	-	-	-	中落合2-13-27
6-1-2-0061	新宿区	落合第二	16	12	2	2	2	2	2	2	-	4	-	上落合2-10-23
6-1-2-0062	新宿区	落合第三	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	西落合1-12-20
6-1-2-0063	新宿区	落合第四	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	下落合2-9-34
6-1-2-0064	新宿区	落合第五	9	9	2	2	1	1	2	1	-	-	-	上落合3-1-6
6-1-2-0065	新宿区	落合第六	11	11	2	2	2	2	1	2	-	-	-	西落合4-11-21

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）										住 所	
			総数	通常の学級（学年別）								特別 支援 学級	日 本 語	
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式			
6-1-2-0066	新宿区	淀橋第四	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	北新宿3-17-1
6-1-2-0067	新宿区	西戸山	15	15	3	3	2	2	3	2	-	-	-	百人町4-2-1
6-1-2-0068	新宿区	花園	9	6	1	1	1	1	1	1	-	3	-	新宿1-22-1
6-1-2-0069	新宿区	柏木	13	11	2	2	2	2	2	1	-	2	-	北新宿2-11-1
6-1-2-0070	新宿区	西新宿	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	西新宿4-35-5
6-1-2-0071	新宿区	四谷	18	18	4	4	2	3	2	3	-	-	-	四谷2-6
6-1-2-0072	文京区	礪川	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	小石川2-13-2
6-1-2-0073	文京区	柳町	18	15	3	3	2	2	3	2	-	3	-	小石川1-23-16
6-1-2-0074	文京区	指ヶ谷	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	白山2-28-4
6-1-2-0075	文京区	林町	23	19	4	3	3	3	3	3	-	4	-	千石2-36-3
6-1-2-0076	文京区	明化	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	千石1-13-9
6-1-2-0077	文京区	青柳	16	16	3	3	2	2	3	3	-	-	-	大塚5-40-18
6-1-2-0078	文京区	関口台町	14	14	3	2	3	2	2	2	-	-	-	関口2-6-1
6-1-2-0079	文京区	小日向台町	19	16	3	3	3	2	3	2	-	3	-	小日向2-3-8
6-1-2-0080	文京区	金富	20	17	3	3	3	2	3	3	-	3	-	春日2-6-15
6-1-2-0081	文京区	窪町	27	27	6	5	4	4	4	4	-	-	-	大塚3-2-3
6-1-2-0082	文京区	大塚	11	11	2	2	2	2	2	1	-	-	-	大塚4-1-7
6-1-2-0083	文京区	湯島	17	14	3	2	2	3	2	2	-	3	-	湯島2-28-14
6-1-2-0084	文京区	誠之	23	23	5	4	4	4	3	3	-	-	-	西片2-14-6
6-1-2-0085	文京区	根津	10	10	2	2	1	2	2	1	-	-	-	根津1-14-3
6-1-2-0086	文京区	千駄木	23	23	5	5	4	3	3	3	-	-	-	千駄木5-44-2
6-1-2-0087	文京区	汐見	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	千駄木2-19-23
6-1-2-0088	文京区	昭和	23	23	5	5	4	3	3	3	-	-	-	本駒込2-28-31
6-1-2-0089	文京区	駒本	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	向丘2-37-5
6-1-2-0090	文京区	駕籠町	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	本駒込2-29-6
6-1-2-0091	文京区	本郷	22	22	4	4	4	3	3	4	-	-	-	本郷4-5-15
6-1-2-0092	台東区	根岸	19	19	4	3	3	3	3	3	-	-	-	根岸3-9-8
6-1-2-0093	台東区	東泉	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	三ノ輪1-23-9
6-1-2-0094	台東区	忍岡	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	池之端2-1-22
6-1-2-0095	台東区	谷中	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	谷中2-9-16
6-1-2-0096	台東区	金曾木	16	16	3	3	3	2	3	2	-	-	-	根岸4-16-22
6-1-2-0097	台東区	黒門	17	12	2	2	2	2	2	2	-	5	-	上野1-16-20
6-1-2-0098	台東区	大正	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	入谷2-23-8
6-1-2-0099	台東区	浅草	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	花川戸1-14-15
6-1-2-0100	台東区	富士	14	14	2	3	3	2	2	2	-	-	-	浅草4-48-9
6-1-2-0101	台東区	松葉	9	7	2	1	1	1	1	1	-	2	-	松が谷1-13-16
6-1-2-0102	台東区	千束	9	9	2	1	2	1	2	1	-	-	-	浅草4-24-11
6-1-2-0103	台東区	石浜	11	11	2	2	2	2	2	1	-	-	-	清川1-14-21
6-1-2-0104	台東区	田原	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	雷門1-5-14
6-1-2-0105	台東区	金竜	15	13	2	2	2	2	3	2	-	2	-	千束1-9-9
6-1-2-0106	台東区	上野	13	13	2	2	2	3	2	2	-	-	-	東上野6-16-8
6-1-2-0107	台東区	平成	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	台東4-21-15
6-1-2-0108	台東区	台東育英	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	浅草橋5-1-35
6-1-2-0109	台東区	東浅草	11	11	2	2	1	2	2	2	-	-	-	東浅草2-27-19
6-1-2-0110	台東区	蔵前	23	20	5	4	3	3	3	2	-	3	-	蔵前4-19-11
6-1-2-0111	墨田区	緑	20	18	3	3	3	3	3	3	-	2	-	緑2-12-12
6-1-2-0112	墨田区	外手	16	14	3	3	2	2	2	2	-	2	-	本所2-1-16
6-1-2-0113	墨田区	二葉	19	19	4	3	3	3	3	3	-	-	-	石原2-1-5
6-1-2-0114	墨田区	錦糸	11	11	2	2	2	2	1	2	-	-	-	錦糸1-9-12
6-1-2-0115	墨田区	中和	14	12	2	2	2	2	2	2	-	2	-	菊川1-18-10
6-1-2-0116	墨田区	言問	11	8	1	1	1	1	2	2	-	3	-	向島5-40-14
6-1-2-0117	墨田区	小梅	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	向島2-4-10
6-1-2-0118	墨田区	柳島	18	16	3	3	2	3	2	3	-	2	-	横川5-2-30
6-1-2-0119	墨田区	業平	19	17	3	3	3	3	2	3	-	2	-	業平2-4-8
6-1-2-0120	墨田区	両国	16	16	3	3	3	2	2	3	-	-	-	両国4-26-6
6-1-2-0121	墨田区	横川	17	17	3	3	3	2	3	3	-	-	-	東駒形4-18-4
6-1-2-0122	墨田区	菊川	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	立川4-12-15
6-1-2-0123	墨田区	第三吾嬬	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	八広2-36-3
6-1-2-0124	墨田区	第四吾嬬	12	6	1	1	1	1	1	1	-	6	-	京島3-64-9
6-1-2-0125	墨田区	第一寺島	15	13	2	2	2	2	2	3	-	2	-	東向島1-16-2
6-1-2-0126	墨田区	第二寺島	18	16	3	3	2	3	2	3	-	2	-	東向島4-30-2
6-1-2-0127	墨田区	第三寺島	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	東向島6-8-1
6-1-2-0128	墨田区	曳舟	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	京島1-28-2
6-1-2-0129	墨田区	中川	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	立花5-49-4
6-1-2-0130	墨田区	東吾嬬	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	立花4-22-11
6-1-2-0131	墨田区	押上	16	14	3	2	3	2	2	2	-	2	-	押上3-46-17

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）										住 所	
			総数	通常の学級（学年別）								特別 支援 学級	日 本 語	
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式			
6-1-2-0132	墨田区	八広	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	八広5-12-15
6-1-2-0133	墨田区	隅田	17	15	3	2	2	2	3	3	-	2	-	墨田4-6-5
6-1-2-0134	墨田区	立花吾嬬の森	13	12	2	2	2	2	2	2	-	1	-	立花1-18-6
6-1-2-0135	墨田区	梅若	14	12	2	2	2	2	2	2	-	-	2	墨田2-25-1
6-1-2-0136	江東区	明治	26	26	5	4	4	4	4	5	-	-	-	深川2-17-26
6-1-2-0137	江東区	深川	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	高橋14-10
6-1-2-0138	江東区	八名川	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	新大橋3-1-15
6-1-2-0139	江東区	臨海	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	門前仲町1-1-6
6-1-2-0140	江東区	数矢	21	21	4	4	3	4	3	3	-	-	-	富岡1-18-7
6-1-2-0141	江東区	平久	20	18	4	3	3	3	2	3	-	2	-	木場1-2-2
6-1-2-0142	江東区	東陽	21	18	3	3	3	3	3	3	-	3	-	東陽3-27-12
6-1-2-0143	江東区	川南	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	千石2-9-12
6-1-2-0144	江東区	扇橋	18	18	4	3	3	3	3	2	-	-	-	石島18-5
6-1-2-0145	江東区	元加賀	24	21	4	4	3	4	3	3	-	3	-	白河4-3-19
6-1-2-0146	江東区	毛利	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	毛利2-2-2
6-1-2-0147	江東区	東川	14	13	3	2	2	2	2	2	-	1	-	住吉1-12-2
6-1-2-0148	江東区	豊洲	32	29	5	5	5	5	4	5	-	3	-	豊洲4-4-4
6-1-2-0149	江東区	枝川	27	24	4	5	4	4	4	3	-	3	-	枝川3-5-3
6-1-2-0150	江東区	辰巳	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	辰巳1-11-1
6-1-2-0151	江東区	第一亀戸	17	17	3	3	3	3	3	2	-	-	-	亀戸2-5-7
6-1-2-0152	江東区	第二亀戸	21	21	4	4	3	4	3	3	-	-	-	亀戸6-36-1
6-1-2-0153	江東区	香取	12	8	2	2	1	1	1	1	-	4	-	亀戸4-26-22
6-1-2-0154	江東区	水神	11	11	2	2	2	2	1	2	-	-	-	亀戸5-22-22
6-1-2-0155	江東区	第一大島	17	17	3	3	2	3	3	3	-	-	-	大島2-41-4
6-1-2-0156	江東区	第二大島	16	11	2	2	2	2	1	2	-	5	-	大島3-16-2
6-1-2-0157	江東区	第三大島	16	16	2	3	2	3	3	3	-	-	-	大島9-5-3
6-1-2-0158	江東区	第四大島	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	大島6-7-8
6-1-2-0159	江東区	第五大島	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	大島8-40-13
6-1-2-0160	江東区	砂町	16	16	3	3	2	2	3	3	-	-	-	北砂4-13-23
6-1-2-0161	江東区	第三砂町	17	17	3	3	3	3	2	3	-	-	-	南砂6-3-13
6-1-2-0162	江東区	第四砂町	19	19	4	3	3	3	3	3	-	-	-	南砂2-13-18
6-1-2-0163	江東区	第五砂町	24	21	4	4	3	3	4	3	-	3	-	東砂8-11-5
6-1-2-0164	江東区	第六砂町	10	10	2	2	2	2	1	1	-	-	-	北砂6-26-6
6-1-2-0165	江東区	第七砂町	16	16	3	3	2	2	3	3	-	-	-	東砂3-21-5
6-1-2-0166	江東区	小名木川	14	11	2	2	2	1	2	2	-	3	-	北砂5-22-10
6-1-2-0167	江東区	第二辰巳	24	24	5	5	3	4	4	3	-	-	-	辰巳1-1-22
6-1-2-0168	江東区	東砂	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	東砂2-12-14
6-1-2-0169	江東区	南陽	30	26	5	5	4	4	4	4	-	4	-	東陽2-1-20
6-1-2-0170	江東区	北砂	15	15	3	3	2	2	3	2	-	-	-	北砂1-3-36
6-1-2-0171	江東区	亀高	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	北砂5-20-16
6-1-2-0172	江東区	東雲	25	25	4	4	4	4	5	4	-	-	-	東雲2-4-11
6-1-2-0173	江東区	越中島	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	越中島3-6-38
6-1-2-0174	江東区	浅間竪川	26	26	4	4	5	4	4	5	-	-	-	亀戸9-22-4
6-1-2-0175	江東区	第二砂町	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	東砂7-17-30
6-1-2-0176	江東区	南砂	13	12	2	2	2	2	2	2	-	1	-	南砂2-3-21
6-1-2-0177	江東区	豊洲北	30	30	6	5	5	5	5	4	-	-	-	豊洲3-6-1
6-1-2-0178	江東区	大島南央	10	10	2	2	2	2	1	1	-	-	-	大島4-18-5
6-1-2-0179	江東区	有明	16	14	3	3	2	2	2	2	-	2	-	有明2-10-1
6-1-2-0180	江東区	豊洲西	27	27	6	5	4	4	4	4	-	-	-	豊洲5-1-35
6-1-2-0181	品川区	城南	19	19	4	4	3	3	2	3	-	-	-	南品川2-8-21
6-1-2-0182	品川区	浅間台	10	8	2	2	1	1	1	1	-	2	-	南品川6-8-8
6-1-2-0183	品川区	三木	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	西品川3-16-28
6-1-2-0184	品川区	御殿山	19	19	4	3	3	3	3	3	-	-	-	北品川5-2-6
6-1-2-0185	品川区	城南第二	16	16	2	3	3	2	3	3	-	-	-	東品川3-4-5
6-1-2-0186	品川区	第一日野	21	18	3	3	3	3	3	3	-	3	-	西五反田6-5-32
6-1-2-0187	品川区	芳水	21	21	4	4	4	3	3	3	-	-	-	大崎3-12-22
6-1-2-0188	品川区	第三日野	20	20	4	4	3	3	3	3	-	-	-	上大崎1-19-19
6-1-2-0189	品川区	第四日野	15	15	3	3	3	2	2	2	-	-	-	西五反田4-29-9
6-1-2-0190	品川区	大井第一	24	24	4	4	4	4	4	4	-	-	-	大井6-1-32
6-1-2-0191	品川区	鮫浜	11	11	3	3	2	1	1	1	-	-	-	東大井2-10-14
6-1-2-0192	品川区	山中	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	大井3-7-19
6-1-2-0193	品川区	立会	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	東大井4-15-9
6-1-2-0194	品川区	浜川	22	19	4	3	3	3	3	3	-	3	-	南大井4-3-27
6-1-2-0195	品川区	伊藤	17	17	3	3	3	3	2	3	-	-	-	西大井5-6-8
6-1-2-0196	品川区	鈴ヶ森	19	19	3	4	3	3	3	3	-	-	-	南大井4-16-2
6-1-2-0197	品川区	台場	16	12	2	2	2	2	2	2	-	4	-	東品川1-8-30

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）										住 所	
			総数	通常の学級（学年別）								特別 支援 学級	日 本 語	
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式			
6-1-2-0198	品川区	京陽	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	平塚2-19-20
6-1-2-0199	品川区	延山	17	17	3	3	3	3	3	2	-	-	-	西中延2-17-5
6-1-2-0200	品川区	中延	11	6	1	1	1	1	1	1	-	5	-	中延1-11-15
6-1-2-0201	品川区	小山	13	13	2	2	2	2	2	3	-	-	-	小山5-10-6
6-1-2-0202	品川区	大原	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	戸越6-17-3
6-1-2-0203	品川区	宮前	9	9	2	2	2	1	1	1	-	-	-	戸越4-5-10
6-1-2-0204	品川区	源氏前	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	中延6-2-18
6-1-2-0205	品川区	第二延山	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	旗の台1-6-1
6-1-2-0206	品川区	後地	12	12	3	2	2	1	2	2	-	-	-	小山2-4-6
6-1-2-0207	品川区	戸越	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	豊町2-1-20
6-1-2-0208	品川区	旗台	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	旗の台4-7-11
6-1-2-0209	品川区	上神明	8	6	1	1	1	1	1	1	-	2	-	二葉4-4-10
6-1-2-0210	品川区	清水台	8	7	1	2	1	1	1	1	-	1	-	旗の台1-11-17
6-1-2-0211	品川区	小山台	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	小山台1-18-24
6-1-2-0212	目黒区	八雲	16	13	2	3	2	2	2	2	-	3	-	八雲2-5-1
6-1-2-0213	目黒区	菅刈	16	12	2	2	2	2	2	2	-	4	-	青葉台3-3-26
6-1-2-0214	目黒区	下目黒	15	15	3	3	3	2	2	2	-	-	-	目黒2-7-9
6-1-2-0215	目黒区	碑	20	17	3	3	3	3	2	3	-	3	-	碑文谷1-18-2
6-1-2-0216	目黒区	中目黒	18	18	3	4	2	3	3	3	-	-	-	中目黒3-13-32
6-1-2-0217	目黒区	油面	18	17	3	3	3	2	3	3	-	1	-	中町1-5-4
6-1-2-0218	目黒区	大岡山	21	21	4	4	3	4	3	3	-	-	-	平町2-3-1
6-1-2-0219	目黒区	烏森	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	上目黒3-37-27
6-1-2-0220	目黒区	向原	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	目黒本町6-7-15
6-1-2-0221	目黒区	五本木	13	12	2	2	2	2	2	2	-	1	-	五本木2-24-3
6-1-2-0222	目黒区	鷹番	17	15	3	3	2	2	3	2	-	2	-	中央町1-20-26
6-1-2-0223	目黒区	田道	14	14	3	2	3	2	2	2	-	-	-	目黒1-15-28
6-1-2-0224	目黒区	月光原	11	11	2	2	2	2	2	1	-	-	-	目黒本町4-15-3
6-1-2-0225	目黒区	駒場	14	14	3	2	2	2	3	2	-	-	-	駒場3-11-13
6-1-2-0226	目黒区	緑ヶ丘	10	10	2	1	1	2	2	2	-	-	-	緑が丘2-13-1
6-1-2-0227	目黒区	原町	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	原町2-18-12
6-1-2-0228	目黒区	不動	20	20	4	4	3	3	3	3	-	-	-	下目黒6-11-35
6-1-2-0229	目黒区	上目黒	11	11	2	2	2	2	2	1	-	-	-	五本木1-12-13
6-1-2-0230	目黒区	東根	27	22	4	4	3	4	4	3	-	3	2	東が丘1-20-1
6-1-2-0231	目黒区	中根	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	緑が丘1-1-1
6-1-2-0232	目黒区	宮前	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	八雲3-13-21
6-1-2-0233	目黒区	東山	29	29	5	5	5	4	5	5	-	-	-	東山2-24-25
6-1-2-0234	大田区	大森第四	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	大森南3-18-26
6-1-2-0235	大田区	中富	7	7	2	1	1	1	1	1	-	-	-	大森東5-6-24
6-1-2-0236	大田区	大森第一	16	16	3	3	3	3	2	2	-	-	-	大森東3-1-18
6-1-2-0237	大田区	大森第三	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	大森西5-22-18
6-1-2-0238	大田区	大森第五	13	11	2	2	1	2	2	2	-	2	-	大森本町1-10-5
6-1-2-0239	大田区	入新井第五	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	大森北6-4-8
6-1-2-0240	大田区	入新井第一	21	16	3	2	2	3	3	3	-	5	-	大森北4-6-7
6-1-2-0241	大田区	山王	25	25	4	5	4	4	4	4	-	-	-	山王1-26-33
6-1-2-0242	大田区	馬込	21	21	4	4	4	3	3	3	-	-	-	南馬込1-34-1
6-1-2-0243	大田区	馬込第二	16	14	3	3	2	2	2	2	-	2	-	南馬込3-10-1
6-1-2-0244	大田区	馬込第三	23	23	5	4	4	3	4	3	-	-	-	北馬込1-28-1
6-1-2-0245	大田区	梅田	27	27	5	5	4	5	4	4	-	-	-	南馬込6-6-1
6-1-2-0246	大田区	池上	22	18	3	3	3	3	3	3	-	4	-	池上1-33-8
6-1-2-0247	大田区	池上第二	19	16	3	3	3	2	2	3	-	3	-	中央8-9-1
6-1-2-0248	大田区	徳持	20	20	4	4	3	3	3	3	-	-	-	池上7-18-1
6-1-2-0249	大田区	入新井第二	20	20	4	4	3	3	3	3	-	-	-	中央2-15-1
6-1-2-0250	大田区	入新井第四	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	中央3-5-8
6-1-2-0251	大田区	東調布第一	24	20	4	3	3	3	4	3	-	4	-	田園調布南28-7
6-1-2-0252	大田区	田園調布	19	19	4	3	3	3	3	3	-	-	-	田園調布2-31-16
6-1-2-0253	大田区	調布大塚	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	雪谷大塚町12-1
6-1-2-0254	大田区	東調布第三	21	18	4	4	3	2	3	2	-	3	-	南久が原2-17-1
6-1-2-0255	大田区	嶺町	26	26	5	5	4	4	4	4	-	-	-	田園調布南6-10
6-1-2-0256	大田区	千鳥	11	11	2	2	1	2	2	2	-	-	-	千鳥2-5-1
6-1-2-0257	大田区	久原	26	26	5	5	4	4	4	4	-	-	-	久が原4-12-10
6-1-2-0258	大田区	松仙	24	24	4	4	4	4	4	4	-	-	-	久が原1-11-1
6-1-2-0259	大田区	池雪	27	27	5	5	4	4	4	5	-	-	-	東雪谷5-7-1
6-1-2-0260	大田区	小池	25	25	4	5	4	4	4	4	-	-	-	上池台2-22-7
6-1-2-0261	大田区	雪谷	26	23	4	4	3	4	4	4	-	3	-	南雪谷3-9-23
6-1-2-0262	大田区	洗足池	16	13	3	2	2	2	2	2	-	3	-	南千束3-35-2
6-1-2-0263	大田区	赤松	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	北千束2-35-8

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）										住 所	
			総数	通常の学級（学年別）								特別 支援 学級	日 本 語	
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式			
6-1-2-0264	大田区	清水窪	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	北千束1-20-15
6-1-2-0265	大田区	糍谷	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	西糍谷3-13-21
6-1-2-0266	大田区	東糍谷	18	13	2	3	2	2	2	2	-	5	-	東糍谷5-18-23
6-1-2-0267	大田区	北糍谷	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	北糍谷2-2-5
6-1-2-0268	大田区	羽田	11	11	2	2	2	1	2	2	-	-	-	羽田3-3-14
6-1-2-0269	大田区	都南	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	本羽田3-15-2
6-1-2-0270	大田区	萩中	11	11	2	2	1	2	2	2	-	-	-	本羽田3-4-22
6-1-2-0271	大田区	中萩中	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	萩中2-14-1
6-1-2-0272	大田区	出雲	21	17	3	3	3	2	3	3	-	4	-	本羽田1-2-4
6-1-2-0273	大田区	六郷	11	11	2	2	1	2	2	2	-	-	-	東六郷3-7-1
6-1-2-0274	大田区	西六郷	16	12	2	2	2	2	2	2	-	4	-	西六郷2-3-1
6-1-2-0275	大田区	高畑	23	23	5	4	4	4	3	3	-	-	-	西六郷3-28-23
6-1-2-0276	大田区	仲六郷	10	10	2	2	1	1	2	2	-	-	-	仲六郷1-26-1
6-1-2-0277	大田区	志茂田	14	11	2	2	2	2	2	1	-	3	-	西六郷1-4-2
6-1-2-0278	大田区	東六郷	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	東六郷2-3-1
6-1-2-0279	大田区	矢口	17	17	3	3	3	3	3	2	-	-	-	多摩川1-18-22
6-1-2-0280	大田区	矢口西	23	21	4	4	3	3	4	3	-	2	-	下丸子1-7-1
6-1-2-0281	大田区	多摩川	19	19	4	3	3	3	3	3	-	-	-	矢口3-26-25
6-1-2-0282	大田区	相生	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	西蒲田6-19-1
6-1-2-0283	大田区	矢口東	14	11	2	2	2	2	2	1	-	3	-	東矢口3-9-20
6-1-2-0284	大田区	おなづか	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	西蒲田1-19-1
6-1-2-0285	大田区	道塚	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	新蒲田3-3-18
6-1-2-0286	大田区	蒲田	23	18	3	3	3	3	3	3	-	3	2	蒲田1-30-1
6-1-2-0287	大田区	南蒲	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	南蒲田1-12-11
6-1-2-0288	大田区	新宿	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	蒲田本町1-5-1
6-1-2-0289	大田区	東蒲	8	8	2	1	1	1	2	1	-	-	-	東蒲田1-19-25
6-1-2-0290	大田区	大森東	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	大森東1-29-1
6-1-2-0291	大田区	南六郷	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	南六郷3-7-1
6-1-2-0292	大田区	開桜	19	19	3	4	3	3	3	3	-	-	-	大森西2-26-3
6-1-2-0293	世田谷区	若林	17	17	4	3	3	2	3	2	-	-	-	若林5-27-18
6-1-2-0294	世田谷区	三宿	14	11	2	2	2	1	2	2	-	3	-	三宿1-12-6
6-1-2-0295	世田谷区	太子堂	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	太子堂5-7-4
6-1-2-0296	世田谷区	桜	22	22	4	4	4	3	4	3	-	-	-	世田谷2-4-15
6-1-2-0297	世田谷区	桜丘	27	27	6	4	4	5	4	4	-	-	-	桜丘1-19-17
6-1-2-0298	世田谷区	代沢	16	16	3	3	3	2	3	2	-	-	-	代沢5-1-10
6-1-2-0299	世田谷区	多聞	21	20	4	4	3	3	3	3	-	1	-	三宿2-26-11
6-1-2-0300	世田谷区	世田谷	17	15	3	3	3	2	2	2	-	2	-	宮坂1-38-4
6-1-2-0301	世田谷区	松沢	33	26	4	5	4	4	4	5	-	7	-	赤堤4-44-22
6-1-2-0302	世田谷区	駒沢	20	16	4	3	3	2	2	2	-	4	-	駒沢2-10-6
6-1-2-0303	世田谷区	旭	17	16	3	3	3	2	2	3	-	1	-	野沢1-4-3
6-1-2-0304	世田谷区	中里	8	8	1	2	2	1	1	1	-	-	-	三軒茶屋1-4-1
6-1-2-0305	世田谷区	松原	20	20	4	4	3	3	3	3	-	-	-	松原5-43-26
6-1-2-0306	世田谷区	上北沢	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	上北沢4-22-29
6-1-2-0307	世田谷区	駒繫	16	16	3	3	2	3	3	2	-	-	-	下馬1-42-12
6-1-2-0308	世田谷区	池之上	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	北沢4-32-20
6-1-2-0309	世田谷区	経堂	25	23	4	4	4	4	3	4	-	2	-	桜上水1-23-3
6-1-2-0310	世田谷区	弦巻	27	23	4	4	4	4	4	3	-	4	-	弦巻1-9-18
6-1-2-0311	世田谷区	山崎	14	12	2	2	2	2	2	2	-	2	-	梅丘3-9-1
6-1-2-0312	世田谷区	中丸	20	20	4	4	3	3	3	3	-	-	-	野沢3-34-16
6-1-2-0313	世田谷区	代田	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	代田4-2-3
6-1-2-0314	世田谷区	三軒茶屋	14	14	2	3	2	3	2	2	-	-	-	三軒茶屋2-42-1
6-1-2-0315	世田谷区	赤堤	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	赤堤1-41-24
6-1-2-0316	世田谷区	松丘	26	26	5	5	4	4	4	4	-	-	-	弦巻3-23-12
6-1-2-0317	世田谷区	池尻	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	池尻2-4-10
6-1-2-0318	世田谷区	笹原	17	16	3	3	2	3	3	2	-	1	-	桜丘5-19-1
6-1-2-0319	世田谷区	城山	14	14	3	2	2	2	3	2	-	-	-	梅丘2-1-11
6-1-2-0320	世田谷区	深沢	20	20	4	3	3	4	3	3	-	-	-	新町1-4-24
6-1-2-0321	世田谷区	玉川	24	24	4	4	4	4	4	4	-	-	-	中町2-29-1
6-1-2-0322	世田谷区	京西	22	22	4	4	3	3	4	4	-	-	-	用賀4-27-4
6-1-2-0323	世田谷区	二子玉川	20	20	4	4	3	3	3	3	-	-	-	玉川4-6-1
6-1-2-0324	世田谷区	八幡	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	玉川田園調布2-17-15
6-1-2-0325	世田谷区	奥沢	17	13	2	2	2	3	2	2	-	4	-	奥沢3-1-1
6-1-2-0326	世田谷区	尾山台	20	16	3	3	2	3	2	3	-	4	-	尾山台3-11-1
6-1-2-0327	世田谷区	東深沢	25	25	5	4	4	4	4	4	-	-	-	深沢3-7-1
6-1-2-0328	世田谷区	東玉川	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	奥沢1-1-1
6-1-2-0329	世田谷区	桜町	32	27	5	5	4	4	4	5	-	5	-	用賀1-5-1

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）											住 所	
			総数	通常の学級（学年別）								特別 支援 学級	日 本 語		
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式				
6-1-2-0330	世田谷区	九品仏	14	12	2	2	2	2	2	2	2	-	2	-	奥沢8-12-1
6-1-2-0331	世田谷区	瀬田	24	24	5	4	4	4	3	4	-	-	-	-	瀬田2-15-1
6-1-2-0332	世田谷区	等々力	21	21	4	4	3	4	3	3	-	-	-	-	等々力7-26-1
6-1-2-0333	世田谷区	用賀	22	22	3	4	4	4	3	4	-	-	-	-	上用賀6-14-1
6-1-2-0334	世田谷区	中町	17	17	3	3	2	3	3	3	-	-	-	-	中町4-23-1
6-1-2-0335	世田谷区	玉堤	16	16	3	3	3	2	3	2	-	-	-	-	玉堤2-11-1
6-1-2-0336	世田谷区	烏山	21	18	3	3	3	3	3	3	-	3	-	-	給田1-2-1
6-1-2-0337	世田谷区	塚戸	27	27	4	4	5	4	5	5	-	-	-	-	千歳台6-7-1
6-1-2-0338	世田谷区	祖師谷	26	21	4	4	3	3	3	4	-	5	-	-	祖師谷3-49-1
6-1-2-0339	世田谷区	砧	18	16	3	3	2	3	3	2	-	2	-	-	喜多見6-9-1
6-1-2-0340	世田谷区	明正	28	25	5	5	3	4	4	4	-	3	-	-	成城3-3-1
6-1-2-0341	世田谷区	烏山北	26	21	3	4	3	4	3	4	-	5	-	-	北烏山6-3-1
6-1-2-0342	世田谷区	八幡山	17	17	4	3	3	2	3	2	-	-	-	-	八幡山1-14-1
6-1-2-0343	世田谷区	芦花	34	30	6	5	5	4	5	5	-	4	-	-	粕谷2-22-1
6-1-2-0344	世田谷区	船橋	24	22	4	4	4	4	3	3	-	2	-	-	船橋4-41-1
6-1-2-0345	世田谷区	砧南	31	31	5	6	5	5	5	5	-	-	-	-	鎌田4-3-1
6-1-2-0346	世田谷区	給田	27	27	5	5	4	4	5	4	-	-	-	-	給田4-24-1
6-1-2-0347	世田谷区	山野	33	33	6	6	6	5	5	5	-	-	-	-	砧6-7-1
6-1-2-0348	世田谷区	千歳	26	26	5	5	4	4	4	4	-	-	-	-	成城9-6-1
6-1-2-0349	世田谷区	喜多見	22	22	4	3	3	4	4	4	-	-	-	-	喜多見3-11-1
6-1-2-0350	世田谷区	武蔵丘	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	-	北烏山1-47-11
6-1-2-0351	世田谷区	希望丘	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	-	船橋4-9-1
6-1-2-0352	世田谷区	千歳台	19	19	3	4	3	3	3	3	-	-	-	-	千歳台4-24-1
6-1-2-0353	世田谷区	下北沢	23	21	4	4	3	3	3	4	-	2	-	-	大原1-4-6
6-1-2-0354	渋谷区	臨川	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	-	広尾1-9-17
6-1-2-0355	渋谷区	長谷戸	8	8	2	2	1	1	1	1	-	-	-	-	恵比寿西1-23-1
6-1-2-0356	渋谷区	広尾	11	11	2	2	1	2	2	2	-	-	-	-	東3-3-3
6-1-2-0357	渋谷区	猿楽	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	-	猿楽町12-35
6-1-2-0358	渋谷区	加計塚	11	11	2	2	2	2	2	1	-	-	-	-	恵比寿4-21-10
6-1-2-0359	渋谷区	常磐松	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	東1-7-10
6-1-2-0360	渋谷区	幡代	25	22	4	4	4	4	3	3	-	3	-	-	初台1-32-12
6-1-2-0361	渋谷区	上原	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	-	上原3-13-20
6-1-2-0362	渋谷区	笹塚	16	16	3	3	3	2	2	3	-	-	-	-	笹塚2-8-1
6-1-2-0363	渋谷区	西原	19	19	3	4	3	3	3	3	-	-	-	-	西原2-22-1
6-1-2-0364	渋谷区	富谷	17	16	3	3	3	2	3	2	-	1	-	-	上原1-46-4
6-1-2-0365	渋谷区	中幡	14	14	3	2	2	2	2	3	-	-	-	-	幡ヶ谷3-49-1
6-1-2-0366	渋谷区	千駄谷	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	-	千駄ヶ谷2-4-1
6-1-2-0367	渋谷区	鳩森	7	6	1	1	1	1	1	1	-	1	-	-	千駄ヶ谷5-9-1
6-1-2-0368	渋谷区	神宮前	14	12	2	2	2	2	2	2	-	-	2	-	神宮前4-20-12
6-1-2-0369	渋谷区	神南	20	14	2	3	3	2	2	2	-	6	-	-	宇田川町5-1
6-1-2-0370	渋谷区	渋谷本町学園	23	20	4	4	3	3	3	3	-	3	-	-	本町4-3-1
6-1-2-0371	渋谷区	代々木山谷	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	-	代々木3-47-1
6-1-2-0372	中野区	桃園第二	11	11	2	2	2	1	2	2	-	-	-	-	中野6-13-1
6-1-2-0373	中野区	塔山	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	-	中央1-49-1
6-1-2-0374	中野区	谷戸	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	-	中野1-26-1
6-1-2-0375	中野区	中野本郷	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	-	本町4-27-3
6-1-2-0376	中野区	江古田	16	16	3	3	3	3	2	2	-	-	-	-	江古田2-13-28
6-1-2-0377	中野区	鷺宮	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	-	鷺宮3-31-4
6-1-2-0378	中野区	啓明	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	-	大和町1-18-1
6-1-2-0379	中野区	北原	11	11	2	2	2	2	1	2	-	-	-	-	野方6-30-6
6-1-2-0380	中野区	江原	20	17	3	3	3	2	3	3	-	3	-	-	江原町1-39-1
6-1-2-0381	中野区	武蔵台	17	17	3	3	3	2	3	3	-	-	-	-	上鷺宮5-1-1
6-1-2-0382	中野区	西中野	12	10	2	2	1	1	2	2	-	2	-	-	白鷺3-9-2
6-1-2-0383	中野区	上鷺宮	14	14	3	2	3	2	2	2	-	-	-	-	上鷺宮1-24-36
6-1-2-0384	中野区	桃花	26	23	4	4	4	4	4	3	-	3	-	-	中央5-43-1
6-1-2-0385	中野区	白桜	18	18	4	3	3	3	2	3	-	-	-	-	上高田1-2-28
6-1-2-0386	中野区	平和の森	23	23	4	4	3	4	4	4	-	-	-	-	新井3-29-1
6-1-2-0387	中野区	緑野	17	17	3	3	3	3	3	2	-	-	-	-	丸山1-17-1
6-1-2-0388	中野区	南台	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	-	南台4-4-1
6-1-2-0389	中野区	みなみの	19	16	3	3	3	2	2	3	-	3	-	-	弥生町4-27-11
6-1-2-0390	中野区	美鳩	26	21	4	4	3	4	3	3	-	5	-	-	大和町4-26-5
6-1-2-0391	中野区	中野第一	26	23	5	4	4	3	3	4	-	3	-	-	本町3-16-1
6-1-2-0392	中野区	令和	23	20	4	4	3	3	3	3	-	3	-	-	上高田5-35-3
6-1-2-0393	杉並区	杉並第一	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	-	阿佐谷北1-5-27
6-1-2-0394	杉並区	杉並第二	20	20	4	3	4	3	3	3	-	-	-	-	成田西3-4-1
6-1-2-0395	杉並区	杉並第三	8	6	1	1	1	1	1	1	-	2	-	-	高円寺南1-15-13

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）											住 所
			総数	通常の学級（学年別）								特別 支援 学級	日 本 語	
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式			
6-1-2-0396	杉並区	杉並第六	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	阿佐谷南1-24-21
6-1-2-0397	杉並区	杉並第七	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	阿佐谷南3-19-2
6-1-2-0398	杉並区	杉並第九	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	本天沼1-2-19
6-1-2-0399	杉並区	杉並第十	20	17	3	3	3	3	3	2	-	3	-	和田3-55-49
6-1-2-0400	杉並区	西田	22	22	4	3	4	4	4	3	-	-	-	荻窪1-38-15
6-1-2-0401	杉並区	東田	13	13	2	2	2	3	2	2	-	-	-	成田東1-21-1
6-1-2-0402	杉並区	馬橋	20	18	3	3	3	3	3	3	-	2	-	高円寺北4-28-5
6-1-2-0403	杉並区	桃井第一	25	25	4	4	4	5	4	4	-	-	-	桃井2-6-1
6-1-2-0404	杉並区	桃井第二	23	19	4	4	3	2	3	3	-	4	-	荻窪5-10-25
6-1-2-0405	杉並区	桃井第三	18	16	3	3	3	2	2	3	-	2	-	西荻北2-10-7
6-1-2-0406	杉並区	桃井第四	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	善福寺3-3-5
6-1-2-0407	杉並区	桃井第五	21	21	3	3	3	4	4	4	-	-	-	下井草4-22-4
6-1-2-0408	杉並区	四宮	26	24	4	4	4	4	4	4	-	2	-	上井草2-12-26
6-1-2-0409	杉並区	荻窪	24	24	5	4	4	4	3	4	-	-	-	宮前2-13-18
6-1-2-0410	杉並区	井荻	16	16	3	3	3	2	3	2	-	-	-	善福寺1-10-19
6-1-2-0411	杉並区	杳掛	19	19	3	3	4	3	3	3	-	-	-	清水3-1-9
6-1-2-0412	杉並区	高井戸	29	26	5	5	4	4	4	4	-	3	-	高井戸西2-2-1
6-1-2-0413	杉並区	高井戸第二	28	24	4	4	4	4	4	4	-	4	-	久我山4-49-1
6-1-2-0414	杉並区	高井戸第三	19	19	3	4	3	3	3	3	-	-	-	下高井戸4-16-24
6-1-2-0415	杉並区	高井戸第四	17	15	2	3	3	3	2	2	-	2	-	西荻南1-8-16
6-1-2-0416	杉並区	松庵	14	14	2	2	2	3	3	2	-	-	-	松庵2-23-24
6-1-2-0417	杉並区	浜田山	26	26	4	4	5	4	5	4	-	-	-	浜田山4-23-1
6-1-2-0418	杉並区	富士見丘	14	14	3	2	2	2	2	3	-	-	-	上高井戸2-16-13
6-1-2-0419	杉並区	大宮	17	17	3	3	3	3	3	2	-	-	-	堀ノ内1-12-16
6-1-2-0420	杉並区	堀之内	16	16	2	3	3	3	2	3	-	-	-	堀ノ内3-24-11
6-1-2-0421	杉並区	和田	16	16	3	3	2	3	3	2	-	-	-	和田2-30-21
6-1-2-0422	杉並区	方南	17	17	3	3	3	3	3	2	-	-	-	方南1-52-14
6-1-2-0423	杉並区	済美	17	13	3	2	2	2	2	2	-	4	-	堀ノ内1-17-24
6-1-2-0424	杉並区	八成	20	20	3	3	3	3	4	4	-	-	-	井草2-25-4
6-1-2-0425	杉並区	三谷	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	上井草3-14-12
6-1-2-0426	杉並区	松ノ木	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	松ノ木1-2-26
6-1-2-0427	杉並区	高井戸東	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	高井戸東1-12-1
6-1-2-0428	杉並区	久我山	17	17	3	3	2	3	3	3	-	-	-	久我山5-18-7
6-1-2-0429	杉並区	天沼	24	22	5	4	4	3	3	3	-	2	-	天沼2-46-3
6-1-2-0430	杉並区	永福	19	19	3	3	3	3	3	4	-	-	-	永福2-16-33
6-1-2-0431	杉並区	新泉和泉	28	25	5	4	4	4	4	4	-	3	-	和泉2-17-14
6-1-2-0432	杉並区	高円寺	21	19	4	3	3	3	3	3	-	2	-	高円寺北1-4-11
6-1-2-0433	豊島区	仰高	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	駒込5-1-19
6-1-2-0434	豊島区	駒込	15	15	3	3	2	3	2	2	-	-	-	駒込3-13-1
6-1-2-0435	豊島区	巣鴨	12	12	2	3	2	1	2	2	-	-	-	南大塚1-24-10
6-1-2-0436	豊島区	清和	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	巣鴨3-14-1
6-1-2-0437	豊島区	西巣鴨	16	12	2	2	2	2	2	2	-	4	-	西巣鴨1-27-1
6-1-2-0438	豊島区	豊成	14	13	2	2	2	2	2	3	-	-	1	上池袋1-18-24
6-1-2-0439	豊島区	朝日	8	8	2	2	1	1	1	1	-	-	-	巣鴨5-33-1
6-1-2-0440	豊島区	池袋第一	11	11	2	2	2	2	1	2	-	-	-	池袋本町4-36-1
6-1-2-0441	豊島区	池袋第三	18	16	3	3	3	2	3	2	-	2	-	西池袋3-14-3
6-1-2-0442	豊島区	高南	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	高田2-12-7
6-1-2-0443	豊島区	目白	19	19	3	4	3	3	3	3	-	-	-	目白2-11-6
6-1-2-0444	豊島区	長崎	12	10	2	2	2	1	1	2	-	2	-	長崎2-6-3
6-1-2-0445	豊島区	椎名町	13	13	3	3	2	2	1	2	-	-	-	南長崎4-30-5
6-1-2-0446	豊島区	富士見台	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	南長崎1-10-5
6-1-2-0447	豊島区	千早	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	千早3-33-5
6-1-2-0448	豊島区	高松	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	高松2-57-22
6-1-2-0449	豊島区	要	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	要町2-3-20
6-1-2-0450	豊島区	南池袋	18	17	3	3	2	3	3	3	-	1	-	南池袋3-18-12
6-1-2-0451	豊島区	さくら	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	長崎6-16-1
6-1-2-0452	豊島区	朋有	19	16	3	3	3	2	3	2	-	3	-	東池袋4-40-1
6-1-2-0453	豊島区	池袋	17	9	2	2	2	1	1	1	-	5	3	池袋4-23-8
6-1-2-0454	豊島区	池袋本町	24	24	4	4	4	4	4	4	-	-	-	池袋本町1-43-1
6-1-2-0455	北区	王子第一	20	17	3	3	3	2	3	3	-	3	-	王子5-14-18
6-1-2-0456	北区	王子第二	11	11	2	2	2	2	2	1	-	-	-	王子本町2-2-5
6-1-2-0457	北区	王子第三	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	上十条5-2-3
6-1-2-0458	北区	王子第五	7	7	2	1	1	1	1	1	-	-	-	上十条2-18-17
6-1-2-0459	北区	荒川	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	中十条3-1-6
6-1-2-0460	北区	豊川	17	13	3	2	2	2	2	2	-	4	-	豊島3-10-23
6-1-2-0461	北区	堀船	13	12	2	2	2	2	2	2	-	-	1	堀船2-11-9

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）										住 所	
			総数	通常の学級（学年別）								特別 支援 学級	日 本 語	
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式			
6-1-2-0462	北区	柳田	10	10	2	2	1	2	2	1	-	-	-	豊島2-11-20
6-1-2-0463	北区	東十条	16	16	3	3	3	2	3	2	-	-	-	東十条3-14-23
6-1-2-0464	北区	十条台	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	中十条1-5-6
6-1-2-0465	北区	赤羽	22	13	3	2	2	2	2	2	-	9	-	赤羽1-24-6
6-1-2-0466	北区	岩淵	8	8	2	1	2	1	1	1	-	-	-	岩淵町6-6
6-1-2-0467	北区	第四岩淵	8	8	2	2	1	1	1	1	-	-	-	赤羽3-24-23
6-1-2-0468	北区	梅木	15	15	3	3	3	2	2	2	-	-	-	西が丘2-21-15
6-1-2-0469	北区	神谷	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	神谷2-30-5
6-1-2-0470	北区	稲田	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	赤羽南2-23-24
6-1-2-0471	北区	八幡	10	6	1	1	1	1	1	1	-	4	-	赤羽台3-18-5
6-1-2-0472	北区	浮間	25	20	4	4	3	3	3	3	-	5	-	浮間3-4-27
6-1-2-0473	北区	西浮間	20	20	4	4	3	3	3	3	-	-	-	浮間2-7-1
6-1-2-0474	北区	赤羽台西	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	赤羽台2-1-34
6-1-2-0475	北区	滝野川	20	16	3	3	3	2	3	2	-	4	-	西ヶ原1-18-10
6-1-2-0476	北区	滝野川第二	16	12	2	2	2	2	2	2	-	4	-	滝野川6-19-4
6-1-2-0477	北区	滝野川第三	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	滝野川1-12-27
6-1-2-0478	北区	滝野川第四	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	東田端2-5-23
6-1-2-0479	北区	滝野川第五	13	11	2	2	2	2	2	1	-	2	-	昭和町3-3-12
6-1-2-0480	北区	西ヶ原	14	13	3	2	2	2	2	2	-	-	1	西ヶ原4-19-21
6-1-2-0481	北区	谷端	8	8	2	2	1	1	1	1	-	-	-	滝野川7-12-17
6-1-2-0482	北区	なでしこ	19	17	3	3	3	3	2	3	-	2	-	志茂1-34-17
6-1-2-0483	北区	袋	13	13	2	2	2	2	2	3	-	-	-	赤羽北2-15-3
6-1-2-0484	北区	桐ヶ丘郷	18	14	3	2	2	2	2	3	-	4	-	桐ヶ丘1-10-23
6-1-2-0485	北区	としま若葉	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	豊島5-3-30
6-1-2-0486	北区	王子	27	21	5	4	3	3	3	3	-	6	-	王子2-7-1
6-1-2-0487	北区	田端	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	田端5-4-1
6-1-2-0488	北区	西が丘	15	12	2	2	2	2	2	2	-	-	3	十条仲原4-5-17
6-1-2-0489	北区	滝野川もみじ	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	滝野川3-72-1
6-1-2-0490	荒川区	瑞光	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	南千住1-51-1
6-1-2-0491	荒川区	第二瑞光	8	8	1	2	1	2	1	1	-	-	-	南千住5-8-1
6-1-2-0492	荒川区	第三瑞光	21	21	4	3	4	4	3	3	-	-	-	南千住7-9-1
6-1-2-0493	荒川区	第六瑞光	10	6	1	1	1	1	1	1	-	4	-	南千住1-4-11
6-1-2-0494	荒川区	第二峡田	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	荒川2-30-1
6-1-2-0495	荒川区	第三峡田	10	6	1	1	1	1	1	1	-	4	-	荒川1-43-1
6-1-2-0496	荒川区	第四峡田	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	町屋2-11-6
6-1-2-0497	荒川区	第五峡田	14	14	2	2	2	3	3	2	-	-	-	町屋3-17-24
6-1-2-0498	荒川区	第七峡田	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	町屋8-19-12
6-1-2-0499	荒川区	第九峡田	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	荒川6-8-1
6-1-2-0500	荒川区	尾久	14	14	2	3	2	2	3	2	-	-	-	東尾久5-6-7
6-1-2-0501	荒川区	尾久西	16	13	3	2	2	2	2	2	-	3	-	西尾久5-27-12
6-1-2-0502	荒川区	尾久第六	11	11	2	2	2	2	2	1	-	-	-	西尾久8-26-9
6-1-2-0503	荒川区	赤土	17	17	4	3	3	3	2	2	-	-	-	東尾久2-43-9
6-1-2-0504	荒川区	大門	11	8	2	2	1	1	1	1	-	3	-	町屋4-27-8
6-1-2-0505	荒川区	尾久宮前	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	西尾久1-4-17
6-1-2-0506	荒川区	第一日暮里	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	西日暮里3-7-15
6-1-2-0507	荒川区	第二日暮里	10	10	2	2	2	1	1	2	-	-	-	東日暮里5-2-1
6-1-2-0508	荒川区	第三日暮里	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	東日暮里3-10-17
6-1-2-0509	荒川区	第六日暮里	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	西日暮里6-35-16
6-1-2-0510	荒川区	ひぐらし	17	17	3	3	3	3	3	2	-	-	-	西日暮里2-32-5
6-1-2-0511	荒川区	峡田	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	荒川3-77-1
6-1-2-0512	荒川区	汐入	24	21	4	4	3	3	3	4	-	3	-	南千住8-2-3
6-1-2-0513	荒川区	汐入東	21	21	3	3	3	4	4	4	-	-	-	南千住8-9-3
6-1-2-0514	板橋区	志村	18	14	3	3	2	2	2	2	-	4	-	志村2-16-3
6-1-2-0515	板橋区	志村第一	13	13	2	2	2	2	2	3	-	-	-	泉町17-1
6-1-2-0516	板橋区	志村第二	17	17	3	3	3	3	3	2	-	-	-	志村1-7-1
6-1-2-0517	板橋区	志村第三	18	14	3	3	2	2	2	2	-	4	-	清水町83-1
6-1-2-0518	板橋区	志村第四	21	21	4	4	4	3	3	3	-	-	-	小豆沢4-13-1
6-1-2-0519	板橋区	志村第五	14	14	2	3	2	2	3	2	-	-	-	西台3-38-23
6-1-2-0520	板橋区	志村第六	22	19	3	4	3	3	3	3	-	3	-	坂下2-18-1
6-1-2-0521	板橋区	前野	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	前野町6-40-1
6-1-2-0522	板橋区	中台	16	12	2	2	2	2	2	2	-	4	-	中台1-9-7
6-1-2-0523	板橋区	舟渡	17	17	3	3	3	3	3	2	-	-	-	舟渡3-6-15
6-1-2-0524	板橋区	富士見台	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	前野町1-10-1
6-1-2-0525	板橋区	蓮根	19	17	3	3	2	3	3	3	-	2	-	蓮根3-10-1
6-1-2-0526	板橋区	志村坂下	18	18	3	4	3	2	3	3	-	-	-	相生町26-14
6-1-2-0527	板橋区	北前野	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	前野町5-44-3

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）											住 所
			総数	通常の学級（学年別）								特別 支援 学級	日 本 語	
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式			
6-1-2-0528	板橋区	若木	17	17	3	3	3	2	3	3	-	-	-	若木1-14-1
6-1-2-0529	板橋区	板橋第一	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	氷川町13-1
6-1-2-0530	板橋区	板橋第二	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	板橋2-52-1
6-1-2-0531	板橋区	板橋第四	15	15	3	3	3	2	2	2	-	-	-	板橋4-9-13
6-1-2-0532	板橋区	板橋第五	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	中丸町19-1
6-1-2-0533	板橋区	板橋第六	13	12	2	2	2	2	2	2	-	-	1	大山町13-1
6-1-2-0534	板橋区	板橋第七	13	9	2	2	2	1	1	1	-	4	-	大山金井町31-1
6-1-2-0535	板橋区	板橋第八	13	11	2	2	2	2	1	2	-	-	2	双葉町42-1
6-1-2-0536	板橋区	板橋第十	17	17	4	3	3	3	2	2	-	-	-	大谷口上町43-1
6-1-2-0537	板橋区	金沢	25	25	5	5	4	4	3	4	-	-	-	加賀2-2-1
6-1-2-0538	板橋区	中根橋	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	栄町14-1
6-1-2-0539	板橋区	上板橋	15	8	2	2	1	1	1	1	-	7	-	東山町47-3
6-1-2-0540	板橋区	上板橋第二	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	小茂根1-14-1
6-1-2-0541	板橋区	上板橋第四	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	上板橋1-3-1
6-1-2-0542	板橋区	常盤台	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	常盤台1-6-1
6-1-2-0543	板橋区	桜川	19	19	3	4	3	3	3	3	-	-	-	東新町2-29-1
6-1-2-0544	板橋区	弥生	13	10	2	2	2	2	1	1	-	3	-	弥生町19-1
6-1-2-0545	板橋区	大谷口	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	大谷口北町21-1
6-1-2-0546	板橋区	向原	9	9	2	2	2	1	1	1	-	-	-	向原2-34-1
6-1-2-0547	板橋区	赤塚	19	19	4	3	3	3	3	3	-	-	-	赤塚3-1-22
6-1-2-0548	板橋区	成増	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	成増1-11-1
6-1-2-0549	板橋区	紅梅	22	22	4	4	3	4	3	4	-	-	-	徳丸8-10-1
6-1-2-0550	板橋区	北野	23	23	4	4	4	3	4	4	-	-	-	徳丸3-23-1
6-1-2-0551	板橋区	成増ヶ丘	22	22	4	4	4	4	3	3	-	-	-	成増3-17-7
6-1-2-0552	板橋区	下赤塚	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	赤塚6-14-1
6-1-2-0553	板橋区	徳丸	20	18	3	3	3	3	3	3	-	2	-	徳丸1-21-1
6-1-2-0554	板橋区	三園	19	19	3	4	3	3	3	3	-	-	-	三園1-24-1
6-1-2-0555	板橋区	高島第一	14	12	2	2	2	2	2	2	-	2	-	高島平7-24-1
6-1-2-0556	板橋区	高島第二	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	高島平2-25-1
6-1-2-0557	板橋区	高島第三	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	高島平4-21-1
6-1-2-0558	板橋区	高島第五	7	7	1	1	1	2	1	1	-	-	-	高島平3-11-1
6-1-2-0559	板橋区	新河岸	8	6	1	1	1	1	1	1	-	-	2	新河岸1-3-1
6-1-2-0560	板橋区	緑	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	中台3-27-1
6-1-2-0561	板橋区	蓮根第二	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	蓮根3-15-5
6-1-2-0562	板橋区	赤塚新町	11	8	2	2	1	1	1	1	-	3	-	赤塚新町3-31-1
6-1-2-0563	板橋区	高島第六	16	14	3	3	2	2	2	2	-	2	-	高島平1-50-1
6-1-2-0564	板橋区	加賀	15	13	2	3	2	2	2	2	-	2	-	稲荷台23-1
6-1-2-0565	練馬区	旭丘	8	6	1	1	1	1	1	1	-	2	-	旭丘2-21-1
6-1-2-0566	練馬区	小竹	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	小竹町2-6-7
6-1-2-0567	練馬区	豊玉	17	17	3	3	3	2	3	3	-	-	-	豊玉中4-2-20
6-1-2-0568	練馬区	豊玉南	17	17	3	3	3	3	3	2	-	-	-	豊玉南2-14-1
6-1-2-0569	練馬区	豊玉第二	13	9	2	1	2	1	2	1	-	4	-	豊玉上2-16-1
6-1-2-0570	練馬区	豊玉東	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	豊玉北1-16-1
6-1-2-0571	練馬区	中村	29	29	5	5	4	5	5	5	-	-	-	中村2-8-1
6-1-2-0572	練馬区	中村西	15	14	3	3	2	2	2	2	-	1	-	中村北4-17-1
6-1-2-0573	練馬区	開進第一	19	19	3	4	3	3	3	3	-	-	-	早宮2-1-31
6-1-2-0574	練馬区	仲町	24	24	4	4	4	4	4	4	-	-	-	氷川台2-18-24
6-1-2-0575	練馬区	開進第二	17	15	3	3	2	2	3	2	-	2	-	桜台5-10-5
6-1-2-0576	練馬区	開進第三	22	22	4	4	4	3	4	3	-	-	-	桜台2-18-1
6-1-2-0577	練馬区	開進第四	17	17	3	3	3	3	3	2	-	-	-	羽沢2-33-1
6-1-2-0578	練馬区	北町	25	22	5	4	3	3	4	3	-	3	-	北町1-14-11
6-1-2-0579	練馬区	北町西	17	14	3	3	2	2	2	2	-	3	-	北町7-3-8
6-1-2-0580	練馬区	南町	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	練馬2-7-5
6-1-2-0581	練馬区	練馬	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	春日町6-11-36
6-1-2-0582	練馬区	練馬東	20	17	4	3	3	2	3	2	-	3	-	春日町1-30-11
6-1-2-0583	練馬区	田柄	16	16	3	3	3	2	2	3	-	-	-	田柄2-19-19
6-1-2-0584	練馬区	練馬第二	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	貫井2-31-13
6-1-2-0585	練馬区	向山	16	16	3	3	2	3	3	2	-	-	-	向山2-14-11
6-1-2-0586	練馬区	豊溪	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	土支田2-26-28
6-1-2-0587	練馬区	旭町	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	旭町2-29-1
6-1-2-0588	練馬区	高松	21	21	4	4	3	3	3	4	-	-	-	高松3-16-1
6-1-2-0589	練馬区	田柄第二	17	17	3	3	2	3	3	3	-	-	-	田柄1-5-27
6-1-2-0590	練馬区	八坂	14	14	2	2	2	2	3	3	-	-	-	土支田4-48-1
6-1-2-0591	練馬区	石神井	24	18	3	3	3	3	3	3	-	6	-	石神井台1-1-25
6-1-2-0592	練馬区	上石神井北	26	20	4	4	3	3	3	3	-	6	-	石神井台5-1-32
6-1-2-0593	練馬区	石神井東	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	南田中3-9-1

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）										住 所	
			総数	通常の学級（学年別）								特別 支援 学級	日 本 語	
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式			
6-1-2-0594	練馬区	光和	24	24	4	4	4	4	4	4	-	-	-	石神井町2-16-34
6-1-2-0595	練馬区	谷原	26	22	4	4	3	3	4	4	-	4	-	谷原2-9-26
6-1-2-0596	練馬区	石神井西	16	14	3	2	3	2	2	2	-	2	-	関町北1-1-5
6-1-2-0597	練馬区	立野	16	16	3	3	3	3	2	2	-	-	-	立野町17-13
6-1-2-0598	練馬区	上石神井	22	22	4	4	4	3	4	3	-	-	-	上石神井4-10-9
6-1-2-0599	練馬区	関町	20	19	4	3	3	3	4	2	-	1	-	関町北3-23-34
6-1-2-0600	練馬区	関町北	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	関町北5-13-40
6-1-2-0601	練馬区	大泉	22	17	3	3	3	3	3	2	-	5	-	東大泉4-25-1
6-1-2-0602	練馬区	大泉南	19	19	3	4	3	3	3	3	-	-	-	東大泉6-28-1
6-1-2-0603	練馬区	大泉東	24	22	5	3	3	4	3	4	-	2	-	東大泉1-22-1
6-1-2-0604	練馬区	大泉第一	10	10	2	2	2	1	2	1	-	-	-	大泉町3-16-23
6-1-2-0605	練馬区	大泉第二	24	24	5	4	4	3	4	4	-	-	-	南大泉4-29-11
6-1-2-0606	練馬区	大泉第三	20	16	3	3	2	2	3	3	-	4	-	大泉学園町3-22-1
6-1-2-0607	練馬区	大泉第四	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	西大泉1-24-1
6-1-2-0608	練馬区	南田中	17	13	2	3	2	2	2	2	-	4	-	南田中5-15-37
6-1-2-0609	練馬区	大泉学園	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	大泉学園町4-7-1
6-1-2-0610	練馬区	泉新	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	三原台3-18-30
6-1-2-0611	練馬区	大泉第六	14	14	2	3	2	2	3	2	-	-	-	南大泉5-25-29
6-1-2-0612	練馬区	下石神井	25	25	4	5	4	4	4	4	-	-	-	下石神井2-20-18
6-1-2-0613	練馬区	富士見台	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	富士見台4-16-10
6-1-2-0614	練馬区	大泉西	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	西大泉4-25-1
6-1-2-0615	練馬区	大泉北	17	17	3	3	3	2	3	3	-	-	-	大泉町4-28-22
6-1-2-0616	練馬区	練馬第三	22	16	3	3	3	3	2	2	-	6	-	貫井1-36-15
6-1-2-0617	練馬区	南が丘	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	南田中2-13-1
6-1-2-0618	練馬区	早宮	15	15	3	3	2	3	2	2	-	-	-	早宮4-10-17
6-1-2-0619	練馬区	橋戸	11	11	2	2	2	1	2	2	-	-	-	大泉町2-11-25
6-1-2-0620	練馬区	石神井台	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	石神井台8-6-33
6-1-2-0621	練馬区	大泉学園緑	17	17	3	2	3	3	3	3	-	-	-	大泉学園町5-11-47
6-1-2-0622	練馬区	北原	22	22	4	4	4	3	3	4	-	-	-	谷原4-9-1
6-1-2-0623	練馬区	大泉学園桜	13	13	2	2	2	2	2	3	-	-	-	大泉学園町9-2-2
6-1-2-0624	練馬区	春日	11	11	2	2	2	1	2	2	-	-	-	春日町5-12-1
6-1-2-0625	練馬区	光が丘第八	12	7	1	2	1	1	1	1	-	5	-	光が丘1-4-1
6-1-2-0626	練馬区	光が丘四季の香	14	14	2	3	2	2	3	2	-	-	-	高松5-24-1
6-1-2-0627	練馬区	光が丘春の風	22	19	4	3	3	3	3	3	-	3	-	光が丘7-2-1
6-1-2-0628	練馬区	光が丘夏の雲	17	17	3	3	2	3	3	3	-	-	-	光が丘3-6-1
6-1-2-0629	練馬区	光が丘秋の陽	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	光が丘2-1-1
6-1-2-0630	足立区	千寿第八	17	17	3	3	3	3	2	3	-	-	-	千住関屋町16-1
6-1-2-0631	足立区	西新井	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	西新井本町4-9-27
6-1-2-0632	足立区	西新井第一	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	西新井6-21-3
6-1-2-0633	足立区	西新井第二	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	西新井4-34-1
6-1-2-0634	足立区	興本	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	扇3-22-1
6-1-2-0635	足立区	本木	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	本木北町7-1
6-1-2-0636	足立区	寺地	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	扇1-7-1
6-1-2-0637	足立区	関原	15	13	3	2	2	2	2	2	-	2	-	関原3-38-3
6-1-2-0638	足立区	江北	8	8	2	2	1	1	1	1	-	-	-	江北3-50-1
6-1-2-0639	足立区	高野	14	11	2	2	2	1	2	2	-	3	-	江北5-4-1
6-1-2-0640	足立区	扇	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	扇2-30-1
6-1-2-0641	足立区	鹿浜第一	21	17	3	3	3	2	3	3	-	4	-	谷在家2-24-1
6-1-2-0642	足立区	鹿浜西	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	鹿浜2-24-1
6-1-2-0643	足立区	新田	37	35	6	6	5	6	6	6	-	2	-	新田3-34-2
6-1-2-0644	足立区	宮城	18	17	3	3	3	2	3	3	-	1	-	宮城1-27-25
6-1-2-0645	足立区	舎人	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	舎人1-25-32
6-1-2-0646	足立区	梅島	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	梅田7-35-1
6-1-2-0647	足立区	梅島第一	11	11	2	2	2	2	1	2	-	-	-	梅島3-37-4
6-1-2-0648	足立区	梅島第二	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	梅田3-27-4
6-1-2-0649	足立区	島根	17	17	3	3	3	3	2	3	-	-	-	島根3-28-11
6-1-2-0650	足立区	亀田	23	23	3	4	3	4	5	4	-	-	-	西新井栄町1-1-1
6-1-2-0651	足立区	栗原	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	西新井栄町2-10-18
6-1-2-0652	足立区	栗島	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	青井6-13-10
6-1-2-0653	足立区	加平	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	六町3-3-11
6-1-2-0654	足立区	東栗原	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	一ツ家3-20-1
6-1-2-0655	足立区	弥生	21	17	3	3	3	3	3	3	-	4	-	中央本町2-5-1
6-1-2-0656	足立区	弘道	10	10	2	1	2	1	2	2	-	-	-	西綾瀬4-7-27
6-1-2-0657	足立区	弘道第一	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	弘道1-20-8
6-1-2-0658	足立区	綾瀬	25	25	5	4	4	4	4	4	-	-	-	東綾瀬1-5-3
6-1-2-0659	足立区	東加平	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	加平1-12-12

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）										特別 支援 学級	日 本 語	住 所
			総数	通常の学級（学年別）											
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式				
6-1-2-0660	足立区	東漕江	22	18	3	3	3	3	3	3	-	4	-	東和3-20-11	
6-1-2-0661	足立区	中川	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	大谷田3-17-20	
6-1-2-0662	足立区	北三谷	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	東和1-17-12	
6-1-2-0663	足立区	大谷田	11	11	2	2	1	2	2	2	-	-	-	中川4-41-27	
6-1-2-0664	足立区	長門	11	11	2	2	2	2	1	2	-	-	-	中川1-19-32	
6-1-2-0665	足立区	花畑	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	南花畑3-22-1	
6-1-2-0666	足立区	花畑第一	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	花畑1-29-1	
6-1-2-0667	足立区	花畑西	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	花畑4-21-1	
6-1-2-0668	足立区	漕江	16	13	2	2	2	2	3	2	-	3	-	西保木間1-10-3	
6-1-2-0669	足立区	漕江第一	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	保木間3-27-1	
6-1-2-0670	足立区	保木間	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	竹の塚3-6-3	
6-1-2-0671	足立区	竹の塚	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	竹の塚1-8-1	
6-1-2-0672	足立区	伊興	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	伊興4-16-1	
6-1-2-0673	足立区	東伊興	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	東伊興1-4-15	
6-1-2-0674	足立区	中川北	14	14	2	2	2	3	2	3	-	-	-	六木1-6-10	
6-1-2-0675	足立区	西伊興	22	18	4	3	3	2	3	3	-	4	-	伊興2-6-1	
6-1-2-0676	足立区	北鹿浜	9	9	2	1	2	1	1	2	-	-	-	鹿浜5-27-1	
6-1-2-0677	足立区	青井	14	12	2	2	2	2	2	2	-	2	-	青井3-12-2	
6-1-2-0678	足立区	花保	16	16	3	3	2	3	2	3	-	-	-	南花畑2-19-1	
6-1-2-0679	足立区	中島根	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	島根2-9-22	
6-1-2-0680	足立区	古千谷	19	17	3	2	3	3	3	3	-	2	-	古千谷本町4-12-16	
6-1-2-0681	足立区	東綾瀬	15	15	3	3	3	2	2	2	-	-	-	東綾瀬2-15-15	
6-1-2-0682	足立区	栗原北	15	15	2	3	2	2	3	3	-	-	-	栗原4-25-9	
6-1-2-0683	足立区	平野	20	17	3	3	3	3	3	2	-	3	-	平野3-6-3	
6-1-2-0684	足立区	辰沼	18	17	3	3	3	3	3	2	-	1	-	谷中5-12-1	
6-1-2-0685	足立区	六木	20	17	3	3	2	3	3	3	-	3	-	六木3-21-11	
6-1-2-0686	足立区	中川東	14	12	2	2	2	2	2	2	-	2	-	大谷田2-1-10	
6-1-2-0687	足立区	皿沼	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	皿沼1-19-1	
6-1-2-0688	足立区	舎人第一	17	17	3	3	3	2	3	3	-	-	-	舎人6-4-1	
6-1-2-0689	足立区	千寿本町	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	千住3-30	
6-1-2-0690	足立区	千寿桜	18	16	3	3	3	2	2	3	-	2	-	千住桜木1-8-15	
6-1-2-0691	足立区	桜花	14	12	2	2	2	2	2	2	-	2	-	花畑6-4-6	
6-1-2-0692	足立区	西保木間	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	西保木間4-2-1	
6-1-2-0693	足立区	足立入谷	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	入谷3-8-1	
6-1-2-0694	足立区	千寿	25	25	6	5	4	4	3	3	-	-	-	千住宮元町6-1	
6-1-2-0695	足立区	千寿常東	20	18	3	3	3	3	3	3	-	2	-	千住旭町10-31	
6-1-2-0696	足立区	千寿双葉	17	17	3	3	2	3	3	3	-	-	-	千住大川町17-1	
6-1-2-0697	足立区	足立	22	18	3	3	3	3	3	3	-	4	-	足立3-11-5	
6-1-2-0698	足立区	鹿浜五色桜	16	16	2	3	3	3	3	2	-	-	-	鹿浜4-20-22	
6-1-2-0699	葛飾区	本田	14	12	2	2	2	2	2	2	-	2	-	立石1-7-23	
6-1-2-0700	葛飾区	葛飾	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	青戸1-3-1	
6-1-2-0701	葛飾区	梅田	20	14	2	2	2	2	3	3	-	6	-	立石3-24-1	
6-1-2-0702	葛飾区	渋江	11	11	2	2	1	2	2	2	-	-	-	東四つ木2-13-1	
6-1-2-0703	葛飾区	南綾瀬	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	堀切6-1-1	
6-1-2-0704	葛飾区	上千葉	23	23	4	4	4	4	3	4	-	-	-	東堀切3-26-1	
6-1-2-0705	葛飾区	堀切	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	堀切2-42-1	
6-1-2-0706	葛飾区	奥戸	14	12	2	2	2	2	2	2	-	2	-	奥戸8-20-17	
6-1-2-0707	葛飾区	上平井	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	西新小岩4-22-1	
6-1-2-0708	葛飾区	二上	22	18	3	3	3	3	3	3	-	4	-	東新小岩7-18-1	
6-1-2-0709	葛飾区	高砂	16	15	3	3	2	3	2	2	-	1	-	高砂3-30-1	
6-1-2-0710	葛飾区	新宿	11	11	2	2	2	1	2	2	-	-	-	新宿2-26-1	
6-1-2-0711	葛飾区	住吉	16	15	3	3	2	2	3	2	-	1	-	高砂8-14-1	
6-1-2-0712	葛飾区	亀青	19	14	3	3	2	2	2	2	-	5	-	青戸8-17-1	
6-1-2-0713	葛飾区	道上	19	19	3	3	3	3	3	4	-	-	-	亀有4-35-1	
6-1-2-0714	葛飾区	金町	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	金町3-44-1	
6-1-2-0715	葛飾区	末広	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	金町4-21-1	
6-1-2-0716	葛飾区	柴又	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	柴又4-30-1	
6-1-2-0717	葛飾区	鎌倉	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	鎌倉4-24-1	
6-1-2-0718	葛飾区	水元	21	17	3	3	3	2	3	3	-	4	-	水元4-21-1	
6-1-2-0719	葛飾区	半田	19	19	3	4	3	3	3	3	-	-	-	東金町5-16-1	
6-1-2-0720	葛飾区	宝木塚	14	14	3	2	2	3	2	2	-	-	-	宝町2-29-23	
6-1-2-0721	葛飾区	青戸	24	22	4	4	4	3	4	3	-	2	-	青戸6-18-1	
6-1-2-0722	葛飾区	清和	11	11	2	2	1	2	2	2	-	-	-	立石6-2-1	
6-1-2-0723	葛飾区	木根川	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	東四つ木1-10-1	
6-1-2-0724	葛飾区	中之台	14	13	2	3	2	2	2	2	-	-	1	亀有5-2-1	
6-1-2-0725	葛飾区	綾南	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	堀切1-22-1	

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）											住 所
			総数	通常の学級（学年別）								特別 支援 学級	日 本 語	
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式			
6-1-2-0726	葛飾区	川端	13	13	3	2	2	2	2	2	2	-	-	東立石1-2-1
6-1-2-0727	葛飾区	北野	16	16	3	3	3	2	3	2	-	-	-	柴又3-10-1
6-1-2-0728	葛飾区	白鳥	17	17	3	3	3	2	3	3	-	-	-	白鳥3-4-1
6-1-2-0729	葛飾区	松上	19	17	3	3	3	3	3	2	-	-	2	西新小岩2-1-1
6-1-2-0730	葛飾区	西小菅	10	10	2	2	1	2	2	1	-	-	-	小菅1-25-1
6-1-2-0731	葛飾区	柴原	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	金町1-15-1
6-1-2-0732	葛飾区	中青戸	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	青戸4-24-1
6-1-2-0733	葛飾区	南奥戸	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	奥戸3-5-1
6-1-2-0734	葛飾区	東綾瀬	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	堀切6-21-1
6-1-2-0735	葛飾区	原田	16	16	2	3	3	3	2	3	-	-	-	東金町2-16-1
6-1-2-0736	葛飾区	東柴又	11	11	2	2	2	2	2	1	-	-	-	柴又5-12-15
6-1-2-0737	葛飾区	飯塚	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	南水元1-13-1
6-1-2-0738	葛飾区	西亀有	17	17	3	3	3	3	3	2	-	-	-	西亀有2-42-1
6-1-2-0739	葛飾区	花の木	21	21	3	4	3	3	4	4	-	-	-	南水元3-2-1
6-1-2-0740	葛飾区	上小松	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	奥戸4-1-4
6-1-2-0741	葛飾区	幸田	19	19	3	4	3	3	3	3	-	-	-	西水元3-24-12
6-1-2-0742	葛飾区	細田	15	15	3	3	2	2	2	3	-	-	-	細田3-20-1
6-1-2-0743	葛飾区	東金町	14	11	3	2	2	2	1	1	-	3	-	東金町1-33-1
6-1-2-0744	葛飾区	東水元	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	東水元5-38-1
6-1-2-0745	葛飾区	よつぎ	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	四つ木4-8-1
6-1-2-0746	葛飾区	小松南	15	15	3	3	2	2	3	2	-	-	-	新小岩2-25-1
6-1-2-0747	葛飾区	こすげ	16	13	3	2	2	2	2	2	-	3	-	小菅3-8-1
6-1-2-0748	江戸川区	小松川	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	平井4-1-23
6-1-2-0749	江戸川区	小松川第二	20	20	4	3	3	3	4	3	-	-	-	小松川3-6-4
6-1-2-0750	江戸川区	平井	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	平井6-35-1
6-1-2-0751	江戸川区	平井西	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	平井7-22-24
6-1-2-0752	江戸川区	平井東	14	12	2	2	2	2	2	2	-	2	-	平井4-28-9
6-1-2-0753	江戸川区	平井南	9	9	2	1	2	1	1	2	-	-	-	平井3-3-1
6-1-2-0754	江戸川区	松江	22	18	3	3	3	3	3	3	-	4	-	松江1-16-5
6-1-2-0755	江戸川区	西一之江	22	22	4	4	4	3	4	3	-	-	-	松江7-17-1
6-1-2-0756	江戸川区	第二松江	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	松島2-16-20
6-1-2-0757	江戸川区	第三松江	24	20	4	3	4	3	3	3	-	4	-	中央4-13-1
6-1-2-0758	江戸川区	西小松川	14	14	3	2	3	2	2	2	-	-	-	松島3-30-6
6-1-2-0759	江戸川区	大杉	14	12	2	2	2	2	2	2	-	2	-	中央2-16-15
6-1-2-0760	江戸川区	大杉東	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	西一之江2-8-5
6-1-2-0761	江戸川区	東小松川	19	19	4	3	3	3	3	3	-	-	-	東小松川3-27-1
6-1-2-0762	江戸川区	船堀	26	23	4	4	4	4	4	3	-	3	-	船堀2-22-22
6-1-2-0763	江戸川区	船堀第二	23	23	4	4	4	4	4	3	-	-	-	船堀4-14-4
6-1-2-0764	江戸川区	葛西	26	24	5	5	4	3	4	3	-	-	2	中葛西2-4-3
6-1-2-0765	江戸川区	二之江	17	14	2	2	3	2	2	3	-	3	-	江戸川5-18-3
6-1-2-0766	江戸川区	第二葛西	30	26	5	5	4	4	4	4	-	4	-	東葛西6-33-1
6-1-2-0767	江戸川区	第三葛西	18	13	2	3	2	2	2	2	-	5	-	北葛西4-2-19
6-1-2-0768	江戸川区	第四葛西	23	22	4	4	3	4	3	4	-	1	-	中葛西8-8-1
6-1-2-0769	江戸川区	第五葛西	17	17	3	3	3	3	3	2	-	-	-	北葛西2-13-33
6-1-2-0770	江戸川区	瑞江	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	西瑞江3-39
6-1-2-0771	江戸川区	春江	23	21	4	3	4	3	3	4	-	2	-	瑞江1-3-30
6-1-2-0772	江戸川区	下鎌田	10	10	2	2	1	2	1	2	-	-	-	東瑞江3-11-1
6-1-2-0773	江戸川区	江戸川	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	江戸川1-37
6-1-2-0774	江戸川区	一之江	17	15	3	3	2	2	3	2	-	-	2	一之江4-5-1
6-1-2-0775	江戸川区	一之江第二	24	24	4	4	4	4	4	4	-	-	-	春江町4-16
6-1-2-0776	江戸川区	鹿本	8	8	1	1	2	1	2	1	-	-	-	松本2-35-7
6-1-2-0777	江戸川区	鹿骨	7	7	1	1	1	1	2	1	-	-	-	鹿骨6-3-5
6-1-2-0778	江戸川区	本一色	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	本一色2-10-1
6-1-2-0779	江戸川区	篠崎	19	19	4	3	3	3	3	3	-	-	-	篠崎町3-2-18
6-1-2-0780	江戸川区	篠崎第二	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	上篠崎1-3-1
6-1-2-0781	江戸川区	篠崎第三	19	15	3	3	3	2	2	2	-	4	-	東篠崎1-1-16
6-1-2-0782	江戸川区	鎌田	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	南篠崎町2-45-18
6-1-2-0783	江戸川区	小岩	14	13	3	2	2	2	2	2	-	1	-	東小岩3-20-10
6-1-2-0784	江戸川区	東小岩	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	東小岩4-12-1
6-1-2-0785	江戸川区	下小岩	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	南小岩7-8-1
6-1-2-0786	江戸川区	下小岩第二	8	8	2	2	1	1	1	1	-	-	-	南小岩5-5-1
6-1-2-0787	江戸川区	上小岩	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	北小岩7-2-1
6-1-2-0788	江戸川区	上小岩第二	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	北小岩8-28-11
6-1-2-0789	江戸川区	西小岩	19	19	3	3	3	3	3	4	-	-	-	西小岩3-19-12
6-1-2-0790	江戸川区	南小岩	16	12	2	2	2	2	2	2	-	4	-	南小岩4-16-1
6-1-2-0791	江戸川区	南小岩第二	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	南小岩2-16-1

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）										日本 語	住 所	
			総数	通常の学級（学年別）								特別 支援 学級			
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式				
6-1-2-0792	江戸川区	中小岩	19	12	2	2	2	2	2	2	2	-	7	-	北小岩3-12-22
6-1-2-0793	江戸川区	北小岩	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	北小岩2-15-1
6-1-2-0794	江戸川区	下鎌田東	14	14	2	3	2	2	3	2	2	-	-	-	江戸川2-21
6-1-2-0795	江戸川区	松本	9	9	2	2	1	1	1	2	2	-	-	-	鹿骨6-9-1
6-1-2-0796	江戸川区	下鎌田西	16	16	3	3	3	2	3	2	2	-	-	-	瑞江4-19-10
6-1-2-0797	江戸川区	上一色南	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	本一色3-28-24
6-1-2-0798	江戸川区	二之江第二	13	13	2	2	2	2	2	3	2	-	-	-	春江町5-13
6-1-2-0799	江戸川区	第六葛西	20	19	4	3	3	3	3	3	3	-	1	-	西葛西4-5-1
6-1-2-0800	江戸川区	篠崎第四	20	20	3	4	3	3	4	3	3	-	-	-	篠崎町8-12-8
6-1-2-0801	江戸川区	大杉第二	18	18	3	4	2	3	3	3	3	-	-	-	大杉3-11-1
6-1-2-0802	江戸川区	鹿骨東	16	16	3	3	3	2	3	2	2	-	-	-	鹿骨3-7-1
6-1-2-0803	江戸川区	第七葛西	18	18	3	3	3	3	3	3	3	-	-	-	西葛西7-8-1
6-1-2-0804	江戸川区	篠崎第五	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	北篠崎2-5-1
6-1-2-0805	江戸川区	南篠崎	18	18	3	3	3	3	3	3	3	-	-	-	南篠崎町4-27-5
6-1-2-0806	江戸川区	南葛西	19	19	3	4	3	3	3	3	3	-	-	-	南葛西5-10-1
6-1-2-0807	江戸川区	西葛西	22	22	4	4	3	4	3	4	4	-	-	-	西葛西3-9-44
6-1-2-0808	江戸川区	新田	15	12	2	2	2	2	2	2	2	-	3	-	西葛西8-16-1
6-1-2-0809	江戸川区	新堀	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	新堀1-32-1
6-1-2-0810	江戸川区	南葛西第二	19	19	3	4	3	3	3	3	3	-	-	-	南葛西7-5-9
6-1-2-0811	江戸川区	清新第一	34	31	4	6	6	6	5	4	4	-	3	-	清新町1-4-19
6-1-2-0812	江戸川区	宇喜田	17	17	3	3	3	3	2	3	3	-	-	-	北葛西5-13-1
6-1-2-0813	江戸川区	南葛西第三	19	17	3	3	3	2	3	3	3	-	2	-	南葛西5-2-1
6-1-2-0814	江戸川区	臨海	18	15	3	3	2	3	2	2	2	-	3	-	臨海町2-2-11
6-1-2-0815	江戸川区	東葛西	20	20	4	4	3	3	3	3	3	-	-	-	東葛西8-23-1
6-1-2-0816	江戸川区	清新ふたば	17	17	3	3	3	2	3	3	3	-	-	-	清新町1-1-38
6-1-2-0817	八王子市	第一	16	14	3	3	2	2	2	2	2	-	2	-	元横山町2-14-3
6-1-2-0818	八王子市	第二	13	11	2	2	1	2	2	2	2	-	2	-	八木町7-1
6-1-2-0819	八王子市	第三	19	19	3	3	4	3	3	3	3	-	-	-	寺町29-15
6-1-2-0820	八王子市	第四	16	14	2	2	3	3	2	2	2	-	2	-	明神町2-15-1
6-1-2-0821	八王子市	第五	21	17	3	3	3	3	2	3	3	-	4	-	千人町3-7-7
6-1-2-0822	八王子市	第七	22	19	3	4	3	3	3	3	3	-	3	-	台町4-2-1
6-1-2-0823	八王子市	第八	9	9	1	1	1	2	2	2	2	-	-	-	石川町2065
6-1-2-0824	八王子市	第九	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	中野上町2-14-1
6-1-2-0825	八王子市	第十	19	19	3	3	3	4	3	3	3	-	-	-	大和田町7-5-1
6-1-2-0826	八王子市	中野北	9	6	1	1	1	1	1	1	1	-	3	-	中野山王3-1-1
6-1-2-0827	八王子市	大和田	13	13	2	2	2	2	2	3	3	-	-	-	大和田町4-19-1
6-1-2-0828	八王子市	横山第一	19	17	2	3	3	3	3	3	3	-	2	-	館町74
6-1-2-0829	八王子市	横山第二	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	並木町26-1
6-1-2-0830	八王子市	散田	22	18	3	3	3	3	3	3	3	-	4	-	散田町5-23-1
6-1-2-0831	八王子市	長房	11	6	1	1	1	1	1	1	1	-	5	-	長房町340-4
6-1-2-0832	八王子市	船田	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	長房町1041-2
6-1-2-0833	八王子市	元八王子	16	13	2	3	2	2	2	2	2	-	3	-	式分方町761
6-1-2-0834	八王子市	元八王子東	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	叶谷町1521
6-1-2-0835	八王子市	上壱分方	16	13	2	2	2	2	2	3	3	-	3	-	上壱分方町799-2
6-1-2-0836	八王子市	恩方第一	8	8	1	1	1	1	2	2	2	-	-	-	下恩方町1369
6-1-2-0837	八王子市	恩方第二	6	6	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	上恩方町2193
6-1-2-0838	八王子市	川口	13	11	2	2	2	2	2	1	1	-	2	-	川口町3675
6-1-2-0839	八王子市	陶鎔	19	16	3	3	3	2	2	3	3	-	3	-	犬目町56
6-1-2-0840	八王子市	上川口	6	6	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	上川町1099
6-1-2-0841	八王子市	美山	5	5	1	1	-	-	1	1	1	1	-	-	美山町1892
6-1-2-0842	八王子市	檜原	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	檜原町1287-2
6-1-2-0843	八王子市	加住	7	7	1	1	1	1	1	2	2	-	-	-	加住町1-191
6-1-2-0844	八王子市	由井第一	20	16	3	3	2	2	3	3	3	-	-	4	打越町348-1
6-1-2-0845	八王子市	由井第二	10	10	2	2	1	2	1	2	2	-	-	-	片倉町2180
6-1-2-0846	八王子市	由井第三	14	12	2	2	2	2	2	2	2	-	2	-	小比企町1201
6-1-2-0847	八王子市	長沼	15	12	2	2	2	2	2	2	2	-	3	-	長沼町707-3
6-1-2-0848	八王子市	浅川	18	18	3	3	3	3	3	3	3	-	-	-	初沢町1335
6-1-2-0849	八王子市	由木中央	18	18	3	3	3	3	3	3	3	-	-	-	下柚木25
6-1-2-0850	八王子市	由木東	24	24	4	5	4	3	4	4	4	-	-	-	東中野1347
6-1-2-0851	八王子市	由木西	6	6	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	上柚木538-1
6-1-2-0852	八王子市	清水	15	15	3	3	2	2	2	3	3	-	-	-	中野山王3-25-1
6-1-2-0853	八王子市	小宮	17	17	2	3	3	3	3	3	3	-	-	-	小宮町1128-3
6-1-2-0854	八王子市	山田	18	18	3	3	3	3	3	3	3	-	-	-	山田町1553
6-1-2-0855	八王子市	城山	13	13	2	2	2	2	3	2	2	-	-	-	元八王子町2-1767
6-1-2-0856	八王子市	片倉台	11	11	2	2	1	2	2	2	2	-	-	-	片倉町1318
6-1-2-0857	八王子市	鹿島	6	6	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	鹿島13

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）										住 所	
			総数	通常の学級（学年別）								特別 支援 学級	日 本 語	
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式			
6-1-2-0858	八王子市	松が谷	10	10	2	1	1	2	2	2	-	-	-	松が谷12
6-1-2-0859	八王子市	東浅川	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	東浅川町550-22
6-1-2-0860	八王子市	櫛田	17	17	3	3	2	3	3	3	-	-	-	櫛田町571-2
6-1-2-0861	八王子市	元木	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	下恩方町515-1
6-1-2-0862	八王子市	高嶺	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	北野台4-21-1
6-1-2-0863	八王子市	式分方	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	式分方町520-1
6-1-2-0864	八王子市	横川	14	12	2	2	2	2	2	2	-	2	-	横川町305
6-1-2-0865	八王子市	松枝	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	檜原町601-13
6-1-2-0866	八王子市	中山	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	中山1155
6-1-2-0867	八王子市	高倉	16	12	2	2	2	2	2	2	-	4	-	高倉町67-2
6-1-2-0868	八王子市	宇津木台	21	17	3	3	3	3	2	3	-	4	-	久保山町2-18
6-1-2-0869	八王子市	柏木	13	10	1	2	2	2	1	2	-	3	-	南大沢3-3
6-1-2-0870	八王子市	南大沢	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	南大沢4-18
6-1-2-0871	八王子市	宮上	15	11	2	2	2	2	2	1	-	4	-	南大沢5-10
6-1-2-0872	八王子市	秋葉台	25	21	4	4	4	3	3	3	-	4	-	別所2-5
6-1-2-0873	八王子市	別所	16	12	2	2	2	2	2	2	-	4	-	別所2-44
6-1-2-0874	八王子市	愛宕	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	上柚木3-20
6-1-2-0875	八王子市	松木	17	17	3	3	2	3	3	3	-	-	-	松木57-3
6-1-2-0876	八王子市	下柚木	7	7	1	1	1	1	2	1	-	-	-	下柚木3-9
6-1-2-0877	八王子市	上柚木	11	11	1	2	2	2	2	2	-	-	-	上柚木3-15
6-1-2-0878	八王子市	みなみ野	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	みなみ野6-14-1
6-1-2-0879	八王子市	長池	17	14	2	2	2	2	2	3	-	3	-	別所1-55
6-1-2-0880	八王子市	鍵水	18	18	4	3	3	2	3	3	-	-	-	鍵水2-74
6-1-2-0881	八王子市	館	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	館町1097-15
6-1-2-0882	八王子市	七国	28	25	5	5	4	4	3	4	-	3	-	七国5-27-1
6-1-2-0883	八王子市	高尾山学園小学部	2	2	-	-	-	-	1	1	-	-	-	館町1097-30
6-1-2-0884	八王子市	緑が丘	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	寺田町405-5
6-1-2-0885	八王子市	みなみ野君田	15	15	2	2	3	2	3	3	-	-	-	みなみ野4-3-1
6-1-2-0886	立川市	第一	19	16	2	3	2	3	3	3	-	3	-	柴崎町2-20-3
6-1-2-0887	立川市	第二	15	13	2	3	2	2	2	2	-	2	-	曙町3-23-1
6-1-2-0888	立川市	第三	17	17	3	3	3	2	3	3	-	-	-	錦町3-4-1
6-1-2-0889	立川市	第四	16	16	3	3	3	2	3	2	-	-	-	富士見町4-4-1
6-1-2-0890	立川市	第五	22	19	4	3	3	3	3	3	-	3	-	高松町1-12-25
6-1-2-0891	立川市	第六	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	羽衣町2-29-22
6-1-2-0892	立川市	第七	8	6	1	1	1	1	1	1	-	2	-	錦町5-6-43
6-1-2-0893	立川市	第八	19	14	3	3	2	2	2	2	-	5	-	幸町2-1-1
6-1-2-0894	立川市	第九	22	17	3	3	3	3	3	2	-	5	-	上砂町2-18-1
6-1-2-0895	立川市	第十	15	13	3	2	2	2	2	2	-	2	-	柏町1-31-1
6-1-2-0896	立川市	西砂	21	21	4	4	3	4	3	3	-	-	-	西砂町2-34-2
6-1-2-0897	立川市	南砂	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	栄町2-2-1
6-1-2-0898	立川市	幸	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	幸町5-68-1
6-1-2-0899	立川市	松中	16	14	3	3	2	2	2	2	-	2	-	一番町5-8-5
6-1-2-0900	立川市	大山	10	10	2	2	1	1	2	2	-	-	-	上砂町1-5-33
6-1-2-0901	立川市	柏	18	18	4	2	3	3	3	3	-	-	-	柏町4-8-4
6-1-2-0902	立川市	上砂川	17	17	3	3	2	3	3	3	-	-	-	上砂町5-12-2
6-1-2-0903	立川市	新生	15	13	2	2	2	2	2	3	-	2	-	富士見町6-69-1
6-1-2-0904	立川市	若葉台	21	18	3	3	3	3	3	3	-	3	-	若葉町1-13-1
6-1-2-0905	武蔵野市	第一	16	16	3	3	3	3	2	2	-	-	-	吉祥寺本町4-17-16
6-1-2-0906	武蔵野市	第二	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	境4-2-15
6-1-2-0907	武蔵野市	第三	16	14	3	3	2	2	2	2	-	2	-	吉祥寺南町2-35-9
6-1-2-0908	武蔵野市	第四	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	吉祥寺北町2-4-5
6-1-2-0909	武蔵野市	第五	16	16	3	3	3	2	3	2	-	-	-	関前3-2-20
6-1-2-0910	武蔵野市	大野田	29	24	4	5	3	4	4	4	-	5	-	吉祥寺北町4-11-37
6-1-2-0911	武蔵野市	境南	23	19	4	3	3	3	3	3	-	4	-	境南町2-27-27
6-1-2-0912	武蔵野市	本宿	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	吉祥寺東町4-1-9
6-1-2-0913	武蔵野市	千川	11	11	2	2	2	1	2	2	-	-	-	八幡町3-5-25
6-1-2-0914	武蔵野市	井之頭	18	18	3	4	3	3	3	2	-	-	-	吉祥寺本町3-27-19
6-1-2-0915	武蔵野市	関前南	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	関前3-37-26
6-1-2-0916	武蔵野市	桜野	32	28	5	5	5	4	5	4	-	4	-	桜堤1-8-19
6-1-2-0917	三鷹市	第一	20	20	4	4	3	3	3	3	-	-	-	新川6-4-32
6-1-2-0918	三鷹市	第二	25	25	5	4	4	4	4	4	-	-	-	野崎3-19-1
6-1-2-0919	三鷹市	第三	21	21	4	4	3	3	3	4	-	-	-	上連雀4-12-3
6-1-2-0920	三鷹市	第四	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	下連雀1-25-1
6-1-2-0921	三鷹市	第五	20	20	4	4	3	3	3	3	-	-	-	井の頭2-34-21
6-1-2-0922	三鷹市	第六	28	23	4	4	3	4	4	4	-	5	-	下連雀6-13-1
6-1-2-0923	三鷹市	第七	16	13	3	2	2	2	2	2	-	3	-	上連雀7-7-7

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）											住 所
			総数	通常の学級（学年別）								特別 支援 学級	日 本 語	
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式			
6-1-2-0924	三鷹市	大沢台	17	12	2	2	2	2	2	2	-	5	-	大沢2-6-18
6-1-2-0925	三鷹市	高山	31	28	6	5	4	5	4	4	-	3	-	牟礼4-6-12
6-1-2-0926	三鷹市	南浦	28	24	4	4	4	4	4	4	-	4	-	下連雀9-9-1
6-1-2-0927	三鷹市	中原	19	19	4	3	3	3	3	3	-	-	-	中原2-12-13
6-1-2-0928	三鷹市	北野	17	17	3	3	2	3	3	3	-	-	-	北野3-1-5
6-1-2-0929	三鷹市	井口	21	21	4	4	3	3	3	4	-	-	-	井口3-7-11
6-1-2-0930	三鷹市	東台	20	17	3	3	3	2	3	3	-	3	-	中原2-17-37
6-1-2-0931	三鷹市	羽沢	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	大沢4-9-1
6-1-2-0932	青梅市	第一	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	本町223
6-1-2-0933	青梅市	第二	24	17	2	3	3	3	3	3	-	7	-	長淵4-437
6-1-2-0934	青梅市	第三	26	20	3	3	4	3	3	4	-	6	-	大門2-317
6-1-2-0935	青梅市	第四	18	13	3	2	2	2	2	2	-	5	-	東青梅6-1-1
6-1-2-0936	青梅市	第五	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	梅郷3-765-1
6-1-2-0937	青梅市	第六	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	二俣尾3-903-1
6-1-2-0938	青梅市	第七	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	小會木3-1880-1
6-1-2-0939	青梅市	河辺	19	14	2	2	2	3	2	3	-	5	-	河辺町5-24
6-1-2-0940	青梅市	新町	22	22	4	4	3	3	4	4	-	-	-	新町5-21-1
6-1-2-0941	青梅市	霞台	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	新町1-35-1
6-1-2-0942	青梅市	友田	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	友田町5-332
6-1-2-0943	青梅市	今井	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	今井2-947-1
6-1-2-0944	青梅市	若草	23	13	2	3	2	2	2	2	-	10	-	新町1-15-1
6-1-2-0945	青梅市	藤橋	8	8	2	1	1	1	1	2	-	-	-	藤橋3-13-1
6-1-2-0946	青梅市	吹上	16	10	2	1	2	2	2	1	-	6	-	吹上176-1
6-1-2-0947	青梅市	成木	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	成木3-423-1
6-1-2-0948	青梅市	東	2	2	-	-	-	-	1	1	-	-	-	新町3-72-1
6-1-2-0949	府中市	府中第一	33	30	5	5	5	5	5	5	-	3	-	寿町2-6
6-1-2-0950	府中市	府中第二	35	32	5	6	5	6	5	5	-	3	-	緑町1-29
6-1-2-0951	府中市	府中第三	22	22	4	4	4	3	4	3	-	-	-	片町3-5
6-1-2-0952	府中市	府中第四	17	14	3	3	2	2	2	2	-	3	-	白糸台1-58
6-1-2-0953	府中市	府中第五	27	22	4	4	4	3	4	3	-	5	-	本宿町1-51
6-1-2-0954	府中市	府中第六	23	23	4	3	4	4	4	4	-	-	-	天神町4-14
6-1-2-0955	府中市	府中第七	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	北山町2-23
6-1-2-0956	府中市	府中第八	22	22	4	4	3	3	4	4	-	-	-	是政1-34
6-1-2-0957	府中市	府中第九	18	14	3	2	3	2	2	2	-	4	-	栄町3-7
6-1-2-0958	府中市	府中第十	21	21	4	4	3	3	3	4	-	-	-	若松町4-29
6-1-2-0959	府中市	武蔵台	11	11	1	2	2	2	2	2	-	-	-	武蔵台2-3
6-1-2-0960	府中市	住吉	20	16	2	3	2	2	3	4	-	4	-	住吉町2-30
6-1-2-0961	府中市	新町	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	新町1-25
6-1-2-0962	府中市	本宿	21	21	4	4	3	3	3	4	-	-	-	本宿町4-19
6-1-2-0963	府中市	白糸台	19	19	3	4	3	3	3	3	-	-	-	白糸台2-16
6-1-2-0964	府中市	矢崎	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	矢崎町4-9
6-1-2-0965	府中市	若松	19	19	3	4	3	3	3	3	-	-	-	若松町3-11
6-1-2-0966	府中市	小柳	21	18	3	3	3	3	3	3	-	3	-	小柳町3-21
6-1-2-0967	府中市	南白糸台	19	19	4	3	3	3	3	3	-	-	-	白糸台6-48
6-1-2-0968	府中市	四谷	20	20	4	3	4	3	3	3	-	-	-	四谷3-2740
6-1-2-0969	府中市	南町	17	14	3	2	2	2	3	2	-	3	-	南町3-6
6-1-2-0970	府中市	日新	17	17	3	3	3	3	3	3	-	-	-	日新町5-22
6-1-2-0971	昭島市	東	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	東町2-2-18
6-1-2-0972	昭島市	富士見丘	15	9	2	2	2	1	1	1	-	6	-	福島町890
6-1-2-0973	昭島市	玉川	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	福島町2-8-1
6-1-2-0974	昭島市	中神	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	朝日町5-8-5
6-1-2-0975	昭島市	成隣	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	大神町4-4-1
6-1-2-0976	昭島市	光華	14	14	2	3	2	2	2	3	-	-	-	昭和町4-5-13
6-1-2-0977	昭島市	拝島第一	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	拝島町1-14-14
6-1-2-0978	昭島市	拝島第二	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	拝島町3927-2
6-1-2-0979	昭島市	拝島第三	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	松原町3-12-15
6-1-2-0980	昭島市	武蔵野	15	15	2	2	3	3	3	2	-	-	-	武蔵野2-3-1
6-1-2-0981	昭島市	共成	13	11	2	2	1	2	2	2	-	2	-	郷地町2-6-1
6-1-2-0982	昭島市	田中	17	13	3	2	2	2	2	2	-	4	-	田中町3-4-1
6-1-2-0983	昭島市	つつじが丘	23	17	3	3	2	3	3	3	-	6	-	つつじが丘2-1-30
6-1-2-0984	調布市	第一	28	20	4	4	3	3	3	3	-	8	-	小島町1-8-1
6-1-2-0985	調布市	第二	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	国領町4-19-1
6-1-2-0986	調布市	第三	17	17	3	3	3	2	3	3	-	-	-	上石原2-19-13
6-1-2-0987	調布市	八雲台	19	14	3	3	2	2	2	2	-	5	-	八雲台1-1-1
6-1-2-0988	調布市	富士見台	16	14	3	3	2	2	2	2	-	2	-	小島町3-20-1
6-1-2-0989	調布市	滝坂	18	15	3	3	3	2	2	2	-	3	-	東つつじヶ丘1-4-1

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）										住 所	
			総数	通常の学級（学年別）								特別 支援 学級	日 本 語	
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式			
6-1-2-0990	調布市	深大寺	18	18	4	3	2	3	3	3	-	-	-	深大寺元町5-16-21
6-1-2-0991	調布市	上ノ原	29	29	5	5	4	5	5	5	-	-	-	柴崎2-26-1
6-1-2-0992	調布市	石原	15	15	3	3	3	2	2	2	-	-	-	富士見町1-37-1
6-1-2-0993	調布市	若葉	27	27	6	5	4	4	4	4	-	-	-	若葉町3-17-5
6-1-2-0994	調布市	緑ヶ丘	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	緑ヶ丘2-16-1
6-1-2-0995	調布市	染地	11	7	1	2	1	1	1	1	-	4	-	染地3-1-81
6-1-2-0996	調布市	北ノ台	24	24	4	4	4	4	4	4	-	-	-	深大寺北町2-41-1
6-1-2-0997	調布市	多摩川	24	22	4	4	3	4	4	3	-	2	-	多摩川3-21-1
6-1-2-0998	調布市	杉森	21	21	4	4	3	3	4	3	-	-	-	染地2-25-4
6-1-2-0999	調布市	飛田給	13	13	2	2	2	3	2	2	-	-	-	飛田給3-29-1
6-1-2-1000	調布市	柏野	19	19	3	4	3	3	3	3	-	-	-	深大寺南町1-1-1
6-1-2-1001	調布市	国領	14	14	2	2	3	2	2	3	-	-	-	国領町8-1-55
6-1-2-1002	調布市	布田	16	16	3	3	3	2	2	3	-	-	-	染地1-1-85
6-1-2-1003	調布市	調和	20	20	4	3	3	3	3	4	-	-	-	西つつじヶ丘4-22-6
6-1-2-1004	町田市	町田第一	25	20	3	4	3	4	3	3	-	5	-	中町1-20-30
6-1-2-1005	町田市	町田第二	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	原町田4-26-40
6-1-2-1006	町田市	町田第三	14	14	3	2	2	2	2	3	-	-	-	本町田1212
6-1-2-1007	町田市	町田第四	17	17	3	3	2	3	3	3	-	-	-	森野2-21-28
6-1-2-1008	町田市	町田第五	18	17	3	3	3	2	3	3	-	1	-	玉川学園4-14-7
6-1-2-1009	町田市	町田第六	12	10	2	2	2	1	2	1	-	2	-	南大谷1260
6-1-2-1010	町田市	本町田東	14	10	2	1	2	1	2	2	-	4	-	本町田3350
6-1-2-1011	町田市	南第一	20	20	4	4	3	3	3	3	-	-	-	南町田1-10-1
6-1-2-1012	町田市	南第二	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	成瀬7-11-1
6-1-2-1013	町田市	南第三	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	金森東1-2-1
6-1-2-1014	町田市	南第四	25	17	3	3	3	2	3	3	-	8	-	金森東3-21-1
6-1-2-1015	町田市	鶴川第一	23	23	3	4	4	4	4	4	-	-	-	野津田町1290
6-1-2-1016	町田市	鶴川第二	18	16	3	3	2	2	3	3	-	2	-	能ヶ谷7-24-1
6-1-2-1017	町田市	鶴川第三	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	鶴川6-5
6-1-2-1018	町田市	鶴川第四	22	16	3	2	2	3	3	3	-	6	-	鶴川3-22
6-1-2-1019	町田市	忠生	21	15	3	2	2	2	3	3	-	6	-	忠生3-10-2
6-1-2-1020	町田市	小山田	10	10	1	2	2	2	1	2	-	-	-	上小山田町614
6-1-2-1021	町田市	忠生第三	19	19	4	3	3	3	3	3	-	-	-	木曽東3-11-3
6-1-2-1022	町田市	小山	28	24	4	4	3	4	4	5	-	4	-	小山町944
6-1-2-1023	町田市	相原	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	相原町1673
6-1-2-1024	町田市	つくし野	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	つくし野2-21-11
6-1-2-1025	町田市	藤の台	18	15	2	3	2	2	3	3	-	3	-	藤の台3-1-1
6-1-2-1026	町田市	南大谷	22	18	3	3	3	3	3	3	-	4	-	南大谷811-1
6-1-2-1027	町田市	成瀬台	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	成瀬台2-5-2
6-1-2-1028	町田市	小川	13	13	2	2	2	2	3	2	-	-	-	小川3-10-1
6-1-2-1029	町田市	鶴間	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	鶴間4-17-1
6-1-2-1030	町田市	金井	20	17	3	3	3	3	3	2	-	3	-	金井ヶ丘1-30-1
6-1-2-1031	町田市	高ヶ坂	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	高ヶ坂6-7-1
6-1-2-1032	町田市	成瀬中央	14	12	2	2	2	2	2	2	-	2	-	成瀬2-8
6-1-2-1033	町田市	南成瀬	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	南成瀬3-6
6-1-2-1034	町田市	南つくし野	27	24	5	4	4	3	4	4	-	3	-	南つくし野2-4-8
6-1-2-1035	町田市	大蔵	22	22	3	4	3	4	4	4	-	-	-	大蔵町286
6-1-2-1036	町田市	山崎	13	12	2	2	2	2	2	2	-	1	-	忠生2-15-26
6-1-2-1037	町田市	三輪	16	16	2	2	3	3	3	3	-	-	-	三輪町330-1
6-1-2-1038	町田市	大戸	6	6	1	1	1	1	1	1	-	-	-	相原町3765-3
6-1-2-1039	町田市	小山田南	21	18	3	3	3	3	3	3	-	3	-	小山田桜台2-7
6-1-2-1040	町田市	木曽境川	16	14	2	3	2	2	2	3	-	2	-	木曽西1-9-1
6-1-2-1041	町田市	本町田	19	12	2	2	2	2	2	2	-	7	-	本町田2032
6-1-2-1042	町田市	七国山	22	18	3	3	3	3	3	3	-	4	-	山崎町1314-2
6-1-2-1043	町田市	小山ヶ丘	26	24	4	4	4	4	4	4	-	2	-	小山ヶ丘5-37
6-1-2-1044	町田市	図師	17	17	3	3	3	2	3	3	-	-	-	図師町239-19
6-1-2-1045	町田市	小山中央	24	21	3	4	3	3	4	4	-	3	-	小山ヶ丘3-7-1
6-1-2-1046	小金井市	小金井第一	23	20	4	4	3	3	3	3	-	3	-	本町1-1-6
6-1-2-1047	小金井市	小金井第二	24	18	4	3	3	2	3	3	-	6	-	桜町2-3-58
6-1-2-1048	小金井市	小金井第三	26	26	4	5	4	4	5	4	-	-	-	梶野町5-7-1
6-1-2-1049	小金井市	小金井第四	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	貫井南町3-9-1
6-1-2-1050	小金井市	東	24	21	4	4	4	3	3	3	-	3	-	東町4-25-6
6-1-2-1051	小金井市	前原	20	20	4	4	3	3	3	3	-	-	-	前原町3-4-22
6-1-2-1052	小金井市	本町	17	17	3	3	3	3	2	3	-	-	-	本町5-29-21
6-1-2-1053	小金井市	緑	22	22	4	4	4	3	3	4	-	-	-	緑町4-15-39
6-1-2-1054	小金井市	南	19	19	3	4	3	3	3	3	-	-	-	前原町2-2-1
6-1-2-1055	小平市	小平第一	17	14	2	3	3	2	2	2	-	3	-	小川町1-1082

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）										住 所	
			総数	通常の学級（学年別）								特別 支援 学級		日 本 語
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式			
6-1-2-1056	小平市	小平第二	27	17	3	3	3	3	3	2	-	10	-	仲町310
6-1-2-1057	小平市	小平第三	22	22	4	4	4	4	3	3	-	-	-	回田町118
6-1-2-1058	小平市	小平第四	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	学園西町1-34-1
6-1-2-1059	小平市	小平第五	26	22	4	4	4	3	4	3	-	4	-	花小金井6-24-1
6-1-2-1060	小平市	小平第六	19	19	4	3	3	3	3	3	-	-	-	小川東町3-1-2
6-1-2-1061	小平市	小平第七	19	19	4	3	3	3	3	3	-	-	-	大沼町1-22-1
6-1-2-1062	小平市	小平第八	18	18	4	3	3	3	3	2	-	-	-	鈴木町1-355
6-1-2-1063	小平市	小平第九	17	13	2	2	2	2	2	3	-	4	-	鈴木町1-82
6-1-2-1064	小平市	小平第十	23	23	4	4	4	4	3	4	-	-	-	上水本町4-4-1
6-1-2-1065	小平市	小平第十一	22	22	4	4	3	3	4	4	-	-	-	花小金井4-16-1
6-1-2-1066	小平市	小平第十二	24	20	4	4	3	3	3	3	-	4	-	小川町1-464
6-1-2-1067	小平市	小平第十三	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	小川西町1-22-1
6-1-2-1068	小平市	小平第十四	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	仲町33
6-1-2-1069	小平市	小平第十五	16	16	3	3	2	3	3	2	-	-	-	小川町2-1136
6-1-2-1070	小平市	花小金井	20	20	4	3	4	3	3	3	-	-	-	花小金井1-35-1
6-1-2-1071	小平市	鈴木	11	11	2	2	2	2	2	1	-	-	-	鈴木町1-450
6-1-2-1072	小平市	学園東	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	学園東町2-15-1
6-1-2-1073	小平市	上宿	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	小川町1-327
6-1-2-1074	日野市	日野第一	18	13	3	2	2	2	2	2	-	5	-	日野本町2-14-1
6-1-2-1075	日野市	豊田	25	25	5	4	4	4	4	4	-	-	-	東豊田2-14-1
6-1-2-1076	日野市	日野第三	19	12	2	2	2	2	2	2	-	7	-	日野台2-1-1
6-1-2-1077	日野市	日野第四	20	20	4	3	3	3	4	3	-	-	-	石田430
6-1-2-1078	日野市	日野第五	25	24	5	5	4	4	3	3	-	1	-	多摩平6-21-1
6-1-2-1079	日野市	日野第六	24	24	4	5	4	3	4	4	-	-	-	多摩平3-21
6-1-2-1080	日野市	潤徳	21	21	3	4	4	3	4	3	-	-	-	高幡402
6-1-2-1081	日野市	平山	23	19	3	4	3	3	3	3	-	4	-	平山4-8-6
6-1-2-1082	日野市	日野第八	21	18	3	3	3	3	3	3	-	3	-	三沢200
6-1-2-1083	日野市	滝合	16	13	2	3	2	2	2	2	-	3	-	西平山2-3-1
6-1-2-1084	日野市	日野第七	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	神明3-2
6-1-2-1085	日野市	南平	21	17	3	3	3	3	3	2	-	4	-	南平4-18-1
6-1-2-1086	日野市	旭が丘	17	17	3	3	2	3	3	3	-	-	-	旭が丘5-21-1
6-1-2-1087	日野市	東光寺	13	13	2	2	2	2	2	3	-	-	-	新町3-24-1
6-1-2-1088	日野市	仲田	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	日野本町6-1-74
6-1-2-1089	日野市	夢が丘	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	程久保1-14-2
6-1-2-1090	日野市	七生緑	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	百草896-1
6-1-2-1091	東村山市	化成	21	18	3	3	3	3	3	3	-	3	-	諏訪町1-4-1
6-1-2-1092	東村山市	回田	17	17	3	3	2	3	3	3	-	-	-	廻田町3-28-1
6-1-2-1093	東村山市	大岱	14	12	2	2	2	2	2	2	-	2	-	恩多町4-17-1
6-1-2-1094	東村山市	秋津	21	18	3	3	3	3	3	3	-	3	-	秋津町3-48-1
6-1-2-1095	東村山市	八坂	24	21	4	4	3	3	3	4	-	3	-	栄町3-34-1
6-1-2-1096	東村山市	萩山	16	12	2	2	2	2	2	2	-	4	-	萩山町4-16-1
6-1-2-1097	東村山市	南台	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	富士見町1-16-12
6-1-2-1098	東村山市	久米川	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	久米川町4-11-1
6-1-2-1099	東村山市	東萩山	16	14	3	2	2	2	3	2	-	2	-	萩山町5-7-1
6-1-2-1100	東村山市	青葉	14	14	2	2	2	3	2	3	-	-	-	青葉町2-33-1
6-1-2-1101	東村山市	北山	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	野口町3-45-1
6-1-2-1102	東村山市	秋津東	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	秋津町4-35-11
6-1-2-1103	東村山市	野火止	15	15	2	2	2	3	3	3	-	-	-	恩多町5-47-1
6-1-2-1104	東村山市	久米川東	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	久米川町2-40-10
6-1-2-1105	東村山市	富士見	15	15	3	2	2	2	3	3	-	-	-	富士見町5-4-57
6-1-2-1106	国分寺市	第一	14	14	3	3	2	2	2	2	-	-	-	東元町2-1-20
6-1-2-1107	国分寺市	第二	29	24	4	5	4	4	4	3	-	5	-	光町3-1
6-1-2-1108	国分寺市	第三	22	22	5	4	3	3	4	3	-	-	-	東恋ヶ窪2-13
6-1-2-1109	国分寺市	第四	35	28	4	5	5	5	4	5	-	7	-	西元町1-8-1
6-1-2-1110	国分寺市	第五	14	14	3	2	2	3	2	2	-	-	-	日吉町1-30
6-1-2-1111	国分寺市	第六	17	17	3	3	3	3	2	3	-	-	-	並木町2-1
6-1-2-1112	国分寺市	第七	19	16	3	3	3	3	2	2	-	3	-	本多1-2-1
6-1-2-1113	国分寺市	第八	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	西町5-18
6-1-2-1114	国分寺市	第九	16	16	2	3	3	2	3	3	-	-	-	西恋ヶ窪4-12-6
6-1-2-1115	国分寺市	第十	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	戸倉3-5
6-1-2-1116	国立市	国立第一	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	谷保6026
6-1-2-1117	国立市	国立第二	17	14	3	3	2	2	2	2	-	3	-	西2-13
6-1-2-1118	国立市	国立第三	19	17	3	3	3	3	3	2	-	2	-	東4-24-1
6-1-2-1119	国立市	国立第四	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	北2-29
6-1-2-1120	国立市	国立第五	17	15	4	3	2	2	2	2	-	2	-	富士見台2-47-2
6-1-2-1121	国立市	国立第六	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	谷保6600

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）										住 所	
			総数	通常の学級（学年別）								特別 支援 学級	日 本 語	
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式			
6-1-2-1122	国立市	国立第七	16	11	2	2	1	2	2	2	-	5	-	富士見台1-47-7
6-1-2-1123	国立市	国立第八	14	11	2	2	1	2	2	2	-	3	-	中1-3-1
6-1-2-1124	福生市	福生第一	19	12	2	2	2	2	2	2	-	4	3	福生1055
6-1-2-1125	福生市	福生第二	14	12	2	2	2	2	2	2	-	2	-	熊川623
6-1-2-1126	福生市	福生第三	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	牛浜162
6-1-2-1127	福生市	福生第四	9	9	1	2	1	2	1	2	-	-	-	福生1290
6-1-2-1128	福生市	福生第五	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	南田園1-2-2
6-1-2-1129	福生市	福生第六	15	12	2	2	2	2	2	2	-	3	-	加美平1-9-1
6-1-2-1130	福生市	福生第七	11	9	1	2	1	2	2	1	-	2	-	北田園1-1-1
6-1-2-1131	狛江市	狛江第一	28	24	5	5	4	4	3	3	-	4	-	和泉本町1-37-1
6-1-2-1132	狛江市	狛江第三	18	17	4	4	2	3	2	2	-	1	-	猪方1-11-1
6-1-2-1133	狛江市	狛江第五	20	20	4	3	3	3	4	3	-	-	-	東野川1-35-13
6-1-2-1134	狛江市	狛江第六	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	駒井町1-21-1
6-1-2-1135	狛江市	和泉	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	中和泉3-33-1
6-1-2-1136	狛江市	緑野	23	19	4	4	3	3	2	3	-	4	-	和泉本町4-3-1
6-1-2-1137	東大和市	第一	17	17	3	3	3	3	3	2	-	-	-	奈良橋4-573
6-1-2-1138	東大和市	第二	17	17	2	3	3	3	3	3	-	-	-	南街3-61-2
6-1-2-1139	東大和市	第三	11	8	1	1	2	1	2	1	-	3	-	清原4-1312-2
6-1-2-1140	東大和市	第四	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	狭山5-1038
6-1-2-1141	東大和市	第五	15	15	3	2	3	2	2	3	-	-	-	向原1-11
6-1-2-1142	東大和市	第六	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	仲原1-5-1
6-1-2-1143	東大和市	第七	14	12	2	2	2	2	2	2	-	2	-	芋窪5-1171
6-1-2-1144	東大和市	第八	19	19	4	3	3	3	3	3	-	-	-	立野3-1255
6-1-2-1145	東大和市	第九	14	9	1	2	1	1	2	2	-	5	-	藏敷2-546
6-1-2-1146	東大和市	第十	20	20	4	3	3	4	3	3	-	-	-	上北台3-399
6-1-2-1147	清瀬市	清瀬	27	20	4	4	3	3	3	3	-	7	-	中里5-741
6-1-2-1148	清瀬市	芝山	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	元町2-16-8
6-1-2-1149	清瀬市	清瀬第三	11	11	2	2	1	2	2	2	-	-	-	竹丘1-15-4
6-1-2-1150	清瀬市	清瀬第四	9	9	2	1	2	1	1	2	-	-	-	中里2-1471
6-1-2-1151	清瀬市	清瀬第六	13	13	2	2	2	2	2	3	-	-	-	梅園2-9-45
6-1-2-1152	清瀬市	清瀬第七	16	9	1	2	2	2	1	1	-	7	-	松山3-1-92
6-1-2-1153	清瀬市	清瀬第八	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	中清戸4-1070
6-1-2-1154	清瀬市	清瀬第十	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	中清戸1-454-14
6-1-2-1155	清瀬市	清明	13	13	2	3	2	2	2	2	-	-	-	旭が丘2-8-1
6-1-2-1156	東久留米市	第一	16	16	3	3	3	2	2	3	-	-	-	中央町6-8-1
6-1-2-1157	東久留米市	第二	18	18	3	3	3	3	3	3	-	-	-	新川町1-14-6
6-1-2-1158	東久留米市	第三	21	18	3	3	3	3	3	3	-	3	-	中央町1-16-1
6-1-2-1159	東久留米市	第五	23	23	5	5	4	3	3	3	-	-	-	南沢4-6-1
6-1-2-1160	東久留米市	第六	13	11	2	2	2	2	1	2	-	2	-	金山町1-17-1
6-1-2-1161	東久留米市	第七	21	17	3	3	2	3	3	3	-	4	-	滝山7-26-30
6-1-2-1162	東久留米市	第九	19	19	4	3	3	3	3	3	-	-	-	滝山3-2-30
6-1-2-1163	東久留米市	第十	11	11	2	2	2	2	2	1	-	-	-	柳窪5-9-43
6-1-2-1164	東久留米市	小山	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	小山5-5-4
6-1-2-1165	東久留米市	神宝	17	12	2	2	2	2	2	2	-	5	-	神宝町1-6-7
6-1-2-1166	東久留米市	南町	23	15	3	3	2	2	3	2	-	8	-	南町3-2-23
6-1-2-1167	東久留米市	本村	11	11	2	2	1	2	2	2	-	-	-	野火止3-5-1
6-1-2-1168	武蔵村山市	第一	19	12	2	2	2	2	2	2	-	7	-	本町1-1-11
6-1-2-1169	武蔵村山市	第二	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	三ツ木2-12-2
6-1-2-1170	武蔵村山市	第三	13	13	2	2	2	2	2	3	-	-	-	中藤1-36-1
6-1-2-1171	武蔵村山市	第四	14	12	2	2	2	2	2	2	-	-	2	緑が丘1460
6-1-2-1172	武蔵村山市	第七	20	20	4	4	3	3	3	3	-	-	-	大南2-78-1
6-1-2-1173	武蔵村山市	第八	22	22	4	4	3	4	3	4	-	-	-	三ツ藤2-50-1
6-1-2-1174	武蔵村山市	第九	13	9	1	2	1	2	2	1	-	4	-	学園1-85-1
6-1-2-1175	武蔵村山市	第十	17	17	2	3	3	3	3	3	-	-	-	残堀5-100-1
6-1-2-1176	武蔵村山市	雷塚	18	11	1	2	2	2	2	2	-	7	-	学園4-6-1
6-1-2-1177	多摩市	多摩第一	19	19	3	3	3	3	3	4	-	-	-	関戸3-2-23
6-1-2-1178	多摩市	多摩第二	20	15	3	3	2	3	2	2	-	5	-	和田75
6-1-2-1179	多摩市	多摩第三	13	13	3	2	2	2	2	2	-	-	-	乞田712
6-1-2-1180	多摩市	連光寺	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	連光寺3-64-1
6-1-2-1181	多摩市	北諏訪	21	17	3	3	3	3	2	3	-	4	-	諏訪1-60-1
6-1-2-1182	多摩市	東寺方	20	16	3	3	3	2	2	3	-	4	-	東寺方100
6-1-2-1183	多摩市	南鶴牧	20	17	3	3	2	3	3	3	-	3	-	鶴牧5-43
6-1-2-1184	多摩市	聖ヶ丘	12	12	2	2	2	2	2	2	-	-	-	聖ヶ丘3-66
6-1-2-1185	多摩市	西落合	15	15	3	3	2	2	3	2	-	-	-	落合5-6
6-1-2-1186	多摩市	大松台	17	17	3	3	3	2	3	3	-	-	-	鶴牧6-4
6-1-2-1187	多摩市	諏訪	18	14	2	3	2	3	2	2	-	4	-	諏訪5-13

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）											住 所	
			総数	通常の学級（学年別）								特別 支援 学級	日 本 語		
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式				
6-1-2-1188	多摩市	永山	16	12	2	2	2	2	2	2	2	-	4	-	永山2-8-1
6-1-2-1189	多摩市	瓜生	7	7	1	2	1	1	1	1	1	-	-	-	永山5-13
6-1-2-1190	多摩市	東落合	14	12	2	2	2	2	2	2	2	-	2	-	落合3-24
6-1-2-1191	多摩市	貝取	13	9	1	2	1	1	2	2	2	-	4	-	貝取3-9
6-1-2-1192	多摩市	豊ヶ丘	8	8	1	1	1	2	1	2	2	-	-	-	豊ヶ丘2-4-1
6-1-2-1193	多摩市	愛和	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	愛宕1-54
6-1-2-1194	稲城市	稲城第一	20	17	3	3	2	3	3	3	3	-	3	-	東長沼956
6-1-2-1195	稲城市	稲城第二	6	6	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	坂浜590
6-1-2-1196	稲城市	稲城第三	21	16	3	2	3	2	3	3	3	-	5	-	大丸100
6-1-2-1197	稲城市	稲城第四	18	18	3	3	3	3	3	3	3	-	-	-	押立1250
6-1-2-1198	稲城市	稲城第六	11	11	2	2	2	1	2	2	2	-	-	-	大丸2110
6-1-2-1199	稲城市	稲城第七	18	18	3	3	3	3	3	3	3	-	-	-	矢野口1901-2
6-1-2-1200	稲城市	向陽台	16	13	3	2	2	2	2	2	2	-	3	-	向陽台3-2
6-1-2-1201	稲城市	城山	7	7	1	1	1	1	1	2	2	-	-	-	向陽台6-17
6-1-2-1202	稲城市	長峰	15	12	2	2	2	2	2	2	2	-	3	-	長峰2-8
6-1-2-1203	稲城市	若葉台	22	22	4	4	4	3	3	4	4	-	-	-	若葉台4-5
6-1-2-1204	稲城市	平尾	21	20	4	4	3	3	3	3	3	-	1	-	平尾3-1-3
6-1-2-1205	稲城市	南山	13	13	3	3	2	2	1	2	2	-	-	-	矢野口3635
6-1-2-1206	羽村市	羽村東	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	羽東2-18-1
6-1-2-1207	羽村市	羽村西	16	12	2	2	2	2	2	2	2	-	4	-	羽加美4-2-9
6-1-2-1208	羽村市	富士見	18	18	3	3	3	3	3	3	3	-	-	-	五ノ神4-9-5
6-1-2-1209	羽村市	栄	15	12	2	2	2	2	2	2	2	-	3	-	栄町2-17
6-1-2-1210	羽村市	松林	10	6	1	1	1	1	1	1	1	-	4	-	羽4122-2
6-1-2-1211	羽村市	小作台	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	小作台4-13-1
6-1-2-1212	羽村市	武蔵野	16	13	2	2	2	2	3	2	2	-	3	-	川崎693-1
6-1-2-1213	あきる野市	東秋留	19	15	2	3	2	3	2	3	3	-	4	-	野辺1123
6-1-2-1214	あきる野市	多西	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	草花2885
6-1-2-1215	あきる野市	西秋留	14	14	2	3	2	3	2	2	2	-	-	-	上代継292
6-1-2-1216	あきる野市	屋城	7	7	1	1	1	1	2	1	1	-	-	-	二宮東1-12-1
6-1-2-1217	あきる野市	南秋留	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	雨間810
6-1-2-1218	あきる野市	草花	23	19	3	3	3	3	4	3	3	-	4	-	草花3130
6-1-2-1219	あきる野市	一の谷	9	6	1	1	1	1	1	1	1	-	3	-	引田980
6-1-2-1220	あきる野市	前田	14	12	2	2	2	2	2	2	2	-	2	-	野辺92
6-1-2-1221	あきる野市	増戸	18	18	3	3	3	3	3	3	3	-	-	-	伊奈1173
6-1-2-1222	あきる野市	五日市	18	14	3	2	2	2	2	3	3	-	4	-	五日市315
6-1-2-1223	西東京市	田無	29	21	4	4	4	3	3	3	3	-	8	-	田無町4-5-21
6-1-2-1224	西東京市	谷戸	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	緑町3-1-1
6-1-2-1225	西東京市	向台	26	26	4	5	4	5	4	4	4	-	-	-	向台町2-1-1
6-1-2-1226	西東京市	芝久保	14	13	3	2	2	2	2	2	2	-	1	-	芝久保町3-7-1
6-1-2-1227	西東京市	谷戸第二	17	17	3	3	3	2	3	3	3	-	-	-	谷戸町1-17-27
6-1-2-1228	西東京市	柳沢	19	13	2	3	2	2	2	2	2	-	6	-	南町2-12-37
6-1-2-1229	西東京市	上向台	23	23	4	4	3	4	4	4	4	-	-	-	向台町6-7-28
6-1-2-1230	西東京市	保谷	18	16	3	2	3	3	3	2	2	-	2	-	保谷町1-3-35
6-1-2-1231	西東京市	保谷第一	19	19	4	3	3	3	3	3	3	-	-	-	下保谷1-4-4
6-1-2-1232	西東京市	保谷第二	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	柳沢4-2-11
6-1-2-1233	西東京市	東伏見	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	東伏見6-1-28
6-1-2-1234	西東京市	中原	30	23	4	4	4	4	4	3	3	-	7	-	ひばりが丘2-6-25
6-1-2-1235	西東京市	碧山	17	17	3	3	2	3	3	3	3	-	-	-	中町5-11-4
6-1-2-1236	西東京市	栄	20	20	4	4	3	3	3	3	3	-	-	-	栄町2-10-9
6-1-2-1237	西東京市	東	21	15	3	3	2	2	3	2	2	-	6	-	東町6-2-33
6-1-2-1238	西東京市	本町	13	13	2	3	2	2	2	2	2	-	-	-	保谷町1-14-23
6-1-2-1239	西東京市	住吉	13	13	3	2	2	2	2	2	2	-	-	-	住吉町5-2-1
6-1-2-1240	西東京市	けやき	21	21	4	4	3	4	3	3	3	-	-	-	芝久保町5-7-1
6-1-2-1241	瑞穂町	瑞穂第一	15	12	2	2	2	2	2	2	2	-	3	-	箱根ヶ崎2287
6-1-2-1242	瑞穂町	瑞穂第二	9	9	2	2	1	1	1	2	2	-	-	-	長岡長谷部250
6-1-2-1243	瑞穂町	瑞穂第三	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	二本木670
6-1-2-1244	瑞穂町	瑞穂第四	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	箱根ヶ崎西松原2-1
6-1-2-1245	瑞穂町	瑞穂第五	9	9	1	2	2	1	2	1	1	-	-	-	殿ヶ谷1160
6-1-2-1246	日の出町	大久野	14	12	2	2	2	2	2	2	2	-	2	-	大久野1176
6-1-2-1247	日の出町	平井	12	12	2	2	2	2	2	2	2	-	-	-	平井1218
6-1-2-1248	日の出町	本宿	15	15	3	3	2	2	2	3	3	-	-	-	平井1855
6-1-2-1249	檜原村	檜原	6	6	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	檜原村600
6-1-2-1250	奥多摩町	古里	8	6	1	1	1	1	1	1	1	-	2	-	小丹波75
6-1-2-1251	奥多摩町	氷川	6	6	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	氷川278
6-1-2-1252	大島町	つばき	7	6	1	1	1	1	1	1	1	-	1	-	元町字家の上
6-1-2-1253	大島町	さくら	6	6	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	岡田字長坂

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立小学校・区立中等教育学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）											住 所	
			総数	通常の学級（学年別）								特別 支援 学級	日 本 語		
				計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 式				
6-1-2-1254	大島町	つつじ	6	6	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	差木地字沖の根
6-1-2-1255	利島村	利島	4	4	1	-	-	-	-	1	2	-	-	-	利島村87
6-1-2-1256	新島村	新島	8	6	1	1	1	1	1	1	1	-	2	-	本村2-1-1
6-1-2-1257	新島村	式根島	5	5	1	-	-	1	1	1	1	-	-	-	式根島244
6-1-2-1258	神津島村	神津	7	6	1	1	1	1	1	1	1	-	1	-	神津島村807
6-1-2-1259	三宅村	三宅	8	6	1	1	1	1	1	1	1	-	2	-	伊豆468
6-1-2-1260	御蔵島村	御蔵島	5	5	1	1	1	-	-	1	1	-	-	-	御蔵島村
6-1-2-1261	八丈町	三根	7	6	1	1	1	1	1	1	1	-	1	-	三根341
6-1-2-1262	八丈町	大賀郷	6	6	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	大賀郷15
6-1-2-1263	八丈町	三原	6	6	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	中之郷2474
6-1-2-1264	青ヶ島村	青ヶ島	4	4	1	-	-	-	-	1	2	-	-	-	青ヶ島村無番地
6-1-2-1265	小笠原村	小笠原	7	6	1	1	1	1	1	1	1	-	1	-	父島字宮之浜道
6-1-2-1266	小笠原村	母島	5	5	1	1	1	-	-	1	1	-	-	-	母島字元地
6-1-2-1267	東京都	立川国際中等教育学校附属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	（開設準備室）立川市曙町3-29-37
合計			20 604	19 131	3 460	3 402	3 081	3 034	3 085	3 061	8	1 430	43		

※都内公立学校数は、令和4年（2022年）4月現在の数となる。

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立中学校・都立中学校

No.	設置者	学校名	学級数（通級指導学級を含む。）								住 所
			総数	通 常 の 学 級			特別 支援 学級	日本語 学級	夜間 学級		
				計	1 学年	2 学年				3 学年	
6-1-2-001	千代田区	麹町	19	17	5	7	5	2	-	-	平河町2-5-1
6-1-2-002	千代田区	神田一橋	8	8	3	2	3	-	-	-	一ツ橋2-6-14
6-1-2-003	東京都	(神田一橋・通信制)	1	1	-	-	1	-	-	-	千代田区一ツ橋2-6-14
6-1-2-004	中央区	晴海	15	15	5	5	5	-	-	-	晴海1-5-3
6-1-2-005	中央区	日本橋	12	12	4	4	4	-	-	-	東日本橋1-10-1
6-1-2-006	中央区	銀座	15	11	4	4	3	4	-	-	銀座8-19-15
6-1-2-007	中央区	佃	10	10	4	3	3	-	-	-	佃2-3-2
6-1-2-008	港区	御成門	10	9	3	3	3	1	-	-	西新橋3-25-30
6-1-2-009	港区	白金の丘	6	6	2	2	2	-	-	-	白金4-1-12
6-1-2-010	港区	高松	9	9	3	3	3	-	-	-	高輪1-16-25
6-1-2-011	港区	港南	13	11	4	3	4	2	-	-	港南4-3-3
6-1-2-012	港区	高陵	9	9	3	3	3	-	-	-	西麻布4-14-8
6-1-2-013	港区	赤坂	5	3	1	1	1	2	-	-	南青山1-18-12
6-1-2-014	港区	青山	6	5	2	1	2	1	-	-	北青山1-1-9
6-1-2-015	港区	港陽	3	3	1	1	1	-	-	-	台場1-1-5
6-1-2-016	港区	六本木	9	6	2	2	2	2	1	-	六本木6-8-16
6-1-2-017	港区	三田	9	9	3	3	3	-	-	-	三田4-13-13
6-1-2-018	新宿区	牛込第一	4	4	2	1	1	-	-	-	北山伏町4-1
6-1-2-019	新宿区	牛込第二	6	6	2	2	2	-	-	-	喜久井町20
6-1-2-020	新宿区	牛込第三	9	9	3	3	3	-	-	-	市谷加賀町1-3-1
6-1-2-021	新宿区	落合	7	7	2	2	3	-	-	-	下落合2-24-6
6-1-2-022	新宿区	落合第二	8	8	3	2	3	-	-	-	西落合1-6-5
6-1-2-023	新宿区	西新宿	9	6	2	2	2	3	-	-	西新宿8-2-44
6-1-2-024	新宿区	四谷	10	9	3	3	3	1	-	-	四谷1-12
6-1-2-025	新宿区	西早稲田	12	12	4	4	4	-	-	-	戸山3-20-2
6-1-2-026	新宿区	新宿	15	11	4	4	3	3	1	-	新宿6-15-22
6-1-2-027	新宿区	新宿西戸山	12	12	5	4	3	-	-	-	百人町4-3-1
6-1-2-028	文京区	第一	8	6	2	2	2	2	-	-	小石川5-8-9
6-1-2-029	文京区	第三	7	5	1	2	2	2	-	-	春日1-9-31
6-1-2-030	文京区	第六	9	9	3	3	3	-	-	-	向丘1-2-2
6-1-2-031	文京区	第八	6	4	2	1	1	2	-	-	千駄木2-19-22
6-1-2-032	文京区	第九	12	9	3	3	3	3	-	-	本駒込3-28-9
6-1-2-033	文京区	第十	6	6	2	2	2	-	-	-	千石2-40-17
6-1-2-034	文京区	文林	3	3	1	1	1	-	-	-	千駄木5-25-10
6-1-2-035	文京区	茗台	10	9	3	3	3	1	-	-	春日2-9-5
6-1-2-036	文京区	本郷台	8	8	3	3	2	-	-	-	本郷2-38-23
6-1-2-037	文京区	音羽	9	9	3	3	3	-	-	-	大塚1-9-24
6-1-2-038	台東区	上野	12	12	4	4	4	-	-	-	上野桜木1-14-55
6-1-2-039	台東区	忍岡	8	8	3	2	3	-	-	-	上野公園18-20
6-1-2-040	台東区	駒形	9	9	3	3	3	-	-	-	北上野2-15-1
6-1-2-041	台東区	浅草	12	12	4	4	4	-	-	-	蔵前1-3-4
6-1-2-042	台東区	御徒町台東	11	11	4	4	3	-	-	-	台東4-13-16
6-1-2-043	台東区	柏葉	16	10	4	3	3	6	-	-	下谷3-1-29
6-1-2-044	台東区	桜橋	5	5	1	2	2	-	-	-	今戸2-1-8
6-1-2-045	墨田区	墨田	16	14	5	4	5	2	-	-	向島4-25-22
6-1-2-046	墨田区	本所	15	14	5	4	5	1	-	-	東駒形3-1-10
6-1-2-047	墨田区	両国	18	18	6	6	6	-	-	-	横網1-8-1
6-1-2-048	墨田区	竪川	13	11	4	4	3	2	-	-	亀沢4-11-15
6-1-2-049	墨田区	錦糸	7	7	2	3	2	-	-	-	石原4-33-14
6-1-2-050	墨田区	吾嬬第二	11	9	3	3	3	2	-	-	八広4-4-4
6-1-2-051	墨田区	寺島	15	12	4	4	4	3	-	-	八広1-17-15
6-1-2-052	墨田区	文花	10	6	2	2	2	-	1	3	文花1-22-7
6-1-2-053	墨田区	桜堤	15	14	5	4	5	1	-	-	堤通2-19-1
6-1-2-054	墨田区	吾嬬立花	13	13	5	4	4	-	-	-	立花5-48-2
6-1-2-055	江東区	深川第一	8	6	2	2	2	2	-	-	森下4-9-22
6-1-2-056	江東区	深川第二	11	11	4	3	4	-	-	-	冬木22-10
6-1-2-057	江東区	深川第三	17	17	5	6	6	-	-	-	越中島3-7-1
6-1-2-058	江東区	深川第四	17	15	6	5	4	2	-	-	千石1-12-12
6-1-2-059	江東区	深川第五	16	16	5	5	6	-	-	-	豊洲4-11-18
6-1-2-060	江東区	深川第六	8	8	3	3	2	-	-	-	平野3-6-13
6-1-2-061	江東区	深川第七	6	6	2	2	2	-	-	-	毛利1-14-1
6-1-2-062	江東区	深川第八	14	12	4	4	4	2	-	-	塩浜2-21-14
6-1-2-063	江東区	亀戸	18	15	5	5	5	3	-	-	亀戸9-2-2
6-1-2-064	江東区	第二亀戸	7	7	3	2	2	-	-	-	亀戸4-51-1
6-1-2-065	江東区	第三亀戸	11	11	4	3	4	-	-	-	亀戸1-12-10
6-1-2-066	江東区	大島	9	9	3	3	3	-	-	-	大島8-12-22
6-1-2-067	江東区	第二大島	6	6	2	2	2	-	-	-	大島3-27-18

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立中学校・都立中学校

No.	設置者	学校名	学級数（通級指導学級を含む。）								住 所
			総数	通 常 の 学 級			特別 支援 学級	日本語 学級	夜間 学級		
				計	1 学年	2 学年				3 学年	
6-1-2-068	江東区	砂町	15	12	4	4	4	3	-	-	北砂6-16-28
6-1-2-069	江東区	第二砂町	14	14	4	5	5	-	-	-	東砂8-10-9
6-1-2-070	江東区	第三砂町	12	12	4	4	4	-	-	-	南砂3-10-3
6-1-2-071	江東区	第四砂町	8	6	2	2	2	2	-	-	北砂5-20-17
6-1-2-072	江東区	辰巳	6	6	2	2	2	-	-	-	辰巳1-10-57
6-1-2-073	江東区	南砂	4	3	1	1	1	1	-	-	南砂2-3-20
6-1-2-074	江東区	第二南砂	14	14	5	4	5	-	-	-	南砂1-2-18
6-1-2-075	江東区	東陽	8	8	3	3	2	-	-	-	東陽2-1-8
6-1-2-076	江東区	大島西	12	12	4	4	4	-	-	-	大島4-1-23
6-1-2-077	江東区	有明	12	10	4	3	3	2	-	-	有明2-10-1
6-1-2-078	品川区	東海	11	11	4	4	3	-	-	-	東品川3-30-15
6-1-2-079	品川区	大崎	8	8	3	2	3	-	-	-	西品川3-10-6
6-1-2-080	品川区	浜川	12	9	3	3	3	3	-	-	東大井3-18-34
6-1-2-081	品川区	鈴ヶ森	12	12	4	4	4	-	-	-	南大井2-3-14
6-1-2-082	品川区	富士見台	7	7	3	2	2	-	-	-	西大井5-5-14
6-1-2-083	品川区	荏原第一	14	14	5	4	5	-	-	-	荏原1-24-30
6-1-2-084	品川区	荏原第五	11	9	3	3	3	2	-	-	旗の台5-11-13
6-1-2-085	品川区	荏原第六	9	9	3	3	3	-	-	-	小山5-20-19
6-1-2-086	品川区	戸越台	9	9	3	3	3	-	-	-	戸越1-15-23
6-1-2-087	目黒区	第一	5	5	1	2	2	-	-	-	大橋2-11-1
6-1-2-088	目黒区	第七	7	7	2	3	2	-	-	-	碑文谷1-1-33
6-1-2-089	目黒区	第八	11	9	3	3	3	2	-	-	碑文谷4-19-25
6-1-2-090	目黒区	第九	6	6	2	2	2	-	-	-	洗足1-29-26
6-1-2-091	目黒区	第十	12	12	4	4	4	-	-	-	八雲5-2-1
6-1-2-092	目黒区	第十一	6	6	2	2	2	-	-	-	緑が丘1-8-1
6-1-2-093	目黒区	東山	12	12	4	4	4	-	-	-	東山1-24-31
6-1-2-094	目黒区	目黒中央	17	15	5	5	5	2	-	-	中町2-37-38
6-1-2-095	目黒区	大島	17	14	5	5	4	3	-	-	下目黒3-23-18
6-1-2-096	大田区	大森第一	7	7	3	2	2	-	-	-	大森南5-6-5
6-1-2-097	大田区	大森第二	13	13	4	4	5	-	-	-	大森北6-18-1
6-1-2-098	大田区	大森第八	18	15	5	5	5	3	-	-	大森西2-21-1
6-1-2-099	大田区	馬込	10	6	2	2	2	4	-	-	西馬込2-35-6
6-1-2-100	大田区	馬込東	10	10	3	3	4	-	-	-	南馬込2-26-30
6-1-2-101	大田区	貝塚	14	14	5	4	5	-	-	-	中馬込3-13-1
6-1-2-102	大田区	大森第四	12	12	4	4	4	-	-	-	池上1-15-1
6-1-2-103	大田区	大森第三	15	15	5	5	5	-	-	-	中央4-12-8
6-1-2-104	大田区	東調布	14	11	3	4	4	3	-	-	田園調布南29-15
6-1-2-105	大田区	田園調布	6	6	2	2	2	-	-	-	田園調布2-60-1
6-1-2-106	大田区	大森第七	16	16	6	5	5	-	-	-	南久が原1-3-1
6-1-2-107	大田区	雪谷	12	12	4	4	4	-	-	-	南雪谷5-1-1
6-1-2-108	大田区	大森第十	12	12	4	4	4	-	-	-	仲池上2-13-1
6-1-2-109	大田区	大森第六	12	12	5	3	4	-	-	-	南千束1-33-1
6-1-2-110	大田区	石川台	7	6	2	2	2	1	-	-	石川町2-23-1
6-1-2-111	大田区	羽田	8	6	2	2	2	2	-	-	東糀谷6-10-12
6-1-2-112	大田区	糀谷	16	13	5	4	4	-	-	3	西糀谷3-6-23
6-1-2-113	大田区	出雲	16	16	6	5	5	-	-	-	本羽田3-4-15
6-1-2-114	大田区	六郷	16	13	5	4	4	3	-	-	仲六郷3-11-11
6-1-2-115	大田区	志茂田	18	15	5	5	5	3	-	-	西六郷1-4-10
6-1-2-116	大田区	南六郷	17	17	6	5	6	-	-	-	南六郷3-2-1
6-1-2-117	大田区	矢口	16	14	5	4	5	2	-	-	下丸子2-23-1
6-1-2-118	大田区	御園	13	12	4	4	4	1	-	-	西蒲田8-5-1
6-1-2-119	大田区	蓮沼	11	9	3	3	3	2	-	-	西蒲田2-3-1
6-1-2-120	大田区	安方	12	12	4	4	4	-	-	-	東矢口2-1-1
6-1-2-121	大田区	東蒲	13	13	4	4	5	-	-	-	東蒲田2-38-1
6-1-2-122	大田区	蒲田	9	7	3	2	2	-	2	-	蒲田1-12-5
6-1-2-123	大田区	大森東	12	10	4	3	3	2	-	-	大森東4-1-1
6-1-2-124	世田谷区	太子堂	6	6	2	2	2	-	-	-	太子堂3-27-17
6-1-2-125	世田谷区	桜丘	18	18	6	6	6	-	-	-	桜丘2-1-39
6-1-2-126	世田谷区	松沢	12	9	3	3	3	3	-	-	桜上水4-5-2
6-1-2-127	世田谷区	駒沢	12	11	4	4	3	1	-	-	駒沢2-39-25
6-1-2-128	世田谷区	北沢	6	6	2	2	2	-	-	-	北沢5-12-3
6-1-2-129	世田谷区	緑丘	11	11	4	4	3	-	-	-	桜上水3-19-12
6-1-2-130	世田谷区	駒留	9	9	3	3	3	-	-	-	下馬4-18-1
6-1-2-131	世田谷区	梅丘	12	12	4	4	4	-	-	-	松原6-5-11
6-1-2-132	世田谷区	桜木	8	8	3	3	2	-	-	-	桜1-48-15
6-1-2-133	世田谷区	富士	9	9	3	3	3	-	-	-	代沢1-23-17
6-1-2-134	世田谷区	弦巻	14	11	4	3	4	3	-	-	弦巻1-42-22

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立中学校・都立中学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）								住 所
			総数	通 常 の 学 級			特別 支援 学級	日本語 学級	夜間 学級		
				計	1 学年	2 学年				3 学年	
6-1-2-135	世田谷区	奥沢	5	5	2	2	1	-	-	-	奥沢1-42-1
6-1-2-136	世田谷区	八幡	10	6	2	2	2	4	-	-	等々力6-4-1
6-1-2-137	世田谷区	玉川	11	11	4	4	3	-	-	-	中町4-21-1
6-1-2-138	世田谷区	瀬田	10	10	4	3	3	-	-	-	瀬田2-17-1
6-1-2-139	世田谷区	深沢	12	12	5	3	4	-	-	-	新町1-26-29
6-1-2-140	世田谷区	尾山台	10	10	3	4	3	-	-	-	尾山台3-27-23
6-1-2-141	世田谷区	用賀	13	13	5	4	4	-	-	-	上用賀5-15-1
6-1-2-142	世田谷区	東深沢	13	12	4	4	4	1	-	-	深沢4-18-28
6-1-2-143	世田谷区	砧	21	17	6	6	5	4	-	-	成城1-10-1
6-1-2-144	世田谷区	烏山	14	14	5	5	4	-	-	-	南烏山4-26-1
6-1-2-145	世田谷区	千歳	19	19	6	6	7	-	-	-	千歳台6-15-1
6-1-2-146	世田谷区	芦花	12	9	3	3	3	3	-	-	粕谷2-22-2
6-1-2-147	世田谷区	上祖師谷	17	15	6	4	5	2	-	-	上祖師谷7-10-1
6-1-2-148	世田谷区	砧南	12	12	4	4	4	-	-	-	鎌田3-13-20
6-1-2-149	世田谷区	喜多見	9	9	3	3	3	-	-	-	喜多見4-20-1
6-1-2-150	世田谷区	三宿	15	11	4	3	4	-	1	3	太子堂1-3-43
6-1-2-151	世田谷区	世田谷	19	12	5	3	4	7	-	-	梅丘3-8-1
6-1-2-152	世田谷区	船橋希望	20	20	6	7	7	-	-	-	船橋4-20-1
6-1-2-153	渋谷区	広尾	6	6	2	2	2	-	-	-	東4-13-25
6-1-2-154	渋谷区	鉢山	5	3	1	1	1	2	-	-	鶯谷町9-1
6-1-2-155	渋谷区	上原	11	9	3	3	3	2	-	-	上原3-41-2
6-1-2-156	渋谷区	代々木	12	12	4	4	4	-	-	-	西原1-46-1
6-1-2-157	渋谷区	笹塚	6	6	2	2	2	-	-	-	笹塚3-10-1
6-1-2-158	渋谷区	松濤	9	9	3	3	3	-	-	-	松濤1-20-4
6-1-2-159	渋谷区	渋谷本町学園	8	6	2	2	2	2	-	-	本町4-3-1
6-1-2-160	渋谷区	原宿外苑	9	9	3	3	3	-	-	-	神宮前1-24-6
6-1-2-161	中野区	第二	11	9	3	3	3	2	-	-	本町5-25-1
6-1-2-162	中野区	第五	9	9	3	3	3	-	-	-	上高田4-28-1
6-1-2-163	中野区	第七	12	9	3	3	3	3	-	-	江古田2-9-11
6-1-2-164	中野区	北中野	13	13	4	5	4	-	-	-	上鷺宮5-7-1
6-1-2-165	中野区	緑野	12	12	4	4	4	-	-	-	丸山1-1-19
6-1-2-166	中野区	南中野	9	9	3	3	3	-	-	-	南台5-22-17
6-1-2-167	中野区	中野	9	9	3	3	3	-	-	-	中野4-12-3
6-1-2-168	中野区	中野東	12	12	4	4	4	-	-	-	中央1-41-4
6-1-2-169	中野区	明和	16	13	5	4	4	3	-	-	若宮1-1-18
6-1-2-170	杉並区	高南	6	6	2	2	2	-	-	-	和田3-40-10
6-1-2-171	杉並区	杉森	9	9	3	3	3	-	-	-	阿佐谷北5-45-24
6-1-2-172	杉並区	阿佐ヶ谷	10	7	2	3	2	3	-	-	阿佐谷南1-17-3
6-1-2-173	杉並区	東田	10	10	4	3	3	-	-	-	成田東3-19-17
6-1-2-174	杉並区	松溪	10	10	4	3	3	-	-	-	荻窪2-3-1
6-1-2-175	杉並区	天沼	8	8	3	2	3	-	-	-	本天沼3-10-20
6-1-2-176	杉並区	東原	7	7	2	3	2	-	-	-	下井草1-28-5
6-1-2-177	杉並区	中瀬	13	13	5	4	4	-	-	-	下井草4-3-29
6-1-2-178	杉並区	井荻	13	13	4	5	4	-	-	-	今川2-13-24
6-1-2-179	杉並区	井草	19	15	5	5	5	4	-	-	上井草3-20-11
6-1-2-180	杉並区	荻窪	7	7	3	2	2	-	-	-	善福寺1-8-3
6-1-2-181	杉並区	神明	9	9	3	3	3	-	-	-	南荻窪2-37-28
6-1-2-182	杉並区	宮前	11	9	3	3	3	2	-	-	宮前2-12-1
6-1-2-183	杉並区	富士見丘	8	8	3	3	2	-	-	-	久我山2-20-1
6-1-2-184	杉並区	高井戸	15	14	5	4	5	1	-	-	高井戸東1-28-1
6-1-2-185	杉並区	向陽	9	9	3	3	3	-	-	-	下高井戸3-24-1
6-1-2-186	杉並区	松ノ木	7	7	3	2	2	-	-	-	松ノ木1-4-1
6-1-2-187	杉並区	大宮	8	6	2	2	2	2	-	-	堀ノ内1-16-38
6-1-2-188	杉並区	泉南	8	8	3	3	2	-	-	-	堀ノ内1-3-1
6-1-2-189	杉並区	和田	8	8	3	2	3	-	-	-	和田2-21-8
6-1-2-190	杉並区	西宮	11	11	4	3	4	-	-	-	宮前5-1-25
6-1-2-191	杉並区	和泉	10	7	3	2	2	3	-	-	和泉2-17-14
6-1-2-192	杉並区	高円寺	6	5	2	2	1	1	-	-	高円寺北1-4-11
6-1-2-193	豊島区	駒込	6	6	2	2	2	-	-	-	駒込4-5-1
6-1-2-194	豊島区	西巣鴨	8	6	2	2	2	2	-	-	南大塚3-18-1
6-1-2-195	豊島区	池袋	9	9	3	3	3	-	-	-	池袋本町1-43-1
6-1-2-196	豊島区	千川	7	7	3	2	2	-	-	-	高松1-9-21
6-1-2-197	豊島区	千登世橋	12	12	4	4	4	-	-	-	目白1-1-1
6-1-2-198	豊島区	巣鴨北	14	12	4	4	4	2	-	-	西巣鴨3-17-1
6-1-2-199	豊島区	明豊	12	12	4	4	4	-	-	-	長崎5-31-29
6-1-2-200	豊島区	西池袋	16	13	5	4	4	3	-	-	西池袋4-7-1
6-1-2-201	北区	堀船	7	6	2	2	2	1	-	-	堀船2-23-20

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立中学校・都立中学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）								住 所
			総数	通 常 の 学 級			特別 支援 学級	日本語 学級	夜間 学級		
				計	1 学年	2 学年				3 学年	
6-1-2-202	北区	稲付	15	12	4	4	4	3	-	-	赤羽西6-1-4
6-1-2-203	北区	神谷	4	4	1	1	2	-	-	-	神谷2-46-13
6-1-2-204	北区	浮間	16	13	5	4	4	3	-	-	浮間4-29-32
6-1-2-205	北区	飛鳥	9	9	3	3	3	-	-	-	田端6-9-1
6-1-2-206	北区	王子桜	16	15	5	5	5	1	-	-	王子2-7-1
6-1-2-207	北区	桐ヶ丘	12	12	4	4	4	-	-	-	桐ヶ丘2-6-11
6-1-2-208	北区	明桜	21	15	5	5	5	4	2	-	王子6-3-23
6-1-2-209	北区	十条富士見	9	9	3	3	3	-	-	-	十条台1-9-33
6-1-2-210	北区	田端	7	7	3	2	2	-	-	-	田端4-17-1
6-1-2-211	北区	滝野川紅葉	15	12	4	4	4	3	-	-	滝野川5-55-8
6-1-2-212	北区	赤羽岩淵	20	15	5	5	5	4	1	-	赤羽2-6-18
6-1-2-213	荒川区	第一	13	9	3	3	3	4	-	-	荒川1-30-1
6-1-2-214	荒川区	第三	15	14	6	4	4	1	-	-	南千住8-10-1
6-1-2-215	荒川区	第四	11	9	3	3	3	2	-	-	荒川6-57-1
6-1-2-216	荒川区	第五	8	8	3	2	3	-	-	-	町屋1-37-16
6-1-2-217	荒川区	第七	9	9	3	3	3	-	-	-	西尾久4-30-28
6-1-2-218	荒川区	第九	11	8	3	3	2	-	-	3	東尾久2-23-5
6-1-2-219	荒川区	尾久八幡	15	12	4	4	4	3	-	-	西尾久3-14-1
6-1-2-220	荒川区	南千住第二	12	12	4	4	4	-	-	-	南千住7-25-1
6-1-2-221	荒川区	原	8	8	3	3	2	-	-	-	町屋5-12-6
6-1-2-222	荒川区	諏訪台	13	13	5	4	4	-	-	-	西日暮里2-36-8
6-1-2-223	板橋区	板橋第一	13	10	4	3	3	3	-	-	大山東町50-1
6-1-2-224	板橋区	板橋第二	13	11	4	4	3	-	2	-	幸町26-1
6-1-2-225	板橋区	板橋第三	12	12	4	4	4	-	-	-	氷川町22-3
6-1-2-226	板橋区	板橋第五	5	5	2	2	1	-	-	-	板橋4-49-3
6-1-2-227	板橋区	加賀	12	12	4	4	4	-	-	-	加賀2-19-1
6-1-2-228	板橋区	志村第一	18	18	6	6	6	-	-	-	大原町33-1
6-1-2-229	板橋区	志村第二	11	10	3	4	3	-	1	-	小豆沢1-21-1
6-1-2-230	板橋区	志村第三	18	15	5	5	5	3	-	-	坂下2-21-1
6-1-2-231	板橋区	志村第四	19	14	5	5	4	5	-	-	志村3-15-1
6-1-2-232	板橋区	西台	15	15	5	5	5	-	-	-	高島平1-4-1
6-1-2-233	板橋区	中台	14	14	5	4	5	-	-	-	中台1-56-23
6-1-2-234	板橋区	上板橋第一	14	10	4	3	3	4	-	-	南常盤台1-1-1
6-1-2-235	板橋区	上板橋第二	10	10	4	3	3	-	-	-	小茂根1-2-1
6-1-2-236	板橋区	上板橋第三	15	11	4	4	3	4	-	-	常盤台3-30-1
6-1-2-237	板橋区	桜川	9	9	3	3	3	-	-	-	桜川1-2-1
6-1-2-238	板橋区	赤塚第一	15	13	4	5	4	2	-	-	徳丸4-13-1
6-1-2-239	板橋区	赤塚第二	15	15	5	5	5	-	-	-	成増3-18-1
6-1-2-240	板橋区	赤塚第三	19	19	6	7	6	-	-	-	赤塚7-27-15
6-1-2-241	板橋区	高島第二	11	11	4	3	4	-	-	-	高島平2-24-1
6-1-2-242	板橋区	高島第一	12	10	3	3	4	2	-	-	高島平8-26-1
6-1-2-243	板橋区	高島第三	14	12	4	4	4	2	-	-	高島平4-22-1
6-1-2-244	板橋区	志村第五	10	10	3	4	3	-	-	-	坂下2-1-20
6-1-2-245	練馬区	旭丘	6	4	1	1	2	2	-	-	旭丘2-40-1
6-1-2-246	練馬区	豊玉	8	8	3	2	3	-	-	-	豊玉南2-1-20
6-1-2-247	練馬区	豊玉第二	7	7	2	3	2	-	-	-	豊玉北2-24-5
6-1-2-248	練馬区	中村	19	15	5	5	5	4	-	-	中村南1-32-21
6-1-2-249	練馬区	開進第一	13	13	4	4	5	-	-	-	早宮1-16-50
6-1-2-250	練馬区	開進第二	13	12	4	4	4	1	-	-	練馬2-27-28
6-1-2-251	練馬区	開進第三	11	10	4	3	3	1	-	-	桜台3-28-1
6-1-2-252	練馬区	開進第四	14	14	5	5	4	-	-	-	羽沢3-24-1
6-1-2-253	練馬区	北町	11	11	4	3	4	-	-	-	北町3-1-34
6-1-2-254	練馬区	練馬	17	14	5	5	4	3	-	-	高松1-24-1
6-1-2-255	練馬区	貫井	12	12	4	4	4	-	-	-	貫井2-14-13
6-1-2-256	練馬区	田柄	13	13	5	4	4	-	-	-	田柄3-3-1
6-1-2-257	練馬区	豊溪	5	5	2	2	1	-	-	-	旭町3-5-10
6-1-2-258	練馬区	石神井	23	17	6	6	5	6	-	-	石神井台1-32-1
6-1-2-259	練馬区	石神井南	10	10	3	4	3	-	-	-	下石神井2-7-23
6-1-2-260	練馬区	石神井東	15	15	5	5	5	-	-	-	高野台1-8-34
6-1-2-261	練馬区	石神井西	18	18	6	6	6	-	-	-	関町南3-10-3
6-1-2-262	練馬区	上石神井	10	10	4	3	3	-	-	-	上石神井4-15-27
6-1-2-263	練馬区	大泉	26	20	7	6	7	6	-	-	東大泉4-27-35
6-1-2-264	練馬区	大泉学園	15	15	5	5	5	-	-	-	大泉学園町4-17-32
6-1-2-265	練馬区	大泉第二	15	15	5	5	5	-	-	-	東大泉6-21-1
6-1-2-266	練馬区	八坂	7	7	2	2	3	-	-	-	土支田4-47-21
6-1-2-267	練馬区	練馬東	11	11	3	4	4	-	-	-	春日町2-14-22
6-1-2-268	練馬区	大泉西	14	14	5	5	4	-	-	-	西大泉3-19-27

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立中学校・都立中学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）								住 所
			総数	通 常 の 学 級			特別 支援 学級	日本語 学級	夜間 学級		
				計	1 学年	2 学年				3 学年	
6-1-2-269	練馬区	関	14	14	5	4	5	-	-	-	関町北4-34-23
6-1-2-270	練馬区	谷原	14	12	4	4	4	2	-	-	谷原4-10-5
6-1-2-271	練馬区	三原台	15	15	6	5	4	-	-	-	三原台3-13-41
6-1-2-272	練馬区	大泉北	12	12	4	4	4	-	-	-	大泉町5-4-32
6-1-2-273	練馬区	南が丘	12	9	3	3	3	3	-	-	南田中4-8-23
6-1-2-274	練馬区	大泉学園桜	6	6	2	2	2	-	-	-	大泉学園町9-2-1
6-1-2-275	練馬区	光が丘第一	10	10	4	3	3	-	-	-	光が丘6-5-1
6-1-2-276	練馬区	光が丘第二	10	10	4	3	3	-	-	-	光が丘7-1-1
6-1-2-277	練馬区	光が丘第三	17	12	4	4	4	5	-	-	光が丘3-2-1
6-1-2-278	足立区	第一	13	10	4	3	3	3	-	-	千住河原町4-7
6-1-2-279	足立区	第四	23	18	6	6	6	-	2	3	梅島1-2-33
6-1-2-280	足立区	第五	7	7	3	2	2	-	-	-	西新井本町2-3-1
6-1-2-281	足立区	第六	12	9	3	3	3	3	-	-	本木西町16-1
6-1-2-282	足立区	第七	16	12	4	4	4	4	-	-	関原3-32-14
6-1-2-283	足立区	第九	16	16	5	5	6	-	-	-	梅田6-32-1
6-1-2-284	足立区	第十	15	15	5	5	5	-	-	-	梅島3-23-3
6-1-2-285	足立区	第十一	18	18	6	6	6	-	-	-	弘道1-38-15
6-1-2-286	足立区	第十二	13	13	4	4	5	-	-	-	大谷田1-37-1
6-1-2-287	足立区	第十三	21	17	6	5	6	4	-	-	神明南1-16-1
6-1-2-288	足立区	第十四	20	20	7	7	6	-	-	-	西竹の塚1-8-1
6-1-2-289	足立区	江南	5	5	2	1	2	-	-	-	宮城1-8-4
6-1-2-290	足立区	新田	17	16	6	5	5	1	-	-	新田3-34-2
6-1-2-291	足立区	東島根	11	11	4	4	3	-	-	-	平野1-27-2
6-1-2-292	足立区	洺江	16	16	6	5	5	-	-	-	保木間3-6-6
6-1-2-293	足立区	竹の塚	6	6	2	2	2	-	-	-	西保木間4-12-13
6-1-2-294	足立区	東綾瀬	17	15	5	5	5	2	-	-	綾瀬3-23-14
6-1-2-295	足立区	花畑	12	9	3	3	3	3	-	-	花畑1-31-1
6-1-2-296	足立区	蒲原	16	16	6	6	4	-	-	-	東和3-17-15
6-1-2-297	足立区	青井	5	5	1	2	2	-	-	-	青井4-19-1
6-1-2-298	足立区	西新井	17	17	5	6	6	-	-	-	西新井7-22-1
6-1-2-299	足立区	入谷	4	4	2	1	1	-	-	-	入谷3-6-1
6-1-2-300	足立区	伊興	20	17	6	5	6	3	-	-	伊興5-17-1
6-1-2-301	足立区	花畑北	4	4	1	1	2	-	-	-	花畑6-12-35
6-1-2-302	足立区	谷中	14	14	5	4	5	-	-	-	谷中3-14-1
6-1-2-303	足立区	花保	7	7	3	2	2	-	-	-	南花畑2-41-1
6-1-2-304	足立区	栗島	6	4	2	1	1	2	-	-	中央本町5-23-1
6-1-2-305	足立区	扇	6	6	2	2	2	-	-	-	扇3-18-14
6-1-2-306	足立区	加賀	6	6	2	2	2	-	-	-	加賀2-25-22
6-1-2-307	足立区	入谷南	11	11	4	4	3	-	-	-	入谷1-24-1
6-1-2-308	足立区	六月	14	14	5	5	4	-	-	-	六月1-30-1
6-1-2-309	足立区	千寿青葉	9	9	3	3	3	-	-	-	千住緑町1-4-16
6-1-2-310	足立区	千寿桜堤	15	15	5	5	5	-	-	-	柳原2-49-1
6-1-2-311	足立区	鹿浜菜の花	19	15	5	4	6	4	-	-	江北7-17-11
6-1-2-312	足立区	江北桜	11	11	4	4	3	-	-	-	江北1-17-1
6-1-2-313	葛飾区	本田	11	11	4	4	3	-	-	-	東立石4-7-1
6-1-2-314	葛飾区	金町	16	16	6	5	5	-	-	-	南水元3-1-1
6-1-2-315	葛飾区	水元	10	10	4	3	3	-	-	-	水元3-20-1
6-1-2-316	葛飾区	新宿	15	12	4	4	4	3	-	-	新宿3-20-10
6-1-2-317	葛飾区	奥戸	15	13	5	4	4	2	-	-	細田1-6-1
6-1-2-318	葛飾区	綾瀬	9	6	2	2	2	3	-	-	小菅2-12-1
6-1-2-319	葛飾区	上平井	16	13	5	4	4	3	-	-	東新小岩4-2-1
6-1-2-320	葛飾区	中川	6	6	2	2	2	-	-	-	東四つ木1-3-1
6-1-2-321	葛飾区	桜道	13	13	5	4	4	-	-	-	柴又4-3-1
6-1-2-322	葛飾区	堀切	8	8	3	2	3	-	-	-	堀切1-36-1
6-1-2-323	葛飾区	双葉	11	6	2	2	2	-	2	3	お花茶屋1-10-1
6-1-2-324	葛飾区	大道	12	12	4	4	4	-	-	-	四つ木5-22-1
6-1-2-325	葛飾区	四ツ木	9	6	2	2	2	3	-	-	四つ木4-22-1
6-1-2-326	葛飾区	小松	10	10	4	3	3	-	-	-	新小岩4-30-1
6-1-2-327	葛飾区	亀有	13	11	4	4	3	-	2	-	亀有1-23-1
6-1-2-328	葛飾区	立石	12	11	4	4	3	1	-	-	立石6-3-1
6-1-2-329	葛飾区	常盤	13	13	5	4	4	-	-	-	金町2-11-1
6-1-2-330	葛飾区	一之台	8	8	3	3	2	-	-	-	西亀有4-1-1
6-1-2-331	葛飾区	青戸	16	11	4	4	3	5	-	-	青戸5-10-1
6-1-2-332	葛飾区	青葉	14	14	5	5	4	-	-	-	堀切8-12-1
6-1-2-333	葛飾区	高砂	10	8	3	2	3	2	-	-	高砂3-32-1
6-1-2-334	葛飾区	東金町	10	10	3	4	3	-	-	-	東金町5-3-1
6-1-2-335	葛飾区	葛美	21	17	6	6	5	4	-	-	水元2-17-1

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立中学校・都立中学校

No.	設置者	学校名	学級数（通級指導学級を含む。）								住 所
			総数	通 常 の 学 級			特別 支援 学級	日本語 学級	夜間 学級		
				計	1 学年	2 学年				3 学年	
6-1-2-336	葛飾区	新小岩	15	12	4	4	4	-	3	-	西新小岩2-1-2
6-1-2-337	江戸川区	小松川第一	7	7	2	2	3	-	-	-	平井4-7-21
6-1-2-338	江戸川区	小松川第二	19	16	6	5	5	-	1	2	小松川2-10-2
6-1-2-339	江戸川区	小松川第三	12	10	4	3	3	2	-	-	平井5-3-11
6-1-2-340	江戸川区	松江第一	23	18	6	6	6	5	-	-	松江5-5-1
6-1-2-341	江戸川区	松江第二	10	10	4	3	3	-	-	-	松島2-3-1
6-1-2-342	江戸川区	松江第三	12	12	4	4	4	-	-	-	中央1-20-1
6-1-2-343	江戸川区	松江第四	16	16	6	5	5	-	-	-	西一之江1-16-1
6-1-2-344	江戸川区	松江第五	18	14	5	5	4	4	-	-	一之江6-18-1
6-1-2-345	江戸川区	葛西	16	14	5	5	4	-	2	-	中葛西2-4-3
6-1-2-346	江戸川区	葛西第二	12	12	4	4	4	-	-	-	字喜田町1085
6-1-2-347	江戸川区	瑞江	11	11	3	4	4	-	-	-	江戸川4-16
6-1-2-348	江戸川区	瑞江第二	16	12	4	4	4	4	-	-	瑞江4-54-1
6-1-2-349	江戸川区	鹿本	18	12	4	4	4	6	-	-	松本1-36-1
6-1-2-350	江戸川区	篠崎	19	17	6	6	5	2	-	-	篠崎町5-12-19
6-1-2-351	江戸川区	小岩第一	10	10	3	4	3	-	-	-	東小岩3-10-8
6-1-2-352	江戸川区	小岩第二	14	14	5	4	5	-	-	-	東小岩1-6-10
6-1-2-353	江戸川区	小岩第三	15	15	5	4	6	-	-	-	北小岩8-19-1
6-1-2-354	江戸川区	小岩第四	13	11	4	4	3	-	2	-	西小岩3-9-18
6-1-2-355	江戸川区	小岩第五	10	7	2	2	3	3	-	-	鹿骨5-27-1
6-1-2-356	江戸川区	上一色	10	10	3	4	3	-	-	-	上一色1-8-11
6-1-2-357	江戸川区	瑞江第三	11	11	4	4	3	-	-	-	東瑞江1-38-33
6-1-2-358	江戸川区	葛西第三	19	19	6	6	7	-	-	-	中葛西6-6-13
6-1-2-359	江戸川区	松江第六	9	9	3	3	3	-	-	-	松江7-16-18
6-1-2-360	江戸川区	篠崎第二	17	17	5	6	6	-	-	-	下篠崎町14-1
6-1-2-361	江戸川区	春江	15	15	5	5	5	-	-	-	春江町2-47-1
6-1-2-362	江戸川区	二之江	20	16	5	6	5	4	-	-	春江町5-3-1
6-1-2-363	江戸川区	鹿骨	12	12	4	4	4	-	-	-	鹿骨2-12-1
6-1-2-364	江戸川区	南葛西	13	13	5	5	3	-	-	-	南葛西5-12-1
6-1-2-365	江戸川区	西葛西	21	21	7	7	7	-	-	-	西葛西5-10-18
6-1-2-366	江戸川区	東葛西	19	19	7	6	6	-	-	-	東葛西6-40-1
6-1-2-367	江戸川区	清新第一	17	13	5	4	4	4	-	-	清新町1-5-14
6-1-2-368	江戸川区	南葛西第二	10	10	3	3	4	-	-	-	南葛西5-3-1
6-1-2-369	江戸川区	清新第二	8	8	3	3	2	-	-	-	清新町2-1-2
6-1-2-370	八王子市	第一	14	13	5	4	4	1	-	-	石川町2957-1
6-1-2-371	八王子市	第二	8	6	2	2	2	2	-	-	中野上町4-28-1
6-1-2-372	八王子市	第四	11	7	3	2	2	4	-	-	元本郷町2-21-1
6-1-2-373	八王子市	第五	17	14	5	5	4	-	-	3	明神町4-19-1
6-1-2-374	八王子市	第六	9	9	3	3	3	-	-	-	上野町97
6-1-2-375	八王子市	第七	15	15	5	5	5	-	-	-	散田町2-2-1
6-1-2-376	八王子市	横山	13	13	4	4	5	-	-	-	散田町5-22-36
6-1-2-377	八王子市	長房	10	7	3	2	2	3	-	-	長房町1041-1
6-1-2-378	八王子市	館	3	3	1	1	1	-	-	-	館町1097-15
6-1-2-379	八王子市	元八王子	16	11	4	4	3	5	-	-	大楽寺町415
6-1-2-380	八王子市	恩方	9	9	3	3	3	-	-	-	上恩方町11
6-1-2-381	八王子市	川口	10	10	3	4	3	-	-	-	川口町2555
6-1-2-382	八王子市	加住	3	3	1	1	1	-	-	-	加住町1-191
6-1-2-383	八王子市	由井	13	12	4	4	4	1	-	-	片倉町553
6-1-2-384	八王子市	打越	18	13	5	4	4	4	1	-	打越町349-1
6-1-2-385	八王子市	浅川	12	12	4	4	4	-	-	-	初沢町1370
6-1-2-386	八王子市	由木	16	15	5	5	5	1	-	-	下柚木2-34-2
6-1-2-387	八王子市	四谷	8	8	3	2	3	-	-	-	四谷町555
6-1-2-388	八王子市	檜原	16	12	4	4	4	4	-	-	檜原町1235
6-1-2-389	八王子市	松が谷	12	11	4	4	3	1	-	-	松が谷23
6-1-2-390	八王子市	櫛田	17	16	5	5	6	1	-	-	櫛田町172
6-1-2-391	八王子市	ひよどり山	7	7	3	2	2	-	-	-	暁町3-1-1
6-1-2-392	八王子市	横川	6	6	2	2	2	-	-	-	横川町364
6-1-2-393	八王子市	中山	7	7	3	2	2	-	-	-	中山1158-1
6-1-2-394	八王子市	甲ノ原	6	6	2	2	2	-	-	-	中野町2639-2
6-1-2-395	八王子市	石川	16	16	5	6	5	-	-	-	久保山町2-55
6-1-2-396	八王子市	城山	11	11	4	3	4	-	-	-	川町792-2
6-1-2-397	八王子市	南大沢	6	6	2	2	2	-	-	-	南大沢3-7
6-1-2-398	八王子市	陵南	10	7	3	2	2	3	-	-	東浅川町553-9
6-1-2-399	八王子市	宮上	15	11	4	4	3	4	-	-	南大沢5-5
6-1-2-400	八王子市	別所	14	11	3	4	4	3	-	-	別所2-28
6-1-2-401	八王子市	上柚木	8	8	3	2	3	-	-	-	上柚木3-17
6-1-2-402	八王子市	松木	14	14	4	5	5	-	-	-	別所1-34-1

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立中学校・都立中学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）									住 所
			総数	通 常 の 学 級				特別 支援 学級	日本語 学級	夜間 学級		
				計	1 学年	2 学年	3 学年					
6-1-2-403	八王子市	みなみ野	15	15	5	5	5	-	-	-	みなみ野6-14-2	
6-1-2-404	八王子市	鏈水	8	8	3	2	3	-	-	-	鏈水2-67	
6-1-2-405	八王子市	七国	18	16	6	5	5	2	-	-	七国6-41-1	
6-1-2-406	八王子市	高尾山学園中学部	4	4	1	1	2	-	-	-	館町1097-30	
6-1-2-407	立川市	立川第一	14	11	4	4	3	3	-	-	柴崎町1-3-4	
6-1-2-408	立川市	立川第二	17	15	5	5	5	2	-	-	曙町3-29-46	
6-1-2-409	立川市	立川第三	12	12	4	4	4	-	-	-	羽衣町3-25-6	
6-1-2-410	立川市	立川第四	12	12	4	4	4	-	-	-	幸町5-49-1	
6-1-2-411	立川市	立川第五	22	18	6	6	6	4	-	-	上砂町3-27-1	
6-1-2-412	立川市	立川第六	10	10	4	3	3	-	-	-	泉町786-16	
6-1-2-413	立川市	立川第七	13	13	4	5	4	-	-	-	西砂町6-28-3	
6-1-2-414	立川市	立川第八	6	6	2	2	2	-	-	-	富士見町7-24-1	
6-1-2-415	立川市	立川第九	10	10	4	3	3	-	-	-	若葉町3-19-5	
6-1-2-416	武蔵野市	第一	10	9	3	3	3	1	-	-	中町3-9-5	
6-1-2-417	武蔵野市	第二	12	12	4	4	4	-	-	-	桜堤1-7-31	
6-1-2-418	武蔵野市	第三	9	9	3	3	3	-	-	-	吉祥寺東町1-23-8	
6-1-2-419	武蔵野市	第四	17	12	4	4	4	5	-	-	吉祥寺北町5-11-41	
6-1-2-420	武蔵野市	第五	6	6	2	2	2	-	-	-	関前2-10-20	
6-1-2-421	武蔵野市	第六	8	7	2	3	2	1	-	-	境3-20-10	
6-1-2-422	三鷹市	第一	23	21	7	7	7	2	-	-	下連雀9-10-1	
6-1-2-423	三鷹市	第二	17	17	6	6	5	-	-	-	野崎3-14-1	
6-1-2-424	三鷹市	第三	16	14	5	5	4	2	-	-	牟礼4-13-8	
6-1-2-425	三鷹市	第四	12	10	4	3	3	2	-	-	上連雀4-18-7	
6-1-2-426	三鷹市	第五	14	11	4	4	3	3	-	-	新川1-7-20	
6-1-2-427	三鷹市	第六	15	15	5	5	5	-	-	-	新川2-12-17	
6-1-2-428	三鷹市	第七	11	8	3	3	2	3	-	-	大沢2-11-12	
6-1-2-429	青梅市	第一	11	8	3	2	3	3	-	-	裏宿町615	
6-1-2-430	青梅市	第二	17	13	5	4	4	4	-	-	千ヶ瀬町2-155	
6-1-2-431	青梅市	第三	15	15	5	5	5	-	-	-	大門2-301	
6-1-2-432	青梅市	西	9	9	3	3	3	-	-	-	梅郷6-1460-1	
6-1-2-433	青梅市	第六	3	3	1	1	1	-	-	-	小曾木4-2040	
6-1-2-434	青梅市	第七	3	3	1	1	1	-	-	-	成木4-544-2	
6-1-2-435	青梅市	霞台	17	10	4	3	3	7	-	-	師岡町4-6-1	
6-1-2-436	青梅市	吹上	9	6	2	2	2	3	-	-	吹上1	
6-1-2-437	青梅市	新町	13	13	4	5	4	-	-	-	新町5-20-1	
6-1-2-438	青梅市	泉	17	12	4	4	4	5	-	-	新町1-37	
6-1-2-439	青梅市	東	3	3	1	1	1	-	-	-	新町3-72-1	
6-1-2-440	府中市	府中第一	20	15	5	5	5	5	-	-	幸町1-22	
6-1-2-441	府中市	府中第二	21	17	6	6	5	4	-	-	紅葉丘1-23	
6-1-2-442	府中市	府中第三	18	18	6	6	6	-	-	-	本町4-16	
6-1-2-443	府中市	府中第四	22	17	6	5	6	5	-	-	美好町2-13	
6-1-2-444	府中市	府中第五	13	13	5	4	4	-	-	-	新町2-44	
6-1-2-445	府中市	府中第六	18	18	6	6	6	-	-	-	押立町1-2	
6-1-2-446	府中市	府中第七	6	6	2	2	2	-	-	-	武蔵台2-4	
6-1-2-447	府中市	府中第八	21	21	7	7	7	-	-	-	四谷1-2827	
6-1-2-448	府中市	府中第九	14	14	4	5	5	-	-	-	小柳町2-49	
6-1-2-449	府中市	府中第十	10	10	4	3	3	-	-	-	西府町4-21	
6-1-2-450	府中市	浅間	16	16	6	5	5	-	-	-	浅間町1-1	
6-1-2-451	昭島市	昭和	13	9	3	3	3	4	-	-	東町2-6-22	
6-1-2-452	昭島市	清泉	19	16	6	5	5	3	-	-	宮沢町1-9-1	
6-1-2-453	昭島市	拝島	18	18	6	6	6	-	-	-	緑町2-2-12	
6-1-2-454	昭島市	多摩辺	12	9	3	3	3	3	-	-	拝島町4-6-30	
6-1-2-455	昭島市	福島	8	8	2	3	3	-	-	-	福島町3-20-1	
6-1-2-456	昭島市	瑞雲	12	12	5	3	4	-	-	-	つつじが丘2-2-6	
6-1-2-457	調布市	調布	19	16	6	5	5	3	-	-	富士見町4-17-1	
6-1-2-458	調布市	神代	29	26	10	8	8	3	-	-	佐須町5-26-1	
6-1-2-459	調布市	第三	22	18	7	6	5	4	-	-	染地3-2-7	
6-1-2-460	調布市	第四	11	11	4	4	3	-	-	-	若葉町3-15-1	
6-1-2-461	調布市	第五	20	20	7	7	6	-	-	-	上石原3-27-1	
6-1-2-462	調布市	第六	10	10	4	3	3	-	-	-	国領町3-8-23	
6-1-2-463	調布市	第七	16	16	6	5	5	-	-	-	八雲台2-16-1	
6-1-2-464	調布市	第八	8	8	3	3	2	-	-	-	仙川町2-15-2	
6-1-2-465	町田市	町田第一	25	20	7	7	6	5	-	-	中町1-27-5	
6-1-2-466	町田市	町田第二	14	13	5	4	4	1	-	-	南大谷1327	
6-1-2-467	町田市	町田第三	10	10	4	3	3	-	-	-	本町田1853	
6-1-2-468	町田市	南	21	19	7	6	6	2	-	-	金森3-27-1	
6-1-2-469	町田市	薬師	12	9	3	3	3	3	-	-	金井1-20-1	

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立中学校・都立中学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）								住 所
			総数	通 常 の 学 級			特別 支援 学級	日本語 学級	夜間 学級		
				計	1 学年	2 学年				3 学年	
6-1-2-470	町田市	鶴川	20	17	6	5	6	3	-	-	小野路町1905-1
6-1-2-471	町田市	忠生	24	18	6	6	6	6	-	-	忠生3-14-1
6-1-2-472	町田市	堺	19	16	6	5	5	3	-	-	相原町752
6-1-2-473	町田市	鶴川第二	22	22	8	7	7	-	-	-	鶴川6-4
6-1-2-474	町田市	南大谷	19	15	5	5	5	4	-	-	南大谷985-1
6-1-2-475	町田市	つくし野	23	20	7	6	7	3	-	-	南つくし野2-14-2
6-1-2-476	町田市	成瀬台	14	12	4	4	4	2	-	-	成瀬台2-5-1
6-1-2-477	町田市	山崎	15	11	4	4	3	4	-	-	山崎町1445
6-1-2-478	町田市	真光寺	9	9	3	3	3	-	-	-	真光寺3-8-1
6-1-2-479	町田市	南成瀬	14	14	5	5	4	-	-	-	南成瀬7-7-1
6-1-2-480	町田市	武蔵岡	3	3	1	1	1	-	-	-	相原町3865
6-1-2-481	町田市	木曽	10	10	4	3	3	-	-	-	木曽西2-4-9
6-1-2-482	町田市	小山田	13	13	5	4	4	-	-	-	小山田桜台1-12
6-1-2-483	町田市	金井	14	14	5	5	4	-	-	-	金井6-15-1
6-1-2-484	町田市	小山	24	24	7	8	9	-	-	-	小山ヶ丘1-2-4
6-1-2-485	小金井市	小金井第一	17	13	5	4	4	4	-	-	桜町2-3-15
6-1-2-486	小金井市	小金井第二	14	12	4	4	4	2	-	-	中町1-8-25
6-1-2-487	小金井市	東	9	9	3	3	3	-	-	-	東町1-5-33
6-1-2-488	小金井市	緑	16	16	6	5	5	-	-	-	緑町2-11-47
6-1-2-489	小金井市	南	11	11	4	3	4	-	-	-	貫井南町1-26-1
6-1-2-490	小平市	小平第一	15	13	5	4	4	2	-	-	仲町506
6-1-2-491	小平市	小平第二	19	16	6	5	5	3	-	-	小川東町1-17-1
6-1-2-492	小平市	小平第三	17	16	6	5	5	1	-	-	鈴木町1-311
6-1-2-493	小平市	小平第四	16	16	6	5	5	-	-	-	学園西町1-3-1
6-1-2-494	小平市	小平第五	19	17	7	5	5	2	-	-	小川町1-798
6-1-2-495	小平市	小平第六	18	18	6	6	6	-	-	-	大沼町6-4-1
6-1-2-496	小平市	上水	9	9	3	3	3	-	-	-	上水南町1-7-1
6-1-2-497	小平市	花小金井南	17	14	5	4	5	3	-	-	花小金井南町1-9-1
6-1-2-498	日野市	日野第一	18	18	6	6	6	-	-	-	日野本町7-7-7
6-1-2-499	日野市	日野第二	18	13	5	4	4	5	-	-	多摩平4-5-2
6-1-2-500	日野市	七生	16	13	4	4	5	3	-	-	南平6-7-1
6-1-2-501	日野市	日野第三	11	8	3	3	2	3	-	-	程久保650
6-1-2-502	日野市	日野第四	18	18	6	6	6	-	-	-	旭が丘2-42
6-1-2-503	日野市	三沢	20	20	6	7	7	-	-	-	三沢1-17-4
6-1-2-504	日野市	大坂上	20	16	6	5	5	4	-	-	大坂上4-17-1
6-1-2-505	日野市	平山	11	9	4	3	2	2	-	-	平山4-21-3
6-1-2-506	東村山市	東村山第一	16	11	4	3	4	5	-	-	富士見町1-5-2
6-1-2-507	東村山市	東村山第二	22	19	7	6	6	3	-	-	久米川町2-4-1
6-1-2-508	東村山市	東村山第三	15	15	5	5	5	-	-	-	萩山町5-2-1
6-1-2-509	東村山市	東村山第三萩山分校	3	3	1	1	1	-	-	-	萩山町1-37-1
6-1-2-510	東村山市	東村山第四	13	13	5	4	4	-	-	-	野口町3-24-1
6-1-2-511	東村山市	東村山第五	17	17	6	6	5	-	-	-	恩多町4-38-1
6-1-2-512	東村山市	東村山第六	13	13	5	4	4	-	-	-	秋津町2-29-14
6-1-2-513	東村山市	東村山第七	13	13	5	4	4	-	-	-	美住町2-23-1
6-1-2-514	国分寺市	第一	18	18	6	6	6	-	-	-	東戸倉2-6
6-1-2-515	国分寺市	第二	17	10	4	3	3	7	-	-	本多1-2-17
6-1-2-516	国分寺市	第三	17	14	5	4	5	3	-	-	高木町2-11
6-1-2-517	国分寺市	第四	12	12	4	4	4	-	-	-	西元町3-10-7
6-1-2-518	国分寺市	第五	13	13	4	5	4	-	-	-	並木町2-15
6-1-2-519	国立市	国立第一	16	13	4	5	4	3	-	-	東4-24-1
6-1-2-520	国立市	国立第二	17	15	5	5	5	2	-	-	富士見台3-30
6-1-2-521	国立市	国立第三	12	11	4	3	4	1	-	-	谷保1348-1
6-1-2-522	福生市	福生第一	20	15	5	5	5	5	-	-	熊川845
6-1-2-523	福生市	福生第二	13	12	4	4	4	-	1	-	加美平1-22-1
6-1-2-524	福生市	福生第三	6	6	2	2	2	-	-	-	南田園3-1-1
6-1-2-525	狛江市	狛江第一	14	12	4	4	4	2	-	-	和泉本町2-15-1
6-1-2-526	狛江市	狛江第二	12	12	4	4	4	-	-	-	猪方2-7-1
6-1-2-527	狛江市	狛江第三	10	9	3	3	3	1	-	-	元和泉1-23-1
6-1-2-528	狛江市	狛江第四	9	9	3	3	3	-	-	-	東野川4-1-1
6-1-2-529	東大和市	第一	14	12	4	4	4	2	-	-	奈良橋3-530
6-1-2-530	東大和市	第二	10	10	4	3	3	-	-	-	南街3-60-4
6-1-2-531	東大和市	第三	13	13	5	4	4	-	-	-	仲原2-7
6-1-2-532	東大和市	第四	14	14	5	5	4	-	-	-	立野2-6-2
6-1-2-533	東大和市	第五	13	9	3	3	3	4	-	-	芋窪5-1119
6-1-2-534	清瀬市	清瀬	16	10	3	3	4	6	-	-	中里5-624
6-1-2-535	清瀬市	清瀬第二	15	15	5	5	5	-	-	-	梅園2-9-15
6-1-2-536	清瀬市	清瀬第三	10	10	4	3	3	-	-	-	旭が丘1-262

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立中学校・都立中学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）								住 所
			総数	通 常 の 学 級			特別 支援 学級	日本語 学級	夜間 学級		
				計	1 学年	2 学年				3 学年	
6-1-2-537	清瀬市	清瀬第四	9	9	3	3	3	-	-	-	野塩3-2-3
6-1-2-538	清瀬市	清瀬第五	9	9	3	3	3	-	-	-	中清戸3-258-1
6-1-2-539	東久留米市	久留米	14	13	4	4	5	1	-	-	幸町5-9-11
6-1-2-540	東久留米市	東	7	6	2	2	2	1	-	-	上の原2-1-40
6-1-2-541	東久留米市	西	16	13	4	4	5	3	-	-	滝山2-3-23
6-1-2-542	東久留米市	南	13	13	5	4	4	-	-	-	学園町2-1-23
6-1-2-543	東久留米市	大門	9	9	3	3	3	-	-	-	大門町2-13-8
6-1-2-544	東久留米市	下里	9	9	3	3	3	-	-	-	下里3-21-1
6-1-2-545	東久留米市	中央	12	10	3	4	3	2	-	-	中央町5-7-65
6-1-2-546	武蔵村山市	第一	19	16	6	5	5	3	-	-	本町2-76-1
6-1-2-547	武蔵村山市	第二	16	6	2	2	2	10	-	-	緑が丘1460
6-1-2-548	武蔵村山市	第三	11	11	4	4	3	-	-	-	神明4-117-1
6-1-2-549	武蔵村山市	第四	12	12	4	4	4	-	-	-	大南2-79-1
6-1-2-550	武蔵村山市	第五	17	17	6	6	5	-	-	-	残堀5-55
6-1-2-551	多摩市	多摩	17	12	4	4	4	5	-	-	関戸3-19-1
6-1-2-552	多摩市	東愛宕	7	7	2	3	2	-	-	-	愛宕1-52
6-1-2-553	多摩市	和田	14	12	4	4	4	2	-	-	和田234
6-1-2-554	多摩市	諏訪	11	9	4	3	2	2	-	-	諏訪5-12-1
6-1-2-555	多摩市	聖ヶ丘	9	9	3	3	3	-	-	-	聖ヶ丘2-17
6-1-2-556	多摩市	鶴牧	14	14	5	4	5	-	-	-	鶴牧6-5-1
6-1-2-557	多摩市	多摩永山	9	9	3	3	3	-	-	-	永山2-7-1
6-1-2-558	多摩市	落合	14	11	4	4	3	3	-	-	落合4-14
6-1-2-559	多摩市	青陵	13	9	3	3	3	4	-	-	貝取2-9-1
6-1-2-560	稲城市	稲城第一	14	11	4	4	3	3	-	-	百村23
6-1-2-561	稲城市	稲城第二	9	9	3	3	3	-	-	-	坂浜1340
6-1-2-562	稲城市	稲城第三	16	16	6	5	5	-	-	-	矢野口3043
6-1-2-563	稲城市	稲城第四	7	7	2	2	3	-	-	-	押立1768
6-1-2-564	稲城市	稲城第五	17	14	5	5	4	3	-	-	向陽台3-1-1
6-1-2-565	稲城市	稲城第六	11	11	3	4	4	-	-	-	若葉台3-11
6-1-2-566	羽村市	羽村第一	19	16	5	6	5	3	-	-	羽中3-6-33
6-1-2-567	羽村市	羽村第二	14	14	5	4	5	-	-	-	富士見平1-16
6-1-2-568	羽村市	羽村第三	12	9	3	3	3	3	-	-	川崎697-1
6-1-2-569	あきる野市	秋多	13	13	5	4	4	-	-	-	二宮334
6-1-2-570	あきる野市	東	23	18	6	6	6	5	-	-	平沢200
6-1-2-571	あきる野市	西	12	9	3	3	3	3	-	-	上代継190
6-1-2-572	あきる野市	御堂	9	9	3	3	3	-	-	-	草花3322
6-1-2-573	あきる野市	増戸	7	7	2	2	3	-	-	-	伊奈1181
6-1-2-574	あきる野市	五日市	9	6	2	2	2	3	-	-	五日市400
6-1-2-575	西東京市	田無第一	23	17	6	5	6	6	-	-	南町6-9-37
6-1-2-576	西東京市	田無第二	13	13	4	4	5	-	-	-	北原町2-9-1
6-1-2-577	西東京市	田無第三	12	12	4	4	4	-	-	-	西原町3-4-1
6-1-2-578	西東京市	田無第四	16	16	6	5	5	-	-	-	向台町2-14-9
6-1-2-579	西東京市	保谷	22	15	5	5	5	7	-	-	保谷町1-17-4
6-1-2-580	西東京市	ひばりが丘	12	12	5	4	3	-	-	-	ひばりが丘3-2-42
6-1-2-581	西東京市	青嵐	17	13	5	4	4	4	-	-	北町2-13-17
6-1-2-582	西東京市	柳沢	7	7	3	2	2	-	-	-	柳沢3-8-22
6-1-2-583	西東京市	明保	12	12	5	4	3	-	-	-	東町1-1-24
6-1-2-584	瑞穂町	瑞穂	14	12	4	4	4	2	-	-	石畑1961-1
6-1-2-585	瑞穂町	瑞穂第二	9	9	3	3	3	-	-	-	箱根ヶ崎1172
6-1-2-586	日の出町	大久野	8	6	2	2	2	2	-	-	大久野1559
6-1-2-587	日の出町	平井	10	10	4	3	3	-	-	-	平井2654
6-1-2-588	檜原村	檜原	4	3	1	1	1	1	-	-	檜原村575
6-1-2-589	奥多摩町	奥多摩	5	3	1	1	1	2	-	-	氷川760
6-1-2-590	大島町	第一	5	3	1	1	1	2	-	-	元町字小清水
6-1-2-591	大島町	第二	3	3	1	1	1	-	-	-	岡田字長坂
6-1-2-592	大島町	第三	3	3	1	1	1	-	-	-	差木地字沖の根
6-1-2-593	利島村	利島	2	2	1	-	1	-	-	-	利島村87
6-1-2-594	新島村	新島	3	3	1	1	1	-	-	-	本村4-10-12
6-1-2-595	新島村	式根島	3	3	1	1	1	-	-	-	式根島166
6-1-2-596	神津島村	神津	4	3	1	1	1	1	-	-	神津島村1741
6-1-2-597	三宅村	三宅	3	3	1	1	1	-	-	-	伊豆470
6-1-2-598	御蔵島村	御蔵島	3	3	1	1	1	-	-	-	御蔵島村
6-1-2-599	八丈町	富士	3	3	1	1	1	-	-	-	三根4655-1
6-1-2-600	八丈町	大賀郷	6	3	1	1	1	3	-	-	大賀郷3073
6-1-2-601	八丈町	三原	3	3	1	1	1	-	-	-	中之郷2474
6-1-2-602	青ヶ島村	青ヶ島	1	1	-	-	1	-	-	-	青ヶ島村無番地
6-1-2-603	小笠原村	小笠原	3	3	1	1	1	-	-	-	父島字宮之浜道

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 区市町村立中学校・都立中学校

No.	設置者	学校名	学 級 数 （ 通 級 指 導 学 級 を 含 む 。 ）								住 所
			総数	通 常 の 学 級			特別 支援 学級	日本語 学級	夜間 学級		
				計	1 学年	2 学年				3 学年	
6-1-2-604	小笠原村	母島	3	3	1	1	1	-	-	-	母島字元地
6-1-2-605	東京都	白鷗高等学校附属	12	12	4	4	4	-	-	-	台東区元浅草3-12-12
6-1-2-606	東京都	両国高等学校附属	9	9	3	3	3	-	-	-	墨田区江東橋1-7-14
6-1-2-607	東京都	武蔵高等学校附属	10	10	4	3	3	-	-	-	武蔵野市境4-13-28
6-1-2-608	東京都	富士高等学校附属	10	10	4	3	3	-	-	-	中野区弥生町5-21-1
6-1-2-609	東京都	大泉高等学校附属	9	9	3	3	3	-	-	-	練馬区東大泉5-3-1
合計			7 398	6 677	2 327	2 186	2 164	670	28	23	

※都内公立学校数は、令和4年（2022年）4月現在の数となる。

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 都立高等学校

No.	所 在 地 区 市 町 村	学 校 名	全 日 制						定 時 制 等							住 所
			学 科		学 級 数				学 科		学 級 数					
			大	小 学 科 名	計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	大	小 学 科 名	計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	
6-1-2-001	千代田区	一橋	-	-	-	-	-	-	普	普通科1部（単位制）	12	3	3	3	3	東神田1-12-13
			-	-	-	-	-	-	普	普通科2部（単位制）	12	3	3	3	3	
			-	-	-	-	-	-	普	普通科3部（単位制）	8	2	2	2	2	
			-	-	-	-	-	-	通	通信制本科	14	4	5	5	-	
			-	-	-	-	-	-	通	通信制併修	-	-	-	-	-	
6-1-2-002	千代田区	日比谷	普	普通科	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	永田町2-16-1	
6-1-2-003	港区	三田	普	普通科	21	7	7	7	-	-	-	-	-	-	三田1-4-46	
6-1-2-004	品川区	大崎	普	普通科	21	7	7	7	普	普通科	4	1	1	1	1	豊町2-1-7
6-1-2-005	品川区	八潮	普	普通科	19	6	6	7	-	-	-	-	-	-	-	東品川3-27-22
6-1-2-006	品川区	小山台	普	普通科	24	8	8	8	普	普通科	4	1	1	1	1	小山3-3-32
6-1-2-007	大田区	雪谷	普	普通科	21	7	7	7	-	-	-	-	-	-	-	久が原1-14-1
6-1-2-008	大田区	大森	普	普通科	16	5	5	6	普	普通科	4	1	1	1	1	西蒲田2-2-1
6-1-2-009	大田区	田園調布	普	普通科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	田園調布南27-1
6-1-2-010	大田区	蒲田	普	普通科	13	4	4	5	-	-	-	-	-	-	-	蒲田本町1-1-30
6-1-2-011	大田区	つばさ総合	総	総合学科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	本羽田3-11-5
6-1-2-012	港区	六本木	-	-	-	-	-	-	総	総合学科1部	8	2	2	2	2	六本木6-16-36
			-	-	-	-	-	-	総	総合学科2部	8	2	2	2	2	
			-	-	-	-	-	-	総	総合学科3部	8	2	2	2	2	
6-1-2-013	大田区	六郷工科	工	オートモビル工学科（単位制）	3	1	1	1	普	普通科（単位制）	4	1	1	1	1	東六郷2-18-2
			工	デザイン工学科（単位制）	3	1	1	1	工	生産工学科（単位制）	4	1	1	1	1	
			工	システム工学科（単位制）	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
			工	プロダクト工学科（単位制）	5	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-	
			工	デュアルシステム科（単位制）	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
6-1-2-014	大田区	美原	普	普通科（単位制）	17	5	6	6	-	-	-	-	-	-	-	大森東1-33-1
6-1-2-015	港区	芝商業	商	ビジネス科	17	5	6	6	-	-	-	-	-	-	-	海岸1-8-25
6-1-2-016	大田区	大田桜台	商	ビジネスコミュニケーション科	16	5	5	6	-	-	-	-	-	-	-	中馬込3-11-10
6-1-2-017	新宿区	戸山	普	普通科	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	戸山3-19-1
6-1-2-018	目黒区	駒場	普	普通科	21	7	7	7	-	-	-	-	-	-	-	大橋2-18-1
			他	保健体育科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
6-1-2-019	目黒区	目黒	普	普通科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	祐天寺2-7-15
6-1-2-020	新宿区	新宿	普	普通科（単位制）	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	内藤町11-4
6-1-2-021	渋谷区	青山	普	普通科	21	7	7	7	-	-	-	-	-	-	-	神宮前2-1-8
6-1-2-022	渋谷区	広尾	普	普通科	16	5	5	6	-	-	-	-	-	-	-	東4-14-14
6-1-2-023	世田谷区	松原	普	普通科	15	5	5	5	普	普通科	4	1	1	1	1	桜上水4-3-5
6-1-2-024	世田谷区	桜町	普	普通科	24	8	8	8	普	普通科	4	1	1	1	1	用賀2-4-1
6-1-2-025	世田谷区	千歳丘	普	普通科	20	6	7	7	-	-	-	-	-	-	-	船橋3-18-1
6-1-2-026	世田谷区	深沢	普	普通科	15	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	深沢7-3-14
6-1-2-027	世田谷区	世田谷泉	-	-	-	-	-	-	総	総合学科1部	8	2	2	2	2	北烏山9-22-1
			-	-	-	-	-	-	総	総合学科2部	8	2	2	2	2	
			-	-	-	-	-	-	総	総合学科3部	8	2	2	2	2	
6-1-2-028	世田谷区	世田谷総合	総	総合学科	16	5	5	6	-	-	-	-	-	-	-	岡本2-9-1
6-1-2-029	新宿区	新宿山吹	-	-	-	-	-	-	普	普通科1部（単位制）	4	1	1	1	1	山吹町81
			-	-	-	-	-	-	普	普通科2部（単位制）	4	1	1	1	1	
			-	-	-	-	-	-	普	普通科3部（単位制）	4	1	1	1	1	
			-	-	-	-	-	-	普	普通科4部（単位制）	4	1	1	1	1	
			-	-	-	-	-	-	情	情報科2部（単位制）	4	1	1	1	1	
			-	-	-	-	-	-	情	情報科4部（単位制）	4	1	1	1	1	
			-	-	-	-	-	-	通	通信制本科	8	2	2	2	2	
			-	-	-	-	-	-	通	通信制併修	-	-	-	-	-	
6-1-2-030	世田谷区	芦花	普	普通科（単位制）	21	7	7	7	-	-	-	-	-	-	粕谷3-8-1	
6-1-2-031	渋谷区	第一商業	商	ビジネス科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	鉢山町8-1
6-1-2-032	世田谷区	総合工科	工	機械・自動車科	5	1	2	2	工	総合技術科	4	1	1	1	1	成城9-25-1
			工	電気・情報デザイン科	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	
			工	建築・都市工学科	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	
6-1-2-033	世田谷区	園芸	農	園芸科	6	2	2	2	農	園芸科	4	1	1	1	1	深沢5-38-1

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 都立高等学校

No.	所 在 地 区市町村	学 校 名	全 日 制						定 時 制 等								住 所	
			学 科		学 級 数				学 科		学 級 数							
			大	小 学 科 名	計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	大	小 学 科 名	計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年			
6-1-2-034	目黒区	国際	農	食品科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	駒場2-19-59	
			農	動物科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-		
			他	国際学科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-		
6-1-2-035	新宿区	総合芸術	他	美術科（単位制）	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	富久町22-1	
			他	音楽科（単位制）	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-		
			他	舞台表現科（単位制）	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-		
6-1-2-036	中野区	鷺宮	普	普通科	21	7	7	7	-	-	-	-	-	-	-	-	若宮3-46-8	
6-1-2-037	中野区	富士	普	普通科	13	3	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	弥生町5-21-1	
6-1-2-038	中野区	武蔵丘	普	普通科	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	-	上鷺宮2-14-1	
6-1-2-039	杉並区	荻窪	-	-	-	-	-	-	普	普通科1部（単位制）	12	3	3	3	3	3	荻窪5-7-20	
			-	-	-	-	-	-	普	普通科2部（単位制）	12	3	3	3	3	3		
			-	-	-	-	-	-	普	普通科3部（単位制）	8	2	2	2	2	2		
6-1-2-040	杉並区	西	普	普通科	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	-	宮前4-21-32	
6-1-2-041	杉並区	豊多摩	普	普通科	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	-	成田西2-6-18	
6-1-2-042	杉並区	杉並	普	普通科	23	7	8	8	-	-	-	-	-	-	-	-	成田西4-15-15	
6-1-2-043	練馬区	石神井	普	普通科	21	7	7	7	-	-	-	-	-	-	-	-	関町北4-32-48	
6-1-2-044	練馬区	井草	普	普通科	21	7	7	7	-	-	-	-	-	-	-	-	上石神井2-2-43	
6-1-2-045	練馬区	大泉	普	普通科	15	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	東大泉5-3-1	
6-1-2-046	練馬区	練馬	普	普通科	20	6	7	7	-	-	-	-	-	-	-	-	春日町4-28-25	
6-1-2-047	練馬区	光丘	普	普通科	19	6	6	7	-	-	-	-	-	-	-	-	旭町2-1-35	
6-1-2-048	練馬区	田柄	普	外国文化コース	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	光が丘2-3-1	
			普	普通科	9	3	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-		
6-1-2-049	杉並区	杉並総合	総	総合学科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-	下高井戸5-17-1	
6-1-2-050	中野区	稔ヶ丘	-	-	-	-	-	-	総	総合学科1部	12	3	3	3	3	3	上鷺宮5-11-1	
			-	-	-	-	-	-	総	総合学科2部	12	3	3	3	3	3		
			-	-	-	-	-	-	総	総合学科3部	7	2	2	2	2	1		
6-1-2-051	練馬区	大泉桜	普	普通科（単位制）	16	5	5	6	-	-	-	-	-	-	-	-	大泉町3-5-7	
6-1-2-052	練馬区	第四商業	商	ビジネス科	17	5	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-	貫井3-45-19	
6-1-2-053	中野区	中野工業	工	キャリア技術科	13	4	4	5	工	総合技術科	4	1	1	1	1	1	野方3-5-5	
6-1-2-054	杉並区	杉並工業	工	機械科	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	上井草4-13-31
			工	電子科	5	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			工	理工環境科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			工	キャリア技術科	15	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
6-1-2-055	練馬区	練馬工業	工	キャリア技術科	15	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	早宮2-9-18	
6-1-2-056	杉並区	農芸	農	園芸科学科	3	1	1	1	農	農芸科	4	1	1	1	1	1	今川3-25-1	
			農	緑地環境科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			農	食品科学科	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
6-1-2-057	文京区	竹早	普	普通科	19	6	6	7	-	-	-	-	-	-	-	-	小石川4-2-1	
6-1-2-058	文京区	向丘	普	普通科	21	7	7	7	-	-	-	-	-	-	-	-	向丘1-11-18	
6-1-2-059	豊島区	豊島	普	普通科	21	7	7	7	普	普通科	4	1	1	1	1	1	千早4-9-21	
6-1-2-060	豊島区	文京	普	普通科	27	9	9	9	-	-	-	-	-	-	-	-	西巢鴨1-1-5	
6-1-2-061	板橋区	北園	普	普通科	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	-	板橋4-14-1	
6-1-2-062	板橋区	板橋	普	普通科	21	7	7	7	-	-	-	-	-	-	-	-	大谷口1-54-1	
6-1-2-063	板橋区	大山	普	普通科	16	5	5	6	普	普通科	4	1	1	1	1	1	小茂根5-18-1	
6-1-2-064	板橋区	高島	普	普通科	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	-	高島平3-7-1	
6-1-2-065	北区	桐ヶ丘	-	-	-	-	-	-	総	総合学科1部	8	2	2	2	2	2	赤羽北3-5-22	
			-	-	-	-	-	-	総	総合学科2部	8	2	2	2	2	2		
			-	-	-	-	-	-	総	総合学科3部	8	2	2	2	2	2		
6-1-2-066	北区	王子総合	総	総合学科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-	滝野川3-54-7	
6-1-2-067	北区	飛鳥	普	普通科（単位制）	17	5	6	6	普	普通科（単位制）	7	2	2	2	2	1	王子6-8-8	
6-1-2-068	板橋区	板橋有徳	普	普通科（単位制）	16	5	5	6	普	普通科（単位制）	4	1	1	1	1	1	徳丸2-17-1	
6-1-2-069	豊島区	千早	商	ビジネスコミュニケーション科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-	千早3-46-21	
6-1-2-070	文京区	工芸	工	マシクラフト科	3	1	1	1	工	マシクラフト科	4	1	1	1	1	1	本郷1-3-9	
			工	インテリア科	3	1	1	1	1	工	インテリア科	4	1	1	1	1	1	
			工	デザイン科	3	1	1	1	1	工	グラフィックアーツ科	4	1	1	1	1	1	
			工	グラフィックアーツ科	3	1	1	1	1	工	アートクラフト科	4	1	1	1	1	1	

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 都立高等学校

No.	所 在 地 区 市 町 村	学 校 名	全 日 制						定 時 制 等								住 所
			学 科		学 級 数				学 科		学 級 数						
			大	小 学 科 名	計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	大	小 学 科 名	計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年		
6-1-2-071	板橋区	北豊島工業	工	アートクラフト科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	富士見町28-1	
6-1-2-072	北区	赤羽北桜	工	総合技術科	13	4	4	5	工	機械科	4	1	1	1	1	西が丘3-14-20	
			家	調理科	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
			家	保育・栄養科	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
			福	介護・福祉科	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
6-1-2-073	台東区	白鷗	普	普通科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	元浅草1-6-22	
6-1-2-074	台東区	忍岡	普	普通科（単位制）	12	4	4	4	-	-	-	-	-	-	-	浅草橋5-1-24	
			家	生活科学科（単位制）	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-		
6-1-2-075	台東区	上野	普	普通科	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	上野公園10-14	
6-1-2-076	荒川区	竹台	普	普通科	16	5	5	6	-	-	-	-	-	-	-	東日暮里5-14-1	
6-1-2-077	足立区	足立	普	普通科	21	7	7	7	普	普通科	7	1	2	2	2	中央本町1-3-9	
			-	-	-	-	-	-	商	商業科	4	1	1	1	1		
6-1-2-078	足立区	江北	普	普通科	24	8	8	8	普	普通科	1	-	-	-	-	西綾瀬4-14-30	
6-1-2-079	足立区	淵江	普	普通科	17	5	6	6	-	-	-	-	-	-	-	東保木間2-10-1	
6-1-2-080	足立区	足立西	普	普通科	15	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	江北5-7-1	
6-1-2-081	足立区	足立東	普	普通科	13	4	4	5	-	-	-	-	-	-	-	大谷田2-3-5	
6-1-2-082	足立区	青井	普	普通科	17	5	6	6	-	-	-	-	-	-	-	青井1-7-35	
6-1-2-083	足立区	足立新田	普	普通科	20	6	7	7	-	-	-	-	-	-	-	新田2-10-16	
6-1-2-084	中央区	晴海総合	総	総合学科	21	7	7	7	-	-	-	-	-	-	-	晴海1-2-1	
6-1-2-085	台東区	浅草	-	-	-	-	-	-	普	普通科1部（単位制）	12	3	3	3	3	今戸1-8-13	
			-	-	-	-	-	-	普	普通科2部（単位制）	12	3	3	3	3		
			-	-	-	-	-	-	普	普通科3部（単位制）	8	2	2	2	2		
6-1-2-086	足立区	荒川商業	商	総合ビジネス科	6	-	-	6	商	商業科	1	-	-	-	-	小台2-1-31	
6-1-2-087	台東区	蔵前工業	工	機械科	6	2	2	2	工	建築工学科	4	1	1	1	1	蔵前1-3-57	
			工	電気科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-		
			工	建築科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-		
			工	設備工業科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-		
6-1-2-088	荒川区	荒川工業	工	電気科	5	1	2	2	工	電気科	4	1	1	1	1	南千住6-42-1	
			工	電子科	3	1	1	1	工	電子科	(併)	(併)	(併)	(併)	(併)		
			工	情報技術科	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-		
6-1-2-089	足立区	足立工業	工	総合技術科	14	4	5	5	-	-	-	-	-	-	-	西新井4-30-1	
6-1-2-090	墨田区	両国	普	普通科	15	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	江東橋1-7-14	
6-1-2-091	墨田区	墨田川	普	普通科（単位制）	23	7	8	8	-	-	-	-	-	-	-	東向島3-34-14	
6-1-2-092	墨田区	本所	普	普通科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	向島3-37-25	
6-1-2-093	葛飾区	葛飾野	普	普通科	23	7	8	8	-	-	-	-	-	-	-	亀有1-7-1	
6-1-2-094	葛飾区	南葛飾	普	普通科	18	6	6	6	普	普通科	8	2	2	2	2	立石6-4-1	
6-1-2-095	墨田区	日本橋	普	普通科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	八広1-28-21	
6-1-2-096	江東区	深川	普	外国語コース	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	東陽5-32-19	
			普	普通科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-		
6-1-2-097	江東区	東	普	普通科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	東砂7-19-24	
6-1-2-098	江東区	城東	普	普通科	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	大島3-22-1	
6-1-2-099	江戸川区	小松川	普	普通科	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	平井1-27-10	
6-1-2-100	江戸川区	江戸川	普	普通科	24	8	8	8	普	普通科	7	2	2	2	2	1 松島2-38-1	
6-1-2-101	江戸川区	小岩	普	普通科	27	9	9	9	-	-	-	-	-	-	-	本一色3-10-1	
6-1-2-102	江戸川区	葛西南	普	普通科	19	6	6	7	普	普通科	4	1	1	1	1	1 南葛西1-11-1	
6-1-2-103	江戸川区	篠崎	普	普通科	21	7	7	7	-	-	-	-	-	-	-	東篠崎1-10-1	
6-1-2-104	江戸川区	紅葉川	普	普通科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	臨海町2-1-1	
6-1-2-105	江東区	大江戸	-	-	-	-	-	-	総	総合学科1部	8	2	2	2	2	2 千石3-2-11	
			-	-	-	-	-	-	総	総合学科2部	8	2	2	2	2		
			-	-	-	-	-	-	総	総合学科3部	8	2	2	2	2		
6-1-2-106	葛飾区	葛飾総合	総	総合学科	17	5	6	6	-	-	-	-	-	-	-	南水元4-21-1	
6-1-2-107	葛飾区	葛飾商業	商	ビジネス科	18	6	6	6	普	普通科	4	1	1	1	1	1 新宿3-14-1	
			-	-	-	-	-	-	商	商業科	4	1	1	1	1		
6-1-2-108	江東区	江東商業	商	ビジネス科	15	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	亀戸4-50-1	
6-1-2-109	江東区	第三商業	商	ビジネス科	17	5	6	6	商	商業科	4	1	1	1	1	1 越中島3-3-1	

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 都立高等学校

No.	所在地 区市町村	学校名	全 日 制						定 時 制 等								住 所
			学 科		学 級 数				学 科		学 級 数						
			大	小 学 科 名	計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	大	小 学 科 名	計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年		
6-1-2-110	葛飾区	本所工業	-	-	-	-	-	工	総合技術科	4	1	1	1	1	1	南水元4-21-1	
6-1-2-111	江東区	墨田工業	工	機械科	3	1	1	1	工	総合技術科	4	1	1	1	1	1	森下5-1-7
6-1-2-112	江戸川区	葛西工業	工	自動車科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	一之江7-68-1
			工	電気科	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
			工	建築科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
			工	機械科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
			工	電子科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
6-1-2-113	江東区	科学技術	工	デュアルシステム科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	大島1-2-31
			工	科学技術科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-	
			6-1-2-114	葛飾区	農産	農	園芸デザイン科	6	2	2	2	農	農産科	4	1	1	
6-1-2-115	墨田区	橘	農	食品科	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	立花4-29-7
			他	産業科	18	6	6	6	他	産業科	5	1	1	2	1	1	
6-1-2-116	八王子市	富士森	普	普通科	23	7	8	8	-	-	-	-	-	-	-	-	長房町420-2
6-1-2-117	八王子市	片倉	普	造形美術コース	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	片倉町1643
6-1-2-118	八王子市	八王子東	普	普通科	16	5	5	6	-	-	-	-	-	-	-	-	高倉町68-1
			普	普通科	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	-	
6-1-2-119	八王子市	八王子北	普	普通科	15	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	檜原町601
6-1-2-120	八王子市	松が谷	普	外国語コース	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	松が谷1772
6-1-2-121	日野市	日野	普	普通科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-	石田1-190-1
			普	普通科	23	7	8	8	-	-	-	-	-	-	-	-	
6-1-2-122	日野市	日野台	普	普通科	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	-	大坂上4-16-1
6-1-2-123	日野市	南平	普	普通科	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	-	南平8-2-3
6-1-2-124	町田市	町田	普	普通科	24	8	8	8	普	普通科	8	2	2	2	2	2	中町4-25-3
6-1-2-125	町田市	野津田	普	普通科	9	3	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	野津田町2001
6-1-2-126	町田市	成瀬	福	福祉科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	成瀬7-4-1
			他	体育科	4	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
			普	普通科	21	7	7	7	-	-	-	-	-	-	-	-	
			普	普通科	22	7	7	8	-	-	-	-	-	-	-	-	
6-1-2-127	町田市	小川	普	普通科	16	5	5	6	-	-	-	-	-	-	-	-	小川2-1002-1
6-1-2-128	町田市	山崎	普	普通科	16	5	5	6	-	-	-	-	-	-	-	-	山崎町1453-1
6-1-2-129	町田市	町田総合	総	総合学科	17	5	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-	木曽西3-5-1
6-1-2-130	八王子市	翔陽	普	普通科（単位制）	17	5	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-	館町1097-136
6-1-2-131	八王子市	八王子拓真	-	-	-	-	-	-	普	普通科1部（単位制）	16	4	4	4	4	4	台町3-25-1
6-1-2-132	町田市	町田工業	-	-	-	-	-	-	普	普通科2部（単位制）	16	4	4	4	4	4	忠生1-20-2
			-	-	-	-	-	-	普	普通科3部（単位制）	8	2	2	2	2		
			工	総合情報科	15	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6-1-2-133	八王子市	八王子桑志	他	産業科（デザイン分野）	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	千人町4-8-1
6-1-2-134	立川市	立川	他	産業科（クラフト分野）	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	錦町2-13-5
			他	産業科（システム情報分野）	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
			他	産業科（ビジネス情報分野）	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
			普	普通科	24	8	8	8	普	普通科	8	2	2	2	2	2	
6-1-2-135	立川市	砂川	-	-	-	-	-	-	普	普通科1部（単位制）	8	2	2	2	2	2	泉町935-4
6-1-2-136	昭島市	昭和	-	-	-	-	-	-	普	普通科2部（単位制）	8	2	2	2	2	2	東町2-3-21
			-	-	-	-	-	-	普	普通科3部（単位制）	4	1	1	1	1		
			-	-	-	-	-	-	通	通信制本科	15	4	5	3	3		
			-	-	-	-	-	-	通	通信制併修	-	-	-	-	-		
			普	普通科	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	-	
6-1-2-137	昭島市	拝島	普	普通科	19	6	6	7	-	-	-	-	-	-	-	-	拝島町4-13-1
6-1-2-138	東大和市	東大和	普	普通科	22	7	7	8	-	-	-	-	-	-	-	-	中央3-945
6-1-2-139	武蔵村山市	武蔵村山	普	普通科	19	6	6	7	-	-	-	-	-	-	-	-	中原1-7-1
6-1-2-140	東大和市	東大和南	普	普通科	21	7	7	7	-	-	-	-	-	-	-	-	桜が丘3-44-8
6-1-2-141	青梅市	多摩	普	普通科	15	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	裏宿町580
6-1-2-142	福生市	福生	普	普通科	20	6	7	7	普	普通科	4	1	1	1	1	1	北田園2-11-3
6-1-2-143	あきる野市	秋留台	普	普通科	17	5	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-	平沢153-4
6-1-2-144	羽村市	羽村	普	普通科	22	7	7	8	-	-	-	-	-	-	-	-	羽4152-1

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 都立高等学校

No.	所 在 地 区 市 町 村	学 校 名	全 日 制						定 時 制 等								住 所
			学 科		学 級 数				学 科		学 級 数						
			大	小 学 科 名	計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	大	小 学 科 名	計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年		
6-1-2-145	あきる野市	五日市	普	ことばと情報コース	10	4	4	2	普	普通科	4	1	1	1	1	五日市894	
			商	商業科	2	-	-	2	商	商業科	(併)	-	-	-	(併)		
6-1-2-146	青梅市	青梅総合	総	総合学科	18	6	6	6	総	総合学科	11	3	3	2	3	勝沼1-60-1	
6-1-2-147	武蔵村山市	上水	普	普通科（単位制）	17	5	6	6	-	-	-	-	-	-	-	大南4-62-1	
6-1-2-148	福生市	多摩工業	工	機械科	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	熊川215	
			工	電気科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-		
			工	環境化学科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-		
			工	デュアルシステム科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-		
6-1-2-149	瑞穂町	瑞穂農芸	農	園芸科学科	3	1	1	1	普	普通科	4	1	1	1	1	石畑2027	
			農	畜産科学科	3	1	1	1	農	農業科	(併)	(併)	(併)	(併)	(併)		
			農	食品科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-		
			家	生活デザイン科	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-		
6-1-2-150	武蔵野市	武蔵	普	普通科	13	3	5	5	-	-	-	-	-	-	-	境4-13-28	
6-1-2-151	武蔵野市	武蔵野北	普	普通科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	八幡町2-3-10	
6-1-2-152	小金井市	小金井北	普	普通科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	緑町4-1-1	
6-1-2-153	西東京市	保谷	普	普通科	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	住吉町5-8-23	
6-1-2-154	東久留米市	久留米西	普	普通科	17	5	6	6	-	-	-	-	-	-	-	野火止2-1-44	
6-1-2-155	西東京市	田無	普	普通科	23	7	8	8	-	-	-	-	-	-	-	向台町5-4-34	
6-1-2-156	小平市	小平	普	外国語コース	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	仲町112	
			普	普通科	15	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-		
6-1-2-157	小平市	小平西	普	普通科	21	7	7	7	-	-	-	-	-	-	-	小川町1-502-95	
6-1-2-158	東村山市	東村山	普	普通科	15	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	恩多町4-26-1	
6-1-2-159	国分寺市	国分寺	普	普通科（単位制）	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	新町3-2-5	
6-1-2-160	清瀬市	清瀬	普	普通科	20	6	7	7	-	-	-	-	-	-	-	松山3-1-56	
6-1-2-161	小平市	小平南	普	普通科	21	7	7	7	-	-	-	-	-	-	-	上水本町6-21-1	
6-1-2-162	東村山市	東村山西	普	普通科	17	5	6	6	-	-	-	-	-	-	-	富士見町5-4-41	
6-1-2-163	東久留米市	東久留米総合	総	総合学科	16	5	5	6	総	総合学科	8	2	2	2	2	幸町5-8-46	
6-1-2-164	小金井市	小金井工業	-	-	-	-	-	-	工	機械科	4	1	1	1	1	本町6-8-9	
			-	-	-	-	-	-	工	電気科	4	1	1	1	1		
			-	-	-	-	-	-	工	電子科	(併)	(併)	(併)	(併)	(併)		
6-1-2-165	西東京市	田無工業	工	機械科	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	向台町1-9-1	
			工	建築科	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-		
			工	都市工学科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-		
6-1-2-166	小金井市	多摩科学技術	工	科学技術科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	本町6-8-9	
6-1-2-167	調布市	神代	普	普通科	21	7	7	7	普	普通科	4	1	1	1	1	若葉町1-46-1	
6-1-2-168	調布市	調布北	普	普通科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	深大寺北町5-39-1	
6-1-2-169	調布市	調布南	普	普通科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	多摩川6-2-1	
6-1-2-170	狛江市	狛江	普	普通科	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	元和泉3-9-1	
6-1-2-171	府中市	府中	普	普通科	21	7	7	7	-	-	-	-	-	-	-	栄町3-3-1	
6-1-2-172	府中市	府中東	普	普通科	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	押立町4-21	
6-1-2-173	府中市	府中西	普	普通科	23	7	8	8	-	-	-	-	-	-	-	日新町4-6-7	
6-1-2-174	国立市	国立	普	普通科	24	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	東4-25-1	
6-1-2-175	多摩市	永山	普	普通科	22	7	7	8	-	-	-	-	-	-	-	永山5-22	
6-1-2-176	稲城市	若葉総合	総	総合学科	18	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	坂浜1434-3	
6-1-2-177	国立市	第五商業	商	ビジネス科	18	6	6	6	商	商業科	4	1	1	1	1	中3-4-1	
6-1-2-178	府中市	府中工業	工	機械科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	若松町2-19-1	
			工	電気科	6	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-		
			工	情報技術科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-		
			工	工業技術科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-		
6-1-2-179	府中市	農業	農	都市園芸科	3	1	1	1	普	普通科	4	1	1	1	1	1	寿町1-10-2
			農	緑地計画科	3	1	1	1	農	食品化学科	4	1	1	1	1		
			農	食品科学科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-		
			家	服飾科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-		
			家	食物科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-		
6-1-2-180	大島町	大島	普	普通科	6	2	2	2	普	普通科	4	1	1	1	1	1	元町字八重の水127

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都 都立高等学校

No.	所 在 地 区 市 町 村	学 校 名	全 日 制						定 時 制 等										住 所
			学 科		学 級 数				学 科		学 級 数								
			大	小 学 科 名	計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	大	小 学 科 名	計	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年				
6-1-2-181	新島村	新島	農	農林科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	本村4-10-1 神津島村1620 差木地字下原996-1 坪田4586			
6-1-2-182	神津島村	神津	家	家政科	(併)	(併)	(併)	(併)	-	-	-	-	-	-	-				
6-1-2-183	大島町	大島海洋国際	普	普通科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-				
6-1-2-184	三宅村	三宅	普	普通科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-				
6-1-2-185	八丈町	八丈	農	農業科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-		-		
			家	家政科	(併)	(併)	(併)	(併)	-	-	-	-	-	-	-				
			普	普通科	6	2	2	2	普	普通科	4	1	1	1	1				
			農	園芸科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-				
			家	家政科	(併)	(併)	(併)	(併)	-	-	-	-	-	-	-				
6-1-2-186	小笠原村	小笠原	普	普通科	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	父島字清瀬			
合 計					3 154	1 020	1 051	1 083			538	134	135	135	134				

※合計は、通信制を除く。
※都内公立学校数は、令和4年（2022年）4月現在の数となる。

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧（公立）

東京都特別支援学校

No.	設置者	障害種別	学校名	学級数																																				住所	
				小計	学部										中計	学部										高計	等部														
					普通学級											特別学級											本等部														
					1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	5 学 年	6 学 年	複 重 度・ 直 複	施 設 内 重 複	訪 問 重 複	1 学 年		2 学 年	3 学 年	複 重 度・ 直 複	施 設 内 重 複	訪 問 重 複	1 学 年	2 学 年	3 学 年	複 重 度・ 直 複	施 設 内 重 複		訪 問 重 複	1 学 年	2 学 年	3 学 年	複 重 度・ 直 複	専 攻 科 1 学 年	専 攻 科 2 学 年	専 攻 科 3 学 年							
6-1-2-001	東京都	視覚	文京盲学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	文京区後楽1-7-6			
6-1-2-002	東京都	視覚	葛飾盲学校	7	-	-	-	1	1	1	1	3	-	-	-	5	1	1	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	葛飾区堀切7-31-5	
6-1-2-003	東京都	視覚	八王子盲学校	5	-	-	-	-	1	1	2	1	-	-	3	1	1	-	-	1	-	1	-	-	12	1	1	1	-	2	-	-	-	1	1	-	-	2	1	2	八王子市台町3-19-22
6-1-2-004	東京都	視覚	○久我山青光学園	13	-	-	1	2	2	1	1	6	-	-	5	1	1	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	世田谷区北島山4-37-1	
6-1-2-005	東京都	聴覚	大塚ろう学校	33	5	4	5	3	3	5	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	豊島区巢鴨4-20-8	
6-1-2-006	東京都	聴覚	立川ろう学校	17	2	3	1	2	2	2	-	5	-	-	8	2	2	2	-	2	-	-	-	10	2	1	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	立川市栄町1-15-7	
6-1-2-007	東京都	聴覚	葛飾ろう学校	13	1	3	1	2	1	1	-	4	-	-	9	2	2	2	-	3	-	-	-	12	3	2	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	葛飾区西亀有2-58-1
6-1-2-008	東京都	聴覚	中央ろう学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	3	3	3	-	-	-	-	-	9	3	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	杉並区下高井戸2-22-10
6-1-2-009	東京都	肢体	◎小平特別支援学校	24	1	2	3	2	2	2	-	9	-	3	12	2	2	2	-	3	-	3	11	1	2	2	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	小平市小川西町2-33-1	
6-1-2-010	東京都	肢体	◎北特別支援学校	20	1	1	1	2	1	1	-	10	-	3	12	1	2	2	-	6	-	1	11	1	2	1	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	北区十条台1-1-1
6-1-2-011	東京都	肢体	城南特別支援学校	16	1	1	1	1	1	2	-	7	-	2	9	1	2	1	-	3	-	2	8	1	2	1	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	大田区東六郷2-18-19
6-1-2-012	東京都	肢体	村山特別支援学校	19	2	2	1	1	1	1	-	9	-	2	11	1	1	1	-	5	-	3	9	1	1	1	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	武蔵村山市学園4-8
6-1-2-013	東京都	肢体	○町田の丘学園	10	1	1	1	1	1	1	-	2	-	2	4	1	1	1	-	1	-	-	5	1	1	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	町田市野津田町2003-1
6-1-2-014	東京都	肢体	八王子東特別支援学校	22	1	2	2	2	2	2	-	5	-	6	16	2	2	1	-	3	-	8	6	2	1	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	八王子市石川町3246-1
6-1-2-015	東京都	肢体	大泉特別支援学校	14	2	1	1	1	1	1	-	5	-	2	8	2	1	1	-	4	-	-	7	1	1	1	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	練馬区大泉学園町9-3-1
6-1-2-016	東京都	肢体	◎多摩桜の丘学園	13	1	1	1	1	2	1	-	4	1	1	4	1	1	1	-	1	-	9	2	1	1	-	2	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	多摩市璽ヶ丘1-17-1
6-1-2-017	東京都	肢体	◎墨東特別支援学校	22	2	2	2	2	2	2	-	7	1	2	12	3	2	2	-	2	1	2	9	1	2	1	-	2	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	江東区旗江2-16-18
6-1-2-018	東京都	肢体	◎あきる野学園	12	1	1	1	1	1	1	-	5	-	1	2	1	-	1	-	-	-	-	4	-	-	1	1	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	あきる野市上代蔵123-1
6-1-2-019	東京都	肢体	○永福学園	17	2	2	1	1	1	2	-	5	-	3	6	1	1	2	-	1	-	1	7	1	1	1	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	杉並区永福1-7-28
6-1-2-020	東京都	肢体	○青峰学園	3	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	2	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	青梅市大門3-12
6-1-2-021	東京都	肢体	◎府中けやきの森学園	23	2	2	1	2	2	2	-	9	1	2	7	1	2	2	-	1	1	-	9	1	2	2	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	府中市朝日町3-14-1
6-1-2-022	東京都	肢体	○志村学園	16	2	1	1	1	1	2	-	7	-	1	6	1	1	1	-	2	-	1	4	1	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	板橋区西台1-41-10
6-1-2-023	東京都	肢体	◎鹿本学園	24	2	4	3	1	2	2	-	8	-	2	11	2	2	2	-	3	-	2	9	1	2	1	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	江戸川区本一色2-24-11
6-1-2-024	東京都	肢体	○水元小合学園	11	1	1	1	2	1	1	-	3	-	1	6	1	1	1	-	1	-	2	4	1	1	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	葛飾区水元1-24-1
6-1-2-025	東京都	肢体	◎光明学園	24	3	3	2	2	2	2	-	6	-	4	13	3	2	1	-	4	-	3	12	2	1	1	-	6	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	世田谷区松原6-38-27
6-1-2-026	東京都	肢体	◎花畑学園	20	2	3	2	1	1	1	-	9	-	1	10	2	2	1	-	4	-	1	7	1	1	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	足立区南花畑5-24-49
6-1-2-027	東京都	知的	青島特別支援学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	7	6	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	世田谷区池尻1-1-4
6-1-2-028	東京都	知的	王子特別支援学校	43	7	7	6	5	4	3	-	11	-	-	21	6	5	5	-	5	-	-	26	8	6	8	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	北区十条台1-8-41
6-1-2-029	東京都	知的	八王子特別支援学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	八王子市台町3-5-1	
6-1-2-030	東京都	知的	いの木特別支援学校	2	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	1	1	-	-	-	4	1	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	千葉県市原市椎津2590-2
6-1-2-031	東京都	知的	七生特別支援学校	20	2	2	2	3	3	3	-	5	-	-	13	4	3	3	-	3	-	-	15	4	4	3	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	日野市程久保843
6-1-2-032	東京都	知的	◎町田の丘学園	25	2	2	4	3	4	3	-	7	-	-	14	4	3	4	-	3	-	-	20	6	5	6	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	町田市野津田町2003-1
6-1-2-033	東京都	知的	高島特別支援学校	43	6	6	5	7	4	5	-	10	-	-	23	6	6	6	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	板橋区高島平3-7-2
6-1-2-034	東京都	知的	矢口特別支援学校	35	4	6	5	6	4	3	-	7	-	-	16	5	3	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	大田区矢口1-26-10
6-1-2-035	東京都	知的	羽村特別支援学校	32	4	4	3	5	4	4	-	8	-	-	21	6	6	4	-	5	-	-	28	9	7	8	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	羽村市五ノ神319-1
6-1-2-036	東京都	知的	調布特別支援学校	22	3	3	3	2	3	3	-	5	-	-	15	3	5	3	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	調布市調布ヶ丘1-1-2
6-1-2-037	東京都	知的	小金井特別支援学校	27	4	3	5	3	4	3	-	5	-	-	13	4	3	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	小金井市桜町2-1-14
6-1-2-038	東京都	知的	水元特別支援学校	42	4	6	6	6	4	5	-	11	-	-	16	5	5	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	葛飾区西水元5-2-1
6-1-2-039	東京都	知的	墨田特別支援学校	26	3	3	3	3	4	3	-	7	-	-	14	3	4	3	-	4	-	-	13	2	4	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	墨

中学校教諭・高等学校教諭・養護教諭 実習先一覧 (公立)

東京都特別支援学校

No.				設 置 者	障 害 種 別	学 校 名	学級数																																住 所																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
							小 部 中																学 部 高																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
							学 部																等 部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
							普 通 学 級 特 別 学 級																普 通 学 級 特 別 学 級																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
							1 2 3 4 5 6 複 重 施 訪 計																1 2 3 複 重 施 訪 計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
							年 学 学 年 年 年 年 式 重 設 間																年 学 学 年 年 年 年 式 重 設 間																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
計							計							計							計							計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
1 2 3 4 5 6 複 重 施 訪 計							1 2 3 複 重 施 訪 計							1 2 3 複 重 施 訪 計							1 2 3 複 重 施 訪 計							1 2 3 複 重 施 訪 計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
年 学 学 年 年 年 年 式 重 設 間							年 学 学 年 年 年 年 式 重 設 間							年 学 学 年 年 年 年 式 重 設 間							年 学 学 年 年 年 年 式 重 設 間							年 学 学 年 年 年 年 式 重 設 間																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
6-1-2-072	東京都	病弱	○ 小平特別支援学校	5	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	4	-	-	-	-	-	1	3	3	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-</

※都内公立学校数は、令和4年（2022年）4月現在の数となる。

2022 年 4 月 26 日

実 習 受 入 承 諾 書

東洋大学

学長 矢口悦子 殿

東京都中央区築地 5 丁目 5 番 12 号

浜離宮建設プラザ 4F・5F

コンパスグループ・ジャパン株式会社

代表取締役社長 石田 隆嗣



2022 年 4 月 21 日付文書（22 東洋板発第 129 号）で依頼のありました東洋大学健康スポーツ科学部の
栄養士養成に関わる校外実習について、下記施設にて実習生を受け入れることを承諾いたします。

記

1. 施設名 東洋大学 赤羽台キャンパス 学生食堂
2. 所在地 東京都北区赤羽台 1 丁目 7-1 1 HELSPO HUB-3
3. 実習受入開始時期 2025 年度以降
4. 実習受入可能時期 2025 年度以降
 ※実習時期および実習学生人数の確定は、実習実施前年度までに行う。
5. 実習受入可能人数 100 名

以上

国際健康スポーツ交流 訪問先一覧

研修内容

- ①海外研修(語学)、②海外研修(スポーツ体験)、③海外研修(基礎・健康体験)、
④海外研修(ビジネスプログラム体験・コーチング体験)、⑤海外研修(学校教育体験)、
⑥海外ボランティア、⑦海外インターンシップ、⑧国内国際研修(語学)、⑨国内国際研修(ワークショップ)

重点目標

他国のスポーツ事情の理解、他国の健康事情の理解、他国の歴史・文化(宗教・システム等)の理解、
コミュニケーション力の向上、協働力の向上、語学力の向上、グローバルなネットワーク作り

研修プログラム

	No.	種類	区分	実施場所	研修内容	備考
学部プログラム	1	語学・スポーツ研修	海外	フィリピン	①語学 ②スポーツ体験 ⑦ボランティア	
	2	語学・スポーツ研修	海外	カナダ	①語学 ③スポーツ体験 ③ボランティア	・ホームステイ+語学研修(現地大学)2週間 ・アクティビティ体験(ウインタースポーツ体験、ボランティア体験等)1週間
	3	語学研修	国内	日本語学校	①語学	・1週間
	4	学校インターンシップ	海外	マレーシア(サバ州)	①語学 ③健康体験 ⑤学校教育体験 ⑦インターンシップ	・イスラム中等教育学校(中学・高等学校)での学校インターンシップ実習 ・サバ州教育庁訪問 ・生徒自宅へのホームステイ、自宅訪問、山岳民族訪問等現地の子供たちの生活に触れる
	5	学校ボランティア・インターンシップ	海外	カンボジア	⑤学校教育体験 ⑥ボランティア ⑦インターンシップ	
	6	スポーツ研修	海外	ニュージーランド	②スポーツ体験	・スポーツ観戦 ・野外教育プログラム ・フィットネスジム1日入会 ・研究機関の視察や講義の受講等
	7	ビジネス研修	海外	アメリカ(ニューヨーク)	④ビジネスプログラム体験	・施設見学 ・スポーツ観戦 ・ゲスト講師による講義の受講 ・スポーツイベントへの参加
	8	ビジネス研修	海外	ドイツ(フランクフルト)	④ビジネスプログラム体験	・スポーツクラブ訪問 ・スポーツ観戦 ・スポーツ連盟の見学 ・コミュニケーション交流 ・民泊体験 9日間
	9	ビジネス研修	海外	ドイツ	④ビジネスプログラム体験	
	10	解剖研修	海外	アメリカ(ハワイ)	③基礎体験	
	11	気孔・中国医術研修	海外	中国もしくは台湾	③健康体験	
	12	健康体験研修	海外	インドネシア (デンパサールヒンドゥー大学)	①語学 ③健康体験	
大学プログラム	13	語学セミナー	海外	アメリカ、カナダ、アイルランド、オーストラリア、マレーシア	①語学	・語学授業72h～83.5h ・ボランティア、アクティビティ等
	14	海外研修 Diversity Voyage	海外	マレーシア、フィリピン、ラオス、ブータン、インドネシア、カンボジア	⑥ボランティア ⑦インターンシップ	・ボランティア、インターンシップ
	15	短期海外インターンシップ・ボランティア	海外	ニュージーランド、カナダ、アメリカ、オーストラリア、フィリピン	⑥ボランティア ⑦インターンシップ	・ボランティア、インターンシップ
	16	河口湖セミナーハウスプログラム	国内	山梨県	⑧語学	・語学研修(国内留学)1～2週間
他機関プログラム	17	ブリティッシュヒルズ	国内	福島県	⑧語学	・語学研修
	18	合宿制語学学校ランゲージ・ヴィレッジ	国内	静岡県	⑧語学	・語学研修
	19	インターナショナルスクールボランティア	国内	インターナショナルスクール	⑨ワークショップ	・学生ボランティア派遣

東洋大学 2021年度実習スケジュール 《セントラルウェルネスクラブ志木店》 例

		内容	時間帯								
11月22日	月	講習①	10:30～12:00 & 13:30～15:00	施設利用体験							プール監視 (スクール見学)
11月23日	火	施設利用体験	14:00～17:00	①ー1	②ー1	③ー1	④ー1	⑤ー1			①
11月24日	水	施設利用体験	14:00～17:00	⑥ー1	⑦ー1	⑧ー1	⑨ー1	⑩ー1			⑥
11月25日	木	施設利用体験	14:00～17:00	①ー2	②ー2	③ー2	④ー2	⑤ー2			②
11月26日	金	施設利用体験	14:00～17:00	⑥ー2	⑦ー2	⑧ー2	⑨ー2	⑩ー2			⑦
11月27日	土	施設利用体験	14:00～17:00	①ー3	②ー3	③ー3	④ー3	⑤ー3			③
11月28日	日										
11月29日	月	休館日									
11月30日	火	施設利用体験	14:00～17:00	⑥ー3	⑦ー3	⑧ー3	⑨ー3	⑩ー3			⑧
12月1日	水	施設利用体験	14:00～17:00	①ー4	②ー4	③ー4	④ー4	⑤ー4			④
12月2日	木	施設利用体験	14:00～17:00	⑥ー4	⑦ー4	⑧ー4	⑨ー4	⑩ー4			⑨
12月3日	金	施設利用体験	14:00～17:00	①ー5	②ー5	③ー5	④ー5	⑤ー5			⑤
12月4日	土	施設利用体験	14:00～17:00	⑥ー5	⑦ー5	⑧ー5	⑨ー5	⑩ー5			⑩
12月5日	日										
12月6日	月	講習②	10:30～12:00 & 13:30～15:00								

《講習①》 【午前】(10:30～12:00) 【午後】(13:30～15:00)

- ・オリエンテーション
- ・プール指導研修
- (自己紹介・実習スケジュール確認等)
- ・プール監視と緊急対応
- ・マシンジム研修

《講習②》 【午前】(10:30～12:00) 【午後】(13:30～15:00)

- ・クラブ運営基礎研修
- ・フィットネス業界概要
- ・接客・接遇研修
- (業界および当社について)
- ・実習の総括

《施設利用体験》

(14:00～17:00の時間で施設利用体験)

- ・1人5日間利用できるよう、5人ずつのグループに振り分け
- ・原則は施設のフリー利用
- ・時間帯別に指定したレッスンに参加
- ・レッスン以外の時間はなるべく多くのマシンを体験すること
- ・1人1回プール監視およびスクール見学体験

学校法人東洋大学教職員定年規則

昭和34年4月1日施行

改正

昭和39年9月1日
昭和40年9月1日
昭和47年4月1日
平成8年4月1日
平成14年4月1日
平成23年4月1日
平成26年8月1日

学校法人東洋大学教職員定年規則

第1条 学校法人東洋大学の設置する学校の専任の教員及び専任の事務職員の定年は、大学及び附属高等学校等に在職する教員については満65歳とし、事務職員については満60歳とする。

第2条 前条に該当する教職員は、定年に達した日の属する年度末に退職するものとする。

第3条 この規則の改正は、理事会の議を経て理事長が行う。

附 則

- 1 この規程は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 第1条の規定にかかわらず、平成7年度以前に専任教員として採用された者については、なお従前の例による。

附 則（平成14年規程第18号）

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成23年規程第42号）

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成26年規則第127号）

この規則は、平成26年8月1日から施行する。

年俸契約雇用制度に関する要綱

(目的)

- 1 この制度は、本学が特に必要と認めた場合に、年俸契約雇用制により専任教員を任用することを目的とする。

(適用対象)

- 2 年俸契約制は、次の場合に適用する。
 - (1) 原則として大学院の科目担当者（修士課程研究指導担当以上）を任用する場合
 - (2) 全国的に評価の高い学者などを任用する場合
 - (3) その他、本学が特に必要と認めた場合

(契約期間)

- 3 契約期間は1年とし、原則として契約更改の限度は4回とする。

(雇用年齢)

- 4 雇用年齢は、原則として70才までとする。ただし、この制度により他機関から任用する場合、雇用開始年齢は65歳未満とすることができる。

(年俸額)

- 5 年俸額は、在職時（前職時）の給与支給額を勘案し定める。

(退職金)

- 6 退職金は支給しない。

(契約)

- 7 契約については別に定める。

附 則

この要綱は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成16年4月1日から施行する。

		秋学期																									秋学期		年間								
教室名称 (仮)	定員	月	月	月	月	月	火	火	火	火	火	水	水	水	水	水	木	木	木	木	木	金	金	金	金	土	土	土	土	土	カウ ント	30 稼働室	カウ ント	60 稼働室			
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5						
20306 (AL教室)	30	○	○	○	○						○	○	○		○	○		○	○			1	○	4	5	○	○	1	2	3	4	5	15	50%	26	43%	
40人教室401	40										○	○	○	○						○	○	2					○						8	27%	16	27%	
40人教室402	40										○	○	○	○						○	○						○						8	27%	16	27%	
40人教室403	40										○	○	○	○						○	○						○						8	27%	16	27%	
40人教室404	40										○	○	○	○						○	○						○						8	27%	16	27%	
40人教室405	40										○	○	○	○						○	○						○						8	27%	16	27%	
20201	45		○	○			○	○	○	○	○	○		○	○					○		1	○	4	5		○						13	43%	28	47%	
20202	45	○	○	○						○	○	○	○			○		○	○			2											12	40%	28	47%	
20203	45		○	○						○	○	○	○					○	○			3					○						9	30%	21	35%	
20204	45		○	○			○	○	○	○	○	○	○					○	○							○							14	47%	29	48%	
20205	45	○		○			○	○	○	○	○	○	○					○	○			4	○				○						15	50%	29	48%	
20206	45				○					○	○	○	○				○	○			5						○	○	○	○	○	○	16	53%	33	55%	
20304	66	○	○	○	○	○								○	○				○	○			○				○						15	50%	31	52%	
20305	66	○	○	○	○	○																											12	40%	29	48%	
80人教室301	80			○		○			○		○	○	○		○			○	○			○						○	○	○				13	43%	25	42%
80人教室302	80					○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○			○						○	○					15	50%	29	48%
20301	81	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○	○	○						○	○						18	60%	37	62%	
20302	81	○		○	○	○			○	○	○	○	○				○	○	○						○								17	57%	30	50%	
20303	81	○	○		○				○	○	○	○	○				○	○	○			○				○	○	○					20	67%	33	55%	
20310	81		○	○	○				○	○	○	○	○									○				○	○	○					15	50%	31	52%	
20412	81		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○									○	○				○						19	63%	38	63%	
20403	84		○	○	○	○			○	○	○	○	○			○		○	○			○	○			○	○	○					16	53%	34	57%	
20404	84			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																				14	47%	31	52%	
20311	102	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○			○				○	○	○					19	63%	36	60%	
20413	102		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○												○	○	○						14	47%	30	50%	
120人教室	120										○	○					○	○		○	○								○	○		○	10	33%	21	35%	
120人教室401	120						○	○	○	○																			○	○			7	23%	21	35%	
120人教室402	120					○	○	○	○	○	○	○	○															○	○				14	47%	28	47%	
20401	132	○	○	○	○		○	○			○	○	○				○	○								○							17	57%	36	60%	
20402	132						○	○	○	○	○	○	○													○							14	47%	31	52%	
20208	168		○				○	○	○	○	○	○	○									○	○	○						○			18	60%	38	63%	
20405	177	○		○			○	○	○	○	○											○	○	○									15	50%	33	55%	
20312	180		○				○							○				○	○							○							8	27%	12	20%	
20501	180	○	○	○	○			○			○			○				○	○			○	○			○	○	○					17	57%	35	58%	
20313	200		○	○	○	○																				○							6	20%	10	17%	
20207	204	○	○	○	○	○							○	○								○	○			○	○						16	53%	33	55%	
20406	210		○	○				○	○	○	○	○	○				○	○	○						○	○	○						17	57%	37	62%	
20507	252		○	○	○		○	○	○	○								○	○	○					○	○	○						13	43%	33	55%	
20407	255	○	○		○	○	○	○	○		○	○						○	○	○			○	○									14	47%	35	58%	
20502	303			○	○	○	○	○	○								○	○	○			○	○			○	○						15	50%	32	53%	
20307 (PC教室)	48	○	○	○	○		○	○	○	○							○	○	○						○	○	○						18	60%	34	57%	
20309 (PC教室)	80		○	○	○																												15	50%	31	52%	
20308 (PC教室)	100	○	○	○	○				○	○	○	○	○				○	○	○			○	○			○	○						17	57%	35	58%	

教室規模	春学期	秋学期	年間
小教室（99名以下）	46%	45%	45%
中教室（100～199名）	51%	46%	49%
大教室（200名以上）	66%	54%	60%
PC教室	56%	56%	56%
全体	49%	46%	47%

[備考]

- ・ WELLB HUB-2 及び HELSPO HUB-3 全体で教室稼働率を試算しており、本建物（教室）を使用する「健康スポーツ科学部」及び「福祉社会デザイン学部」全体の開講科目で試算している。
- ・ 基盤教育科目の留学支援科目（日本語科目）は、留学生数によって開講を赤羽台・白山のいずれかで開講する。そのため本試算には含まれていないが、全科目を赤羽台で開講することになった場合も、支障が生じることはない。
- ・ 集中講義科目は、科目によって一部教室を利用する可能性があるが、本試算には含まれていない。単発利用が基本となることから、支障が生じることはない。
- ・ 健康スポーツ科学科3・4年次ゼミナールで一部大学院演習室を配置しているが、本試算には含まれていない。重複がないことを確認できている、支障が生じることはない。

春 月		1 限 〔9：00～10：30〕					2 限 〔10：40～12：10〕					3 限 〔13：00～14：30〕					4 限 〔14：40～16：10〕					5 限 〔16：20～17：50〕				
		科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室
基盤教育科目							英語ⅠA	必修	1	山本伍紀	20311	英語ⅢA	必修	2	OOBOGNE,Marilyn	20201	フランス語およびフランス語圏社会事情	選択	1～4	菊地章太	20401	美術一般	選択	1～4	菊地章太	20502
							英語ⅠA	必修	1	梅宮悠	20203	英語ⅢA	必修	2	山本綾	20304	情報リテラシーⅠ	必修	1～4	呉海鍾ほか		全学総合D	選択	1～4	大塚佳臣	20311
							英語ⅠA	必修	1	EGITIM,Soyhan	20310	英語ⅢA	必修	2	山本伍紀	20204	英語ⅢA	必修	2	MARIKKAR,Fathima	20206					
							英語ⅡA	必修	1	OOBOGNE,Marilyn	20204	英語ⅣA	必修	2	梅宮悠	20202	英語ⅢA	必修	2	梅宮悠	20304					
							英語ⅡA	必修	1	THOMSON,Blair	20412	英語ⅣA	必修	2	FERN,Glenn	20203	英語ⅢA	必修	2	OOBOGNE,Marilyn	20403					
					英語ⅡA	必修	1	LAVELLE,Dawn	20403	英語ⅣA	必修	2	FERN,Glenn	20206	英語ⅢA	必修	2	LAVELLE,Dawn	20205							
					哲学	選択	1～4	竹村瑞穂	20313(200名教室)			英語ⅣA	必修	2	LAVELLE,Dawn	20206	英語ⅣA	必修	2	FERN,Glenn	20310					
																	スポーツ健康科学実技Ⅰ	選択	1～4	新谷昂	体育館					
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科	社会福祉学入門	必修	1	荻野剛史	20407	ソーシャルワーク演習Ⅰ	選択必修	2	吉田光爾	20201	社会福祉学総合演習Ⅰ	選択必修	2	稲沢公一ほか	20306(AL教室)	社会福祉調査の基礎	選択	1	志村健一	20402	生活支援技術Ⅴ	選択	2	渡辺裕美ほか	介護実習室(人浴・更衣室等専)
		ケアワーク論	選択	2	八木裕子	20501	ソーシャルワーク演習Ⅰ	選択必修	2	古川和稔	20202	こころとからだのしくみⅡ	選択	1～4	渡辺裕美	20302	刑事司法と福祉	選択	2～3	戸井宏紀	20306(AL教室)					
		福祉ICT	選択	2～4	古川和稔	20405	ソーシャルワーク演習Ⅰ	選択必修	2	稲沢公一	20205	介護過程Ⅲ	選択	3	古川和稔	20309(PC教室)	生活支援技術Ⅳ	選択	2	渡辺裕美						
		ソーシャルワーク演習Ⅲ(専門)	選択	3	稲沢公一	20301	ソーシャルワーク演習Ⅰ	選択必修	2	渡辺道代	20206						生活支援技術Ⅴ	選択	4	八木裕子						
		ソーシャルワーク演習Ⅲ(専門)	選択	3	渡辺道代	20204	ソーシャルワーク演習Ⅰ	選択必修	2	荻野剛史	20208															
		ソーシャルワーク演習Ⅲ(専門)	選択	3	荻野剛史	20205	ソーシャルワーク演習Ⅰ	選択必修	2	高山直樹	20302															
		ソーシャルワーク演習Ⅲ(専門)	選択	3	高山直樹	20206	ソーシャルワーク演習Ⅰ	選択必修	2	金子光一	20304															
		ソーシャルワーク演習Ⅲ(専門)	選択	3	金子光一	20207	ソーシャルワーク演習Ⅰ	選択必修	2	渡辺裕美	20306(AL教室)															
		ソーシャルワーク演習Ⅲ(専門)	選択	3	渡辺裕美	20208	ソーシャルワーク演習Ⅰ	選択必修	2	高野龍昭	20307(PC教室)															
		ソーシャルワーク演習Ⅲ(専門)	選択	3	高野龍昭	20304	スクールソーシャルワーク論	選択	2～4	高石啓人	20405															
		ソーシャルワーク演習Ⅲ(専門)	選択	3	川原恵子	20305	医療ソーシャルワーク論	選択	3～4	廣瀬圭子	20402															
		ソーシャルワーク演習Ⅴ(専門)	選択	4	加山弾	20306(AL教室)	介護コミュニケーション技術Ⅱ	選択	3	宮内寿彦	20305															
		ソーシャルワーク演習Ⅴ(専門)	選択	4	吉浦輪	20307(PC教室)																				
		ソーシャルワーク演習Ⅴ(専門)	選択	4	山本美香	20308(PC教室)																				
		ソーシャルワーク演習Ⅴ(専門)	選択	4	志村健一	20309(PC教室)																				
	ソーシャルワーク演習Ⅴ(専門)	選択	4	八木裕子	20403																					
	ソーシャルワーク演習Ⅴ(専門)	選択	4	早坂聡久	20404																					
	ソーシャルワーク演習Ⅴ(専門)	選択	4	戸井宏紀	20406																					
	ソーシャルワーク演習Ⅴ(専門)	選択	4	佐藤亜樹	20412																					
	こころとからだのしくみⅠ	選択	1～4	山口由美	20402																					
子ども支援学科	海外保育フィールドワーク	選択	1～4	鈴木崇之ほか	保育実習室(準備室含)	子どもの健康と安全	選択	3	嶋崎博嗣	20301、体育館	保育原理	選択	1	高山静子	20207、保育実習室(準備室含)	国語表現法	選択	1～4	高橋直美	20407	子ども支援学演習ⅡA	必修	2	鈴木崇之ほか	20201、20202、20208、20304	
	子どもの健康と安全	選択	3	嶋崎博嗣	20303、体育館	社会的養護内容	選択	2	鈴木崇之	20404	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	選択	3	南野奈津子ほか	20403	社会的養護内容	選択	2	鈴木崇之	20201、20202、20203、20204、20208、保育実習室(準備室含)	子どもの権利と教育	選択	1～4	内田塔子	20401	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	選択	2	鈴木崇之ほか	20311	特別支援教育・保育Ⅰ	選択	2	南野奈津子	20401	保育実習指導Ⅲ(施設)	選択	4	鈴木崇之ほか	20311、20401、20402	保育実習指導ⅠB(保育所)	選択	3	内田千春ほか		子どもの権利と教育	選択	3	中道直子	20407	
	特別支援教育・保育Ⅰ	選択	1	南野奈津子	20401	特別支援教育・保育Ⅱ	選択	2	篠沢薫	20401	保育音楽表現技術Ⅰ	選択	2～4	山原麻紀子ほか	20401、20402	保育実習指導ⅠB(保育所)	選択	2～4	山原麻紀子ほか	保育音楽表現技術Ⅰ	子ども家庭支援の心理学	選択	3	内田塔子	20407	
	特別支援教育・保育Ⅱ	選択	2	篠沢薫	20302	保育内容総論	選択	1	内田千春	20413	保育音楽表現技術Ⅰ	選択	2～4	山原麻紀子ほか	20401、20402	保育実習指導ⅠB(保育所)	選択	2～4	山原麻紀子ほか	保育音楽表現技術Ⅰ	子ども家庭支援の心理学	選択	3	内田塔子	20407	
人間環境デザイン学科	建築歴史意匠A	選択	1	名取発	20502	ユニバーサルデザイン概論	必修	1	菅原麻衣子	20502	人間環境デザイン基礎演習Ⅰ	必修	1	池田千登勢ほか	20305、20404、20406、20412、20413、20501、20507	人間環境デザイン基礎演習Ⅰ	必修	1	池田千登勢ほか	20305、20404、20406、20412、20413、20501、20507	人間環境デザイン基礎演習Ⅰ	必修	1	池田千登勢ほか	20305、20404、20406、20412、20413、20501、20507	
	環境設計演習	選択	4	菅原麻衣子	20310	福祉デザイン工学概論	選択	2	嶺也守寛	20405	住居計画	選択	2	水村容子	20405	プロダクトデザイン演習ⅡA	必修	4	池田千登勢ほか	制作工房	プロダクトデザイン演習ⅡA	必修	4	池田千登勢ほか	制作工房	
						プロダクトデザインⅠ	選択	3～4	池田千登勢	20501	デザイン工学基礎	選択	2	高橋良至	20208	空間デザイン演習ⅡA	必修	4	名取発ほか	制作工房	空間デザイン演習ⅡA	必修	4	名取発ほか	制作工房	
						調査分析のデザイン	選択	3～4	富安亮輔		環境デザイン論	選択	2	仲綾子	20205、20308(PC教室)	生活環境デザイン演習ⅡA	必修	4	水村容子ほか	制作工房	生活環境デザイン演習ⅡA	必修	4	水村容子ほか	制作工房	
																プロダクトデザイン演習ⅡA	必修	4	池田千登勢ほか	制作工房	プロダクトデザイン演習ⅡA	必修	4	池田千登勢ほか	制作工房	
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	エアロビクス指導法	選択	2～4	鈴木智子	多目的室2	障がい者スポーツ論	選択	2～4	金子元彦	20507	ベーシック・トレーニング	必修	1	平田昂大	多目的室1	ベーシック・トレーニング	必修	1	平田昂大	多目的室1	養護概説	選択	1	内山有子	20304
		センシング技術	選択	2	大澤清	120人教室401	スポーツ史	選択	2～4	熊澤拓也	20207	精神保健学	選択	1～4	上田将史	20502	国際交流論	選択	2～4	木内明	20405	ベーシック・トレーニング	必修	1	二橋元紀	多目的室2
						労働衛生Ⅰ	選択	3～4	信太直己	20407	生活習慣と健康	選択	1～4	神野宏司	120人教室	スポーツ政策論	選択	2～4	山下玲	20502	アスレティックトレーニング指導法	選択	2～4	笹木正悟	多目的室1	
	栄養科学科	食品学実験Ⅱ	選択必修	2	佐藤綾美ほか	食品栄養学実験室	基礎化学Ⅰ	必修	1	石田達也	120人教室402	基礎栄養学	必修	1	太田昌子	120人教室402	食品学実験Ⅱ	選択必修	2	佐藤綾美ほか	食品栄養学実験室	有機化学Ⅱ	選択必修	3	石田達也	80人教室302
		解剖生理学実験	選択必修	3	加藤和則ほか	食品機能学実験室	食品学実験Ⅱ	選択必修	2	佐藤綾美ほか	食品栄養学実験室	食品学実験Ⅱ	選択必修	2	佐藤綾美ほか	食品栄養学実験室	解剖生理学実験	選択必修	3	加藤和則ほか	食品機能学実験室					
					公衆衛生学実習室	解剖生理学実験	選択必修	3	加藤和則ほか	公衆衛生学実習室	解剖生理学実験	選択必修	3	加藤和則ほか	公衆衛生学実習室											
教職科目	教育実習Ⅰ(事前・事後指導を含む)	選択	4	平野智之ほか	30301、30302、30303												保健体育科教育法Ⅰ	選択	2	平野智之ほか	20301、20207					
	教育実習Ⅱ(事前・事後指導を含む)	選択	4	平野智之ほか	30301、30302、30303																					

春		1 限 (9:00~10:30)					2 限 (10:40~12:10)					3 限 (13:00~14:30)					4 限 (14:40~16:10)					5 限 (16:20~17:50)				
水		科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室
基盤教育科目							中国語Ⅰ	選択	1~4	安藤潤一郎	20302	外国語文学	選択	1~4	工藤紅	20403	政治学	選択	1~4	上田知亮	20403	現代化学	選択	1~4	石田達也	20407
							英語ⅢA	必修	2	ジェフブルース	20307(PC教室)	Intercultural Communication SkillsⅡA	選択	1~4	阿久津純恵	20304	地域文化研究	選択	1~4	シゲンギン	20305	環境政策論	選択	1~4	濱泰一	20403
							英語ⅢA	必修	2	尾関麻美	20404	プレゼンテーション技法	選択	1~4	深谷秀樹	20405	中国語および中国語圏社会事情	選択	1~4	安藤潤一郎	20208	ダイバーシティ論	選択	1~4	田所聖志	20404
							英語ⅣA	必修	2	竹内幸子	20412	全学総合A	選択	1~4	長谷川琢哉	20208	English Test PreparationⅠ	選択	1~4	山本綾	20405	地域マネジメント	選択	1~4	林大介	20405
社会福祉学科							英語ⅣA	必修	2	木下ひろみ	20301	英語ⅠA	必修	1	尾関麻美	20413	アントレプレナーシップ	選択	3~4	林大介	20406	スポーツ健康科学実技Ⅲ	選択	1~4	関根明治	多目的室2
							英語ⅣA	必修	2	EGITIM,Soyhan	20406	英語ⅠA	必修	1	竹内幸子	20404	英語ⅠA	必修	1	竹内幸子	20404					
							英語ⅣA	必修	2	THOMSON,Blair	20310	英語ⅡA	必修	1	木下ひろみ	20412	英語ⅠA	必修	1	木下ひろみ	20402					
							英語ⅣA	必修	2	英語ⅡA		英語ⅡA	必修	1	EGITIM,Soyhan	20402	英語ⅠA	必修	1	工藤貴恵	20202					
福祉社会デザイン学部							英語ⅣA	必修	2	英語ⅡA		英語ⅡA	必修	1	阿久津純恵	20303	英語ⅡA	必修	1	EGITIM,Soyhan	20401					
							英語ⅣA	必修	2	英語ⅡA		英語ⅡA	必修	1	THOMSON,Blair	20301	英語ⅡA	必修	1	佐藤美保	20301					
							英語ⅣA	必修	2	英語ⅡA		英語ⅡA	必修	1	荒川俊也	20309(PC教室)	英語ⅡA	必修	1	THOMSON,Blair	20304					
							英語ⅣA	必修	2	英語ⅡA		英語ⅡA	必修	1	林大介	20501	英語ⅡA	必修	1	THOMSON,Blair	20304					
人間環境デザイン学科							英語ⅣA	必修	2	英語ⅡA		英語ⅡA	必修	1	荒川俊也	20309(PC教室)	英語ⅡA	必修	1	THOMSON,Blair	20304					
							英語ⅣA	必修	2	英語ⅡA		英語ⅡA	必修	1	林大介	20501	英語ⅡA	必修	1	THOMSON,Blair	20304					
							英語ⅣA	必修	2	英語ⅡA		英語ⅡA	必修	1	荒川俊也	20309(PC教室)	英語ⅡA	必修	1	THOMSON,Blair	20304					
							英語ⅣA	必修	2	英語ⅡA		英語ⅡA	必修	1	林大介	20501	英語ⅡA	必修	1	THOMSON,Blair	20304					
健康スポーツ科学部							英語ⅣA	必修	2	英語ⅡA		英語ⅡA	必修	1	荒川俊也	20309(PC教室)	英語ⅡA	必修	1	THOMSON,Blair	20304					
							英語ⅣA	必修	2	英語ⅡA		英語ⅡA	必修	1	林大介	20501	英語ⅡA	必修	1	THOMSON,Blair	20304					
							英語ⅣA	必修	2	英語ⅡA		英語ⅡA	必修	1	荒川俊也	20309(PC教室)	英語ⅡA	必修	1	THOMSON,Blair	20304					
							英語ⅣA	必修	2	英語ⅡA		英語ⅡA	必修	1	林大介	20501	英語ⅡA	必修	1	THOMSON,Blair	20304					
教職科目							英語ⅣA	必修	2	英語ⅡA		英語ⅡA	必修	1	荒川俊也	20309(PC教室)	英語ⅡA	必修	1	THOMSON,Blair	20304					
							英語ⅣA	必修	2	英語ⅡA		英語ⅡA	必修	1	林大介	20501	英語ⅡA	必修	1	THOMSON,Blair	20304					
							英語ⅣA	必修	2	英語ⅡA		英語ⅡA	必修	1	荒川俊也	20309(PC教室)	英語ⅡA	必修	1	THOMSON,Blair	20304					
							英語ⅣA	必修	2	英語ⅡA		英語ⅡA	必修	1	林大介	20501	英語ⅡA	必修	1	THOMSON,Blair	20304					

春		木		1 限〔9：00～10：30〕				2 限〔10：40～12：10〕				3 限〔13：00～14：30〕				4 限〔14：40～16：10〕				5 限〔16：20～17：50〕													
				科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室										
基盤教育科目				情報リテラシーⅠ	必修	1～4	呉海鍾ほか	20307(PC教室)、 20308(PC教室)、 20309(PC教室)	留学のすすめ 情報リテラシーⅠ 総合C	選択 必修 選択	1～4 1～4 1～4	水松巳奈 呉海鍾ほか 菊地章太	20413 20307(PC教室)、 20308(PC教室)、 20309(PC教室) 20301	日本文学 統計学 テクニカルライティング スポーツ健康科学実技Ⅲ	選択 選択 選択 選択	1～4 1～4 1～4 1～4	高橋直美 五月女仁子 小早川裕子 田中宏和	20207 20201 20309(PC教室) 体育館	異文化理解概論 口頭表現法 基礎会計学 総合F(先端テクノロジー)	選択 選択 選択 選択	1～4 1～4 1～4 1～4	水松巳奈 高橋直美 橋本英重 鶴巻崇	20413 20207 20507 20311	心理学 全学総合F 総合D スポーツ健康科学実技Ⅲ	選択 選択 選択 選択	1～4 1～4 1～4 1～4	安齊順子 稲垣諭 菊地章太 小嶋信之	20507 20311 20413 多目的室2					
				福祉社会デザイン学部				社会福祉学科	障害者福祉 保健医療と福祉 質的調査法 医療的ケアⅢ	選択 選択 選択 選択	1 2 2～4 4	是枝喜代治 吉浦輪 志村健一 渡辺裕美ほか	20407 20406 20501 介護実習室(入浴・更衣室等兼)	アドミニストレーション論 社会統計学 ソーシャルワーク実習指導Ⅱ 生活支援技術Ⅲ	選択 選択 選択 選択	1 2～4 3 2	伊奈川秀和 服部慶亘 志村健一ほか 菅原成臣	20310 20401 ----- 20402、体育館	医学概論 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 生活支援技術Ⅵ	選択 選択 選択	1 2 3	内藤典子 志村健一ほか 古川和稔	20502 ----- 介護実習室(入浴・更衣室等兼)	欧米の社会福祉史 権利擁護を支える法制度 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ 貧困に対する支援 SDGs入門 社会福祉の権利 医療福祉演習Ⅰ 生活支援技術Ⅱ	選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択	1 2～3 2～3 2～3 2～4 3～4 3～4 2	金子光一 是枝喜代治 山本美香 川原恵子 阿久津純恵 戸井宏紀 吉浦輪 古川和稔	20501 20402 20406 20208 20201 20412 20310 介護実習室(入浴・更衣室等兼)	社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択	4 4 4 4 4 4 4 4 2	山本美香 志村健一 八木裕子 早坂聡久 戸井宏紀 佐藤亜樹 吉田光爾 古川和稔 小野道子 高野龍昭	20304 20305 20306(AL教室) 20307(PC教室) 20308(PC教室) 20309(PC教室) 20310 20403 20404 20501
								子ども支援学科	子どもの保健	選択	2	内山有子	20208	子どもと健康 子どもと文学	選択 選択	1 1～4	嶋崎博嗣 高橋直美	20403 20502	子どもと健康 保育内容の指導法(音楽表現)	選択 選択	1 3	嶋崎博嗣 山原麻紀子	20403 音楽実習室(準備室兼)	保育内容の指導法(音楽表現)	選択	3	山原麻紀子	音楽実習室(準備室兼)					
								人間環境デザイン学科					インテリアデザイン 材料力学	選択 選択	2 3～4	佐々木龍郎 鈴木英之	20312 20507	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ プロダクトデザイン基礎 都市計画論 情報デザインⅠ	必修 選択 選択 選択	2 1 3～4 2	水村容子ほか 大沼敦 齋藤博 松本和也	20202、20203、 20204、20205、 20407 20406 20311 20308(PC教室)、20501	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ	必修	2	水村容子ほか	20202、20203、 20204、20205、 20407	人間環境デザイン基礎演習Ⅲ	必修	2	水村容子ほか	20202、20203、 20204、20205、 20407	
健康スポーツ科学部				健康スポーツ科学科	健康スポーツキャリアデザインA スポーツ栄養学Ⅰ スポーツマーケティング スポーツダイナミクス解析	必修 選択 選択 選択	1 2～4 2～4 3	木内明ほか 高田和子ほか 谷塚哲 工藤重忠	20502 20507 20207 120人教室	国際健康スポーツ交流A アスリートの健康(予防とマネジメント) 力学演習 健康政策と行政	必修 選択 選択 選択	1 2～4 2 2～4	木内明ほか 二橋元紀ほか 工藤重忠 齊藤恭平	20407、20203、20304、20305 20406 20405 20313	スポーツマネジメント 免疫と薬理 健康スポーツボランティア活動A 健康スポーツボランティア活動B 子ども健康スポーツ指導法 スポーツ医学Ⅱ(整形外科)	選択 選択 選択 選択 選択 選択	1～4 1～4 1～4 1～4 2～4 2～4	谷塚哲 加藤和則 齊藤恭平 山下玲 鈴木智子 米澤郁穂	20507 20402 120人教室 120人教室401 多目的室2 20405	健康・スポーツの自然科学 トレーニング概論	必修 必修	1 2	今有礼ほか 安達玄	20502 20313	運動生理学Ⅰ 労働安全衛生法Ⅰ バイオメカニクス実習	選択 選択 選択	1～4 3～4 2	今有礼 田中建一 工藤重忠	20502 20405 実習室5(バイメカ)				
				栄養科学科	調理実習 細胞生物学実験 栄養疫学実習Ⅰ(観察疫学)	選択必修 必修 選択必修	1 2 3	阿部真紀 矢野友啓ほか 吉崎貴大ほか	調理実習室 細胞生物学実験室 栄養疫学実習室	調理実習 細胞生物学実験 栄養疫学実習Ⅰ(観察疫学)	選択必修 必修 選択必修	1 2 3	阿部真紀 矢野友啓ほか 吉崎貴大ほか	調理実習室 細胞生物学実験室 栄養疫学実習室	調理実習 栄養マネジメント(運営理論) 食理学Ⅰ 健康づくりと運動プログラム	選択必修 選択必修 選択必修 選択必修	1 2 3 3	阿部真紀 芹澤奈保 矢野友啓 大上安奈	調理実習室 120人教室402 80人教室301 80人教室302	調理実習 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅰ	選択必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	1 3 3 3 3 3 3 3 3 3	阿部真紀 石田達也 宮越雄一 太田昌子 大上安奈 高田和子 矢野友啓 加藤和則 佐藤綾美 吉崎貴大 小西可奈	調理実習室 120人教室 120人教室401 120人教室402 80人教室301 80人教室302 40人教室401 40人教室402 40人教室402 40人教室403 40人教室404 40人教室405	健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅲ	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	石田達也 宮越雄一 太田昌子 大上安奈 高田和子 矢野友啓 加藤和則 佐藤綾美 吉崎貴大 小西可奈	120人教室 120人教室401 120人教室402 80人教室301 80人教室302 40人教室401 40人教室402 40人教室402 40人教室403 40人教室404 40人教室405				
				教職科目									職業指導Ⅰ	選択	3～4	千葉吉裕	20501	保健体育科指導法Ⅰ	選択	3	内山有子	20401	保健体育科指導法Ⅰ	選択	3	内山有子	20401						

春		金		1 限 〔9：00～10：30〕				2 限 〔10：40～12：10〕				3 限 〔13：00～14：30〕				4 限 〔14：40～16：10〕				5 限 〔16：20～17：50〕						
				科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室			
基盤教育科目		英語および英語圏社会事情 日本語Ⅰ スポーツ健康科学実技Ⅰ	選択 選択 選択	1～4 1～4 1～4	山本綾 高橋織恵 奥村拓朗	20205 20412 体育館	数学 日本事情Ⅰ スポーツ健康科学講義Ⅰ	選択 選択 選択	1～4 1～4 1～4	平沢隆之 高橋織恵 細谷洋子	20406 20412 80人教室301	物理学 ドイツ語Ⅰ 英語ⅠA 英語ⅠA 英語ⅠA 英語ⅡA 英語ⅡA 英語ⅡA 英語ⅡA 英語ⅡA 英語ⅡA スポーツ健康科学実技Ⅰ	選択 選択 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択	1～4 1～4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1～4	平沢隆之 小山田豊 イアンハート 林順子 阿久津純恵 山本綾 EGITIM,Soyhan MAGNUSSON,David THOMSON,Blair HEIN,Patrick 安達玄	20207 20311 20201 20303 20310 20208 20403 20404 20412 20413 体育館	地域文化研究A ドイツ語およびドイツ語圏社会事情 英語ⅢA 英語ⅢA 英語ⅢA 英語ⅢA 英語ⅣA 英語ⅣA 英語ⅣA 英語ⅣA 英語ⅣA	選択 選択 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	1～4 1～4 2 2 2 2 2 2 2 2 2	宮原温子 小山田豊 浅間正通 林順子 イアンハート 阿久津純恵 EGITIM,Soyhan MAGNUSSON,David HEIN,Patrick THOMSON,Blair	20405 20311 20208 20303 20301 20310 20401 20403 20404 20412	地域文化研究C キャリアデザイン入門 全学総合L 英語ⅠA 英語ⅠA 英語ⅠA 英語ⅡA 英語ⅡA 英語ⅡA 英語ⅡA	選択 選択 選択 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	1～4 1 1～4 1 1 1 1 1 1 1	細田和江 小島貴子 谷釜尋徳 林順子 EGITIM,Soyhan 浅間正通 MAGNUSSON,David THOMSON,Blair HEIN,Patrick	20413 20501 20311 20303 20402 20301 20403 20401 20401 20412
		福祉社会デザイン学部		現代の精神保健の課題と支援Ⅰ ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（専門）（精神） 介護教育方法	選択 選択 選択	1 2 3～4	吉田光爾 稲沢公一 渡辺裕美ほか	20507 20501 20202	社会福祉の原理と政策Ⅰ 精神医学と精神医療Ⅰ	必修 選択	1 2	金子光一 吉田光爾	20502 20402	精神保健福祉の原理Ⅰ 介護過程Ⅳ	選択 選択	2 4	稲沢公一 高野龍昭	20406 20402	社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ 社会福祉学専門演習Ⅲ	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	渡辺道代 荻野剛史 高山直樹 金子光一 渡辺裕美 的場智子 高野龍昭 川原恵子 加山弾 吉浦輪 林大介	20201 20202 20203 20204 20205 20206 20207 20305 20306（AL教室） 20307（PC教室） 20312（180名教室）	高齢者福祉 生活支援のための運動学とリハビリテーション	選択 選択	1 3～4
子ども支援学概論 幼児教育方法（情報機器の活用を含む）	必修 選択			1 3	鈴木崇之ほか 相馬靖明	20406	子どもの理解と援助	選択	3	高橋健介	20301	子どもの理解と援助 保育内容の指導法（環境）	選択 選択	3 3	高橋健介 木村歩美	20301 20302	保育内容の指導法（環境）	選択	3	木村歩美	20302	ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	選択	4	鈴木崇之	20304
人間環境デザイン学科	CAD演習Ⅱ			選択	2	松本和也ほか	20306（PC教室）、20309（PC教室）	CAD演習Ⅱ デザイン特別講義 構法計画	選択 選択 選択	2 3～4 3～4	松本和也ほか 池田千登勢ほか 名取寛	20407 20507	CAD演習Ⅱ 構法計画演習	選択 選択	2 3～4	松本和也ほか 名取寛	20507	生活支援デザイン概論 CAD演習Ⅱ	選択 選択	1 2	勝平純司 松本和也ほか	20507 20308（PC教室）、20309（PC教室）				
健康スポーツ科学部		アダプテッドスポーツ実習 健康スポーツ特別演習A 健康づくり運動指導法実習	選択 選択 選択	1～4 2～4 2～4	金子元彦 木内明 鈴木智子	体育館 80人教室301 プール（ルネサンス赤羽）、武道場1	健康スポーツ情報 生理・生化学実習	選択 選択	1 2	大澤清 古川寛	20405 実習室3（生理生化学）	スポーツのコーチング理論Ⅰ 学校環境衛生実習 レクリエーション論	選択 選択 選択	2 2～4 1～4	江田香織 神野宏司 細谷洋子	20407 実習室6（保健科学） 20401	健康スポーツアクティビティⅠA 健康スポーツアクティビティⅠA 健康スポーツアクティビティⅠA 健康スポーツアクティビティⅢA 健康スポーツアクティビティⅢA 健康スポーツアクティビティⅢA 健康スポーツアクティビティⅢA 運動生理学実習 身体文化論 シミュレーション演習	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択 選択 選択	1 1 1 1 1 1 1 1 2～4 3	本田雅一 藤本武司 奥村拓朗 藤村武 日高哲郎 竹々原佳苗 鈴木智子 細谷洋子 今有礼 岩瀬裕子 大澤清	体育館 体育館 体育館 体育館 多目的室1 多目的室2 武道場1 武道場2 実習室2（運動生理） 20407 120人教室	健康スポーツアクティビティⅠC 健康スポーツアクティビティⅠC 健康スポーツアクティビティⅠC 健康スポーツアクティビティⅠC スポーツのコーチング演習Ⅱ	必修 必修 必修 必修 必修 選択	2 2 2 2 2 3	本田雅一 藤本武司 奥村拓朗 藤村武 新谷昂	体育館 体育館 体育館 体育館 体育館、20405
		細胞生物学実験 スポーツ栄養学実習	必修 必修	2 3	矢野友啓ほか 高田和子ほか	細胞生物学実験室 スポーツ栄養学実習室 栄養教育学実習室	細胞生物学実験 スポーツ栄養学実習	必修 必修	2 3	矢野友啓ほか 高田和子ほか	細胞生物学実験室 スポーツ栄養学実習室 栄養教育学実習室	スポーツ栄養学実習 栄養疫学実習Ⅰ（観察疫学） 実践食文化（3大宗教と食文化） 健康づくり運動の実際（水泳・水中運動）	必修 選択必修 選択 選択	3 3 1 2	高田和子ほか 吉崎貴大ほか 峰松明也子 鈴木智子	スポーツ栄養学実習室 栄養疫学実習室 120人教室401 プール（ルネサンス 赤羽）	スポーツ栄養学実習 栄養疫学実習Ⅰ（観察疫学） 健康づくり運動の実際（水泳・水中運動） スポーツ心理学 健康スポーツキャリアデザインA	必修 選択必修 選択 選択 必修	3 3 2 2 1	高田和子ほか 吉崎貴大ほか 鈴木智子 江田香織 小島貴子	スポーツ栄養学実習室 栄養教育学実習室 栄養疫学実習室 プール（ルネサンス 赤羽） 120人教室402 120人教室401	栄養生化学 臨床栄養学	選択必修 選択必修	2 3	佐藤綾美 濱谷亮子	120人教室401 120人教室402
教職科目		看護学Ⅰ	選択	1	櫻井しのぶほか	120人教室401	スポーツ実習・指導法（ダンス） スポーツ実習・指導法（水泳）	選択 選択	2 2	松本大樹 和田壮生ほか	多目的室1、多目的室2 プール（ルネサンス 赤羽）	道徳教育論 スポーツ実習・指導法（水泳）	選択 選択	3 2	金澤信之 和田壮生ほか	20405 プール（ルネサンス 赤羽）	スポーツ実習・指導法（水泳）	選択	2	和田壮生ほか	プール（ルネサンス 赤羽）					

春	土	1 限 〔9：00～10：30〕				2 限 〔10：40～12：10〕				3 限 〔13：00～14：30〕				4 限 〔14：40～16：10〕				5 限 〔16：20～17：50〕								
		科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室					
基盤教育科目		IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking	選択	1～4	ウィルソンマシュー	20206	IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking	選択	1～4	ウィルソンマシュー	20206	IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking	選択	1～4	ウィルソンマシュー	20206	IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking	選択	1～4	ウィルソンマシュー	20206	Pre-Study Abroad Listening/Speaking	選択	1～4	モーレルクリスチャンロバート	20206
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科																									
	子ども支援学科																									
	人間環境デザイン学科						リハビリテーション工学	選択	3～4	河合俊宏	20207	表現手法	選択	3～4	櫻井誠也	20208	表現手法	選択	3～4	櫻井誠也	20208					
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科																									
	栄養科学科						健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	石田達也 宮越雄一 太田昌子 大上安奈 高田和子 矢野友啓 加藤和則 佐藤綾美 吉崎貴大 小西可奈	120人教室401 120人教室402 120人教室 80人教室301 80人教室302 40人教室401 40人教室402 40人教室403 40人教室404 40人教室405	健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習A	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	石田達也 宮越雄一 太田昌子 大上安奈 高田和子 矢野友啓 加藤和則 佐藤綾美 吉崎貴大 小西可奈	120人教室401 120人教室402 120人教室 80人教室301 80人教室302 40人教室401 40人教室402 40人教室403 40人教室404 40人教室405										
教職科目																工芸科指導法Ⅰ	選択	3	川人武	多目的室(家政・図画工作)	工芸科指導法Ⅰ	選択	3	川人武	多目的室(家政・図画工作)	

秋	月	1 限〔9：00～10：30〕					2 限〔10：40～12：10〕					3 限〔13：00～14：30〕					4 限〔14：40～16：10〕					5 限〔16：20～17：50〕					
		科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	
基盤教育科目		全学総合I	選択	1～4	榊原圭子	20311	英語ⅠB 英語ⅠB 英語ⅠB 英語ⅡB 英語ⅡB 英語ⅡB	必修 必修 必修 必修 必修 必修	1 1 1 1 1 1	山本伍紀 梅宮悠 EGITIM,Soyhan OOBOGNE,Marilyn THOMSON,Blair LAVELLE,Dawn	20204 20310 20304 20303 20301 20403	情報リテラシーⅡ 総合A 英語ⅢB 英語ⅢB 英語ⅢB 英語ⅣB 英語ⅣB 英語ⅣB	選択 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	1～4 1～4 2 2 2 2 2 2	安原七重ほか 高橋直美 OOBOGNE,Marilyn 山本綾 山本伍紀 梅宮悠 FERN,Glenn LAVELLE,Dawn	20501 20303 20303 20304 20204 20306(AL教室) 20403 20202	宗教学 英語ⅢB 英語ⅢB 英語ⅢB 英語ⅣB 英語ⅣB 英語ⅣB スポーツ健康科学実技Ⅱ	選択 必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択	1～4 2 2 2 2 2 2 1～4	菊地章太 山本伍紀 MARIKKAR,Fathima 梅宮悠 OOBOGNE,Marilyn LAVELLE,Dawn FERN,Glenn 新谷昂	20407 20303 20206 20304 20403 20501 20405 体育館	全学総合E	選択	1～4	後藤隆彰	20311	
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科	ソーシャルワーク演習Ⅳ(専門) ソーシャルワーク演習Ⅳ(専門) ソーシャルワーク演習Ⅳ(専門) ソーシャルワーク演習Ⅳ(専門) ソーシャルワーク演習Ⅳ(専門) ソーシャルワーク演習Ⅳ(専門) ソーシャルワーク演習Ⅳ(専門) 生活支援技術Ⅰ こころとからだのしくみⅢ	選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択	3 3 3 3 3 3 3 1 1～4	川原恵子 加山弾 吉浦輪 山本美香 志村健一 八木裕子 早坂聡久 戸井宏紀 古川和稔ほか 山口由美	20205 20302 20303 20304 20305 20306(AL教室) 20307(PC教室) 20308(PC教室) 20401	ソーシャルワーク演習Ⅱ(専門) ソーシャルワーク演習Ⅱ(専門) ソーシャルワーク演習Ⅱ(専門) ソーシャルワーク演習Ⅱ(専門) ソーシャルワーク演習Ⅱ(専門) ソーシャルワーク演習Ⅱ(専門) ソーシャルワーク演習Ⅱ(専門) 生活支援技術Ⅰ 生活支援技術Ⅱ	選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択 選択	2 2 2 2 2 2 2 1 3	佐藤亜樹 吉田光爾 古川和稔 稲沢公一 渡辺道代 荻野剛史 高山直樹 金子光一 古川和稔ほか 大塚順子	20305 20306(AL教室) 20307(PC教室) 20308(PC教室) 20309(PC教室) 20201 20202 20203 20413	社会福祉学総合演習Ⅱ 社会開発論 介護総合演習Ⅰ 発達と老化の理解	選択必修 選択 選択 選択	2 1 1 1～4	稲沢公一ほか 岡安朋子ほか 八木裕子 島内晶	20201 20203 介護実習室(入浴・更衣室等兼用) 20206	介護過程Ⅰ	選択	1	八木裕子	20310	認知症の理解Ⅰ	選択	1～4	渡邊浩文	20304	
	子ども支援学科	教育制度論 子どもソーシャルワーク 保育内容の指導法(人間関係) ソーシャルワーク演習Ⅱ(専門)	必修 選択必修 選択 選択	1 3 2 2	内田塔子 南野奈津子 篠沢薫 佐藤昭洋	20301 20407 20501 20202	教育と福祉 保育内容の指導法(人間関係) ソーシャルワーク実習指導Ⅲ 保育音楽表現技術Ⅱ	選択 選択 選択 選択	1～4 2 3 2～4	内田塔子 篠沢薫 南野奈津子ほか 山原麻紀子	20311 20501 20412	子ども支援学演習ⅡB 児童・家庭福祉 教育実習Ⅲ(事前・事後指導を含む) 保育音楽表現技術Ⅱ	必修 選択 選択 選択	2 1 3 2～4	鈴木崇之ほか 南野奈津子 高橋健介ほか 山原麻紀子	20205、20301、 20302、20310 20405	子ども支援学演習ⅣB 子ども支援学演習ⅣB 子ども支援学演習ⅣB 子ども支援学演習ⅣB 子ども支援学演習ⅣB 子ども支援学演習ⅣB 子ども支援学演習ⅣB 子ども支援学演習ⅣB 子ども支援学演習ⅣB 子どもと表現Ⅰ	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 選択	4 4 4 4 4 4 4 4 4 1	中道直子 内田千春 高橋直美 内田塔子 高橋健介 伊藤美佳 嶋崎博嗣 鈴木崇之 高山静子 南野奈津子 山原麻紀子 山原麻紀子ほか	20301 20302 20306(AL教室) 20307(PC教室) 20308(PC教室) 20309(PC教室) 20311 20401 20402 20406 20507	子どもと表現Ⅰ 保育実習指導ⅠA(施設) 体育あそびの実践	選択 選択 選択	1 2 2～4	山原麻紀子ほか 鈴木崇之ほか 嶋崎博嗣	20205、20206、 20207、20208、 20301、20302	体育館
	人間環境デザイン学科	医療福祉建築計画	選択	3～4	仲綾子	20405	製品と情報のUD 生活空間計画 建築とまちのUD 福祉デザイン工学各論 メカトロニクス・デザイン	選択 選択 選択 選択 選択	1 2 3～4 3～4 3～4	池田千登勢 富安亮輔 菅原麻衣子 嶺也守寛 高橋良至	20507 20407 20401 20208 20402	人間環境デザイン基礎演習Ⅱ 福祉住環境コーディネート論 プロダクトデザインⅡ	必修 選択 選択	1 3～4 3～4	大沼敦ほか 水村容子 柏樹良	20305、20404、 20412、20413、 20502 20507 20402	人間環境デザイン基礎演習Ⅱ 空間デザイン演習ⅡB 生活環境デザイン演習ⅡB プロダクトデザイン演習ⅡB	必修 必修 必修 必修	1 4 4 4	大沼敦ほか 名取発ほか 水村容子ほか 池田千登勢ほか	20305、20404、 20412、20413、 20502 制作工房 制作工房 制作工房	人間環境デザイン基礎演習Ⅱ 空間デザイン演習ⅡB 生活環境デザイン演習ⅡB プロダクトデザイン演習ⅡB	必修 必修 必修 必修	1 4 4 4	大沼敦ほか 名取発ほか 水村容子ほか 池田千登勢ほか	20305、20404、 20412、20413、 20502 制作工房 制作工房 制作工房	
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	高齢者健康スポーツ指導法 スポーツ社会学	選択 選択	2～4 2～4	神野宏司 熊澤拓也	多目的室1、実習室4(保健科学) 20207	スポーツとメディア スポーツのコーチング理論Ⅱ スポーツ施設マネジメント 労働衛生Ⅱ	選択 選択 選択 選択	2～4 2 2～4 3～4	谷塚哲 水島淳 山下玲 信太直己	20406 20312(180名教室) 20313(200名教室) 20207	ベーシック・トレーニング 生涯スポーツ論 国際開発論 外国語文献講読	必修 選択 選択 選択	1 1～4 1～4	平田昂大 細谷洋子 木内明	多目的室1 20207 80人教室301	ベーシック・トレーニング 健康教育学 国際開発論 アスレティックコンディショニング演習	必修 選択 選択 選択	1 2～4 2～4 2～4	平田昂大 神野宏司 木内明 二橋元紀	多目的室1 20207 20313 実習室1(講義室・演習室)	ベーシック・トレーニング 危機管理と救急法 外国語文献講読 スポーツの法と倫理 アスレティックトレーニング指導法	必修 選択 選択 選択 選択	1 1～4 1～4 2～4 2～4	安達玄 内山有子 水島淳 竹村瑞穂 二橋元紀	多目的室1 20407 80人教室302 20405 多目的室2	
	栄養科学科	基礎栄養学実験 栄養生化学実習 スポーツ栄養マネジメント(実践)	必修 必修 選択必修	1 2 3	太田昌子ほか 佐藤綾美ほか 小西可奈ほか	食品栄養学実験室 栄養生化学実習 スポーツ栄養学実習室	基礎栄養学実験 栄養生化学実習 スポーツ栄養マネジメント(実践)	必修 必修 選択必修	1 2 3	太田昌子ほか 佐藤綾美ほか 小西可奈ほか	食品栄養学実験室 栄養生化学実習 スポーツ栄養学実習室	基礎栄養学実験 栄養生化学実習 スポーツ栄養マネジメント(実践) 健康づくり運動の実践(レジスタンストレーニング)	必修 必修 選択 選択	1 2 3 2	太田昌子ほか 佐藤綾美ほか 小西可奈ほか 大上安奈	食品栄養学実験室 栄養生化学実習 スポーツ栄養学実習室 実習室7(トレーニング室)	基礎栄養学実験 栄養生化学実習 スポーツ栄養マネジメント(実践)	必修 必修 選択必修	1 2 3	太田昌子ほか 佐藤綾美ほか 小西可奈ほか	食品栄養学実験室 栄養生化学実習 スポーツ栄養学実習室	有機化学Ⅰ 応急手当法 健康づくり運動の実践(レジスタンストレーニング)	選択必修 選択必修 選択	2 3 2	石田達也 宮越雄一 大上安奈	120人教室402 80人教室301 実習室7(トレーニング室)	
教職科目		スポーツ実習・指導法(柔道) スポーツ実習・指導法(バドミントン)	選択 選択	2 2	久保潤二郎 金子元彦	武道場1 体育館	スポーツ実習・指導法(柔道)	選択	2	久保潤二郎	武道場1																

秋	木	1 限 〔9：00～10：30〕				2 限 〔10：40～12：10〕				3 限 〔13：00～14：30〕				4 限 〔14：40～16：10〕				5 限 〔16：20～17：50〕								
		科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室					
基盤教育科目		情報リテラシーⅡ	選択必修	1～4	安原七重ほか	20307 (PC教室)・ 20308 (PC教室)・ 20309 (PC教室)	総合B	選択	1～4	菊地章太	20501	アカデミックライティング 食と健康 スポーツ健康科学実技Ⅳ	選択 選択 選択	1～4 1～4 1～4	小早川裕子 小西可奈 田中宏和	20306 (AL教室) 20312 (180名教室) 体育館	文章読解 スポーツ健康科学講義Ⅱ	選択 選択	1～4 1～4	高橋直美 細谷洋子	20406 20312 (180名教室)	全学総合G 総合E スポーツ健康科学実技Ⅳ	選択 選択 選択	1～4 1～4 1～4	小林正夫 菊地章太 小嶋信之	20311 20413 体育館
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ 社会統計解析法 ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ (専門) 介護福祉援助概論Ⅱ	必修 選択 選択 選択	1 2～4 3 2	八木裕子 服部慶亙 志村健一ほか 渡辺裕美	20502 20501 20507 20310	社会福祉調査の応用 統計情報処理および実習 ソーシャルワーク実習Ⅰ ソーシャルアクション論 認知症の理解Ⅱ	選択 選択 選択 選択	1 1 2 2～4 1～4	志村健一 服部慶亙 志村健一ほか 早坂聡久 新田恵美	20311 20310 20202、20203、20204、 20205、20206、20208、20304、 20305、20306 (AL教室) 20412 20302	人間の幸福とペット ソーシャルワーク実習指導Ⅲ 介護総合演習Ⅲ	選択 選択 選択	2～4 3 2	佐藤亜樹 志村健一ほか 古川和稔ほか	20501 20202、20203、 20204、20205、 20206、20207、 20208、20304 20309 (PC教室)	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ 医療福祉演習Ⅱ 介護福祉援助概論Ⅰ	選択 選択 選択	2～3 3～4 1	加山弾 吉浦輪 古川和稔	20304 20310 20311	社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ 社会福祉学専門演習Ⅳ	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	古川和稔 加山弾 吉浦輪 山本美香 志村健一 八木裕子 早坂聡久 戸井宏紀 佐藤亜樹 吉田光爾 小野道子	20201 20202 20203 20204 20205 20206 20208 20303 20304 20305 20401
	子ども支援学科	多文化共生保育・教育 子どもの食と栄養 (実習含む)	必修 選択	3 1	内田千春ほか 太田百合子	20402、保育実習室 (準備室含) 20303、調理実習室、多目的 室 (家庭・図画工作)	多文化共生保育・教育 子どもの食と栄養 (実習含む) 乳児保育Ⅰ	必修 選択 選択	3 1 2	内田千春ほか 太田百合子 瀬川未佳	20402、保育実習室 (準備室含) 20303、調理実習室、多目的 室 (家庭・図画工作) 20406、保育実習室 (準備室含)	生活と総合学習 子どもの食と栄養 (実習含む) 音楽あそびの実践	選択 選択 選択	1～4 1 2～4	木村学 太田百合子 山原麻紀子	20303 20401、調理実習室、多目的 室 (家庭・図画工作) 音楽実習室 (準備室含)	子どもと人間関係 子どもの食と栄養 (実習含む) 保育内容の指導法 (健康)	選択 選択 選択	1 1 2	高橋健介 太田百合子 嶋崎博嗣	20405 20401、調理実習室、多目的 室 (家庭・図画工作) 体育館	子どもと人間関係 保育内容の指導法 (健康)	選択 選択	1 2	高橋健介 嶋崎博嗣	20405 体育館、体育館
	人間環境デザイン学科						設備計画 情報デザインⅡ	選択 選択	3～4 3～4	吉田崇 松本和也	20207 20308 (PC教室)	人間環境デザイン総合演習 都市・まちのデザイン	必修 選択	2 1	仲綾子ほか 齋藤博	20301、20302、20307 (PC 教室)、20308 (PC教室)、 20403、20404、20502 20507	人間環境デザイン総合演習	必修	2	仲綾子ほか	20301、20302、20307 (PC 教室)、20308 (PC教室)、 20403、20404、20502	人間環境デザイン総合演習	必修	2	仲綾子ほか	20301、20302、20307 (PC 教室)、20308 (PC教室)、 20403、20404、20502
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	健康スポーツキャリアデザインB ヘルスプロモーション論 健康栄養学	必修 選択 選択	1 2～4 2～4	岩本紗由美ほか 齊藤恭平 太田昌子ほか	20407 120人教室 20405	スポーツ哲学 スポーツのコーチング理論Ⅱ スポーツ人類学 機能解剖学	必修 選択 選択 選択	1 2 2～4 2～4	竹村瑞穂 新谷昂 木内明 宮越雄一	20502 20208 20405 20313 (200名教室)	スポーツと応急処置 スポーツビジネス 健康スポーツボランティア活動A 健康スポーツボランティア活動B 日本文化とスポーツ スポーツ医学Ⅰ (内科) スポーツとコンディショニング	選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択	1～4 1～4 1～4 1～4 2～4 2～4 3～4	二橋元紀 谷塚哲 齊藤恭平 山下玲 中嶋哲也 上村公介 岩本紗由美	多目的室2 20313 (200名教室) 80人教室302 120人教室 120人教室401 20407 20405	力学基礎 スポーツと応急処置 地域スポーツクラブ論 労働基準法	選択 選択 選択 選択	1 1～4 2～4 3～4	工藤重忠 安達玄 山下玲 田中建一	20207 多目的室1 20208 20507	スポーツ組織論 労働安全衛生法Ⅱ バイオメカニクス実習	選択 選択 選択	2～4 3～4 2	谷塚哲 田中建一 工藤重忠	20406 20407 実習室5 (バイメカ)
	栄養科学科	健康スポーツキャリアデザインB 栄養マネジメント (実践) 機器分析	必修 選択必修 選択必修	1 2 3	小島貴子 芹澤奈保ほか 石田達也	120人教室402 調理実習室 給食管理室 80人教室302	疫学 栄養マネジメント (実践) 行動経済学	必修 選択	1 2 3	塚本彩 芹澤奈保ほか 久米功一	120人教室402 調理実習室 給食管理室 80人教室302	細胞生物学 栄養マネジメント (実践) 食理学Ⅱ	必修 選択	1 2 3	加藤和則 芹澤奈保ほか 矢野友啓	120人教室402 調理実習室 給食管理室 80人教室301	栄養マネジメント (実践) 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅱ	選択必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	2 3 3 3 3 3 3 3 3 3	芹澤奈保ほか 石田達也 宮越雄一 太田昌子 大上安奈 高田和子 矢野友啓 加藤和則 佐藤綾美 吉崎貴大 小西可奈	調理実習室 給食管理室 120人教室401 120人教室402 120人教室 80人教室301 健康スポーツ科学演習Ⅳ 40人教室401 健康スポーツ科学演習Ⅳ 40人教室403 40人教室404 40人教室405	健康スポーツ科学演習Ⅳ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 健康スポーツ科学演習Ⅳ	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	石田達也 宮越雄一 太田昌子 大上安奈 高田和子 矢野友啓 加藤和則 佐藤綾美 吉崎貴大 小西可奈	120人教室401 120人教室402 120人教室 80人教室301 40人教室401 40人教室402 40人教室403 40人教室404 40人教室405
教職科目		スポーツ実習・指導法 (バドミントン)	選択	2	金子元彦	体育館	養護実習基礎演習 スポーツ実習・指導法 (剣道) スポーツ実習・指導法 (バスケットボール)	選択 選択 選択	3 2 2	内山有子 田中宏和 谷金尋徳	120人教室 武道場1 体育館	スポーツ実習・指導法 (陸上)	選択	3	塩田徹	タータン芝庭、グラウンド①										

秋	金	1 限 〔9：00～10：30〕					2 限 〔10：40～12：10〕					3 限 〔13：00～14：30〕					4 限 〔14：40～16：10〕					5 限 〔16：20～17：50〕				
		科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室
基盤教育科目		英語および英語圏社会事情	選択	1～4	山本綾	20205	日本事情Ⅱ	選択	1～4	高橋織恵	20412	ドイツ語Ⅱ	選択	1～4	小山田豊	20306 (AL教室)	キャリアデベロップメント	選択	3～4	松井広美	20406	文化人類学	選択	1～4	岩瀬裕子	20406
		日本語Ⅱ	選択	1～4	高橋織恵	20412	日本国憲法	選択	1～4	寺洋平	20407	英語ⅠB	必修	1	イアンハート	20501	英語ⅢB	必修	2	浅間正通	20208	キャリアデザイン実践	選択	2	小島貴子	20402
		社会貢献活動入門	選択	1～4	林大介	20207	ジェンダー論	選択	1～4	竹村瑞穂	20304	英語ⅠB	必修	1	林順子	20303	英語ⅢB	必修	2	林順子	20303	全学総合M	選択	1～4	谷釜尊徳	20311
		スポーツ健康科学実技Ⅱ	選択	1～4	奥村拓朗	体育館						英語ⅠB	必修	1	阿久津純恵	20310	英語ⅢB	必修	2	イアンハート	20301	英語ⅠB	必修	1	林順子	20303
											英語ⅠB	必修	1	山本綾	20208	英語ⅢB	必修	2	阿久津純恵	20310	英語ⅠB	必修	1	EGITIM,Soyhan	20413	
											英語ⅡB	必修	1	EGITIM,Soyhan	20403	英語ⅣB	必修	2	EGITIM,Soyhan	20401	英語ⅠB	必修	1	浅間正通	20301	
											英語ⅡB	必修	1	MAGNUSSON,David	20405	英語ⅣB	必修	2	MAGNUSSON,David	20403	英語ⅡB	必修	1	MAGNUSSON,David	20403	
											英語ⅡB	必修	1	THOMSON,Blair	20412	英語ⅣB	必修	2	HEIN,Patrick	20405	英語ⅡB	必修	1	THOMSON,Blair	20401	
											英語ⅡB	必修	1	HEIN,Patrick	20413	英語ⅣB	必修	2	THOMSON,Blair	20412	英語ⅡB	必修	1	HEIN,Patrick	20412	
											スポーツ健康科学実技Ⅱ	選択	1～4	安達玄	体育館											
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	選択	1	渡辺道代	20507	社会福祉の原理と政策Ⅱ	必修	1	伊奈川秀和	20507	児童・家庭福祉	選択	1	小野道子	20313	現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	選択	1	吉田光爾	20207	社会福祉学専門演習Ⅳ	必修	4	稲沢公一	20201
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（精神）	選択	3	稲沢公一ほか	20310	精神医学と精神医療Ⅱ	選択	2	吉田光爾	20311	精神保健福祉の原理Ⅱ	選択	2	稲沢公一	20207	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ（専門）（精神）	選択	2～4	稲沢公一	20502	社会福祉学専門演習Ⅳ	必修	4	阿久津純恵	20202
		制度・政策・施設史	選択	3～4	橋本理子	20501	生活支援技術Ⅷ	選択	3	土屋みさと	調理実習室、多目的室（家政・図画工作）、介護実習室（入浴・更衣室等舎）	介護総合演習Ⅳ	選択	3	高野龍昭ほか	20302	バリアフリー論	選択	3	小林恵一	20501	社会福祉学専門演習Ⅳ	必修	4	渡辺道代	20203
	子ども支援学科																									
人間環境デザイン学科	CAD演習Ⅰ	必修	1	高橋良至ほか	20308 (PC教室)、20309 (PC教室)	CAD演習Ⅰ	必修	1	高橋良至ほか	20308 (PC教室)、20309 (PC教室)	CAD演習Ⅰ	必修	1	高橋良至ほか	20308 (PC教室)、20309 (PC教室)	CAD演習Ⅰ	必修	1	高橋良至ほか	20308 (PC教室)、20309 (PC教室)						
						構造力学支援技術とデザイン	選択	2	名取発	20207	道具の歴史	選択	1	勝平純司	20407											
							選択	3～4	嶺也守寛	20501	デザイン工学応用	選択	2	高橋利男	20307 (PC教室)											
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	スポーツ栄養学Ⅱ	選択	2～4	小西可奈	20406	健康スポーツ統計	選択	1	大澤清	20405	レクリエーション実習	選択	1～4	細谷洋子	多目的室1	健康スポーツアクティビティⅠB	必修	1	本田雅一	体育館	健康スポーツアクティビティⅠD	必修	2	本田雅一	体育館
		健康スポーツ特別演習B	選択	2～4	木内明	80人教室301	生化学	選択	2～4	古川覚	20502	スポーツのコーチング演習Ⅰ	選択	2	江田香織	20406	健康スポーツアクティビティⅠB	必修	1	藤本武司	体育館	健康スポーツアクティビティⅠD	必修	2	藤本武司	体育館
												運動生理学Ⅱ	選択	2～4	今有礼	20507	健康スポーツアクティビティⅠB	必修	1	奥村拓朗	体育館	健康スポーツアクティビティⅠD	必修	2	奥村拓朗	体育館
	栄養科学科	運動生理学実験	必修	2	大上安奈	実習室2（運動生理）	運動生理学実験	必修	2	大上安奈	実習室2（運動生理）	運動生理学実験	必修	2	小西可奈	実習室2（運動生理）	運動生理学実験	必修	2	小西可奈	実習室2（運動生理）	動物学	選択必修	2	佐藤綾美	120人教室402
食品学実験Ⅰ		選択必修	1	矢野友啓ほか	食品栄養学実験室	食品学実験Ⅰ	選択必修	1	矢野友啓ほか	食品栄養学実験室	食品学実験Ⅰ	選択必修	1	矢野友啓ほか	食品栄養学実験室	食品学実験Ⅰ	選択必修	1	矢野友啓ほか	食品栄養学実験室						
		臨床栄養学実習	選択必修	3	芹澤奈保ほか	調理実習室	臨床栄養学実習	選択必修	3	芹澤奈保ほか	調理実習室	臨床栄養学実習	選択必修	3	芹澤奈保ほか	調理実習室	臨床栄養学実習	選択必修	3	芹澤奈保ほか	調理実習室					
教職科目		保健体育科指導法Ⅱ	選択	3	平野智之	体育館、20312（180名教室）	保健体育科指導法Ⅱ	選択	3	平野智之	体育館、20312（180名教室）	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	選択	1	林大介	20401	教育方法の理論と実践（情報通信技術を含む）	選択	2	金澤信之	20413					
		スポーツ実習・指導法（サッカー）	選択	2	西園聡史	グラウンド①																				

秋	土	1 限 〔9：00～10：30〕					2 限 〔10：40～12：10〕					3 限 〔13：00～14：30〕					4 限 〔14：40～16：10〕					5 限 〔16：20～17：50〕				
		科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室	科目名	選択必修	学年	担当者	教室
基盤教育科目		IELTS for Study Abroad II Reading/Writing 公務員論 全学総合J 職業指導Ⅱ	選択 選択 選択 選択	1～4 1～4 1～4 3～4	ウィルソンマシュー 平林浩一 川口英夫 高岩千尋	20206 20401 20311 20306(AL教室)	IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking 公務員論 全学総合K	選択 選択 選択	1～4 1～4 1～4	ウィルソンマシュー 平林浩一 加賀見一彰	20206 20401 20311	IELTS for Study Abroad I Reading/Writing	選択	1～4	ウィルソンマシュー	20206	IELTS for Study Abroad I Reading/Writing	選択	1～4	ウィルソンマシュー	20206	Pre-Study Abroad Writing	選択	1～4	ウィルソンマシュー	20206
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科																									
	子ども支援学科																									
	人間環境デザイン学科											色彩論 表現手法	選択 選択	1 3～4	名取和幸 櫻井誠也	20407 20208	色彩論	選択	1	名取和幸	20407					
健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科																									
	栄養科学科	体力測定評価法	選択必修	2	大上安奈	80人教室301	健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	石田達也 宮越雄一 太田昌子 大上安奈 高田和子 矢野友啓 加藤和則 佐藤綾美 吉崎貴大 小西可奈	120人教室401 120人教室402 120人教室 80人教室301 80人教室302 40人教室401 40人教室402 40人教室403 40人教室404 40人教室405	健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学プロジェクト演習B	必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修 必修	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	石田達也 宮越雄一 太田昌子 大上安奈 高田和子 矢野友啓 加藤和則 佐藤綾美 吉崎貴大 小西可奈	120人教室401 120人教室402 120人教室 80人教室301 80人教室302 40人教室401 40人教室402 40人教室403 40人教室404 40人教室405	栄養疫学	必修	2	吉崎貴大	120人教室					
教職科目																	工芸科指導法Ⅱ	選択	3	川人武	多目的室(家政・図画工作)	工芸科指導法Ⅱ	選択	3	川人武	多目的室(家政・図画工作)

集中講義

春学期開講科目

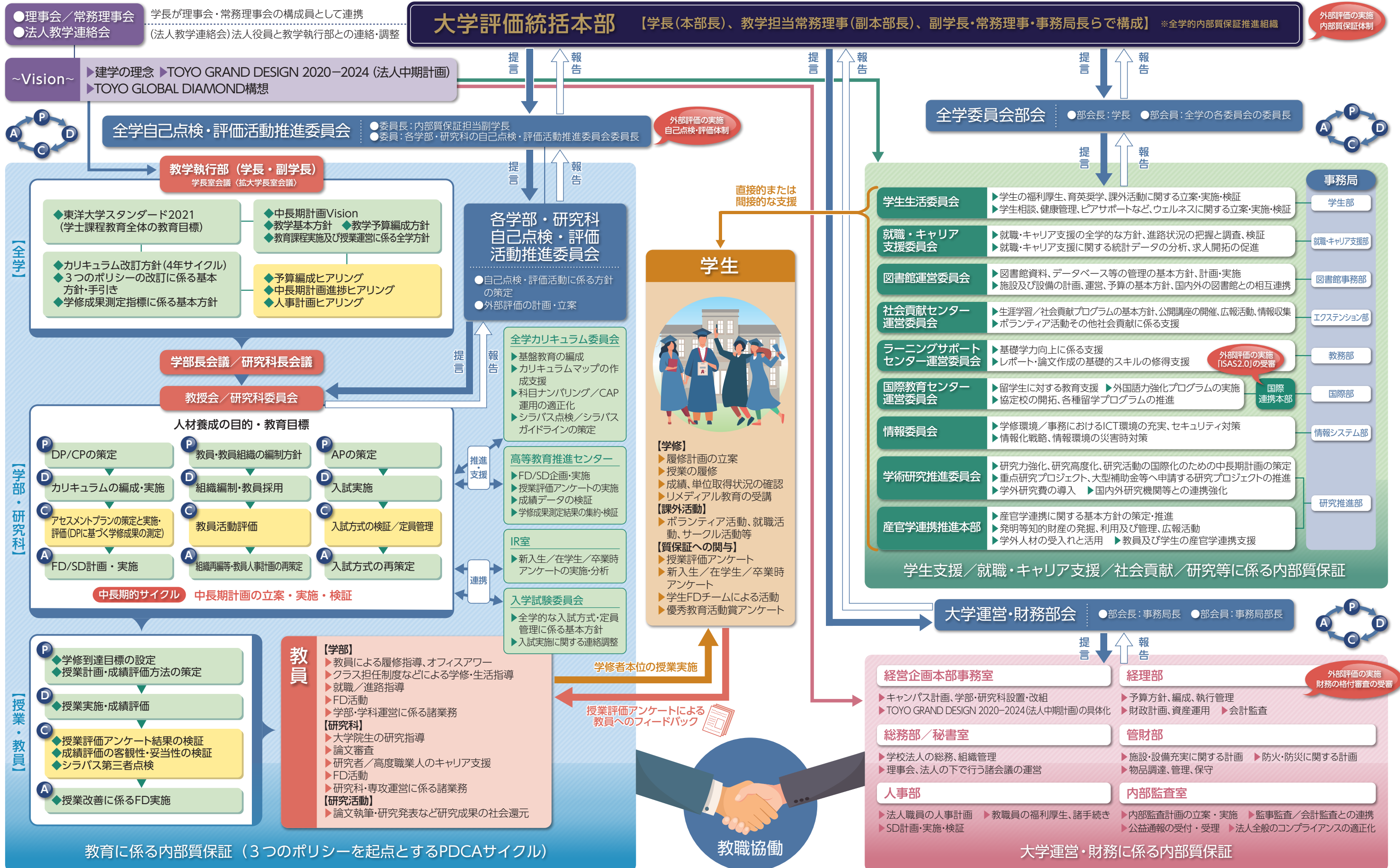
学科	科目名	選択必修	学年	担当教員
基盤	海外研修Ⅱ	選択	1～4	水松巳奈
	海外実習Ⅱ	選択	1～4	水松巳奈
	短期海外研修Ⅰ	選択	1～4	水松巳奈
	短期海外研修Ⅱ	選択	1～4	水松巳奈
	短期海外研修Ⅲ	選択	1～4	水松巳奈
	短期海外研修Ⅳ	選択	1～4	水松巳奈
	短期海外実習Ⅰ	選択	1～4	水松巳奈
	短期海外実習Ⅱ	選択	1～4	水松巳奈
	短期海外実習Ⅲ	選択	1～4	水松巳奈
	短期海外実習Ⅳ	選択	1～4	水松巳奈
福祉社会デザイン学部 社会福祉学科	ソーシャルワーク演習Ⅰ（専門）（精神）	選択	3	稲沢公一他
	実習指導の理論と方法	選択	3～4	渡辺裕美ほか
	地域医療福祉専門実習Ⅰ	選択	4	渡辺裕美ほか
	ソーシャルワーク実習（精神）	選択	4	稲沢公一ほか
	介護福祉実習Ⅲ	選択	3	渡辺裕美ほか
	介護福祉実習Ⅳ	選択	4	渡辺裕美ほか
福祉社会デザイン学部 子ども支援学科	子育て支援実践	選択	1～4	伊藤美佳ほか
	保育実習ⅠB（保育所）	選択	3	内田千春ほか
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	選択	2	鈴木崇之ほか
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	選択	3	鈴木崇之ほか
	保育実習Ⅱ（保育所）	選択	4	内田千春ほか
	保育実習Ⅲ（施設）	選択	4	鈴木崇之ほか
福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科	インターンシップB	選択	3～4	池田千登勢ほか
	インターンシップD	選択	3～4	池田千登勢ほか
健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科	教職インターンシップA	選択	3	平野智之ほか
	健康スポーツアクティビティⅡA	必修	2	嶋村武司
	健康スポーツアクティビティⅡA	必修	2	碓井健一
	健康スポーツアクティビティⅡC	必修	3	嶋村武司
	健康スポーツアクティビティⅡC	必修	3	碓井健一
	スポーツ実習・指導法（テニス）	選択	2	後藤光将
	国際健康スポーツ交流B	選択	1～4	木内明ほか
	国際健康スポーツ交流D	選択	1～4	木内明ほか
健康スポーツ科学部 栄養科学科	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	矢野友啓
	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	加藤和則
	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	佐藤綾美
	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	宮越雄一
	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	太田昌子
	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	石田達也
	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	吉崎貴大
	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	小西可奈
	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	大上安奈
	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	高田和子
	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	高田和子
	卒業研究・論文Ⅰ	必修	4	高田和子

秋学期開講科目

学科	科目名	選択必修	学年	担当教員
基盤	海外研修Ⅰ	選択	1～4	水松巳奈
	海外実習Ⅰ	選択	1～4	水松巳奈
福祉社会デザイン学部 社会福祉学科	ソーシャルワーク実習Ⅱ	選択	3	志村健一ほか
	地域医療福祉専門実習Ⅱ	選択	4	渡辺裕美ほか
	卒業論文	選択	4	稲沢公一ほか
	介護福祉実習Ⅰ	選択	1	渡辺裕美ほか
	介護福祉実習Ⅱ	選択	2	渡辺裕美ほか
福祉社会デザイン学部 子ども支援学科	卒業論文	選択必修	4	中道直子
	卒業論文	選択必修	4	内田千春
	卒業論文	選択必修	4	高橋直美
	卒業論文	選択必修	4	内田塔子
	卒業論文	選択必修	4	高橋健介
	卒業論文	選択必修	4	伊藤美佳
	卒業論文	選択必修	4	嶋崎博嗣
	卒業論文	選択必修	4	鈴木崇之
	卒業論文	選択必修	4	高山静子
	卒業論文	選択必修	4	南野奈津子
	卒業論文	選択必修	4	山原麻紀子
	卒業論文	選択必修	4	山原麻紀子
	卒業論文	選択必修	4	山原麻紀子
	卒業論文	選択必修	4	山原麻紀子
	卒業論文	選択必修	4	山原麻紀子
	卒業論文	選択必修	4	山原麻紀子
	卒業論文	選択必修	4	山原麻紀子
	卒業論文	選択必修	4	山原麻紀子
	卒業論文	選択必修	4	山原麻紀子
	卒業論文	選択必修	4	山原麻紀子
	卒業論文	選択必修	4	山原麻紀子
	卒業論文	選択必修	4	山原麻紀子
	卒業論文	選択必修	4	山原麻紀子
	卒業論文	選択必修	4	山原麻紀子
福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科	卒業研究	必修	4	大沼敦
	卒業研究	必修	4	池田千登勢
	卒業研究	必修	4	水村容子
	卒業研究	必修	4	高橋良至
	卒業研究	必修	4	名取堯
	卒業研究	必修	4	柏樹良
	卒業研究	必修	4	菅原麻衣子
	卒業研究	必修	4	嶺也守寛
	卒業研究	必修	4	仲綾子
	卒業研究	必修	4	富安亮輔
	卒業研究	必修	4	齋藤博
	卒業研究	必修	4	勝平純司
	卒業研究	必修	4	松本和也
	卒業研究	必修	4	松本和也
健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科	健康スポーツアクティビティⅡB	必修	2	嶋村武司
	健康スポーツアクティビティⅡB	必修	2	碓井健一
	健康スポーツアクティビティⅡD	必修	3	嶋村武司
	健康スポーツアクティビティⅡD	必修	3	碓井健一
	国際健康スポーツ交流C	選択	1～4	木内明ほか
	健康産業施設等現場実習	選択	4	齊藤恭平
	看護学実習	選択	3	原田静香ほか
健康スポーツ科学部 栄養科学科	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	矢野友啓
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	加藤和則
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	佐藤綾美
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	宮越雄一
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	太田昌子
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	石田達也
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	吉崎貴大
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	小西可奈
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	大上安奈
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	高田和子
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	高田和子
	校外実習	選択必修	3	太田昌子
	校外実習	選択必修	3	大上安奈
	校外実習	選択必修	3	吉崎貴大
	校外実習	選択必修	3	小西可奈
	校外実習	選択必修	3	高田和子
	校外実習	選択必修	3	高田和子
	国際栄養科学交流	選択	3	高田和子
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	高田和子
	卒業研究・論文Ⅱ	必修	4	高田和子

学生ひとりひとりの成長を約束する内部質保証体系図

Internal quality assurance system diagram



組織図 東洋大学 高等教育推進センター（第Ⅲ期 | 2021-2022年度）



学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

- (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況・・・・・・・・・・ p. 2
 - ① 学生の確保の見通し・・・・・・・・・・ p. 2
 - ア 定員充足の見込み・・・・・・・・・・ p. 2
 - イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要・・・・・・・・ p. 3
 - ウ 学生納付金の設定の考え方・・・・・・・・・・ p. 5
 - ② 学生確保に向けた具体的な取組状況・・・・・・・・・・ p. 5
- (2) 人材需要の動向等社会の要請・・・・・・・・・・ p. 6
 - ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）・・・・ p. 6
 - ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたもので
あることの客観的な根拠・・・・・・・・・・ p. 7

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

ア-1 入学定員設定の考え方

- ・健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科：入学定員 230 名

改組前の基礎学科であるライフデザイン学部健康スポーツ学科は入学定員 180 名であったが、新学科では基礎学科と比べてスポーツ科学領域を中心に対象分野を拡張することにより、従来対象としてきた「子どもから高齢者、障がい者」といった一般の人々の健康に加えてアスリートのパフォーマンス向上等、対象範囲を拡張することを考慮し、基礎学科の入学定員より 50 名多い 230 名と設定した。

- ・健康スポーツ科学部 栄養科学科：入学定員 100 名

改組前の基礎学科（専攻）である食環境科学部食環境科学科スポーツ・食品機能専攻は入学定員 50 名であったが、新学科では従来中心に展開してきた運動生理学や食品機能等の生命科学系分野に加え、「スポーツと栄養」「身体活動と食生活」という視点に基づきスポーツ科学と栄養科学の学際的な領域への展開を強化することを考慮し、基礎学科（専攻）の入学定員より 50 名多い 100 名と設定した。

基礎学科（専攻）の近年の一般入試志願状況としては、＜表 1＞の通りライフデザイン学部健康スポーツ学科は入学定員倍率の過去 4 年平均が 12 倍超と一定の定員倍率を保っている。食環境科学部食環境科学科スポーツ・食品機能専攻は、2021 年度入試においては学科（専攻）の所在地である板倉キャンパス（群馬県邑楽郡）全体で志願者減が顕著であったことに加え、年次の途中でキャンパス移転が生じることを発表したことが影響して倍率を下けているが、新学科はキャンパスの所在地が東京都の赤羽台キャンパスであり、受験対象者が南関東 1 都 3 県と広域に及ぶこと（キャンパス所在都道府県別の志願状況は＜表 2＞の通り）、健康スポーツ科学を学部名に掲げ、スポーツと栄養の融合教育研究を展開することから、両学科とも無理のない定員規模であると考ええる。

表 1：改組前基礎学科（専攻）の志願状況（2018 年度～2021 年度一般入試）

学部・学科・専攻	入学 定員	定員倍率 (4年平均)	2021年度		2020年度		2019年度		2018年度	
			志願者数	定員倍率	志願者数	定員倍率	志願者数	定員倍率	志願者数	定員倍率
ライフデザイン学部 健康スポーツ学科	180	12.89	1,996	11.09	2,138	11.88	2,641	14.67	2,503	13.91
食環境科学部食環境科学科 スポーツ・食品機能専攻	50	7.93	207	4.14	435	8.70	481	9.62	462	9.24

※志願者数は一般入試の合計。推薦・その他の入試は含まない。

表 2：キャンパス所在都道府県別の志願状況（2018 年度～2021 年度一般入試）

キャンパス所在都道府県	入学 定員	定員倍率 (4年平均)	2021年度		2020年度		2019年度		2018年度	
			志願者数	定員倍率	志願者数	定員倍率	志願者数	定員倍率	志願者数	定員倍率
東京都（白山C、赤羽台C）	5029	16.60	70,508	14.02	77,423	15.40	94,164	18.72	91,910	18.28
埼玉県（川越C）	1071	13.80	12,564	11.73	15,277	14.26	16,723	15.61	14,575	13.61
群馬県（板倉C）	446	9.37	3,089	6.93	4,340	9.73	5,035	11.29	4,255	9.54

※志願者数は一般入試の合計。推薦・その他の入試は含まない。

ア-2 定員を充足する見込み

新学部である健康スポーツ科学部の設置構想にあたり、各学科が目指す教育研究上の目的、養成する人材像に対する大学進学ニーズを把握する目的で、全国の高等学校、中等教育学校（以下、便宜的に「高校」と表現する）のうち、設置初年度に大学進学年度となる高校生、中等教育学校生（以下、便宜的に「高校生」「生徒」と表現する）に対し、進学意向調査を実施した＜資料1＞。首都圏を中心とした高校2年生の回答者16,736人のうち、健康スポーツ科学部（もう一つの新学部である福祉社会デザイン学部を含む）を「受験したいと思う」と答えた人数（受験意向者数）は2,456人（14.7%）で、さらにその受験意向者2,456人のうちで各学科に「入学したい」と答えた人数（入学意向者数）は、以下の結果であった。

健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科に入学したい：768人（31.3%）

健康スポーツ科学部 栄養科学科に入学したい：321人（13.1%）

リクルート進学総研「18歳人口予測、大学・短大・専門学校進学率、地元残留率の動向」＜資料2＞によると、2023年度の18歳人口（現在の高校2年生）は109.7万人と推計されている。そのうちの約1.5%と限定的な人数である16,736人から得た調査回答のみで、各学科の入学定員をそれぞれ超える人数から「受験意向あり」かつ「入学意向あり」という回答結果を得られたことから、健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科、栄養科学科は、それぞれ定員を充足する見込みが十分に立っていると考える。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

上記「ア 定員充足の見込み」に示した調査＜資料1＞の概要は、以下の通りである。

調査対象：高校2年生

調査エリア：福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

調査方法：高校留置き調査

調査依頼数：29,774人（132校）

有効回収数：16,736人（99校） 有効回収率56.2%

調査時期：2021年11月1日（月）～2021年12月10日（金）

調査項目：【属性】性別、高校種別、高校所在地、所属クラス【Q1】卒業後希望進路【Q2】興味のある学問系統【Q3】各学科の特色に対する魅力度【Q4】新学部への受験意向【Q5】各学科への入学意向

本調査は、新学部である健康スポーツ科学部に対する大学進学ニーズを確認するための調査として設計した。本学の主な学生募集エリアである首都圏に所在する高校のうち、本学への志願実績、入学実績が一定以上ある高校を中心に選定し、高校に協力を得て調査を実施した。回答者性別は「男性」49.5%「女性」49.5%、高校種別は「公立」53.5%「私立」46.5%、高校所在地は「東京都」39.9%「埼玉県」33.3%「千葉県」16.3%「神奈川県」7.1%と続く。所属クラスは「文系クラス」64.8%「理系クラス」17.9%「コース選択はない」11.6%と続く。高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」の割合が81.4%で最も高い。次いで「国公立大学に進学」が27.5%、「専門学校・専修学校に進学」が8.4%と続く。私立大学への進学志望者が多いことから、本学がターゲットとする対象に調査を実施出来ていると考えられる。

【Q4】で「健康スポーツ科学部」「福祉社会デザイン学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ【Q5】で各学科に「入学したい」と回答した人数（＝「入学意向者数」）が、健康スポーツ科学科：768人、栄養科学科：321人と、両学科とも入学定員を上回ったことは、前項「ア 定員充足の見込み」で示したが、さらに卒業後進路区分と興味のある学問系統を加味した回答は、以下の通りであった。

・健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科＜資料1、P16～17＞

【Q4】で「健康スポーツ科学部」「福祉社会デザイン学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ【Q5】で「健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科に入学したい」と回答した768人のうち、【Q1】卒業後希望進路で四年制大学進学を希望し、さらに【Q2】興味のある学問系統で、健康スポーツ科学科と関連する「スポーツ学」「看護・保健学」のいずれか一つ以上に「興味がある」と回答した人数（＝【Q1】【Q2】【Q4】【Q5】のクロス集計）は、611人であり、入学定員の230名を上回る回答を得た。

・健康スポーツ科学部 栄養科学科＜資料1、P19～20＞

【Q4】で「健康スポーツ科学部」「福祉社会デザイン学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ【Q5】で「健康スポーツ科学部栄養科学科に入学したい」と回答した321人のうち、【Q1】卒業後希望進路で四年制大学進学を希望し、さらに【Q2】興味のある学問系統で、栄養科学科と関連する「栄養学（スポーツ栄養学含む）」「理学」「看護・保健学」のいずれか一つ以上に「興味がある」と回答した人数（＝【Q1】【Q2】【Q4】【Q5】のクロス集計）は、210人であり、入学定員の100名を上回る回答を得た。

前出のリクルート進学総研「18歳人口予測、大学・短大・専門学校進学率、地元残留率の動向」＜資料2＞によれば、18歳人口における大学進学率は微増を続け、2020年度は51.1%とされており、2020年度の大学進学者数は約60万人（18歳人口116.7万人×大学進学率51.1%）と推計される。本学の調査における回答者数16,736人は、大学進学者数の3%未満であるが、入学定員を上回る入学意向数を確認することができた。18歳人口は今後減少基調となり、リクルート進学総研の調査で示される2032年（新学科設置の10年後）の18歳人口は約102.4万人である。大学進学率が50%程度で推移すると仮定すると、2032年時点における大学入学者数は50万人強と現在より減少する見込みではあるが、減少幅が限定的であること、また本学の志願者層において多数を占める南関東地域の2032年の18歳人口減少

率（2020 年度対比）が 94.5%と、全国平均（87.7%）と比べて緩やかであることから、設置年度のみならず長期的に学生確保が可能であると考ええる。

ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金は、改組前の学科の学費をベースに、新学科設置にあたっての諸条件を踏まえて＜表 3＞の通り設定した。

表 3：学生納付金一覧

大学	学部	学科	入学 定員	入学金	授業料	施設金	実験実習料	その他	入学時 納入金合計	4年間 納入金合計
東洋大学（新学部）	健康スポーツ科学部	健康スポーツ科学科	230	250,000	870,000	300,000	80,000	0	1,500,000	5,250,000
東洋大学（改組前）	ライフデザイン学部	健康スポーツ学科	180	250,000	830,000	200,000	0	0	1,280,000	4,370,000
【参考】早稲田大学	スポーツ科学部	スポーツ科学科	400	200,000	1,394,000	0	39,000	0	1,633,000	5,932,000
【参考】法政大学	スポーツ健康学部	スポーツ健康学科	165	240,000	933,800	278,000	100,000	0	1,551,800	5,487,200
【参考】東海大学	体育学部	競技スポーツ学科	170	300,000	821,000	250,000	157,000	0	1,528,000	5,212,000
東洋大学（新学部）	健康スポーツ科学部	栄養科学科	160	250,000	920,000	300,000	80,000	0	1,550,000	5,450,000
東洋大学（改組前）	食環境科学部	食環境科学科/スポーツ食品機能専攻	50	250,000	990,000	260,000	80,000	0	1,580,000	5,570,000
【参考】女子栄養大学	栄養学部	保健栄養学科/栄養科学専攻	100	375,000	980,000	471,000	272,000	0	2,098,000	7,167,000
【参考】大東文化大学	スポーツ・健康科学部	健康科学科	125	210,000	995,000	0	250,000	326,000	1,781,000	6,494,000
【参考】東京農業大学	応用生物科学部	栄養科学科	120	270,000	760,000	230,000	300,000	25,600	1,585,600	6,132,400

※：4 年間納入金合計が不明のため、入学金 1 年分、入学金以外 4 年分の合計とした。

本学は 2021 年 4 月に赤羽台キャンパス（東京都北区）に新校舎を建設し、同年 4 月からライフデザイン学部が朝霞キャンパス（埼玉県朝霞市）から赤羽台キャンパスに移転した。ライフデザイン学部等を改組して設置する健康スポーツ科学部は、2021 年完成の新校舎と 2023 年 4 月に完成予定の新校舎を主に利用して教育研究を展開する。2023 年 1 月完成予定の施設には大規模体育館（約 2,000 m²）やトレーニングルーム（約 670 m²）等を設け、さらにスポーツ科学、栄養科学の研究、実験実習等の施設設備も大幅に拡充される。改組前学部学科（ライフデザイン学部健康スポーツ学科、食環境科学部食環境科学科スポーツ・食品機能専攻）の教育研究環境と比べ、各種施設設備を拡充した新校舎であること、また近年建物や設備の償却年数が減少傾向にあることを踏まえ、基礎となる学部学科の学費から見直しを行った。そのほか、他大学の同系統学部学科のうち、立地や学生規模等において条件の近い学部学科を参考にしうえて新学部の学費を設定した。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

大学全体の学生募集活動について、2020 年度以降は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、対面大規模イベントを原則取り止め、「オープンキャンパス web style」と題して web コンテンツを公開した（当該コンテンツの視聴数：2020 年度約 12 万回）。また、2021 年度は小規模対面広報活動として、大学キャンパスツアーを各キャンパスで実施した（2021 年 7 月～8 月約 2 千人参加）。そのほか、オンライン個別相談を常時受け付けるなど、感染症に留意しながら受験生への情報提供を続けた。なお、2019 年度までは対面による学生募集活動で大規模に実施しており、オープンキャンパス（年間 4 日間開催、約 5 万人参加／2019 年実績）に加え、約 100 講座を高校生に公開する「学び LIVE」（年間 2 日間開催、約 4 千

人参加／2019 年実績)、全国で実施する「東洋大学受験バックアップ講座」(年間約 130 回開催、約 3 千人参加／2019 年実績)、「One Day Campus (全国版オープンキャンパス)」(年間約 10 回開催、約 3 百人参加／2019 年実績)を主催している。

本学主催以外の対面学生募集活動では、高校内での大学説明会、各種会場での進学相談会等に参加している。年間で延べ 1,300 回以上(2019 年実績)参加し、受験生を中心としたステークホルダーとの直接対話機会を設けている。なお、2020 年度以降は、オンライン開催の説明会、相談会(年間合計約 130 回)に参加した。

ウェブによる学生募集活動は、学部学科ごとの体験授業動画やゼミ・研究室体験動画を通じたリアルな学問理解、大学理解の促進に注力している。体験授業動画は、本学専任教員の 8 割に及ぶ人数の模擬授業動画を撮影・公開(641 動画公開／2021 年 4 月現在)しており、学問系統にとどまらず「入学後はこの先生にこの内容を学べる」といった、具体的な学びのイメージを喚起するための材料として、入学後ミスマッチの予防を含めた詳細な情報提供を行っている(年間視聴数:約 50 万回／2020 年実績)。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

①-1 養成する人材像

・健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科

スポーツを「する」人、「みる」人、「ささえる」人として社会に貢献できる人材の育成、さらには少子高齢・人口減少社会に生きる現代人が抱える健康問題に対して、健康スポーツ科学を通じた解決策を提供できる人材の育成を目指す。健康とスポーツの機能的、社会・文化的側面に関する教育研究により、健康スポーツ科学に関する幅広い知識や技術を修得し、あらゆる人々の健康づくりとスポーツパフォーマンス向上、さらには QOL 向上に寄与できる専門人材を育成する。

・健康スポーツ科学部 栄養科学科

生物学、化学、生理学、疫学を基盤として、栄養学、食品衛生学、公衆衛生学、スポーツ栄養学、生活習慣病予防学、トレーニング科学などを学び、栄養学を基軸に栄養科学とスポーツ科学の両面を探究することにより、食・栄養の観点からスポーツパフォーマンス向上や健康づくり、さらには QOL 向上に寄与できる専門人材を育成する。学際的な視点と科学的根拠に基づく専門知識や技術の修得により、スポーツ栄養科学領域における新たな価値を創造し、いきいきとした社会の実現に貢献する人材を育成する。

①-2 その他の教育研究上の目的

・健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科

理論や実践を有機的に連携させた教育を通して、健康やスポーツに関わる最新の知識と技術を総合的かつ系統的に学ぶことにより、科学的思考力、エビデンスに基づく実践力、多様性を理解しさまざまなコミュニケーションできる能力、健康やスポーツの可能性を見出し新たな発信ができるイノベーション

力などを修得させる。加えて、人々に関わる専門職として倫理観や協調性、リーダーシップ力を身につけさせる。

さまざまな専門領域と積極的に連携を図り、学部学科内外の横断的な教育研究を展開することにより、健康とスポーツの多様性と可能性の創造を目指す。また、教育研究活動から得た知見を広く地域社会に還元することにより、健康やスポーツ業界発展への貢献を目指すとともに、教育研究の高度化によって多くの活躍人材の輩出を目指す。

・健康スポーツ科学部 栄養科学科

食品機能科学やスポーツ栄養科学などの専門分野を系統的かつ総合的に学び、親和性の高い他の学問分野の知識も身につけながら、栄養管理の実践手法を会得する。健康・スポーツの付加価値を創造するための幅広い教養力や高度な専門力、課題の本質を的確に捉え解決に導くための多角的、俯瞰的、かつ科学的な思考力や分析力、知識や技術を最大限に活かし実装するためのイノベーション力や発信力、国内外のあらゆる現場で活躍するための語学力、コミュニケーション力、人間理解力を修得する。

異なる分野間の連携・融合を積極的に行い、教育研究を活性化させる。活動により得た知見を広く地域社会に還元することで、スポーツ界や食品業界の発展に寄与する。また、高度な知識と技術を備えた幅広い活躍人材を輩出することにより、社会の活性化に貢献する。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

②-1 社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

健康スポーツ科学部の設置構想にあたり、学科で養成する人材に対する社会的ニーズを把握する目的で、全国の企業・団体等（以下、便宜的に「企業」「社」と表現する）を対象に人材採用意向調査を実施した＜資料3＞。概要は以下の通り。

調査対象 : 企業の採用担当者

調査エリア : 関東を中心とした全国各地

調査方法 : web 調査（郵送依頼、web 回答）

調査依頼数 : 3,000 社

有効回収数 : 515 社（回収率 17.2%）

調査時期 : 2021 年 10 月 29 日（金）～2021 年 11 月 26 日（金）

調査項目 : 【Q1】人事採用関与度【Q2】本社所在地【Q3】業種【Q4】従業員数【Q5】採用数【Q6】採用予定数【Q7】採用したい学問分野【Q8】各学科の魅力【Q9】各学科の社会的必要性【Q10】各学科卒業生の採用意向【Q11】各学科卒業生の採用想定人数

※Q12～15 は、大学院新研究科設置に関する採用意向設問

回答企業の本社所在地は、東京都 45.4%、埼玉県 12.2%、神奈川県 11.5%、茨城県 5.4%、長野県 4.9%、千葉県 4.3%、群馬県 4.1%と続く。回答企業の業種は、医療・福祉 31.7%、卸売・小売業 10.9%、サービス業 10.3%、建設業 10.1%、製造業 8.2%、食品関連業 7.0%、スポーツ関連企業 3.9%、学校・

教育機関 3.1%と続く。

回答企業の採用したい学問分野（【Q7】）を複数回答で聴取したところ、「学んだ学問分野にはこだわらない」が 39.0%と最も多かったが、一方で健康スポーツ科学部の学びと関連する分野としては、「スポーツ学」が 13.6%、「栄養学（スポーツ栄養学含む）」が 18.6%、「理学」が 12.0%、「看護・保健学」が 10.5%と、一定の採用意向が認められた。学科ごとの人材需要に対する回答は、以下の通りであった。

・健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科＜資料 3、P18～19＞

学科の社会的必要性（【Q9】）については、90.7%（467 社）が健康スポーツ科学科を「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学科であると評価されていることがうかがえる。また、採用意向（【Q10】）、採用想定人数（【Q11】）については、健康スポーツ科学科卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業が 68.2%（351 社）あり、毎年度の採用想定人数の合計は 661 名で、入学定員数 230 名を大きく上回っている。また、採用したい学問分野（【Q7】）で、学科の学びに関連のある「スポーツ学」「看護・保健学」を学んだ学生を「採用したい」と回答した企業からの採用意向（＝【Q7】【Q10】、【Q7】【Q11】のクロス集計）は、「スポーツ学」が 70 企業・採用想定人数 159 人、「看護・保健学」が 37 企業・採用想定人数 80 人、2 分野合計で 107 企業・採用想定人数 239 人と、入学定員を上回っている。このことから、健康スポーツ科学科には安定した人材需要があり、学科の人材養成目的・教育研究上の目的が社会的な人材需要の動向を踏まえたものであると言える。

・健康スポーツ科学部 栄養科学科＜資料 3、P21～22＞

学科の社会的必要性（【Q9】）については、93.8%（483 社）が栄養科学科を「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学科であると評価されていることがうかがえる。また、採用意向（【Q10】）、採用想定人数（【Q11】）については、栄養科学科卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業が 69.5%（358 社）あり、毎年度の採用想定人数の合計は 656 名で、入学定員数 100 名を大きく上回っている。また、採用したい学問分野（【Q7】）で、学科の学びに関連のある「栄養学（スポーツ栄養学含む）」を学んだ学生を「採用したい」と回答した企業からの採用意向（＝【Q7】【Q10】、【Q7】【Q11】のクロス集計）は、91 企業・採用想定人数 194 人であり、入学定員を上回っている。このことから、栄養科学科には安定した人材需要があり、学科の人材養成目的・教育研究上の目的が社会的な人材需要の動向を踏まえたものであると言える。

②-2 地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

・健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科

総務省「平成 28 年社会生活基本調査」のなかの「男女、スポーツの種類別行動者率(10 歳以上)－全国、都道府県」＜資料 4＞によると、人口全体に占めるスポーツ人口率が、首都圏で特に大きいことが示されている。同調査では項目の一つとして、スポーツを種目別にどの程度行っているか（見物や研修・授業は除く）尋ねており、その結果を都道府県別に人口対比で集計したものが上記の資料＜資料 4＞である。人口に対する「スポーツ行動者率」は、47 都道府県のうち高い順に東京都(75.7%)、埼玉県(72.6%)、

神奈川県（72.4%）、千葉県（71.6%、滋賀県と同率）と、首都圏の1都3県が上位4都道府県という結果であった。10歳以上全国推計人口（113,300千人）に占める上記1都3県の10歳以上全国推計人口は28.9%（32,731千人）と、1都3県は人口集中地域であるうえに、「スポーツ行動者率」も高い。健康スポーツ科学科では、アスリート（競技スポーツ）だけでなく、あらゆる人々の健康づくりとスポーツパフォーマンス向上、QOL向上に寄与できる人材の育成を掲げており、スポーツ人口が多く、かつスポーツ行動者率が高い東京都に設置する健康スポーツ科学科は、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであると考える。

・健康スポーツ科学部 栄養科学科

栄養士の資格養成施設卒業生の就職先の割合で上位2種である「病院」「児童福祉施設」において、首都圏での人材需要が高いことがうかがえる。一般社団法人全国栄養士養成施設協会の「令和2年度：栄養士養成施設の卒業生の就職実態」＜資料5＞によると、2019年度の栄養士養成施設卒業生就職先内訳の上位として、「病院」（21.7%）、「児童福祉施設」（21.7%）と、この2種が同率で最も高く、2種で合計4割を超える結果であった。都道府県別の病院の状況は、厚生労働省「令和元（2019）年医療施設（動態）調査・病院報告の概況」の中の「統計表9 都道府県一指定都市・特別区・中核市別にみた施設数及び人口10万対施設数」＜資料6＞によると、病院数は1都3県（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）計で1,605院と、全国計8,300院のうち多くを占め、1都3県の病院での人材需要は高い。また、児童福祉施設についても状況は似ており、厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ（令和3年4月1日）」＜資料7＞によると、全国に占める1都3県の保育所定員数が高いのに対し、待機児童数は、1都3県を含む人口集中地域で多い状況である。やはりこちらも1都3県での人材需要が高いと考えられる。

栄養分野における地域的な人材需要の展望としては、高齢者人口の将来予測から、特に首都圏において人材需要が高まることが見込まれる。内閣府「令和3年版高齢社会白書」の第1章第1節4「地域別にみた高齢化」図1-1-11＜資料8＞によると、都市規模別にみた65歳以上人口指数が、基準となる平成27（2015）年に対し、令和27（2045）年には人口規模が大きい地域ほど高齢者数が増えることが示されている。具体的には、2015年を100とすると、全国平均115.9に対し、大都市（東京都区部及び政令指定都市）133.4、人口30万人以上（大都市除く）都市124.4、人口10万～30万都市116.1、人口5万～10万都市108.3、人口5万未満都市89.7と予測されている。高齢化率が将来的に伸びることは全国的な現象だが、高齢者数がより多くなる大都市においては、健康寿命延伸の一端を担う栄養分野の人材需要がより高まることが予想される。

栄養士資格養成施設の進路動向や日本の高齢化の将来予測を鑑みると、東京都に設置する栄養科学科は、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであると考える。

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料目次

- 資料 1 東洋大学「福祉社会デザイン学部」健康スポーツ科学部（仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【高校生対象調査】
- 資料 2 リクルート進学総研「18 歳人口予測、大学・短大・専門学校進学率、地元残留率の動向」
- 資料 3 東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、健康スポーツ科学研究科栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）（いずれも仮称）設置に関するニーズ調査結果報告書【企業対象調査】
- 資料 4 総務省「平成 2 8 年社会生活基本調査 男女, スポーツの種類別行動者率(10 歳以上)－全国, 都道府県」（抜粋版）
- 資料 5 一般社団法人全国栄養士養成施設協会「令和 2 年度栄養士養成施設の卒業生の就職実態」
- 資料 6 厚生労働省「令和元(2019)年医療施設（動態）調査・病院報告の概況」（抜粋版）
- 資料 7 厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ（令和 3 年 4 月 1 日）」（抜粋版）
- 資料 8 内閣府「令和 3 年版高齢社会白書 4-地域別にみた高齢化」

東洋大学
「福祉社会デザイン学部」
「健康スポーツ科学部」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和4年1月
株式会社 進研アド

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2023年4月開設予定の東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」新設構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

高校生対象調査		
調査対象		高校2年生
調査エリア		福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
調査方法		高校留置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校数)	29,774人(132校)
	有効回収数 (回収校数)	16,736人(99校) 有効回収率:56.2%
調査時期		2021年11月1日(月)～2021年12月10日(金)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
・性別 ・高校種別 ・高校所在地 ・所属クラス ・高校卒業後の希望進路 ・興味のある学問系統 ・東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度 ・東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」への受験意向 ・東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」各学科への入学意向

高校生対象 調査結果まとめ

高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、東洋大学の「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」に対する需要を確認するための調査として設計。東洋大学の主な学生募集エリアである、茨城県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県に所在する高校の高校2年生に調査を実施し、16,736人から回答を得た。

- 回答者の性別は、「男性」が49.5%、「女性」が49.5%である。
- 回答者の在籍高校種別は「公立」が53.5%、「私立」が46.5%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、東洋大学の所在地である「東京都」が39.9%を占め、最も多い。次に「埼玉県」が33.3%、「千葉県」が16.3%と続く。
- 回答者の所属クラスは「文系クラス(文系コース)」が64.8%で最も多い。次いで「理系クラス(理系コース)」が17.9%、「コース選択はない」が11.6%と続く。

高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」の割合が81.4%で最も高い。次いで「国公立大学に進学」が27.5%、「専門学校・専修学校に進学」が8.4%と続く。私立大学への進学志望者が多いことから、東洋大学がターゲットとする対象に調査を実施出来ていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問系統を複数回答で聴取したところ、「文学(心理学、考古学、地理学、歴史学、哲学など含む)」が28.9%で最も高い。次いで「経済・経営・商学」が27.4%、「法学(政治学など含む)」が15.2%と続く。

高校生対象 調査結果まとめ

東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度

- ・東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度(※)は、以下のとおり。
- ・「A. 【福祉社会デザイン学部 社会福祉学科】『社会福祉政策系』『福祉社会開発系』『福祉臨床系』の3コースで、理論から実践まで幅広く学び、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の国家資格を、希望に応じて複数取得できる学びを展開」の魅力度は55.2%である。
- ・「B. 【福祉社会デザイン学部 子ども支援学科】保育学・幼児教育学・子ども家庭福祉学を統合した子ども支援学を追究し、多文化共生やICT活用など現代的なテーマを学ぶとともに、保育士・幼稚園教諭・社会福祉士(受験資格)を取得できる学びを展開」の魅力度は58.8%である。
- ・「C. 【福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科】『空間デザイン』『生活環境デザイン』『プロダクトデザイン』の3分野で、建築、福祉住環境計画、都市計画から個々の製品や情報とその活用まで、人間中心設計の視点で幅広い『デザイン』の概念・手法を学ぶ」の魅力度は62.2%である。
- ・「D. 【健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科】アスリート支援や競技パフォーマンス向上等のスポーツ科学から、生理・生化学、運動生理学等の身体理解、さらに教育、文化、ビジネスまで、健康・スポーツのあらゆる分野から選べる幅広い学び」の魅力度は58.5%である。
- ・「E. 【健康スポーツ科学部 栄養科学科】栄養学、食品機能、スポーツ栄養など、食と栄養に係わる分野を幅広く扱うとともに、栄養士など資格関連科目を充実させ、さらに健康関連企業との連携により栄養科学、栄養管理のスペシャリストを育成」の魅力度は59.7%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

高校生対象 調査結果まとめ

東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」への 受験意向・入学意向

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」を「受験したいと思う」と答えた人は、14.7% (16,736人中、**2,456人**)である。
- 東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」を「受験したいと思う」と答えた2,456人のうち、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」各学科への入学意向は以下のとおり。

福祉社会デザイン学部 社会福祉学科 : 15.7% (**385人**)

福祉社会デザイン学部 子ども支援学科 : 14.0% (**343人**)

福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科 : 20.9% (**514人**)

健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科 : 31.3% (**768人**)

健康スポーツ科学部 栄養科学科 : 13.1% (**321人**)

①福祉社会デザイン学部 社会福祉学科



高校生対象 調査結果まとめ

福祉社会デザイン学部 社会福祉学科

東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」への 入学意向者数

※ここからは、Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科に入学したい」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

- ・回答者全体における入学意向は2.3% (385人) で、予定されている入学定員216人を上回る入学意向者がみられた。

< 属性別 >

◇性別

- ・「女性」の入学意向は2.8% (8,280人中、228人) と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇所属クラス別

- ・「文系クラス(文系コース)」に所属している回答者の入学意向は2.8% (10,848人中、301人) と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- ・東洋大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は2.5% (13,630人中、342人) と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。また、四年制大学に進学を考えている回答者の入学意向は2.4% (15,717人中、370人) と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

※四年制大学＝「私立大学に進学」「国公立大学に進学」のいずれかを回答した人の合計値

◇興味のある学問系統別

- ・「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」の学びと関連する「社会学・社会福祉学」に興味がある回答者の入学意向は10.0% (2,167人中、216人) と、予定している入学定員数と同数の入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

福祉社会デザイン学部 社会福祉学科

◇四年制大学進学意向×興味学問系統別

- 四年制大学進学希望者のうち、東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」の学びと関連する「社会学・社会福祉学」「生活科学(栄養学除く)」のいずれか一つ以上の学問系統に興味がある回答者の入学意向は9.5%(2,281人中、**217人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度別

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」の特色Aに魅力を感じている回答者の入学意向は、4.1%(9,236人中、**381人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

②福祉社会デザイン学部 子ども支援学科



高校生対象 調査結果まとめ

福祉社会デザイン学部 子ども支援学科

東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」への 入学意向者数

※ここからは、Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科に入学したい」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

- ・回答者全体における入学意向は2.0% (343人) で、予定されている入学定員100人を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

<属性別>

◇性別

- ・「女性」の入学意向は3.4% (8,280人中、285人) と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校所在地別

- ・「埼玉県」に所在地のある高校在籍者からの入学意向は2.2% (5,566人中、125人) と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。新設学部・学科の設置予定所在地である「東京都」の高校在籍者からの入学意向は2.1% (6,673人中、138人) と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇所属クラス別

- ・「文系クラス(文系コース)」に所属している回答者の入学意向は2.5% (10,848人中、276人) と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- ・東洋大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は2.2% (13,630人中、306人) と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。また、四年制大学に進学を考えている回答者の入学意向は2.1% (15,717人中、324人) と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

※四年制大学＝「私立大学に進学」「国公立大学に進学」のいずれかを回答した人の合計値
-学生確保(資料)-12-

高校生対象 調査結果まとめ

福祉社会デザイン学部 子ども支援学科

◇興味のある学問系統別

- 「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」の学びと関連する「教員養成・教育学・保育学」に興味がある回答者の入学意向は9.7% (2,478人中、**241人**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。また、直接関連する分野以外では、「文学(心理学、考古学、地理学、歴史学、哲学など含む)」に興味がある回答者の入学意向は2.1% (4,843人中、**104人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇四年制大学進学意向×興味学問系統別

- 四年制大学進学希望者のうち、東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」の学びと関連する「教員養成・教育学・保育学」「生活科学(栄養学除く)」「社会学・社会福祉学」のいずれか一つ以上の学問系統に興味がある回答者の入学意向は6.2% (4,303人中、**266人**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度別

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」の特色Bに魅力を感じている回答者の入学意向は、3.4% (9,833人中、**339人**)と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

③福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科



高校生対象 調査結果まとめ

福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科

東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」への 入学意向者数

※ここからは、Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科に入学したい」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

- ・回答者全体における入学意向は3.1%(514人)で、予定されている入学定員160人を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

<属性別>

◇性別

- ・「男性」の入学意向は2.7%(8,290人中、227人)、「女性」の入学意向は3.4%(8,280人中、283人)と、ともに予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇高校所在地別

- ・「埼玉県」に所在地のある高校在籍者からの入学意向は3.1%(5,566人中、170人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。新設学部・学科の設置予定所在地である「東京都」の高校在籍者からの入学意向は3.4%(6,673人中、226人)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇所属クラス別

- ・「文系クラス(文系コース)」に所属している回答者の入学意向は3.1%(10,848人中、337人)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- ・東洋大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は3.4%(13,630人中、464人)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。また、四年制大学に進学を考えている回答者の入学意向は3.2%(15,717人中、496人)と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科

◇興味のある学問系統別

- 学科の学びと直接関連する分野ではないが、「経済・経営・商学」に興味がある回答者の入学意向は3.8% (4,589人中、**175人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。「文学(心理学、考古学、地理学、歴史学、哲学など含む)」に興味がある回答者の入学意向は4.2% (4,843人中、**204人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。「芸術学(美術・デザイン、音楽など含む)」に興味がある回答者の入学意向は8.5% (1,888人中、**160人**)と、予定している入学定員数と同数の入学意向者がみられた。

◇四年制大学進学意向×興味学問系統別

- 四年制大学進学希望者のうち、東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」の学びと関連する「生活科学(栄養学除く)」「社会学・社会福祉学」「工学」のいずれか一つ以上の学問系統に興味がある回答者の入学意向は6.1% (3,854人中、**237人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度別

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」の特色Cに魅力を感じている回答者の入学意向は、4.9% (10,404人中、**511人**)と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

④健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科



高校生対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科

東洋大学「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」への 入学意向者数

※ここからは、Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科に入学したい」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

- ・回答者全体における入学意向は4.6% (768人) で、予定されている入学定員230人を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

<属性別>

◇性別

- ・「男性」の入学意向は6.8% (8,290人中、560人) と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校所在地別

- ・「埼玉県」に所在地のある高校在籍者からの入学意向は4.7% (5,566人中、264人) と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。新設学部・学科の設置予定所在地である「東京都」の高校在籍者からの入学意向は4.8% (6,673人中、322人) と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇所属クラス別

- ・「文系クラス(文系コース)」に所属している回答者の入学意向は5.4% (10,848人中、591人) と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- ・東洋大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は5.2% (13,630人中、708人) と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。また、四年制大学に進学を考えている回答者の入学意向は4.7% (15,717人中、741人) と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

※四年制大学＝「私立大学に進学」「国公立大学に進学」のいずれかを回答した人の合計値
-学生確保(資料)-18-

高校生対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科

◇興味のある学問系統別

- 「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」の学びと関連する「スポーツ学」に興味がある回答者の入学意向は32.1% (1,891人中、**607人**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。また、直接関連する分野以外では、「経済・経営・商学」に興味がある回答者の入学意向は5.1% (4,589人中、**236人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇四年制大学進学意向×興味学問系統別

- 四年制大学進学希望者のうち、東洋大学「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」の学びと関連する「スポーツ学」「看護・保健学」のいずれか一つ以上の学問系統に興味がある回答者の入学意向は22.4% (2,725人中、**611人**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度別

- 東洋大学「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」の特色Dに魅力を感じている回答者の入学意向は、7.8% (9,797人中、**760人**)と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

⑤健康スポーツ科学部 栄養科学科



高校生対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学部 栄養科学科

東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」への入学意向者数

※ここからは、Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「健康スポーツ科学部 栄養科学科に入学したい」と回答した人を入学意向者と定義し、分析を行う。

- ・回答者全体における入学意向は1.9% (321人) で、予定されている入学定員100人を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

< 属性別 >

◇性別

- ・「男性」の入学意向は1.4% (8,290人中、113人) と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。「女性」の入学意向は2.5% (8,280人中、206人) と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校所在地別

- ・「埼玉県」に所在地のある高校在籍者からの入学意向は2.2% (5,566人中、125人) と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。新設学部・学科の設置予定所在地である「東京都」の高校在籍者からの入学意向は1.8% (6,673人中、120人) と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇所属クラス別

- ・「文系クラス(文系コース)」に所属している回答者の入学意向は1.9% (10,848人中、203人) と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- ・東洋大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は2.2% (13,630人中、294人) と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。また、四年制大学に進学を考えている回答者の入学意向は2.0% (15,717人中、311人) と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

※四年制大学＝「私立大学に進学」「国公立大学に進学」のいずれかを回答した人の合計値
-学生確保(資料)-21-

高校生対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学部 栄養科学科

◇興味のある学問系統別

- ・「健康スポーツ科学部 栄養科学科」の学びと関連する「栄養学(スポーツ栄養学含む)」に興味がある回答者の入学意向は18.4%(1,058人中、**195人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇四年制大学進学意向×興味学問系統別

- ・四年制大学進学希望者のうち、東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」の学びと関連する「栄養学(スポーツ栄養学含む)」「理学」「看護・保健学」のいずれか一つ以上の学問系統に興味がある回答者の入学意向は6.3%(3,334人中、**210人**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

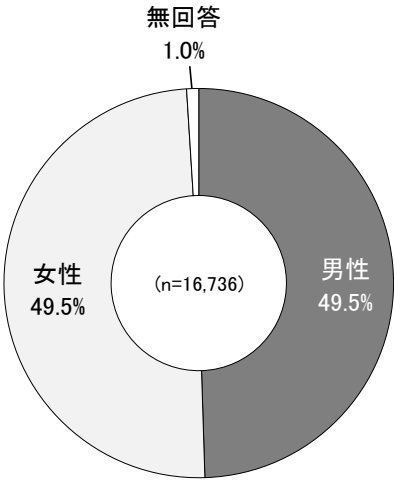
◇「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度別

- ・東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」の特色Eに魅力を感じている回答者の入学意向は、3.1%(9,996人中、**314人**)と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

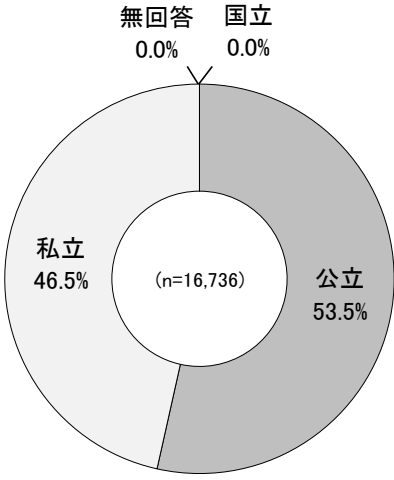
高校生対象 調査結果

回答者の属性(性別／高校種別／高校所在地／所属クラス)

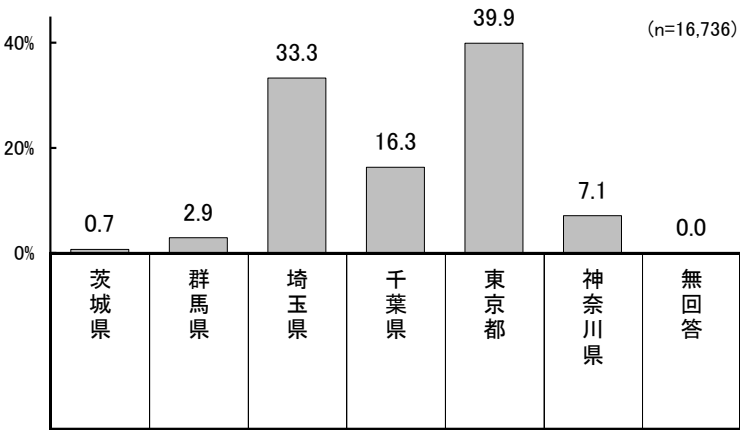
性別



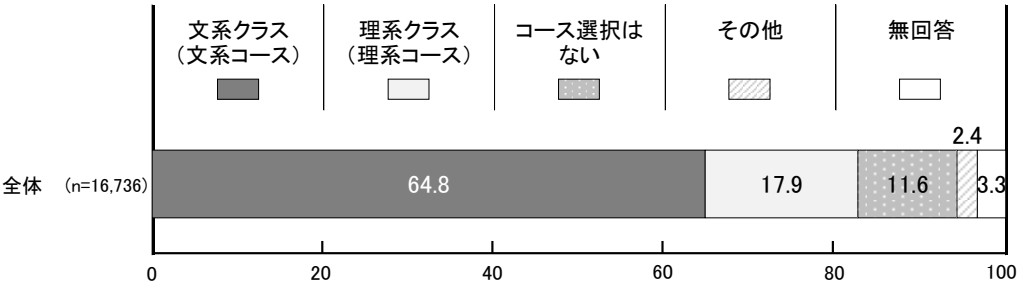
高校種別



高校所在地



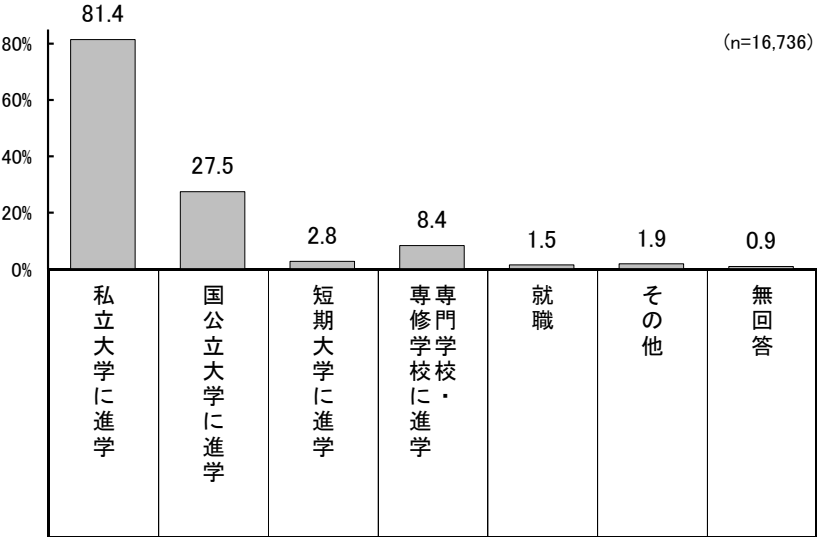
所属クラス



高校卒業後の希望進路

■高校卒業後の希望進路

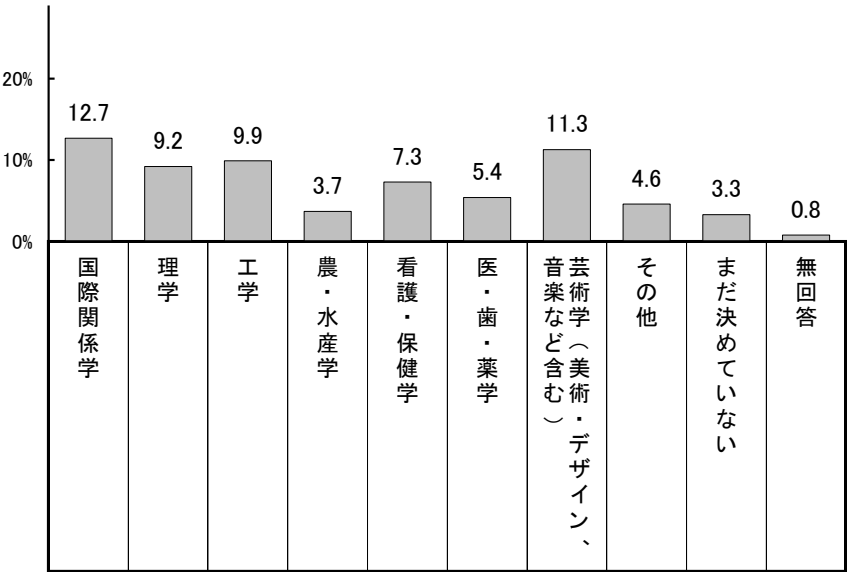
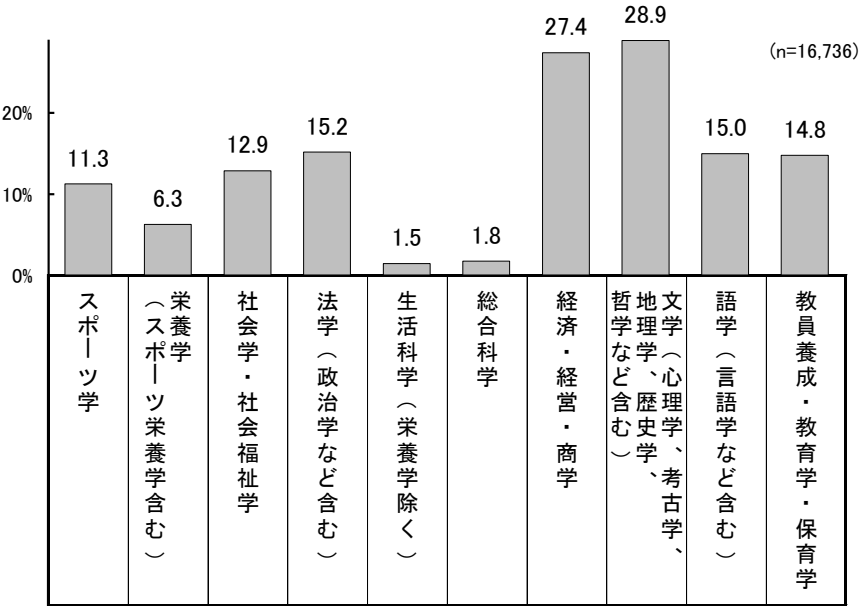
Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。以下の項目から、あてはまるものすべてに○をつけてください。(いくつでも)



興味のある学問系統

■興味のある学問系統

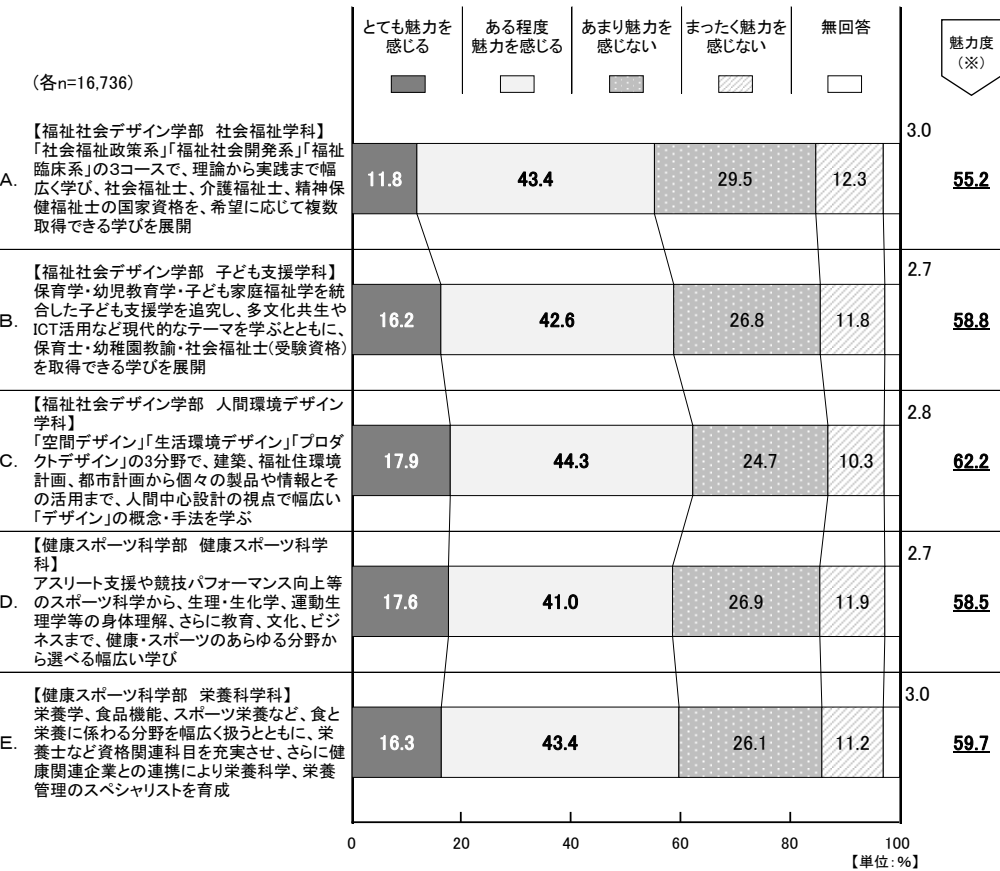
Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。以下の項目から、興味のある学問系統すべてに○をつけてください。
(いくつでも)(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)



東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度

東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度

Q3. 東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

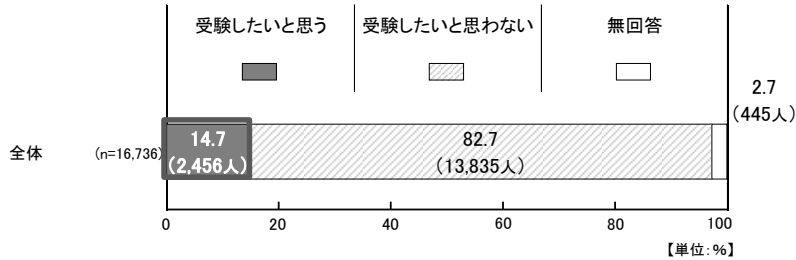


※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値
※魅力度は、人数をもとに％を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」への 受験意向／入学意向／受験意向別入学意向

■東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」への受験意向

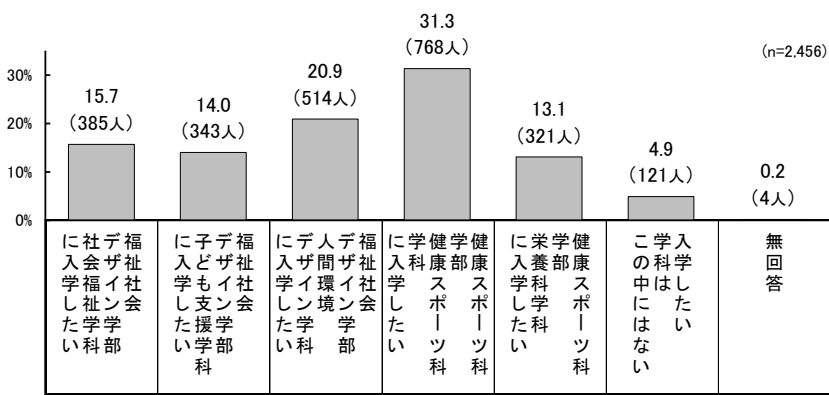
Q4. あなたは、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)のいずれかを受験したいと
思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた2,456人のみ抽出

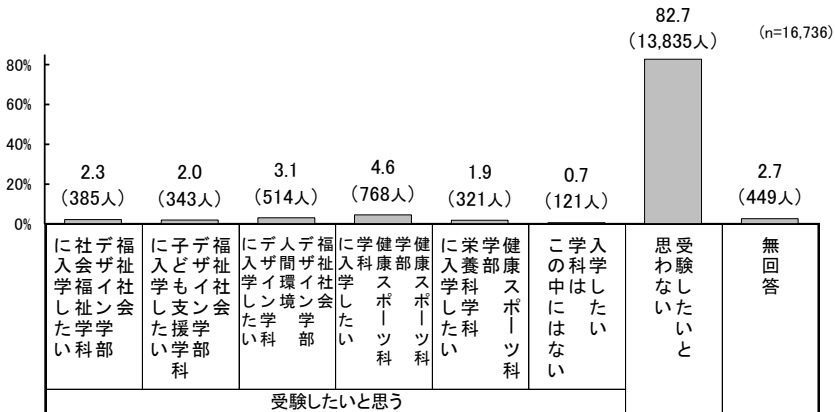
■東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」各学科への入学意向

Q5. あなたは、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、
どの学科に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近いもの1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験意向 (Q4)」と「入学意向 (Q5)」を
かけあわせて集計 (母数は全回答者)

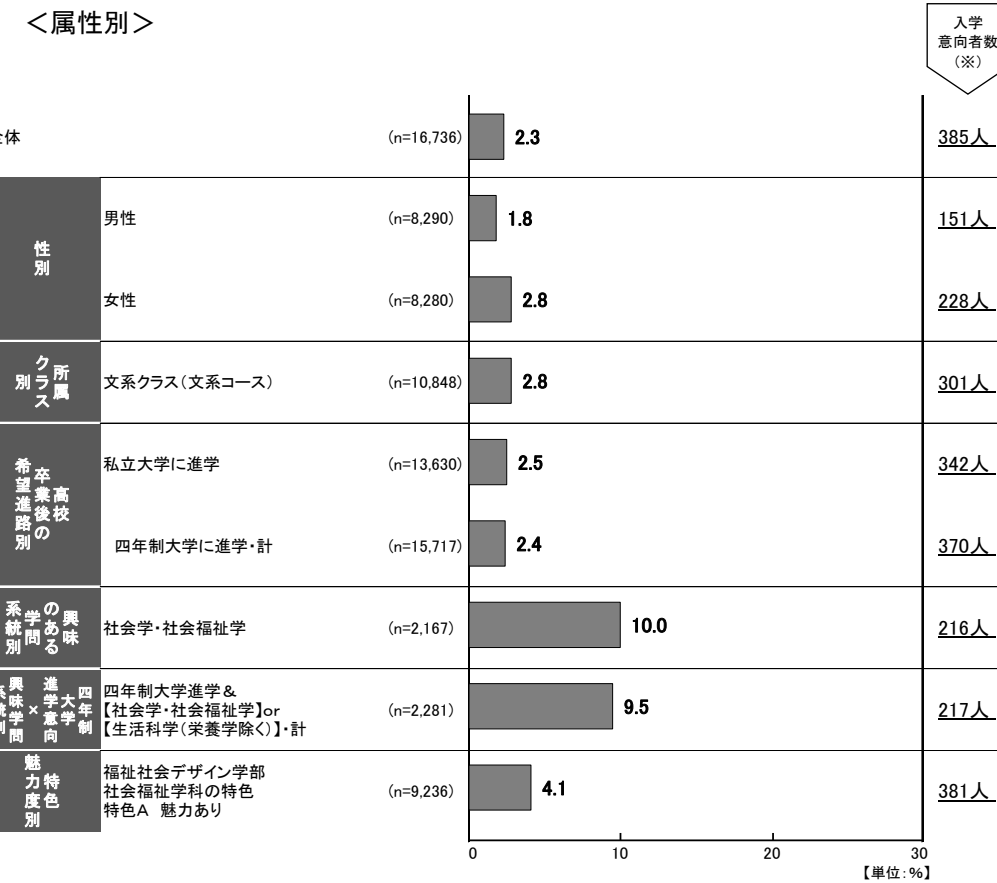
■東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」各学科への 受験意向別入学意向



東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」への 受験意向別入学意向＜属性別＞

■東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」への受験意向別入学意向 ＜属性別＞

※Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科に入学したい」と回答した人を東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」の入学意向者と定義する。



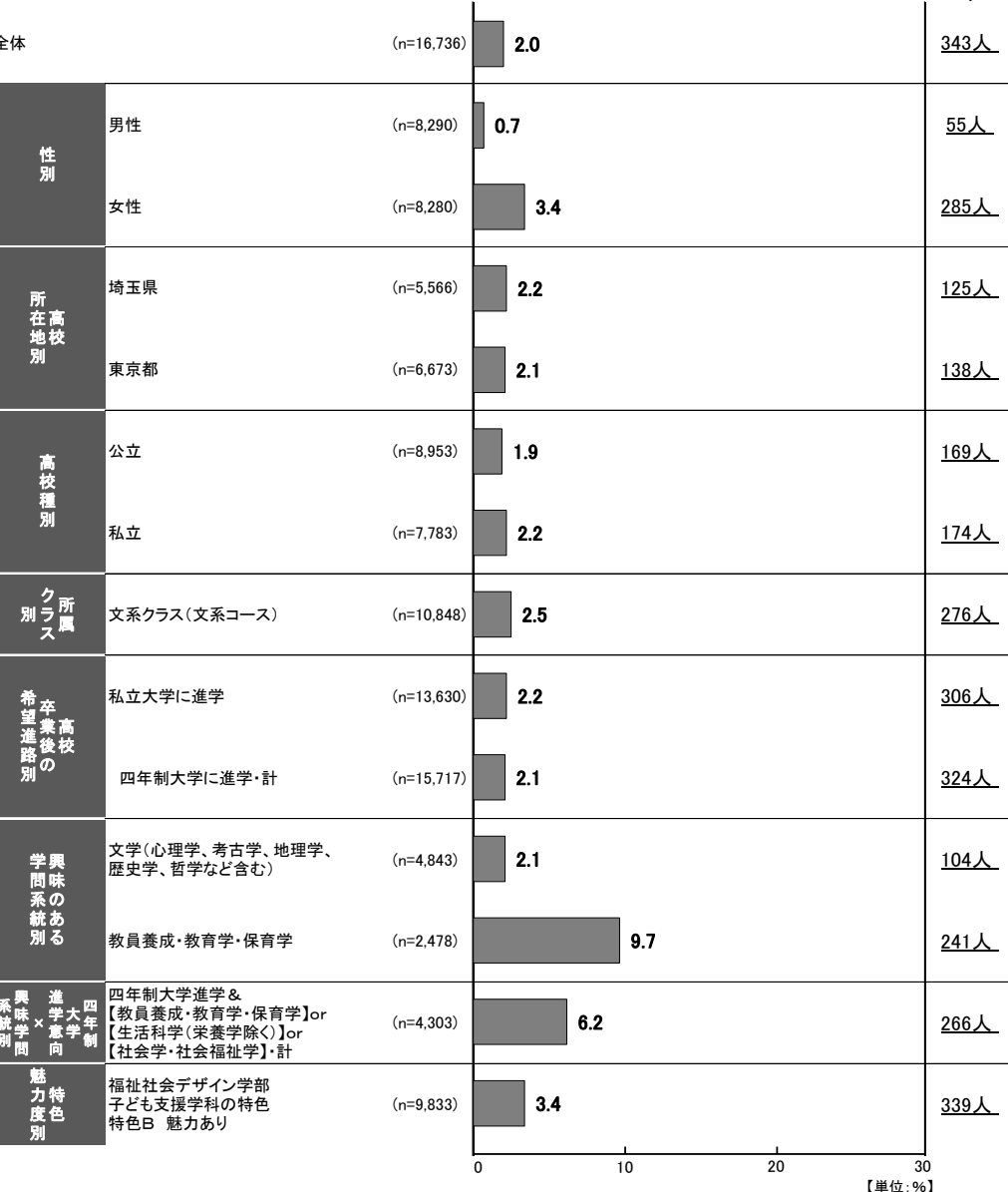
※入学意向者数＝「受験したいと思う」かつ「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科に入学したい」と回答した人の人数

東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」への 受験意向別入学意向<属性別>

■東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」への受験意向別入学意向 <属性別>

※Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科に入学したい」と回答した人を東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」の入学意向者と定義する。

<属性別>



※入学意向者数＝「受験したいと思う」かつ「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科に入学したい」と回答した人の人数

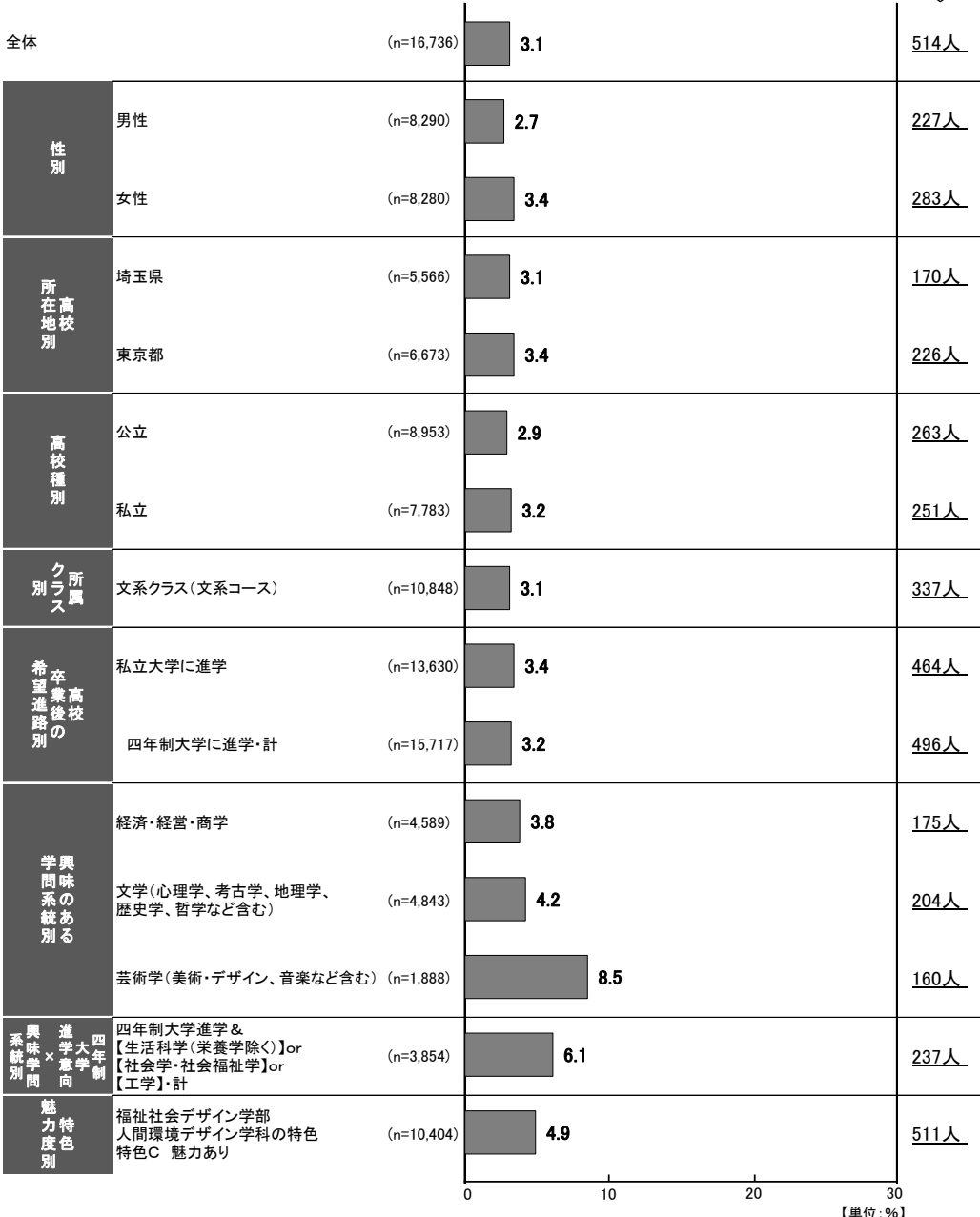
東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」への受験意向別入学意向<属性別>

東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」への受験意向別入学意向<属性別>

※Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科に入学したい」と回答した人を東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」の入学意向者と定義する。

<属性別>

入学
意向者数
(※)

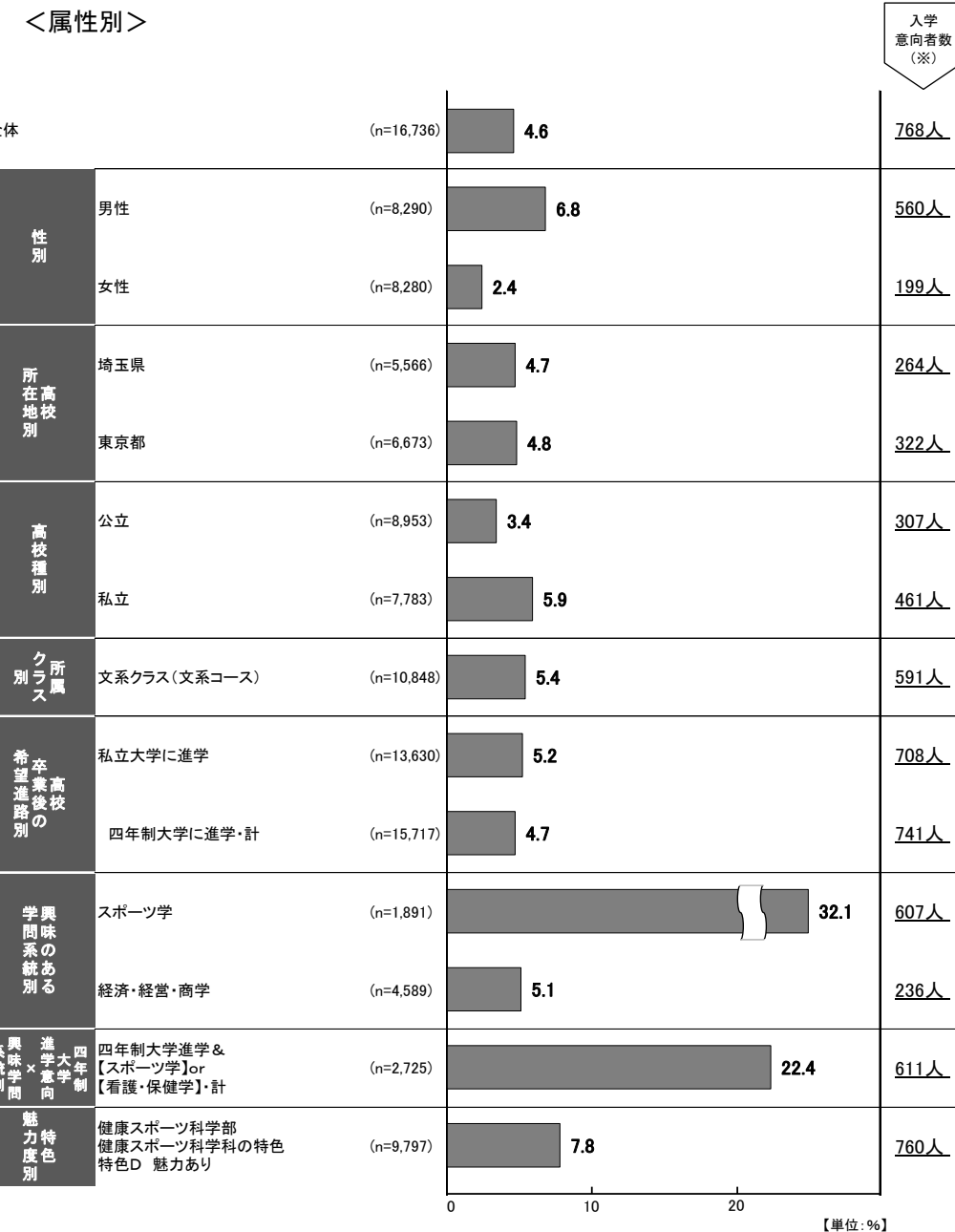


※入学意向者数=「受験したいと思う」かつ「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科に入学したい」と回答した人の人数

東洋大学「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」への受験意向別入学意向<属性別>

■東洋大学「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」への受験意向別入学意向<属性別>

※Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科に入学したい」と回答した人を東洋大学「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」の入学意向者と定義する。



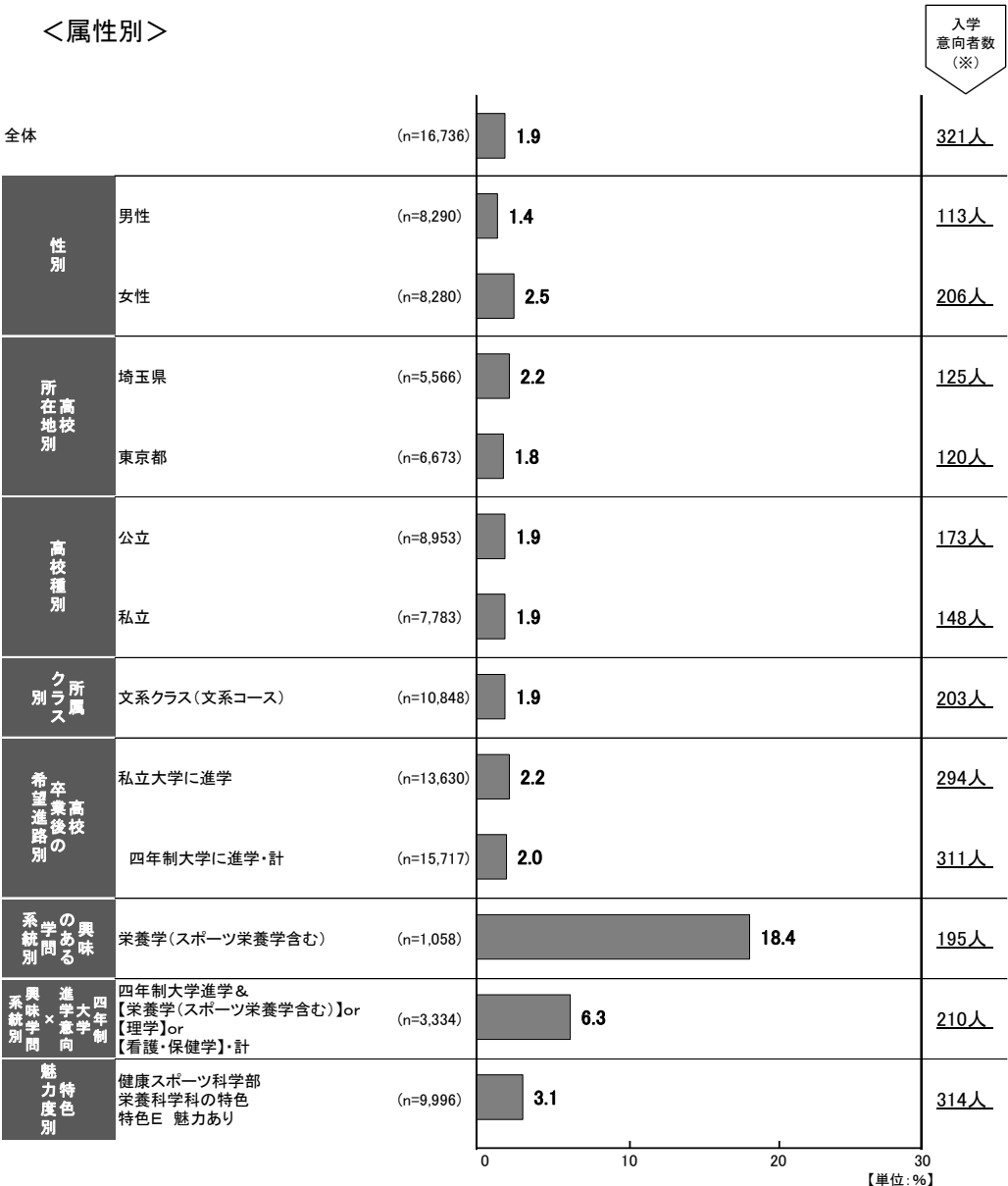
※入学意向者数＝「受験したいと思う」かつ「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科に入学したい」と回答した人の人数

東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」への 受験意向別入学意向<属性別>

■東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」への受験意向別入学意向 <属性別>

※Q4で「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」のいずれかを「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「健康スポーツ科学部 栄養科学科に入学したい」と回答した人を東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」の入学意向者と定義する。

<属性別>



※入学意向者数＝「受験したいと思う」かつ「健康スポーツ科学部 栄養科学科に入学したい」と回答した人の人数

卷末資料 調查票

◆東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（仮称、設置構想中）についてお聞きます。

東洋大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる2023年（令和5年）4月に、新しく「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（仮称）を設置することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

Q3. 東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。（それぞれ、あてはまるもの1つに○）

			とても 魅力を感じる	ある程度 魅力を感じる	あまり 魅力を感じない	まったく 魅力を感じない
		例. ○○である。	→ ☐	→ ☒	→ ☐	→ ☐
福祉社会デザイン学部	社会福祉学科	A. 「社会福祉政策系」「福祉社会開発系」「福祉臨床系」の3コースで、理論から実践まで幅広く学び、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の国家資格を、希望に応じて複数取得できる学びを展開	→ ☐	→ ☐	→ ☐	→ ☐
	子ども支援学科	B. 保育学・幼児教育学・子ども家庭福祉学を統合した子ども支援学を追究し、多文化共生やICT活用など現代的なテーマを学ぶとともに、保育士・幼稚園教諭・社会福祉士(受験資格)を取得できる学びを展開	→ ☐	→ ☐	→ ☐	→ ☐
	人間環境デザイン学科	C. 「空間デザイン」「生活環境デザイン」「プロダクトデザイン」の3分野で、建築、福祉住環境計画、都市計画から個々の製品や情報とその活用まで、人間中心設計の視点で幅広い「デザイン」の概念・手法を学ぶ	→ ☐	→ ☐	→ ☐	→ ☐
健康スポーツ科学部	健康スポーツ学科	D. アスリート支援や競技パフォーマンス向上等のスポーツ科学から、生理・生化学、運動生理学等の身体理解、さらに教育、文化、ビジネスまで、健康・スポーツのあらゆる分野から選べる幅広い学び	→ ☐	→ ☐	→ ☐	→ ☐
	栄養科学学科	E. 栄養学、食品機能、スポーツ栄養など、食と栄養に係わる分野を幅広く扱うとともに、栄養士など資格関連科目を充実させ、さらに健康関連企業との連携により栄養科学、栄養管理のスペシャリストを育成	→ ☐	→ ☐	→ ☐	→ ☐

Q4. あなたは、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（仮称、設置構想中）のいずれかを受験したいと思いますか。あなたの気持ちに近いものを1つに○をつけてください。（1つだけ）

☐ 受験したいと思う ☐ 受験したいと思わない

Q5. あなたは、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（仮称、設置構想中）を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近いものを1つに○をつけてください。（1つだけ）

☐ 福祉社会デザイン学部 社会福祉学科に入学したい ☐ 健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科に入学したい
☐ 福祉社会デザイン学部 子ども支援学科に入学したい ☐ 健康スポーツ科学部 栄養科学科に入学したい
☐ 福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科に入学したい ☐ 入学したい学科はこれの中にはない

*** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。***

18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向

【将来予測 2011～2032年】

▶ 18歳人口予測 P3～P8

- ・2020年116.7万人→2032年102.4万人（14.3万人減少）
- ・東北の減少率が高く、6県中5県で減少率20%以上
- ・2020年減少率が高いのは東北（78.3%）、減少数が多いのは近畿（29,398人減）

【経過推移 2011年～2020年】

▶ 進学率（現役・過年度含）の推移 P9～P15

大学進学率（現役）

- ・2011年47.7%→2020年51.1%（3.4ポイント上昇）
- ・上昇率が高いのは、1位 北海道（124.0）、2位 東北（110.4）、3位 四国（108.1）。※
- ・進学率が高いのは、南関東、東海、近畿の三大都市圏

短期大学進学率（現役）

- ・2011年5.8%→2020年4.2%（1.6ポイント低下）。
- ・低下率が高いのは、1位 南関東（65.2）、2位 中国（66.7）、3位 東海（70.0）※
- ・進学率が高いのは、東北、甲信越、北陸

専門学校進学率（現役）

- ・2011年16.2%→2020年16.8%（0.6ポイント上昇）
- ・上昇率が高いのは、1位 南関東（115.0）、2位 近畿（107.1）、3位 北関東（105.8）※
- ・進学率が高いのは、甲信越、北海道、九州沖縄

都道府県別進学率（現役・2020年）

- ・大学進学率1位は東京、短期大学進学率1位は鳥取・大分、専門学校進学率1位は沖縄

大学・短期大学・専門学校進学率（現役・過年度含 比較・2011～2020年）

- ・2020年現役と過年度含の進学率の差は、大学は3.3ポイント（過年度含が高い）
- 短期大学は差なし。

注）※の（ ）内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数

▶ 地元残留率の推移 P16～P24

- ・大学入学者の地元残留率は、2011年43.2%→2020年44.1%（0.9ポイント上昇）
- ・短期大学入学者の地元残留率は、2011年67.4%→2020年69.9%（2.5ポイント上昇）
- ・大学入学者の地元残留率1位は愛知（71.1%）
- ・短期大学入学者の地元残留率1位は福岡（92.7%）

▶ 18歳人口減少率×地元残留率 P25・26

- ・大学入学者：都道府県別：2020→2032年
- ・短期大学入学者：都道府県別：2020→2032年

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ リクルート進学総研

<http://souken.shingakunet.com/>

分析・データについて

■ 分析・データについて

データ元：文部科学省「学校基本調査」

- ① 18歳人口概算は、文部科学省「学校基本調査」より、以下のとおり定義して算出した。
 - ・ 18歳人口＝3年前の中学校卒業生および中等教育学校前期課程修了者数
 - ・ 中学校卒業生数＝高校生＋フリーター＋就職者　すべて含む
- ② 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。
- ③ 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とした際の値を示す。
- ④ 進学率（現役）とは、進学者数(大学・短大・専修学校専門課程(専門学校))÷高等学校卒業生数(全日制・定時制＋中等教育学校後期課程)で算出した。
- ⑤ 残留率とは、自県内(地元) の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元) の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合。(浪人含)
- ⑥ 図表で利用している百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入しているため、数値の和が100.0にならない場合がある。
- ⑦ エリア別分析における各エリアに含まれる都道府県については以下のとおり。

北海道　：北海道
東北　　：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
北関東　：茨城、栃木、群馬
南関東　：埼玉、千葉、東京、神奈川
甲信越　：新潟、山梨、長野
北陸　　：富山、石川、福井
東海　　：岐阜、静岡、愛知、三重
近畿　　：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国　　：鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国　　：徳島、香川、愛媛、高知
九州沖縄：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

【年早見表】

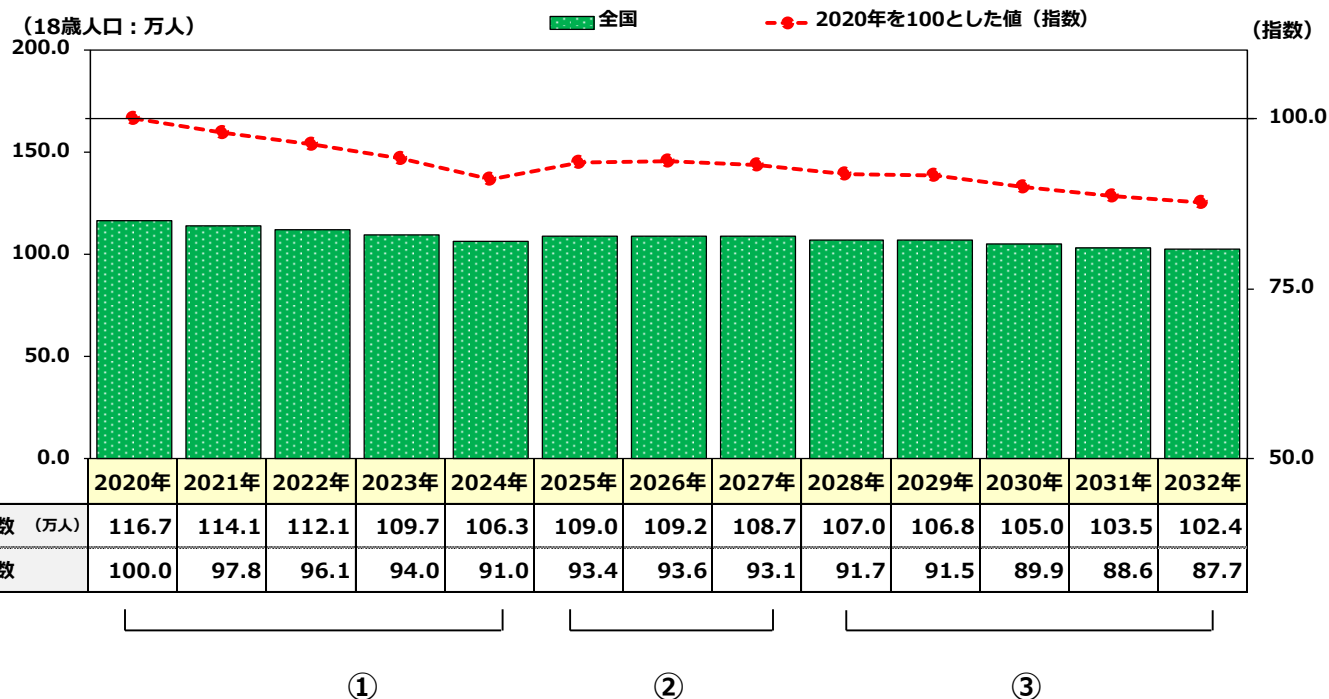
学校基本調査		18歳人口		2020年4月 現在高3	3年前の中学・中等教育卒業生
		図表(年)	人数		
確報	学校基本調査公表	2020	1,167,348	2019	(平成29年) 2017年 の中学校卒業生+中等教育学校前期課程修了者+義務教育学校卒業生数
確報	進学総研集計(予測)	2021	1,141,140	2020	(平成30年) 2018年 の中学校卒業生+中等教育学校前期課程修了者+義務教育学校卒業生数
確報	進学総研集計(予測)	2022	1,121,285	2021	(平成31年) 2019年 の中学校卒業生+中等教育学校前期課程修了者+義務教育学校卒業生数
速報	進学総研集計(予測)	2023	1,097,416	2022	(令和2年) 2020年 の中学校3年生+中等教育学校前期課程修了者(全国計のみ)+義務教育学校卒業生数
速報	進学総研集計(予測)	2024	1,062,870	2023	(令和2年) 2020年 の中学校3年生+中等教育学校前期課程3年生+義務教育学校9年生の生徒数
速報	進学総研集計(予測)	2025	1,089,970	2024	(令和2年) 2020年 の中学校2年生+中等教育学校前期課程2年生+義務教育学校8年生の生徒数
速報	進学総研集計(予測)	2026	1,092,118	2025	(令和2年) 2020年 の中学校1年生+中等教育学校前期課程1年生+義務教育学校7年生の生徒数
速報	進学総研集計(予測)	2027	1,086,573	2026	(令和2年) 2020年 の小学校6年生+義務教育学校6年生の生徒数
速報	進学総研集計(予測)	2028	1,070,466	2027	(令和2年) 2020年 の小学校5年生+義務教育学校5年生の生徒数
速報	進学総研集計(予測)	2029	1,068,289	2028	(令和2年) 2020年 の小学校4年生+義務教育学校4年生の生徒数
速報	進学総研集計(予測)	2030	1,049,877	2029	(令和2年) 2020年 の小学校3年生+義務教育学校3年生の生徒数
速報	進学総研集計(予測)	2031	1,034,548	2030	(令和2年) 2020年 の小学校2年生+義務教育学校2年生の生徒数
速報	進学総研集計(予測)	2032	1,023,963	2031	(令和2年) 2020年 の小学校1年生+義務教育学校1年生の生徒数

18歳人口予測（全体：全国：2020～2032年）

■ 2020年116.7万人→2032年102.4万人（14.3万人減少）

・全体の18歳人口は、以下の3段階を経て経年的に減少する。

- ① 2020年～2024年：4年連続減少（116.7万人から106.3万人、10.4万人減少）。特に2023～2024年の1年で3.4万人と大きく減少する。
- ② 2025年～2027年：2025年に109.0万人と前年106.3万人に対し2.7万人増加に転じ、2027年は108.7万人とほぼ変わらず。
- ③ 2028年～2032年：2028年は107.0万人と前年108.7万に対し1.7万人と再び減少し、2032年は102.4万人となる。



18歳人口予測（男女別：全国：2020～2032年）

■男女ともに12年間で約12%の減少

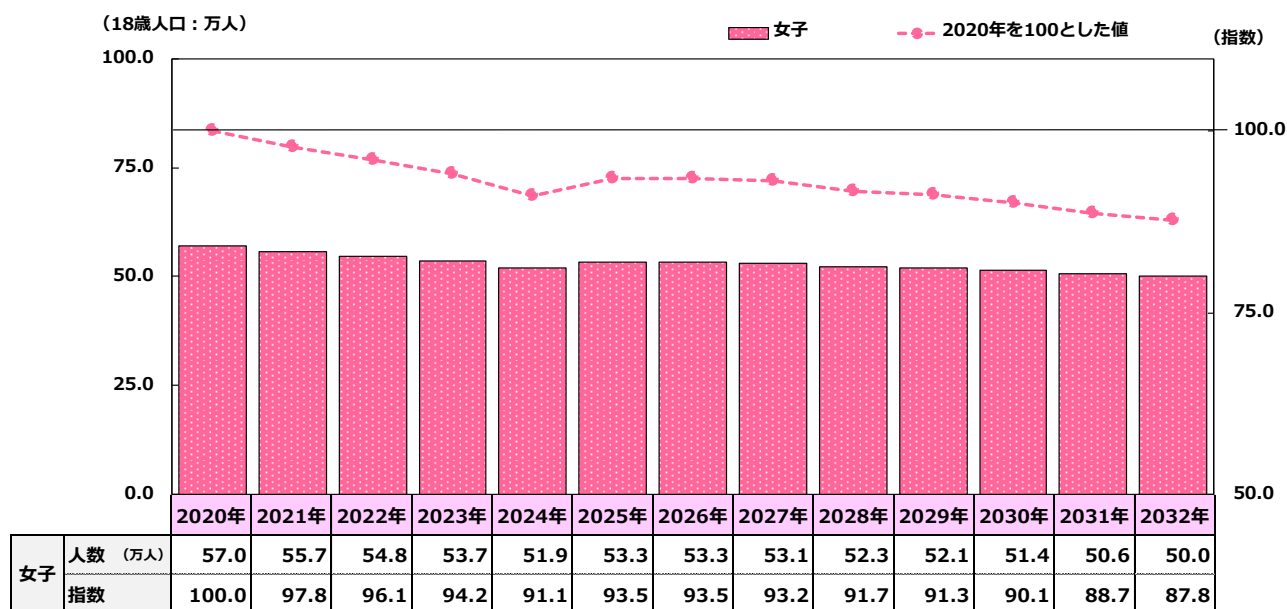
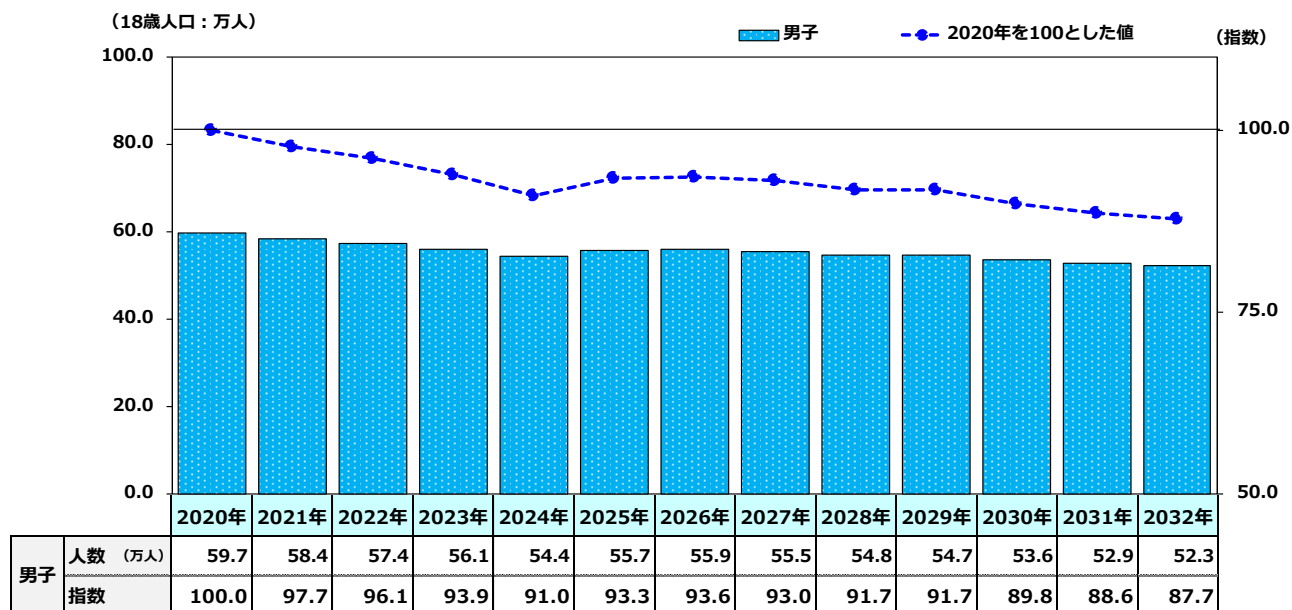
減少のスピード・時期は男女差がほとんどない。

男子

- ・2020年59.7万人から2032年52.3万人、12年間で7.4万人減少。
- ・2026年で減少は落ち着くが、2027年から再び減少傾向となり2032年までに3.2万人減少している。

女子

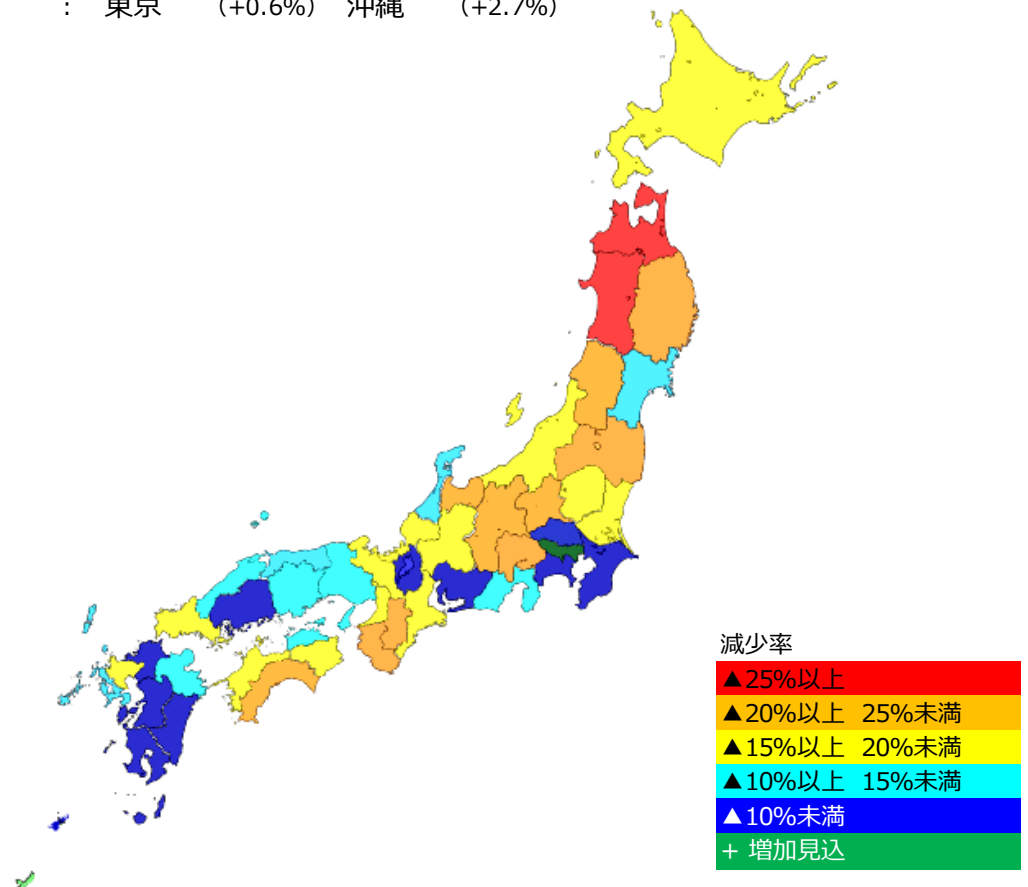
- ・2020年57.0万人から2032年50.0万人、12年間で7.0万人減少。
- ・男子と同様2026年で減少が落ち着くが、2027年から2032年にかけて3.1万人減少している。



18歳人口の予測（全体：都道府県別:2020→2032年）

■東北の減少率が高く、6県中5県で減少率20%以上、東京・沖縄が増加する見込み。

・減少率25%以上	:	青森	(28.3%)	秋田	(27.9%)				
・減少率20%以上25%未満	:	岩手	(23.5%)	山形	(23.8%)	福島	(21.0%)	群馬	(21.9%)
		山梨	(22.7%)	長野	(20.5%)	富山	(22.8%)	奈良	(20.0%)
		和歌山	(24.1%)	高知	(21.5%)				
・減少率15%以上20%未満	:	北海道	(16.8%)	茨城	(18.2%)	栃木	(18.3%)	新潟	(19.4%)
		福井	(18.4%)	岐阜	(17.7%)	三重	(17.3%)	京都	(15.0%)
		大阪	(15.6%)	山口	(17.8%)	徳島	(19.7%)	愛媛	(16.2%)
		佐賀	(15.7%)						
・減少率10%以上15%未満	:	宮城	(13.9%)	石川	(14.9%)	静岡	(14.8%)	兵庫	(12.9%)
		鳥取	(11.2%)	島根	(12.7%)	岡山	(14.3%)	香川	(12.9%)
		長崎	(14.6%)	大分	(11.7%)				
・減少率10%未満	:	埼玉	(9.2%)	千葉	(9.9%)	神奈川	(7.4%)	愛知	(9.1%)
		滋賀	(9.3%)	広島	(9.7%)	福岡	(2.8%)	熊本	(6.7%)
		宮崎	(9.8%)	鹿児島	(9.6%)				
・増加する見込み。	:	東京	(+0.6%)	沖縄	(+2.7%)				



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

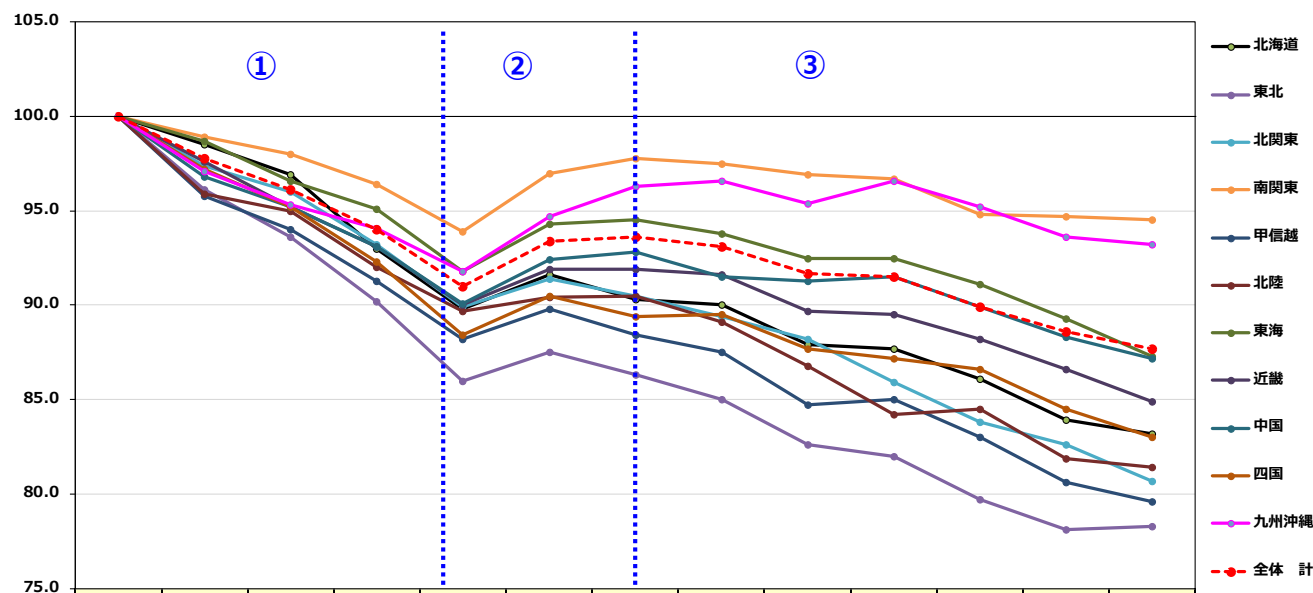
18歳人口予測（全体：エリア別：2020～2032年）

■ 減少率が高いのは東北（2020年比78.3%）、減少数が多いのは近畿（29,398人減）

- ・ 減少率が高いのは、1位 東北（2020年比78.3%）、2位 甲信越（79.6%）、3位 北関東（80.7%）。
- ・ 減少数が多いのは、1位 近畿（29,398人減）、2位 東海（18,433人減）、3位 東北（18,093人減）。
- ・ 減少率が低いのは、1位 南関東（94.5%）、2位 九州沖縄（93.2%）、3位 東海（87.3%）。
- ・ エリア別の18歳人口は、以下の3段階を経て減少する。

- ① 2020～2024年：全国では約10万人減少、エリアも含め減少傾向になる時期
- ② 2024～2026年：全国で約2.9万人増加、人口が回復する時期
- ③ 2026～2032年：回復後さらに減少する時期

指数 = 2020年を100とした値



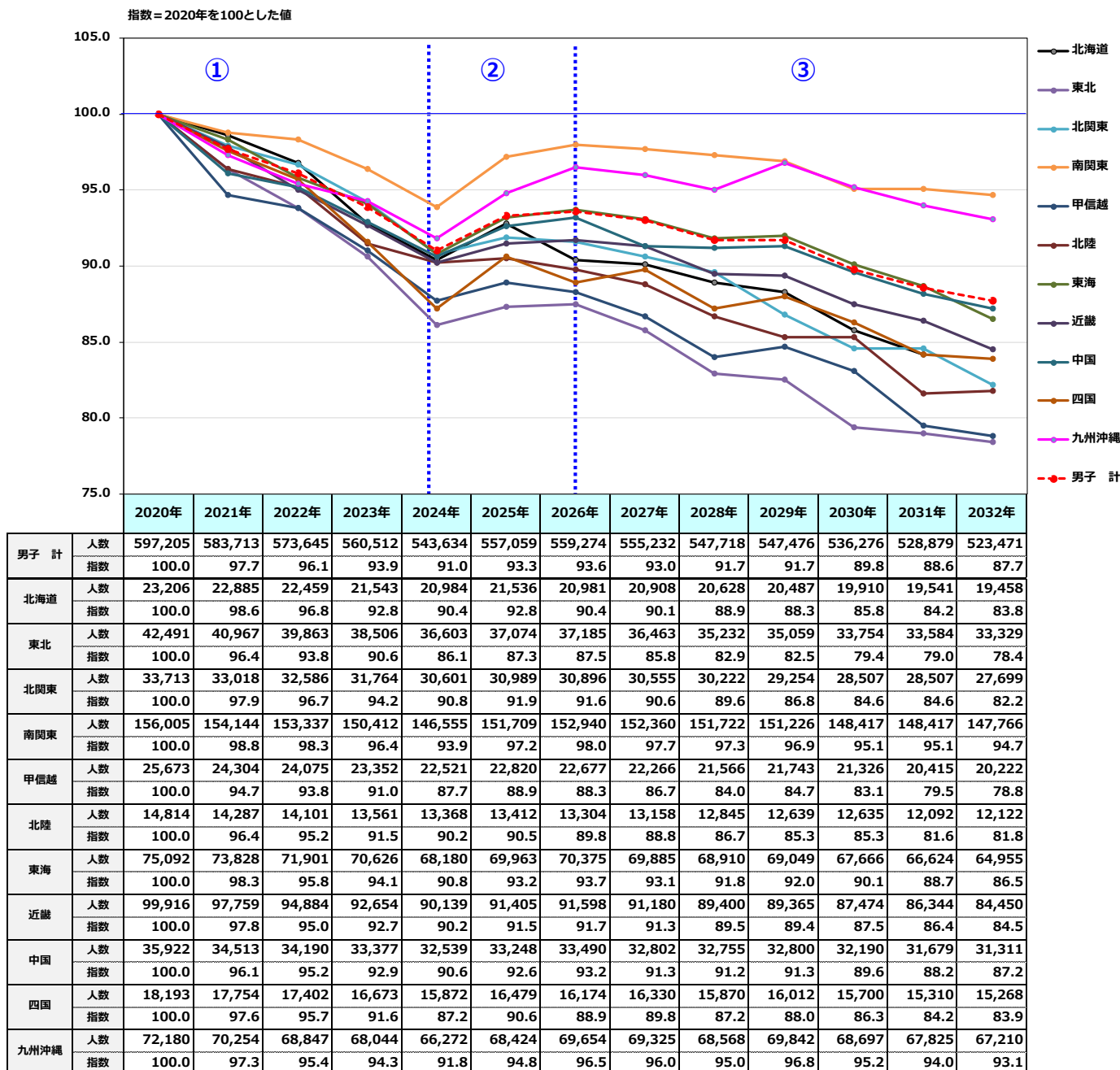
		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
全体 計	人数	1,167,348	1,141,140	1,121,285	1,097,416	1,062,870	1,089,970	1,092,118	1,086,573	1,070,466	1,068,289	1,049,877	1,034,548	1,023,963
	指数	100.0	97.8	96.1	94.0	91.0	93.4	93.6	93.1	91.7	91.5	89.9	88.6	87.7
北海道	人数	45,674	45,007	44,276	42,489	41,028	41,853	41,256	41,087	40,148	40,064	39,321	38,302	37,985
	指数	100.0	98.5	96.9	93.0	89.8	91.6	90.3	90.0	87.9	87.7	86.1	83.9	83.2
東北	人数	83,524	80,269	78,146	75,379	71,809	73,104	72,063	71,026	69,024	68,469	66,592	65,270	65,431
	指数	100.0	96.1	93.6	90.2	86.0	87.5	86.3	85.0	82.6	82.0	79.7	78.1	78.3
北関東	人数	66,380	64,677	63,720	61,863	59,667	60,662	60,090	59,374	58,555	57,023	55,612	54,815	53,543
	指数	100.0	97.4	96.0	93.2	89.9	91.4	90.5	89.4	88.2	85.9	83.8	82.6	80.7
南関東	人数	305,457	301,999	299,356	294,497	286,935	296,205	298,790	297,810	295,937	295,254	289,575	289,332	288,670
	指数	100.0	98.9	98.0	96.4	93.9	97.0	97.8	97.5	96.9	96.7	94.8	94.7	94.5
甲信越	人数	49,897	47,817	46,907	45,536	44,033	44,794	44,084	43,684	42,239	42,396	41,412	40,210	39,726
	指数	100.0	95.8	94.0	91.3	88.2	89.8	88.4	87.5	84.7	85.0	83.0	80.6	79.6
北陸	人数	29,004	27,814	27,545	26,692	26,008	26,219	26,256	25,852	25,177	24,413	24,515	23,760	23,613
	指数	100.0	95.9	95.0	92.0	89.7	90.4	90.5	89.1	86.8	84.2	84.5	81.9	81.4
東海	人数	145,478	143,651	140,510	138,309	133,550	137,154	137,505	136,524	134,543	134,593	132,524	129,893	127,045
	指数	100.0	98.7	96.6	95.1	91.8	94.3	94.5	93.8	92.5	92.5	91.1	89.3	87.3
近畿	人数	195,001	190,286	185,626	181,639	175,501	179,248	179,159	178,700	174,848	174,490	171,960	168,797	165,603
	指数	100.0	97.6	95.2	93.1	90.0	91.9	91.9	91.6	89.7	89.5	88.2	86.6	84.9
中国	人数	70,193	67,945	66,821	65,318	63,247	64,858	65,130	64,245	64,060	64,197	63,134	62,001	61,205
	指数	100.0	96.8	95.2	93.1	90.1	92.4	92.8	91.5	91.3	91.5	89.9	88.3	87.2
四国	人数	35,553	34,558	33,841	32,825	31,434	32,184	31,780	31,824	31,182	30,990	30,785	30,031	29,505
	指数	100.0	97.2	95.2	92.3	88.4	90.5	89.4	89.5	87.7	87.2	86.6	84.5	83.0
九州沖縄	人数	141,187	137,117	134,537	132,869	129,658	133,689	136,005	136,447	134,753	136,400	134,447	132,137	131,637
	指数	100.0	97.1	95.3	94.1	91.8	94.7	96.3	96.6	95.4	96.6	95.2	93.6	93.2

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（男子：エリア別：2020～2032年）

■ 減少率が高いのは東北（2020年比78.4%）、減少数が大きいのは近畿（15,466人減）

- ・ 減少率が高いのは、1位 東北（2020年比較78.4%）、2位 甲信越（78.8%）、3位 北陸（81.8%）。
- ・ 減少数が大きいのは、1位 近畿（15,466人減）、2位 東海（10,137人減）、3位 東北（9,162人減）。
- ・ 減少率が低いのは、1位 南関東（94.7%）、2位 九州沖縄（93.1%）、3位 中国（87.2%）。
- ・ ③期において2026年～2032年の男子人口は、北海道（1,523人減）、東北（3,856人減）、北関東（3,197人減）、甲信越（2,455人減）、北陸（1,182人減）、東海（5,420人減）、近畿（7,148人減）、中国（2,179人減）、四国（906人減）、九州沖縄（2,444人減）



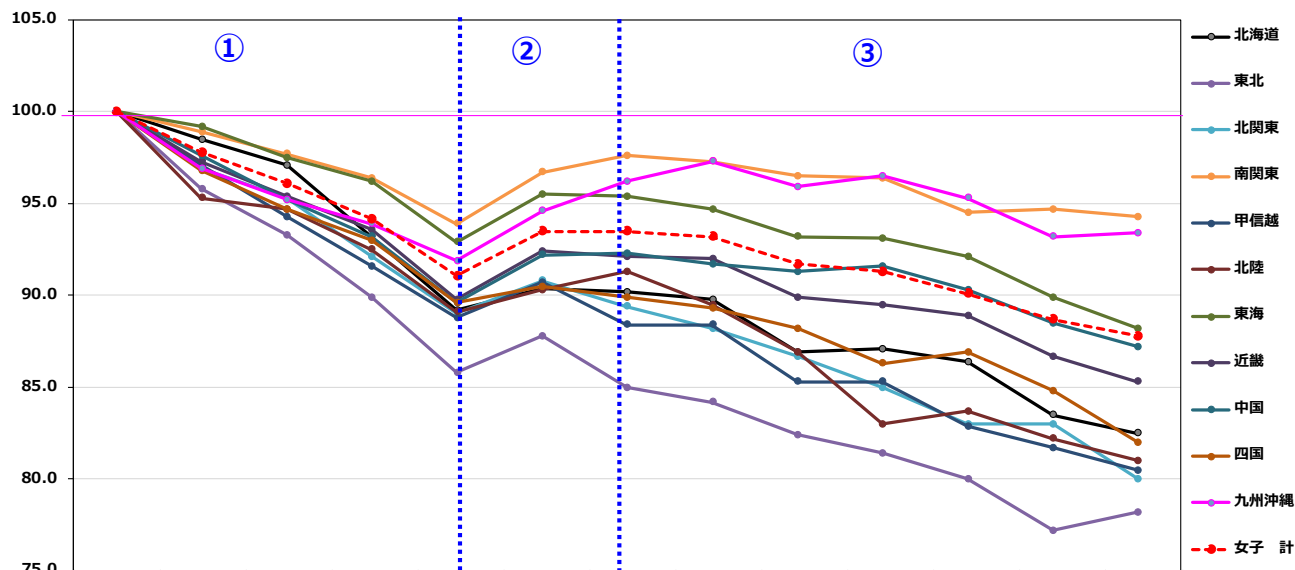
※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（女子：エリア別：2020～2032年）

■ 減少率が高いのは東北（2020年比82.5%）、減少数が多いのは近畿（13,932人減）

- ・ 減少率が高いのは、1位 東北（2020年比82.5%）、2位 北関東（80.0%）、3位 甲信越（80.5%）。
- ・ 減少数が多いのは、1位 近畿（13,932人減）、2位 東北（8,931人減）、3位 南関東（8,520人減）。
- ・ 減少率が低いのは、1位 南関東（94.3%）、2位 九州沖縄（93.4%）、3位 東海（88.2%）。
- ・ ③期において2026年～2032年の女子人口は、北海道（1,748人減）、東北（2,776人減）、北関東（3,059人減）、甲信越（1,903人減）、北陸（1,461人減）、東海（5,040人減）、近畿（6,408人減）、中国（1,746人減）、四国（1,369人減）、九州沖縄（1,924人減）

指数 = 2020年を100とした値



		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
女子 計	人数	570,143	557,427	547,640	536,904	519,236	532,911	532,844	531,341	522,748	520,813	513,601	505,669	500,492
	指数	100.0	97.8	96.1	94.2	91.1	93.5	93.5	93.2	91.7	91.3	90.1	88.7	87.8
北海道	人数	22,468	22,122	21,817	20,946	20,044	20,317	20,275	20,179	19,520	19,577	19,411	18,761	18,527
	指数	100.0	98.5	97.1	93.2	89.2	90.4	90.2	89.8	86.9	87.1	86.4	83.5	82.5
東北	人数	41,033	39,302	38,283	36,873	35,206	36,030	34,878	34,563	33,792	33,410	32,838	31,686	32,102
	指数	100.0	95.8	93.3	89.9	85.8	87.8	85.0	84.2	82.4	81.4	80.0	77.2	78.2
北関東	人数	32,667	31,659	31,134	30,099	29,066	29,673	29,194	28,819	28,333	27,769	27,105	27,116	26,135
	指数	100.0	96.9	95.3	92.1	89.0	90.8	89.4	88.2	86.7	85.0	83.0	83.0	80.0
南関東	人数	149,452	147,855	146,019	144,085	140,380	144,496	145,850	145,450	144,215	144,028	141,158	141,566	140,932
	指数	100.0	98.9	97.7	96.4	93.9	96.7	97.6	97.3	96.5	96.4	94.5	94.7	94.3
甲信越	人数	24,224	23,513	22,832	22,184	21,512	21,974	21,407	21,418	20,673	20,653	20,086	19,795	19,504
	指数	100.0	97.1	94.3	91.6	88.8	90.7	88.4	88.4	85.3	85.3	82.9	81.7	80.5
北陸	人数	14,190	13,527	13,444	13,131	12,640	12,807	12,952	12,694	12,332	11,774	11,880	11,668	11,491
	指数	100.0	95.3	94.7	92.5	89.1	90.3	91.3	89.5	86.9	83.0	83.7	82.2	81.0
東海	人数	70,386	69,823	68,609	67,683	65,370	67,191	67,130	66,639	65,633	65,544	64,858	63,269	62,090
	指数	100.0	99.2	97.5	96.2	92.9	95.5	95.4	94.7	93.2	93.1	92.1	89.9	88.2
近畿	人数	95,085	92,527	90,742	88,985	85,362	87,843	87,561	87,520	85,448	85,125	84,486	82,453	81,153
	指数	100.0	97.3	95.4	93.6	89.8	92.4	92.1	92.0	89.9	89.5	88.9	86.7	85.3
中国	人数	34,271	33,432	32,631	31,941	30,708	31,610	31,640	31,443	31,305	31,397	30,944	30,322	29,894
	指数	100.0	97.6	95.2	93.2	89.6	92.2	92.3	91.7	91.3	91.6	90.3	88.5	87.2
四国	人数	17,360	16,804	16,439	16,152	15,562	15,705	15,606	15,494	15,312	14,978	15,085	14,721	14,237
	指数	100.0	96.8	94.7	93.0	89.6	90.5	89.9	89.3	88.2	86.3	86.9	84.8	82.0
九州沖縄	人数	69,007	66,863	65,690	64,825	63,386	65,265	66,351	67,122	66,185	66,558	65,750	64,312	64,427
	指数	100.0	96.9	95.2	93.9	91.9	94.6	96.2	97.3	95.9	96.5	95.3	93.2	93.4

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

大学進学率の推移（現役：エリア別：2011～2020年）

■2011年47.7%→2020年51.1%（3.4ポイント上昇）

・全体の大学進学率は2011年47.7%→2020年51.1%と、10年間で3.4ポイント上昇。

2019年から50%台の進学率となっている。

2011～2013年の3年間は横ばいのトレンド(47.7%→47.4%)。

2014～2020年の7年間で3.0ポイントの上昇（48.1%→51.1%）。

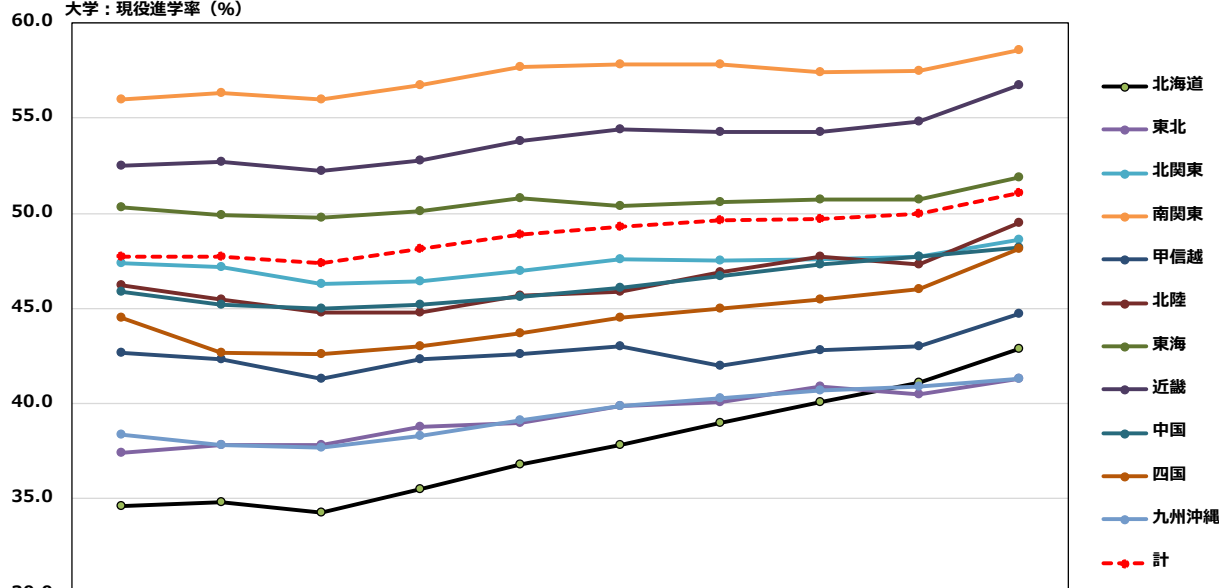
・上昇率が高いのは、1位 北海道（124.0）、2位 東北（110.4）、3位 四国（108.1）。※

・上昇率が低いのは、1位 北関東（102.5）、2位 東海（103.2）、3位 南関東（104.6）。※

・2020年進学率が高いのは、1位 南関東（58.6%）、2位 近畿（56.7%）、3位 東海（51.9%）。

注）※の（ ）内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数

大学：現役進学率（%）



		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
計	進学率	47.7	47.7	47.4	48.1	48.9	49.3	49.6	49.7	50.0	51.1
	指数	100.0	100.0	99.4	100.8	102.5	103.4	104.0	104.2	104.8	107.1
北海道	進学率	34.6	34.8	34.3	35.5	36.8	37.8	39.0	40.1	41.1	42.9
	指数	100.0	100.6	99.1	102.6	106.4	109.2	112.7	115.9	118.8	124.0
東北	進学率	37.4	37.8	37.8	38.8	39.0	39.9	40.1	40.9	40.5	41.3
	指数	100.0	101.1	101.1	103.7	104.3	106.7	107.2	109.4	108.3	110.4
北関東	進学率	47.4	47.2	46.3	46.4	47.0	47.6	47.5	47.6	47.7	48.6
	指数	100.0	99.6	97.7	97.9	99.2	100.4	100.2	100.4	100.6	102.5
南関東	進学率	56.0	56.3	56.0	56.7	57.7	57.8	57.8	57.4	57.5	58.6
	指数	100.0	100.5	100.0	101.3	103.0	103.2	103.2	102.5	102.7	104.6
甲信越	進学率	42.7	42.3	41.3	42.3	42.6	43.0	42.0	42.8	43.0	44.7
	指数	100.0	99.1	96.7	99.1	99.8	100.7	98.4	100.2	100.7	104.7
北陸	進学率	46.2	45.5	44.8	44.8	45.7	45.9	46.9	47.7	47.3	49.5
	指数	100.0	98.5	97.0	97.0	98.9	99.4	101.5	103.2	102.4	107.1
東海	進学率	50.3	49.9	49.8	50.1	50.8	50.4	50.6	50.7	50.7	51.9
	指数	100.0	99.2	99.0	99.6	101.0	100.2	100.6	100.8	100.8	103.2
近畿	進学率	52.5	52.7	52.2	52.8	53.8	54.4	54.3	54.3	54.8	56.7
	指数	100.0	100.4	99.4	100.6	102.5	103.6	103.4	103.4	104.4	108.0
中国	進学率	45.9	45.2	45.0	45.2	45.6	46.1	46.7	47.3	47.7	48.2
	指数	100.0	98.5	98.0	98.5	99.3	100.4	101.7	103.1	103.9	105.0
四国	進学率	44.5	42.7	42.6	43.0	43.7	44.5	45.0	45.5	46.0	48.1
	指数	100.0	96.0	95.7	96.6	98.2	100.0	101.1	102.2	103.4	108.1
九州沖縄	進学率	38.4	37.8	37.7	38.3	39.1	39.9	40.3	40.7	40.9	41.3
	指数	100.0	98.4	98.2	99.7	101.8	103.9	104.9	106.0	106.5	107.6

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

-学生確保(資料)-45-

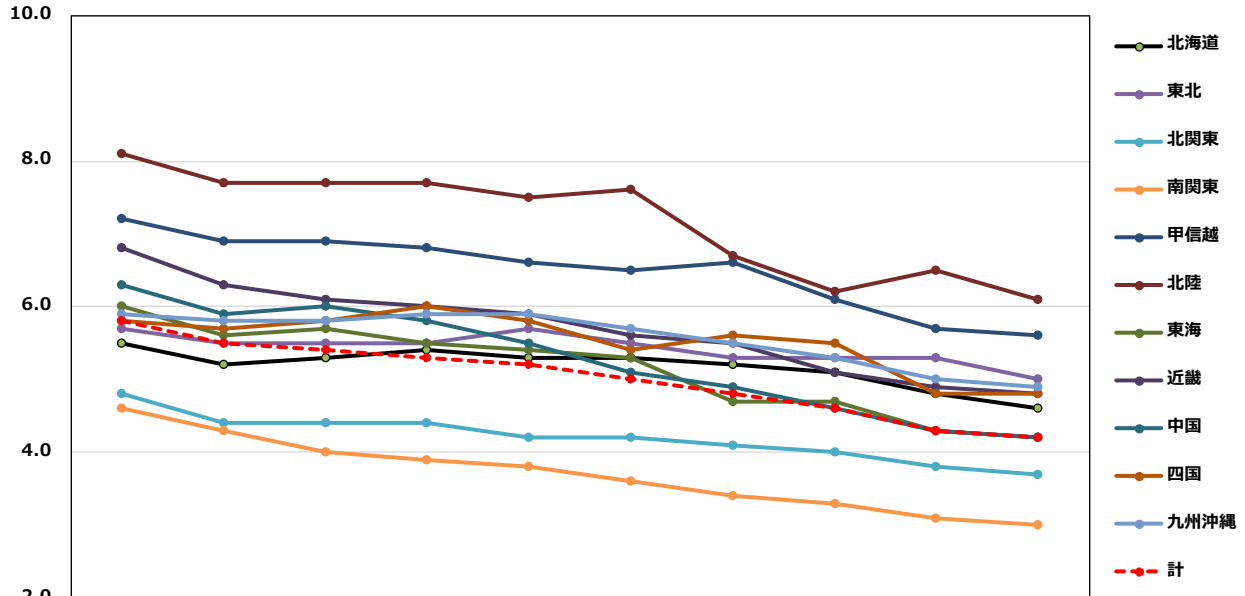
短期大学進学率の推移（現役：エリア別：2011～2020年）

■2011年5.8%→2020年4.2%（1.6ポイント低下）

- ・全体の短期大学進学率は2011年5.8%→2020年4.2%と、10年間で1.6ポイント低下。
- ・低下率が高いのは、1位 南関東（65.2）、2位 中国（66.7）、3位 東海（70.0）。※
- ・低下率が低いのは、1位 東北（87.7）、2位 北海道（83.6）、3位 九州沖縄（83.1）。※
- ・2020年進学率が高いのは、1位 北陸（6.1%）、2位 甲信越（5.6%）、3位 東北（5.0%）。

注）※の（ ）内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数

短期大学：現役進学率（%）



		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
計	進学率	5.8	5.5	5.4	5.3	5.2	5.0	4.8	4.6	4.3	4.2
	指数	100.0	94.8	93.1	91.4	89.7	86.2	82.8	79.3	74.1	72.4
北海道	進学率	5.5	5.2	5.3	5.4	5.3	5.3	5.2	5.1	4.8	4.6
	指数	100.0	94.5	96.4	98.2	96.4	96.4	94.5	92.7	87.3	83.6
東北	進学率	5.7	5.5	5.5	5.5	5.7	5.5	5.3	5.3	5.3	5.0
	指数	100.0	96.5	96.5	96.5	100.0	96.5	93.0	93.0	93.0	87.7
北関東	進学率	4.8	4.4	4.4	4.4	4.2	4.2	4.1	4.0	3.8	3.7
	指数	100.0	91.7	91.7	91.7	87.5	87.5	85.4	83.3	79.2	77.1
南関東	進学率	4.6	4.3	4.0	3.9	3.8	3.6	3.4	3.3	3.1	3.0
	指数	100.0	93.5	87.0	84.8	82.6	78.3	73.9	71.7	67.4	65.2
甲信越	進学率	7.2	6.9	6.9	6.8	6.6	6.5	6.6	6.1	5.7	5.6
	指数	100.0	95.8	95.8	94.4	91.7	90.3	91.7	84.7	79.2	77.8
北陸	進学率	8.1	7.7	7.7	7.7	7.5	7.6	6.7	6.2	6.5	6.1
	指数	100.0	95.1	95.1	95.1	92.6	93.8	82.7	76.5	80.2	75.3
東海	進学率	6.0	5.6	5.7	5.5	5.4	5.3	4.7	4.7	4.3	4.2
	指数	100.0	93.3	95.0	91.7	90.0	88.3	78.3	78.3	71.7	70.0
近畿	進学率	6.8	6.3	6.1	6.0	5.9	5.6	5.5	5.1	4.9	4.8
	指数	100.0	92.6	89.7	88.2	86.8	82.4	80.9	75.0	72.1	70.6
中国	進学率	6.3	5.9	6.0	5.8	5.5	5.1	4.9	4.6	4.3	4.2
	指数	100.0	93.7	95.2	92.1	87.3	81.0	77.8	73.0	68.3	66.7
四国	進学率	5.8	5.7	5.8	6.0	5.8	5.4	5.6	5.5	4.8	4.8
	指数	100.0	98.3	100.0	103.4	100.0	93.1	96.6	94.8	82.8	82.8
九州沖縄	進学率	5.9	5.8	5.8	5.9	5.9	5.7	5.5	5.3	5.0	4.9
	指数	100.0	98.3	98.3	100.0	100.0	96.6	93.2	89.8	84.7	83.1

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

専門学校進学率の推移（現役：エリア別：2011～2020年）

■ 2011年16.2%→2020年16.8%（0.6ポイント上昇）

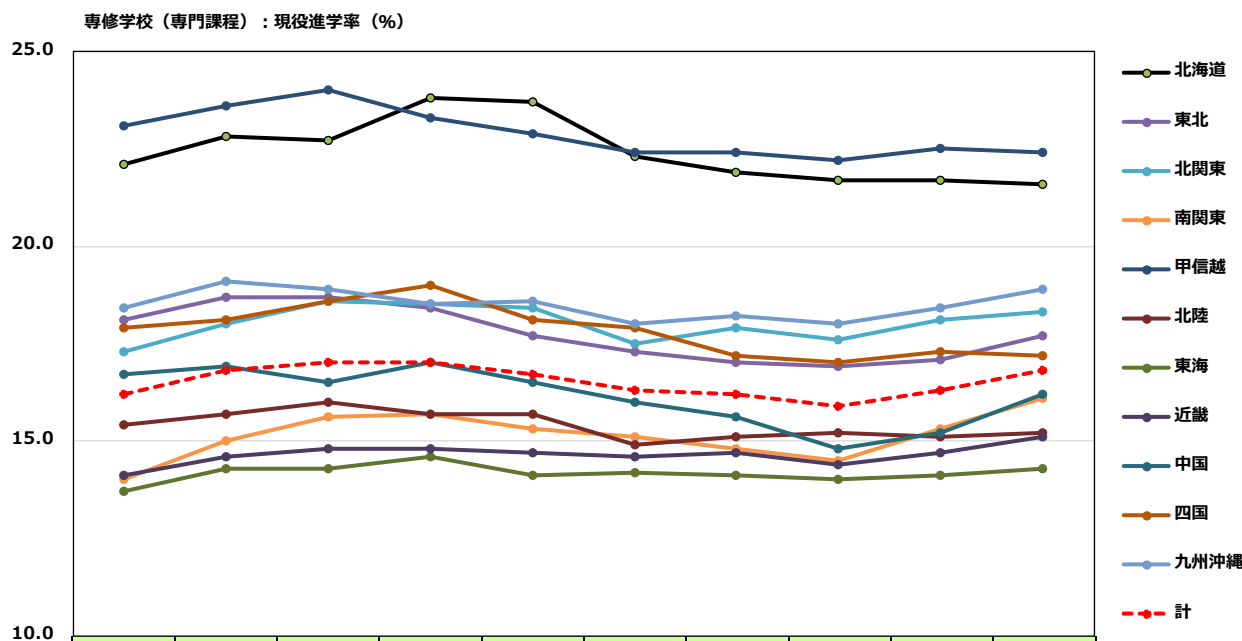
・ 全国の専門学校進学率は2011年16.2%→2020年16.8%と、10年間で0.6ポイント上昇。
 上昇、低下を繰り返し、ほぼ横ばい。

・ 上昇率が高いのは、1位 南関東（115.0）、2位 近畿（107.1）、3位 北関東（105.8）※

・ 上昇率が低いのは、1位 四国（96.1）、2位 甲信越・中国（97.0）。※

・ 2020年進学率が高いのは、1位 甲信越（22.4%）、2位 北海道（21.6%）、3位 九州沖縄（18.9%）。

注）※の（ ）内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数



		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
計	進学率	16.2	16.8	17.0	17.0	16.7	16.3	16.2	15.9	16.3	16.8
	指数	100.0	103.7	104.9	104.9	103.1	100.6	100.0	98.1	100.6	103.7
北海道	進学率	22.1	22.8	22.7	23.8	23.7	22.3	21.9	21.7	21.7	21.6
	指数	100.0	103.2	102.7	107.7	107.2	100.9	99.1	98.2	98.2	97.7
東北	進学率	18.1	18.7	18.7	18.4	17.7	17.3	17.0	16.9	17.1	17.7
	指数	100.0	103.3	103.3	101.7	97.8	95.6	93.9	93.4	94.5	97.8
北関東	進学率	17.3	18.0	18.6	18.5	18.4	17.5	17.9	17.6	18.1	18.3
	指数	100.0	104.0	107.5	106.9	106.4	101.2	103.5	101.7	104.6	105.8
南関東	進学率	14.0	15.0	15.6	15.7	15.3	15.1	14.8	14.5	15.3	16.1
	指数	100.0	107.1	111.4	112.1	109.3	107.9	105.7	103.6	109.3	115.0
甲信越	進学率	23.1	23.6	24.0	23.3	22.9	22.4	22.4	22.2	22.5	22.4
	指数	100.0	102.2	103.9	100.9	99.1	97.0	97.0	96.1	97.4	97.0
北陸	進学率	15.4	15.7	16.0	15.7	15.7	14.9	15.1	15.2	15.1	15.2
	指数	100.0	101.9	103.9	101.9	101.9	96.8	98.1	98.7	98.1	98.7
東海	進学率	13.7	14.3	14.3	14.6	14.1	14.2	14.1	14.0	14.1	14.3
	指数	100.0	104.4	104.4	106.6	102.9	103.6	102.9	102.2	102.9	104.4
近畿	進学率	14.1	14.6	14.8	14.8	14.7	14.6	14.7	14.4	14.7	15.1
	指数	100.0	103.5	105.0	105.0	104.3	103.5	104.3	102.1	104.3	107.1
中国	進学率	16.7	16.9	16.5	17.0	16.5	16.0	15.6	14.8	15.2	16.2
	指数	100.0	101.2	98.8	101.8	98.8	95.8	93.4	88.6	91.0	97.0
四国	進学率	17.9	18.1	18.6	19.0	18.1	17.9	17.2	17.0	17.3	17.2
	指数	100.0	101.1	103.9	106.1	101.1	100.0	96.1	95.0	96.6	96.1
九州沖縄	進学率	18.4	19.1	18.9	18.5	18.6	18.0	18.2	18.0	18.4	18.9
	指数	100.0	103.8	102.7	100.5	101.1	97.8	98.9	97.8	100.0	102.7

大学・短期大学・専門学校進学率（現役：都道府県別：2020年）

■大学進学率1位は東京、短期大学進学率1位は鳥取・大分、専門学校進学率1位は沖縄

大学進学率

1位：東京（64.7%）

2位：京都（62.8%）3位：兵庫（57.9%）

短期大学進学率

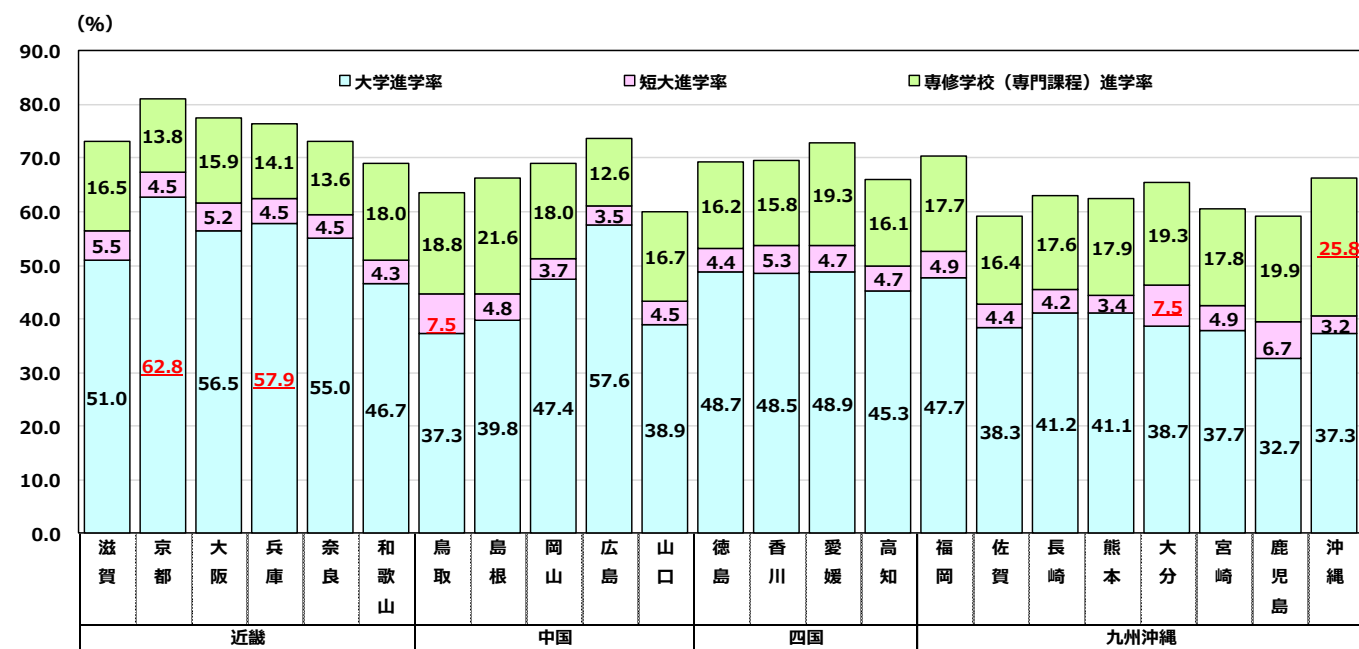
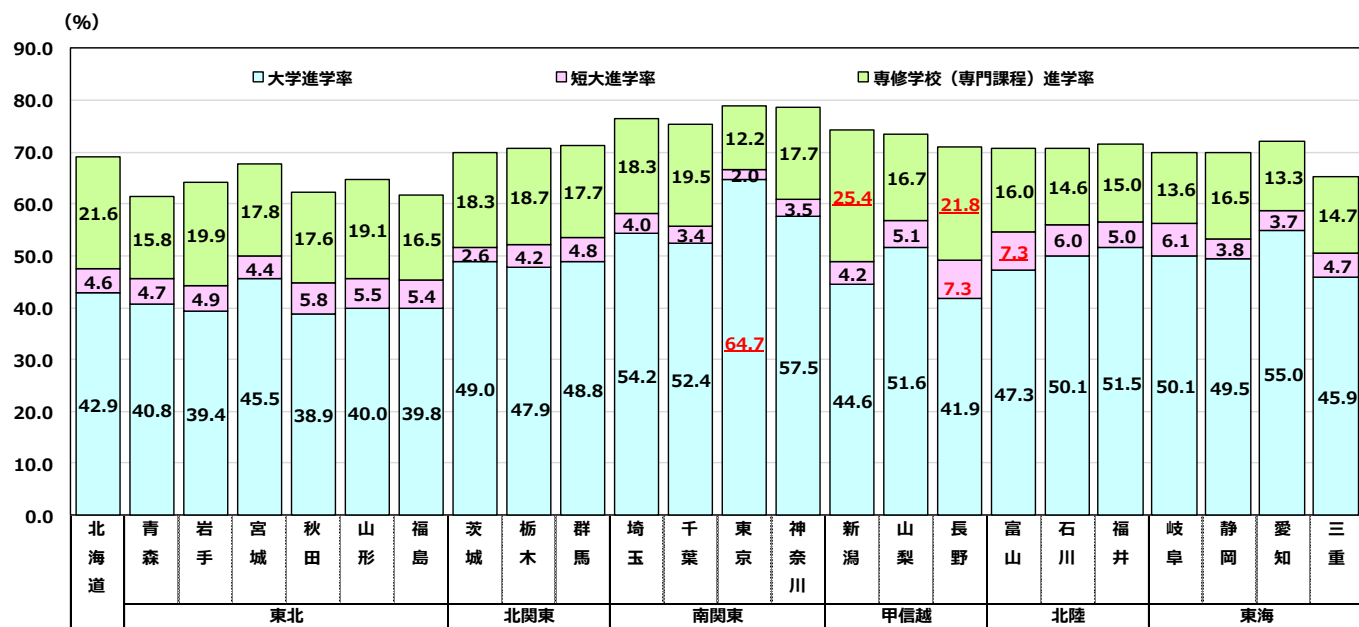
1位：鳥取・大分（7.5%）

3位：長野・富山（7.3%）

専門学校進学率

1位：沖縄（25.8%）

2位：新潟（25.4%）3位：長野（21.8%）

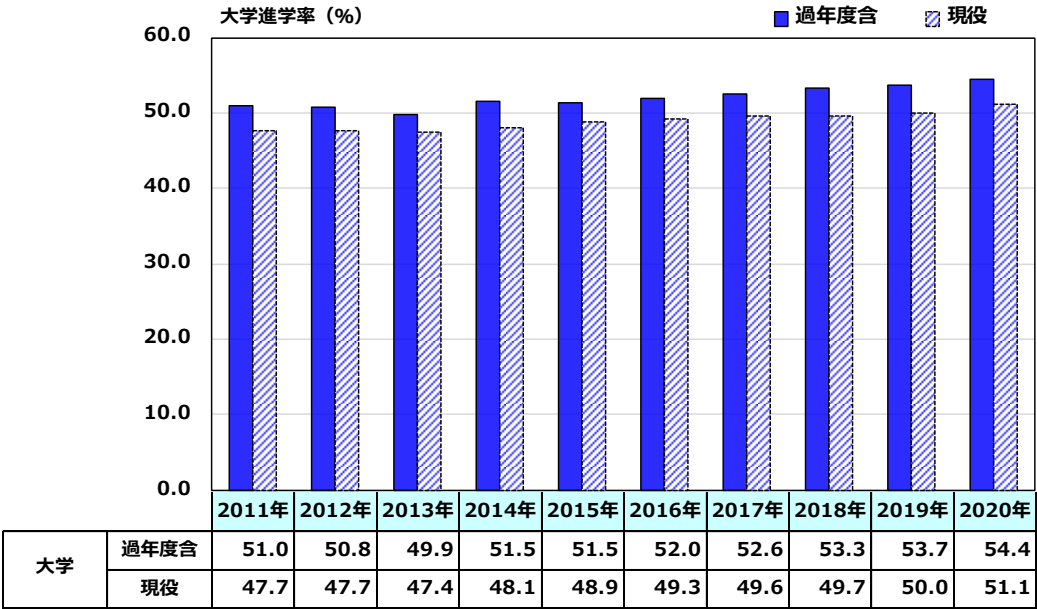


大学・短期大学・専門学校進学率（現役・過年度含 比較：全国：2011～2020年）

■ 2020年現役と過年度含の進学率の差は、大学は3.3ポイント（過年度含が高い）
短期大学は差なし。

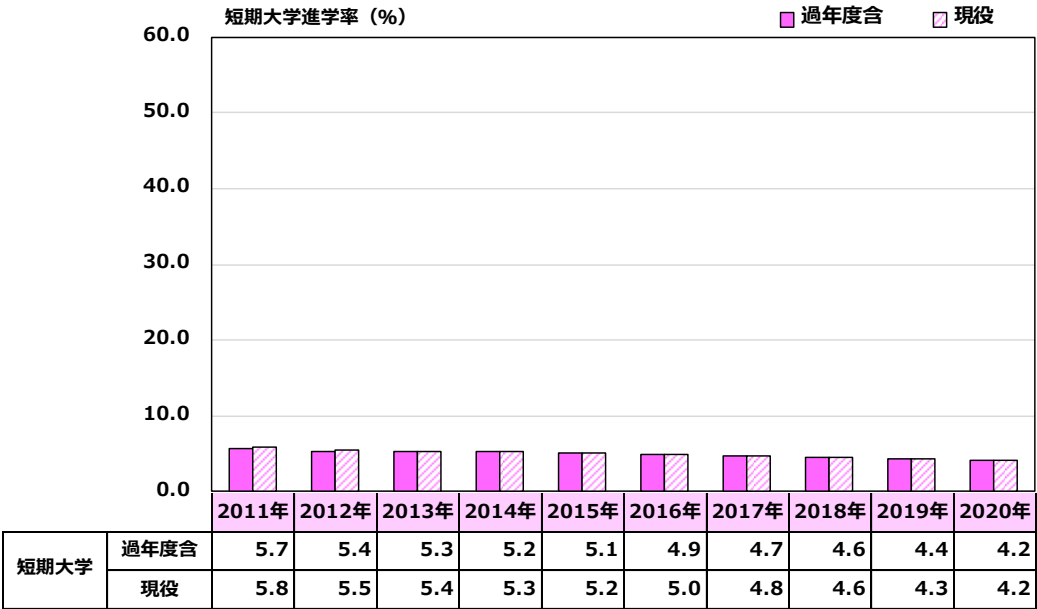
大学進学者

- ・ 現役の進学率は2011年47.7%→2020年51.1%（3.4ポイント上昇）。
- ・ 過年度含の進学率は2011年51.0%→2020年54.4%（3.4ポイント上昇）。
- ・ 過年度含と現役の進学率の差は2011年3.3ポイント→2020年3.3ポイント。



短期大学進学者

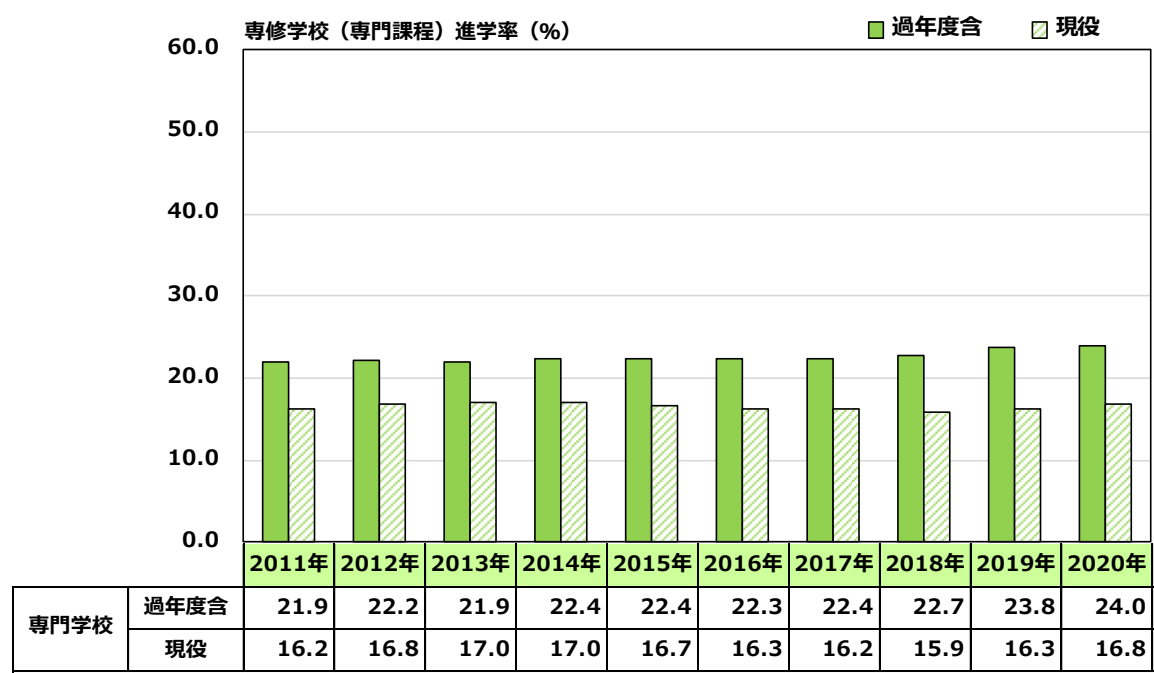
- ・ 現役の進学率は2011年5.8%→2020年4.2%(1.6ポイント低下)。
- ・ 過年度含の進学率は2011年5.7%→2020年4.2%（1.5ポイント低下）。
- ・ 過年度含と現役の進学率の差は2011年0.1ポイント→2020年差がなくなった。（4.2%同率）



■ 専門学校で現役と過年度含の進学率の差は、6.8ポイント(過年度含が高い)

専門学校進学者

- ・ 現役の進学率は2011年16.2%→2020年16.8%（0.6ポイント上昇）。
- ・ 過年度含の進学率は2011年21.9%→2020年24.0%（2.1ポイント上昇）。
- ・ 過年度含と現役の進学率の差は2011年5.7ポイント→2020年7.2ポイントと拡大。



大学・短期大学・専門学校進学率（現役：都道府県別：2020年）

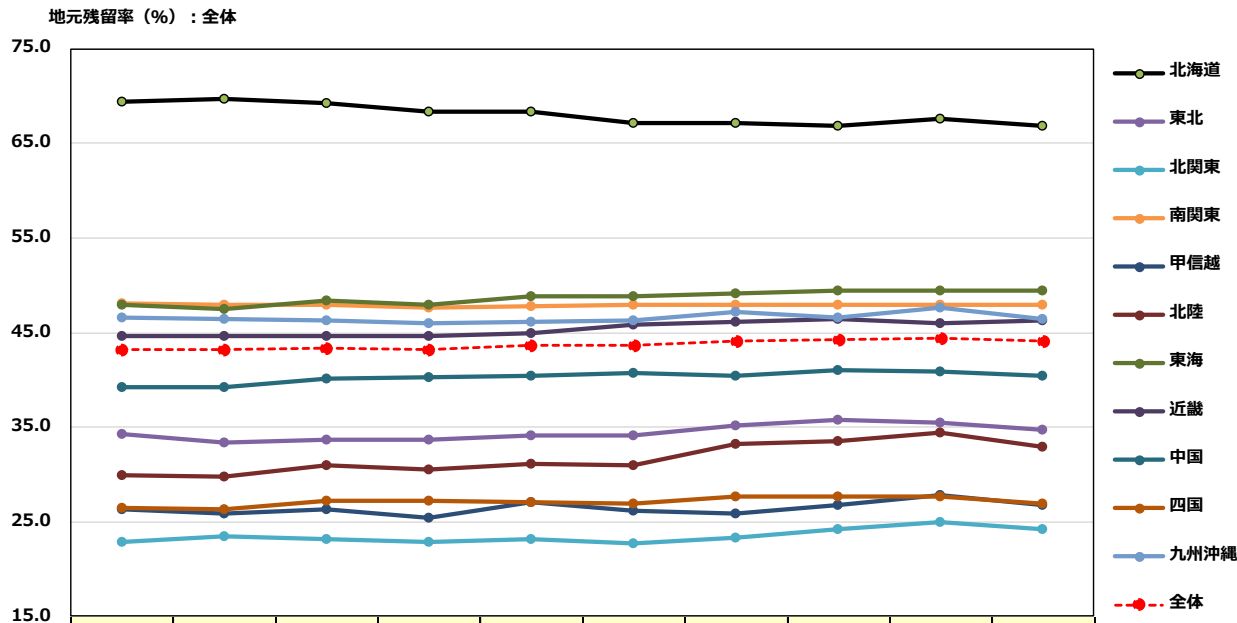
（参考）大学・短期大学・専門学校進学率ランキング

大学				短期大学			専門学校			
1	東京	京	64.7	1	大分	7.5	1	沖縄	縄	25.8
2	東京	都	62.8	1	鳥取	7.5	2	新潟	潟	25.4
3	兵庫	庫	57.9	3	富山	7.3	3	長野	野	21.8
4	広島	島	57.6	3	長野	7.3	4	島根	根	21.6
5	神奈川		57.5	5	鹿児島	6.7	4	北海道		21.6
6	大阪		56.5	6	岐阜	6.1	6	鹿児島		19.9
7	愛知		55.0	7	石川	6.0	6	岩手		19.9
7	奈良		55.0	8	秋田	5.8	8	千葉		19.5
9	埼玉		54.2	9	滋賀	5.5	9	大分		19.3
10	千葉		52.4	9	山形	5.5	9	愛媛		19.3
11	山梨		51.6	11	福島	5.4	11	山形		19.1
12	福岡		51.5	12	香川	5.3	12	鳥取		18.8
13	滋賀		51.0	13	大阪	5.2	13	栃木		18.7
14	石川		50.1	14	山梨	5.1	14	埼玉		18.3
14	岐阜		50.1	15	福岡	5.0	14	茨城		18.3
16	静岡		49.5	16	福岡	4.9	16	和歌山		18.0
17	茨城		49.0	16	岩手	4.9	16	岡山		18.0
18	徳島		48.7	16	宮崎	4.9	18	熊本		17.9
19	愛媛		48.9	19	群馬	4.8	19	宮崎		17.8
20	群馬		48.8	19	島根	4.8	19	宮城		17.8

地元残留率の推移（全体：大学入学者数：エリア別：2011～2020年）

■2011年43.2%→2020年44.1%（0.9ポイント上昇）

- ・全体で2011年43.2%→2019年44.1%と0.9ポイント上昇。
 - ・2020年上昇率が高いのは、1位 北陸（110.0）、2位 北関東（106.1）、3位 近畿（103.6）。※
 - ・2020年残留率が高いのは、1位 北海道（66.9%）、2位 東海（49.4%）、3位 南関東（48.0%）。
 - ・2020年残留率が低いのは、1位 北関東（24.2%）、2位 四国（26.9%）、3位 甲信越（26.8%）。
- 注）※の()内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数



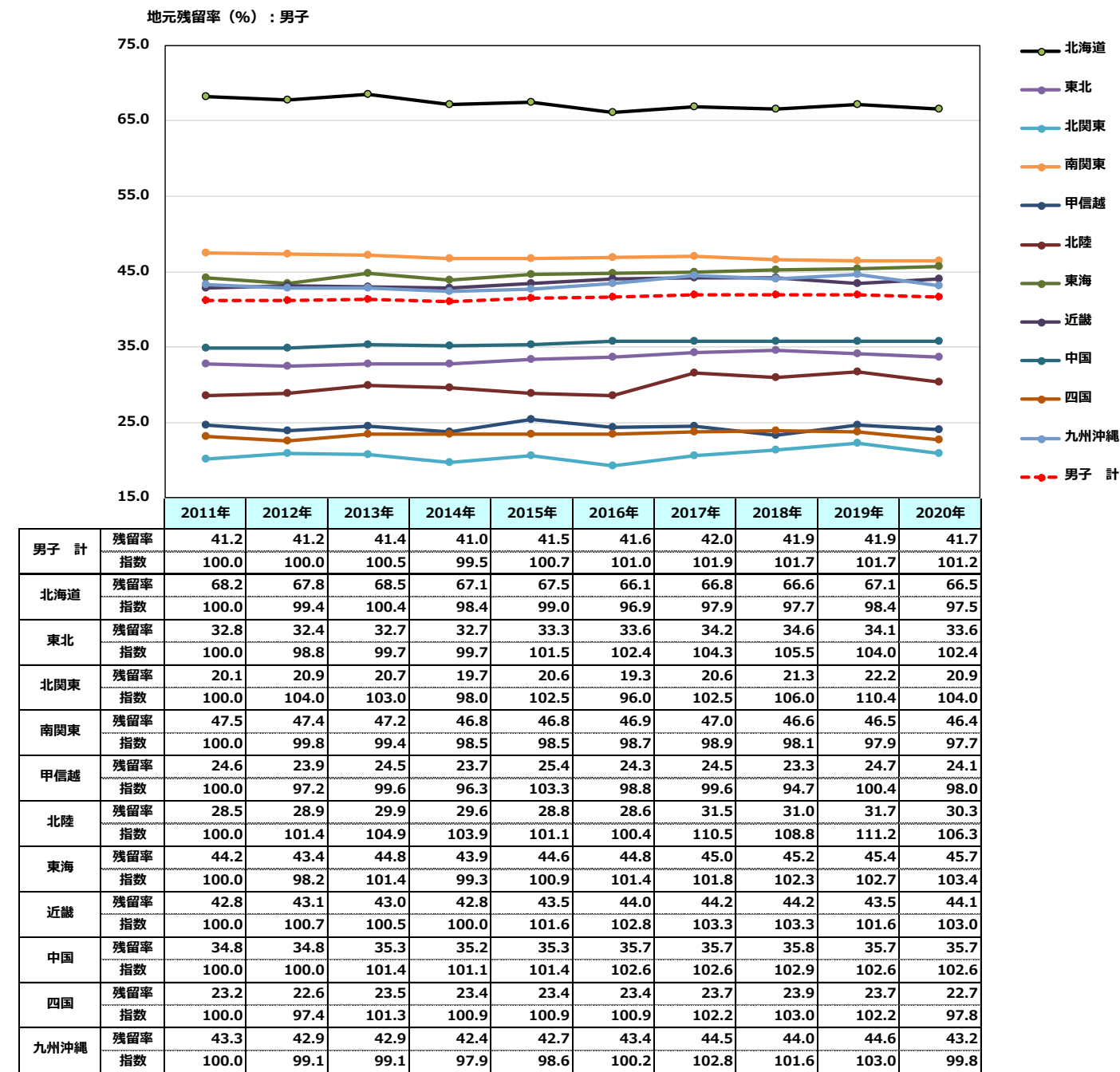
		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
全体	残留率	43.2	43.2	43.4	43.2	43.6	43.7	44.1	44.2	44.4	44.1
	指数	100.0	100.0	100.5	100.0	100.9	101.2	102.1	102.3	102.8	102.1
北海道	残留率	69.4	69.7	69.2	68.4	68.3	67.1	67.2	66.9	67.6	66.9
	指数	100.0	100.4	99.7	98.6	98.4	96.7	96.8	96.4	97.4	96.4
東北	残留率	34.2	33.3	33.7	33.6	34.1	34.1	35.2	35.7	35.5	34.7
	指数	100.0	97.4	98.5	98.2	99.7	99.7	102.9	104.4	103.8	101.5
北関東	残留率	22.8	23.4	23.1	22.8	23.2	22.7	23.3	24.2	25.0	24.2
	指数	100.0	102.6	101.3	100.0	101.8	99.6	102.2	106.1	109.6	106.1
南関東	残留率	48.1	48.0	47.9	47.7	47.8	47.9	48.0	47.9	47.9	48.0
	指数	100.0	99.8	99.6	99.2	99.4	99.6	99.8	99.6	99.6	99.8
甲信越	残留率	26.3	25.9	26.3	25.4	27.1	26.2	25.9	26.7	27.8	26.8
	指数	100.0	98.5	100.0	96.6	103.0	99.6	98.5	101.5	105.7	101.9
北陸	残留率	29.9	29.7	31.0	30.5	31.1	30.9	33.2	33.5	34.4	32.9
	指数	100.0	99.3	103.7	102.0	104.0	103.3	111.0	112.0	115.1	110.0
東海	残留率	48.0	47.5	48.4	48.0	48.9	48.9	49.2	49.5	49.5	49.4
	指数	100.0	99.0	100.8	100.0	101.9	101.9	102.5	103.1	103.1	102.9
近畿	残留率	44.7	44.7	44.6	44.7	45.0	45.8	46.1	46.4	46.0	46.3
	指数	100.0	100.0	99.8	100.0	100.7	102.5	103.1	103.8	102.9	103.6
中国	残留率	39.3	39.2	40.1	40.3	40.5	40.7	40.5	41.0	40.9	40.4
	指数	100.0	99.7	102.0	102.5	103.1	103.6	103.1	104.3	104.1	102.8
四国	残留率	26.5	26.3	27.2	27.2	27.1	26.9	27.7	27.6	27.6	26.9
	指数	100.0	99.2	102.6	102.6	102.3	101.5	104.5	104.2	104.2	101.5
九州沖縄	残留率	46.6	46.5	46.3	46.0	46.1	46.3	47.2	46.6	47.7	46.5
	指数	100.0	99.8	99.4	98.7	98.9	99.4	101.3	100.0	102.4	99.8

地元残留率の推移(男子：大学入学者数：エリア別：2011～2020年)

■2011年41.2%→2020年41.7%（0.5ポイント上昇）

- ・男子は2011年41.2%→2020年41.7%と0.5ポイント上昇。
- ・2020年上昇率が高いのは、1位 北陸（106.3）、2位 北関東（104.0）、3位 東海（103.4）。※
- ・2020年残留率が高いのは、1位 北海道（66.5%）、2位 南関東（46.4%）、3位 東海（45.7%）。
- ・2020年残留率が低いのは、1位 北関東（20.9%）、2位 四国（22.7%）、3位 甲信越（24.1%）。

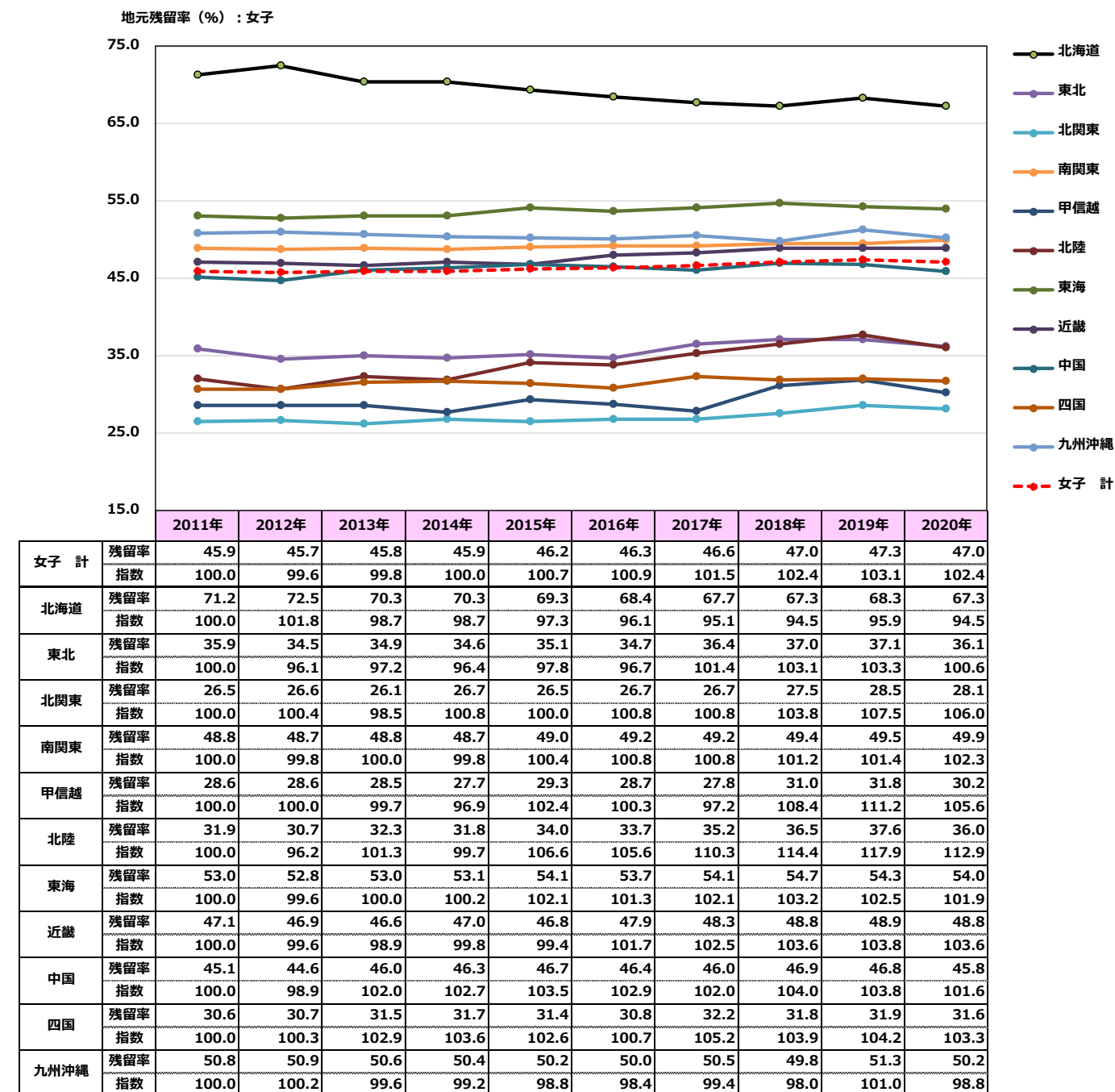
注）※の（ ）内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数



地元残留率の推移(女子：大学入学者数：エリア別：2011～2020年)

■2011年45.9%→2020年47.0%（1.1ポイント上昇）

- ・女子は2011年45.9%→2020年47.0%と1.1ポイント上昇。
 - ・2020年上昇率が高いのは、1位 北陸（112.9）、2位 北関東（106.0）、3位 甲信越（105.6）。※
 - ・2020年残留率が高いのは、1位 北海道（67.3%）、2位 東海（54.0%）、3位 九州沖縄（50.2%）。
 - ・2020年残留率が低いのは、1位 北関東（28.1%）、2位 甲信越（30.2%）、3位 四国（31.6%）。
- 注）※の（ ）内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数



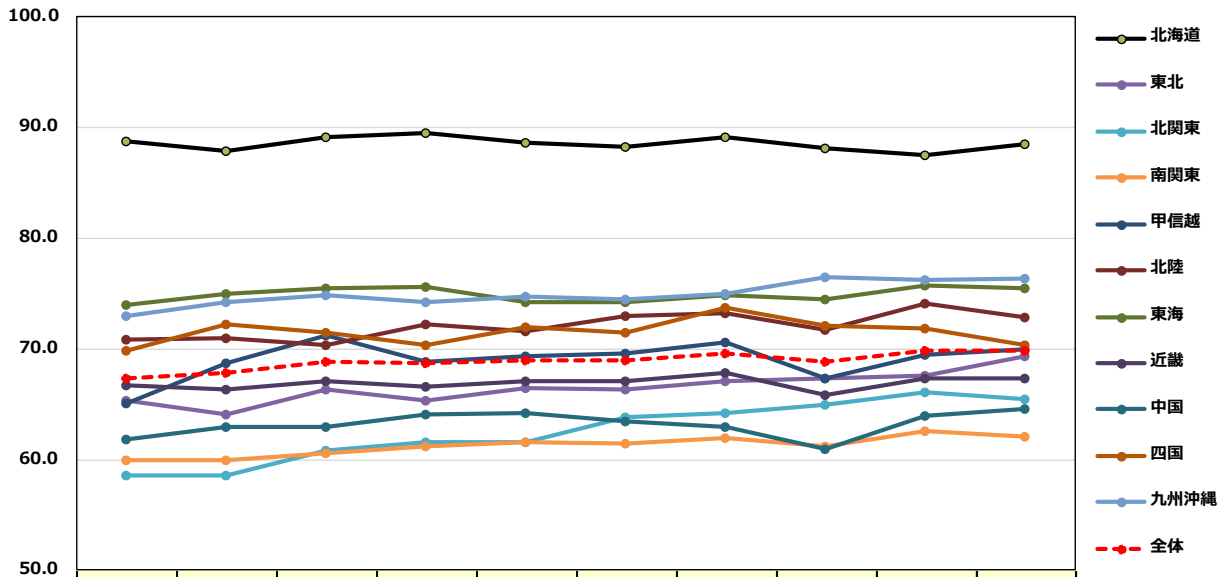
※データ元：文部科学省「学校基本調査」

地元残留率の推移(全体：短期大学入学者数：エリア別：2011～2020年)

■2011年67.4%→2020年69.9%（2.5ポイント上昇）

- ・全体で2011年67.4%→2020年69.9%と2.5ポイント上昇。
 - ・2020年上昇率が高いのは、1位 北関東（111.8）、2位 甲信越（107.5）、3位 東北（106.1）。※
 - ・2020年残留率が高いのは、1位 北海道（88.5%）、2位 九州沖縄（76.4%）、3位 東海（75.5%）。
 - ・2020年残留率が低いのは、1位 南関東（62.1%）、2位 中国（64.6%）、3位 北関東（65.5%）。
- 注）※の()内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数

地元残留率（%）：全体



		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
全体	残留率	67.4	67.8	68.8	68.7	69.0	69.0	69.6	68.9	69.9	69.9
	指数	100.0	100.6	102.1	101.9	102.4	102.4	103.3	102.2	103.7	103.7
北海道	残留率	88.8	87.9	89.1	89.5	88.6	88.3	89.2	88.1	87.5	88.5
	指数	100.0	99.0	100.3	100.8	99.8	99.4	100.5	99.2	98.5	99.7
東北	残留率	65.3	64.1	66.3	65.4	66.5	66.4	67.1	67.4	67.6	69.3
	指数	100.0	98.2	101.5	100.2	101.8	101.7	102.8	103.2	103.5	106.1
北関東	残留率	58.6	58.6	60.8	61.6	61.6	63.8	64.2	65.0	66.1	65.5
	指数	100.0	100.0	103.8	105.1	105.1	108.9	109.6	110.9	112.8	111.8
南関東	残留率	59.9	59.9	60.6	61.2	61.6	61.4	62.0	61.2	62.6	62.1
	指数	100.0	100.0	101.2	102.2	102.8	102.5	103.5	102.2	104.5	103.7
甲信越	残留率	65.1	68.7	71.2	68.9	69.3	69.6	70.6	67.4	69.5	70.0
	指数	100.0	105.5	109.4	105.8	106.5	106.9	108.4	103.5	106.8	107.5
北陸	残留率	70.8	71.0	70.3	72.2	71.6	73.0	73.2	71.7	74.1	72.8
	指数	100.0	100.3	99.3	102.0	101.1	103.1	103.4	101.3	104.7	102.8
東海	残留率	74.0	75.0	75.5	75.6	74.3	74.2	74.9	74.5	75.8	75.5
	指数	100.0	101.4	102.0	102.2	100.4	100.3	101.2	100.7	102.4	102.0
近畿	残留率	66.7	66.3	67.1	66.6	67.1	67.1	67.8	65.8	67.4	67.4
	指数	100.0	99.4	100.6	99.9	100.6	100.6	101.6	98.7	101.0	101.0
中国	残留率	61.8	63.0	63.0	64.1	64.2	63.4	62.9	61.0	63.9	64.6
	指数	100.0	101.9	101.9	103.7	103.9	102.6	101.8	98.7	103.4	104.5
四国	残留率	69.8	72.2	71.5	70.3	72.0	71.5	73.8	72.1	71.8	70.3
	指数	100.0	103.4	102.4	100.7	103.2	102.4	105.7	103.3	102.9	100.7
九州沖縄	残留率	73.0	74.2	74.9	74.2	74.8	74.5	75.0	76.5	76.2	76.4
	指数	100.0	101.6	102.6	101.6	102.5	102.1	102.7	104.8	104.4	104.7

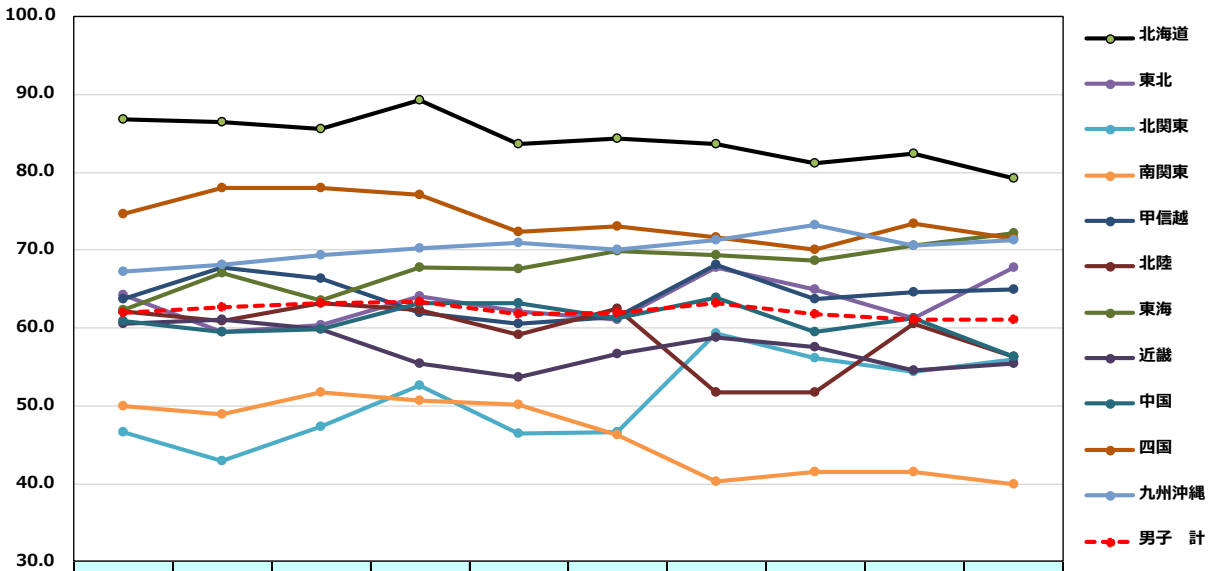
地元残留率の推移(男子：短期大学入学者数：エリア別：2011～2020年)

■2011年61.9%→2020年61.0%（0.9ポイント低下）

- ・男子は2011年61.9%→2020年61.0%と0.9ポイント低下。
- ・2020年上昇率が高いのは、1位 北関東（120.0）、2位 東海（115.7）、3位 九州沖縄（106.0）。※
- ・2020年残留率が高いのは、1位 北海道（79.2%）、2位 東海（72.1%）、3位 四国（71.4%）。
- ・2020年残留率が低いのは、1位 南関東（40.0%）、2位 近畿（55.5%）、3位 北関東（55.9%）。

注）※の（ ）内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数

地元残留率（%）：男子



		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
男子 計	残留率	61.9	62.6	63.2	63.3	61.7	62.0	63.2	61.8	61.0	61.0
	指数	100.0	101.1	102.1	102.3	99.7	100.2	102.1	99.8	98.5	98.5
北海道	残留率	86.8	86.5	85.5	89.3	83.7	84.3	83.7	81.1	82.4	79.2
	指数	100.0	99.7	98.5	102.9	96.4	97.1	96.4	93.4	94.9	91.2
東北	残留率	64.2	59.5	60.3	64.0	62.2	61.0	67.7	64.9	61.2	67.7
	指数	100.0	92.7	93.9	99.7	96.9	95.0	105.5	101.1	95.3	105.5
北関東	残留率	46.6	43.0	47.3	52.6	46.5	46.7	59.3	56.2	54.3	55.9
	指数	100.0	92.3	101.5	112.9	99.8	100.2	127.3	120.6	116.5	120.0
南関東	残留率	50.0	48.9	51.7	50.6	50.2	46.3	40.2	41.6	41.5	40.0
	指数	100.0	97.8	103.4	101.2	100.4	92.6	80.4	83.2	83.0	80.0
甲信越	残留率	63.7	67.8	66.3	61.9	60.6	61.4	68.1	63.8	64.6	65.0
	指数	100.0	106.4	104.1	97.2	95.1	96.4	106.9	100.2	101.4	102.0
北陸	残留率	62.2	60.9	63.1	62.3	59.1	62.5	51.8	51.8	60.5	56.3
	指数	100.0	97.9	101.4	100.2	95.0	100.5	83.3	83.3	97.3	90.5
東海	残留率	62.3	67.0	63.5	67.8	67.5	69.9	69.4	68.6	70.6	72.1
	指数	100.0	107.5	101.9	108.8	108.3	112.2	111.4	110.1	113.3	115.7
近畿	残留率	60.5	61.1	59.9	55.4	53.7	56.7	58.8	57.6	54.5	55.5
	指数	100.0	101.0	99.0	91.6	88.8	93.7	97.2	95.2	90.1	91.7
中国	残留率	60.9	59.4	59.8	63.2	63.2	61.3	63.9	59.4	61.3	56.4
	指数	100.0	97.5	98.2	103.8	103.8	100.7	104.9	97.5	100.7	92.6
四国	残留率	74.6	77.9	78.0	77.1	72.3	73.1	71.6	70.0	73.4	71.4
	指数	100.0	104.4	104.6	103.4	96.9	98.0	96.0	93.8	98.4	95.7
九州沖縄	残留率	67.2	68.2	69.3	70.2	70.9	70.1	71.3	73.3	70.6	71.2
	指数	100.0	101.5	103.1	104.5	105.5	104.3	106.1	109.1	105.1	106.0

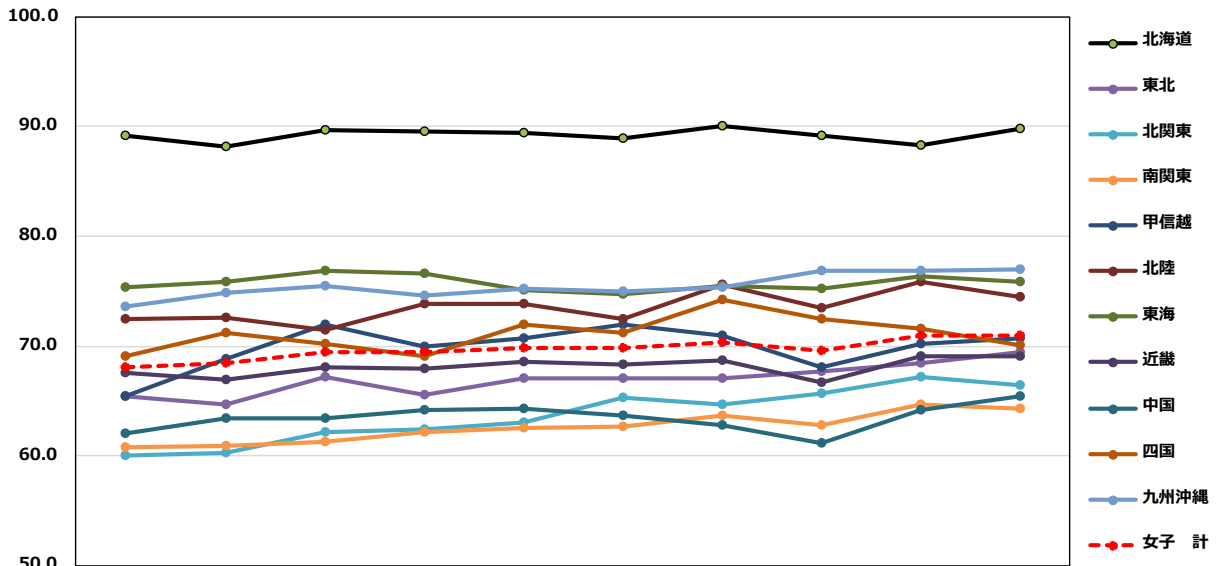
地元残留率の推移(女子：短期大学入学者数：エリア別：2011～2020年)

■2011年68.1%→2020年71.0%（2.9ポイント上昇）

- ・女子は2011年68.1%→2020年71.0%と2.9ポイント上昇。
- ・2020年上昇率が高いのは、1位 北関東（110.7）、2位 甲信越（108.1）、3位 東北（106.3）。※
- ・2020年残留率が高いのは、1位 北海道（89.8%）、2位 九州沖縄（77.0%）、3位 東海（75.9%）。
- ・2020年残留率が低いのは、1位 南関東（64.3%）、2位 中国（65.4%）、3位 北関東（66.4%）。

注）※の()内の数値は、2011年を100としたときの2020年の指数

地元残留率（%）：女子



		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
女子 計	残留率	68.1	68.4	69.5	69.4	69.8	69.8	70.3	69.6	70.9	71.0
	指数	100.0	100.4	102.1	101.9	102.5	102.5	103.2	102.2	104.1	104.3
北海道	残留率	89.2	88.2	89.7	89.5	89.4	88.9	90.1	89.2	88.3	89.8
	指数	100.0	98.9	100.6	100.3	100.2	99.7	101.0	100.0	99.0	100.7
東北	残留率	65.4	64.7	67.2	65.6	67.0	67.1	67.1	67.7	68.4	69.5
	指数	100.0	98.9	102.8	100.3	102.4	102.6	102.6	103.5	104.6	106.3
北関東	残留率	60.0	60.3	62.2	62.4	63.0	65.3	64.7	65.7	67.2	66.4
	指数	100.0	100.5	103.7	104.0	105.0	108.8	107.8	109.5	112.0	110.7
南関東	残留率	60.8	60.9	61.3	62.2	62.5	62.6	63.7	62.8	64.6	64.3
	指数	100.0	100.2	100.8	102.3	102.8	103.0	104.8	103.3	106.3	105.8
甲信越	残留率	65.4	68.8	71.9	69.9	70.7	72.0	71.0	68.0	70.2	70.7
	指数	100.0	105.2	109.9	106.9	108.1	110.1	108.6	104.0	107.3	108.1
北陸	残留率	72.4	72.6	71.5	73.9	73.9	72.5	75.6	73.5	75.8	74.5
	指数	100.0	100.3	98.8	102.1	102.1	100.1	104.4	101.5	104.7	102.9
東海	残留率	75.4	75.9	76.8	76.6	75.1	74.7	75.5	75.2	76.4	75.9
	指数	100.0	100.7	101.9	101.6	99.6	99.1	100.1	99.7	101.3	100.7
近畿	残留率	67.5	66.9	68.0	67.9	68.5	68.3	68.7	66.7	69.0	69.1
	指数	100.0	99.1	100.7	100.6	101.5	101.2	101.8	98.8	102.2	102.4
中国	残留率	62.0	63.4	63.4	64.2	64.3	63.7	62.8	61.2	64.1	65.4
	指数	100.0	102.3	102.3	103.5	103.7	102.7	101.3	98.7	103.4	105.5
四国	残留率	69.0	71.2	70.2	69.1	71.9	71.2	74.2	72.4	71.6	70.1
	指数	100.0	103.2	101.7	100.1	104.2	103.2	107.5	104.9	103.8	101.6
九州沖縄	残留率	73.6	74.8	75.5	74.6	75.2	75.0	75.4	76.8	76.8	77.0
	指数	100.0	101.6	102.6	101.4	102.2	101.9	102.4	104.3	104.3	104.6

地元残留率(全体：大学・短期大学入学者数：都道府県別：2020年)

■大学入学者の地元残留率1位は愛知、短期大学入学者の地元残留率1位は福岡

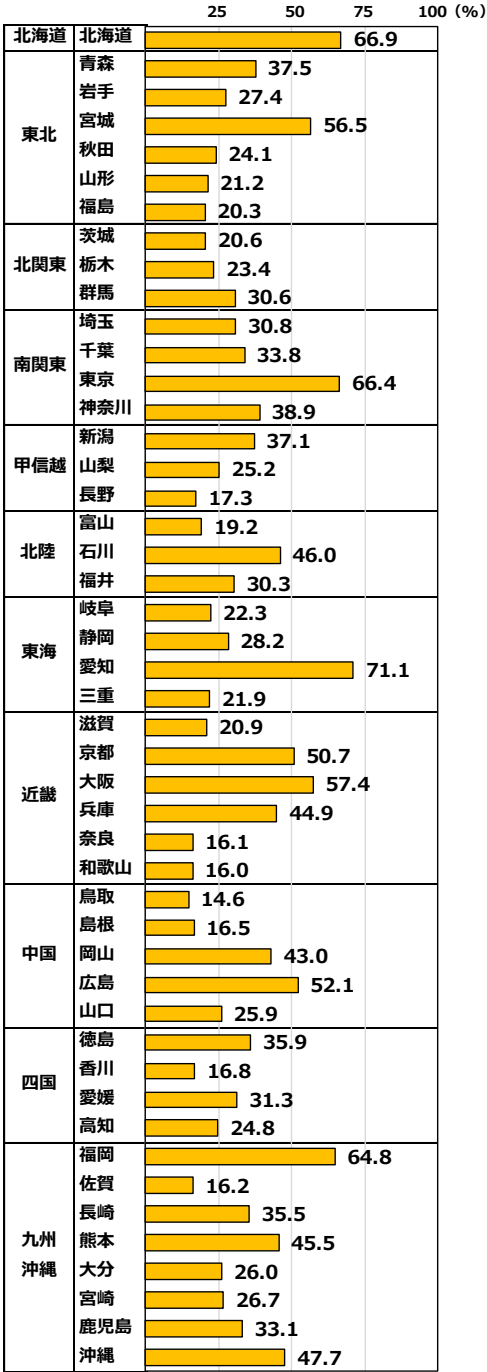
大学入学者地元残留率

残留率が高いのは、1位 愛知（71.1%）、2位 北海道（66.9%）、3位 東京（66.4%）
残留率が低いのは、1位 鳥取（14.6%）、2位 和歌山（16.0%）、3位 奈良（16.1%）

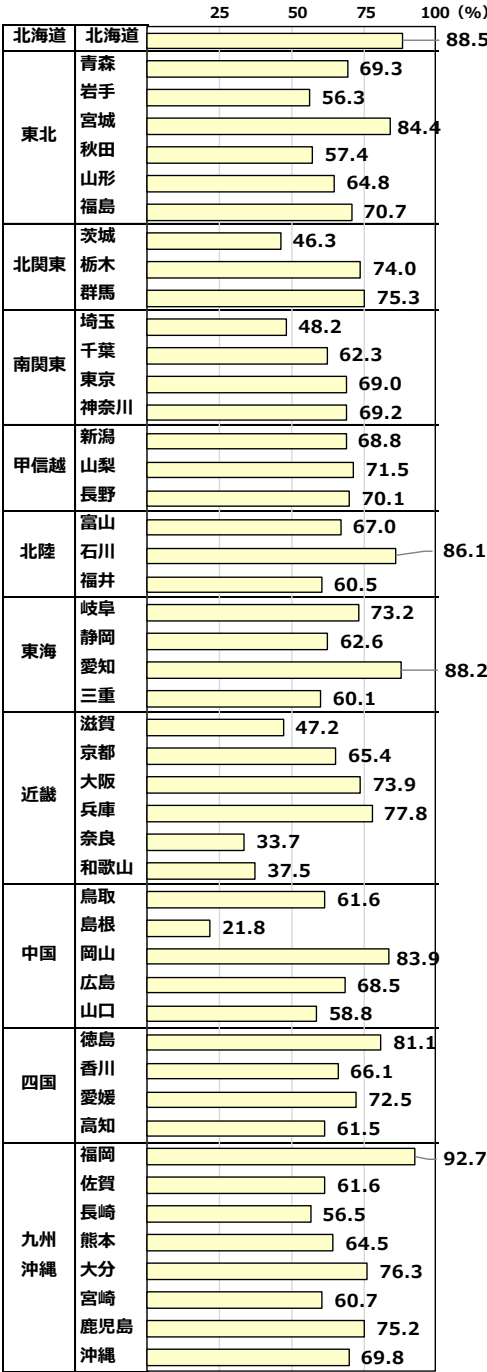
短期大学入学者地元残留率

残留率が高いのは、1位 福岡（92.7%）、2位 北海道（88.5%）、3位 愛知（88.2%）
残留率が低いのは、1位 島根（21.8%）、2位 奈良（33.7%）、3位 和歌山（37.5%）

【大学入学者地元残留率：全体】



【短期大学入学者地元残留率：全体】



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

地元残留率(男子：大学・短期大学入学者数：都道府県別：2020年)

■大学入学者の地元残留率1位は愛知、短期大学入学者の残留率1位は宮城

大学入学者地元残留率

残留率が高いのは、1位 愛知 (66.7%)、2位 北海道 (66.5%)、3位 東京 (63.4%)

残留率が低いのは、1位 鳥取 (10.8%)、2位 島根 (12.6%)、3位 長野 (13.2%)

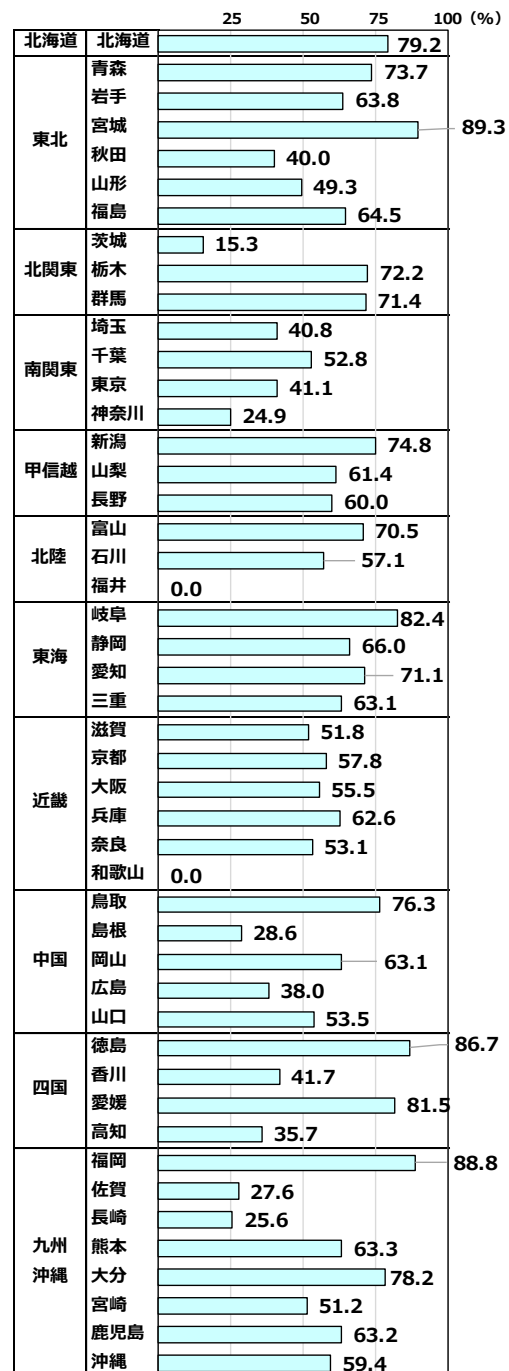
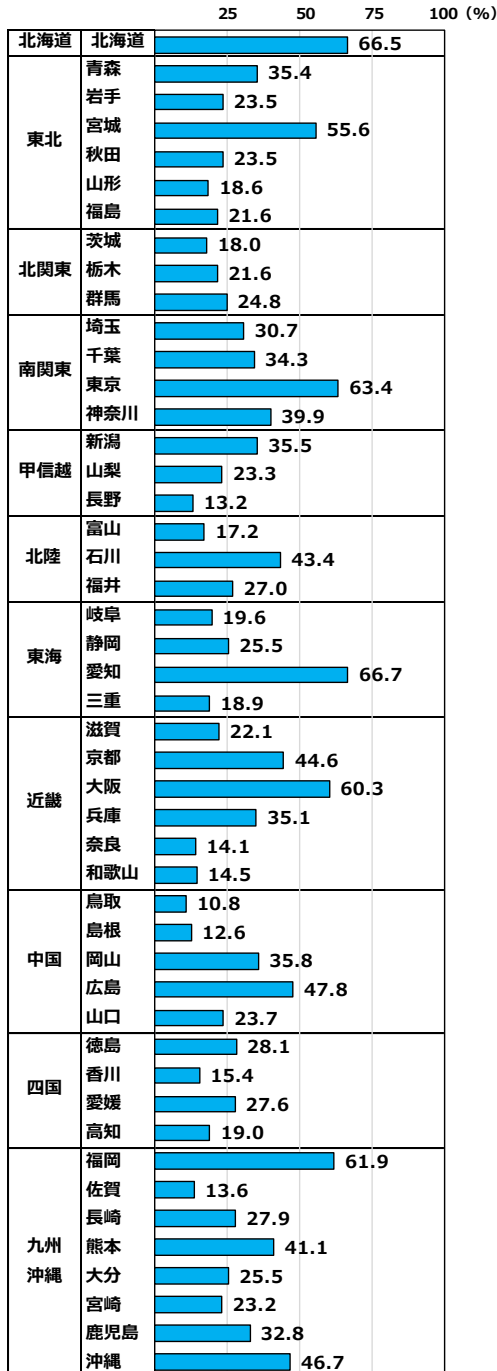
短期大学入学者地元残留率

残留率が高いのは、1位 宮城 (89.3%)、2位 福岡 (88.8%)、3位 徳島 (86.7%)

残留率が低いのは、1位 茨城 (15.3%)、2位 神奈川 (24.3%)、3位 長崎 (25.6%)

【大学入学者地元残留率：男子】

【短期大学入学者地元残留率：男子】



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

地元残留率(女子：大学・短期大学入学者数：都道府県別：2020年)

■大学入学者の地元残留率1位は愛知、短期大学入学者の地元残留率1位は福岡

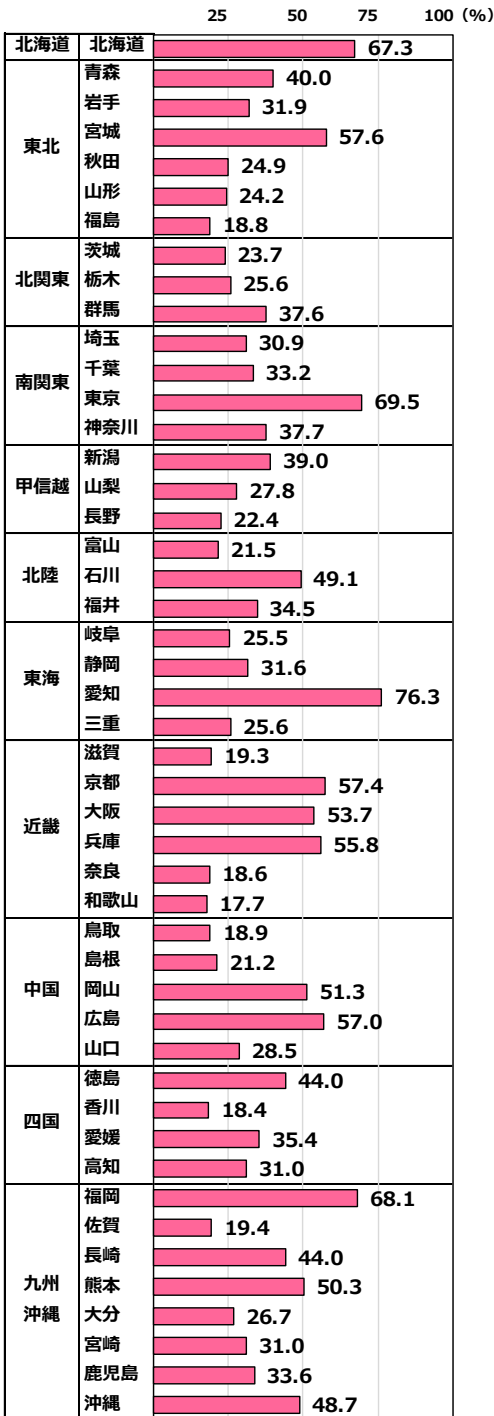
大学入学者地元残留率

残留率が高いのは、1位 愛知 (76.3%)、2位 東京 (69.5%)、3位 福岡 (68.1%)
 残留率が低いのは、1位 和歌山 (17.7%)、2位 香川 (18.4%)、3位 奈良 (18.6%)

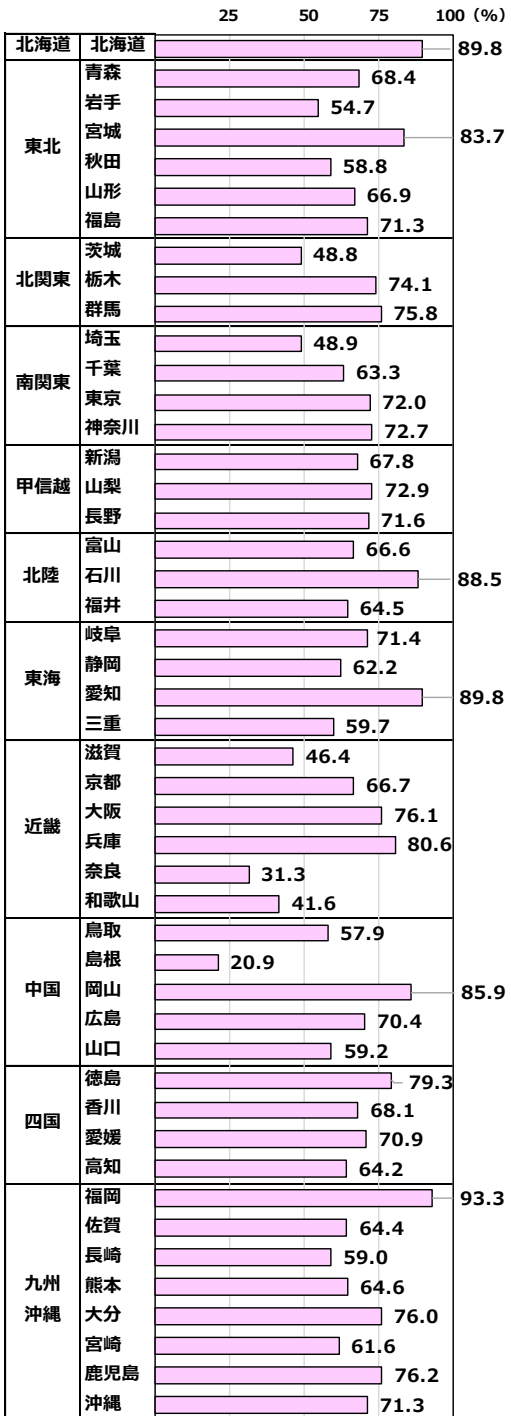
短期大学入学者地元残留率

残留率が高いのは、1位 福岡 (93.3%)、2位 北海道・愛知 (89.8%)
 残留率が低いのは、1位 島根 (20.9%)、2位 奈良 (31.3%)、3位 和歌山 (41.6%)

【大学入学者地元残留率：女子】



【短期大学入学者地元残留率：女子】

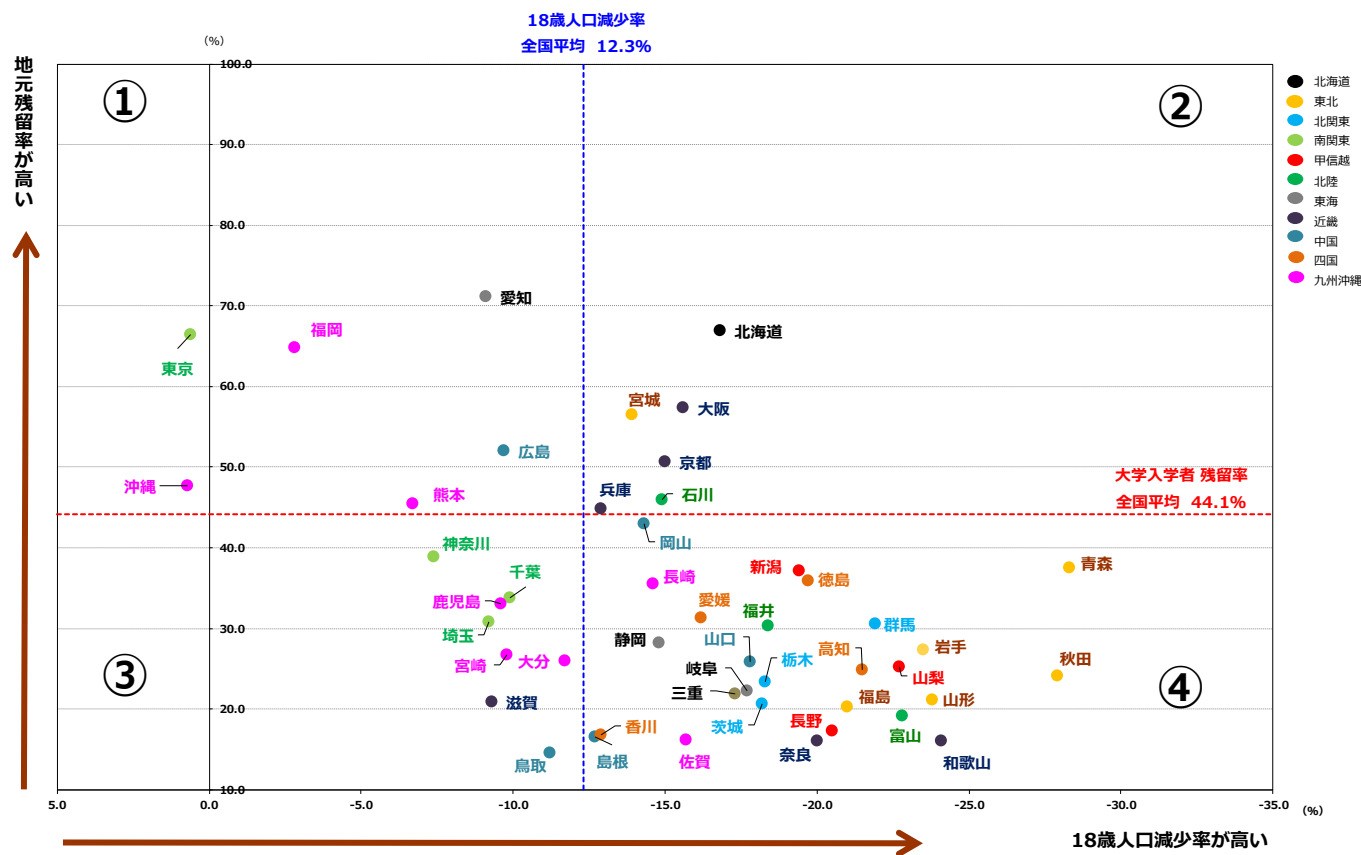


※データ元：文部科学省「学校基本調査」

■「象限④」（18歳人口減少率が高く地元残留率が低い）に多くの県が集まる

・全国平均でラインを引き4象限に分けると、以下のとおりになる。

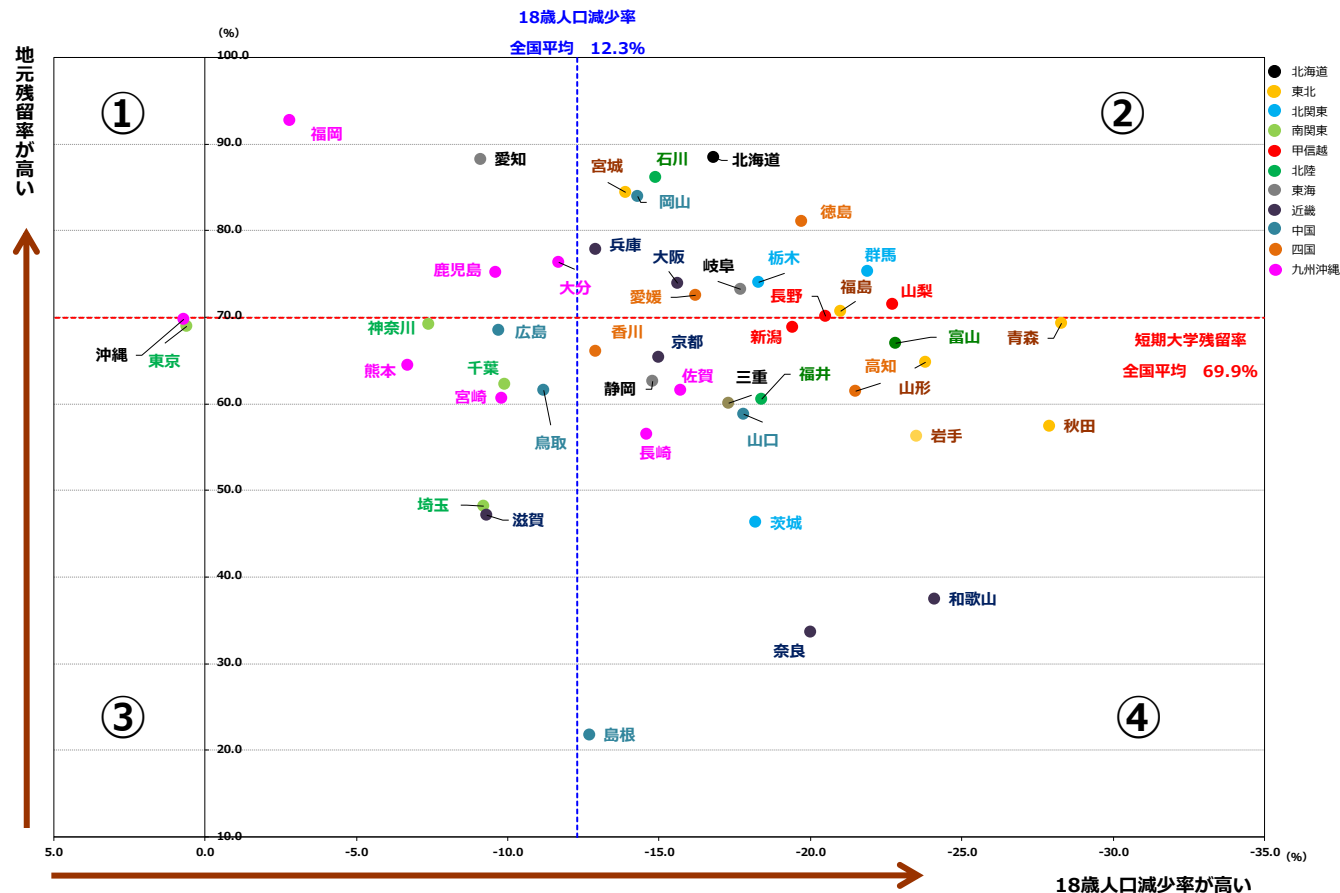
- 象限① 18歳人口減少率が低く、地元残留率が高い
：東京、愛知、広島、福岡、熊本、沖縄
→人口が減少せず、地元にも残るため、県内募集は比較的しやすいセグメント。
- 象限② 18歳人口減少率が高く、地元残留率が高い
：北海道、宮城、石川、大阪、京都、兵庫
→18歳は比較的地元に残るが、マーケット自体が縮小するセグメント。
- 象限③ 18歳人口減少率が低く、地元残留率が低い
：神奈川、千葉、埼玉、滋賀、鳥取、大分、宮崎、鹿児島
→人口は大きくは減少しないものの、周辺県への流出が多いセグメント。
- 象限④ 18歳人口減少率が高く、地元残留率が低い
：その他の県
→人口減少に加え地元にも残留しないため、地元募集だけでは厳しいセグメント。



■大学進学者と比較すると、地元に残留する傾向が強い

- ・短期大学の特性として比較的地元密着の傾向が強く、大学進学者と比較すると地元残留率の平均が25.8ポイント高い。
- ・全国平均でラインを引き4象限に分けると、以下のとおりになる。

- 象限① 18歳人口減少率が低く、地元残留率が高い**
：愛知、福岡、大分、鹿児島
→人口が減少せず、地元にも残るため、県内募集は比較的しやすいセグメント。
- 象限② 18歳人口減少率が高く、地元残留率が高い**
：北海道、宮城、福島、群馬、栃木、山梨、長野、岐阜、石川、大阪、兵庫、岡山、愛媛、徳島
→18歳は比較的地元に残るが、マーケット自体が縮小するセグメント。
- 象限③ 18歳人口減少率が低く、地元残留率が低い**
：東京、埼玉、千葉、神奈川、滋賀、広島、鳥取、宮崎、熊本、沖縄
→人口は大きくは減少しないものの、周辺県への流出が多いセグメント。
- 象限④ 18歳人口減少率が高く、地元残留率が低い**
：その他の府県
→人口減少に加え地元にも残留しないため、地元募集だけでは厳しいセグメント。



東洋大学
「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」
東洋大学大学院
「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」
（博士前期課程・博士後期課程）、
「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」
（博士前期課程・博士後期課程）
（いずれも仮称）設置に関するニーズ調査
結果報告書
【企業対象調査】

令和4年1月
株式会社 進研アド

企業対象 調査概要

1. 調査目的

2023年4月開設予定の東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)新設構想に関して、企業のニーズを把握する。

2. 調査概要

企業対象調査		
調査対象		企業の採用担当者
調査エリア (発送エリア)		宮城県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、大阪府、兵庫県、和歌山県、岡山県、広島県、福岡県、佐賀県
調査方法		Web調査
調査 対象数	依頼数	3,000社
	回収数(回収率)	515社(17.2%)
調査時期		2021年10月29日(金)～2021年11月26日(金)
調査実施機関		株式会社 進研アド

企業対象 調査概要

3. 調査項目

企業対象調査

- ・ 人事採用への関与度
- ・ 本社所在地
- ・ 業種
- ・ 従業員数
- ・ 正規社員の平均採用人数
- ・ 本年度の採用予定数
- ・ 採用したい学問分野
- ・ 東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度
- ・ 東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の社会的必要性
- ・ 東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」卒業生に対する採用意向
- ・ 東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」卒業生の毎年の採用想定人数
- ・ 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の特色に対する魅力度
- ・ 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の社会的必要性
- ・ 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)修了生に対する採用意向
- ・ 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)修了生の毎年の採用想定人数

企業対象 調査結果まとめ

企業対象 調査結果まとめ

回答企業(回答者)の属性

※本調査は、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)に対する人材需要を確認するための調査として設計。東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の卒業生、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の修了生就職先として想定される企業の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、515企業から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は25.8%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が63.5%と、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業の本社所在地は、東洋大学の所在地である「東京都」が45.4%を占め、最も多い。次いで「埼玉県」が12.2%、「神奈川県」が11.5%である。
- 回答企業の業種としては「医療・福祉」が31.7%で最も多い。次いで「卸売・小売業」が10.9%、「サービス業」が10.3%である。
- 回答企業の従業員数(正規社員)は、「100名～500名未満」が43.5%で最も多い。次いで「1,000名～5,000名未満」が14.0%、「500名～1,000名未満」が13.2%である。

企業対象 調査結果まとめ

回答企業の採用状況(過去3か年)／ 本年度の採用予定数／採用したい学問分野

- 回答企業の平均的な正規社員の採用人数は、「1名～5名未満」が27.0%で最も多い。次いで「5名～10名未満」が20.2%、「10名～20名未満」が19.2%である。毎年、正規社員を採用している企業がほとんどである。
- 回答企業の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が65.6%で最も多い。次いで「増やす」が23.3%、「未定」が6.4%である。回答企業の多くで昨年と同等かそれ以上の採用が予定されている様子である。
- 回答企業の採用したい学問分野を複数回答で聴取したところ、「学んだ学問分野にはこだわらない」が39.0%で最も高い。東洋大学「福祉社会デザイン学部」の学びと関連する分野としては、「社会学・社会福祉学」が29.5%、「生活科学(栄養学除く)」が8.9%、「教員養成・教育学・保育学」が17.3%、「工学」が18.3%である。また、東洋大学「健康スポーツ科学部」、および東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科」の学びと関連する分野としては、「スポーツ学」が13.6%、「栄養学(スポーツ栄養学含む)」が18.6%、「理学」が12.0%、「看護・保健学」が10.5%である。

企業対象 調査結果まとめ

東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度

- ・東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の各学科の特色に対する魅力度(※)は、以下のとおり。
- ・「A.【福祉社会デザイン学部 社会福祉学科】『社会福祉政策系』『福祉社会開発系』『福祉臨床系』の3コースで、理論から実践まで幅広く学び、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の国家資格を、希望に応じて複数取得できる学びを展開」の魅力度は71.3%である。
- ・「B.【福祉社会デザイン学部 子ども支援学科】保育学・幼児教育学・子ども家庭福祉学を統合した子ども支援学を追究し、多文化共生やICT活用など現代的なテーマを学ぶとともに、保育士・幼稚園教諭・社会福祉士(受験資格)を取得できる学びを展開」の魅力度は70.9%である。
- ・「C.【福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科】『空間デザイン』『生活環境デザイン』『プロダクトデザイン』の3分野で、建築、福祉住環境計画、都市計画から個々の製品や情報とその活用まで、人間中心設計の視点で幅広い『デザイン』の概念・手法を学ぶ」の魅力度は73.0%である。
- ・「D.【健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科】アスリート支援や競技パフォーマンス向上等のスポーツ科学から、生理・生化学、運動生理学等の身体理解、さらに教育、文化、ビジネスまで、健康・スポーツのあらゆる分野から選べる幅広い学び」の魅力度は74.4%である。
- ・「E.【健康スポーツ科学部 栄養科学科】栄養学、食品機能、スポーツ栄養など、食と栄養に係わる分野を幅広く扱うとともに、栄養士など資格関連科目を充実させ、さらに健康関連企業との連携により栄養科学、栄養管理のスペシャリストを育成」の魅力度は73.6%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

①福祉社会デザイン学部 社会福祉学科



企業対象 調査結果まとめ

福祉社会デザイン学部 社会福祉学科

東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」の社会的必要性

- ・東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」の社会的必要性についての評価は、96.7% (515企業中、**498企業**)が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- ・東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、71.7% (515企業中、**369企業**)である。
- ・東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた369企業へ東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**800名**で、予定している入学定員数216名を3倍以上上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

<属性別>

◇本社所在地別

- ・「関東以北」エリアに本社がある企業からの採用意向は、71.6% (497企業中、**356企業**)。採用想定人数の合計は**779人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。また、「東京都」に本社がある企業で絞ると、採用意向は、67.5% (234企業中、**158企業**)。採用想定人数の合計は**341人**で、予定している入学定員数を上回っている。

◇業種別

- ・「医療・福祉」の企業からの採用意向は、90.2% (163企業中、**147企業**)。採用想定人数の合計は**450人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

企業対象 調査結果まとめ

福祉社会デザイン学部 社会福祉学科

◇従業員数別

- ・従業員数が「100名～500名未満」「1,000名以上」の企業では、予定している入学定員数を上回る採用意向がみられる。

◇採用したい学問分野別

- ・「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」の学びに関連のある「社会学・社会福祉学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、92.8% (152企業中、**141企業**)。採用想定人数の合計は**374人**で、予定している入学定員数を上回っている。

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度別

- ・東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、88.6% (367企業中、**325企業**)。採用想定人数の合計は**741人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の社会的必要性別（必要だと思う）

- ・「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」が社会的に「必要だと思う」と回答した企業からの採用意向は、73.3% (498企業中、**365企業**)。採用想定人数の合計は**795人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

②福祉社会デザイン学部 子ども支援学科



企業対象 調査結果まとめ

福祉社会デザイン学部 子ども支援学科

東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」の社会的必要性

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」の社会的必要性についての評価は、96.3% (515企業中、**496企業**)が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、70.7% (515企業中、**364企業**)である。
- 東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた364企業へ東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**747名**で、予定している入学定員数100名を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

<属性別>

◇本社所在地別

- 「関東以北」エリアに本社がある企業からの採用意向は、71.0% (497企業中、**353企業**)。採用想定人数の合計は**732人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、「埼玉県」に本社がある企業に絞ると、採用意向は、76.2% (63企業中、**48企業**)。採用想定人数の合計は**111人**で、予定している入学定員数を上回っている。「東京都」に本社がある企業からの採用意向は、68.8% (234企業中、**161企業**)。採用想定人数の合計は**341人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。「神奈川県」に本社がある企業からの採用意向は、78.0% (59企業中、**46企業**)。採用想定人数の合計は**102人**で、予定している入学定員数を上回っている。

企業対象 調査結果まとめ

福祉社会デザイン学部 子ども支援学科

◇業種別

- ・「医療・福祉」の企業からの採用意向は、89.0% (163企業中、**145企業**)。採用想定人数の合計は**371人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

◇従業員数別

- ・従業員数が「100名～500名未満」「500名～1,000名未満」「1,000名以上」の企業では、予定している入学定員数を上回る採用意向がみられる。

◇採用したい学問分野別

- ・「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」の学びに関連のある「社会学・社会福祉学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、81.6% (152企業中、**124企業**)。採用想定人数の合計は**260人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。また、同様に関連のある「教員養成・教育学・保育学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、93.3% (89企業中、**83企業**)。採用想定人数の合計は**235人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

また、直接関連する分野以外では、「スポーツ学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、81.4% (70企業中、**57企業**)。採用想定人数の合計は**112人**で、予定している入学定員数を上回っている。「栄養学(スポーツ栄養学含む)」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、65.6% (96企業中、**63企業**)。採用想定人数の合計は**122人**で、予定している入学定員数を上回っている。「経済・経営・商学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、59.4% (128企業中、**76企業**)。採用想定人数の合計は**124人**で、予定している入学定員数を上回っている。

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度別

- ・東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、84.7% (365企業中、**309企業**)。採用想定人数の合計は**667人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

企業対象 調査結果まとめ

福祉社会デザイン学部 子ども支援学科

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の社会的必要性別
(必要だと思う)

- 「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」が社会的に「必要だと思う」と回答した企業からの採用意向は、72.8% (496企業中、**361企業**)。採用想定人数の合計は**740人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

③福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科



企業対象 調査結果まとめ

福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科

東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」の社会的必要性

- ・東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」の社会的必要性についての評価は、90.5% (515企業中、**466企業**) が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- ・東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、72.0% (515企業中、**371企業**) である。
- ・東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた371企業へ東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**641名**で、予定している入学定員数160名を4倍以上上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

<属性別>

◇本社所在地別

- ・「関東以北」エリアに本社がある企業からの採用意向は、71.8% (497企業中、**357企業**)。採用想定人数の合計は**623人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。また、「東京都」に本社がある企業で絞ると、採用意向は、73.5% (234企業中、**172企業**)。採用想定人数の合計は**293人**で、予定している入学定員数を上回っている。

◇業種別

- ・「医療・福祉」の企業からの採用意向は、62.6% (163企業中、**102企業**)。採用想定人数の合計は**199人**で、予定している入学定員数を上回っている。

企業対象 調査結果まとめ

福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科

◇従業員数別

- ・従業員数が「100名～500名未満」「1,000名以上」の企業では、予定している入学定員数を上回る採用意向がみられる。

◇採用したい学問分野別

- ・「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」の学びに関連のある「社会学・社会福祉学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、72.4% (152企業中、**110企業**)。採用想定人数の合計は**201人**で、予定している入学定員数を上回っている。また、同様に関連する分野である「生活科学(栄養学除く)」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、89.1% (46企業中、**41企業**)。採用想定人数の合計は**86人**。「工学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、84.0% (94企業中、**79企業**)。採用想定人数の合計は**126人**である。

また、直接関連する分野以外では、「経済・経営・商学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、81.3% (128企業中、**104企業**)。採用想定人数の合計は**168人**で、予定している入学定員数を上回っている。

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する 魅力度別

- ・東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、86.4% (376企業中、**325企業**)。採用想定人数の合計は**586人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の社会的必要性別 (必要だと思う)

- ・「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」が社会的に「必要だと思う」と回答した企業からの採用意向は、75.5% (466企業中、**352企業**)。採用想定人数の合計は**616人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

④健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科



企業対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科

東洋大学「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」の社会的必要性

- 東洋大学「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」の社会的必要性についての評価は、90.7% (515企業中、**467企業**) が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

東洋大学「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 東洋大学「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、68.2% (515企業中、**351企業**) である。
- 東洋大学「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた351企業へ東洋大学「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**661名**で、予定している入学定員数230名を2倍以上上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

< 属性別 >

◇ 本社所在地別

- 「関東以北」エリアに本社がある企業からの採用意向は、68.0% (497企業中、**338企業**)。採用想定人数の合計は**643人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。また、「東京都」に本社がある企業で絞ると、採用意向は、67.9% (234企業中、**159企業**)。採用想定人数の合計は**315人**で、予定している入学定員数を上回っている。

企業対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科

◇従業員数別

- ・従業員数が「100名～500名未満」の企業では、予定している入学定員数を上回る採用意向がみられる。

◇採用したい学問分野別

- ・「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」の学びに関連のある「スポーツ学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、100.0% (70企業中、**70企業**)。採用想定人数の合計は**159人**。また、同様に関連のある「看護・保健学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、68.5% (54企業中、**37企業**)。採用想定人数の合計は**80人**である。

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する 魅力度別

- ・東洋大学「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、85.4% (383企業中、**327企業**)。採用想定人数の合計は**618人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の社会的必要性別 (必要だと思う)

- ・「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」が社会的に「必要だと思う」と回答した企業からの採用意向は、72.4% (467企業中、**338企業**)。採用想定人数の合計は**644人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

⑤健康スポーツ科学部 栄養科学科



企業対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学部 栄養科学科

東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」の社会的必要性

- 東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」の社会的必要性についての評価は、93.8% (515企業中、**483企業**) が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部・学科であると評価されていることがうかがえる。

東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」卒業生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- 東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、69.5% (515企業中、**358企業**) である。
- 東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」の卒業生を「採用したいと思う」と答えた358企業へ東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**656名**で、予定している入学定員数100名を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

< 属性別 >

◇本社所在地別

- 「関東以北」エリアに本社がある企業からの採用意向は、69.4% (497企業中、**345企業**)。採用想定人数の合計は**635人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、「東京都」に本社がある企業で絞ると、採用意向は、70.5% (234企業中、**165企業**)。採用想定人数の合計は**308人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

◇業種別

- 「医療・福祉」の企業からの採用意向は、71.8% (163企業中、**117企業**)。採用想定人数の合計は**205人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

企業対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学部 栄養科学科

◇従業員数別

- ・従業員数が「100名～500名未満」「1,000名以上」の企業では、予定している入学定員数を上回る採用意向がみられる。

◇採用したい学問分野別

- ・「健康スポーツ科学部 栄養科学科」の学びに関連のある「栄養学(スポーツ栄養学含む)」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、94.8%(96企業中、**91企業**)。採用想定人数の合計は**194人**で、予定している入学定員数を上回っている。

また、直接関連する分野以外では、「スポーツ学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、84.3%(70企業中、**59企業**)。採用想定人数の合計は**109人**で、予定している入学定員数を上回っている。「社会学・社会福祉学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、67.1%(152企業中、**102企業**)で採用想定人数の合計は**160人**、「経済・経営・商学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、67.2%(128企業中、**86企業**)で採用想定人数の合計は**157人**、「教員養成・教育学・保育学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、67.4%(89企業中、**60企業**)で採用想定人数の合計は**119人**と、いずれも予定している入学定員数を上回っている。

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度別

- ・東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、85.5%(379企業中、**324企業**)。採用想定人数の合計は**616人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の社会的必要性別 (必要だと思う)

- ・「健康スポーツ科学部 栄養科学科」が社会的に「必要だと思う」と回答した企業からの採用意向は、72.7%(483企業中、**351企業**)。採用想定人数の合計は**648人**で、予定している入学定員数を上回っている。

企業対象 調査結果まとめ

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の特色に対する魅力度

- ・東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の各研究科の特色に対する魅力度(※)は、以下のとおり。
- ・「A.【健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻(博士前期課程・博士後期課程)】科学的根拠に基づいて、健康増進、介護予防、スポーツ振興やアスリート支援を可能にするため、健康スポーツ科学領域における幅広くかつ専門的知識を有し、その知識を有機的に活用できる人材を育成する」の魅力度は70.7%である。
- ・「B.【健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻(博士前期課程・博士後期課程)】『スポーツサイエンス&カルチャー』『アスレティックコンディショニング&コーチング』『ヘルスプロモーション&エデュケーション』の3つの学問分野を、複合的・横断的に研究し、アスリートの競技力向上と人々の健康増進に科学的にアプローチする」の魅力度は63.9%である。
- ・「A.【健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻(博士前期課程・博士後期課程)】栄養学とデータサイエンス・スポーツサイエンスを融合した『栄養科学』について研究し、科学的根拠に基づいた健康寿命延伸策の実現や、スポーツ栄養学的立場からアスリート支援を可能にするための専門的知識を修得する」の魅力度は70.1%である。
- ・「B.【健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻(博士前期課程・博士後期課程)】栄養科学領域の専門性の修得に加えて、健康スポーツ科学専攻の『スポーツサイエンス』『ヘルスプロモーション&エデュケーション』領域とあわせて、両者を兼ね備えたプロフェッショナルを育成する」の魅力度は68.3%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計値

**⑥健康スポーツ科学研究科
健康スポーツ科学専攻(博士前期課程)**

企業対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻(博士前期課程)

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程)の社会的必要性

- ・ 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程)の社会的必要性についての評価は、88.2% (515企業中、**454企業**)が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な研究科・専攻であると評価されていることがうかがえる。

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程)修了生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- ・ 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程)修了生を「採用したいと思う」と答えた企業は、55.3% (515企業中、**285企業**)である。
- ・ 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程)の修了生を「採用したいと思う」と答えた285企業へ東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程)修了生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**455名**で、予定している入学定員数20名を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

企業対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻(博士前期課程)

< 属性別 >

◇ 本社所在地別

- ・「関東以北」エリアに本社がある企業からの採用意向は、55.3% (497企業中、**275企業**)。採用想定人数の合計は**444人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、「埼玉県」に本社がある企業に絞ると、採用意向は、50.8% (63企業中、**32企業**)。採用想定人数の合計は**52人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。「東京都」に本社がある企業からの採用意向は、58.5% (234企業中、**137企業**)。採用想定人数の合計は**221人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。「神奈川県」に本社がある企業からの採用意向は、50.8% (59企業中、**30企業**)。採用想定人数の合計は**41人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

◇ 業種別

- ・「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程)の学問内容と関連のある「スポーツ関連業」の企業からの採用意向は、90.0% (20企業中、**18企業**)。採用想定人数の合計は**34人**で、予定している入学定員数を上回っている。また、同様に関連のある「医療・福祉」の企業からの採用意向は、54.6% (163企業中、**89企業**)。採用想定人数の合計は**141人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇ 従業員数別

- ・従業員数にかかわらず、定員数を上回る採用意向がみられる。

◇ 採用したい学問分野別

- ・「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程)の学びに関連のある「スポーツ学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、87.1% (70企業中、**61企業**)。採用想定人数の合計は**91人**で、予定している入学定員数を4倍以上上回っている。また、同様に関連のある「看護・保健学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、61.1% (54企業中、**33企業**)。採用想定人数の合計は**49人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

企業対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻(博士前期課程)

◇東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の特色に対する魅力度別

- 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、A・Bどちらの特色でも7割を超えている。採用想定人数の合計も400人以上と、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の社会的必要性別(必要だと思う)

- 「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程)が社会的に「必要だと思う」と回答した企業からの採用意向は、60.8%(454企業中、**276企業**)。採用想定人数の合計は**437人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

**⑦健康スポーツ科学研究科
健康スポーツ科学専攻(博士後期課程)**

企業対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻(博士後期課程)

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士後期課程)の社会的必要性

- ・東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士後期課程)の社会的必要性についての評価は、87.2%(515企業中、**449企業**)が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な研究科・専攻であると評価されていることがうかがえる。

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士後期課程)修了生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- ・東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士後期課程)修了生を「採用したいと思う」と答えた企業は、53.6%(515企業中、**276企業**)である。
- ・東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士後期課程)の修了生を「採用したいと思う」と答えた276企業へ東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士後期課程)修了生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**430名**で、予定している入学定員数5名を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

企業対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻(博士後期課程)

<属性別>

◇本社所在地別

- ・「関東以北」エリアに本社がある企業からの採用意向は、53.5% (497企業中、**266企業**)。採用想定人数の合計は**419人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、「埼玉県」に本社がある企業に絞ると、採用意向は、50.8% (63企業中、**32企業**)、採用想定人数の合計は**50人**、「東京都」に本社がある企業からの採用意向は、56.0% (234企業中、**131企業**)、採用想定人数の合計は**207人**、「神奈川県」に本社がある企業からの採用意向は、50.8% (59企業中、**30企業**)、採用想定人数の合計は**36人**で、いずれも予定している入学定員数を大きく上回っている。「関東以北以外」のエリアに本社がある企業からの採用意向は、55.6% (18企業中、**10企業**)。採用想定人数の合計は**11人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。

◇業種別

- ・「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士後期課程)の学問内容と関連のある「スポーツ関連業」の企業からの採用意向は、85.0% (20企業中、**17企業**)。採用想定人数の合計は**31人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、同様に関連のある「医療・福祉」の企業からの採用意向は、53.4% (163企業中、**87企業**)。採用想定人数の合計は**139人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇従業員数別

- ・従業員数にかかわらず、定員数を上回る採用意向がみられる。

◇採用したい学問分野別

- ・「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士後期課程)の学びに関連のある「スポーツ学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、82.9% (70企業中、**58企業**)。採用想定人数の合計は**80人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、同様に関連のある「看護・保健学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、57.4% (54企業中、**31企業**)。採用想定人数の合計は**43人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

企業対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻(博士後期課程)

◇東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の特色に対する魅力度別

- ・東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、A・Bどちらの特色でも7割を超えている。採用想定人数の合計も400人前後と、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の社会的必要性別(必要だと思う)

- ・「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士後期課程)が社会的に「必要だと思う」と回答した企業からの採用意向は、59.7%(449企業中、**268企業**)。採用想定人数の合計は**420人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

**⑧健康スポーツ科学研究科
栄養科学専攻(博士前期課程)**

企業対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻(博士前期課程)

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」 (博士前期課程)の社会的必要性

- ・ 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程)の社会的必要性についての評価は、89.9% (515企業中、**463企業**) が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な研究科・専攻であると評価されていることがうかがえる。

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」 (博士前期課程)修了生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- ・ 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程)修了生を「採用したいと思う」と答えた企業は、55.9% (515企業中、**288企業**) である。
- ・ 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程)の修了生を「採用したいと思う」と答えた288企業へ東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程)修了生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**461名**で、予定している入学定員数10名を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

企業対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻(博士前期課程)

<属性別>

◇本社所在地別

- ・「関東以北」エリアに本社がある企業からの採用意向は、56.1% (497企業中、**279企業**)。採用想定人数の合計は**451人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、「埼玉県」に本社がある企業に絞ると、採用意向は、47.6% (63企業中、**30企業**)、採用想定人数の合計は**54人**、「東京都」に本社がある企業からの採用意向は、59.0% (234企業中、**138企業**)、採用想定人数の合計は**212人**で、どちらも予定している入学定員数を大きく上回っている。「神奈川県」に本社がある企業からの採用意向は、47.5% (59企業中、**28企業**)。採用想定人数の合計は**38人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。「関東以北以外」のエリアに本社がある企業からの採用意向は、50.0% (18企業中、**9企業**)。採用想定人数の合計は**10人**で、予定している入学定員数と同数である。

◇業種別

- ・「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程)の学問内容と関連のある「スポーツ関連業」の企業からの採用意向は、75.0% (20企業中、**15企業**)。採用想定人数の合計は**28人**で、予定している入学定員数を2倍以上上回っている。また、同様に関連のある「医療・福祉」の企業からの採用意向は、56.4% (163企業中、**92企業**)。採用想定人数の合計は**140人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇従業員数別

- ・従業員数にかかわらず、定員数を上回る採用意向がみられる。

◇採用したい学問分野別

- ・「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程)の学びに関連のある「栄養学(スポーツ栄養学含む)」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、74.0% (96企業中、**71企業**)。採用想定人数の合計は**119人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、同様に関連のある「看護・保健学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、63.0% (54企業中、**34企業**)。採用想定人数の合計は**54人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

企業対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻(博士前期課程)

◇東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の特色に対する魅力度別

- ・東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、A・Bどちらの特色でも7割を超えている。採用想定人数の合計も400人以上と、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の社会的必要性別(必要だと思う)

- ・「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程)が社会的に「必要だと思う」と回答した企業からの採用意向は、60.7%(463企業中、**281企業**)。採用想定人数の合計は**452人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

**⑨健康スポーツ科学研究科
栄養科学専攻(博士後期課程)**

企業対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻(博士後期課程)

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」 (博士後期課程)の社会的必要性

- ・東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士後期課程)の社会的必要性についての評価は、88.7% (515企業中、**457企業**)が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な研究科・専攻であると評価されていることがうかがえる。

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」 (博士後期課程)修了生に対する採用意向・毎年の採用想定人数

- ・東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士後期課程)修了生を「採用したいと思う」と答えた企業は、54.0% (515企業中、**278企業**)である。
- ・東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士後期課程)の修了生を「採用したいと思う」と答えた278企業へ東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士後期課程)修了生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は**446名**で、予定している入学定員数3名を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

企業対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻(博士後期課程)

<属性別>

◇本社所在地別

- ・「関東以北」エリアに本社がある企業からの採用意向は、54.1% (497企業中、**269企業**)。採用想定人数の合計は**436人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、「埼玉県」に本社がある企業に絞ると、採用意向は、46.0% (63企業中、**29企業**)、採用想定人数の合計は**49人**、「東京都」に本社がある企業からの採用意向は、57.3% (234企業中、**134企業**)、採用想定人数の合計は**208人**、「神奈川県」に本社がある企業からの採用意向は、47.5% (59企業中、**28企業**)、採用想定人数の合計は**38人**で、いずれも予定している入学定員数を大きく上回っている。「関東以北以外」のエリアに本社がある企業からの採用意向は、50.0% (18企業中、**9企業**)。採用想定人数の合計は**10人**で、予定している入学定員数を3倍以上上回っている。

◇業種別

- ・「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士後期課程)の学問内容と関連のある「スポーツ関連業」の企業からの採用意向は、75.0% (20企業中、**15企業**)。採用想定人数の合計は**28人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、同様に関連のある「医療・福祉」の企業からの採用意向は、53.4% (163企業中、**87企業**)。採用想定人数の合計は**135人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇従業員数別

- ・従業員数にかかわらず、定員数を上回る採用意向がみられる。

◇採用したい学問分野別

- ・「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士後期課程)の学びに関連のある「栄養学(スポーツ栄養学含む)」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、69.8% (96企業中、**67企業**)。採用想定人数の合計は**109人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。また、同様に関連のある「看護・保健学」を学んだ学生を採用したいと回答した企業からの採用意向は、57.4% (54企業中、**31企業**)。採用想定人数の合計は**47人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

企業対象 調査結果まとめ

健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻(博士後期課程)

◇東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の特色に対する魅力度別

- ・東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の特色に魅力を感じている企業の採用意向は、A・Bどちらの特色でも7割を超えている。採用想定人数の合計も400人以上と、予定している入学定員数を大きく上回っている。

◇東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の社会的必要性別(必要だと思う)

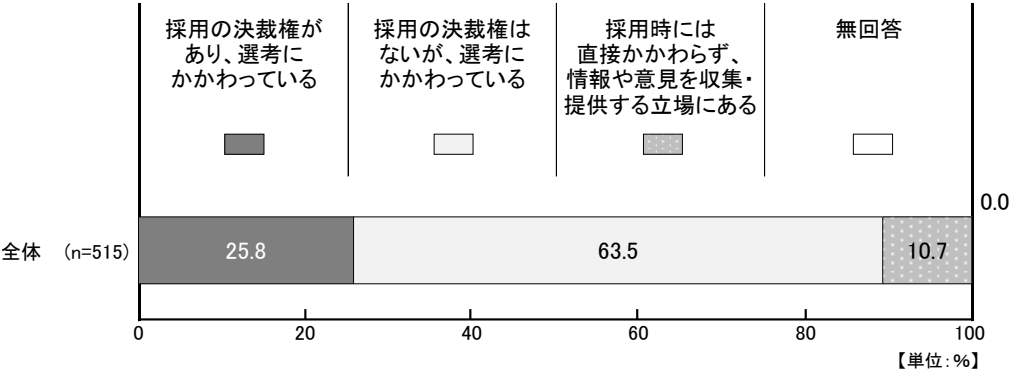
- ・「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士後期課程)が社会的に「必要だと思う」と回答した企業からの採用意向は、59.1%(457企業中、**270企業**)。採用想定人数の合計は**436人**で、予定している入学定員数を大きく上回っている。

企業対象 調査結果

回答企業(回答者)の属性(人事採用への関与度／本社所在地)

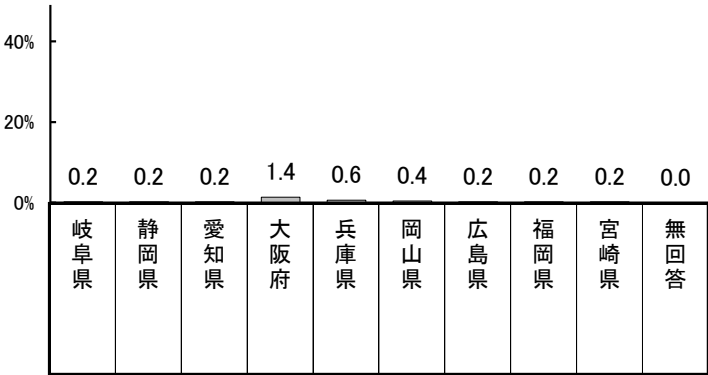
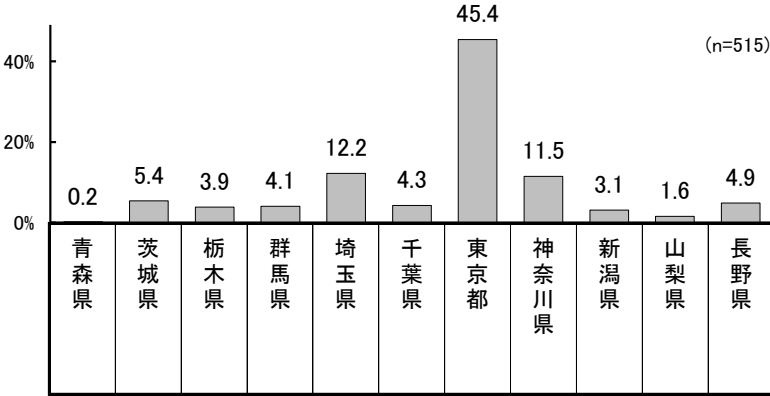
■人事採用への関与度

Q1. あなたの人事採用への関与度をお教えてください。(1つだけ)



■本社所在地

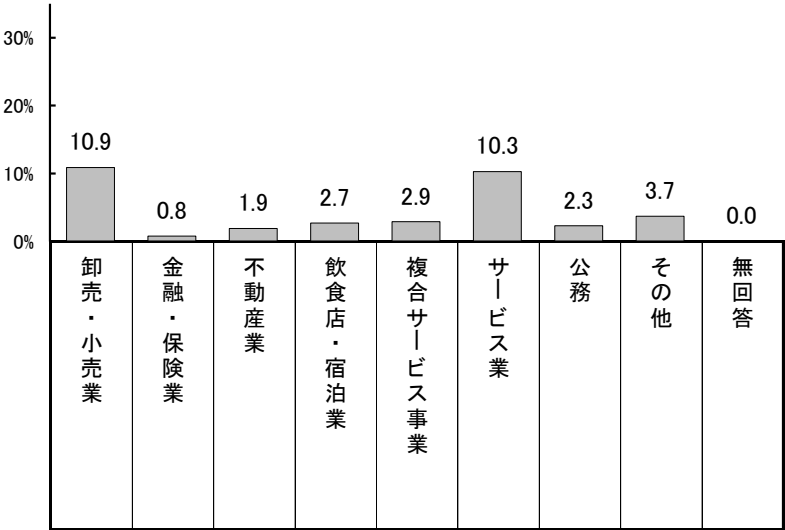
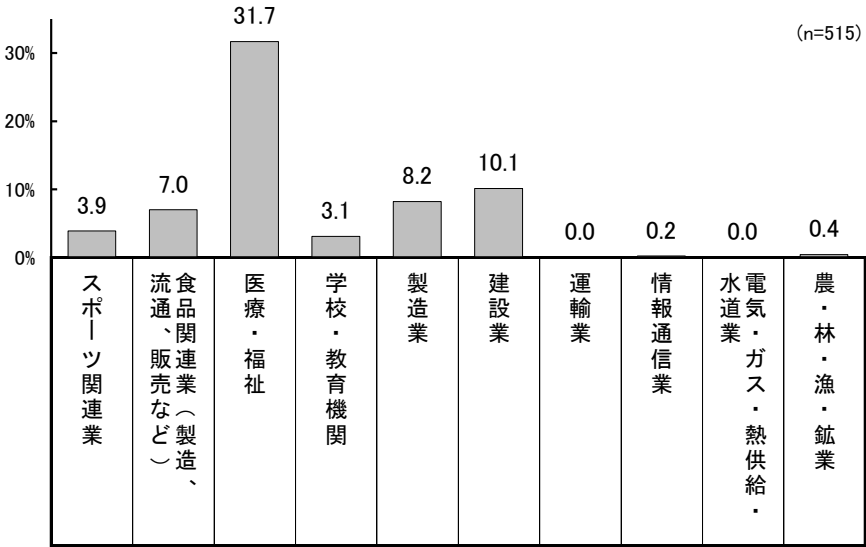
Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。



回答企業(回答者)の属性(業種)

業種

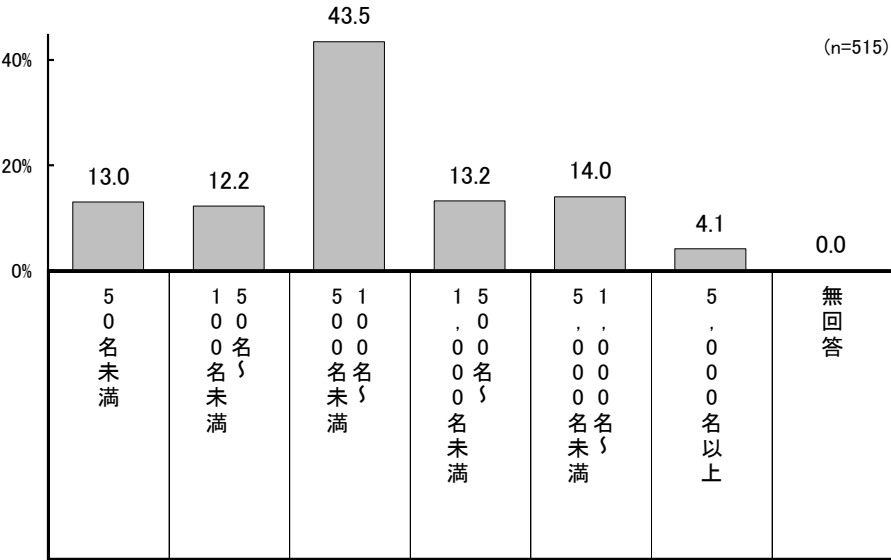
Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(もっともあてはまるもの1つだけ)



回答企業(回答者)の属性(従業員数)

■従業員数

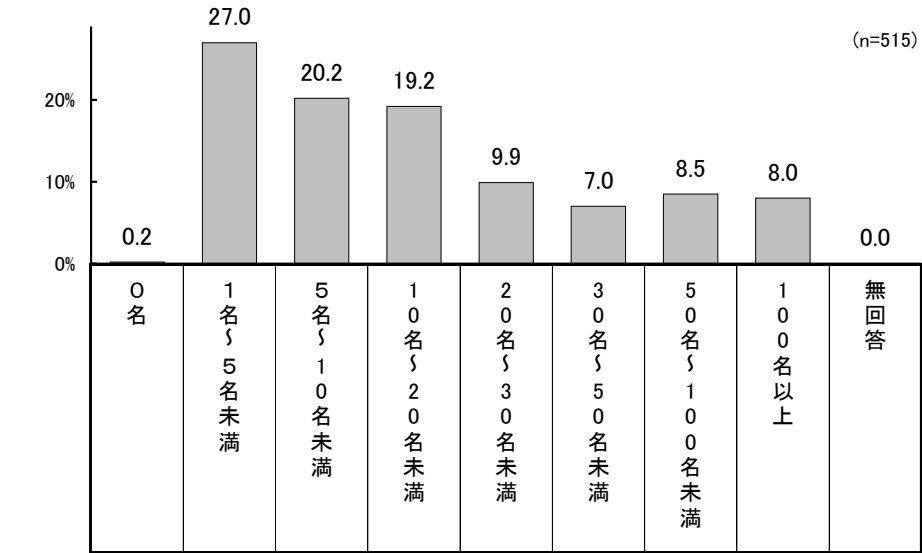
Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(1つだけ)



正規社員の平均採用人数／本年度の採用予定数

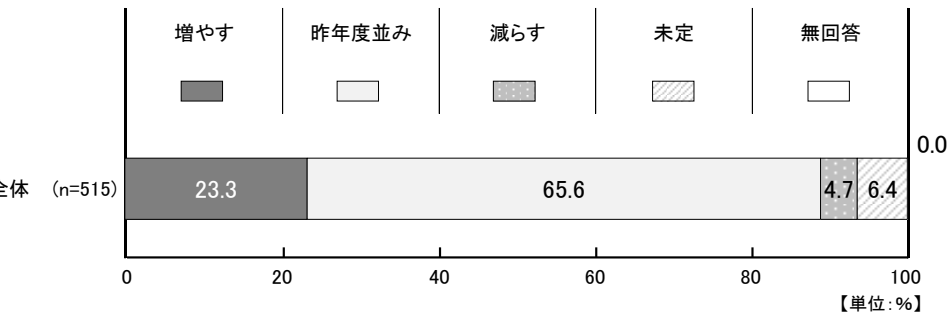
■ 正規社員の平均採用人数

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。(1つだけ)



■ 本年度の採用予定数

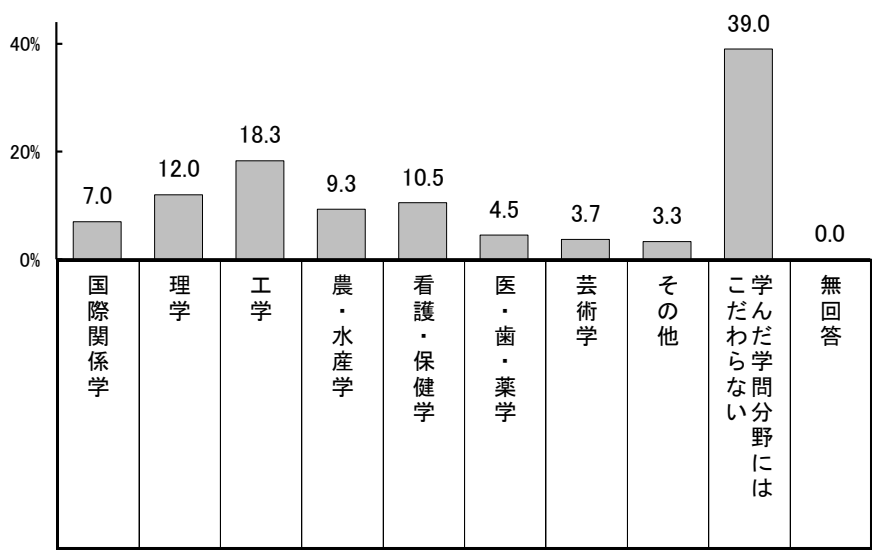
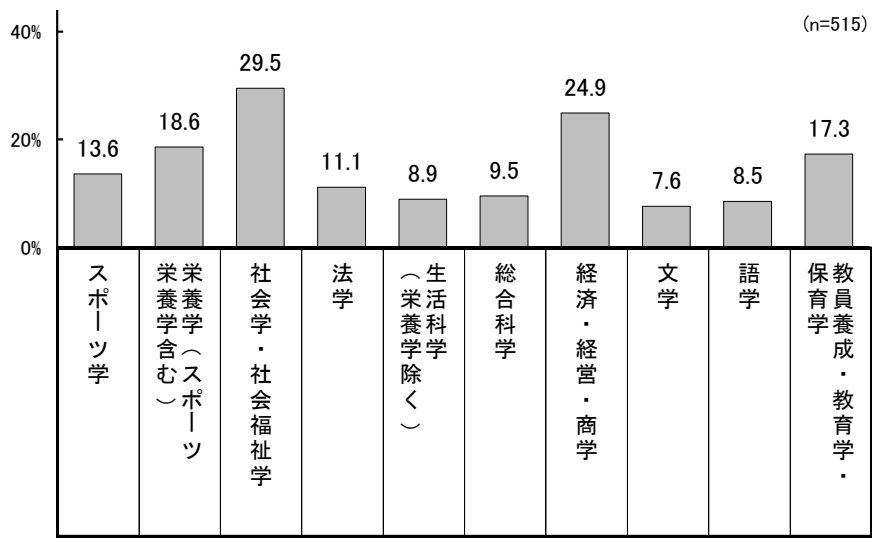
Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(1つだけ)



採用したい学問分野

■採用したい学問分野

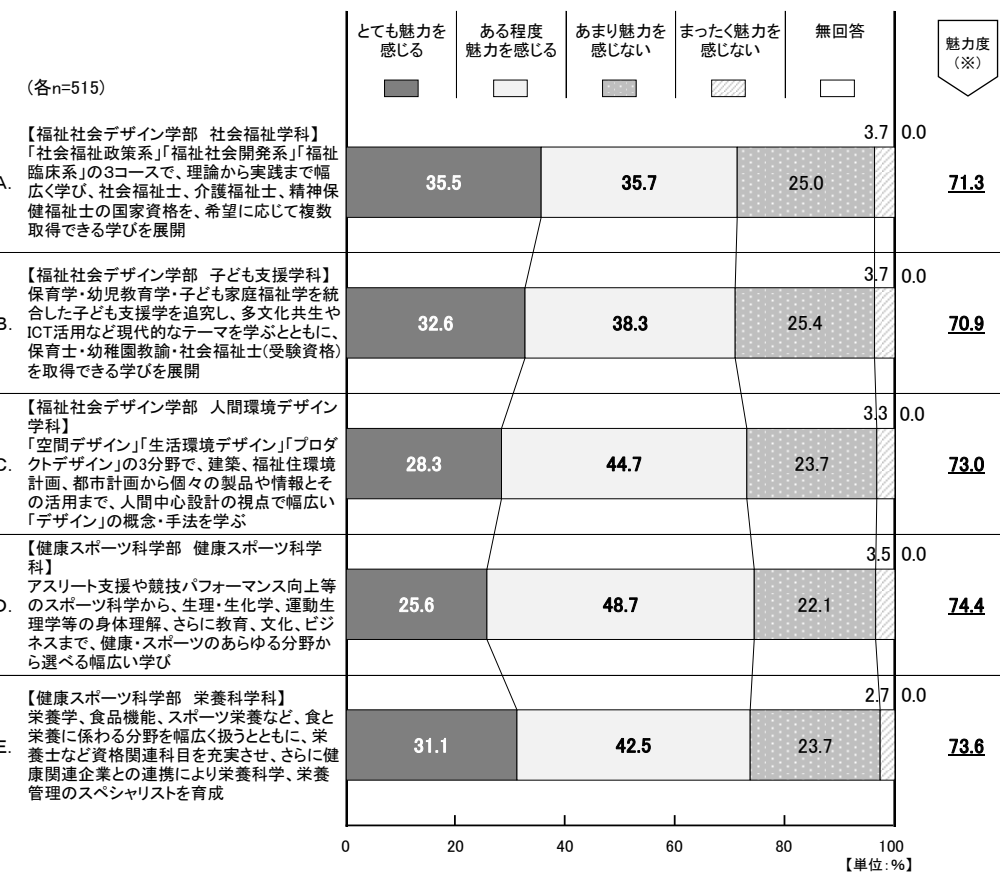
Q7. 貴社・貴団体では、今後、大学や大学院でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまるものすべて)



東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」 の特色に対する魅力度

■東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」の特色に対する魅力度

Q8. 東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」(いずれも仮称、設置構想中)の各学科には、以下のような特色があります。貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)

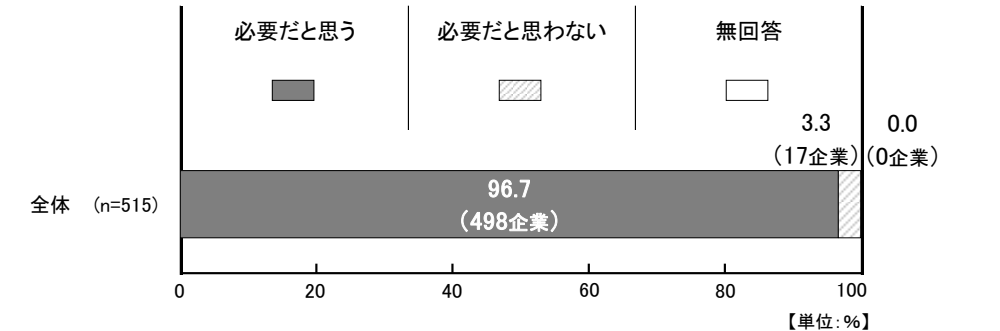


※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値
※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」の社会的必要性
／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

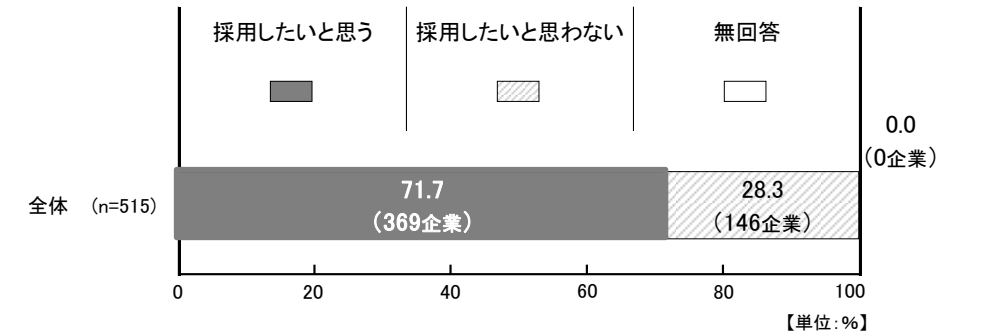
東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」(いずれも仮称、設置構想中)の各学科は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)



東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」(いずれも仮称、設置構想中)の各学科を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)



「採用したいと思う」と答えた369企業のみ抽出

東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの卒業生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「採用したいと思う」と回答された学科の卒業生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。
(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)

標本数	単位	1名							10名以上	計
		1名	2名	3名	4名	5名	6名	7名		
全体	369	%	58.0%	17.3%	10.0%	0.8%	9.5%	4.3%		
		企業数	214	64	37	3	35	16		
		名	214	128	111	12	175	160		

⇒

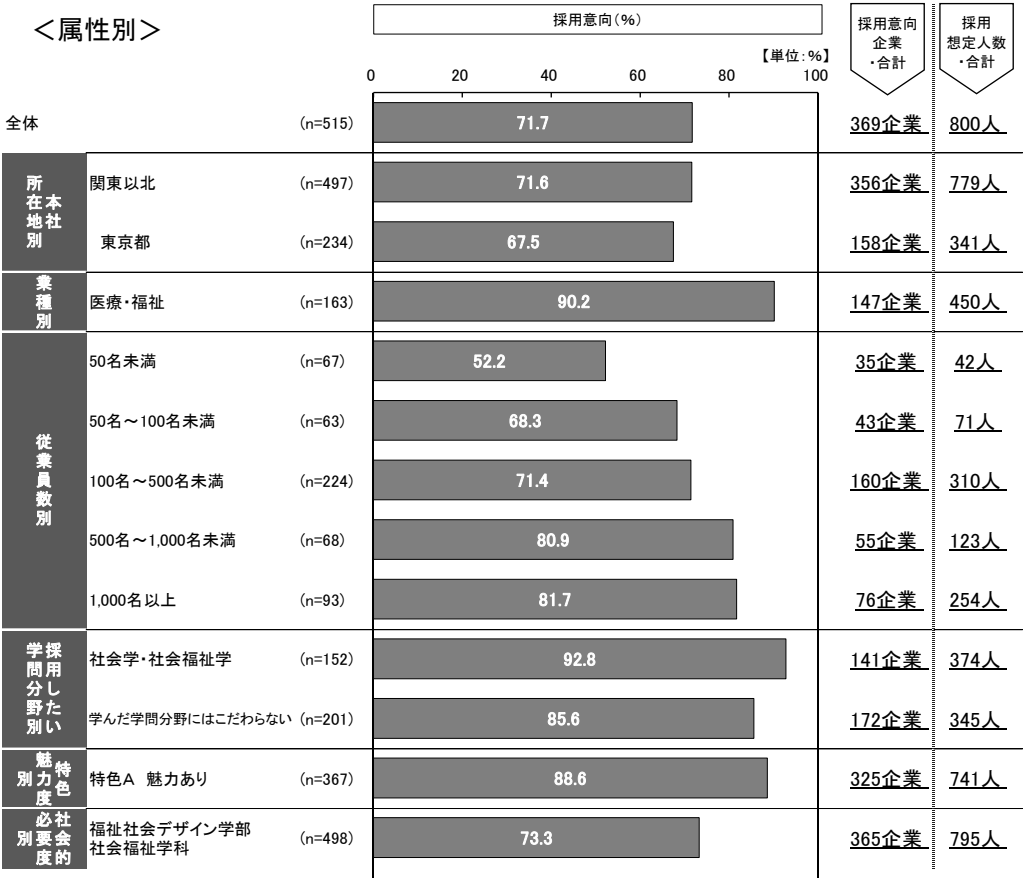
369
800

※ 毎年の採用想定人数は、Q10で「採用したいと思う」と回答された企業数(369)と、Q11で「10名以上」を選んだ企業数(16)を代入し合計値を算出

東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」 卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※東洋大学「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」に対して、Q10で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q11で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。

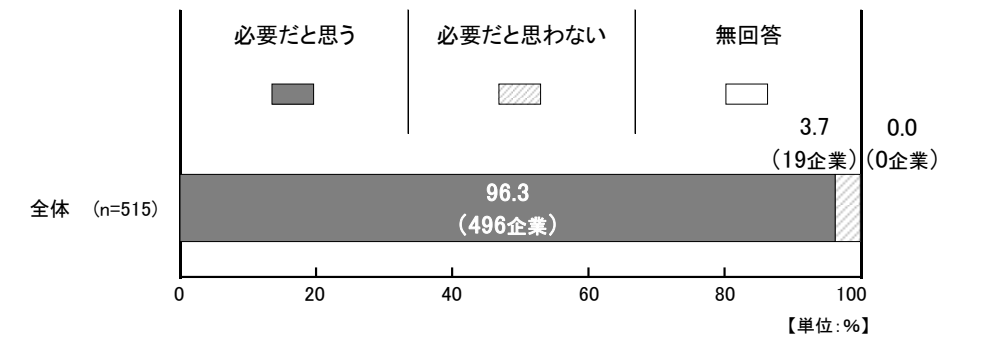


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」の社会的必要性／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

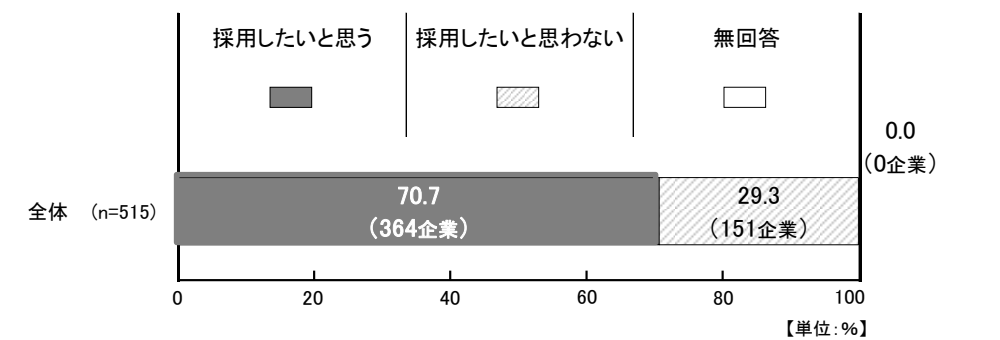
東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」(いずれも仮称、設置構想中)の各学科は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)



東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」(いずれも仮称、設置構想中)の各学科を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)



「採用したいと思う」と答えた364企業のみ抽出

東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの卒業生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。「採用したいと思う」と回答された学科の卒業生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)

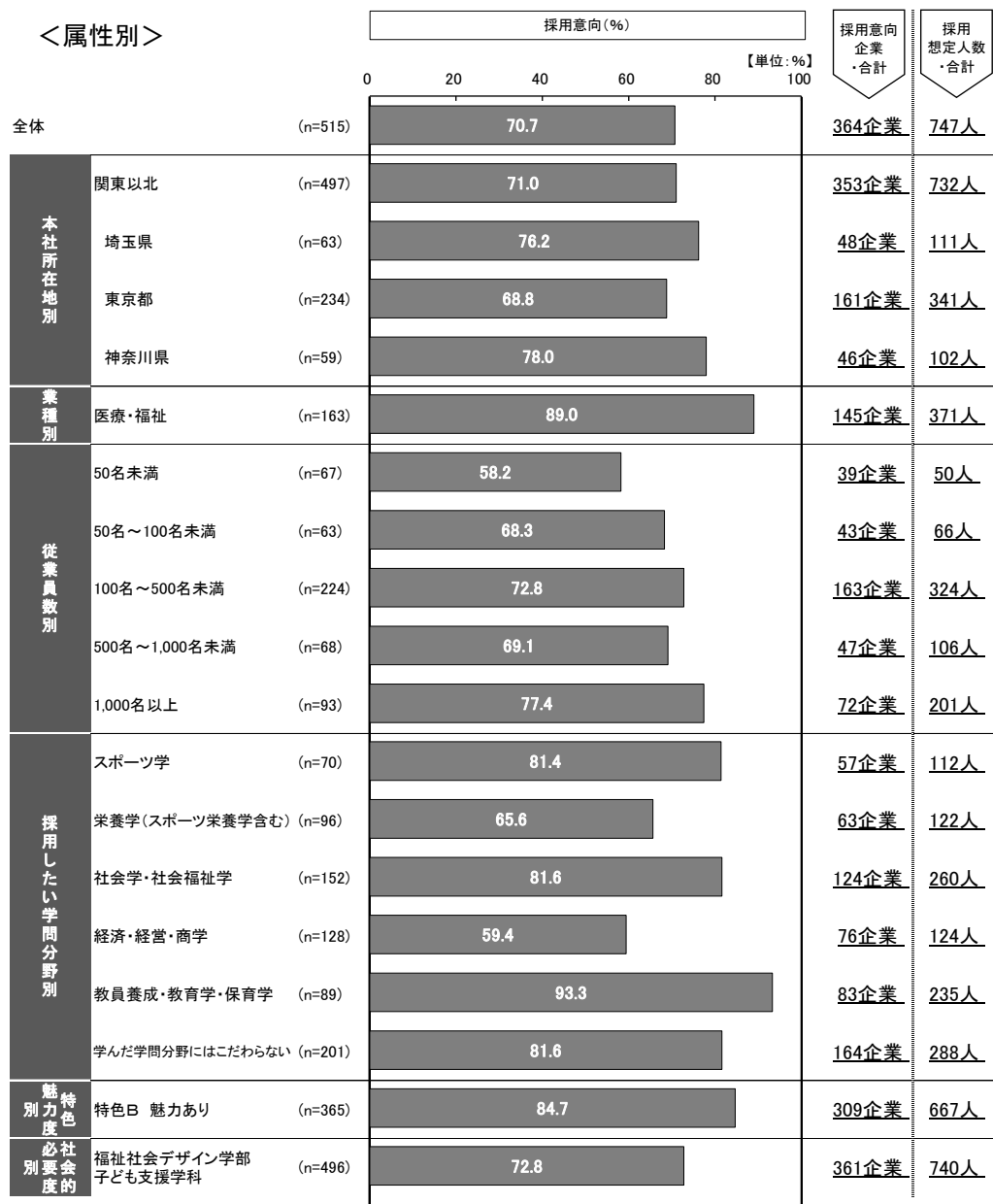
	標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	計 (※ おおよ びた採 用企業 数・計 人数・ 示した 年の採 用業 数・計 人数を 毎年 の採用 想定人 数を 算出)
			%	%	%	%	%	%	
全体	364	%	59.6%	16.5%	11.0%	1.4%	8.2%	3.3%	⇒ 364
		企業数	217	60	40	5	30	12	
		名	217	120	120	20	150	120	747

※ 毎年の採用想定人数は、Q11で「1名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」
卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※東洋大学「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」に対して、Q10で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q11で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。

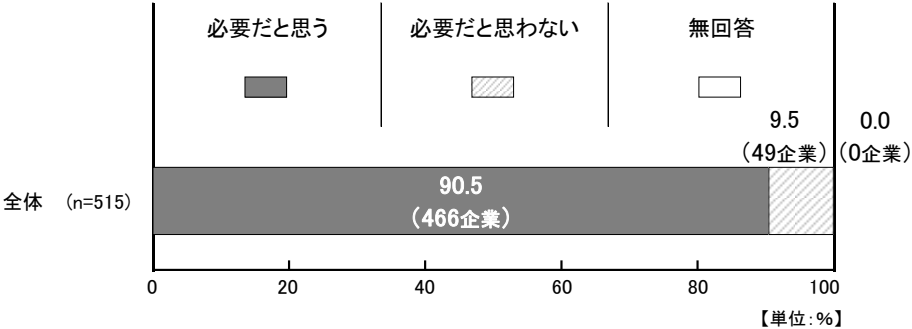


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」の社会的必要性
／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

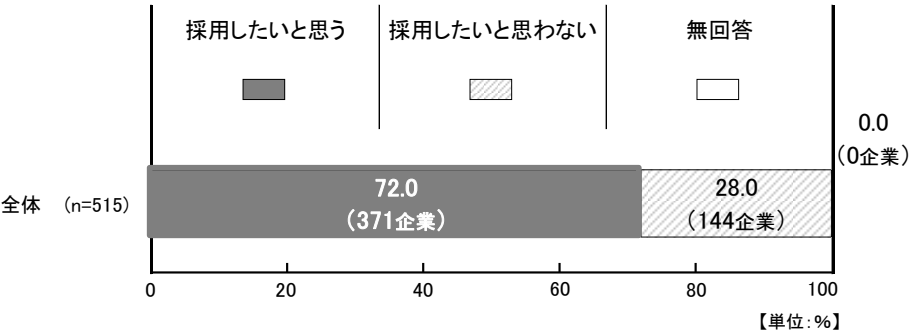
■東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」(いずれも仮称、設置構想中)の各学科は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)



■東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」(いずれも仮称、設置構想中)の各学科を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)



「採用したいと思う」と答えた371企業のみ抽出

■東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの卒業生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「採用したいと思う」と回答された学科の卒業生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。
(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名〜9名	10名以上	計(※)
		%	%	%	%	%	%	
全体	371	%	69.0%	16.4%	5.9%	0.8%	5.7%	2.2%
		企業数	256	61	22	3	21	8
		名	256	122	66	12	105	80

⇒

計(※)	371
および採用想定人数	641

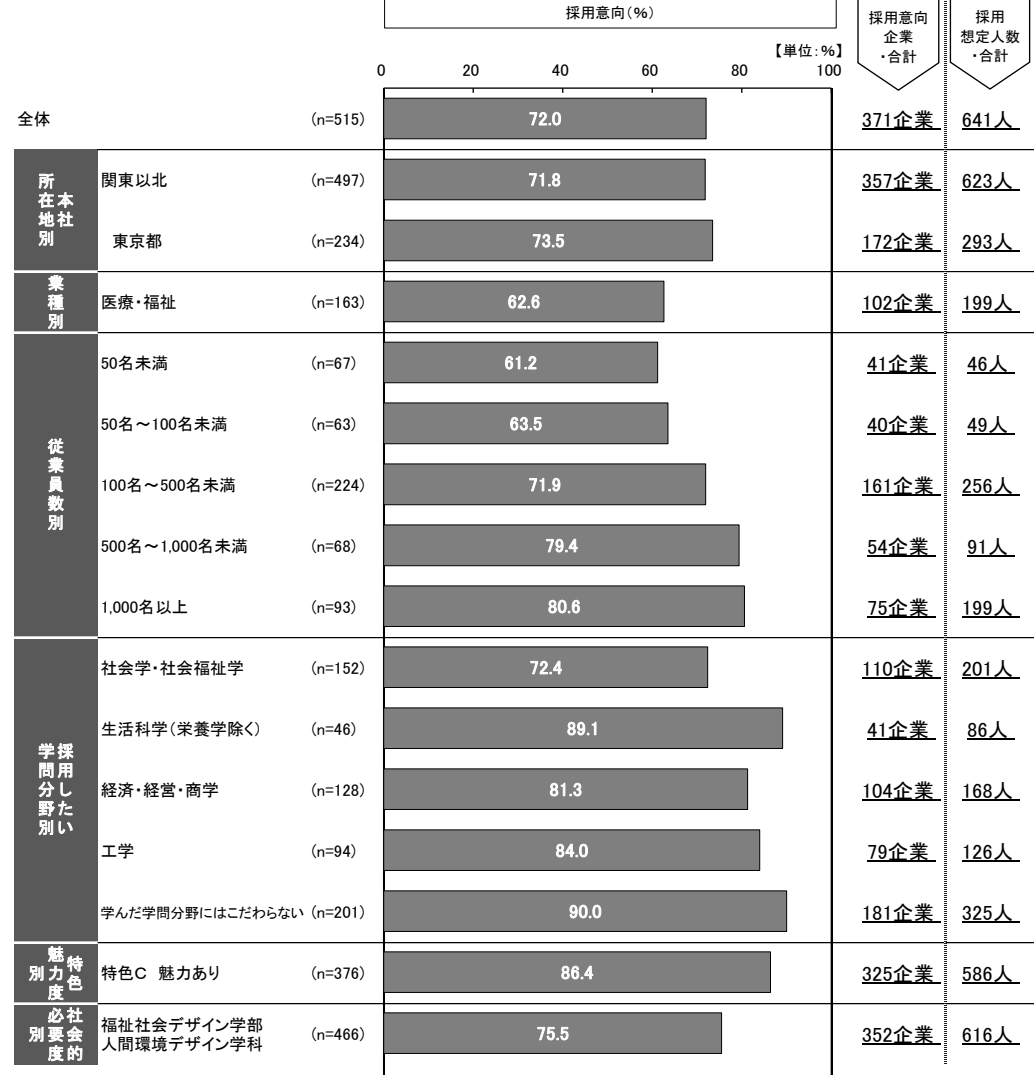
※ 毎年の採用想定人数は、Q11で「1名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」
卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」卒業生に対する
採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※東洋大学「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」に対して、Q10で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q11で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。

＜属性別＞

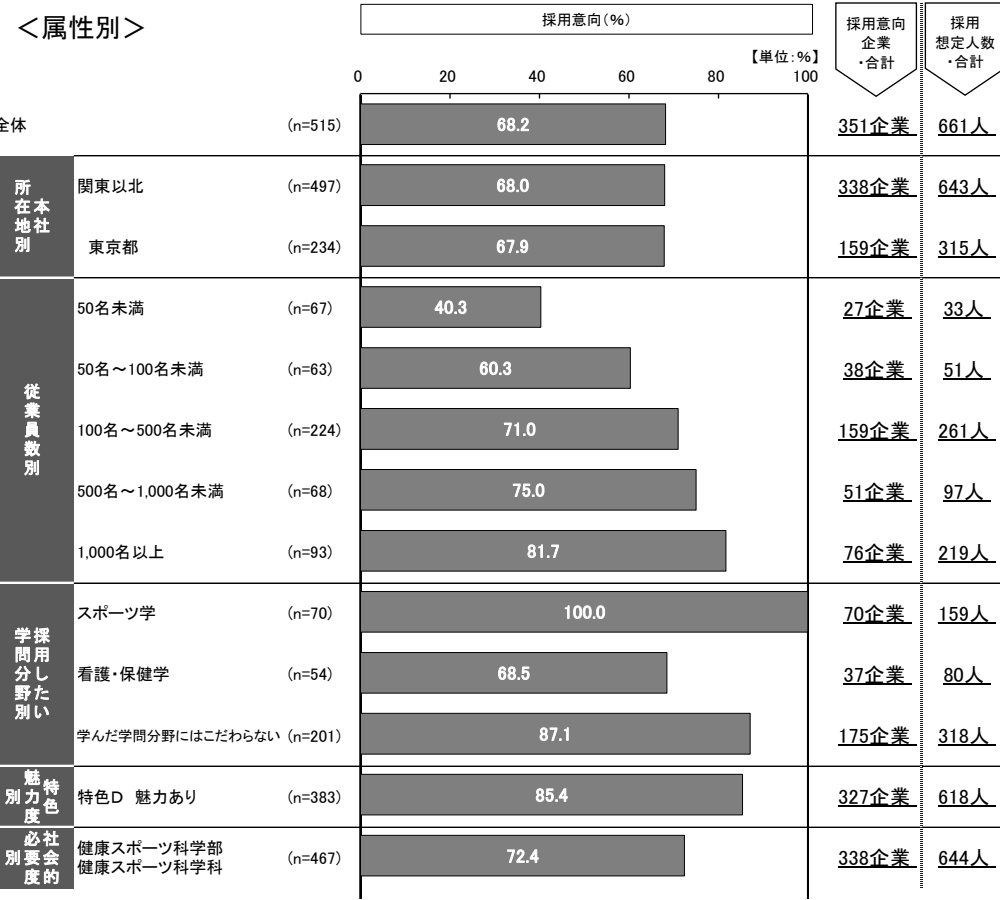


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名 を代入し合計値を算出

東洋大学「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」
卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■東洋大学「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」卒業生に対する
採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※東洋大学「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」に対して、Q10で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q11で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。

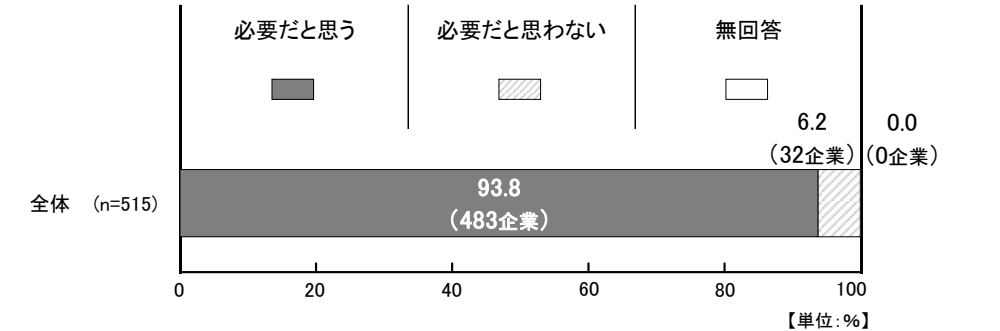


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」の社会的必要性
／卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

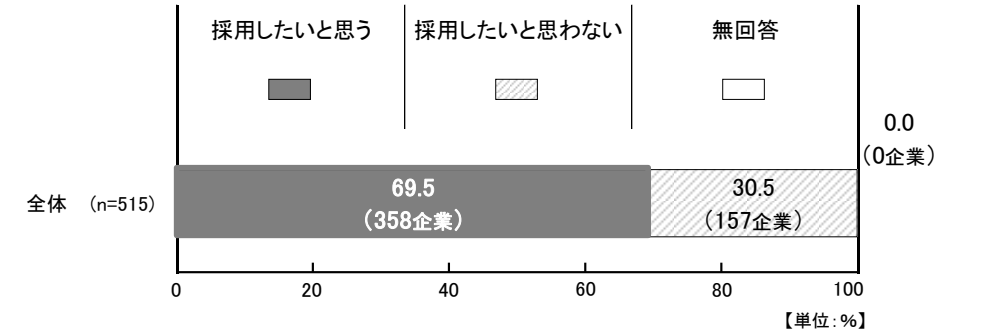
東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」の社会的必要性

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」(いずれも仮称、設置構想中)の各学科は、これからの社会にとって必要だと思われますか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)



東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」(いずれも仮称、設置構想中)の各学科を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)



「採用したいと思う」と答えた358企業のみ抽出

東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの卒業生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「採用したいと思う」と回答された学科の卒業生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)

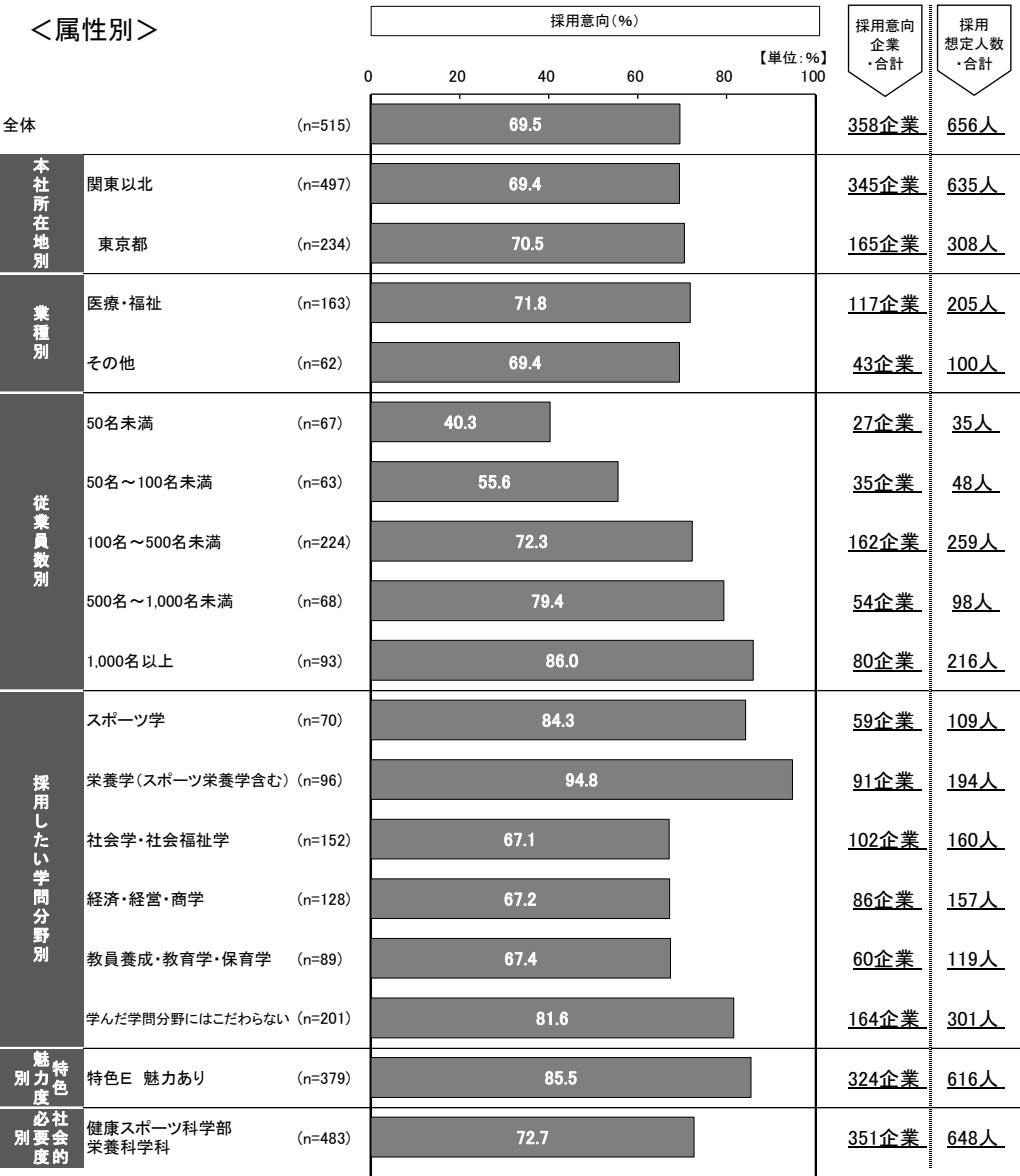
	標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名以上	⇒	毎年の採用想定人数を示した企業数・計数・および採用想定人数・計（※）
全体	358	%	65.4%	15.6%	8.1%	0.6%	8.7%	1.7%		
		企業数	234	56	29	2	31	6		
		名	234	112	87	8	155	60		

※ 毎年の採用想定人数は、Q10で「採用したいと思う」と回答された企業数(358)に、Q11の採用想定人数を乗じて算出

東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」
卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

■東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」卒業生に対する採用意向／採用想定人数＜属性別＞

※東洋大学「健康スポーツ科学部 栄養科学科」に対して、Q10で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q11で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。

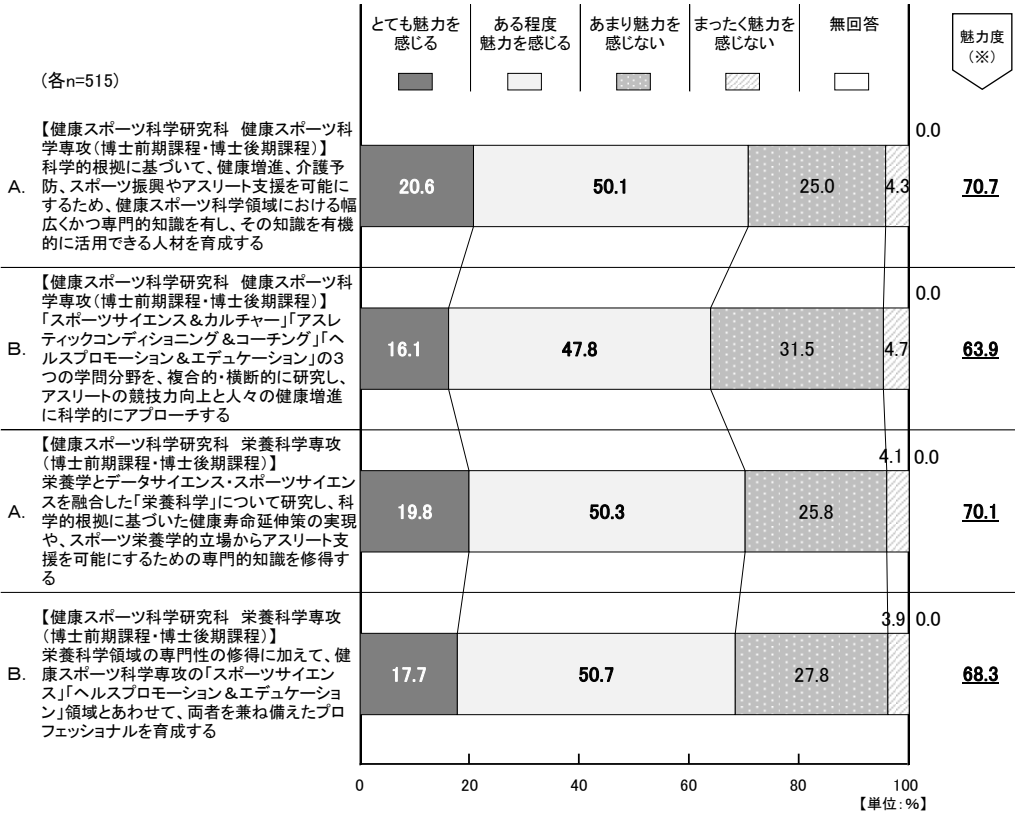


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名 を代入し合計値を算出

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の特色に対する魅力度

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)の特色に対する魅力度

Q12. 東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程) (いずれも仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。
(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)

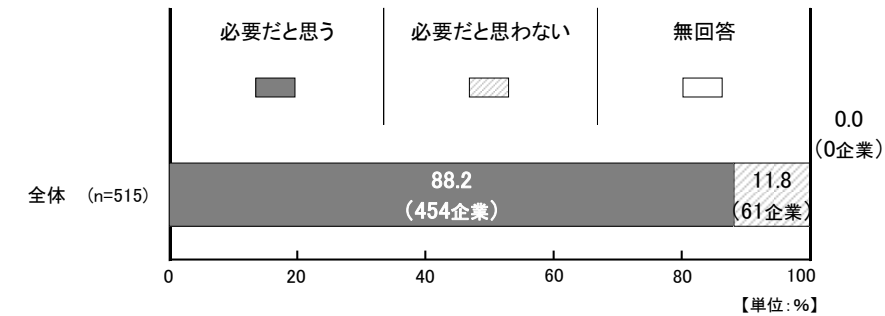


※魅力度=「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値
※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」
(博士前期課程)の社会的必要性／修了生に対する採用意向／修了生の毎年の採用想定人数

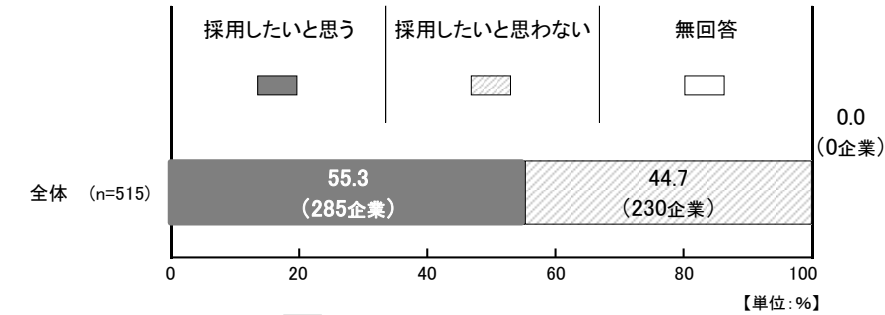
東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」
(博士前期課程)の社会的必要性

Q13. 貴社・貴団体(ご回答者)は、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)(いずれも仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)



東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」
(博士前期課程)修了生に対する採用意向

Q14. 貴社・貴団体(ご回答者)では、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)(いずれも仮称、設置構想中)を修了した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)



「採用したいと思う」と答えた285企業のみ抽出

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」
(博士前期課程)修了生の毎年の採用想定人数

Q15. Q14でいずれかの修了生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「採用したいと思う」と回答された課程の修了生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。
(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)

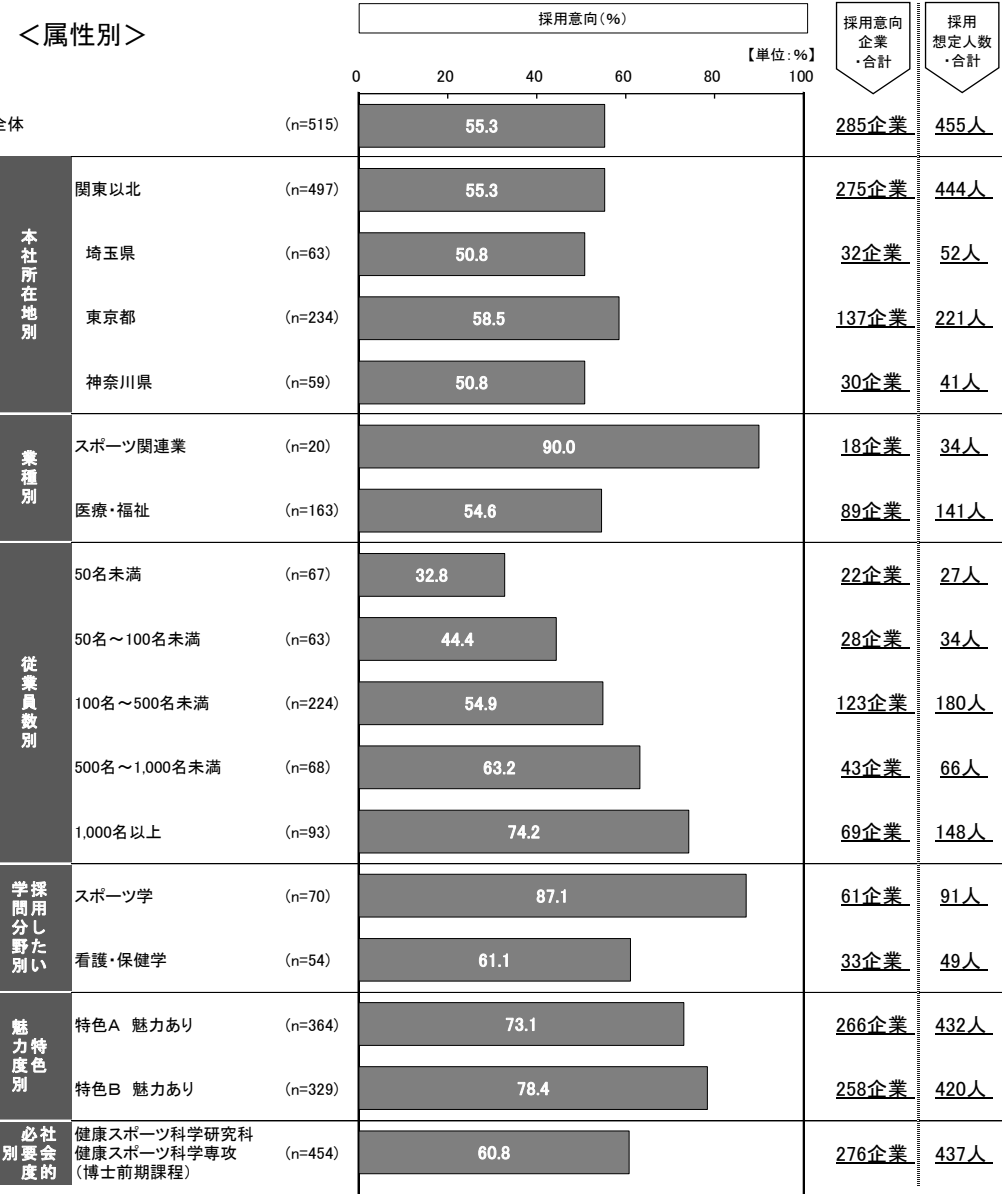
標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名以上	計 (※ ～)
		%	%	%	%	%	%	
全体	285	77.2%	10.9%	3.5%	0.7%	6.0%	1.8%	⇒ 285 455
	企業数	220	31	10	2	17	5	
	名	220	62	30	8	85	50	

※ 毎年の採用想定人数は、Q14で「採用したいと思う」と回答された企業数(285)を1名として、5名、10名を代入し合計値を算出

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」
(博士前期課程)修了生に対する採用意向／採用想定人数<属性別>

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」
(博士前期課程)修了生に対する採用意向／採用想定人数<属性別>

※東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程)に対して、Q14で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q15で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。

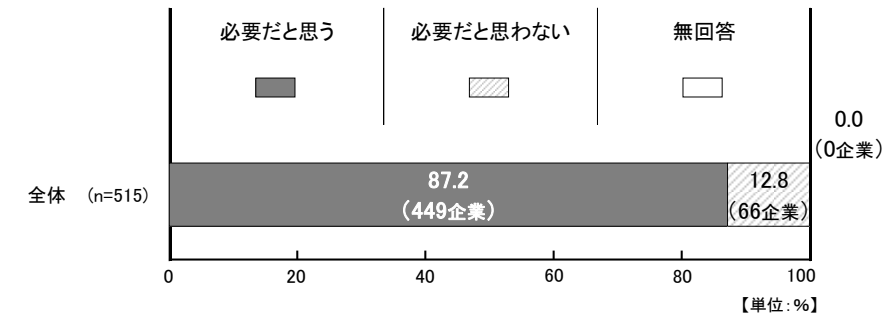


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」
(博士後期課程)の社会的必要性／修了生に対する採用意向／修了生の毎年の採用想定人数

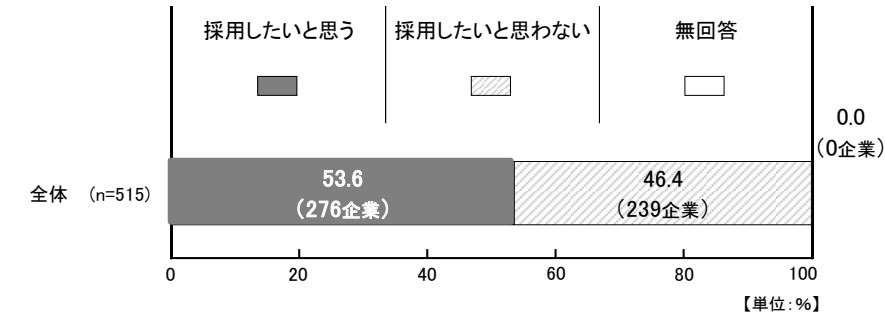
東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」
(博士後期課程)の社会的必要性

Q13. 貴社・貴団体(ご回答者)は、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)(いずれも仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)



東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」
(博士後期課程)修了生に対する採用意向

Q14. 貴社・貴団体(ご回答者)では、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)(いずれも仮称、設置構想中)を修了した学生について、採用したいと思われますか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)



「採用したいと思う」と答えた276企業のみ抽出

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」
(博士後期課程)修了生の毎年の採用想定人数

Q15. Q14でいずれかの修了生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「採用したいと思う」と回答された課程の修了生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。
(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)

標本数	単位	1名							計
		1名	2名	3名	4名	5名 6名 9名	10名以上	0名	
全体	276	%	76.8%	12.0%	4.0%	0.4%	5.4%	1.4%	⇒ 276 430
		企業数	212	33	11	1	15	4	
		名	212	66	33	4	75	40	

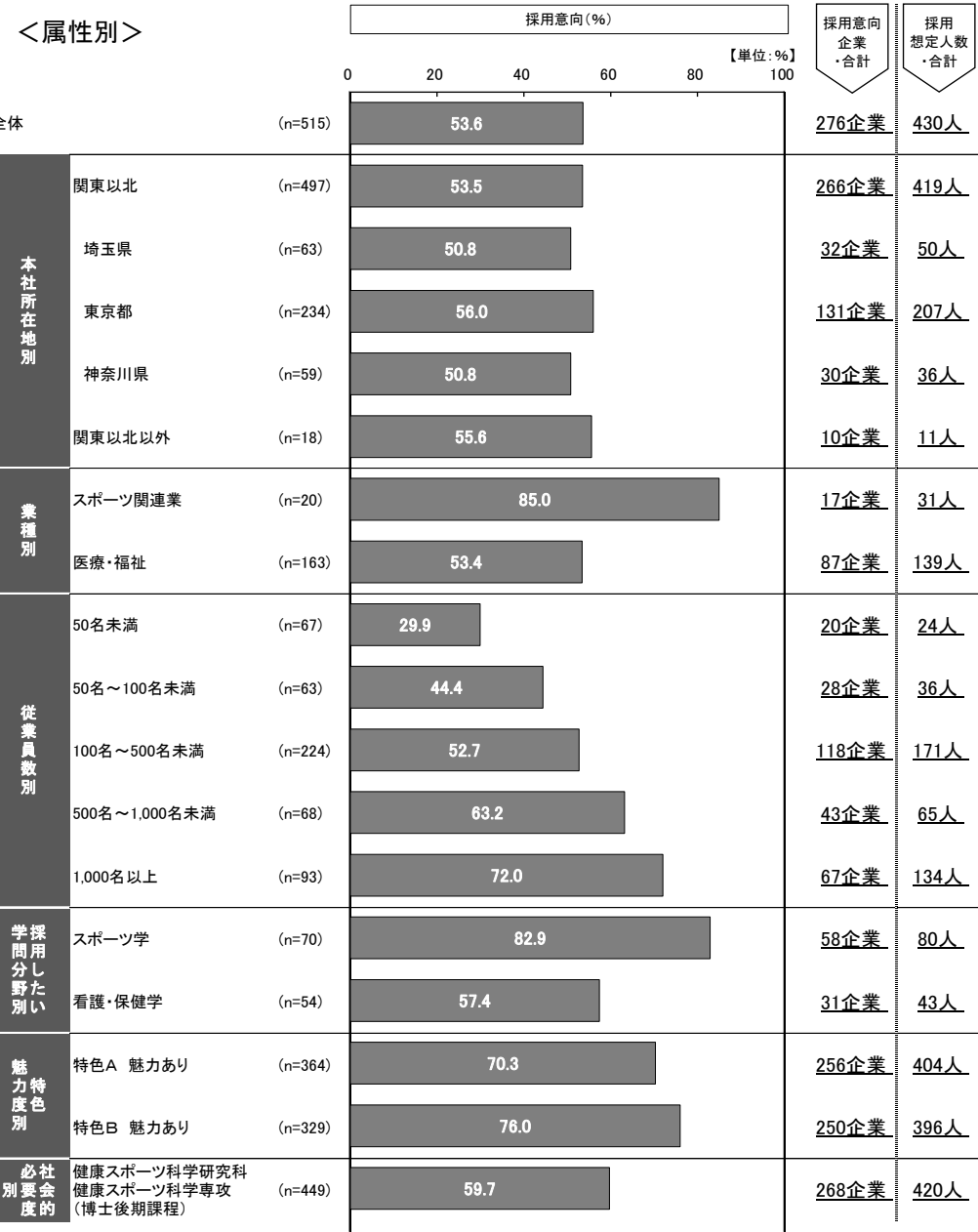
※ 毎年の採用想定人数は、Q15. Q14で「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「採用したいと思う」と回答された課程の修了生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。
(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)

※ 毎年の採用想定人数は、Q15. Q14で「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「採用したいと思う」と回答された課程の修了生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。
(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」
(博士後期課程)修了生に対する採用意向／採用想定人数<属性別>

■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」
(博士後期課程)修了生に対する採用意向／採用想定人数<属性別>

※東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士後期課程)に対して、Q14で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向企業】のうち、Q15で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。

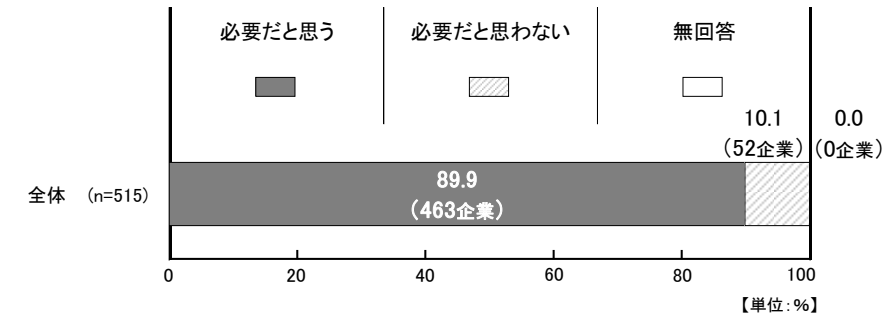


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程)の社会的必要性／修了生に対する採用意向／修了生の毎年の採用想定人数

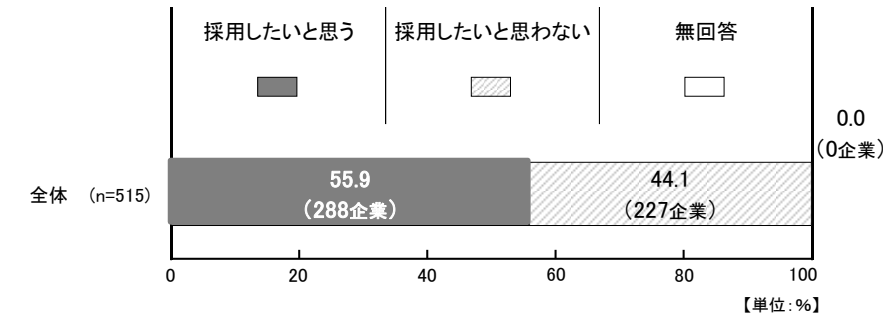
東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程)の社会的必要性

Q13. 貴社・貴団体(ご回答者)は、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)(いずれも仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)



東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程)修了生に対する採用意向

Q14. 貴社・貴団体(ご回答者)では、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)(いずれも仮称、設置構想中)を修了した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)



「採用したいと思う」と答えた288企業のみ抽出

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程)修了生の毎年の採用想定人数

Q15. Q14でいずれかの修了生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。「採用したいと思う」と回答された課程の修了生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名以上	計 (※ ～)
		%	%	%	%	%	%	
全体	288	%	75.7%	12.5%	3.1%	0.3%	6.9%	1.4%
		企業数	218	36	9	1	20	4
		名	218	72	27	4	100	40

⇒

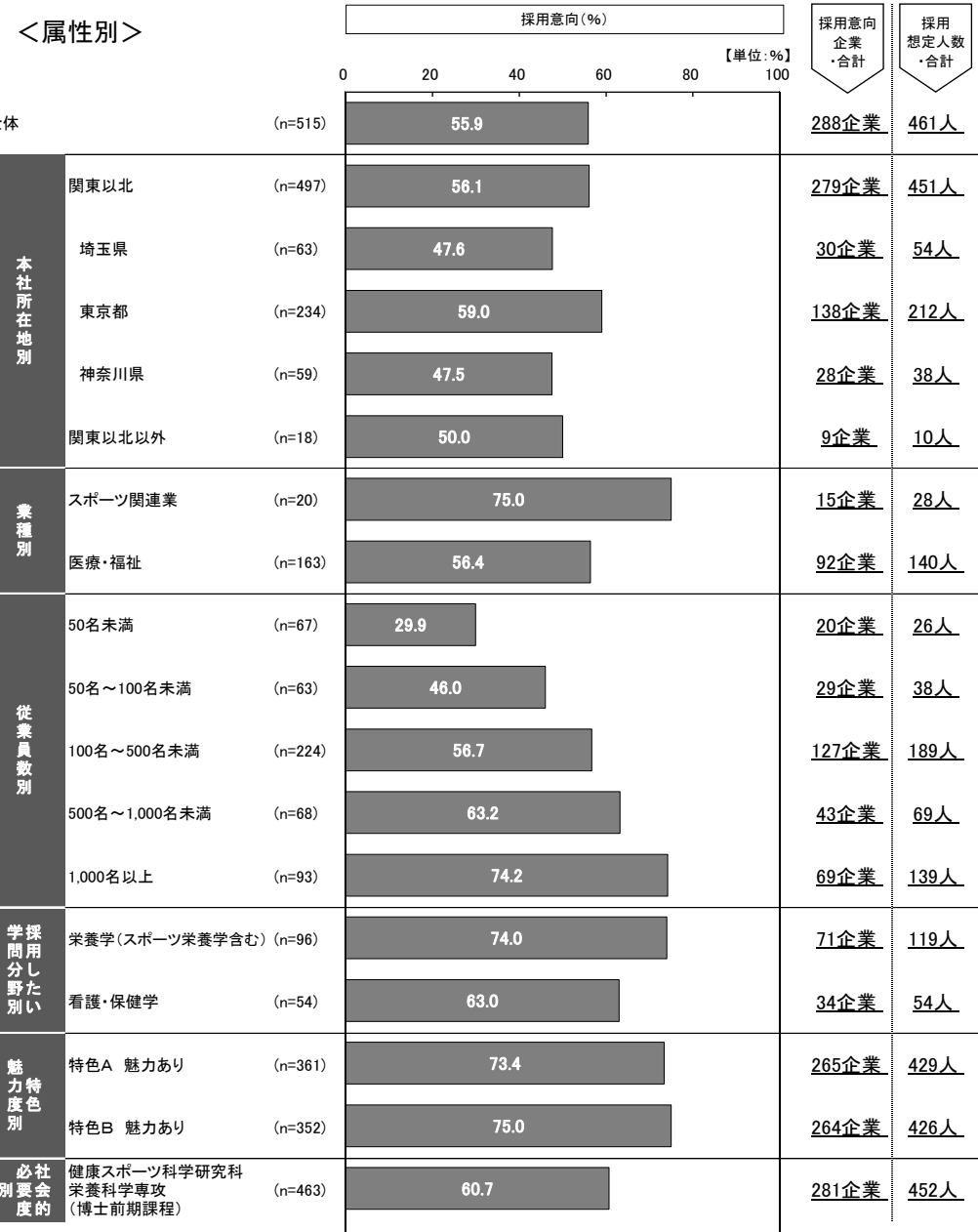
288
461

※ 毎年の採用想定人数は、Q15.「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」
(博士前期課程)修了生に対する採用意向／採用想定人数<属性別>

■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程)
修了生に対する採用意向／採用想定人数<属性別>

※東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程)に対して、
Q14で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向
企業】のうち、Q15で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。

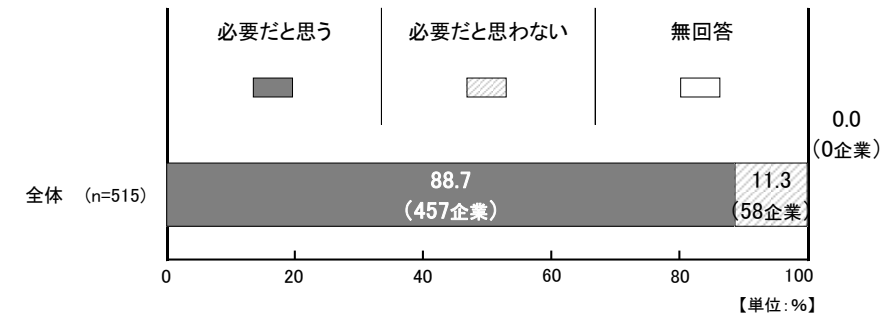


※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士後期課程)の社会的必要性／修了生に対する採用意向／修了生の毎年の採用想定人数

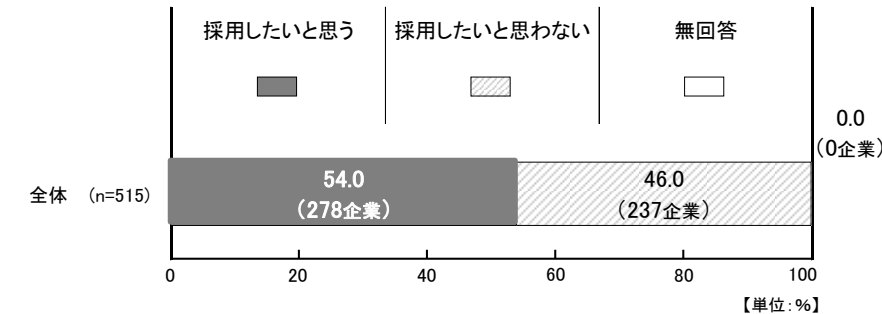
東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士後期課程)の社会的必要性

Q13. 貴社・貴団体(ご回答者)は、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)(いずれも仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)



東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士後期課程)修了生に対する採用意向

Q14. 貴社・貴団体(ご回答者)では、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士前期課程・博士後期課程)(いずれも仮称、設置構想中)を修了した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)



「採用したいと思う」と答えた278企業のみ抽出

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士後期課程)修了生の毎年の採用想定人数

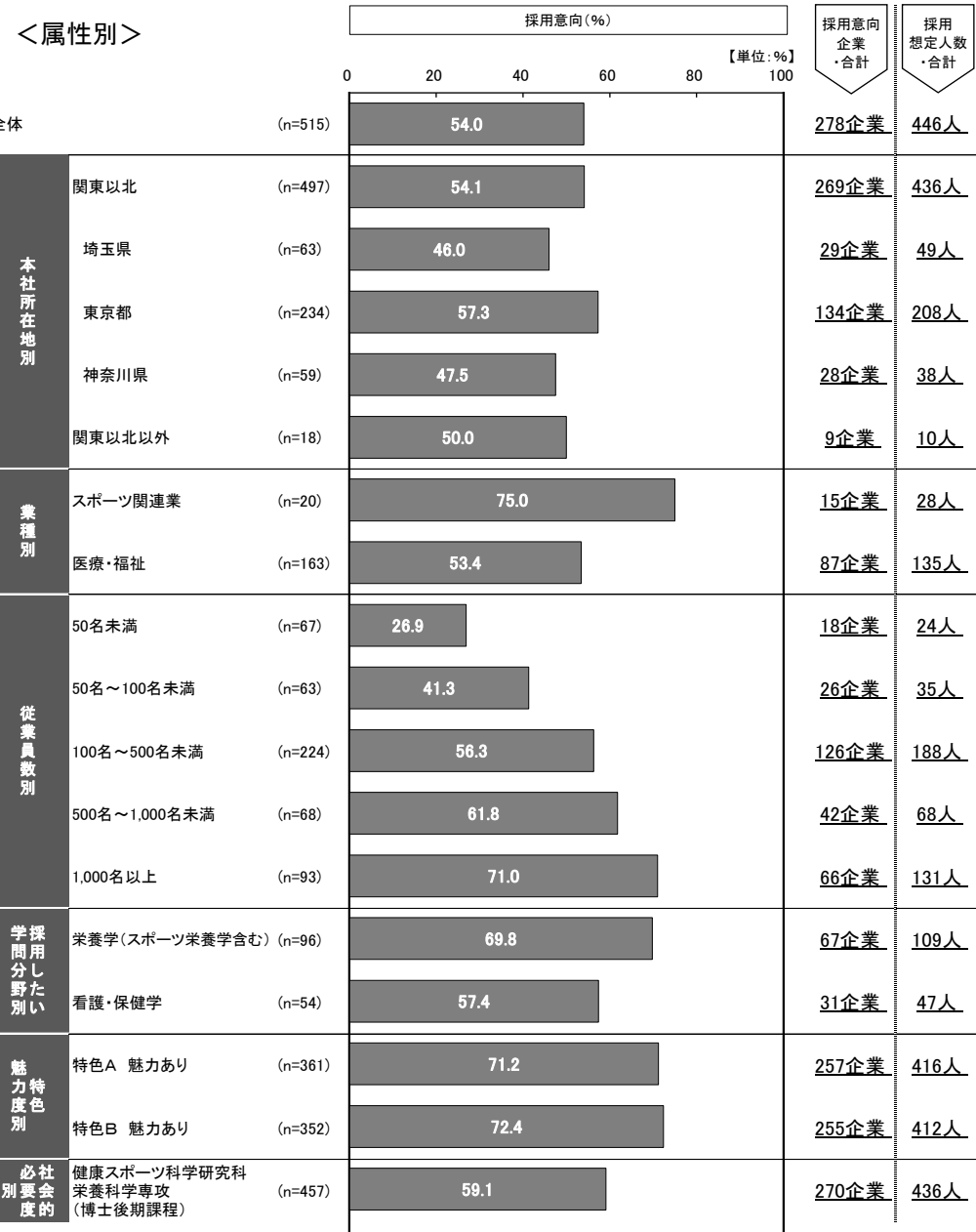
Q15. Q14でいずれかの修了生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。「採用したいと思う」と回答された課程の修了生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。(それぞれ、あてはまるもの1つだけ)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名以上	計 (※ ～)
		%	%	%	%	%	%	
全体	278	75.5%	12.6%	3.2%	0.4%	6.8%	1.4%	⇒ 278 446
	企業数	210	35	9	1	19	4	
	名	210	70	27	4	95	40	

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」
(博士後期課程)修了生に対する採用意向／採用想定人数<属性別>

■東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士後期課程)
修了生に対する採用意向／採用想定人数<属性別>

※東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」(博士後期課程)に対して、
Q14で「採用したいと思う」と回答した企業を【採用意向企業】と定義し、さらに【採用意向
企業】のうち、Q15で回答した企業が示す具体的な人数を【採用想定人数】と定義する。



※ 採用想定人数・合計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名 を代入し合計値を算出

卷末資料 調査票

調査票

東洋大学 新学部・学科、東洋大学大学院 新研究科・専攻に関するアンケート

選択肢記号の説明

- ☐ 複数選択（チェックボックス）
- ☐ 単一選択（ラジオボタン）
- ☐ 単一選択（プルダウン）

SAR

Q1

あなたの人事採用への関与度をお教えてください。（1つだけ）

- ☐ 1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
- ☐ 2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
- ☐ 3. 採用時には直接かわらず、情報や意見を収集・提供する立場にある

SAR

Q2

貴社・貴団体の本社（本部）所在地について、都道府県名をお教えてください。

- ☐ 1. 北海道
- ☐ 2. 青森県
- ☐ 3. 岩手県
- ☐ 4. 宮城県
- ☐ 5. 秋田県
- ☐ 6. 山形県
- ☐ 7. 福島県
- ☐ 8. 茨城県
- ☐ 9. 栃木県
- ☐ 10. 群馬県
- ☐ 11. 埼玉県
- ☐ 12. 千葉県
- ☐ 13. 東京都
- ☐ 14. 神奈川県
- ☐ 15. 新潟県
- ☐ 16. 富山県
- ☐ 17. 石川県
- ☐ 18. 福井県
- ☐ 19. 山梨県
- ☐ 20. 長野県
- ☐ 21. 岐阜県
- ☐ 22. 静岡県
- ☐ 23. 愛知県
- ☐ 24. 三重県
- ☐ 25. 滋賀県
- ☐ 26. 京都府
- ☐ 27. 大阪府
- ☐ 28. 兵庫県
- ☐ 29. 奈良県
- ☐ 30. 和歌山県
- ☐ 31. 鳥取県
- ☐ 32. 島根県
- ☐ 33. 岡山県
- ☐ 34. 広島県
- ☐ 35. 山口県
- ☐ 36. 徳島県
- ☐ 37. 香川県
- ☐ 38. 愛媛県
- ☐ 39. 高知県
- ☐ 40. 福岡県
- ☐ 41. 佐賀県
- ☐ 42. 長崎県
- ☐ 43. 熊本県
- ☐ 44. 大分県
- ☐ 45. 宮崎県
- ☐ 46. 鹿児島県
- ☐ 47. 沖縄県
- ☐ 48. 海外

調査票

SAR

Q3

貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。（もっともあてはまるもの 1 つだけ）

- ☐ 1. スポーツ関連業
- ☐ 2. 食品関連業（製造、流通、販売など）
- ☐ 3. 医療・福祉
- ☐ 4. 学校・教育機関
- ☐ 5. 製造業
- ☐ 6. 建設業
- ☐ 7. 運輸業
- ☐ 8. 情報通信業
- ☐ 9. 電気・ガス・熱供給・水道業
- ☐ 10. 農・林・漁・鉱業
- ☐ 11. 卸売・小売業
- ☐ 12. 金融・保険業
- ☐ 13. 不動産業
- ☐ 14. 飲食店・宿泊業
- ☐ 15. 複合サービス事業
- ☐ 16. サービス業
- ☐ 17. 公務
- ☐ 18. その他【FA】

Q3_18FA

SAR

Q4

貴社・貴団体の従業員数（正規社員）について、ご回答ください。（1 つだけ）

- ☐ 1. 50名未満
- ☐ 2. 50名～100名未満
- ☐ 3. 100名～500名未満
- ☐ 4. 500名～1, 000名未満
- ☐ 5. 1, 000名～5, 000名未満
- ☐ 6. 5, 000名以上

SAR

Q5

貴社・貴団体の過去 3 か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えください。（1 つだけ）

- ☐ 1. 0名
- ☐ 2. 1名～5名未満
- ☐ 3. 5名～10名未満
- ☐ 4. 10名～20名未満
- ☐ 5. 20名～30名未満
- ☐ 6. 30名～50名未満
- ☐ 7. 50名～100名未満
- ☐ 8. 100名以上

SAR

Q6

貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。（1 つだけ）

- ☐ 1. 増やす
- ☐ 2. 昨年度並み
- ☐ 3. 減らす
- ☐ 4. 未定

MAC

Q7

貴社・貴団体では、今後、大学や大学院でどのような学問分野を学んだ人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまるものすべて)

▲ 設問文を折りたたむ

☐	1.	スポーツ学	
☐	2.	栄養学（スポーツ栄養学含む）	
☐	3.	社会学・社会福祉学	
☐	4.	法学	
☐	5.	生活科学（栄養学除く）	
☐	6.	総合科学	
☐	7.	経済・経営・商学	
☐	8.	文学	
☐	9.	語学	
☐	10.	教員養成・教育学・保育学	
☐	11.	国際関係学	
☐	12.	理学	
☐	13.	工学	
☐	14.	農・水産学	
☐	15.	看護・保健学	
☐	16.	医・歯・薬学	
☐	17.	芸術学	
☐	18.	その他【FA】	Q7 18FA
☐	19.	学んだ学問分野にはこだわらない	

MTS

Q8

東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（いずれも仮称、設置構想中）の各学科には、以下のような特色があります。
貴社・貴団体（ご回答者）にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。（それぞれ、あてはまるもの 1 つだけ）

▲ 設問文を折りたたむ

項目リスト

Q8S1

1.

「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」の特色
「社会福祉政策系」「福祉社会開発系」「福祉臨床系」の 3 コースで、理論から実践まで幅広く学び、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の国家資格を、希望に応じて複数取得できる学びを展開

Q8S2

2.

「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」の特色
保育学・幼児教育学・子ども家庭福祉学を統合した子ども支援学を追究し、多文化共生やICT活用など現代的なテーマを学ぶとともに、保育士・幼稚園教諭・社会福祉士(受験資格)を取得できる学びを展開

Q8S3

3.

「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」の特色
「空間デザイン」「生活環境デザイン」「プロダクトデザイン」の 3 分野で、建築、福祉住環境計画、都市計画から個々の製品や情報とその活用まで、人間中心設計の視点で幅広い「デザイン」の概念・手法を学ぶ

Q8S4

4.

「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」の特色
アスリート支援や競技パフォーマンス向上等のスポーツ科学から、生理・生化学、運動生理学等の身体理解、さらに教育、文化、ビジネスまで、健康・スポーツのあらゆる分野から選べる幅広い学び

Q8S5

5.

「健康スポーツ科学部 栄養科学科」の特色
栄養学、食品機能、スポーツ栄養など、食と栄養に係わる分野を幅広く扱うとともに、栄養士など資格関連科目を充実させ、さらに健康関連企業との連携により栄養科学、栄養管理のスペシャリストを育成

選択肢リスト

☐	1.	とても魅力を感じる	
☐	2.	ある程度魅力を感じる	
☐	3.	あまり魅力を感じない	
☐	4.	まったく魅力を感じない	

調査票

MTS

Q9

貴社・貴団体（ご回答者）は、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（いずれも仮称、設置構想中）の各学科は、これからの社会にとって必要だと思いますか。（それぞれ、あてはまるもの 1 つだけ）

項目リスト

Q9S1	1. 「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」
Q9S2	2. 「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」
Q9S3	3. 「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」
Q9S4	4. 「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」
Q9S5	5. 「健康スポーツ科学部 栄養科学科」

選択肢リスト

- ☐ 1. 必要だと思う
- ☐ 2. 必要だと思わない

MTS

Q10

貴社・貴団体（ご回答者）では、東洋大学「福祉社会デザイン学部」「健康スポーツ科学部」（いずれも仮称、設置構想中）の各学科を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。（それぞれ、あてはまるもの 1 つだけ）

項目リスト

Q10S1	1. 「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」
Q10S2	2. 「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」
Q10S3	3. 「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」
Q10S4	4. 「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」
Q10S5	5. 「健康スポーツ科学部 栄養科学科」

選択肢リスト

- ☐ 1. 採用したいと思う
- ☐ 2. 採用したいと思わない

MTS

Q11

Q10でいずれかの卒業生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。「採用したいと思う」と回答された学科の卒業生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。（それぞれ、あてはまるもの 1 つだけ）

項目リスト

Q11S1	1. 「福祉社会デザイン学部 社会福祉学科」
Q11S2	2. 「福祉社会デザイン学部 子ども支援学科」
Q11S3	3. 「福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科」
Q11S4	4. 「健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科」
Q11S5	5. 「健康スポーツ科学部 栄養科学科」

選択肢リスト

- ☐ 1. 1名
- ☐ 2. 2名
- ☐ 3. 3名
- ☐ 4. 4名
- ☐ 5. 5名～9名
- ☐ 6. 10名以上

調査票

MTS

Q12

東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）（いずれも仮称、設置構想中）には、以下のような特色があります。

貴社・貴団体（ご回答者）にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力に感じますか。（それぞれ、あてはまるもの１つだけ）

※研究科名をクリックすると設置構想内容を再度ご確認くださいませ。

項目リスト

Q12S1

1. 「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）」の特色A：科学的根拠に基づいて、健康増進、介護予防、スポーツ振興やアスリート支援を可能にするため、健康スポーツ科学領域における幅広くかつ専門的知識を有し、その知識を有機的に活用できる人材を育成する

Q12S2

2. 「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）」の特色B：「スポーツサイエンス&カルチャー」「アスレティックコンディショニング&コーチング」「ヘルスプロモーション&エデュケーション」の3つの学問分野を、複合的・横断的に研究し、アスリートの競技力向上と人々の健康増進に科学的にアプローチする

Q12S3

3. 「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）」の特色A：栄養学とデータサイエンス・スポーツサイエンスを融合した「栄養科学」について研究し、科学的根拠に基づいた健康寿命延伸策の実現や、スポーツ栄養学的立場からアスリート支援を可能にするための専門的知識を修得する

Q12S4

4. 「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）」の特色B：栄養科学領域の専門性の修得に加えて、健康スポーツ科学専攻の「スポーツサイエンス」「ヘルスプロモーション&エデュケーション」領域とあわせて、両者を兼ね備えたプロフェッショナルを育成する

選択肢リスト

- ☐ 1. とても魅力を感じる
- ☐ 2. ある程度魅力を感じる
- ☐ 3. あまり魅力を感じない
- ☐ 4. まったく魅力を感じない

MTS

Q13

貴社・貴団体（ご回答者）は、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）（いずれも仮称、設置構想中）は、これからの社会にとって必要だと思われますか。（それぞれ、あてはまるもの１つだけ）

※研究科名をクリックすると設置構想内容を再度ご確認くださいませ。

項目リスト

Q13S1

1. 「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）

Q13S2

2. 「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）

Q13S3

3. 「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」（博士前期課程）

Q13S4

4. 「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」（博士後期課程）

選択肢リスト

- ☐ 1. 必要だと思う
- ☐ 2. 必要だと思わない

MTS

Q14

貴社・貴団体（ご回答者）では、東洋大学大学院「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）、
「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」（博士前期課程・博士後期課程）
（いずれも仮称、設置構想中）を修了した学生について、採用したいと思われ
ますか。
（それぞれ、あてはまるもの 1 つだけ）
※研究科名をクリックすると設置構想内容を再度ご確認ください。

項目リスト	
Q14S1	1. 「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）
Q14S2	2. 「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）
Q14S3	3. 「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」（博士前期課程）
Q14S4	4. 「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」（博士後期課程）

選択肢リスト

☐ 1. 採用したいと思う

☐ 2. 採用したいと思わない

MTS

Q15

Q14でいずれかの修了生を「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
「採用したいと思う」と回答された課程の修了生について、採用を考える場合、毎年
何名程度の採用を想定されますか。（それぞれ、あてはまるもの 1 つだけ）

項目リスト	
Q15S1	1. 「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」（博士前期課程）
Q15S2	2. 「健康スポーツ科学研究科 健康スポーツ科学専攻」（博士後期課程）
Q15S3	3. 「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」（博士前期課程）
Q15S4	4. 「健康スポーツ科学研究科 栄養科学専攻」（博士後期課程）

選択肢リスト

☐ 1. 1名

☐ 2. 2名

☐ 3. 3名

☐ 4. 4名

☐ 5. 5名～9名

☐ 6. 10名以上

平成28年社会生活基本調査 生活行動一地域（調査票A）

第78-2表 男女、スポーツの種類別行動者率（10歳以上）－全国、都道府県

			サンプルサイズ	推定人口	行動者率
					スポーツの種類
					00 総数
			(千人)		(%)
男女	地域区分	人口集中地区			
0 総数	13 東京都	0 総数	4,836	12,346	75.7
0 総数	11 埼玉県	0 総数	5,965	6,555	72.6
0 総数	14 神奈川県	0 総数	5,351	8,216	72.4
0 総数	12 千葉県	0 総数	5,046	5,614	71.6
0 総数	25 滋賀県	0 総数	3,566	1,253	71.6
0 総数	23 愛知県	0 総数	6,208	6,687	71.2
0 総数	26 京都府	0 総数	3,115	2,338	70.1
0 総数	28 兵庫県	0 総数	4,940	4,935	69.5
0 総数	29 奈良県	0 総数	3,458	1,217	69.5
0 総数	09 栃木県	0 総数	3,516	1,759	69.3
0 総数	17 石川県	0 総数	3,472	1,016	69.1
0 総数	00 全国	0 総数	179,297	113,300	68.8
0 総数	08 茨城県	0 総数	3,678	2,604	68.5
0 総数	19 山梨県	0 総数	3,297	744	68.2
0 総数	22 静岡県	0 総数	3,827	3,294	68.2
0 総数	46 鹿児島県	0 総数	3,167	1,424	68.2
0 総数	10 群馬県	0 総数	3,449	1,754	68.1
0 総数	20 長野県	0 総数	3,791	1,861	68.1
0 総数	16 富山県	0 総数	3,871	949	67.9
0 総数	47 沖縄県	0 総数	3,065	1,231	67.9
0 総数	21 岐阜県	0 総数	3,854	1,807	67.4
0 総数	44 大分県	0 総数	3,272	1,016	67.2
0 総数	24 三重県	0 総数	3,538	1,614	66.9
0 総数	27 大阪府	0 総数	5,197	7,923	66.9
0 総数	33 岡山県	0 総数	3,323	1,694	66.8
0 総数	38 愛媛県	0 総数	2,981	1,220	66.8
0 総数	43 熊本県	0 総数	3,176	1,548	66.7
0 総数	34 広島県	0 総数	3,472	2,507	66.5
0 総数	04 宮城県	0 総数	3,586	2,091	66.4
0 総数	37 香川県	0 総数	3,445	861	66.0
0 総数	35 山口県	0 総数	3,257	1,231	65.8
0 総数	40 福岡県	0 総数	4,388	4,481	65.8
0 総数	36 徳島県	0 総数	3,212	664	65.4
0 総数	31 鳥取県	0 総数	3,452	501	65.2
0 総数	18 福井県	0 総数	3,978	693	65.0
0 総数	01 北海道	0 総数	4,860	4,756	64.9
0 総数	42 長崎県	0 総数	3,490	1,191	64.5
0 総数	45 宮崎県	0 総数	3,098	955	64.5
0 総数	30 和歌山県	0 総数	3,280	852	63.6
0 総数	32 島根県	0 総数	3,710	607	63.5
0 総数	41 佐賀県	0 総数	3,719	721	63.4
0 総数	07 福島県	0 総数	3,743	1,708	63.1
0 総数	39 高知県	0 総数	3,064	637	62.7
0 総数	15 新潟県	0 総数	3,774	2,044	62.6
0 総数	06 山形県	0 総数	4,040	992	61.6
0 総数	03 岩手県	0 総数	3,555	1,135	60.6
0 総数	05 秋田県	0 総数	3,743	906	60.6
0 総数	02 青森県	0 総数	3,472	1,152	56.0

※地域は都道府県別の「総数」、行動者率におけるスポーツの種類は「総数」のみを抜粋。

卒業生の就職率と就職先

全国栄養士養成施設協会・栄養士・管理栄養士をサポート > 栄養士ってすばらしい > 卒業生の就職率と就職先

栄養士ってすばらしい

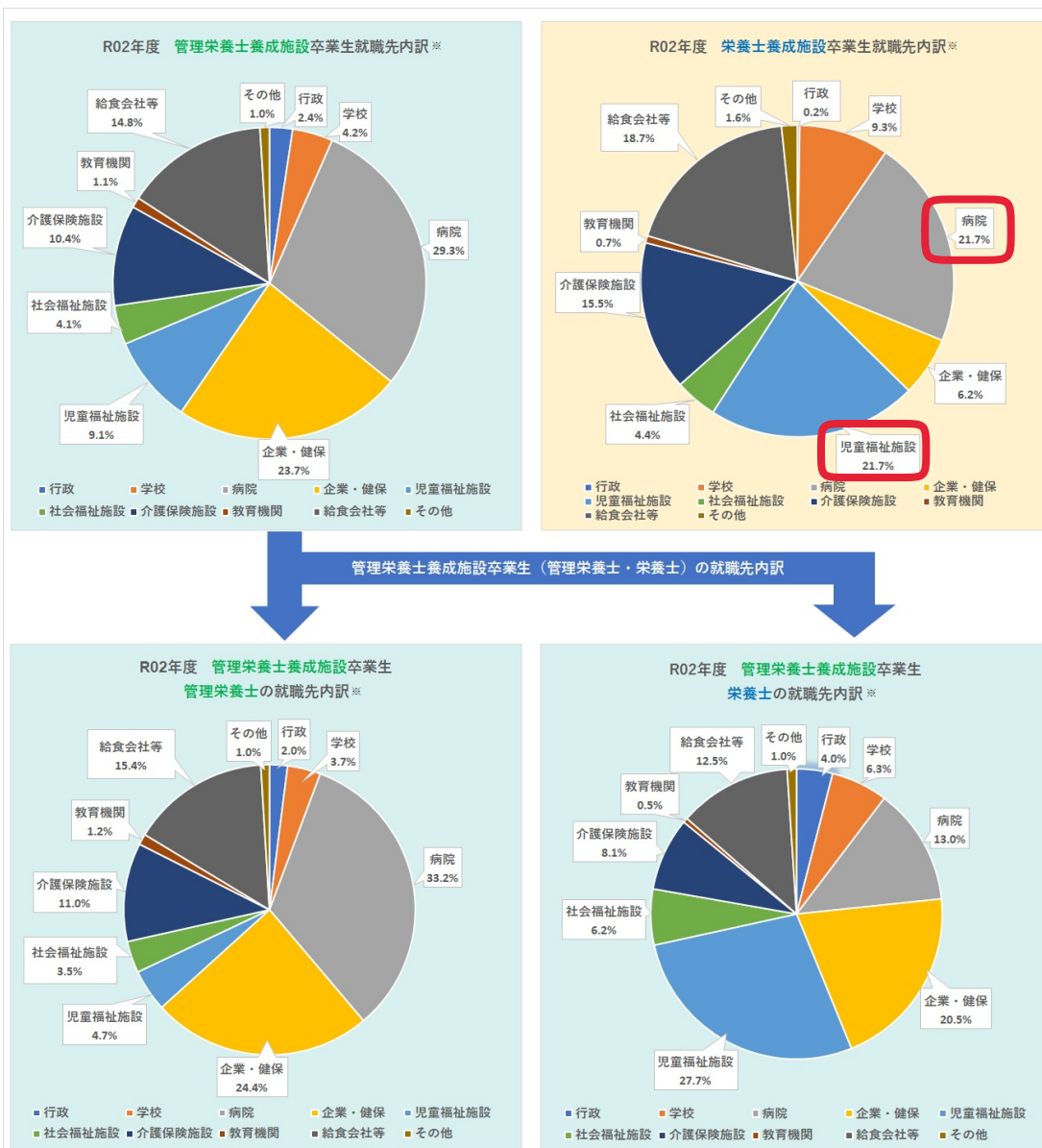
> 栄養士になるには > 管理栄養士になるには > **卒業生の就職率と就職先** > 先輩から後輩へ > 栄養士の活躍と社会貢献

令和2年度：栄養士養成施設の卒業生の就職実態

栄養士・管理栄養士の養成施設卒業生の就職率は大変高くなっています。

令和2年度の卒業生は、17,838人。**就職率は90%**です。

うち、栄養士・管理栄養士や関連業務に関する仕事の就職者は全体の70%。一般事務職等への就職は20%。就職以外の上級学部への進学や独立等が10%です。



※学校、病院、企業・健保、児童福祉施設、社会福祉施設、介護保険施設の就職先分類には直備と非直備が含まれる。



令和2年9月29日
 政策統括官付参事官付保健統計室
 室長 渡 三佳
 室長 補 佐 小川 武己
 (担当・内線)
 医療施設調査担当 医療施設統計第一係(内線 7520, 7521)
 病院報告担当 医療施設統計第二係(内線 7522)
 (代表電話) 03(5253) 1111
 (直通電話) 03(3595) 2958

令和元(2019)年 医療施設(動態)調査・病院報告の概況 <抜粋版>

目 次

調査の概要	頁
1 医療施設調査	1
2 病院報告	2
3 利用上の注意	2
4 用語の説明	3
結果の概要	
I 医療施設調査	
1 施設数	5
(1) 施設の種類の別みた施設数	(3) 病床の規模別にみた施設数
(2) 開設者別にみた施設数	(4) 診療科目別にみた施設数
2 病床数	13
(1) 病床の種類の別みた病床数	(3) 都道府県別にみた人口10万対病院病床数
(2) 開設者別にみた病床数	
II 病院報告	
1 患者数	16
(1) 1日平均在院・新入院・退院患者数	(3) 病院の都道府県別にみた人口10万対
(2) 病院の1日平均外来患者数	1日平均在院患者数
2 病床利用率	20
3 平均在院日数	21
(1) 病床の種類の別みた平均在院日数	(2) 病院の都道府県別にみた平均在院日数
統計表	24

令和元年医療施設(動態)調査・病院報告の結果は、厚生労働省のホームページにも掲載されています。

厚生労働省ホームページ 医療施設調査 (<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/79-1.html>)

病院報告 (<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/80-1.html>)

統計表 9 都道府県—指定都市・特別区・中核市（再掲）別にみた施設数及び人口 10 万対施設数

(2-1)

令和元(2019)年10月1日現在

	施設数						人口10万対施設数					
	病 院		一般診療所		有床 (再掲)	歯 科 診療所	病 院		一般診療所		有床 (再掲)	歯 科 診療所
	精神科病院	一般病院					精神科病院	一般病院				
全 国	8 300	1 054	7 246	102 616	6 644	68 500	6.6	0.8	5.7	81.3	5.3	54.3
北海道	552	68	484	3 397	394	2 884	10.5	1.3	9.2	64.7	7.5	54.9
青森	94	17	77	877	137	520	7.5	1.4	6.2	70.4	11.0	41.7
岩手	91	15	76	879	96	576	7.4	1.2	6.2	71.6	7.8	46.9
宮城	138	26	112	1 671	120	1 061	6.0	1.1	4.9	72.5	5.2	46.0
秋田	68	16	52	802	55	436	7.0	1.7	5.4	83.0	5.7	45.1
山形	68	14	54	919	57	483	6.3	1.3	5.0	85.3	5.3	44.8
福島	126	23	103	1 346	94	853	6.8	1.2	5.6	72.9	5.1	46.2
茨城	173	20	153	1 749	122	1 403	6.0	0.7	5.3	61.2	4.3	49.1
栃木	106	18	88	1 460	108	984	5.5	0.9	4.6	75.5	5.6	50.9
群馬	130	13	117	1 551	75	984	6.7	0.7	6.0	79.9	3.9	50.7
埼玉	342	47	295	4 378	200	3 558	4.7	0.6	4.0	59.6	2.7	48.4
千葉	289	34	255	3 818	170	3 273	4.6	0.5	4.1	61.0	2.7	52.3
東京都	638	49	589	13 707	343	10 670	4.6	0.4	4.2	98.5	2.5	76.6
神奈川県	336	47	289	6 820	194	4 948	3.7	0.5	3.1	74.1	2.1	53.8
新潟	127	19	108	1 671	44	1 152	5.7	0.9	4.9	75.2	2.0	51.8
富山	107	20	87	762	37	443	10.2	1.9	8.3	73.0	3.5	42.4
石川	94	13	81	872	63	484	8.3	1.1	7.1	76.6	5.5	42.5
福井	67	10	57	573	62	300	8.7	1.3	7.4	74.6	8.1	39.1
山梨	60	8	52	698	37	435	7.4	1.0	6.4	86.1	4.6	53.6
長野	127	15	112	1 574	71	1 013	6.2	0.7	5.5	76.8	3.5	49.4
岐阜	98	12	86	1 587	124	968	4.9	0.6	4.3	79.9	6.2	48.7
静岡県	175	31	144	2 732	180	1 761	4.8	0.9	4.0	75.0	4.9	48.3
愛知	323	37	286	5 455	297	3 735	4.3	0.5	3.8	72.2	3.9	49.5
三重	93	12	81	1 519	90	822	5.2	0.7	4.5	85.3	5.1	46.2
滋賀	57	7	50	1 091	39	565	4.0	0.5	3.5	77.2	2.8	40.0
京都	165	11	154	2 451	80	1 299	6.4	0.4	6.0	94.9	3.1	50.3
大阪	513	38	475	8 533	219	5 517	5.8	0.4	5.4	96.9	2.5	62.6
兵庫	348	32	316	5 125	197	2 986	6.4	0.6	5.8	93.8	3.6	54.6
奈良	79	4	75	1 215	34	681	5.9	0.3	5.6	91.4	2.6	51.2
和歌山	83	8	75	1 025	58	527	9.0	0.9	8.1	110.8	6.3	57.0
鳥取	43	4	39	497	37	259	7.7	0.7	7.0	89.4	6.7	46.6
島根	49	9	40	715	40	268	7.3	1.3	5.9	106.1	5.9	39.8
岡山	161	16	145	1 650	143	988	8.5	0.8	7.7	87.3	7.6	52.3
広島	237	30	207	2 563	181	1 546	8.5	1.1	7.4	91.4	6.5	55.1
山口	145	28	117	1 240	101	656	10.7	2.1	8.6	91.3	7.4	48.3
徳島	107	15	92	727	94	431	14.7	2.1	12.6	99.9	12.9	59.2
香川	88	11	77	825	88	475	9.2	1.2	8.1	86.3	9.2	49.7
愛媛	135	13	122	1 226	154	660	10.1	1.0	9.1	91.6	11.5	49.3
高知	124	11	113	549	74	363	17.8	1.6	16.2	78.7	10.6	52.0
福岡	459	61	398	4 713	499	3 081	9.0	1.2	7.8	92.3	9.8	60.4
佐賀	101	14	87	691	149	416	12.4	1.7	10.7	84.8	18.3	51.0
長崎	149	28	121	1 371	231	729	11.2	2.1	9.1	103.3	17.4	54.9
熊本	211	38	173	1 469	296	845	12.1	2.2	9.9	84.0	16.9	48.3
大分	155	25	130	949	234	542	13.7	2.2	11.5	83.6	20.6	47.8
宮崎	137	17	120	899	149	506	12.8	1.6	11.2	83.8	13.9	47.2
鹿児島	241	37	204	1 374	307	801	15.0	2.3	12.7	85.8	19.2	50.0
沖縄	91	13	78	901	70	613	6.3	0.9	5.4	62.0	4.8	42.2

(医療施設調査)

Press Release

報道関係者 各位

令和3年8月27日

【照会先】

子ども家庭局 保育課

課長 補佐 西浦 啓子（内線 4833）

待機児童対策係長 野田 優也（内線 4840）

（代表電話）03(5253)1111

（直通電話）03(3595)2542

「保育所等関連状況取りまとめ（令和3年4月1日）」を公表します

<抜粋版>

厚生労働省では、このほど、令和3年4月1日時点での保育所等の定員や待機児童の状況を取りまとめましたので公表します。

この取りまとめは、全国の保育所等の状況を把握することを目的に毎年実施しているものです。平成27年度の調査から、従来の保育所に加え、平成27年4月に施行した子ども・子育て支援新制度において新たに位置づけられた幼保連携型認定こども園等の特定教育・保育施設と特定地域型保育事業*¹（うち2号・3号認定）の数値を含みます。

【保育所等関連状況取りまとめのポイント】

○保育所等利用定員*²は302万人（前年比5万人の増加）

○保育所等を利用する児童の数は274万人（前年比5千人の増加）

○待機児童数は5,634人で前年比6,805人の減少

- ・待機児童のいる市区町村は、前年から88減少して312市区町村。
- ・待機児童が100人以上の市区町村は、前年から18減少して4市。
- ・待機児童が100人以上増加した自治体はなし。待機児童が100人以上減少したのは、さいたま市（376人減）、岡山市（228人減）、明石市（216人減）など13市区町。

*1 特定教育・保育施設：幼保連携型認定こども園、幼稚園型認定こども園及び地方裁量型認定こども園
特定地域型保育事業：小規模保育事業、家庭的保育事業、事業所内保育事業及び居宅訪問型保育事業

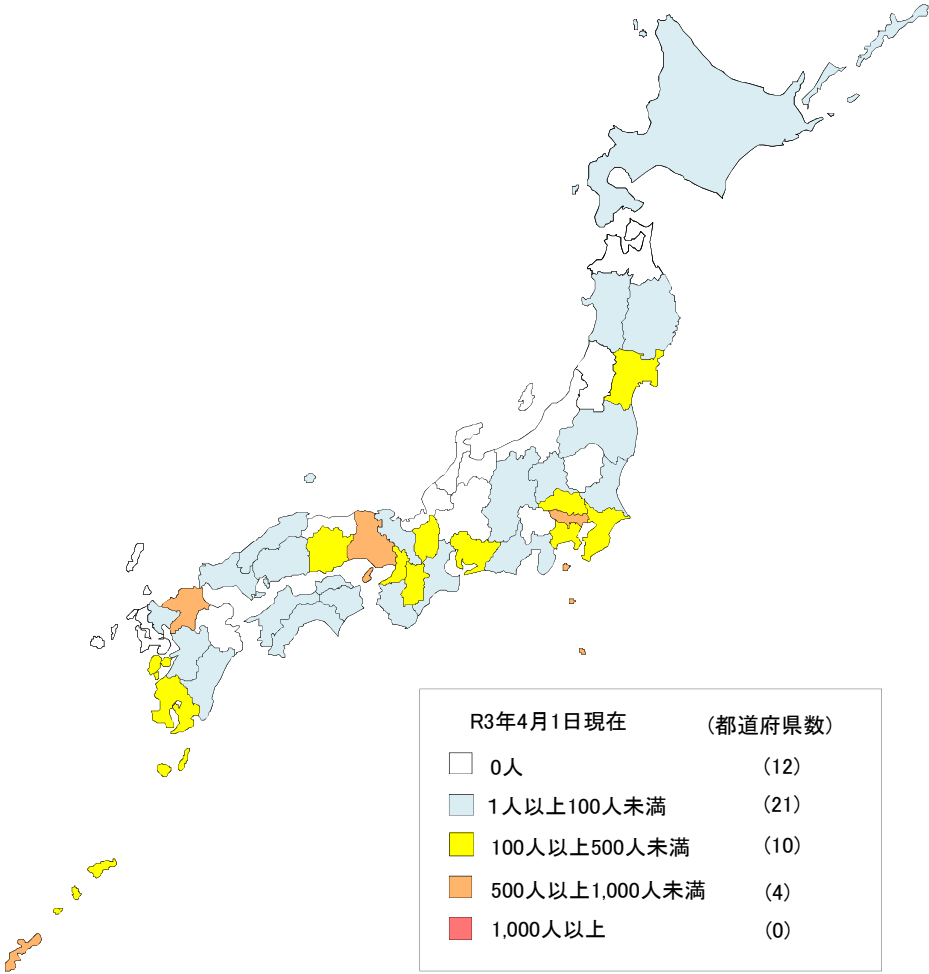
*2 保育所等利用定員：保育所、幼保連携型認定こども園、幼稚園型認定こども園、地方裁量型認定こども園、小規模保育事業、家庭的保育事業、事業所内保育事業及び居宅訪問型保育事業の利用定員

(資料3) 都道府県・指定都市・中核市別 待機児童数 集約表

(令和3年4月1日現在)

都道府県		保育所等数	利用定員数	利用児童数	待機児童数	指定都市 中核市	保育所等数	利用定員数	利用児童数	待機児童数					
		か所	人	人	人		か所	人	人	人					
1	北海道	738	46,368	41,813	68	48	札幌市	530	34,218	32,330	0				
2	青森県	322	21,926	19,252	0	49	仙台市	410	21,770	21,410	44				
3	岩手県	400	25,363	22,202	12	50	さいたま市	450	27,463	25,855	11				
4	宮城県	403	24,500	22,223	178	51	千葉市	343	19,127	17,584	0				
5	秋田県	218	17,810	14,936	10	52	横浜市	1,146	71,698	69,685	16				
6	山形県	293	22,765	20,329	0	53	川崎市	520	33,812	33,552	0				
7	福島県	263	19,410	16,906	58	54	相模原市	206	14,880	13,369	4				
8	茨城県	716	59,600	53,473	5	55	新潟市	284	24,639	22,228	0				
9	栃木県	419	34,305	29,640	0	56	静岡市	209	15,563	13,698	0				
10	群馬県	335	31,647	28,890	4	57	浜松市	195	16,902	14,288	0				
11	埼玉県	1,338	89,164	82,565	339	58	名古屋市	732	53,584	48,757	0				
12	千葉県	1,221	88,119	77,795	416	59	京都市	423	31,869	30,682	0				
13	東京都	4,450	321,424	294,404	950	60	大阪市	784	60,579	55,000	14				
14	神奈川県	686	48,627	46,471	265	61	堺市	220	19,988	18,730	0				
15	新潟県	522	44,734	37,077	0	62	神戸市	476	29,570	29,087	11				
16	富山県	204	20,494	17,117	0	63	岡山市	194	18,820	18,061	31				
17	石川県	242	25,560	21,006	0	64	広島市	298	30,002	27,424	11				
18	福井県	204	18,687	16,255	0	65	北九州市	257	19,113	17,423	0				
19	山梨県	221	19,027	15,853	0	66	福岡市	454	42,088	38,987	2				
20	長野県	481	45,888	35,861	12	67	熊本市	266	21,295	21,407	0				
21	岐阜県	412	38,923	31,480	0	指定都市計		8,397	606,980	569,557	144				
22	静岡県	600	43,379	39,351	61	68	函館市	60	3,652	3,240	0				
23	愛知県	904	99,360	78,945	102	69	旭川市	96	6,467	6,361	0				
24	三重県	470	45,627	39,649	50	70	青森市	108	7,217	6,618	0				
25	滋賀県	346	29,152	27,116	183	71	八戸市	85	6,080	5,572	0				
26	京都府	280	29,050	26,239	6	72	盛岡市	107	7,599	7,010	0				
27	大阪府	630	58,153	57,103	136	73	秋田市	103	7,702	6,977	0				
28	兵庫県	559	46,621	45,313	211	74	山形市	91	6,542	5,927	0				
29	奈良県	197	21,271	19,359	110	75	福島市	79	5,484	5,439	0				
30	和歌山県	145	14,454	12,889	4	76	郡山市	84	5,624	5,374	0				
31	鳥取県	163	13,271	11,180	0	77	いわき市	87	6,652	6,589	4				
32	島根県	238	16,249	15,031	1	78	水戸市	104	6,538	6,026	8				
33	岡山県	220	19,261	17,221	34	79	宇都宮市	153	10,758	11,093	0				
34	広島県	314	25,218	20,688	0	80	前橋市	87	8,723	7,926	0				
35	山口県	316	23,462	21,337	15	81	高崎市	104	9,541	8,739	0				
36	徳島県	224	18,578	16,266	23	82	川越市	95	5,861	5,353	7				
37	香川県	159	14,725	12,812	0	83	川口市	190	11,562	10,655	30				
38	愛媛県	279	20,603	17,913	8	84	越谷市	113	6,055	5,863	1				
39	高知県	173	12,892	10,068	1	85	船橋市	165	14,303	12,974	12				
40	福岡県	635	59,628	56,980	588	86	柏市	95	8,534	8,787	0				
41	佐賀県	340	26,527	24,346	24	87	八王子市	135	11,193	10,994	19				
42	長崎県	339	21,058	20,328	0	88	横須賀市	75	4,699	4,512	21				
43	熊本県	506	36,092	33,339	8	89	富山市	117	13,043	11,006	0				
44	大分県	250	17,362	15,355	0	90	金沢市	131	13,355	12,297	0				
45	宮崎県	325	22,121	20,448	0	91	福井市	93	9,662	8,374	0				
46	鹿児島県	478	28,399	27,348	32	92	甲府市	59	5,423	4,384	0				
47	沖縄県	688	50,285	48,159	527	93	長野市	92	9,297	7,914	7				
都道府県計						94	松本市	66	7,365	5,537	2				
注1：都道府県の数値には指定都市・中核市は含まず。 注2：保育所等数：保育所、幼保連携型認定こども園、幼稚園型認定こども園、地方裁量型認定こども園、小規模保育事業、家庭的保育事業、事業所内保育事業、居宅訪問型保育事業						95	岐阜市	78	6,409	5,939	0				
						96	豊橋市	64	9,835	8,342	0				
						97	岡崎市	56	8,360	7,163	72				
						98	豊田市	80	10,559	7,395	0				
						99	一宮市	91	9,869	8,501	0				
						100	大津市	127	9,065	8,524	1				
						101	豊中市	115	8,377	8,396	0				
						102	吹田市	112	7,563	7,539	8				
						103	高槻市	103	6,475	6,761	0				
						104	枚方市	80	7,526	7,946	0				
						105	八尾市	50	6,120	6,017	0				
						106	寝屋川市	47	4,518	4,434	0				
						107	東大阪市	110	8,928	8,851	0				
						108	姫路市	113	12,739	11,770	98				
						109	尼崎市	142	8,428	8,474	118				
						110	明石市	96	8,027	7,905	149				
						111	西宮市	141	8,180	8,275	182				
						112	奈良市	68	7,236	6,132	22				
						113	和歌山市	62	7,853	6,928	26				
						114	鳥取市	65	6,256	5,580	0				
						115	松江市	85	7,045	6,533	0				
						116	倉敷市	137	12,353	11,500	39				
						117	呉市	67	4,334	3,859	0				
						118	福山市	156	13,982	12,007	3				
						119	下関市	59	5,582	5,180	0				
						120	高松市	113	11,321	9,950	29				
						121	松山市	122	8,411	7,795	25				
						122	高知市	124	11,254	10,236	11				
						123	久留米市	90	9,183	8,603	35				
						124	長崎市	128	10,759	9,818	0				
						125	佐世保市	99	7,265	6,502	0				
						126	大分市	151	11,806	11,353	0				
						127	宮崎市	160	12,371	12,068	1				
						128	鹿児島市	181	13,475	13,197	82				
						129	那覇市	157	12,404	11,169	37				
						中核市計						6,403	532,799	492,183	1,049
						合計						38,666	3,016,918	2,742,071	5,634

（資料４） 令和３年４月１日 全国待機児童マップ（都道府県別）



注：各都道府県には指定都市・中核市を含む。

都道府県	待機児童数	待機児童率	参考	
			(R2)	増減
			待機児童数	人
	人	%	人	人
北海道	68	0.08	134	▲ 66
青森県	0	0.00	0	0
岩手県	12	0.04	58	▲ 46
宮城県	222	0.50	340	▲ 118
秋田県	10	0.05	22	▲ 12
山形県	0	0.00	0	0
福島県	62	0.18	141	▲ 79
茨城県	13	0.02	193	▲ 180
栃木県	0	0.00	34	▲ 34
群馬県	4	0.01	14	▲ 10
埼玉県	388	0.28	1,083	▲ 695
千葉県	428	0.35	833	▲ 405
東京都	969	0.30	2,343	▲ 1,374
神奈川県	306	0.17	496	▲ 190
新潟県	0	0.00	3	▲ 3
富山県	0	0.00	0	0
石川県	0	0.00	0	0
福井県	0	0.00	0	0
山梨県	0	0.00	0	0
長野県	21	0.04	46	▲ 25
岐阜県	0	0.00	0	0
静岡県	61	0.09	122	▲ 61
愛知県	174	0.11	155	▲ 19
三重県	50	0.12	81	▲ 31
滋賀県	184	0.50	495	▲ 311
京都府	6	0.01	48	▲ 42
大阪府	158	0.08	348	▲ 190
兵庫県	769	0.66	1,528	▲ 759
奈良県	132	0.49	201	▲ 69
和歌山県	30	0.15	35	▲ 5
鳥取県	0	0.00	0	0
島根県	1	0.00	0	1
岡山県	104	0.21	403	▲ 299
広島県	14	0.02	39	▲ 25
山口県	15	0.06	17	▲ 2
徳島県	23	0.14	61	▲ 38
香川県	29	0.13	64	▲ 35
愛媛県	33	0.13	55	▲ 22
高知県	12	0.06	28	▲ 16
福岡県	625	0.50	1,189	▲ 564
佐賀県	24	0.10	49	▲ 25
長崎県	0	0.00	0	0
熊本県	8	0.01	70	▲ 62
大分県	0	0.00	10	▲ 10
宮崎県	1	0.00	14	▲ 13
鹿児島県	114	0.27	322	▲ 208
沖縄県	564	0.91	1,365	▲ 801
計	5,634	0.20	12,439	▲ 6,805

第1章 高齢化の状況（第1節 4）

[\[目次\]](#) [\[前へ\]](#) [\[次へ\]](#)

第1節 高齢化の状況（4）

4 地域別にみた高齢化

令和元年現在の高齢化率は、最も高い秋田県で37.2%、最も低い沖縄県で22.2%となっている。今後、高齢化率は、すべての都道府県で上昇し、令和27年には、最も高い秋田県では50.1%となり、最も低い東京都でも、30%を超えて30.7%に達すると見込まれている。また、首都圏を見ると、埼玉県の高齢化率は、令和元年の26.7%から9.1ポイント上昇し、令和27年には35.8%に、神奈川県では25.3%から9.9ポイント上昇し35.2%になると見込まれており、今後、我が国の高齢化は、大都市圏を含めて全国的な広がりをみることとなる（表1-1-10）。

表1-1-10 都道府県別高齢化率の推移

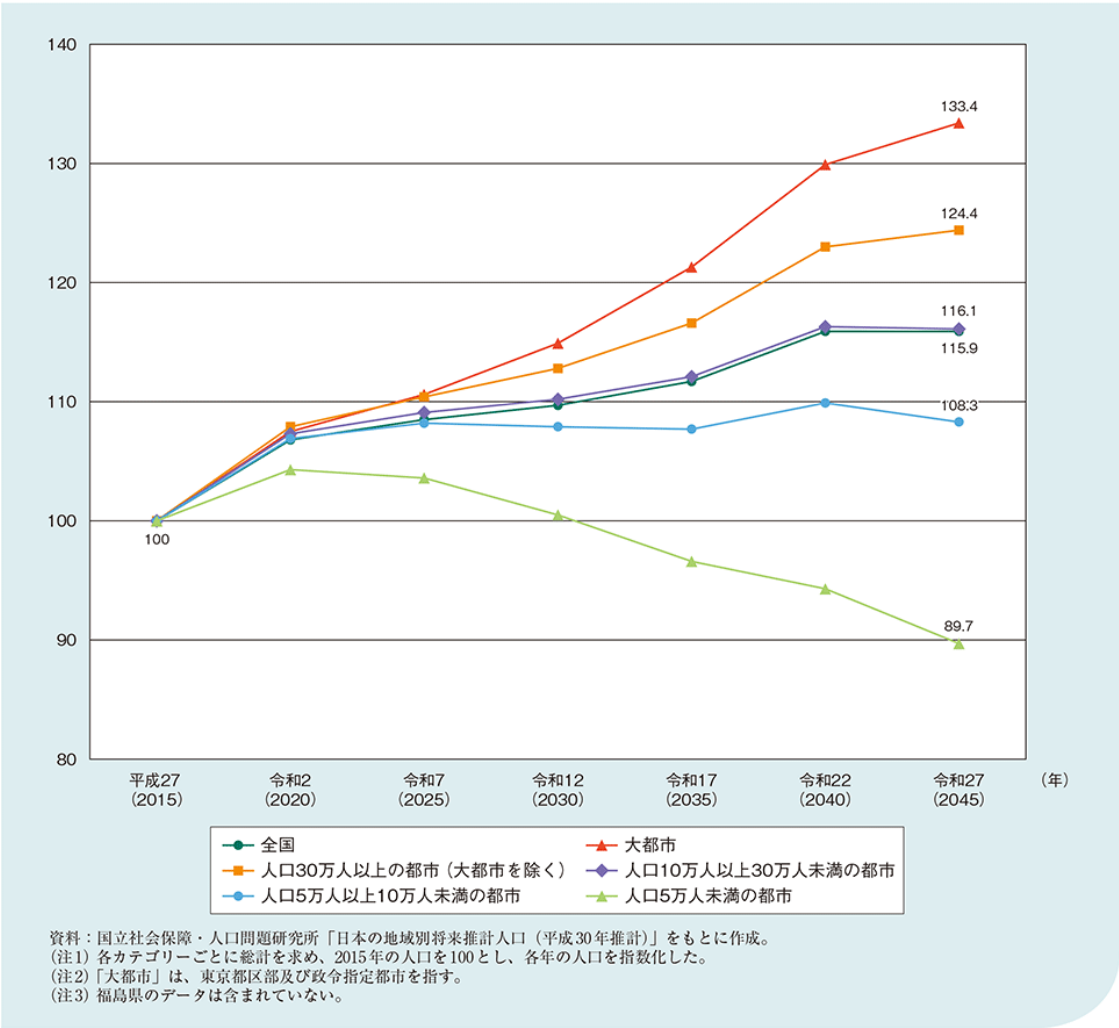
	令和元年 (2019)			令和27年 (2045)	高齢化率の伸び (ポイント)
	総人口（千人）	65歳以上人口 (千人)	高齢化率（%）	高齢化率（%）	
北海道	5,250	1,673	31.9	42.8	10.9
青森県	1,246	415	33.3	46.8	13.5
岩手県	1,227	406	33.1	43.2	10.1
宮城県	2,306	652	28.3	40.3	12.0
秋田県	966	359	37.2	50.1	12.9
山形県	1,078	360	33.4	43.0	9.6
福島県	1,846	582	31.5	44.2	12.7
茨城県	2,860	843	29.5	40.0	10.5
栃木県	1,934	554	28.6	37.3	8.7
群馬県	1,942	580	29.8	39.4	9.6
埼玉県	7,350	1,961	26.7	35.8	9.1
千葉県	6,259	1,743	27.9	36.4	8.5
東京都	13,921	3,209	23.1	30.7	7.6
神奈川県	9,198	2,329	25.3	35.2	9.9
新潟県	2,223	720	32.4	40.9	8.5
富山県	1,044	337	32.3	40.3	8.0
石川県	1,138	337	29.6	37.2	7.6
福井県	768	235	30.6	38.5	7.9
山梨県	811	250	30.8	43.0	12.2
長野県	2,049	653	31.9	41.7	9.8
岐阜県	1,987	599	30.1	38.7	8.6
静岡県	3,644	1,089	29.9	38.9	9.0
愛知県	7,552	1,892	25.1	33.1	8.0
三重県	1,781	530	29.7	38.3	8.6
滋賀県	1,414	368	26.0	34.3	8.3
京都府	2,583	753	29.1	37.8	8.7
大阪府	8,809	2,434	27.6	36.2	8.6
兵庫県	5,466	1,591	29.1	38.9	9.8
奈良県	1,330	417	31.3	41.1	9.8
和歌山県	925	306	33.1	39.8	6.7
鳥取県	556	178	32.1	38.7	6.6
島根県	674	231	34.3	39.5	5.2
岡山県	1,890	573	30.3	36.0	5.7
広島県	2,804	823	29.3	35.2	5.9
山口県	1,358	466	34.3	39.7	5.4
徳島県	728	245	33.6	41.5	7.9
香川県	956	305	31.8	38.3	6.5

愛媛県	1,339	442	33.0	41.5	8.5
高知県	698	246	35.2	42.7	7.5
福岡県	5,104	1,425	27.9	35.2	7.3
佐賀県	815	246	30.3	37.0	6.7
長崎県	1,327	433	32.7	40.6	7.9
熊本県	1,748	543	31.1	37.1	6.0
大分県	1,135	373	32.9	39.3	6.4
宮崎県	1,073	346	32.3	40.0	7.7
鹿児島県	1,602	512	32.0	40.8	8.8
沖縄県	1,453	322	22.2	31.4	9.2

資料：令和元年は総務省「人口推計」、令和27年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」

さらに、平成27年を基準年として、都市規模別に65歳以上人口の推移を見ると、都市規模が大きいほど65歳以上人口の伸びが大きい見込みとなっている。一方で、「人口5万人未満の都市」では、令和2年をピークに65歳以上人口は減少し、令和17年には平成27年時点よりも減少する見込みである（図1-1-11）。

図1-1-11 都市規模別にみた65歳以上人口指数（2015年＝100）の推移



都市規模別にみた65歳以上人口指数（2015年＝100）の推移 CSV形式（1KB）のファイルダウンロードはこちら

[\[目次\]](#) [\[前へ\]](#) [\[次へ\]](#)

[このページの先頭へ](#)

[ウェブアクセシビリティ](#) [サイトマップ](#)

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1
電話番号 03-5253-2111（大代表）

内閣府法人番号 2000012010019

© Cabinet Office, Government of Japan

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	ヤグチ エツコ 矢口 悦子 ＜令和2年4月＞		博士 (人文科学)		東洋大学学長 (令和2年4月)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等												
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週当たり平均 日 数
1	専	教授 (学部長)	サイトウ キョウヘイ 齊藤 恭平 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		健康・スポーツの人文・社会科学 ※ フィールドワーク実習 ヘルスプロモーション論 健康スポーツボランティア活動A 健康社会学 健康産業施設等現場実習 健康政策と行政 健康スポーツインターンシップA 健康スポーツインターンシップB 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業論文・研究Ⅰ 卒業論文・研究Ⅱ	1前 2前・後 2・3・4後 1・2・3・4前・後 2・3・4前 4後 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	0.8 1 1 2 4 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 教授 ＜平19.4＞	5日
2	専	教授 (学科長)	キナチ アキラ 木内 明 ＜令和5年4月＞		教育学修士 ※		健康・スポーツの人文・社会科学 ※ 国際交流論 健康スポーツ文化論 ※ スポーツ人類学 外国語文献講読 韓国語Ⅰ 国際健康スポーツ交流A 国際健康スポーツ交流B 国際健康スポーツ交流C 国際健康スポーツ交流D 健康スポーツキャリアデザインA ※ 健康スポーツ特別演習A 健康スポーツ特別演習B 国際開発論 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業論文・研究Ⅰ 卒業論文・研究Ⅱ	1前 2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1前 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	0.8 2 0.8 2 2 2 2 2 0.8 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 教授 ＜平17.4＞	5日
3	専	教授	オオコ マサフミ 大迫 正文 ＜令和5年4月＞		博士 (歯学)		健康・スポーツの自然科学 ※ 解剖学 解剖学実習 人体組織学 機能解剖学 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業論文・研究Ⅰ 卒業論文・研究Ⅱ	1前 1・2・3・4前 2前・後 2・3・4後 2・3・4後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	0.8 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 教授 ＜平17.4＞	5日
4	兼任	教授	キナチ リリカ 菊地 章太 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		哲学 宗教学 美術一般 音楽一般 フランス語およびフランス語圏社会事情 全学総合C 総合B 総合C 総合D 総合E	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 教授 ＜平17.4＞	5日
	兼任	講師	キナチ リリカ 菊地 章太 ＜令和7年4月＞				哲学 宗教学 美術一般 音楽一般 フランス語およびフランス語圏社会事情 全学総合C 総合B 総合C 総合D 総合E	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		
5	専	教授	コノ ヒロシ 神野 宏司 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		公衆衛生学 生活習慣と健康 学校環境衛生実習 健康教育学 高齢者健康スポーツ指導法 運動疫学 健康スポーツキャリアデザインA ※ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業論文・研究Ⅰ 卒業論文・研究Ⅱ	1・2・3・4前 1・2・3・4前 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後 2・3・4後 1前 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	0.8 2 2 2 1 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 教授 ＜平17.4＞	5日
6	専	教授	イワシロ サユミ 岩本 紗由美 ＜令和5年4月＞		博士 (スポーツ科 学)		アスレティックコンディショニング演習 アスレティックトレーニング指導法 トレーニングプログラミング論 スポーツとコンディショニング 健康スポーツキャリアデザインB ※ アスリートの健康（予防とマネジメント） ※ 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業論文・研究Ⅰ 卒業論文・研究Ⅱ	2・3・4前・後 2・3・4後 2・3・4前 3・4後 1後 2・3・4前 3前 3後 4前 4後 4前 4後	1 1 2 2 0.8 1.1 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 教授 ＜平17.4＞	5日

-教員名簿-3-

教 員 の 氏 名 等												
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週当たり平均 日 数
12	専	准教授	カネ モトヒコ 金子 元彦 ＜令和5年4月＞		修士 (体育学)		アダブテッドスポーツ実習 運動学（運動方法学を含む） 障がい者スポーツ論 スポーツ実習・指導法（バドミントン） 健康スポーツアクティビティⅠA 健康スポーツアクティビティⅠB 健康スポーツアクティビティⅠC 健康スポーツアクティビティⅠD 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業論文・研究Ⅰ 卒業論文・研究Ⅱ	1・2・3・4前 1後 2・3・4前 2後 1前 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	1 2 2 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 准教 授 ＜平17.4＞	5日
13	専	准教授	オオバキ キヨシ 大澤 清 ＜令和5年4月＞		博士 (工学)		健康スポーツ情報 健康スポーツ統計 センシング技術 プログラミング演習（データ処理含む） シミュレーション演習 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業論文・研究Ⅰ 卒業論文・研究Ⅱ	1前 1後 2前 2後 3前 3前 3後 4前 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 4 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	筑波大学 体育系 特任 助教 ＜平30.4＞	5日
14	専	准教授	ヤマモト(イイ) アヤ 山本(石井) 綾 ＜令和5年4月＞		博士 (人文学科)		英語および英語圏社会事情 英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB Intercultural Communication SkillsⅠA Intercultural Communication SkillsⅠB English Test PreparationⅠ English Test PreparationⅡ 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業論文・研究Ⅰ 卒業論文・研究Ⅱ	1・2・3・4前 1前 1後 1前 1後 2前 2後 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 准教 授 ＜令4.4＞	
15	専	准教授	ホシタニ ヨウコ 細谷 洋子 ＜令和5年4月＞		博士 (スポーツ科 学)		生涯スポーツ論 レクリエーション実習 レクリエーション論 健康スポーツ文化論 ※ スポーツ健康科学講義Ⅰ スポーツ健康科学講義Ⅱ 国際健康スポーツ交流A 健康スポーツアクティビティⅢA 健康スポーツアクティビティⅢB 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業論文・研究Ⅰ 卒業論文・研究Ⅱ	1・2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1前 1前 1後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 0.4 2 2 2 2 1 1 2 2 2 2 2 2	1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 准教 授 ＜平30.4＞	5日
16	専	准教授	タケムラ ミツオ 竹村 瑞穂 ＜令和5年4月＞		博士 (体育科学)		哲学 生命と倫理 ジェンダー論 スポーツ哲学 スポーツの法と倫理 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業研究・論文Ⅰ 卒業研究・論文Ⅱ	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1後 2・3・4後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	日本福祉大 学スポーツ 科学部 ＜平29.4＞	5日
17	専	准教授	エタノ(ミヤタ) カオリ 江田(宮田) 香織 ＜令和5年4月＞		博士 (体育科学)		スポーツ心理学 スポーツのコーチング理論Ⅰ スポーツのコーチング演習Ⅰ 健康スポーツキャリアデザインB ※ 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業論文・研究Ⅰ 卒業論文・研究Ⅱ	2後 2前 2後 1後 2・3・4後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 0.8 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	国立スポー ツ科学セン ター 契約研究員 ＜平29.4＞	5日
18	専	准教授	ヤマシタ レイ 山下 玲 ＜令和5年4月＞		博士 (スポーツ科 学)		健康スポーツボランティア活動B スポーツ政策論 地域スポーツクラブ論 スポーツ施設マネジメント 健康スポーツインターンシップA 健康スポーツインターンシップB 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業論文・研究Ⅰ 卒業論文・研究Ⅱ	1・2・3・4前・後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	早稲田大学 スポーツ科 学学術院 助 教 ＜令2.4＞	5日

[illegible]

教 員 の 氏 名 等												
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週当たり平均 日 数
28	兼任	教授	オオカ ヨシホ 大塚 佳臣 ＜令和5年4月＞		博士 (工学)		全学総合D	1・2・3・4前	2	1	東洋大学総 合情報学部 教授 ＜平22.4＞	1日
29	兼任	教授	カガミ カズアキ 加賀見 一彰 ＜令和5年4月＞		博士 (経済学)		全学総合K	1・2・3・4前	2	1	東洋大学経 済学部 教授 ＜平18.4＞	1日
30	兼任	教授	カネコ リツコ 金子 律子 ＜令和5年9月＞		医学博士		生物学	1・2・3・4後	2	1	東洋大学生 命科学部 教 授 ＜平18.4＞	1日
31	兼任	教授	カワチ ヒデオ 川口 英夫 ＜令和5年9月＞		博士 (工学)		全学総合J	1・2・3・4後	2	1	東洋大学生 命科学部 教 授 ＜平21.4＞	1日
	兼任	講師	カワチ ヒデオ 川口 英夫 ＜令和7年9月＞				全学総合J	1・2・3・4後	2	1		1日
32	兼任	教授	カワトビ ヒデオ 河本 英夫 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		全学総合F	1・2・3・4前	2	1	東洋大学文 学部 教授 ＜平3.4＞	1日
33	兼任	教授	コバヤシ マサオ 小林 正夫 ＜令和5年9月＞		理学修士		全学総合G 全学総合H	1・2・3・4後 1・2・3・4後	2 2	1 1	東洋大学社 会学部 教授 ＜平5.4＞	2日
34	兼任	教授	タカハシ ナミ 高橋 直美 ＜令和5年4月＞		教育学修士		日本文学 口頭表現法 文章読解 レポート・論文のまとめ方 総合A	1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 教授 ＜平9.4＞	2日
35	兼任	教授	タノコロ キヨシ 田所 聖志 ＜令和5年9月＞		博士 (社会人類 学)		ダイバーシティ論	1・2・3・4後	2	1	東洋大学社 会学部 教授 ＜令和3.4＞	1日
36	兼任	教授	タニガハ ヒロナリ 谷釜 尋徳 ＜令和5年4月＞		博士 (体育科学)		全学総合L 全学総合M 健康スポーツアクティビティ I A 健康スポーツアクティビティ I B 健康スポーツアクティビティ I C 健康スポーツアクティビティ I D スポーツ実習・指導法 (バスケットボール)	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1前 1後 2前 2後 2前	2 2 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	東洋大学法 学部 教授 ＜平20.4＞	3日
37	兼任	教授	コレエカ キヨシ 是枝 喜代治 ＜令和5年9月＞		博士 (教育学)		特別支援教育基礎論	1後	2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 教授 ＜平24.4＞	1日
	兼任	講師	コレエカ キヨシ 是枝 喜代治 ＜令和7年9月＞				特別支援教育基礎論	1後	2	1		1日
38	兼任	教授	オウエ アナ 大上 安奈 ＜令和6年9月＞		博士 (学術)		スポーツ栄養学Ⅱ	2・3・4後	2	1	東洋大学 食環境科学部 准教授 ＜平25.4＞	1日
39	兼任	教授	カトリ ガズナリ 加藤 和則 ＜令和5年4月＞		薬学博士		免疫と薬理 健康・スポーツの自然科学 ※ 解剖学 解剖学実習 スポーツ実習・指導法 (陸上)	1・2・3・4前 1前 1・2・3・4前 2前・後 3前	2 0.8 2 2 1	1 1 1 2 1	東洋大学 理工学部 教授 ＜平23.4＞	2日
40	兼任	教授	シオタ トオル 塩田 徹 ＜令和7年4月＞		体育学修士		スポーツ実習・指導法 (陸上)	3前	1	1	東洋大学 経済学部 教授 ＜平20.4＞	1日
41	兼任	教授	カタタ カズコ 高田 和子 ＜令和7年4月＞		博士 (栄養学)		スポーツ栄養学Ⅰ	2・3・4前	2	1	東京農業大 学応用生物 科学部 教授 ＜令2.4＞	1日
42	兼任	教授	ミヤコシ ユウイチ 宮越 雄一 ＜令和5年4月＞		医学博士		医学概論 人体組織学 機能解剖学	1・2・3・4前 2・3・4後 2・3・4後	2 2 2	1 1 1	東洋大学 食環境科学 部 教授 ＜平25.4＞	2日
43	兼任	准教授	アタツ ミエ 阿久津 純恵 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB Intercultural Communication SkillsⅡ Intercultural Communication SkillsⅡ	1前 1後 1前 1後 2前 2後 1・2・3・4後 1・2・3・4後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 准教 授 ＜平27.4＞	3日
44	兼任	准教授	イシダ タケ 石田 達也 ＜令和5年9月＞		博士 (農学)		現代化学	1・2・3・4後	2	1	株式会社明 治研究本部 研究員 ＜平17.4＞	1日
45	兼任	准教授	ウスダ トモキ 上田 知亮 ＜令和5年4月＞		博士 (法学)		政治学	1・2・3・4前	2	1	東洋大学法 学部 准教授 ＜平27.4＞	1日
46	兼任	准教授	ウシノボ リョウタ 牛窪 隆太 ＜令和5年4月＞		博士 (日本語教育 学)		Integrated JapaneseⅡ Practice	1・2・3・4前・後	2	1	東洋大学国 際教育セン ター 准教授 ＜平31.4＞	1日
47	兼任	准教授	ウチダ トウコ 内田 塔子 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		教職概論 生徒指導論 (進路指導論を含む)	1前 2後	2 2	1 1	東洋大学 ライフデザ イン学部 准 教授 ＜平17.4＞	1日
48	兼任	准教授	コジマ タカコ 小島 貴子 ＜令和5年4月＞		修士 (国際アドミ ニストレー ション)		キャリアデザイン入門 キャリアデザイン実践	1前 2後	2 2	1 1	東洋大学理 工学部 准教 授 ＜平24.4＞	1日
	兼任	講師	コジマ タカコ 小島 貴子 ＜令和6年4月＞				キャリアデザイン入門 キャリアデザイン実践	1前 2後	2 2	1 1		1日
49	兼任	准教授	ゴトウ タカキ 後藤 隆彰 ＜令和5年9月＞		博士 (工学)		全学総合E	1・2・3・4後	2	1	東洋大学総 合情報学部 准教授 ＜平31.4＞	1日

教 員 の 氏 名 等												
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週当たり平均 日 数
50	兼任	准教授	コバヤカリ ユウコ 小早川 裕子 ＜令和5年4月＞		博士 (国際地域 学)		留学のすすめ アカデミックライティング テクニカルライティング	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4前	2 2 2	1 1 1	東洋大学国 際教育セン ター 准教授 ＜平29.4＞	1日
51	兼任	准教授	サキハラ ケイコ 榊原 圭子 ＜令和5年4月＞		博士 (保健学)		全学総合 I	1・2・3・4前	2	1	東洋大学社 会学部 准教 授 ＜平28.4＞	1日
52	兼任	准教授	テラ ヨウヘイ 寺 洋平 ＜令和5年9月＞		法学修士		日本国憲法	1・2・3・4後	2	1	東洋大学法 学部 准教授 ＜平23.10＞	1日
53	兼任	准教授	ハヤシ タイスケ 林 大介 ＜令和7年4月＞		修士 (政治学)		インターンシップ入門 アントレプレナーシップ 社会貢献活動入門 地域マネジメント 特別活動と総合的な学習の時間の指導法	3・4前 3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4後 1後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	東洋大学社 会学部 講師 ＜令3.4＞	2日
	兼任	講師	ハヤシ タイスケ 林 大介 ＜令和5年9月＞				地域マネジメント 特別活動と総合的な学習の時間の指導法	1・2・3・4後 1後	2 2	1 1		2日
54	兼任	准教授	マトハ(キナ) トモコ 的場(木内) 智子 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		社会学	1・2・3・4前	2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 准教 授 ＜平17.4＞	1日
55	兼任	准教授	ムラシ カズキ 村上 一基 ＜令和5年4月＞		Doctorat en Sciences sociales et Philosophie de connaissance (仏国)		グローバル市民論	1・2・3・4前	2	1	東洋大学社 会学部 准教授 ＜平30.4＞	1日
56	兼任	准教授	ワタナベ ミチヨ 渡辺 道代 ＜令和5年9月＞		修士 (社会福祉 学)※		社会貢献活動入門	1・2・3・4後	2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 准教 授 ＜平30.4＞	1日
57	兼任	准教授	オオタ マサコ 太田 昌子 ＜令和6年9月＞		博士 (学術)		健康栄養学	2・3・4後	2	1	東洋大学 食環境科学 部 准教授 ＜平21.4＞	1日
58	兼任	准教授	ヨシザキ タカヒロ 吉崎 貴大 ＜令和6年9月＞		博士 (食品栄養 学)		健康栄養学	2・3・4後	2	1	東洋大学 食環境科学 部 准教授 ＜平26.4＞	1日
59	兼任	講師	アンドレフ ストイチェフ アントン アンドレエフ ストイ チェフ アントン ＜令和5年4月＞		日本語学博 士		Integrated Japanese I Theory Integrated Japanese II Practice Japanese Reading I Japanese Reading II Japanese Listening I Japanese Listening II Japanese Writing I Project Work I Japanese Culture and Society I Japanese Culture and Society II	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学国 際教育セン ター 講師 ＜令2.4＞	2日
60	兼任	講師	ウィルソン マシュー ウィルソン マシュー ＜令和5年4月＞		(English for Academic Purposes) (英 国)		IELTS for Study Abroad I Listening/Speaking IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking IELTS for Study Abroad I Reading/Writing Pre-Study Abroad: Writing	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	2 2 2 1	1 1 1 1	東洋大学国 際教育セン ター 講師 ＜平29.4＞	1日
61	兼任	講師	エイティム ソイハン エイティム ソイハン ＜令和5年4月＞		Doctor of Education (米 国)		英語 I A 英語 I B 英語 II A 英語 II B 英語 III A 英語 III B 英語 IV A 英語 IV B	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平30.4＞	2日
	兼任	講師	エイティム ソイハン エイティム ソイハン ＜令和8年4月＞				英語 I A 英語 I B 英語 II A 英語 II B 英語 III A 英語 III B 英語 IV A 英語 IV B	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1		2日
62	兼任	講師	オオハシ カツウロウ 大橋 勝一郎 ＜令和5年4月＞		修士 (Applied Linguistics (TESOL)) (オ ーストラリ ア)		IELTS for Study Abroad II Reading/Writing Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 1	1 1	東洋大学国 際教育セン ター 講師 ＜平29.4＞	1日
63	兼任	講師	コシ カナ 小西 可奈 ＜令和6年4月＞		博士 (スポーツ健 康科学)		食と健康 スポーツ栄養学Ⅱ	1・2・3・4後 2・3・4後	2 2	1 1	東洋大学食 環境科学部 助教 ＜平31.4＞	2日
	兼任	助教	コシ カナ 小西 可奈 ＜令和5年9月＞				食と健康 スポーツ栄養学Ⅱ	1・2・3・4後 2・3・4後	2 2	1 1		2日
64	兼任	講師	チン シュウケン 陳 秀茜 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		Integrated Japanese I Theory Integrated Japanese III Practice	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 2	1 1	東洋大学国 際教育セン ター 講師 ＜令3.4＞	1日
65	兼任	講師	デイビッド トラクサル デイビッド トラクサル ＜令和5年4月＞		M. S. Educati on-TESOL (米 国)		Business English Communication	1・2・3・4前	2	1	東洋大学国 際教育セン ター 講師 ＜令4.4＞	1日

教 員 の 氏 名 等												
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週当たり平均 日 数
66	兼任	講師	トムソン プレア ジョン トムソン プレア ジョン ＜令和5年4月＞		Master of Arts(ニュージ ランド)		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平29.4＞	2日
	兼任	講師	トムソン プレア ジョン トムソン プレア ジョン ＜令和7年4月＞				英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1		2日
67	兼任	講師	カノ テイコ 中野 てい子 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		Integrated Japanese I Practice Project Work III	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 1	1 1	東洋大学国 際教育セン ター 講師 ＜令3.4＞	1日
68	兼任	講師	バック ジョナサン バック ジョナサン ＜令和5年4月＞		Master of Arts in English Language Teaching and Applied Linguistics , (英国)		IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	1・2・3・4前・後	2	1	東洋大学国 際教育セン ター 講師 ＜平30.4＞	1日
69	兼任	講師	ヒサヨシ カコ 久好 孝子 ＜令和5年4月＞		博士 (国際文化)		Integrated Japanese III Theory Japanese Reading I Japanese Listening I Japanese Writing II Japanese Writing III Project Work II Project Work III Introduction to Japanology I Introduction to Japanology I	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4後 1・2・3・4前	2 1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学国 際教育セン ター 講師 ＜平29.4＞	2日
70	兼任	講師	ミズマツ シ 水松 巳奈 ＜令和5年4月＞		Ph.D(米国)		留学のすすめ 異文化理解概論 海外研修 I 海外研修 II 海外実習 I 海外実習 II 短期海外研修 I 短期海外研修 II 短期海外研修 III 短期海外研修 IV 短期海外実習 I 短期海外実習 II 短期海外実習 III 短期海外実習 IV	1・2・3・4前・後 1・2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前	2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学国 際教育セン ター 講師 ＜令2.4＞	2日
71	兼任	講師	モーレル クリスチャン ロバート ＜令和5年4月＞		TESOL修士 (米国)		Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	1・2・3・4前・後	1	1	東洋大学国 際教育セン ター 講師 ＜平27.9＞	1日
72	兼任	講師	リー ジャクソン クーン リー ジャクソン クーン イェッツ ＜令和5年4月＞		Master of Arts in Applied Linguistics and TESOL (英国)		IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	1・2・3・4前・後	2	1	東洋大学国 際教育セン ター 講師 ＜令2.4＞	1日
73	兼任	助教	ウカモト(イバシ) アヤ 塚本(石橋) 彩 ＜令和6年4月＞		博士 (スポーツ健 康科学)		スポーツ栄養学 I	2・3・4前	2	1	東京大学大 学院総合文 化研究科 特 別研究員 ＜令2.4＞	1日
74	兼任	講師	アサマ マサヒ 浅間 正通 ＜令和5年4月＞		教育学修士		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令4.4＞	2日
75	兼任	講師	アブラカ シュンヤ 荒川 俊也 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		プログラミング基礎Ⅰ プログラミング基礎Ⅱ	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	日本工業大 学先進工学 部 教授 ＜令4.4＞	1日
76	兼任	講師	アノギイ ジュンコ 安齊 順子 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		心理学	1・2・3・4前	2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平30.4＞	1日
77	兼任	講師	アントウ ジュンイチロウ 安藤 潤一郎 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		社会学 中国語および中国語圏社会事情 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平27.4＞	1日
78	兼任	講師	イアン フリップ ハート IAN PHILIP HART ＜令和5年4月＞		M.Ed(応用言 語学・ TESOL) (英 国)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令4.4＞	2日
79	兼任	講師	イシ ショウタ 石井 翔大 ＜令和5年4月＞		修士 (工学)		情報リテラシーⅠ	1・2・3・4前	4	2	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平30.4＞	1日
80	兼任	講師	イナガチ アヤ 猪口 綾奈 ＜令和5年4月＞		Master of Arts in Teaching(米 国)		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平28.9＞	2日

教 員 の 氏 名 等												
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週当たり平均 日 数
81	兼任	講師	イサ ユカ 岩瀬 裕子 ＜令和5年9月＞		修士 (人間科学)		文化人類学 身体文化論	1・2・3・4後 2・3・4前	2 2	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平31.4＞	1日
82	兼任	講師	ウメミ ユ 梅宮 悠 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平25.4＞	1日
83	兼任	講師	エトウ(カノ) サエ 江藤(中野) 双恵 ＜令和5年9月＞		修士 (国際学)		地域文化研究B	1・2・3・4後	2	1	東洋大学国 際学部 講師 ＜平29.4＞	1日
84	兼任	講師	ウダ マイ 奥田 麻衣 ＜令和5年9月＞		博士 (学術)		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4後	6	3	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令2.9＞	1日
85	兼任	講師	オビネ マミ 尾関 麻美 ＜令和5年4月＞		言語学修士 (M. A.)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平8.4＞	1日
86	兼任	講師	オベホン 呉 海鍾 ＜令和5年4月＞		博士 (環境学)		情報リテラシーⅠ	1・2・3・4前	4	2	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平25.4＞	1日
87	兼任	講師	オボグネ ヘスラ マリン オボグネ ヘスラ マリ ン ＜令和5年4月＞		博士 (工学)		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平31.4＞	1日
88	兼任	講師	ヤマダ ユカ 小山田 豊 ＜令和5年4月＞		文学修士		ドイツ語およびドイツ語圏社会事情 ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 1 1	1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平29.4＞	1日
89	兼任	講師	カタリ アキラ 片桐 暁 ＜令和5年4月＞		修士 (美術)		情報リテラシーⅠ	1・2・3・4前	8	4	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平31.4＞	1日
90	兼任	講師	カサリ ノブキ 金澤 信之 ＜令和6年9月＞		文学士		道徳教育論 教育方法の理論と実践（情報通信技術を含む）	3前 2後	2 2	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平30.4＞	1日
91	兼任	講師	キノタ ヒロミ 木下 ひろみ ＜令和5年4月＞		文学修士 (比較文化)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平26.4＞	1日
92	兼任	講師	オウキ ケ 工藤 貴恵 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令4.4＞	2日
93	兼任	講師	オウ(バン) ベニ 工藤(坂) 紅 ＜令和5年9月＞		博士 (文学)		外国文学	1・2・3・4後	2	1	立正大学経 営学部 准教 授 ＜平27.4＞	1日
94	兼任	講師	グレン ファーン グレン ファー ン ＜令和6年4月＞		Education(M. A.) (米 国)		英語ⅣA 英語ⅣB	2前 2後	1 1	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平18.4＞	1日
95	兼任	講師	コジマ ノブキ 小嶋 信之 ＜令和5年4月＞		体育学士		スポーツ健康科学実技Ⅲ スポーツ健康科学実技Ⅳ	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平23.4＞	1日
96	兼任	講師	サトリ ミ 佐藤 美保 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令4.4＞	2日
97	兼任	講師	ジェフリー ブルース Jeffrey Bruce ＜令和5年4月＞		修士 (英語教育)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令4.4＞	2日
98	兼任	講師	シバツリ シンイチロウ 塩澤 伸一郎 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		情報リテラシーⅠ	1・2・3・4前	4	2	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平30.4＞	1日
99	兼任	講師	シゲノケン シ ゲンケン ＜令和5年4月＞		博士 (地域研究)		地域文化研究E	1・2・3・4前	2	1	立教大学異 文化コミュ ニケーション 学部 助教 ＜令4.4＞	1日

教 員 の 氏 名 等												
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週当たり平均 日 数
100	兼任	講師	シタ ナキ 信太 直己 ＜令和5年4月＞		博士 (人間科学)		情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ 労働衛生Ⅰ 労働衛生Ⅱ	1・2・3・4前 1・2・3・4後 3・4前 3・4後	4 4 2 2	2 2 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平27.4＞	2日
101	兼任	講師	セキネ アキハル 関根 明治 ＜令和5年4月＞		体育学士		スポーツ健康科学実技Ⅲ スポーツ健康科学実技Ⅳ 健康スポーツアクティビティⅢA 健康スポーツアクティビティⅢB	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平21.4＞	2日
102	兼任	講師	セキ ユウコ 関 裕子 ＜令和5年4月＞		修士 (人文科学)		Integrated Japanese Ⅱ Theory Japanese Listening Ⅲ	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 1	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平31.4＞	1日
103	兼任	講師	ソウトメ ヒロコ 五月女 仁子 ＜令和5年4月＞		修士 (工学)		統計学	1・2・3・4前	2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令3.4＞	1日
104	兼任	講師	ソネ ナキ 曽根 直樹 ＜令和5年4月＞		教育学士		障害学	1・2・3・4前	2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令2.4＞	1日
105	兼任	講師	タカハシ(マルヤマ) オリエ 高橋(丸山) 織恵 ＜令和5年4月＞		修士 (人文)		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本事情Ⅰ 日本事情Ⅱ	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 2 2	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平28.4＞	1日
106	兼任	講師	タカハシ サトシ 高橋 聡 ＜令和5年4月＞		修士 (日本語教育 学)		Integrated Japanese Ⅲ Theory	1・2・3・4前・後	2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平31.4＞	1日
107	兼任	講師	タケウチ サチコ 竹内 幸子 ＜令和5年4月＞		修士 (コミュニ ケーション 学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平31.4＞	1日
108	兼任	講師	タナ ヒロカズ 田中 宏和 ＜令和5年4月＞		修士 (体育科学)		スポーツ健康科学実技Ⅲ スポーツ健康科学実技Ⅳ スポーツ実習・指導法(剣道)	1・2・3・4前 1・2・3・4後 2後	1 1 1	1 1 1	高崎経済大 学地域政策 学部 准教授 ＜令4.4＞	1日
109	兼任	講師	タナ(タケハシ) ミネ 田中(月橋) みんね ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平31.4＞	1日
110	兼任	講師	チョウ レイ 張 麗 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		Japanese Reading Ⅱ	1・2・3・4前・後	1	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平30.4＞	1日
111	兼任	講師	ツルマキ タカシ 鶴巻 崇 ＜令和5年9月＞		修士 (建築学) (英国)		総合F	1・2・3・4後	2	1	Heatherwick Studio London本社 シニアデザ イナー ＜平26.4＞	1日
112	兼任	講師	トマル(サクライ) ケイコ 都丸(櫻井) けい子 ＜令和5年4月＞		博士 (教育学)		教育心理学 教育相談	1前 2後	2 2	1 1	聖徳大学 心理・福祉 学部 専任講 師 ＜平24.9＞	1日
113	兼任	講師	トミタ ヒロユキ 富塚 博之 ＜令和5年4月＞		英文学修士		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平19.4＞	1日
114	兼任	講師	ナカネ ヒサキス 中根 久肇 ＜令和5年9月＞		芸術学士		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4後	4	2	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平24.4＞	1日
115	兼任	講師	ニシモト(ヒナヤマ) カナ 西元(平山) 加那 ＜令和5年4月＞		修士 (法学)		法学	1・2・3・4前	2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令2.4＞	1日
116	兼任	講師	ハイン バトリック hein patrick ＜令和5年4月＞		PhD Education and SocietyCult ural Studies(英 国)		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平30.4＞	1日
117	兼任	講師	ハシモト ヒデシゲ 橋本 英重 ＜令和5年4月＞		修士 (国際経営 学)		基礎会計学 経営学	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	ミッドメ ディア有限 会社 代表取 締役 ＜平17.8＞	1日
118	兼任	講師	ハセガワ タカヤ 長谷川 琢哉 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		全学総合A 全学総合B	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令3.4＞	1日
119	兼任	講師	ハッシー リン ゲーリー ハッシー リン ゲーリー ＜令和5年4月＞		M. A. Spec. Ed (英国)		英語ⅡA 英語ⅡB	1前 1後	1 1	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令2.4＞	1日

教 員 の 氏 名 等												
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週当たり平均 日 数
120	兼任	講師	ハマ ヤスズ 濱 泰一 ＜令和5年9月＞		博士 (環境学)		環境政策論	1・2・3・4後	2	1	東洋大学国 際観光学部 講師 ＜平29.4＞	1日
121	兼任	講師	ハヤシ(イトリ) シュンコ 林(伊藤) 順子 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令2.4＞	1日
122	兼任	講師	ヒナリ カユキ 平沢 隆之 ＜令和5年4月＞		博士 (工学)		数学 物理学	1・2・3・4前 1・2・3・4前	2 2	1 1	東京大学生 産技術研究 所 助教 ＜平21.7＞	1日
123	兼任	講師	ヒラバシ ヒロカズ 平林 浩一 ＜令和5年4月＞		修士 (政策研究)		公務員論	1・2・3・4前・後	2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平27.4＞	1日
124	兼任	講師	フカイ ヒロキ 深谷 秀樹 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		プレゼンテーション技法 コミュニケーション&マナー	1・2・3・4前 1後	2 2	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平20.4＞	1日
125	兼任	講師	ホリガ 和江 細田 和江 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		地域文化研究C	1・2・3・4前	2	1	東京外国語 大学アジ ア・アフリ カ言語文化 研究所 フェ ロー ＜平28.4＞	1日
126	兼任	講師	ボルスター ハラルド ボルスター ハラルド ＜令和5年4月＞		学術博士 (独国)		スポーツ健康科学講義Ⅰ スポーツ健康科学講義Ⅱ スポーツ健康科学実技Ⅱ	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4後	2 2 2	1 1 2	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平28.9＞	1日
127	兼任	講師	ホダ ヨシヒコ 本多 吉彦 ＜令和5年4月＞		修士 (アジア研 究)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平30.4＞	1日
128	兼任	講師	マグヌソン ジョージ デビッド マグヌソン ジョージ デ ビッド ＜令和5年4月＞		MBA(米国)		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平29.4＞	1日
129	兼任	講師	マツイ ヒロミ 松井 広美 ＜令和7年9月＞		-		キャリアアデベロップメント	3・4後	2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平29.9＞	1日
130	兼任	講師	マツノ(アグマ) トモキ 松野(我妻) 智章 ＜令和5年9月＞		博士 (文学)		地域文化研究D	1・2・3・4後	2	1	東洋大学文 学部 講師 ＜平25.4＞	1日
131	兼任	講師	マリッカル アズミ ファティマ マリッカル アズミヤ ファティマ ＜令和5年4月＞		博士 (国際関係 学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令3.4＞	1日
132	兼任	講師	ミウラ ナホ 三浦 尚子 ＜令和5年9月＞		博士 (社会科学)		地理学	1・2・3・4後	2	1	お茶の水女 子大学グ ローバル リーダー シップ研究 所 特別研究 員 ＜令3.10＞	1日
133	兼任	講師	ミヅノ 佳 水田 佳歩 ＜令和5年4月＞		博士 (日本語教育 学)		Integrated Japanese II Practice Japanese Reading III	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 1	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令1.9＞	1日
134	兼任	講師	ミヤザキ ミユキ 宮崎 瑞之 ＜令和5年4月＞		M.A. in TESOL(米国)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平23.4＞	1日
135	兼任	講師	ミヤハラ アツコ 宮原 温子 ＜令和5年4月＞		修士 (国際学)		地域文化研究A	1・2・3・4前	2	1	東洋大学国 際学部 講師 ＜令2.4＞	1日
136	兼任	講師	ヤスハラ ナエ 安原 七重 ＜令和5年9月＞		芸術学士		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4後	4	2	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平24.4＞	1日
137	兼任	講師	ヤマキリ モトイ 山際 基 ＜令和5年4月＞		博士 (工学)		情報化社会と人間	1・2・3・4前	2	1	山梨大学大 学院総合研 究部教育学 域 准教授 ＜平28.4＞	1日
138	兼任	講師	ヤマギチ アネコ 山口 晶子 ＜令和5年4月＞		教育学 (修士)		教育基礎論 教育制度論 教育課程総論	1前 1後 1後	2 2 2	1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令2.4＞	1日
139	兼任	講師	ヤマモト タカヒロ 山本 崇広 ＜令和5年9月＞		修士 (経済学)		経済学	1・2・3・4後	2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平30.9＞	1日
140	兼任	講師	ヤマモト トモリ 山本 伍紀 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平31.4＞	1日

教 員 の 氏 名 等												
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週当たり平均 日 数
141	兼任	講師	ラヴェル リー ドーン ラヴェル リー ドーン ＜令和5年4月＞		MA (Instructional Technology) (米国)		英語Ⅱ A 英語Ⅱ B 英語Ⅳ A 英語Ⅳ B	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平28.4＞	1日
142	兼任	講師	ラサモエラ ミレイユ ラサモエラ ミレイユ ＜令和5年4月＞		Master's degree of mathematics(仏国)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平25.4＞	1日
143	兼任	講師	リ リョングョン リ(李) リョングョン (リョン京) ＜令和5年9月＞		修士 (政治学)		韓国語および韓国語圏社会事情 韓国語Ⅱ	1・2・3・4後 1・2・3・4後	2 1	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平28.9＞	1日
144	兼任	講師	アハチ カシ 荒川 崇 ＜令和6年4月＞		修士 (スポーツ科 学)		測定評価	2・3・4前	2	1	武蔵丘短期 大学健康生 活学科 教授 ＜平24.4＞	1日
145	兼任	講師	イノ アキ 石野 晶子 ＜令和6年4月＞		修士 (保健学)		看護学Ⅱ 看護学Ⅲ	2前 2後	2 2	1 1	杏林大学保 健学部 講師 ＜平13.4＞	1日
146	兼任	講師	ウエタ マサフミ 上田 将史 ＜令和5年4月＞		修士 (心理学)		精神保健学	1・2・3・4前	2	1	非営利活動 法人志木市 精神保健福 祉をすすめ る会 理事長 ＜平19.5＞	1日
147	兼任	講師	ウエムラ コウカ 上村 公介 ＜令和6年9月＞		学士 (医学)		スポーツ医学Ⅰ（内科）	2・3・4後	2	1	順天堂大学 医学部附属 順天堂医院 大学院生 ＜令3.4＞	1日
148	兼任	講師	ウスイ ケンイチ 碓井 健一 ＜令和6年9月＞		学士 (経済学)		健康スポーツアクティビティⅡ B 健康スポーツアクティビティⅡ D	2後 3後	1 1	1 1	セントラル スポーツ株 式会社 指導 員 ＜平2.3＞	1日
149	兼任	講師	カネコ サトシ 金子 聡 ＜令和5年4月＞		博士 (スポーツ科 学)		スポーツと応急処置	1・2・3・4前・後	4	2	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平29.4＞	1日
150	兼任	講師	カワイ シュウイチ 河井 秀一 ＜令和6年4月＞		学士 (体育学)		健康スポーツアクティビティⅡ A 健康スポーツアクティビティⅡ C	2前 3前	1 1	1 1	セントラル スポーツ株 式会社 指導 員 ＜昭62.3＞	1日
151	兼任	講師	クサカリ ユキミ 草刈 恭巳 ＜令和6年4月＞		短期大学士 (保育)		健康スポーツアクティビティⅡ A 健康スポーツアクティビティⅡ B 健康スポーツアクティビティⅡ C 健康スポーツアクティビティⅡ D	2前 2後 3前 3後	1 1 1 1	1 1 1 1	公益財団法 人うらやす 財団体育施 設事業所 契約職員 ＜平28.4＞	1日
152	兼任	講師	クドウ シゲタカ 工藤 重忠 ＜令和5年4月＞		Doctor of Philosophy (ニューシケー ン)		健康・スポーツの自然科学 ※ バイオメカニクス実習 力学基礎 力学演習 バイオメカニクス スポーツダイナミクス解析 健康スポーツキャリアデザインB ※ スポーツ実習・指導法（柔道）	1前 2前・後 1後 2前 2前 3前 1後 2後	0.8 2 2 2 2 2 0.8	1 2 1 1 1 1 1	Republic Polytechnic ,Singapore, Senior Lecturer ＜平25.4＞	2日
153	兼任	講師	クボ ジンゴロウ 久保 潤二郎 ＜令和6年9月＞		博士 (体育科学)			2後	2	2	平成国際大 学スポーツ 健康学部 教授 ＜平29.4＞	1日
154	兼任	講師	ゴトウ ミツサ 後藤 光将 ＜令和6年4月＞		博士 (体育科学)		スポーツ実習・指導法（テニス）	2前	1	1	明治大学政 治経済学部 教授 ＜平19.4＞	1日
155	兼任	講師	サカイ シン 酒井 紳 ＜令和6年4月＞		博士 (体育科学)		スポーツ実習・指導法（水泳）	2前	3	3	東京女子体 育大学体育 学部 講師 ＜令2.4＞	1日
156	兼任	講師	サクライ シノブ 櫻井 シノブ ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		看護学Ⅰ ※	1前	0.3	1	順天堂大学 医療看護学 部 教授 ＜平23.4＞	1日
157	兼任	講師	ササキ ショウゴ 笹木 正悟 ＜令和6年9月＞		博士 (スポーツ科 学)		アスレティックトレーニング指導法	2・3・4後	1	1	東京有明医 療大学保健 医療学部 講 師 ＜平21.4＞	1日
158	兼任	講師	シマムラ タケシ 嶋村 武司 ＜令和6年4月＞		史学学士		健康スポーツアクティビティⅡ A 健康スポーツアクティビティⅡ B 健康スポーツアクティビティⅡ C 健康スポーツアクティビティⅡ D	2前 2後 3前 3後	1 1 1 1	1 1 1 1	セントラル スポーツ株 式会社 指導 員 ＜平3.3＞	1日
159	兼任	講師	タケハラ カエ 竹ヶ原 佳苗 ＜令和5年4月＞		体育学士		健康スポーツアクティビティⅢ A 健康スポーツアクティビティⅢ B	1前 1後	1 1	1 1	スポーツス パースリエ 指導員 ＜平9.4＞	1日
160	兼任	講師	タナカ ケンイチ 田中 建一 ＜令和7年4月＞		修士 (法学)		労働基準法 労働安全衛生法Ⅰ 労働安全衛生法Ⅱ	3・4後 3・4前 3・4後	2 2 2	1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平27.4＞	1日

教 員 の 氏 名 等												
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週当たり平均 日 数
161	兼任	講師	ナカノ リョウコ 仲里 良子 ＜令和7年9月＞		博士 (看護学)		看護学実習 ※	3後	1.2	1	順天堂大学 医療看護学 部 助教 ＜平30.4＞	1日
162	兼任	講師	ナカシマ テツヤ 中嶋 哲也 ＜令和6年9月＞		博士 (スポーツ科 学)		日本文化とスポーツ	2・3・4後	2	1	茨城大学教 育学部 准教 授 ＜平28.4＞	1日
163	兼任	講師	ナカネ モリアツ 仲宗根 森敦 ＜令和7年9月＞		修士 (体育学)		スポーツ実習・指導法（器械運動）	3後	2	2	東京学芸大 学芸術・ス ポーツ科学 系 健康・ス ポーツ科学 講座 運動学 分野 准教授 ＜平29.4＞	1日
164	兼任	講師	ナカタ コウキ 中田 光紀 ＜令和5年4月＞		学士 (文学)		健康スポーツアクティビティⅢA 健康スポーツアクティビティⅢB	1前 1後	1 1	1 1	公益社団法 人日本武術 太極拳連盟 選手強化委 員会選手強 化コーチ ＜平24.4＞	1日
165	兼任	講師	ナカニ(ミナミ) ユウコ 中西(南) 唯公 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		看護学Ⅰ ※	1前	0.5	1	順天堂大学 スポーツ健 康科学部 准 教授 ＜平26.4＞	1日
166	兼任	講師	ナナキタ フミコ 七木田 文彦 ＜令和6年4月＞		博士 (教育学)		保健科教育論Ⅰ 保健科教育論Ⅱ 保健科指導法Ⅰ 保健科指導法Ⅱ	2前 2後 3前 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	埼玉大学教 育学部 准教 授 ＜平19.4＞	1日
167	兼任	講師	ニシノ サトシ 西園 聡史 ＜令和6年9月＞		修士 (教育学)		スポーツ実習・指導法（サッカー）	2後	1	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令3.9＞	1日
168	兼任	講師	ニシタニ ヨシコ 西谷 善子 ＜令和6年4月＞		博士 (体育学)		健康スポーツアクティビティⅡA 健康スポーツアクティビティⅡB 健康スポーツアクティビティⅡC 健康スポーツアクティビティⅡD	2前 2後 3前 3後	1 1 1 1	1 1 1 1	公益財団法 人日本オリ ンピック委 員会 専任 コーチング ディレク ター ＜令3.4＞	1日
169	兼任	講師	ナギノ シュンコ 萩尾 純子 ＜令和6年4月＞		学士 (社会福祉 学)		健康スポーツアクティビティⅡA 健康スポーツアクティビティⅡB 健康スポーツアクティビティⅡC 健康スポーツアクティビティⅡD	2前 2後 3前 3後	1 1 1 1	1 1 1 1	公益社団法 人 日本 ダンス協会 代表理事 ＜平成10.6＞	1日
170	兼任	講師	ハヤカワ タイスケ 早川 大輔 ＜令和6年4月＞		-		健康スポーツアクティビティⅡA 健康スポーツアクティビティⅡB 健康スポーツアクティビティⅡC 健康スポーツアクティビティⅡD	2前 2後 3前 3後	1 1 1 1	1 1 1 1	公益財団法 人日本オリ ンピック委 員会 スケー トボードナ ショナル コーチ ＜令2.4＞	1日
171	兼任	講師	ハヤシタ トシヒロ 林田 敏裕 ＜令和5年4月＞		修士 (体育学)		健康スポーツアクティビティⅠA 健康スポーツアクティビティⅠB 健康スポーツアクティビティⅠC 健康スポーツアクティビティⅠD	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	筑波大学体 育系 特任助 教 ＜令3.7＞	1日
172	兼任	講師	ハラノ シズカ 原田 静香 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		看護学Ⅰ ※ 看護学実習 ※	1前 3後	1.2 1.5	1 1	順天堂大学 医療看護学 部 准教授 ＜平20.10＞	1日
173	兼任	講師	ハシノ ヒロユキ 番場 裕之 ＜令和5年4月＞		文学修士		健康スポーツアクティビティⅢA 健康スポーツアクティビティⅢB	1前 1後	1 1	1 1	日本ヨーガ 光麗会 会長 ＜平15.4＞	1日
174	兼任	講師	ヒガシカ テツロウ 日高 哲郎 ＜令和5年4月＞		学士 (健康スポー ツ学)		健康スポーツアクティビティⅢA 健康スポーツアクティビティⅢB	1前 1後	1 1	1 1	西荻窪カル チャークラ ブ・スペース フュージョン 代表 ＜平30.3＞	1日
175	兼任	講師	ヒラタ アキラ 平田 昂大 ＜令和5年4月＞		修士 (武道・ス ポーツ学)		ベーシック・トレーニング	1前・後	4	4	慶應体育会 蹴球部アス レティック トレーナー ＜平29.4＞	1日
176	兼任	講師	フジモト タケシ 藤村 武 ＜令和5年4月＞		修士 (スポーツ健 康科学)		健康スポーツアクティビティⅠA 健康スポーツアクティビティⅠB 健康スポーツアクティビティⅠC 健康スポーツアクティビティⅠD	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	株式会社ブ ラーボデザ イン ＜平29.4＞	1日
177	兼任	講師	フジモト タケシ 藤本 武司 ＜令和5年4月＞		学士 (経済)		健康スポーツアクティビティⅠA 健康スポーツアクティビティⅠB 健康スポーツアクティビティⅠC 健康スポーツアクティビティⅠD	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	日本卓球株 式会社 ＜平25.4＞	1日
178	兼任	講師	フルタ ヒロシ 古田 久 ＜令和6年9月＞		博士 (教育学)		スポーツ実習・指導法（バレーボール）	2後	1	1	埼玉大学教 育学部 准教 授 ＜平19.4＞	1日
179	兼任	講師	ホンダ マサカズ 本田 雅一 ＜令和5年4月＞		経済学士		健康スポーツアクティビティⅠA 健康スポーツアクティビティⅠB 健康スポーツアクティビティⅠC 健康スポーツアクティビティⅠD	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	有限会社ア ルテワール ド 代表取締 役 ＜昭63.9＞	1日

教 員 の 氏 名 等												
(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週当たり平均 日 数
180	兼任	講師	マツタ タツミ 松下 巽 ＜令和6年4月＞		修士 (スポーツ科 学)		健康スポーツアクティビティⅡA 健康スポーツアクティビティⅡB 健康スポーツアクティビティⅡC 健康スポーツアクティビティⅡD	2前 2後 3前 3後	1 1 1 1	1 1 1 1	全日空商事 株式会社 ＜平30.4＞	1日
181	兼任	講師	マツモト タシ [・] ユ 松本 大樹 ＜令和5年4月＞		学士芸術学		健康スポーツアクティビティⅢA 健康スポーツアクティビティⅢB スポーツ実習・指導法（ダンス）	1前 1後 2前	1 1 1	1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平21.4＞	2日
182	兼任	教授	ヤスカ シ [・] ユン 安田 純 ＜令和6年4月＞		博士 (スポーツ健 康科学)		スポーツ栄養学Ⅰ	2・3・4前	2	1	独立行政法 人日本ス ポーツ振興 センター・ 国立スポ ーツ科学セ ンター 研究員 ＜令2.4＞	1日
183	兼任	講師	ヨネヅミ イホ 米澤 郁穂 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		スポーツ医学Ⅱ（整形外科）	2・3・4前	2	1	医療法人社 団春陽会 参 宮橋脊髄外 科病院 副院 長 ＜平31.4＞	1日
184	兼任	講師	ワナベ シカ [・] トシ 渡邊 貞稔 ＜令和6年4月＞		学士 (スポーツ科 学)		健康スポーツアクティビティⅡA 健康スポーツアクティビティⅡB 健康スポーツアクティビティⅡC 健康スポーツアクティビティⅡD	2前 2後 3前 3後	1 1 1 1	1 1 1 1	株式会社縄 跳道場 代表 取締役 ＜平29.10＞	1日
185	兼任	講師	ワカ マサキ 和田 壮生 ＜令和6年4月＞		修士 (体育学)		スポーツ実習・指導法（水泳）	2前	3	3	中央大学理 工学部 兼任 講師 ＜平31.4＞	1日

教 員 の 氏 名 等													
(健康スポーツ科学部栄養科学科)													
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数
1	専	教授 (学科 長)	ヤノ トモロ 矢野 友啓 ＜令和5年4月＞		薬学博士		食品学実験Ⅰ 細胞生物学実験 食理学Ⅰ 食理学Ⅱ 起業基礎（ビジネスマナー含む） 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業研究・論文Ⅰ 卒業研究・論文Ⅱ	1後 2前 3前 3後 3後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 食環境科学 部 教授 ＜平22.4＞	5日	
2	専	教授	タカ カズコ 高田 和子 ＜令和7年4月＞		博士 (栄養学)		スポーツ栄養学 スポーツ栄養学実習 国際栄養科学交流 校外実習 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業研究・論文Ⅰ 卒業研究・論文Ⅱ	1後 3前 3後 3後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農業大 学応用生物 科学部 教授 ＜令2.4＞	3日	
3	専	教授	カトリ カズヲ 加藤 和則 ＜令和5年4月＞		薬学博士		細胞生物学 免疫生化学 細胞生物学実験 解剖生理学実験 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業研究・論文Ⅰ 卒業研究・論文Ⅱ	1後 2前 2前 3前 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 理工学部 教授 ＜平23.4＞	5日	
4	専	教授	ミヤコ シウイチ 宮越 雄一 ＜令和5年4月＞		医学博士		公衆衛生学 機能解剖学 解剖生理学実験 応急手当法 予防医学概論 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業研究・論文Ⅰ 卒業研究・論文Ⅱ	1前 2後 3前 3後 2後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 食環境科学 部 教授 ＜平25.4＞	5日	
5	専	教授	オオエ アナ 大上 安奈 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		生理学 健康づくりと運動プログラム 運動生理学実験 校外実習 運動生理学 体力測定評価法 健康づくり運動の実際（ウォーキング） 健康づくり運動の実際（エアロビクス） 健康づくり運動の実際（レジスタンストレーニング） 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業研究・論文Ⅰ 卒業研究・論文Ⅱ	1後 3前 2後 3後 3後 2前 2後 1前 1後 2後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 2 1 1 1 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 食環境科学 部 准教授 ＜平25.4＞	5日	
6	専	准教授	オオタ マサコ 太田 昌子 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		基礎栄養学 基礎栄養学実験 ライフステージ栄養学実習 校外実習 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業研究・論文Ⅰ 卒業研究・論文Ⅱ	1前 1後 3前 3後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 食環境科学 部 准教授 ＜平21.4＞	5日	

教 員 の 氏 名 等													
(健康スポーツ科学部栄養科学科)													
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週 当 たり 平 均 日 数
7	専	准教授	イシダ タケ 石田 達也 ＜令和5年4月＞		博士 (農学)		現代化学 基礎化学Ⅰ 基礎化学Ⅱ 無機化学 有機化学Ⅰ 有機化学Ⅱ 機器分析 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業研究・論文Ⅰ 卒業研究・論文Ⅱ	1・2・3・4後 1前 1後 2前 2後 2前 3前 3後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	株式会社明 治研究本部 研究員 ＜平17.4＞	5日	
8	専	准教授	ヨシヰキ タカヒロ 吉崎 貴大 ＜令和6年4月＞		博士 (食品栄養 学)		栄養疫学 栄養疫学実習Ⅰ（観察疫学） 栄養疫学実習Ⅱ（実験疫学） 校外実習 データサイエンスⅠ データサイエンスⅡ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業研究・論文Ⅰ 卒業研究・論文Ⅱ	2後 3前 3後 3後 3前 3前 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 食環境科学 部 准教授 ＜平26.4＞	5日	
9	専	講師	トムソン プレア ジョン トムソン プレア ジョン ＜令和5年4月＞		Master of Arts(ニュージ ランド)		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平29.4＞	5日	
	兼任	講師	トムソン プレア ジョン トムソン プレア ジョン ＜令和7年4月＞				英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1		2日	
10	専	講師	エイティム ソイハン エイティム ソイハン ＜令和5年4月＞		Doctor of Education(米 国)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平30.4＞	5日	
	兼任	講師	エイティム ソイハン エイティム ソイハン ＜令和8年4月＞				英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1		2日	
11	専	講師	コシ ナ 小西 可奈 ＜令和6年4月＞		博士 (スポーツ健 康科学)		食と健康 スポーツ栄養学実習 スポーツ栄養マネジメント（実践） 校外実習 運動生理学実験 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業研究・論文Ⅰ 卒業研究・論文Ⅱ	1・2・3・4後 3前 3後 3後 3後 2後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 2 2 1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学 食環境科学 部 助教 ＜平31.4＞	5日	
	兼任	助教	コシ ナ 小西 可奈 ＜令和5年9月＞		博士 (スポーツ健 康科学)		食と健康	1・2・3・4後	2	1		1日	
12	専	講師	サトウ アサミ 佐藤 綾美 ＜令和6年4月＞		博士 (薬科学)		栄養生化学実習 食品学実験Ⅱ 栄養生化学 動物学 健康スポーツ科学基礎演習Ⅰ 健康スポーツ科学基礎演習Ⅱ 健康スポーツ科学プロジェクト演習A 健康スポーツ科学プロジェクト演習B 健康スポーツ科学演習Ⅰ 健康スポーツ科学演習Ⅱ 健康スポーツ科学演習Ⅲ 健康スポーツ科学演習Ⅳ 卒業研究・論文Ⅰ 卒業研究・論文Ⅱ	2後 2前 2前 2後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京都健康 長寿医療セ ンター研究 所分子老化 制御 常勤研 究員 ＜令1.12＞	5日	
13	専	助教	セキヰリ ナホ 芹澤 奈保 ＜令和5年4月＞		博士 (食環境科 学)		栄養マネジメント（運営理論） 臨床栄養学実習 栄養マネジメント（実践） 栄養と心理	2前 3後 2後 2後	2 2 2 2	1 2 2 1	慶應義塾大 学医学部眼 科学教室 特 任助教 ＜令3.4＞	5日	

教 員 の 氏 名 等													
(健康スポーツ科学部栄養科学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週当たり平均 日 数
14	専	助教	ツカモト(イバシ) アヤ 塚本(石橋) 彩 ＜令和5年4月＞		博士 (スポーツ健 康科学)		疫学 ライフステージ栄養学 栄養疫学実習Ⅰ(観察疫学) 栄養疫学実習Ⅱ(実験疫学)	1後 2後 3前 3後		2 2 2 2	1 1 2 2	東京大学大 学院総合文 化研究科 特 別研究員 ＜令和2.4＞	5日
15	専	助教	コノ カグル 河野 翔 ＜令和5年4月＞		博士 (食環境科 学)		食品学 食品学実験Ⅰ 食品学実験Ⅱ	1前 1後 2前		2 2 2	2 2 2	獨協医科大 学病理学講 座 協力研究 員 ＜令和3.4＞	5日
16	兼任	教授	イカリキ シロシ 稲垣 諭 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		全学総合F	1・2・3・4前		2	1	東洋大学文 学部 教授 ＜平成28.4＞	1日
17	兼任	教授	イノダ テツノリ 岩下 哲典 ＜令和5年4月＞		博士 (歴史学)		歴史学	1・2・3・4前		2	1	東洋大学文 学部 教授 ＜平成28.4＞	1日
18	兼任	教授	オオカミ シノブ 大塚 佳臣 ＜令和5年4月＞		博士 (工学)		全学総合D	1・2・3・4前		2	1	東洋大学総 合情報学部 教授 ＜平成22.4＞	1日
19	兼任	教授	カガミ カズアキ 加賀見 一彰 ＜令和5年4月＞		博士 (経済学)		全学総合K	1・2・3・4前		2	1	東洋大学経 済学部 教授 ＜平成18.4＞	1日
20	兼任	教授	カネコ リツコ 金子 律子 ＜令和5年9月＞		医学博士		生物学	1・2・3・4後		2	1	東洋大学生 命科学部 教 授 ＜平成18.4＞	1日
21	兼任	教授	カワカチ ヒデオ 川口 英夫 ＜令和5年9月＞		博士 (工学)		全学総合J	1・2・3・4後		2	1	東洋大学生 命科学部 教 授	1日
	兼任	講師	カワカチ ヒデオ 川口 英夫 ＜令和7年9月＞			全学総合J	1・2・3・4後		2	1	＜平成21.4＞	1日	
22	兼任	教授	カワモト ヒロオ 河本 英夫 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		全学総合F	1・2・3・4前		2	1	東洋大学文 学部 教授 ＜平成3.4＞	1日
23	兼任	教授	キナチ アキラ 木内 明 ＜令和5年4月＞		教育学修士 (韓国)		韓国語Ⅰ	1・2・3・4前		1	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 教授 ＜平成17.4＞	1日
24	兼任	教授	キナチ リリカ 菊地 章太 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		哲学 宗教学 美術一般 音楽一般 フランス語およびフランス語圏社会事情 全学総合C 総合B 総合C 総合D 総合E	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 教授 ＜平成17.4＞	3日	
	兼任	講師	キナチ リリカ 菊地 章太 ＜令和7年4月＞			哲学 宗教学 美術一般 音楽一般 フランス語およびフランス語圏社会事情 全学総合C 総合B 総合C 総合D 総合E	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		3日		
25	兼任	教授	コバヤシ マサオ 小林 正夫 ＜令和5年9月＞		理学修士		全学総合G 全学総合H	1・2・3・4後 1・2・3・4後		2 2	1 1	東洋大学社 会学部 教授 ＜平成5.4＞	2日
26	兼任	教授	タカハシ ナミ 高橋 直美 ＜令和5年4月＞		教育学修士		日本文学 口頭表現法 文章読解 レポート・論文のまとめ方 総合A	1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4後		2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 教授 ＜平成9.4＞	2日
27	兼任	教授	タノコロ キヨシ 田所 聖志 ＜令和5年9月＞		博士 (社会人類 学)		ダイバーシティ論	1・2・3・4後		2	1	東洋大学社 会学部 教授 ＜令和3.4＞	1日
28	兼任	教授	タニガマ ヒロノリ 谷金 尊徳 ＜令和5年4月＞		博士 (体育科学)		全学総合L 全学総合M	1・2・3・4前 1・2・3・4後		2 2	1 1	東洋大学法 学部 教授 ＜平成20.4＞	1日
29	兼任	教授	タメ コウイチ 久米 功一 ＜令和7年9月＞		博士 (経済学)		行動経済学	3後		2	1	東洋大学経 済学部 教 授 ＜平成29.4＞	1日
30	兼任	准教授	アヅタ スミエ 阿久津 純恵 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB Intercultural Communication SkillsⅡ Intercultural Communication SkillsⅡ	1前 1後 1前 1後 2前 2後 1・2・3・4後 1・2・3・4後		1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 准教 授 ＜平成27.4＞	3日
31	兼任	准教授	ウエダ トモアキ 上田 知亮 ＜令和5年4月＞		博士 (法学)		政治学	1・2・3・4前		2	1	東洋大学法 学部 准教授 ＜平成27.4＞	1日
32	兼任	准教授	ウシノボ リョウタ 牛窪 隆太 ＜令和5年4月＞		博士 (日本語教育 学)		Integrated JapaneseⅡ Practice	1・2・3・4前・後		2	1	東洋大学国 際教育セン ター 准教授 ＜平成31.4＞	1日

教 員 の 氏 名 等													
(健康スポーツ科学部栄養科学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週 当 たり 平 均 日 数
33	兼任	准教授	コジマ 妙子 小島 貴子 ＜令和5年4月＞		修士 (国際アドミ ニストレー ション)		キャリアデザイン入門 キャリアデザイン実践 健康スポーツキャリアデザインA 健康スポーツキャリアデザインB	1前 2後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	東洋大学理 工学部 准教 授 ＜平24.4＞	1日	
	兼任	講師	コジマ 妙子 小島 貴子 ＜令和6年4月＞			キャリアデザイン入門 キャリアデザイン実践 健康スポーツキャリアデザインA 健康スポーツキャリアデザインB	1前 2後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	1日			
34	兼任	准教授	ゴトリ かつ 後藤 隆彰 ＜令和5年9月＞		博士 (工学)		全学総合E	1・2・3・4後	2	1	東洋大学総 合情報学部 准教授 ＜平31.4＞	1日	
35	兼任	准教授	コバヤシ ユウコ 小早川 裕子 ＜令和5年4月＞		博士 (国際地域 学)		留学のすすめ アカデミックライティング テクニカルライティング メディカルライティング	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4前 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	東洋大学国 際教育セン ター 准教授 ＜平29.4＞	2日	
36	兼任	准教授	サキバ ラ ケイ 榊原 圭子 ＜令和5年4月＞		博士 (保健学)		全学総合I	1・2・3・4前	2	1	東洋大学社 会学部 准教 授 ＜平28.4＞	1日	
37	兼任	准教授	タケムラ ミズホ 竹村 瑞穂 ＜令和5年4月＞		博士 (体育科学)		哲学 生命と倫理 ジェンダー論	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前	2 2 2	1 1 1	日本福祉大 学スポーツ 科学部 准教 授 ＜平29.4＞	2日	
38	兼任	准教授	テラ ヨウヘイ 寺 洋平 ＜令和5年9月＞		法学修士		日本国憲法	1・2・3・4後	2	1	東洋大学法 学部 准教授 ＜平23.10＞	1日	
39	兼任	准教授	ハヤシ タイスケ 林 大介 ＜令和7年4月＞		修士 (政治学)		インターンシップ入門 アントレプレナーシップ 社会貢献活動入門 地域マネジメント	3・4前 3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4後	2 2 2 2	1 1 1 1	東洋大学社 会学部 講師 ＜令3.4＞	2日	
	兼任	講師	ハヤシ タイスケ 林 大介 ＜令和5年9月＞			地域マネジメント	1・2・3・4後 1後	2 2	1 1	1日			
40	兼任	准教授	ホソグチ ヨウコ 細谷 洋子 ＜令和5年4月＞		博士 (スポーツ科 学)		スポーツ健康科学講義Ⅰ スポーツ健康科学講義Ⅱ	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 准教 授 ＜平30.9＞	1日	
41	兼任	准教授	マトバ (やう) トモコ 的場 (木内) 智子 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		社会学	1・2・3・4前	2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 准教 授 ＜平17.4＞	1日	
42	兼任	准教授	ムラカミ カズキ 村上 一基 ＜令和5年4月＞		Doctorat en Sciences sociales et Philosophie de connaissance (仏国)		グローバル市民論	1・2・3・4前	2	1	東洋大学社 会学部 准教授 ＜平30.4＞	1日	
43	兼任	准教授	ワタナベ ミチヨ 渡辺 道代 ＜令和5年9月＞		修士 (社会福祉 学)※		社会貢献活動入門	1・2・3・4後	2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 准教 授 ＜平30.4＞	1日	
44	兼任	准教授	ヤマモト (いづ) アヤ 山本 (石井) 綾 ＜令和5年4月＞		博士 (人文科学)		英語および英語圏社会事情 英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅢA 英語ⅢB Intercultural Communication SkillsⅠ Intercultural Communication SkillsⅡ English Test PreparationⅠ English Test PreparationⅡ	1・2・3・4前 1前 1後 1前 1後 2前 2後 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 准教 授 ＜令4.4＞	3日	
45	兼任	准教授	スズキ (マツト) トモコ 鈴木 (松本) 智子 ＜令和6年4月＞		修士 (人文科学)		健康づくり運動の実践 (水泳・水中運動)	2前	2	2	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 准教 授 ＜平18.4＞	1日	
46	兼任	准教授	エダ (ミヤ) カリ 江田 (宮田) 香織 ＜令和6年4月＞		博士 (体育科学)		スポーツ心理学	2前	2	1	国立スポー ツ科学セン ター 講師 契約研究員 ＜平29.4＞	1日	
47	兼任	講師	アンドレフ ストイチェフ アントン ＜令和5年4月＞		日本語学博 士		Integrated JapaneseⅠ Theory Integrated JapaneseⅡ Practice Japanese ReadingⅠ Japanese ReadingⅡ Japanese ListeningⅠ Japanese ListeningⅡ Japanese WritingⅠ Project WorkⅠ Japanese Culture and SocietyⅠ Japanese Culture and SocietyⅡ	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4後 1・2・3・4前	2 2 1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学国 際教育セン ター 講師 ＜令2.4＞	2日	
48	兼任	講師	ウィルソン マシュー ウィルソン マシュー ＜令和5年4月＞		修士 (English for Academic Purposes) (英 国)		IELTS for Study AbroadⅠ Listening/Speaking IELTS for Study AbroadⅡ Listening/Speaking IELTS for Study AbroadⅠ Reading/Writing Pre-Study Abroad: Writing	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後	2 2 2 1	1 1 1 1	東洋大学国 際教育セン ター 講師 ＜平29.4＞	1日	
49	兼任	講師	オオハシ カツシカ 大橋 勝一郎 ＜令和5年4月＞		修士 (Applied Linguistics (TESOL)) (オ ーストラリ ア)		IELTS for Study AbroadⅡ Reading/Writing Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 1	1 1	東洋大学国 際教育セン ター 講師 ＜平29.4＞	1日	
50	兼任	講師	チン シュウイン 陳 秀茵 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		Integrated JapaneseⅠ Theory Integrated JapaneseⅢ Practice	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 2	1 1	東洋大学国 際教育セン ター 講師 ＜令3.4＞	1日	

教 員 の 氏 名 等													
(健康スポーツ科学部栄養科学科)													
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週当たり平均 日 数
51	兼任	講師	デービッド トラカサル デイビッド トラクサル ＜令和5年4月＞		M. S. Education-TESOL(米国)		Business English Communication	1・2・3・4前		2	1	東洋大学国際教育センター 講師 ＜令4.4＞	1日
52	兼任	講師	ナノ テイコ 中野 てい子 ＜令和5年4月＞		博士(学術)		Integrated Japanese I Practice Project Work III	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後		2 1	1 1	東洋大学国際教育センター 講師 ＜令3.4＞	1日
53	兼任	講師	バック ジョナサン バック ジョナサン ＜令和5年4月＞		Master of Arts in English Language Teaching and Applied Linguistics , (英国)		IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	1・2・3・4前・後		2	1	東洋大学国際教育センター 講師 ＜平30.4＞	1日
54	兼任	講師	ヒサヨシ タカコ 久好 孝子 ＜令和5年4月＞		博士 (国際文化)		Integrated Japanese III Theory Japanese Reading I Japanese Listening I Japanese Writing II Japanese Writing III Project Work II Project Work III Introduction to Japanology I Introduction to Japanology I	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4後 1・2・3・4前		2 1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学国際教育センター 講師 ＜平29.4＞	2日
55	兼任	講師	ミズマツ ミナ 水松 巳奈 ＜令和5年4月＞		Ph. D(米国)		留学のすすめ 異文化理解概論 海外研修 I 海外研修 II 海外実習 I 海外実習 II 短期海外研修 I 短期海外研修 II 短期海外研修 III 短期海外研修 IV 短期海外実習 I 短期海外実習 II 短期海外実習 III 短期海外実習 IV	1・2・3・4前・後 1・2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4前		2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学国際教育センター 講師 ＜令2.4＞	2日
56	兼任	講師	モーレル クリスチャン ロバート モーレル クリスチャン ロバート ＜令和5年4月＞		TESOL修士 (米国)		Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	1・2・3・4前・後		1	1	東洋大学国際教育センター 講師 ＜平27.9＞	1日
57	兼任	講師	リー ジャクソン クーン イェツ リー ジャクソン クーン イェツ ＜令和5年4月＞		Master of Arts in Applied Linguistics and TESOL(英国)		IELTS for Study Abroad II Reading/Writing	1・2・3・4前・後		2	1	東洋大学国際教育センター 講師 ＜令2.4＞	1日
58	兼任	助教	シンタニ スバル 新谷 昂 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		スポーツ健康科学実技 I スポーツ健康科学実技 II	1・2・3・4前 1・2・3・4後		1 1	1 1	日本体育大学体育学部一般研究員 ＜令2.4＞	1日
59	兼任	助教	アガチ ケン 安達 玄 ＜令和5年4月＞		博士 (スポーツ科学)		スポーツ健康科学実技 I スポーツ健康科学実技 II	1・2・3・4前 1・2・3・4後		1 1	1 1	早稲田大学スポーツ科学研究センター 招聘研究員 ＜令3.4＞	1日
60	兼任	助教	オカムラ タカヨウ 奥村 拓朗 ＜令和5年4月＞		博士 (体育科学)		スポーツ健康科学実技 I スポーツ健康科学実技 II	1・2・3・4前 1・2・3・4後		1 1	1 1	日本体育大学児童スポーツ教育学部 助教 ＜令3.4＞	1日
61	兼任	講師	アサマ マサヒ 浅間 正通 ＜令和5年4月＞		教育学修士		英語 I A 英語 I B 英語 II A 英語 II B 英語 III A 英語 III B 英語 IV A 英語 IV B	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後		1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 ＜令4.4＞	2日
62	兼任	講師	アワカ シュンヤ 荒川 俊也 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		プログラミング基礎 I プログラミング基礎 II 機械学習 I 機械学習 II	1・2・3・4前 1・2・3・4後 4前 4後		2 2 2 2	1 1 1 1	日本工業大学先進工学部 教授 ＜令4.4＞	1日
63	兼任	講師	アンギイ ジュンコ 安齊 順子 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		心理学	1・2・3・4前		2	1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 ＜平30.4＞	1日
64	兼任	講師	アンドウ ジュンイチロウ 安藤 潤一郎 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		社会学 中国語および中国語圏社会事情 中国語 I 中国語 II	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前 1・2・3・4後		2 2 1 1	1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 ＜平27.4＞	1日
65	兼任	講師	イアン フリップ ハート IAN PHILIP HART ＜令和5年4月＞		M. Ed(応用言語学・TESOL)(英国)		英語 I A 英語 I B 英語 II A 英語 II B 英語 III A 英語 III B 英語 IV A 英語 IV B	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後		1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 ＜令4.4＞	2日
66	兼任	講師	イシ ショウタ 石井 翔大 ＜令和5年4月＞		修士 (工学)		情報リテラシー I	1・2・3・4前		4	2	東洋大学ライフデザイン学部 講師 ＜平30.4＞	1日
67	兼任	講師	イノベ アサ 猪口 綾奈 ＜令和5年4月＞		Master of Arts in Teaching(米国)		英語 II A 英語 II B 英語 III A 英語 III B 英語 IV A 英語 IV B	1前 1後 2前 2後 2前 2後		1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学ライフデザイン学部 講師 ＜平28.9＞	2日

教 員 の 氏 名 等													
(健康スポーツ科学部栄養科学科)													
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週当たり平均 日 数
68	兼任	講師	イロ ユウコ 岩瀬 裕子 ＜令和5年9月＞		修士 (人間科学)		文化人類学	1・2・3・4後		2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平31.4＞	1日
69	兼任	講師	ウメミヤ ユウ 梅宮 悠 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		英語Ⅰ A 英語Ⅰ B 英語Ⅲ A 英語Ⅲ B	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平25.4＞	1日
70	兼任	講師	エトリ(ナカノ) シェ 江藤(中野) 双恵 ＜令和5年9月＞		修士 (国際学)		地域文化研究 B	1・2・3・4後		2	1	東洋大学国 際学部 講師 ＜平29.4＞	1日
71	兼任	講師	オウタ マイ 奥田 麻衣 ＜令和5年9月＞		博士 (学術)		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4後		6	3	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令2.9＞	1日
72	兼任	講師	オビネ マミ 尾関 麻美 ＜令和5年4月＞		言語学修士 (M. A.)		英語Ⅰ A 英語Ⅰ B 英語Ⅲ A 英語Ⅲ B	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平8.4＞	1日
73	兼任	講師	オベツシ 呉 海鍾 ＜令和5年4月＞		博士 (環境学)		情報リテラシーⅠ	1・2・3・4前		4	2	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平25.4＞	1日
74	兼任	講師	オボグネ ヘスラ マリリン オボグネ ヘスラ マリリ ン ＜令和5年4月＞		博士 (工学)		英語Ⅱ A 英語Ⅱ B 英語Ⅳ A 英語Ⅳ B	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平31.4＞	1日
75	兼任	講師	オヤマ ユカ 小山田 豊 ＜令和5年4月＞		文学修士		ドイツ語およびドイツ語圏社会事情 ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 1 1	1 1 1	1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平29.4＞	1日
76	兼任	講師	カタクリ アキラ 片桐 暁 ＜令和5年4月＞		修士 (美術)		情報リテラシーⅠ	1・2・3・4前		8	4	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平31.4＞	1日
77	兼任	講師	キノタ ヒロミ 木下 ひろみ ＜令和5年4月＞		文学修士 (比較文化)		英語Ⅰ A 英語Ⅰ B 英語Ⅱ A 英語Ⅱ B 英語Ⅳ A 英語Ⅳ B	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平26.4＞	1日
78	兼任	講師	クドウ キ 工藤 貴恵 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		英語Ⅰ A 英語Ⅰ B 英語Ⅱ A 英語Ⅱ B 英語Ⅲ A 英語Ⅲ B 英語Ⅳ A 英語Ⅳ B	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令4.4＞	2日
79	兼任	講師	クドウ(バン) ベニ 工藤(坂) 紅 ＜令和5年9月＞		博士 (文学)		外国文学	1・2・3・4後		2	1	立正大学経 営学部 准教 授 ＜平27.4＞	1日
80	兼任	講師	グレン ファーン グレン ファーン ＜令和6年4月＞		Education(M. A.) (米 国)		英語Ⅳ A 英語Ⅳ B	2前 2後	1 1	1 1	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平18.4＞	1日
81	兼任	講師	コシマ ノブキ 小嶋 信之 ＜令和5年4月＞		体育学士		スポーツ健康科学実技Ⅲ スポーツ健康科学実技Ⅳ	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平23.4＞	1日
82	兼任	講師	サトリ ミ 佐藤 美保 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		英語Ⅰ A 英語Ⅰ B 英語Ⅱ A 英語Ⅱ B 英語Ⅲ A 英語Ⅲ B 英語Ⅳ A 英語Ⅳ B	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令4.4＞	2日
83	兼任	講師	ジェフリー ブルース Jeffrey Bruce ＜令和5年4月＞		修士 (英語教育)		英語Ⅰ A 英語Ⅰ B 英語Ⅱ A 英語Ⅱ B 英語Ⅲ A 英語Ⅲ B 英語Ⅳ A 英語Ⅳ B	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令4.4＞	2日
84	兼任	講師	シオザリ シンイチロウ 塩澤 伸一郎 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		情報リテラシーⅠ	1・2・3・4前		4	2	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平30.4＞	1日
85	兼任	講師	シゲンギン シ ゲンギン ＜令和5年4月＞		博士 (地域研究)		地域文化研究 E	1・2・3・4前		2	1	立教大学異 文化コミュ ニケーショ ン学部 助教 ＜令4.4＞	1日
86	兼任	講師	シタ ナオキ 信太 直己 ＜令和5年4月＞		博士 (人間科学)		情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ	1・2・3・4前 1・2・3・4後	4 4	4 4	2 2	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平27.4＞	1日

教 員 の 氏 名 等													
(健康スポーツ科学部栄養科学科)													
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週当たり平均 日 数
87	兼任	講師	セキネ アキハル 関根 明治 ＜令和5年4月＞		体育学士		スポーツ健康科学実技Ⅲ スポーツ健康科学実技Ⅳ	1・2・3・4前 1・2・3・4後		1 1	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平21.4＞	1日
88	兼任	講師	セキ ユウコ 関 裕子 ＜令和5年4月＞		修士 (人文学)		Integrated Japanese Ⅱ Theory Japanese Listening Ⅲ	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後		2 1	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平31.4＞	1日
89	兼任	講師	ソウトメ ヒロコ 五月女 仁子 ＜令和5年4月＞		修士 (工学)		統計学	1・2・3・4前		2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令3.4＞	1日
90	兼任	講師	ソネ ナオキ 曽根 直樹 ＜令和5年4月＞		教育学士		障害学	1・2・3・4前		2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令2.4＞	1日
91	兼任	講師	タカハシ(マユマ) オリエ 高橋(丸山) 織恵 ＜令和5年4月＞		修士 (人文)		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本事情Ⅰ 日本事情Ⅱ	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1 2 2	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平28.4＞	1日
92	兼任	講師	タカハシ サトシ 高橋 聡 ＜令和5年4月＞		修士 (日本語教育 学)		Integrated Japanese Ⅲ Theory	1・2・3・4前・後		2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平31.4＞	1日
93	兼任	講師	タケウチ サチコ 竹内 幸子 ＜令和5年4月＞		修士 (コミュニ ケーション 学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平31.4＞	1日
94	兼任	講師	タナ ヒロカズ 田中 宏和 ＜令和5年4月＞		修士 (体育科学)		スポーツ健康科学実技Ⅲ スポーツ健康科学実技Ⅳ	1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	1 1	高崎経済大 学地域政策 学部 准教授 ＜令4.4＞	1日
95	兼任	講師	タナ(ツキハシ) シズネ 田中(月橋) みんね ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平31.4＞	1日
96	兼任	講師	チョウ レイ 張 麗 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		Japanese Reading Ⅱ	1・2・3・4前・後		1	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平30.4＞	1日
97	兼任	講師	ツルマキ タカシ 鶴巻 崇 ＜令和5年9月＞		修士 (建築学) (英国)		総合F	1・2・3・4後		2	1	Heatherwick Studio London本社 シニアデザ イナー ＜平26.4＞	1日
98	兼任	講師	トミカ ヒロユキ 富塚 博之 ＜令和5年4月＞		英文学修士		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平19.4＞	1日
99	兼任	講師	ナカネ ヒサユキ 中根 久寧 ＜令和5年9月＞		芸術学士		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4後		4	2	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平24.4＞	1日
100	兼任	講師	ニシモト(ヒロヤマ) オサ 西元(平山) 加那 ＜令和5年4月＞		修士 (法学)		法学	1・2・3・4前		2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令2.4＞	1日
101	兼任	講師	ハイン パトリック hein patrick ＜令和5年4月＞		PhD Education and SocietyCult ural Studies(英 国)		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平30.4＞	1日
102	兼任	講師	ハシモト ヒデシゲ 橋本 英重 ＜令和5年4月＞		修士 (国際経営 学)		基礎会計学 経営学	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 2	1 1	ミッドメ ディア有限 会社 代表取 締役 ＜平17.8＞	1日
103	兼任	講師	ハセガワ タカヤ 長谷川 琢哉 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		全学総合A 全学総合B	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 2	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令3.4＞	1日
104	兼任	講師	ハッシー リン ゲーリー ハッシー リン ゲーリー ＜令和5年4月＞		M. A. Spec. Ed (英国)		英語ⅡA 英語ⅡB	1前 1後	1 1	1 1	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令2.4＞	1日
105	兼任	講師	ハマ ヤスカズ 濱 泰一 ＜令和5年9月＞		博士 (環境学)		環境政策論	1・2・3・4後		2	1	東洋大学国 際観光学部 講師 ＜平29.4＞	1日
106	兼任	講師	ハヤシ(イトリ) シェンコ 林(伊藤) 順子 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令2.4＞	1日

教 員 の 氏 名 等													
(健康スポーツ科学部栄養科学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週当たり平均 数 日
107	兼任	講師	ヒラサワ タカキ 平沢 隆之 ＜令和5年4月＞		博士 (工学)		数学 物理学	1・2・3・4前 1・2・3・4前		2 2	1 1	東京大学生 産技術研究 所 助教 ＜平21.7＞	1日
108	兼任	講師	ヒラハシ ヒロカズ 平林 浩一 ＜令和5年4月＞		修士 (政策研究)		公務員論	1・2・3・4前・後		2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平27.4＞	1日
109	兼任	講師	フカヤ ヒデキ 深谷 秀樹 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		プレゼンテーション技法 コミュニケーション&マナー	1・2・3・4前 1後		2 2	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平20.4＞	1日
110	兼任	講師	ホリタ カズエ 細田 和江 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		地域文化研究C	1・2・3・4前		2	1	東京外国語 大学アジ ア・アフリ カ言語文化 研究所 フェ ロー ＜平28.4＞	1日
111	兼任	講師	ボルスター ハラルド ボルスター ハラルド ＜令和5年4月＞		学術博士 (独国)		スポーツ健康科学講義Ⅰ スポーツ健康科学講義Ⅱ スポーツ健康科学実技Ⅱ	1・2・3・4前 1・2・3・4後 1・2・3・4後		2 2 2	1 1 2	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平28.9＞	1日
112	兼任	講師	ホシノ ヨシヒコ 本多 吉彦 ＜令和5年4月＞		修士 (アジア研 究)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後		1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平30.4＞	1日
113	兼任	講師	マグヌソン ジョージ デビッド マグヌソン ジョージ デ ビッド ＜令和5年4月＞		MBA(米国)		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後		1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平29.4＞	1日
114	兼任	講師	マツイ ヒロミ 松井 広美 ＜令和7年9月＞		-		キャリアデベロップメント	3・4後		2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平29.9＞	1日
115	兼任	講師	マツノ(アグマ) トモキ 松野(我妻) 智章 ＜令和5年9月＞		博士 (文学)		地域文化研究D	1・2・3・4後		2	1	東洋大学文 学部 講師 ＜平25.4＞	1日
116	兼任	講師	マリッカル アズミヤ マリッカル アズミヤ ファティマ ＜令和5年4月＞		博士 (国際関係 学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後		1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令3.4＞	1日
117	兼任	講師	ミウラ ナホ 三浦 尚子 ＜令和5年9月＞		博士 (社会科学)		地理学	1・2・3・4後		2	1	お茶の水女 子大学グ ローバル リーダー シップ研究 所 特別研究 員 ＜令3.10＞	1日
118	兼任	講師	ミヅタ ナホ 水田 佳歩 ＜令和5年4月＞		博士 (日本語教育 学)		Integrated Japanese II Practice Japanese Reading III	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後		2 1	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜令1.9＞	1日
119	兼任	講師	ミヤヅキ ミユキ 宮崎 瑞之 ＜令和5年4月＞		M. A. in TESOL(米国)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後		1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平23.4＞	1日
120	兼任	講師	ミヤハラ アツコ 宮原 温子 ＜令和5年4月＞		修士 (国際学)		地域文化研究A	1・2・3・4前		2	1	東洋大学国 際学部 講師 ＜令2.4＞	1日
121	兼任	講師	ヤスハラ ナエ 安原 七重 ＜令和5年9月＞		芸術学士		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4後		4	2	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平24.4＞	1日
122	兼任	講師	ヤマキ リモイ 山際 基 ＜令和5年4月＞		博士 (工学)		情報化社会と人間	1・2・3・4前		2	1	山梨大学大 学院総合研 究部教育学 域 准教授 ＜平28.4＞	1日
123	兼任	講師	ヤマモト カチヒロ 山本 崇広 ＜令和5年9月＞		修士 (経済学)		経済学	1・2・3・4後		2	1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平30.9＞	1日
124	兼任	講師	ヤマモト トモリ 山本 伍紀 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅢA 英語ⅢB	1前 1後 2前 2後		1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平31.4＞	1日
125	兼任	講師	ラヴェル リー ドーン ラヴェル リー ドーン ＜令和5年4月＞		MA (Instructional Technology) (米国)		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅣA 英語ⅣB	1前 1後 2前 2後		1 1 1 1	1 1 1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平28.4＞	1日
126	兼任	講師	ラサモエラ ミレイユ ラサモエラ ミレイユ ＜令和5年4月＞		Master's degree of mathematics(仏国)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	1・2・3・4前 1・2・3・4後		1 1	1 1	東洋大学ラ イフデザイ ン学部 講師 ＜平25.4＞	1日

教 員 の 氏 名 等													
(健康スポーツ科学部栄養科学科)													
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 す る 週当たり平均 日 数
127	兼任	講師	リョングン リ(李) リョングン (リョン京) ＜令和5年9月＞		修士 (政治学)		韓国語および韓国語圏社会事情 韓国語Ⅱ	1・2・3・4後 1・2・3・4後		2 1	1 1	東洋大学ライ フデザイン 学部 講師 ＜平28.9＞	1日
128	兼任	講師	アヤマ ヨコ 青山 容子 ＜令和7年4月＞		学士 (マネジメン ト)		ソムリエ概論	3前		2	1	Wine and bar Babble シニアソム リエ ＜平17.4＞	1日
129	兼任	講師	アヘ マキ 阿部 真紀 ＜令和5年4月＞		博士 (食物栄養 学)		調理学実習	1前		2	2	相模女子大 学 講師 ＜令2.4＞	1日
130	兼任	講師	イト ノブヒロ 伊藤 暢宏 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		マーケティング学	2前		2	1	農林水産省 農林水産政 策研究所 研 究員 ＜令2.4＞	1日
131	兼任	講師	イカワ ヒデカズ 伊奈川 秀和 ＜令和8年9月＞		博士 (法学)		医療保険	4後		2	1	東洋大学社 会学部 教 授 ＜平28.4＞	1日
132	兼任	講師	イワツ タカミ 岩澤 卓弥 ＜令和5年4月＞		博士 (理学)		情報処理数学Ⅰ 情報処理数学Ⅱ プログラミング言語Ⅰ プログラミング言語Ⅱ	1前 1後 2前 2後		2 2 2 2	1 1 1 1	東洋大学 生 体医工学研 究センター 研究助手 ＜令3.4＞	1日
133	兼任	講師	カイキキ アヤ 海崎 彩 ＜令和7年4月＞		博士 (栄養学)		スポーツ栄養マネジメント(実践) スポーツ栄養マネジメント(運営理論)	3後 3前		2 2	2 1	独立行政法 人日本ス ポーツ振興 センター 契 約職員 ＜平29.9＞	1日
134	兼任	講師	カメイ オ 亀井 誠生 ＜令和6年9月＞		博士 (スポーツ健 康科学)		意思決定理論 認知科学	2後 3前		2 2	1 1	鹿屋体育大 学 特任助教 ＜令2.4＞	1日
135	兼任	講師	カワシマ ヤスヒロ 川島 安博 ＜令和7年4月＞		博士 (社会学)		マスコミ概論	3前		2	1	東洋大学現 代社会総合 研究所 客員 研究員 ＜平27.4＞	1日
136	兼任	講師	サトウ ナホミ 佐藤 成美 ＜令和8年4月＞		博士 (農学)		持続可能社会と食環境づくり	4前		2	1	東洋大学食 環境科学部 講師 ＜平25.4＞	1日
137	兼任	講師	トキタ ヨシコ 土岐田 佳子 ＜令和6年9月＞		修士 (家政学)		大量調理とHACCP(実践)	2後		2	2	駒沢女子大 学人間健康 学部 助教 ＜平31.4＞	1日
138	兼任	講師	ハタ トシキ 秦 俊貴 ＜令和6年4月＞		修士 (食品栄養 学)		栄養教育論	2前		2	1	東京都健康 長寿医療セ ンター研究 所 非常勤職 員 ＜令1.5＞	1日
139	兼任	講師	ハマタニ(ヤギ)カ リョウコ 濱谷(柳田) 亮子 ＜令和7年4月＞		博士 (医学)		ライフステージ栄養学実習 臨床栄養学 臨床栄養学実習	3前 3前 3後		2 2 2	2 1 2	東洋大学食 環境科学部 講師 ＜令2.4＞	2日
140	兼任	講師	マツオカ シゲル 松岡 滋 ＜令和6年9月＞		工学修士		食品パッケージ論	2後		2	1	三菱ケミカ ル株式会社 マネー ジャー ＜昭62.4＞	1日
141	兼任	講師	ミズノ シンゴ 水落 慎吾 ＜令和5年9月＞		農学博士		食品微生物学 大量調理とHACCP(理論) 食品衛生学	1後 2前 2前		2 2 2	1 1 1	日水製薬株 式会社研究 部 フェロー ＜昭64.4＞	1日
142	兼任	講師	ミネツ アヤコ 峰松 明也子 ＜令和5年4月＞		修士 (食環境科 学)		栄養生化学実習 栄養マネジメント(実践) 実践食文化(3大宗教と食文化)	2後 2後 1前		2 2 2	2 2 1	金城学院大 学生活環境 学部 助教 ＜平30.4＞	2日
143	兼任	講師	ヤスカ ジュン 安田 純 ＜令和5年9月＞		博士 (スポーツ健 康科学)		スポーツ栄養学	1後		2	1	独立行政法 人日本ス ポーツ振興 センター・ 国立スポ ーツ科学セ ンター 研究 員 ＜令2.4＞	1日
144	兼任	講師	ヨコヤマ ユリ 横山 友里 ＜令和6年4月＞		博士 (食品栄養 学)		公衆栄養学	2前		2	1	東京都健康 長寿医療セ ンター研究 所 研究員 ＜平28.4＞	1日

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
（健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	0人	0人	1人	2人	1人	1人	0人	5人	
	修 士	0人	0人	0人	2人	0人	0人	0人	2人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 学	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
准 教 授	博 士	0人	1人	4人	2人	0人	0人	0人	7人	
	修 士	0人	0人	0人	2人	1人	0人	0人	3人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 学	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
講 師	博 士	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	
	修 士	0人	1人	0人	1人	0人	0人	0人	2人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 学	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
助 教	博 士	0人	3人	0人	0人	0人	0人	0人	3人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 学	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合 計	博 士	0人	5人	5人	4人	1人	1人	0人	16人	
	修 士	0人	1人	0人	5人	1人	0人	0人	7人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 学	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

(健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科)

調書 番号	専任等 区分	職 位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年 齢	採 用 根 拠 等
1	専	教授 (学部長)	サイトウ キョウヘイ 齊藤 恭平 ＜令和5年4月＞		年俸契約雇用制度に関する要綱 健康スポーツ科学部等設置準備委員会 (R2.7.17開催)にて承認

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
（健康スポーツ科学部栄養科学科）										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	0人	0人	1人	1人	1人	2人	0人	5人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 学	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
准 教 授	博 士	0人	0人	1人	2人	0人	0人	0人	3人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 学	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
講 師	博 士	0人	2人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 学	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
助 教	博 士	0人	2人	1人	0人	0人	0人	0人	3人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 学	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合 計	博 士	0人	4人	3人	3人	1人	2人	0人	13人	
	修 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学 士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短 期 大 学	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	そ の 他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

(健康スポーツ科学部栄養科学科)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	採用根拠等
1	専	教授 (学科長)	ヤノ トモヒロ 矢野 友啓 ＜令和5年4月＞		年俸契約雇用制度に関する要綱 健康スポーツ科学部等設置準備委員会 (R2.7.17開催)にて承認